

M4-159-2

別冊二

自昭和五年
至昭和六年

(10.)
朝鮮總督府專賣局
塩業統計資料

專賣局技手 石川武吉

488

塩ノ見本ニ關スル資料

第一編 統計及記事

96p

昭和六年十月 朝鮮總督府專賣局・分析室に於て編集
校手 石川武吉

塩ノ見本ニ関スル資料編纂ニ就テ

朝鮮ハ由來生産塩不足ノ為年々外部ヨリニ億斤以上ノ
塩ヲ輸移入シ需要ヲ充シツ、アル現状ナリ
サレバ當局ニ於テモ積年内外ノ事情ニ應シ塩ノ見本ヲ
徴シタルヲ以テ最近其種類極メテ多量ニ達セリ
而シテ是等ノ中ニハ昭和二年山岸技師歐米塩業視察ノ
際持歸ラレタル諸外國ノ貴重ナル参考塩アリ又昭和三年
大山技師昭和五年ニハ櫻木屬相次ニ關東州山東省塩
產地ニ出張セラレ彼地ノ代表的天日塩並ニ加エ塩ヲ齎
セリ當局天日塩ニ於テモ結晶池ノ改良ニ依リ一等塩ト
共ニ特甲特乙塩並ニ其粉碎塩及粉碎洗滌塩等新復類ヲ
加ヘ食卓塩ハ平釜式ヨリ真空結晶法ニ改善サレ精良ナ

ル食卓塩精製塩ノ製造ヲ見ルニ至レリ
以上ノ如ク歴年累加サレ行ク之等ノ塩見本ハ塩ニ関ス
ル資料トシテ適切ナル參考品ニシテ且又内外塩業ノ縮
圖トモ見ル可シ依ツテ爾來雜然ト蒐集セラレタルモノ
ニ統制ヲ與ヘ一覽ニシテ内外塩業ノ状況ヲ推知セシメ
ル為ニ適當ナル分類ニ依リ整理セシテ以テ執務參考ノ
一助トナサニコトヲ希望ス
尚塩見本ニ関聯セル諸種ノ統計資料ヲ第一編トシテ併
セ編纂セリ

附記

一分類法

- 第一類 朝鮮總督府專賣局製天日塩ニ関スル種類
- 第二類 鮮内民製塩ノ種類（在来煎熬塩、雨製塩）

第三類 内地、台灣、關東州、山東省、産塩ノ標準ヲ示スモノ

第四類 外國塩ノ種類

第五類 内外食卓塩ニ関スル種類

第六類 輸移入塩管理ニ伴フ政府買上塩ノ參考資料見本

第七類 特ニ見本塩トシテ提出サレシモノ及他ノ分類ニ属セザルモノ

第八類 本局ニ於テ分析セシ各種類ノ成績表本付標本

第九類 塩務附帶標本

二、統計資料ハ塩ノ見本ニ直面シテ直ニ其輪廓ヲ捉ヘル程度ヲ標準ト
セルモ執務上屢々質問ニ接スル事項ニ付特ニ留意セシテ以テ利用セ
ラレタレ

三、塩生産地ノ位置ヲ示ス為ニ内外各地ノ畧圖ヲ豊富ニ挿入セリ

昭和六年十月

本局塩務分析室石川武吉

(3)	朝鮮ニ於ケル塩ノ消費高種別及其割合	八
(4)	朝鮮總督府專賣局塩田所在地及年別生産高表	九
(5)	朝鮮總督府專賣局塩田所在地別等級別生産高表及月別塩田別生産高表	一〇
(6)	朝鮮ニ於ケル現行塩價(專賣局通牒例規)	
(1)	朝鮮ニ等塩々田渡百斤当價格 (昭和六年六月二十日)	一一
(2)	食卓塩精製塩 散塩百斤当拂下價格 (昭和六年七月二日)	一二
(3)	食卓塩量詰一ヶ当拂下價格 (昭和六年十月一日)	一三
(4)	特甲 特乙塩 々價改定 (昭和五年十月二十日)	一四
(5)	精製塩紙包裝詰一個当拂下價格 (昭和五年六月六日)	一五
(6)	精製塩一桶当拂下價格 (昭和五年四月二十日)	一六
(7)	昭和五年五月二十三日、塩價改定現行施行ノ分	一七
(8)	朝鮮塩及輸入塩各輸入港ニ於ケル塩價 (昭和六年八月七旬実績表)	一八

五 第二類 朝鮮在來煎熬塩及再製塩ニ関スル資料

(1)	再製塩ノ各輸入港ニ於ケル塩價 (昭和六年八月七旬実績表)	一五
(2)	煎熬塩ノ 全	一六
(7)	朝鮮生産塩ノ生産費	一六
(8)	天日塩田ノ構造	一七
(9)	製塩方法	一八
(10)	海水ヨリ塩ニナル迄ノ日数	一八
(11)	天日塩田ニ於ケル海水一石ヨリノ採塩量	一九
(12)	朝鮮天日塩及ビ輸入塩ノ色相概況	二〇
(13)	天日塩ノ水分ニ就イテ	二一
(14)	塩田所在地ニ於ケル原料海水月別比重表	二二
(15)	專賣局塩田所在地ニ於ケル氣象調 (昭和五年四月十旬)	二三

(1)	朝鮮在來煎熟塩地方別生産高表(昭和五年度)	二七
(2)	朝鮮在來煎熟塩ノ年別生産高及指數	二七
(3)	再製塩ノ道別生産高表(昭和五年度)	二八
(4)	再製塩ノ年別製造高・原塩使用高及價格表	二八
(5)	在來煎熟塩ノ生産費調	二九
(6)	再製塩ノ生産費調	二九
大 第三類 内地專賣局ニ関スル資料(附十州塩田一覽圖)		
(1)	内地ニ於ケル塩ノ種類別生産高	三一
(2)	内地收斂塩ノ賠償價格(昭和五年十月十四日大藏省告示第二四八号)	三二
(3)	内地ニ於ケル塩ノ販賣價格(昭和六年三月二十六日大藏省告示第六七号)	三三

一 内地專賣局塩百斤当賣渡價格
 二 内地へ輸移入サレタル塩ノ百斤当價格

(4)	特別消費者ニ対スル塩百斤当交付價格(昭和六年三月二十六日)	三四
(5)	内地塩販賣業者ノ營業利益(昭和六年一月一日ヨリ施行)	三五
(6)	内地ニ於ケル塩需給狀況	三六
(7)	内地ニ於ケル塩田所在地面積及收斂高(鑑定実績)	三七
(8)	收斂塩地方局別等級別生産高	三八
(9)	收斂塩ノ製法種類別表	三九
(10)	輸入塩ノ種類別數量及割合	四〇
(11)	收斂塩等級別定量分析表	四一
(12)	政府直営加工塩成分分析表	四二
(13)	内地輸移入塩分析表	四三
(14)	收斂塩ノ鑑定ニ関スル資料	四四
(15)	内地製塩地ニ於ケル氣象調	四五

(16)	十州塩田ノ管轄区域	(昭和六年六月十五日改定)	四六
(17)	十州塩田專賣局派出所名及所在地		四七

第三類 臺灣專賣局ニ関スル資料 (附台湾塩産地附圖)

(1)	台湾ニ於ケル塩ノ種類別生産消費及輸送数量表	四九
(2)	台湾塩ノ塩価 (昭和六年四月一日定)	五〇
(3)	台湾總督府專賣局塩田所在地表	五一
(4)	台湾ニ於ケル塩田所在地別種類別天日塩生産高表	五二
(5)	台湾ニ於ケル食塩販賣高	五三
(6)	台湾ニ於ケル塩田所在地別月別生産高及割合	五四
(7)	塩田所在地ニ於ケル蒸発量降水量及原料海水比重	五五

第三類 關東州塩田ニ関スル資料 (附關東州塩田一覽圖)

(1)	關東州ニ於ケル塩ノ生産及消費	五七
(2)	關東州ニ於ケル塩價	五八

一 最高最低 最高ノ月最低ノ月 平均
二 天日塩加工塩ノ百斤当生産費内訳

(3)	關東州塩田ノ所在地別經營者別面積表	五九
(4)	關東州塩田所在地別生産高	六〇
(5)	關東州ニ於ケル製塩高月別表	六一
(6)	關東州ニ於ケル加工塩製造者別生産高	六二

第四類 外國塩ニ関スル資料 (附世界地圖並歐洲塩産地圖)

(1)	世界ニ於ケル塩ノ産額	六三
-----	------------	----

(2)	世界ニ於ケル塩ノ主要輸出国及輸入國	六四
(3)	欧米ニ於ケル塩ノ生産地	六五
(4)	主要塩産國ノ塩價	六六
(5)	岩塩ニ就イテ (附 岩塩ノ産出地層圖)	六七
(6)	外國塩ノ組成分	六九
(7)	各國塩ノ一升ノ重量	七〇
(8)	世界海水ノ成分	七一

十 第六類 輸移入塩ニ関スル資料

(1)	輸入塩種類別数量價額百斤当價格及輸入割合	七三
(2)	輸移入塩ノ系路	七三
(3)	輸入港ニ於ケル輸移入塩ノ種類別数量價額	七四

(4)	月別輸移入塩数量及百斤当價格	七五
(5)	輸入港ニ於ケル輸入塩ノ塩價	七六
(6)	關東州塩ノ朝鮮ニ搬出サル系統	七六
(7)	關東州塩ノ貯塩場經由本船積百斤当見込経費	七七
(8)	關東州塩本船直積百斤当見込諸経費調	七八
(9)	青島塩ニ関スル資料	七九

1.	最近四十年ニ於ケル塩生産高	
2.	最近四十年ニ於ケル塩輸移入高	
3.	内地輸入並等散塩百斤当價格	八〇

一 内地ニ於ケル食塩判定標準

專賣法施行細則

第十七條 塩ノ品質ハ其ノ含有スル塩化萆達ノ量ニ
依リ之ヲ定メ左ノ五等ニ区分ス

- 一 等 塩 含有塩化萆達量 百分ノ九十以上
- 二 等 塩 " " 八十五 "
- 三 等 塩 " " 八十 "
- 四 等 塩 " " 七十五 "
- 五 等 塩 " " 七十 "

前項塩化萆達ノ量ハ可檢物ノ量ヨリ其ノ含有スル水及
夾雜物ノ量ニ左ノ系数ヲ乘ジタルモノヲ 控除シテ之ヲ定ム

- 1. 水 1.1
- 2. 夾雜物 1.2

内地塩成分鑑定成績 (昭和四年度)

	成 分 百 分 率			
	(水分)	(夾雜物)	(塩化萆達)	(鑑定成績)
一 等 塩	4.28	2.91	92.81	91.80
二 等 塩	6.09	4.55	89.36	87.84
三 等 塩	8.02	6.17	85.31	83.17
四 等 塩	9.41	9.52	81.07	78.23
五 等 塩	11.03	11.88	77.09	73.61

三 塩=関スル法令

(内地)塩専賣法 明治三十八年一月法律第十一号

第三條 塩及鹵咸水ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタルモ=非ザレバ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セザル地ヨリ移入スルコトヲ得ズ 智利硝石 カイニツ シルビニツ オリハリツ ギーセリツ カナリツ ハリナザルツ 其他ノ鉋物=シテ其ノ百分中四十以上ノ塩化 曹達ヲ含有スルモノハ 命令ノ定ムルトコロ=ヨリ 変性ヲ施ス=非ザレバ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セザル地ヨリ移入スルコトヲ得ズ

(朝鮮) 塩ノ輸入又ハ移入=関スル制令 昭和五年四月一日ヨリ施行

第一條 塩ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者=非ザレバ之ヲ輸入シ又ハ移入スルコトヲ得ズ 但シ政府必要アリト認ムル時ハ之ヲ輸入又ハ移入ヲ許可スルコトヲ得

政府ノ命ヲ受ケテ輸入シ又ハ移入シタル塩ハ政府之ヲ買収ス

第二條 本令=就テ 塩ト稱スルハ 百分中四十以上ノ塩化 曹達ヲ含有スル 鉋物ヲ云フ

(臺灣) 食塩専賣規則 大正十五年律令第五号

第一條 本令=於テ 食塩トハ 百分中四十以上ノ塩化 曹達ヲ含有スル 鉋物=シテ 食用=供シ得ルモノヲ言ス

二 塩ノ稱呼 (塩ノ種類)

塩ノ化學名	クロールナトリウム 又ハ塩化 曹達 (NaCl) ト稱シ 鉋物=屬ス
塩ノ性狀	分子量 58.46 比重 2.162 熔點 772° 無水アルコール = 溶解セズ 水=對スル溶解度ハ 冷水及 溫湯=殆ド 同一 塩中=ハ 別表 各種分析表=不ス如ク 夾雜物ヲ有ス
岩 塩	地層ヨリ採掘セル 固形ノ 塩ヲ言フ
天 日 塩	海水ヲ 塩田=導キ 日光 風力=ヨリ 水分ヲ 蒸發シ 塩分ヲ 結晶セシム
煎 熬 塩	塩溶液ヲ 火力ヲ用ヒ 水分ヲ 蒸發シ 結晶セシモノ (我國=在リテハ 砂浜 塩田=海水ヲ 導キ 日光 風力=ヨリ 濃厚 塩溶液ヲ 蒸發 後ニテ 煎熬ス)
再 製 塩	原塩 (天日 塩又ハ 岩 塩) ヲ 一度 溶解シ 溶液 (1) ヲシ 火力ヲ用ヒテ之ヲ 煎熬ス
在來煎熬塩	朝鮮=於テ 原始的方法=ヨリ 製造スル 上記 煎熬 塩ノ 通稱

青島塩々質検定規則

第一條 膠州湾塩=シ青島倉庫=卸入シ又ハ日本=輸出セントスルモノハ凡テ本規則左記各條=依リ検定所検定ノ標準塩ト比較照合シ其ノ區別ニ便ス

第二條 塩質検定事務ハ塩務署、稽核總所委任ノ塩質検定員之ヲ執行ス

第三條 塩質ノ検定ハ陸揚又ハ輸出ノ際下記標準=依リ之ヲ施行ス

1. 塩ノ種類、原塩及製塩ハ 上等甲、上等乙、中等甲、中等乙、及ヒ等外五種=分テ検定所備付ノ標本=比較シ之ヲ定ム又加工塩即チ粉碎塩、洗滌塩、粉碎洗滌塩及精塩ハ検定所備付ケノ各種塩=比較シ其塩質ヲ稍高カラシムベシ

2. 塩化曹達量、塩ノ含有セル塩化曹達ノ量ハ百分ノ八十以上タルベク、洗滌塩及精塩=アルテハ百分ノ八十五以上ノ塩化曹達ヲ含有スルヲ要ス

3. 水分、陸揚塩ノ含有セル水分ハ百分ノ十=以下タルベク、其ノ輸出塩=アルテハ百分ノ十以下タルベシ

第四條 上ニ述アル所ノ塩質ノ検定ハ平時ハ視力ヲ以テ之ヲ行ヒ必要アル場合ハ化学的方法=依リ之ヲ分析ス

第五條 検定ヲ受ケ合格ト認めラル塩ハ日本ハ輸出ヲ許可スベシ

第六條 塩質検定員ハ検定ヲ請願セル塩船=對シ、毎船品質平均ノ見本塩若干ヲ採取シ以テ検定ノ用ニ備フルコトヲ得

中華民國新塩法 (未ダ実行サル)

昭和六年六月八日 公第四九六号

第一條 本法=於テ塩ト稱スルハ塩及鹼水、塩鉍並其他ノ塩化合物=シテ百分ノ三十以上ノ塩化ナトリウムヲ含有スルモノヲ指ス

説明、日本ノ法令=依レバ、塩化ナトリウム 百分ノ四十以上ヲ含有スルモノアルモ、中國=於テハ未ダアルカリ工業発達セズ、塩率高率ナルヲ以テ、稍嚴重ニ規定ス

第四條 食塩ハ百分ノ九十以上ノ塩化ナトリウムヲ含有スルモノヲ一等塩トシ、百分ノ八十五以上ヲ含有スルモノヲ二等塩トス、塩化ナトリウムノ含有量 百分ノ八五未満ナルモノハ食塩トシテ使用スルコトヲ得ズ、前項一等食塩ハ、其ノ含有セル水分ハ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ズ、又=等食塩ハ百分ノ八ヲ超過スルコトヲ得ズ

第一類

朝鮮總督府專賣局製塩ニ關スル資料

朝鮮全道塩產地一覽圖
朱 平管内一覽圖
廣梁管内一覽圖
附 天日塩田ノ構造圖解

第十四條 検査済の塩は雖も検査員ノ許可ナクテ勝手ニ他所ニ於テ積卸ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 第三條 検査定塩ニ照ラシ若シ不服ノ場合ハ理由ヲ陳述シテ二十四時間以内ニ再検査ヲ請求スベシ未ダ検査ヲ經ズニテ検査再行後更ニ化学分析ノ必要アラバ則チ分析ヲ行フ之レガ爲メ所要經費ハ請願人ヨリ之レヲ繳付スベシ

大正十二年八月
 朝鮮ニ於ケル塩產地一覽圖
 大正十二年八月

第一卷 朝鮮ニ於ケル塩產地一覽圖

朝鮮ニ於ケル塩產地一覽圖

(五)

法 制 局

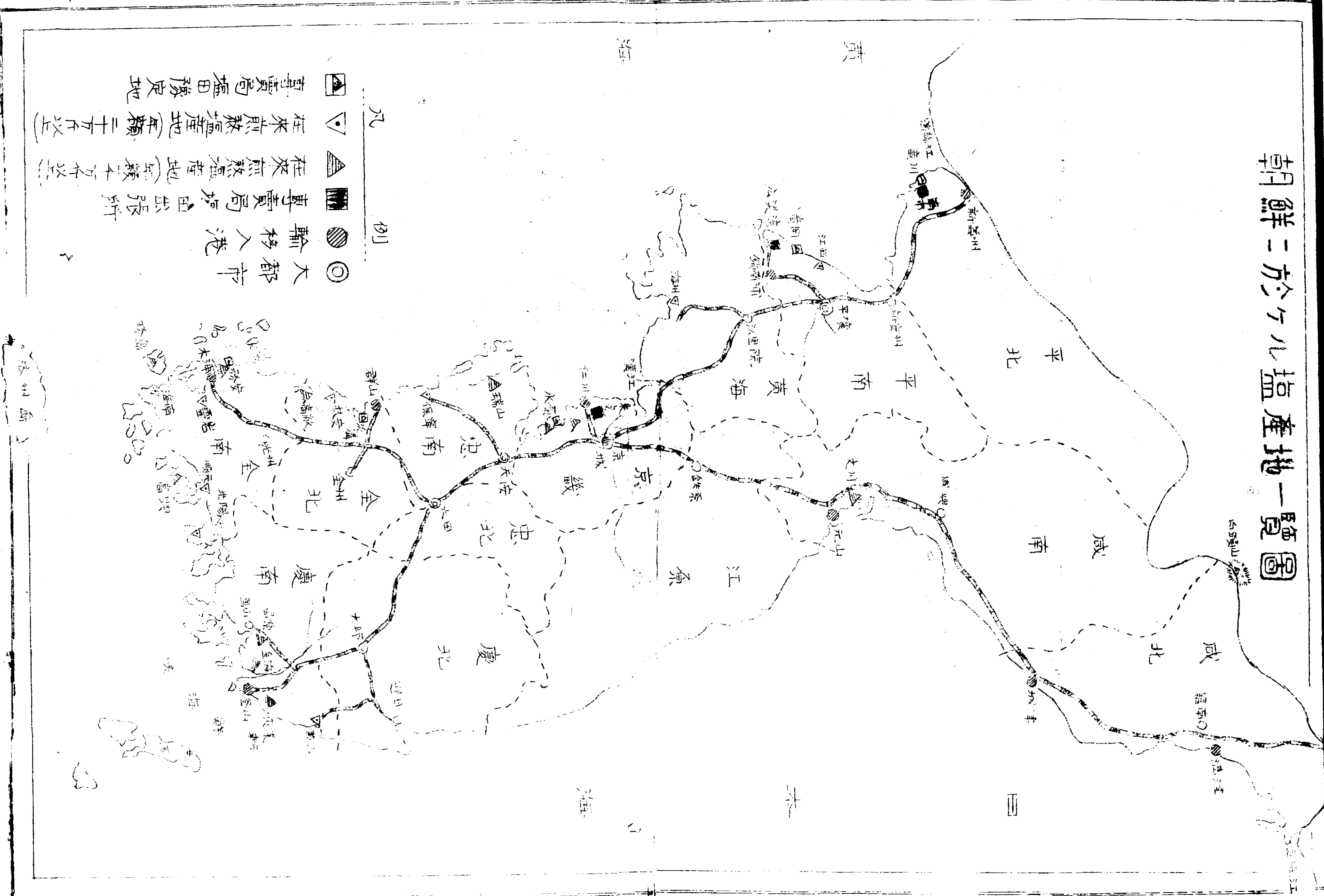
大正十二年

大正十二年

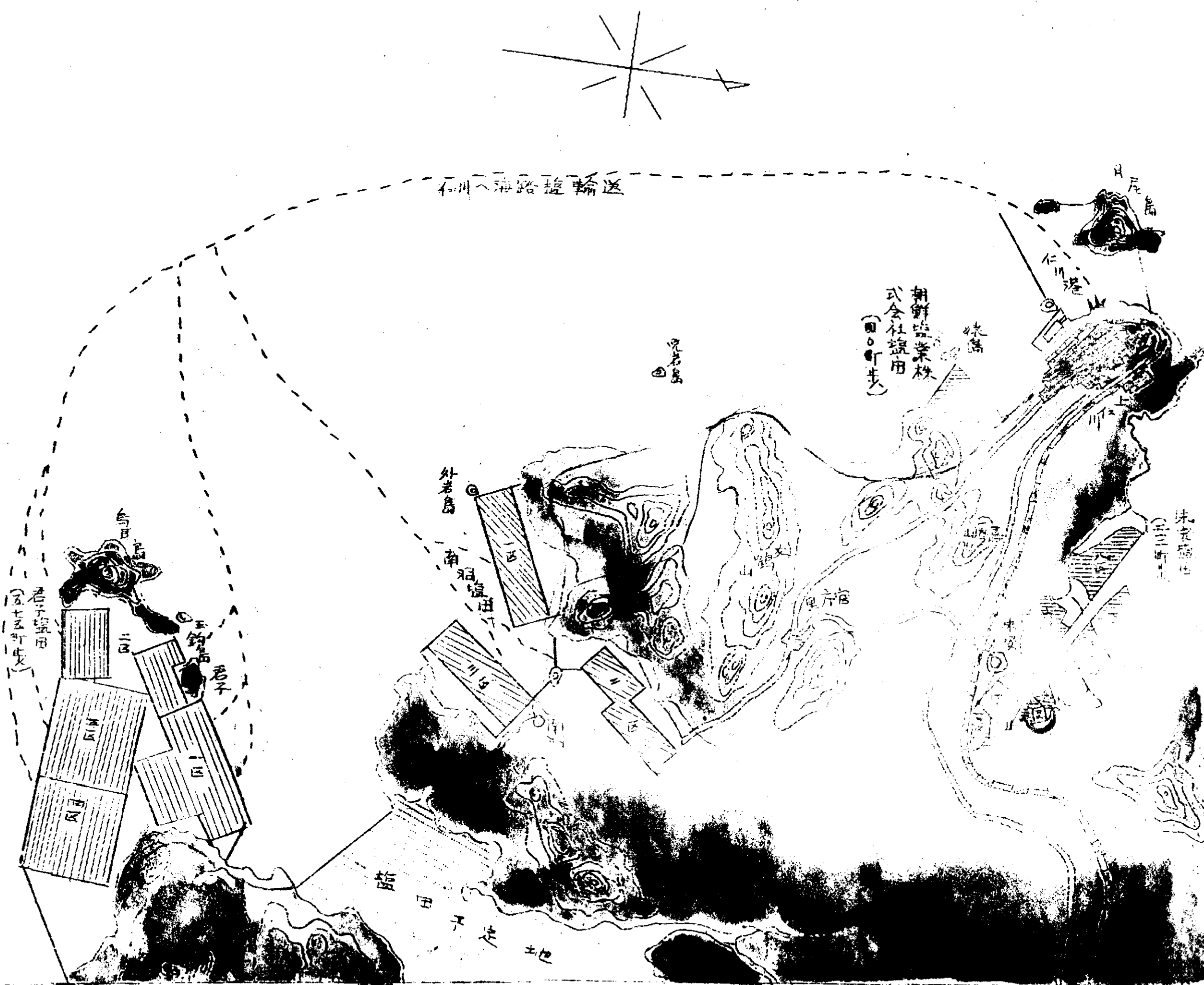
- 鹽池
- ▲ 鹽田
- △ 鹽灘
- 鹽山
- 鹽井
- ◇ 鹽坑



朝鮮ニ於ケル塩產地一覽圖

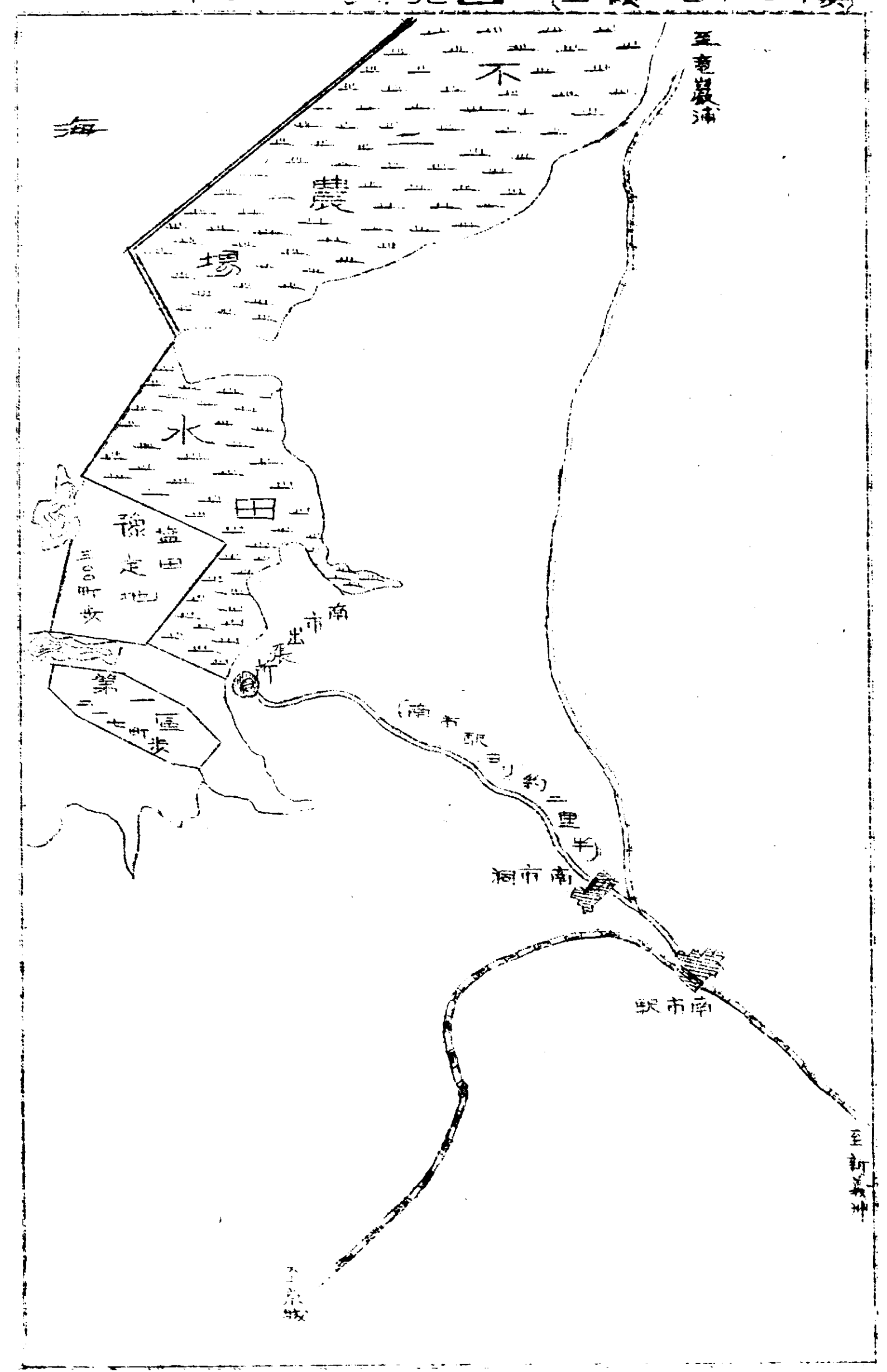


朱安管轄鹽田略圖

[illegible]

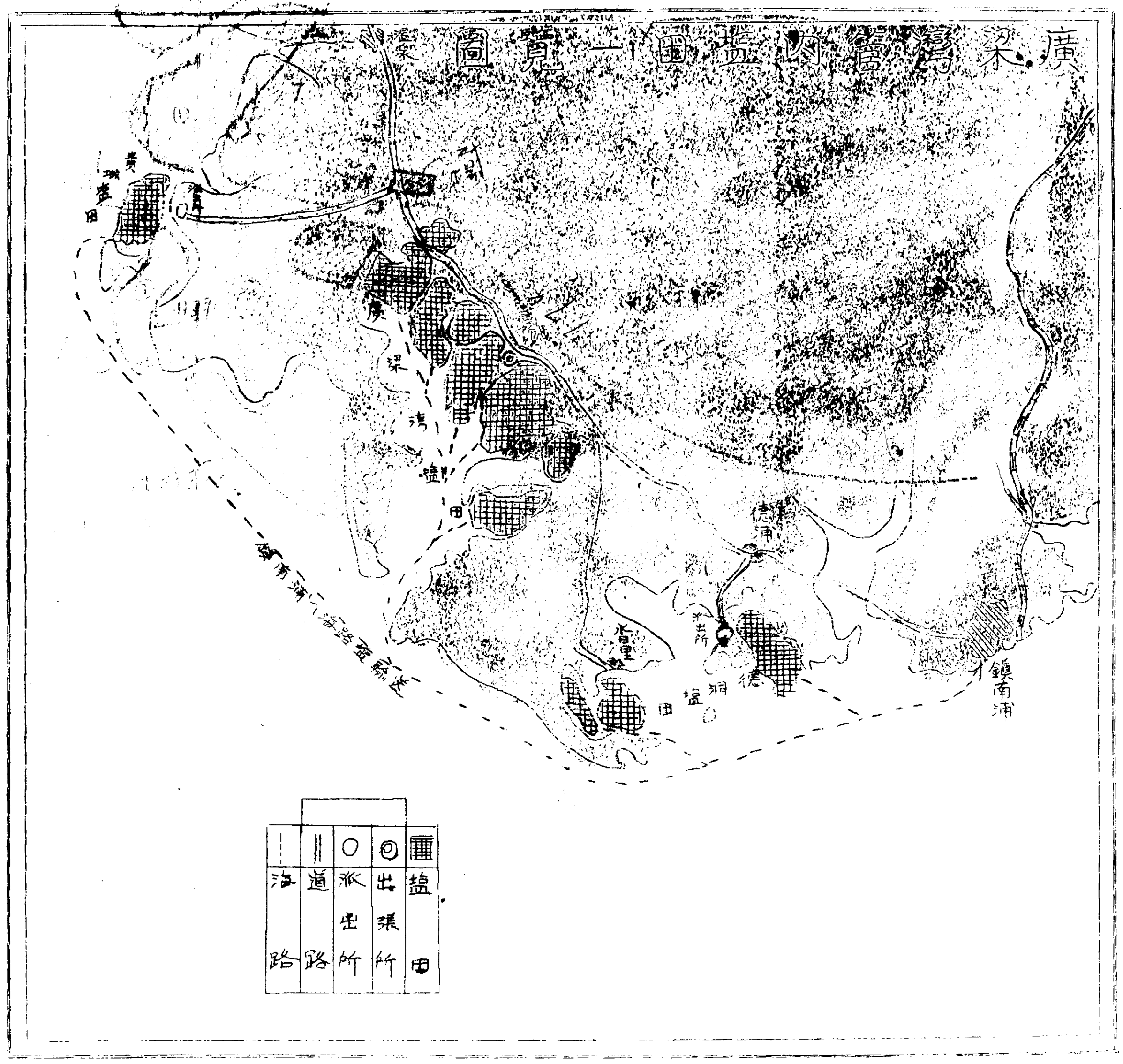
十
 九
 八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一

廣梁灣鹽田第一覽圖 (面積二百七十七町步)



この図は、
1. 塩田の位置
2. 塩田の面積
3. 塩田の生産量
を示す。

廣梁灣鹽田第一覽圖



海	道	所	出	鹽
路	路	所	張	田

(1) 朝鮮=於此塩ノ種類別生産高&輸入塩ノ種類数量

百斤当散塩価格(昭和五年度)

朝鮮總督府專賣局製

(種類別)	(数量)	(散塩百斤当価格)
特 甲 塩	228,000	137.900
特 乙 塩	3,935,000	2.24 ⁰ .800
一 等 塩	104,181,000	62.50 ⁹ .750
二 等 塩	134,023,000	80.41 ⁸ .650
計	242,167,000	145.30 ⁰
食 卓 塩	46,460	28.6.000
粉 碎 塩	300,000	18 ⁰ .850
精 製 塩	84,195	50.4.000
計	430,655	258.1 ²

朝鮮内民製塩

在來 煎 熬 塩	56,532,737	33.92 ⁰ 1.448
再 製 塩	60,983,324	36.59 ⁰ 1.553
計	117,516,061	70.51 ⁰

朝鮮ノ輸入塩

關東州一等塩	13,383,438	8.03 ⁰ 570
〃 二等塩	60,461,916	36.27 ⁹ 500
山東省二等塩	108,603,828	65.16 ² 505
青 島 二等塩	11,210,690	6.72 ⁶ 481
台 湾 一等塩	10,011,184	6.00 ⁹ 126
計	203,670,656	22.20 ³ 1 ²



(4) 朝鮮總督府專賣局塩田所在地及年別生産高表(昭和五年調)

塩田所在及面積其他 (塩田名)	(所在地)	(工事起工及 竣工年)	(面積)	(築造費)	(町市町 築造費)
廣 沫 湾	平安南道龍岡郡全谷面	自明治四三年 至大正三年	770 ^町	1248.705 ^町	1.662 ^町
徳 洞	" " 大代面	自 " 九年 自大正九年	223	778.115	3.489
貴 城	" " 貴城面	自 " 十年 自大正十年	149	310.562	2.085
南 市	平安北道龍川郡外上面	自 " 十年 自明治四十年	217	553.378	2.550
朱 安	京畿道富川郡朱安面	自大正八年 自大正九年	212	616.782	2.909
南 洞	" " 南洞面	自 " 十年 自大正十年	300	800.348	2.668
君 子	" 柏梁郡君子面	自 " 十四年	575	1517.899	2.640

年別生産高

(年別)	(生産高)	(面積)	(町市町 生産高)
大正十一年	45,450,757.49828 ^町	1.658 ^町	45.687 ^町
" 十二年	40,282,671.36736 ^町	1.658	40.493
" 十三年	65,046,108,410.305 ^町	1.778	60.773
" 十四年	84,772,768 ^町	2.446	34.748
昭和元年	155,194,553 ^町	2.446	63.407
" 二年	182,949,600 ^町	2.446	74.795
" 三年	253,748,500 ^町	2.446	103.741
" 四年	307,638,000 ^町	2.446	126.589
" 五年	242,467,000 ^町	2.446	99.003

大正十一年の生産高
26245 - 72.12 = 190312 不足
160312 輸入

(2) 朝鮮ニ於ケル塩需給状況

年別	需要高	朝鮮内生産高			不足高	輸入高	輸送高
		官塩	課税煮塩	計			
大正	261,465 ^町	41,815 ^町	30,388 ^町	72,182 ^町	189,283 ^町	154,642 ^町	74 ^町
十四年	435,717 ^町	69,694 ^町	50,610 ^町	120,304 ^町	315,413 ^町	256,666 ^町	672 ^町
昭和元年	265 ^町	76 ^町	40 ^町	116 ^町	149 ^町	174 ^町	649 ^町
元年	441,796 ^町	127,177 ^町	67,156 ^町	194,333 ^町	247,463 ^町	290,043 ^町	80 ^町
二年	437,190 ^町	150,018 ^町	59,885 ^町	209,903 ^町	227,287 ^町	280,129 ^町	28 ^町
三年	433,850 ^町	208,073 ^町	57,743 ^町	265,816 ^町	168,034 ^町	268,091 ^町	179 ^町
四年	440,339 ^町	253,903 ^町	69,359 ^町	323,262 ^町	117,077 ^町	226,906 ^町	15 ^町
五年	461,552 ^町	198,577 ^町	56,533 ^町	255,110 ^町	206,442 ^町	203,671 ^町	

備考 官塩、生産高ハ貯蔵減耗一割八分ヲ控除シテ実収高ヲ計上セリ

需要高ハ其年ノ販賣高ニ在來煮塩ノ生産高ヲ加ヘテノ

(3) 朝鮮ニ於ケル塩ノ消費高種類別及其割合(昭和四年年度調)

朝鮮ニ於ケル一年ノ消費高 440,000,000^町

内 訳 (種類別)	(数量)	(4分比)
醬油醗造用	173,000 ^町	395
漬物用	144,000 ^町	329
味噌製造用	49,000 ^町	112
魚類塩蔵用	38,000 ^町	88
麵類製造用	3,500 ^町	8
其 他	32,500 ^町	68

其他ノ消費別4分比内訳

撲種用 5 肥料 2 家畜用 2
化学工業用 46 獣皮保存用 13

(b) 朝鮮ニ於ケル現行塩價 (專賣局通課例規)

(1) 朝鮮ニ等塩々田渡散塩百斤当價格 昭和六年六月十一日 專 秘 三 四 一 号

廣 梁 灣 塩田渡	58 銭
德 洞 "	58 銭
貴 城 "	58 銭
南 市 "	57 銭
南 洞 "	58 銭
君 子 "	58 銭

(2) 食卓塩精製塩散塩百斤当拂下價格 昭和六年七月一日

食卓塩朱安倉渡	600 銭	特約人ヲ京城府南米倉町
精製塩 "	400 銭	辻本嘉三郎ニ指定ス

(3) 食卓塩塩詰一ヶ当拂下價格 昭和六年一月一日施行

六百瓦入	20 銭
三百瓦入	14 銭
百五十瓦入	8 銭

(4) 特甲特乙塩々價改定 昭和五年十月十日

特甲塩	ニ等塩ニ比シ	25 銭高
特乙塩	"	15 銭高

(5) 官塩々田所在地別等級別生産高表 (昭和五年度)

区分	塩田名	面積	生産高				計	昨年度
			特 甲	特 乙	一 等	二 等		
朱安管内	朱 安	212	228		18,090	245	18,563	87,561
	南 洞	300			25,652	5,970	31,622	105,407
	君 子	575			11,850	29,361	41,211	71,671
	計	1,087	228		55,592	35,576	91,396	84,087
廣梁管内	廣 梁 灣	770		3,735	27,680	56,350	87,765	113,987
	德 洞	223			8,520	17,982	26,502	118,843
	貴 城	149			5,179	11,085	16,264	109,154
	計	1,142		3,735	41,379	85,417	130,531	114,300
南 市	南 市	217			7,210	13,030	20,240	93,272
合 計	合 計	2,446	228	3,735	104,181	134,023	242,167	79,005

官塩月別塩田別生産高表 (昭和五年度)

塩田名	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計
廣 梁 灣	4,677	18,633	29,005	5,810	16,010	9,377	1,233	87,765
德 洞	2,335	6,276	8,805	1,340	5,393	2,618	335	26,502
貴 城	725	3,802	6,082	1,182	2,744	1,595	134	16,264
朱 安	1,887	3,761	7,010	600	2,730	1,417	1,158	18,563
南 洞	3,512	6,650	11,395	1,082	4,745	2,502	1,736	31,622
君 子	2,191	8,777	15,818	1,236	6,683	4,837	1,649	41,211
南 市	1,852	5,163	7,393	1,932	1,115	2,235		20,240
合 計	20,179	53,682	85,508	13,182	39,770	23,981	6,245	242,167
生産割合	7	21	34	8	16	10	2	100

(4) 朝鮮塩及輸入塩ノ各輸入港ニ於ケル塩價 昭和六年八月
上月実績表
(天日=等塩)

(其ノ一)		新義州	鎮南浦	仁川	群山
		輸 群	輸 群	輸 群	輸 群
卸	政府拂下価格	600 550	700 650	700 650	830 810
	最高 { 価格	610	880 830	872 817	1000
賣	利益	10	30 30	90 85	30
	最低 { 価格	608	880 830	852 797	840
小	利益	8	30 30	90 65	10
	小 賣 人				
賣	買受価格	835			
	最高 { 価格	833	1000	1002 947	1050
賣	利益	98	170	90 70	50
	最低 { 価格	833	950	962 907	
摘	利益	98	120	50 50	
	要				

小賣人買受価格=ハ
引取費33.00
42.00 町南
利益5.00 合々

価格=ハ
包装費
1.25
引取費
2.5

包装費
8.2
引取費
1.0

包装費
12.0
引取費
3.0

(木) 精製塩紙包装結一個当拂下價格 昭和五年六月六日

= 融入 20 元
- 融入 11 元

(ハ) 精製塩一捆当拂下價格 昭和五年四月二十日

= 融入 4.00 元 一捆=75 20個入
- 融入 4.40 元 " 40個入

販賣人ノ卸賣價格 政府ノ拂下価格=引取費+加算セシ金額

= 其ノ一割ヲ加ヘタル金額以内

小賣人ノ価格 小賣價格ハ之ヲ制限セズ 但シ一融入

17元以内 2融入 32元以内ヲ標準トスベシ

現品引渡官署 朱印出張所

(ト) 昭和五年五月二十日ノ塩價改定現行施行ノ分

一等塩ハ二等散塩百相当價格=比シ 10 元高

粉碎塩ハ各等價格=20 元増ス

輸入塩成分調査ノ件

大正二年十二月二日

乙第三一三号

昭和六年六月二十五日

調査上必要有之條件、兩輸入塩分析成績ヲ毎月調査シ別紙書式ニ依リ翌月十日迄ニ報告相成度

昭和 年 月 分輸入塩成分調査報告

種別等級	輸入地	移入月	移入日	積載箱数	移入量	成分		鑑定成績	水分	分塩化量	分塩化率	輸入取扱人
						水分	灰化物塩化率					
關東州上等塩				九								

備考

- 一 本調査ニ供スル試験品ノ採取方法ニ付テハ明治四十二年四月十九日附長官達甲第
- 一 二七五号産塩成分調査手續ノ例ニ準シテ行フ可シ
- 二 本調査ハ一種別等級一件毎ニ行フ可シ

月洋恩啓等事官司

三、成分ハ小教點以下ニ位ニ止メ三位ヲ四捨五入スヘシ

四、水分及塩化曹達總量ハ各等級ニ於ケル其ノ含有量ヲ算出し小教點

以下一位ニ於テ四捨五入シ附位ニ止ル可シ

五、本表平均欄ニ於ケル水分及塩化曹達量ハ各對應セル其ノ總量ト輸移

入塩總量トニ依リ算出し夾雜物量及鑑定成績ヲ算定スヘシ

六、計(平均)ハ輸移入塩ノ種別等級毎ニ之ヲ附スヘシ

但し自己輸移入ニ係ルモノハ同種別等級ト雖モ其ノ否ニサレモノト區別シ

計(平均)欄ヲ設クルモノトス

七、臺灣塩ニ付テハ臺灣總督府通知ノ成分ヲ記入スヘシ

(6)

天日塩田ノ構造

専賣局直營塩田ハ朝鮮ノ西海岸ニ散在シ其ノ築造ニ當ツテハ先ヅ海浜ノ干瀉地ヲ相シ其ノ土質、地面ノ高低、地域ノ大小、干満ノ差、氣象及交通、搬出、築造費等ヲ精密ニ調査ノ上選定セラルモノニシテ其ノ構造ハ外部ハ堅固ナル外廓堤防ヲ廻ラシ海水風波ヲ防止ス其ノ高サハ地勢ニ依リ相違アルトモ直高十尺乃至十六尺、天中九尺内外、防波面ニハ張石ヲ施ス（外廓堤防ハ天日塩田ノ生命ニシテ其ノ築造費ハ過去ノ実績ニヨレバ平均一間当工費 500 - 1000 ヲ要ス）内部ハ貯水池、蒸発池、結晶池ノ三部ヲ以テ構成ス

貯水池ハ塩ノ原料ナル海水ヲ貯蔵スル池ニシテ蒸発池、結晶池ニ比シ多クハ高所ニテ面積ハ約二割乃至四割ヲ占ム蒸発池ハ高サモ、中ニ尺内外ノ畦畔ヲ以テ区割シ別池ニ別段ニシテ二、三十分ノ落差ヲ附シ海水ヲ自然ニ流下セシメ結晶池ハ塩ヲ析出セシメル池ニシテ其ノ池底ハコンクリートノ如ク鋪設シ堅固ナル外、池内ノ結晶池ハ甕、破片メハ敷瓦ヲ敷設シ排水良好ノ場アリ

其間中水路、鹹水溝、雨水排水溝、塩堆場ヲ有ス

築造物ニテハ貯水池、海水導入水門ヲ設置シ蒸発池、結晶池ニ至リテ代堀ヲ設ケス等構造物ハ鉄筋混凝土ニシテ基礎ニシテ之ヲ築キ、結晶池内ニ備置シテ所屬ナク塩ノ搬出ニ便スル計ヲ敷設シ汽車、船舶上陸結晶ニシ

(7) 朝鮮生産塩ノ生産費

(百斤当 單位厘)

天日塩

	製造費	管理費	資本利子	計	平均
昭和元年	270	107	195	572	722
熱城塩田	449	143	412	1004	
永熱塩田	252	103	183	538	612
二年	327	96	294	717	
三年	186	70	143	399	440
四年	234	113	220	567	
五年	163	52	120	335	372
六年	218	85	179	482	
七年	212	72	150	434	481
八年	292	81	278	651	

再製塩

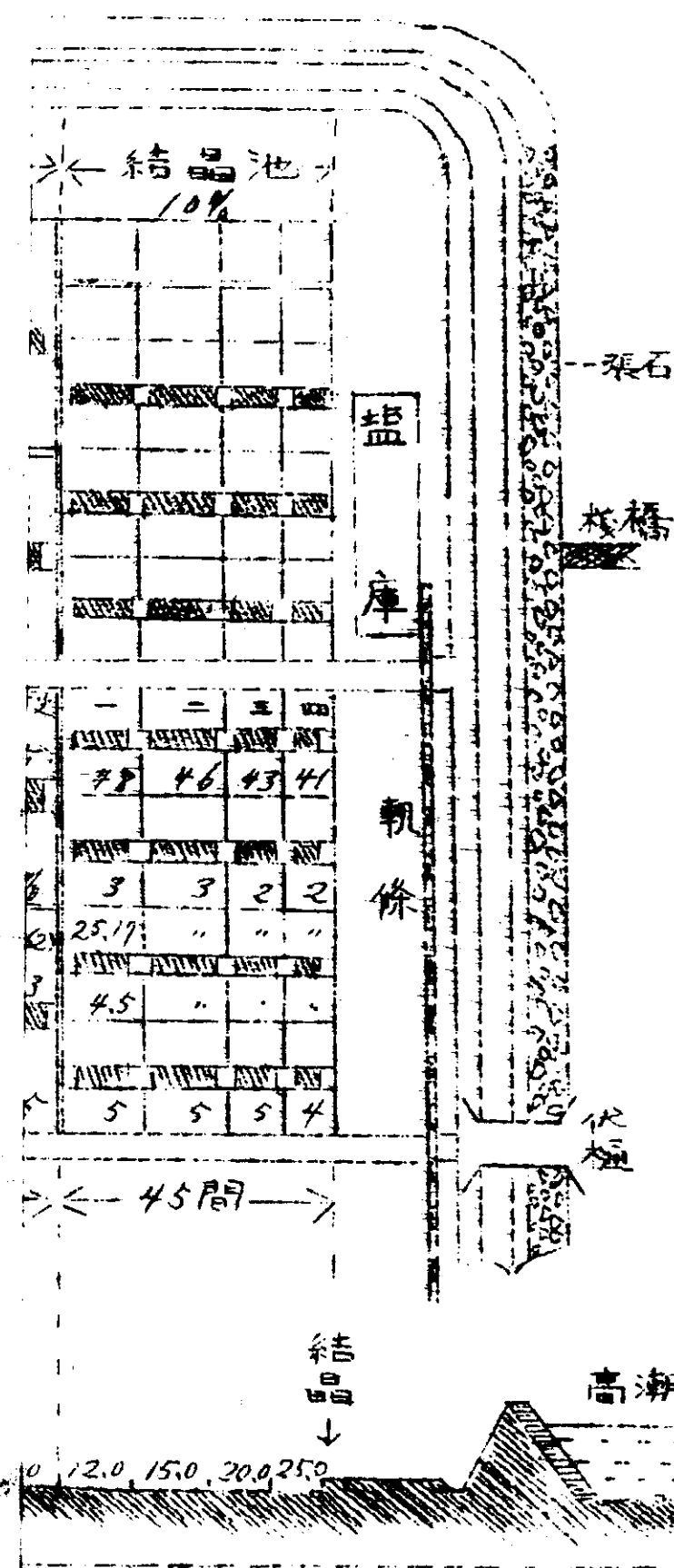
	釜山	京城	元山
原塩代	720	1000	860
燃料費	334	450	432
人夫賃	106	150	123
事務員給料	24	30	-
工場修理	30	25	30
巷路其他修繕	5	4	10
固定資本	95	40	40
資本利子	15	10	10
保険料	6	4	4
雜費	11	100	10
計	1346	1813	1519

在來煎熬塩

	上	中	下	平均
労銀	715	404	477	432
燃料	401	446	429	439
器具機材	246	252	249	249
資本利子	46	99	131	94
雜費	72	186	86	118
計	1220	1388	1372	1332

製塩方法

第一



(7) 製塩方法

朝鮮、西海岸ハ東海岸ニ比シテ滴ノ差甚シク釜山附近ハ
高潮三十一尺、廣深溝一十一尺、南市二十三尺ニ達ス、大潮以外
ノ平時ニ在リテハ潮水ハ塩田地盤迄運セズ、由ツテ毎月朔
望、大潮時ニ當リ所要ノ海水ヲ各貯水池ニ導入貯藏シ之ヲ
蒸発池ニ自然流下セシメ張水ス、此ノ水深ハ一寸内外ヲ程
度トシ、天然ノ日射ト風力トヨリ、海水ヲ蒸発濃縮セシメ濃厚
鹹水ヲ得、鹹水ノ濃度、 $\rho = 1.05$ 氏比重、一十一度乃至一十四度ニ
達スル時ハ之ヲ結晶池ニ移注シ、一日乃至二日ニシテ適當ノ
程度ニ結晶セル時止メテ掻き集メ籠ニ入レ水分ヲ滴下セテ
ヲ見討ラセ、倉庫ニ貯藏ス

(10) 海水ヨリ塩ニナル迄ノ日数

春季 (自四月至五月) 10日 — 15日

夏季 (自六月至八月) 7日 — 10日

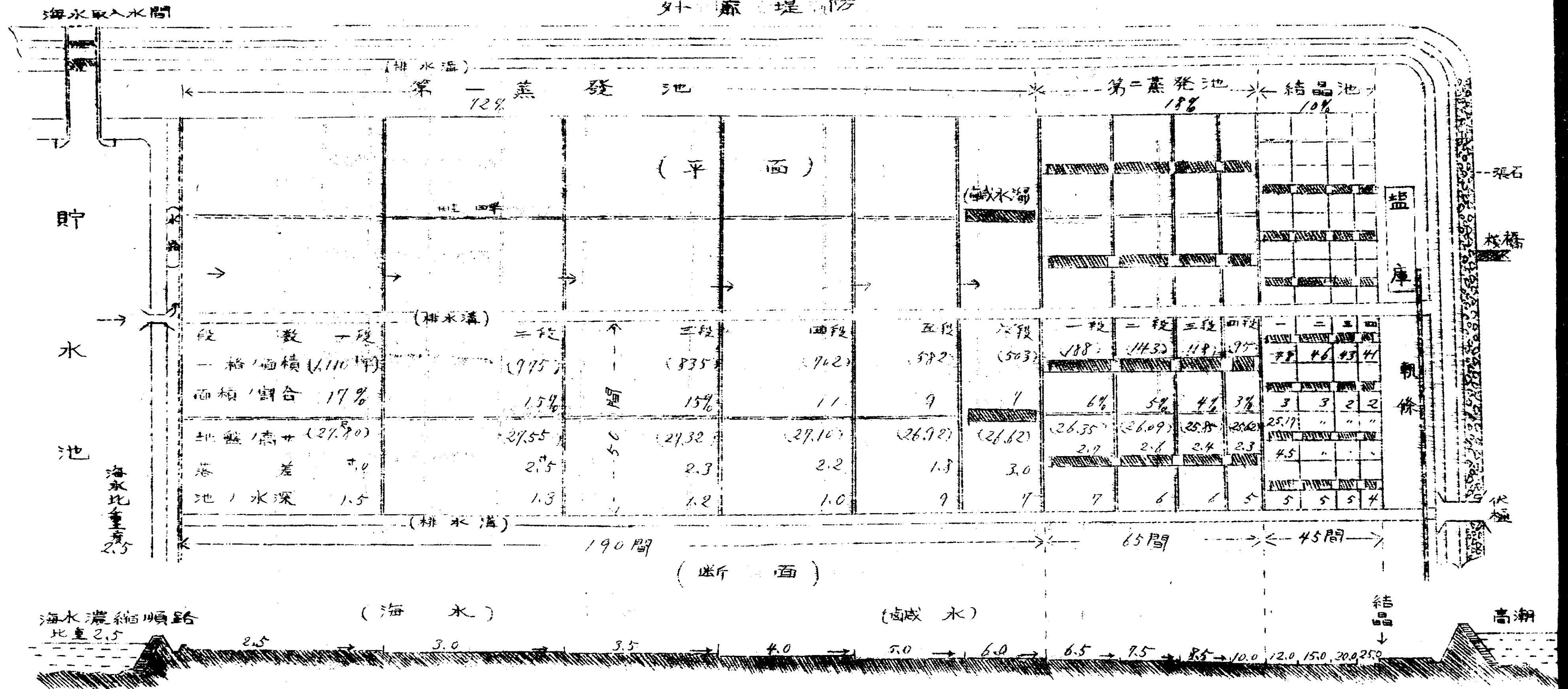
秋季 (自九月至十月) 10日 — 15日

天日鹽田ノ構造圖解

(流干式)

1/40 縮尺

外 麻 堤 防



備考 圖解ハ君子鹽田ノ一部十町歩ヲ示ス
排水溝ヲ境界トシ五町歩宛ニ區劃セラル
地盤ノ高サハ仁川ニ於ケル最干潮水面ヲ基準トサルモノ
第一蒸發池一段ニ對シ結晶池ハ二尺六寸三分低シ
比垂ノ尺度ハ標準ヲ示ス

(7)

朝鮮
高潮
/ 平時
望ノ大
蒸發池
度トシ
鹹水
達スル
程度
ヲ見

(1) 天日塩田=於ケル海水一石ヨリ採塩量

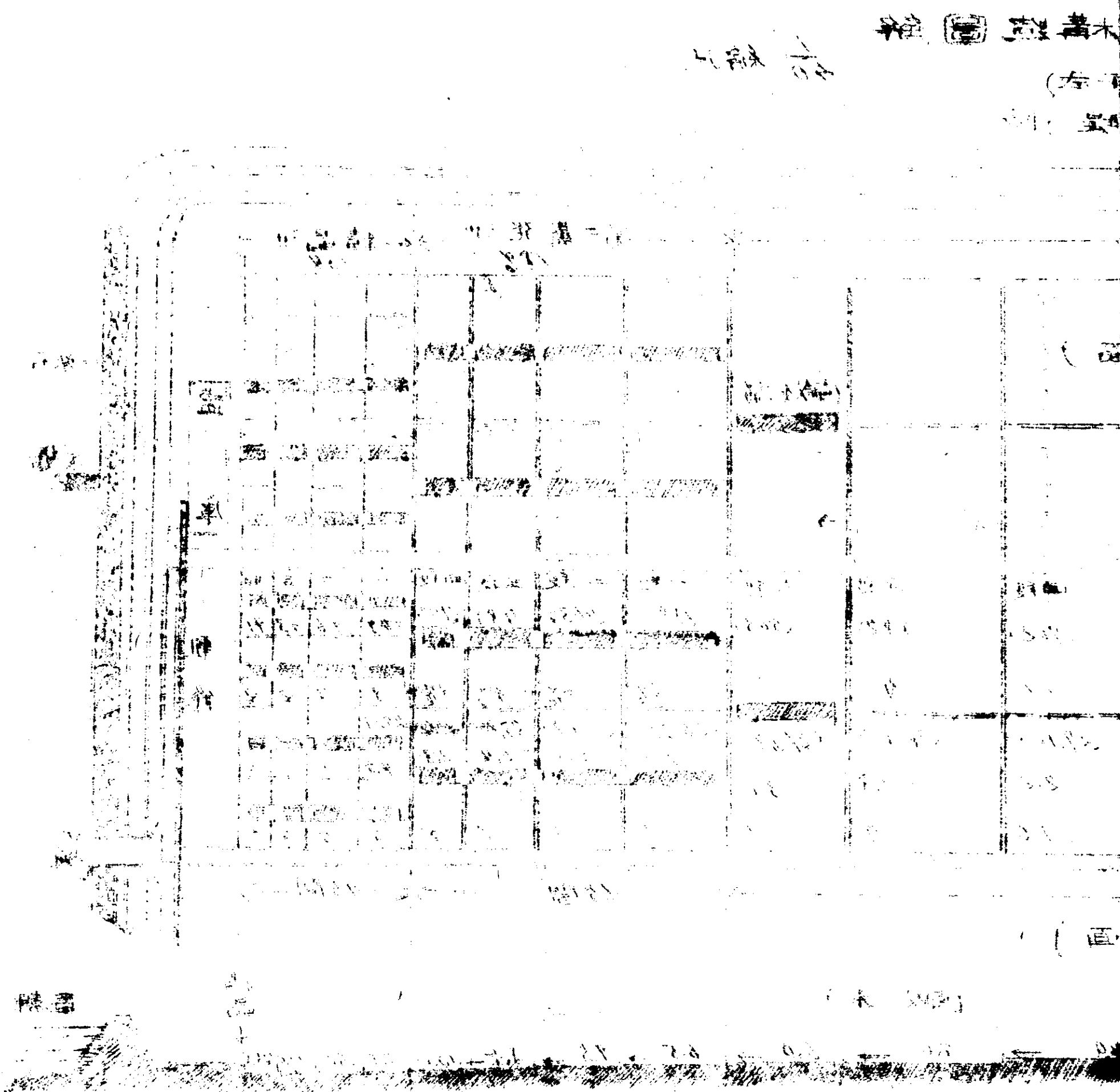
貴城塩田=於ケル三ヶ年平均=依レバ使用海水一石中ヨリ一升九分採塩量ナリ而シテ下表=示スガ如ク貴城ノ平均比重ハ約ニ度五分ト做スコトヲ得ルヲ以テ若シ天日塩田=シテ漏水、滲透、雨水、爲排水等ノ失量皆無トセバ独逸ゲルラッハ氏表=ヨレバ海水比重ホーメ氏ニ度五分ニハ7.438升ヲ含有スルヲ以テ
 $7.438 \text{升} - 1.9 \text{升} = 5.538 \text{升}$ ハ猶採集ノ餘地アルモノト見ルヲ得ベシ

貴城塩田=於ケル調査

	春 期 (四、五、六 月)	夏 期 (七、八 月)	秋 期 (九、十 月)	平 均
昭和二年	1.84	1.80	1.81	1.82
“ 三年	3.05	2.27	0.29	1.87
“ 四年	3.53	1.25	1.22	2.00
平 均	2.81	1.77	1.11	1.90

全 塩田 海水比重表

	(三月)	(四月)	(五月)	(六月)	(七月)	(八月)	(九月)	(十月)	(平均)
昭和二年	2.5	2.5	2.2	2.8	2.0	2.1	2.8	3.0	2.5
“ 三年	2.6	3.1	2.8	3.0	2.7	2.7	1.9	2.8	2.7
“ 四年	2.8	2.8	2.8	3.0	1.9	2.4	3.1	3.4	2.8



(13) 天日塩ノ水分ニ就テ

天日塩ノ水分ハ採塩後ノ貯藏期間並ニ品質ニ依ツテ著シク差異ヲ生ズルモノナレバ水分ノ多寡ニ依リテ新旧塩ヲ識別シ或ハ品質等モ略々推定スルコトヲ得ルナリ
尚水分含有量ハ塩ヲ硝子見本塩ニ入レテ其ノ壁面ニ附着スル塩粒ニヨリテ推定スルコトヲ得 即チ塩粒壁面ニ附着セザレバ其ノ水分含有量ハ約4%以下トシ密着シテ落チザル時ハ含有量ハ7%至8%以上トナスコトヲ得

(14) 朝鮮天日塩及輸入塩ノ色相概況

朝鮮天日塩

天日塩ノ結晶ハ製塩地ノ地質氣象結晶池ノ構造並ニ製塩法ニ依ツテ差異ヲ生ズ

朱安塩田産塩ハ結晶池ニ瓦破片ヲ敷設シタル爲ニ色相白色ニシテ比較的細粒ナリ

君子塩田産塩ハ結晶池ハ砂質粘土ニシテ何等ノ敷設物ナキ爲

青味カレル粗大粒結晶ナリ

南洞塩田産塩ハ結晶池ノ五割ハ瓦破片ヲ敷設シ其他ハ土質ナル爲ニ色相粗共 朱安君子ノ中間ナリ

廣梁灣及貴城塩田産塩ハ君子産塩ニ類似ス

徳洞塩田産塩ハ土質赤色重粘土ナル爲ニ結晶粒ハ帶赤色ニシテ官塩中ノ特異ナル色澤ナリトス

南市産塩ハ廣梁塩ト徳洞ト中間色ヲ有ス

輸入塩

關東州

問島塩及石島塩ハ概シテ廣梁灣産塩ニ類似スル色相ヲ有ス

青島塩及威海衛塩ハ色相赤色ニシテ官塩ノ徳洞産ニ類似スト雖モ結晶粒粗大且堅緻ニシテ濃赤濁色ヲ帶ヘルヲ以テ一見直チニ識別スルコトヲ得

(15) 專賣局塩田所在地=於ケル気象諸
(昭和五年四月一日請)

	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計	十年平均
廣 梁 湾	降水量 41.4	32.7	14.7	296.5	113.6	25.4	6.9	581.2	1044
	蒸発量 138.6	171.9	189.0	151.5	186.6	161.0	115.5	1114.1	1129.1
	降雨日数 6	7	4	15	10	9	3	54	61
徳 洞	降水量 52.0	51.1	56.8	280.9	116.4	34.7	16.8	588.7	-
	蒸発量 130.0	176.7	186.8	130.1	158.9	121.3	101.5	1005.3	-
	降雨日数 7	9	5	17	9	9	5	61	-
貴 城	降水量 41.3	30.0	43.8	321.6	97.4	45.4	9.5	589.0	-
	蒸発量 149.3	195.5	222.0	141.3	178.9	167.5	113.0	1117.5	-
	降雨日数 7	8	4	14	10	7	3	53	(十年平均)
南 市	降水量 26.3	45.4	11.8	315.6	94.9	91.5	55.8	641.3	697.8
	蒸発量 153.2	188.2	187.6	150.7	170.9	152.4	122.8	1125.8	1054.6
	降雨日数 3	11	7	20	12	6	1	60	76
朱 安	降水量 104.2	86.7	79.3	590.4	174.0	80.8	94.3	1209.7	1008.3
	蒸発量 92.6	126.1	140.2	91.7	128.6	94.4	55.8	729.4	1007.3
	降雨日数 10	5	9	21	12	8	4	69	68
南 洞	降水量 105.1	95.3	84.1	557.9	188.5	117.1	97.7	1245.7	-
	蒸発量 101.3	145.4	165.6	115.9	171.3	125.1	88.8	913.3	-
	降雨日数 9	7	7	20	15	8	4	70	-
君 子	降水量 97.8	73.4	101.5	523.0	160.2	123.1	81.4	1160.4	-
	蒸発量 160.6	121.7	134.7	83.5	115.0	107.4	73.0	765.3	-
	降雨日数 8	7	7	19	12	8	4	65	-

(14) 塩田所在地=於ケル原料海水月別比重表
(平均比重)

	朱 安 (四年)	朱 安 (三年)	廣 深 湾 (四年)	廣 深 湾 (三年)	南 市 (四年)	南 市 (三年)
一月	2.5	2.5	3.0	2.3	-	-
二月	2.5	2.5	3.4	1.9	-	-
三月	2.5	2.7	2.7	2.3	2.6	1.5
四月	2.6	2.6	2.7	2.7	2.4	1.7
五月	2.5	2.7	2.7	2.7	1.3	1.9
六月	3.0	2.8	2.6	2.7	1.9	2.0
七月	2.0	2.3	1.7	1.9	-	1.0
八月	2.0	2.6	1.4	2.1	-	1.0
九月	2.5	1.2	2.1	1.2	-	0.8
十月	2.5	1.7	2.3	2.1	-	1.1
十一月	2.3	2.2	2.6	2.4	-	-
十二月	2.2	2.5	2.5	2.9	-	-

第二類

朝鮮在來煎熬塩及再製塩
＝ 関スル資料

煎熬塩

煎熬鹽生產高地方別 (昭和五年)

區 名	郡 名	製造者數		釜 數		鹽田面積	製造數量	價 額
		主業	兼業	主業	兼業			
京 畿	振 威 郡	—	17	—	3	6,370 ^坪	25,500 ^斤	63 ^円
	水 原 郡	—	266	—	125	109,660	4,082,960	36,337
	始 興 郡	—	1	—	1	5,693	2,600	85
	富 川 郡	1	54	5	17	154,590	1,928,293	26,556
	江 華 郡	—	12	—	7	10,900	50,250	165
	計	1	320	5	15	287,213	6,889,603	64,281
忠 南	舒 川 郡	5	—	5	—	25,000	135,500	2,033
	保 寧 郡	118	—	25	—	34,740	291,100	4,790
	洪 城 郡	19	—	5	—	6,750	125,000	3,366
	瑞 川 郡	546	—	152	—	210,500	2,205,056	47,332
	唐 津 郡	18	—	12	—	4,476	126,100	1,635
	牙 山 郡	5	—	1	—	9,964	6,500	195
	計	711	—	200	—	491,432	2,889,256	57,751
全 北	高 敞 郡	10	123	9	39	164,100	1,584,000	30,096
	扶 安 郡	14	25	13	4	52,800	305,000	9,150
	計	24	148	22	43	216,900	1,889,000	39,246
全 南	光 陽 郡	2	89	3	24	92,339	405,051	11,240
	麗 水 郡	8	49	8	3	19,058	567,790	17,119
	順 天 郡	—	124	—	38	144,502	463,690	8,065
	高 興 郡	48	386	48	46	193,803	1,154,704	34,641
	寶 城 郡	43	268	15	45	209,240	1,724,000	34,480
	長 興 郡	1	57	1	14	13,270	161,740	4,045
	康 津 郡	—	35	—	8	17,191	154,620	4,214
	海 南 郡	—	27	—	19	148,614	458,450	8,347
	靈 巖 郡	34	49	13	15	36,500	311,250	1,225
	務 安 郡	111	1487	64	181	2,148,661	11,151,332	165,990
	咸 平 郡	—	6	—	1	2,400	1,500	130
	靈 光 郡	24	1	17	1	38,870	165,250	6,748
	克 島 郡	—	50	—	11	4,765	49,500	731
	珍 島 郡	15	435	3	35	505,290	1,142,004	22,151
	洛 州 郡	—	320	—	57	35,115	59,280	1,363
	計	286	3,443	172	300	3,410,358	17,877,151	325,917
慶 北	迎 日 郡	1	5	1	3	13,020	5,000	110

區分 道名	郡名	製造者数		釜数		塩田面積	製造数量	價額
		主業	兼業	主業	兼業			
咸北	吉州郡	2	-	2	-	4,183	72,000	2,880
	富寧郡	3	-	2	-	2,281	5,000	150
	慶興郡	1	4	1	4	11,490	7,000	219
	計	24	4	6	4	17,954	103,200	3,573
總計		1281	4140	567	787	7588,650	56,532,737	818,551

煎 熬 塩 (指數)

年 別	製造者数	釜数	塩田面積	製造数量	價額
大正十年	100	100	100	100	100
同十一年	88	88	75	97	72
同十二年	84	84	71	91	68
同十三年	90	87	70	104	80
同十四年	95	78	67	115	83
昭和元年	96	77	61	100	71
同二年	92	64	55	86	61
同三年	89	53	56	106	70
同四年	82	47	68	124	48

煎 熬 塩 (実数)

年度別	製造者数	釜数	塩田面積	製造数量	價額
大正十年	7,516	2,858	3,705 坪	40,255 升	1,919,239 円
同十一年	6,689	2,483	2,815 坪	39,562 升	1,093,297 円
同十二年	6,627	2,408	8,444.153	65,103.656	1,582,890 円
同十三年	6,772	2,490	7,982,206	67,976,019	1,346,998 円
同十四年	7,193	2,232	7,804,831	56,381,621	1,259,979 円
昭和元年	7,274	2,259	7,511,621	50,610,326	1,386,662 円
同二年	6,980	1,844	6,846,420	67,155,827	1,235,071 円
同三年	6,723	1,754	6,144,440	57,994,672	1,061,445 円
同四年	6,219	1,525	6,521,063	57,842,690	1,211,242 円
同五年	5,421	1,353	6,308,800	71,158,822	818,551 円

27

1町步 = 3,000坪

區分 道名	郡名	製造者数		釜数		塩田面積	製造数量	價額
		主業	兼業	主業	兼業			
度北	盛徳郡	-	1	-	1	453 坪	29,000 升	870 円
	計	1	6	1	4	3,453	34,000	910
度南	蔚山郡	-	68	-	22	73,850	225,000	4,500
	東萊郡	1	-	1	-	10,000	2,154,117	25,850
	金海郡	21	1	21	1	141,592	1,988,400	119,884
	昌原郡	48	16	24	1	174,720	6,948,800	74,787
	固城郡	17	15	7	1	13,794	72,826	1,473
	泗川郡	7	9	1	2	6,504	195,100	2,968
	南海郡	10	9	5	1	14,590	83,320	1,396
計		106	118	57	33	436,850	21,667,613	230,848
黄海	海州郡	18	8	5	5	83,200	971,200	14,586
	瓮津郡	-	11	-	4	9,450	59,000	785
	松禾郡	8	7	8	1	8,400	41,100	881
計		26	26	13	10	101,050	1,071,300	16,252
平南	江西郡	8	23	8	20	116,700	415,000	6,965
	安州郡	1	1	1	1	35,000	135,000	2,700
	平康郡	4	10	4	9	13,800	71,100	1,781
計		13	34	13	30	165,500	141,260	11,446
平北	定州郡	10	-	20	-	18,000	30,000	700
	計	10	-	20	-	18,000	30,000	700
江原	高城郡	5	5	6	2	11,830	25,685	122
	通川郡	2	-	2	-	1,500	4,060	4,448
	襄陽郡	4	-	4	-	8,292	149,315	3,540
	三陟郡	17	-	5	-	5,200	101,164	6,900
	江陵郡	1	3	1	3	3,200	90,000	11,190
計		29	8	18	5	30,022	370,224	21,470
咸南	元山府	1	-	3	-	1,817,000	1540,000	26,180
	永興郡	5	3	5	3	62,000	166,500	1,978
	文川郡	22	-	28	2	518,540	2,106,000	25,272
	洪桑郡	10	-	2	-	6,500	29,400	530
	北青郡	3	-	2	-	5,878	28,200	575
計		51	3	40	5	2,409,918	3,870,100	54,575
咸北	明川郡	18	-	1	-	-	18,700	324

26

(5) 在來煎熟塩 / 生産費調 (百斤当)

	上	中	下	平均
労 銀	415 厘	404 厘	477 厘	43.2 厘
燃 料	44.1	44.6	42.9	43.9
器具 機械 其他	24.6	25.2	24.9	24.9
資本利子	4.6	9.9	13.6	9.4
雜 費	7.2	18.6	9.6	11.8
計	1.220	1.387	1.387	1.332

(6) 再 製 塩 / 生産費調 (百斤当)

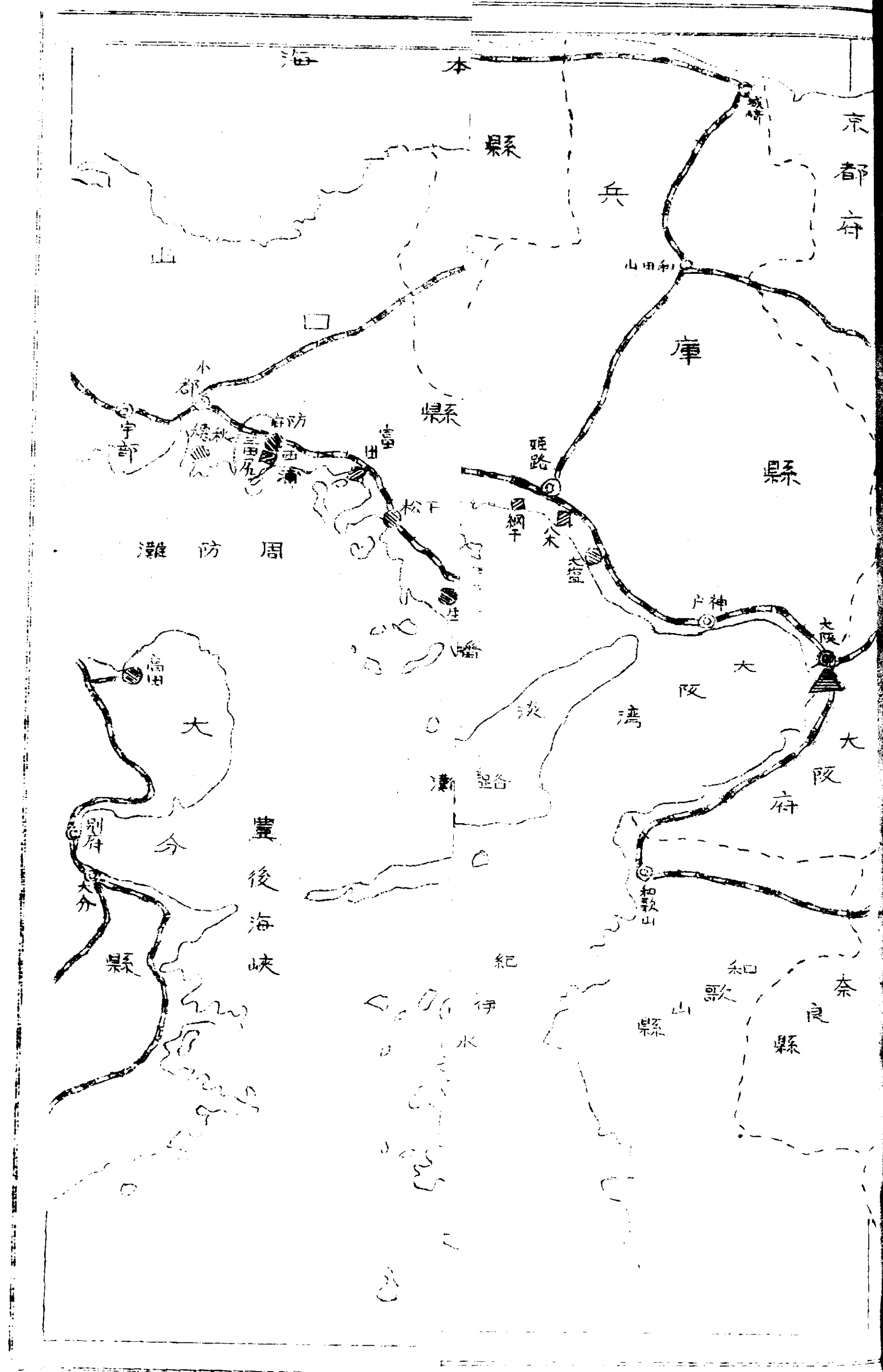
	釜 山	京 城	元 山
原塩代	720 厘	1,000 厘	860 厘
燃料費	33.4	45.0	43.2
人夫賃	10.6	15.0	12.3
事務員給料	2.4	3.0	-
工場修理	3.0	2.5	3.0
器具其他修理	5	4	1.0
固定資本	9.5	4.0	4.0
資本利子	1.5	1.0	1.0
保險料	6	4	4
雜 費	1.1	10.0	1.0
計	1.346	1.813	1.519

再製塩製造高表 (昭和五年)

道 名	製造者数	釜 数	一 年 製 造 高		原塩使用数量
			数 量	價 格	
京 畿 道	17	28	8,105,374	159,824	8,435,779
全 羅 北 道	7	8	1,818,506	38,732	2,200,000
同 南 道	1	2	1,051,206	23,364	1,168,006
慶 尚 北 道	2	5	2,721,000	46,736	3,744,000
同 南 道	19	79	34,897,600	444,434	34,897,600
平 安 北 道	4	8	255,742	7,179	276,832
同 南 道	10	19	3,537,500	70,882	4,308,161
江 原 道	3	4	1,558,000	46,954	1,541,000
咸 鏡 北 道	2	6	4,019,490	61,890	4,700,800
同 南 道	2	6	2,818,712	46,749	3,382,450
計	67	165	60,983,324	747,144	64,674,628

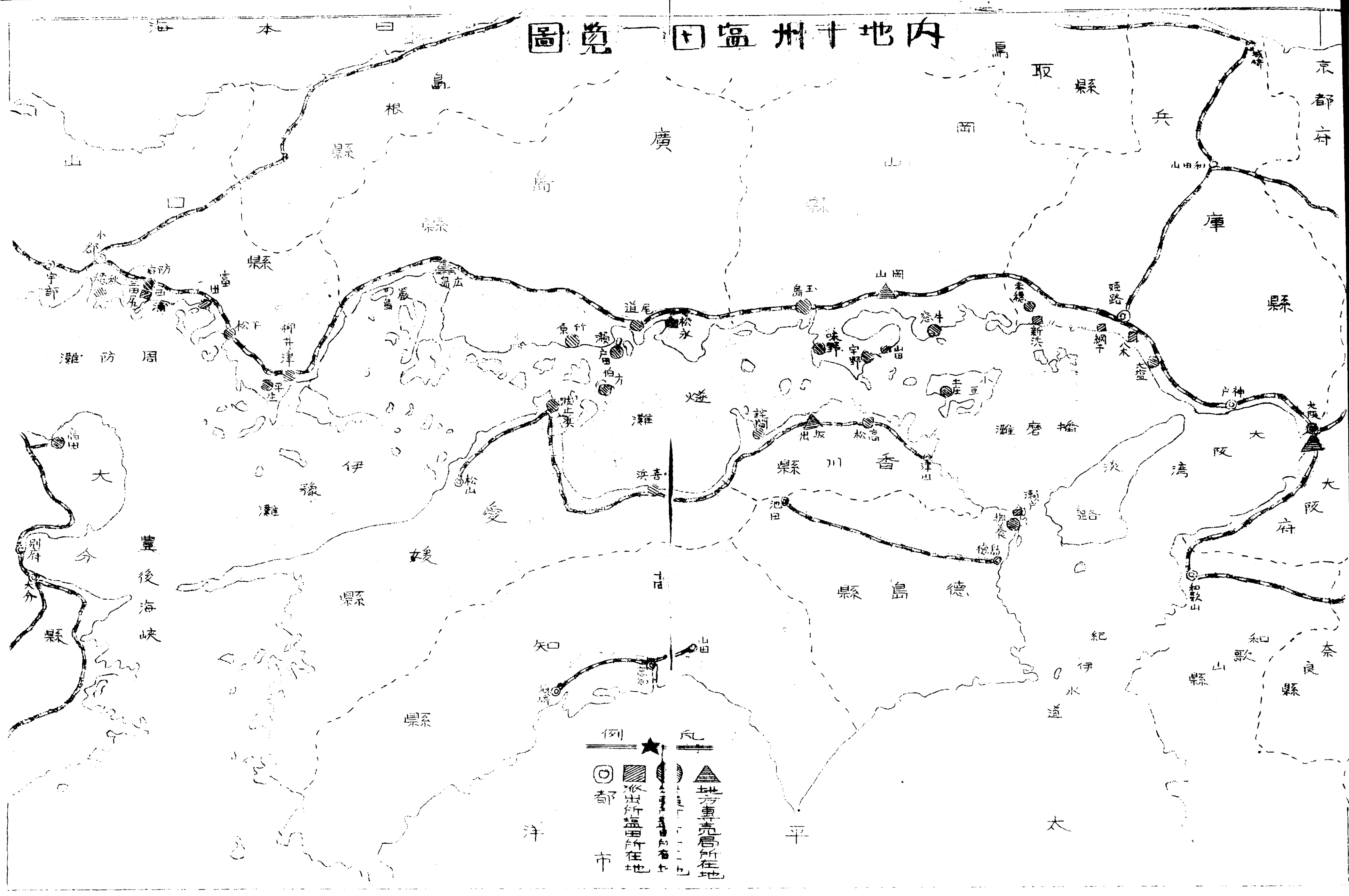
再 製 塩 (實 数)

年 別	製造者数	釜 数	原塩使用数量	製造数量	價 額
大 正 十 年	101	229	61,858,214	60,245,621	1,135,725
同 十 一 年	88	214	59,864,591	58,455,633	1,069,436
同 十 二 年	67	183	67,659,808	66,260,594	1,500,675
同 十 三 年	74	183	64,789,652	45,847,177	754,710
同 十 四 年	70	174	47,668,251	46,734,303	997,640
昭 和 元 年	15	159	55,769,696	54,343,638	1,040,444
同 二 年	15	153	65,030,051	63,109,810	1,094,234
同 三 年	50	146	58,112,641	51,334,165	907,543
同 四 年	64	162	57,035,093	55,050,492	869,909
同 五 年	67	165	64,674,628	60,983,324	947,144



京都府
大阪府
兵庫縣
丹波縣
和歌山縣
奈良縣
大分縣
豊後海峡
淀川
淡路
紀伊水
大阪
和歌山
奈良
大分
豊後

内地十州一覽圖



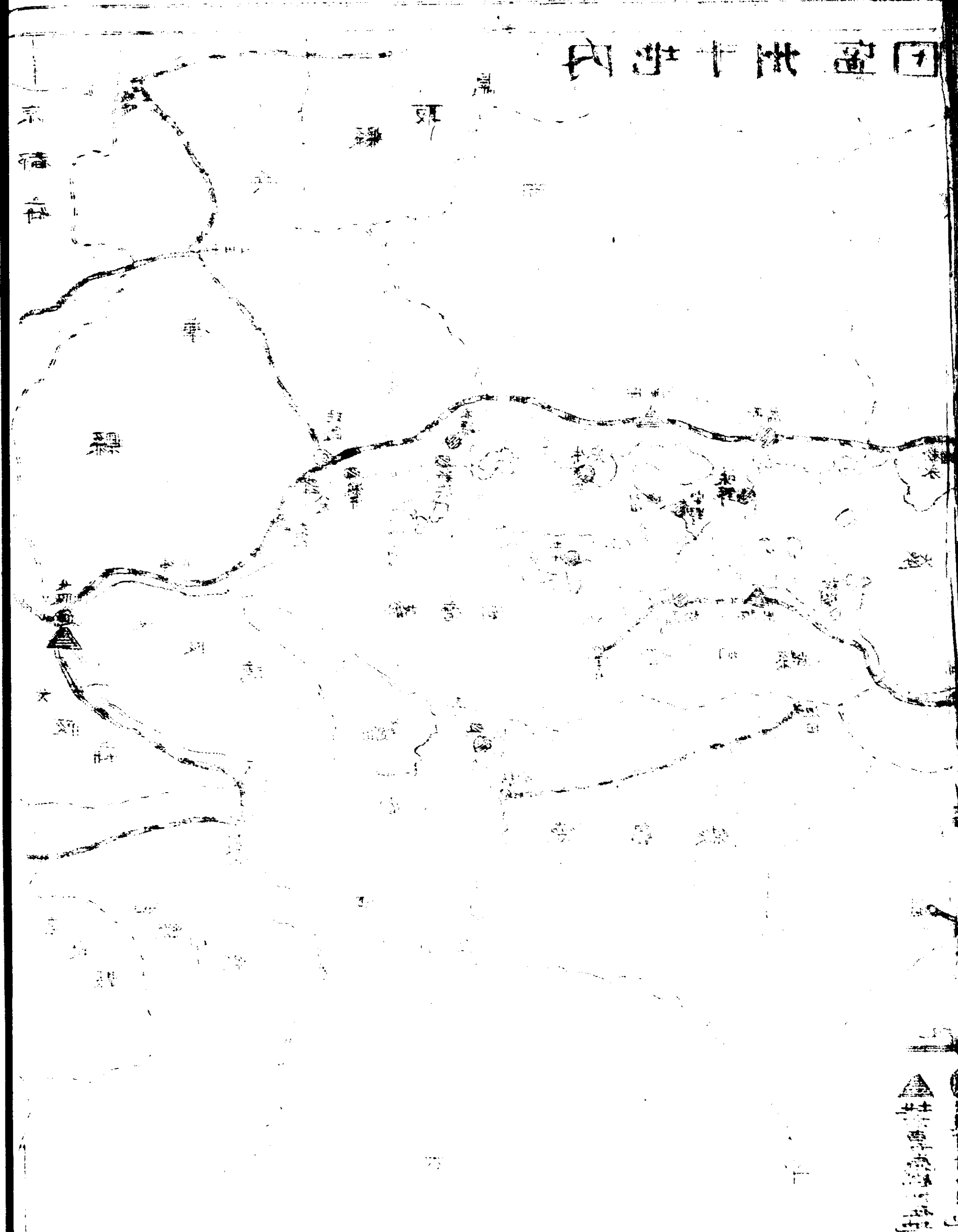
(1) 内地=於ヶル塩ノ種類別生産高
(昭和五年度)

政府收納

(種類)	(数量)	(收納割合%)
一 等 塩	84,357.4594	81
二 等 塩	586,746.235	560
三 等 塩	375,832.577	359
四 等 塩	119.153	-
五 等 塩	421.851	-
等 外 塩	77.550	-
計	1,047,556.824	1,000

政府直営

再 製 塩	10,322.400
食 卓 塩	739.185
精 製 塩	4,999.960
計	16,061.544
合 計	1,063,618.369



(3) 内地ニ於ケル塩ノ販賣価格

大蔵省告示第六十七号

昭和六年三月二十六日

一 内地専賣局塩百觔当賣渡価格

塩元賣捌人賣	五十觔及四十觔 包裝以入	一等	二等	三等	四等	五等
		5.30	5.00	4.70	4.00	4.10
散 塩	三十觔以入	5.35	5.05	4.75	4.45	4.15
		5.02	4.72	4.42	4.12	3.82
直接小賣人賣 一回六十觔以上及	五十觔及四十觔 包裝以入	5.57	5.26	4.95	4.64	4.33
		5.62	5.31	5.00	4.69	4.38
散 塩	三十觔以入	5.27	4.96	4.65	4.34	4.03

二 内地ハ輪移入サレタル塩ノ百觔当価格

塩元賣捌人賣	大十觔以入	南九州 上等塩	南九州 並等塩	南九州 粗製塩	台湾 煎茶塩	上等 粉砕塩	西班牙 粉砕塩
		4.90	4.75	-	-	-	-
散 塩	五十觔及四十觔 以入	4.98	4.83	5.07	5.25	4.78	5.25
		4.57	4.42	4.65	4.81	4.57	4.83
直接小賣人賣 一回六十觔以上及	大十觔以入	5.15	5.00	-	-	-	-
		5.23	5.08	5.32	5.50	5.25	5.52
散 塩	五十觔及四十觔 以入	4.80	4.65	4.88	5.05	4.80	5.08

(2) 内地收納塩ノ賠償價格(西曆)

大蔵省告示二百四十八号

昭和五年十二月二十四日

賠償價格区域	一等	二等	三等	四等	五等
第一区 甲-兵庫 岡山 廣島 山口 香川 愛媛 大分 福岡 長崎	2.70	2.47	2.27	2.00	1.83
乙-徳島	2.77	2.54	2.34	2.07	1.90
第二区 愛 知	2.96	2.73	2.53	2.26	2.09
第三区 宮城 石川 鹿児島 沖縄	3.43	3.20	3.00	2.73	2.56

(5) 内地塩営業利益

地方官公署甲オ三〇九一号

昭和六年一月一日施行

種 類	装置区分	単 位	元賣捌人		小賣人 一般定価
			一般定価	特別定価	
収納塩各等	五十斤入(八折)	一斗=ツキ	70 ^厘	60 ^厘	140 ^厘
	三十斤入(五折)	"	50	40	100
	散 塩	六十斤=ツキ	100	80	-
食 卓 塩	六百瓦罐入	一箇=ツキ		25	60
	三百瓦 "	"		15	40
	百五十瓦 "	"		10	30
精 製 塩	二斗箱入	一箇=ツキ		10	40
	一斗 "	"		8	30
民間再製塩	五十斤入	一斗=ツキ		70	10 ^{一斤=ツキ}
	二十斤入	"		30	17 ^{一斤=ツキ}
	散塩(六十斤)	"		140	-

(4) 塩百斤当失付金額表(特別消費者=対スル)

大藏省告示第六十八号 昭和六年三月二十日

特別塩規則一項ノ規定ニヨル塩失付金額左表ノ通リ相定メ

昭和六年四月一日ニシテ施行ス

種 類	産 地	輸送費・移込運・化学薬品 人造色素・石鹼・苛性ソーダ 検査費・包装費・その他各種	輸送費・移込運・化学薬品 人造色素・石鹼・苛性ソーダ 検査費・包装費・その他各種	輸送費・移込運・化学薬品 人造色素・石鹼・苛性ソーダ 検査費・包装費・その他各種
		輸送費・移込運・化学薬品 人造色素・石鹼・苛性ソーダ 検査費・包装費・その他各種	輸送費・移込運・化学薬品 人造色素・石鹼・苛性ソーダ 検査費・包装費・その他各種	輸送費・移込運・化学薬品 人造色素・石鹼・苛性ソーダ 検査費・包装費・その他各種
収納塩	内地	.93	.93	-
再製塩	内地	1.93	1.93	-
	台湾	2.65	2.65	-
上等原塩	関東州	2.92	2.92	-
	青 島	2.30	2.30	-
	台湾	2.63	2.63	-
並等原塩	関東州	2.85	2.85	-
	青 島	3.23	3.23	-
再製塩	関東州	1.62	1.62	-
煎 熬 塩	台湾	1.60	1.60	-
上等粉碎塩	台湾	1.93	1.93	-
	其 他	.93	.93	-

(7) 内地ニ於ケル塩田所在地面積及収納高 (鑑定実績)

(昭和四年度)

(地方局別)	(製造場数)	(塩田面積)	(枚 量)	(一製造場当)	(塩田一町当)
大阪	421	851町	140.811019	334.468	165.465
十 田 山	264	475	106.435900	403.166	224.076
州 廣 島	360	691	141.499.010	393.053	204.774
地 山 口	440	892	165.414.260	375.942	185.442
方 坂 出	730	1.483	327.426.680	448.530	220.987
徳 島	194	460	90.719.950	467.629	197.217
計	2.409	4.852	972.306.819	403.614	200.393
東 京	21	64	2.539.550	120.931	39.681
十 仙 臺	35	61	8.876.600	253.617	145.518
州 名 古 屋	856	166	22.053.091	25.763	132.850
以 金 澤	296	36	5.475.000	18.497	152.083
外 福 岡	110	277	37.179.000	337.445	134.004
鹿 児 島	583	138	14.215.660	24.384	103.012
計	1.901	742	90.338.901	47.490	121.670
合計	4.310	5.994	1.062.645.720	246.540	189.951

(b) 内地ニ於ケル塩需給状況 (昭和四年度)

製造量	1,104,226 ⁴ 斤	(割合) 671
輪移入高	540,329	329
計	1,644,555	1,000

消費 (用途)	(数量)	(割合)
再 製 塩	38,344 ⁴ 斤	23
漬 物	450,797	268
醬 油 製 造	371,497	221
味噌	231,176	137
麵 類	23,831	14
魚 類 塩 藏	102,342	61
糠 糲	997	1
肥 料	1,695	1
家 畜	10,804	6
獸 皮 保 存	6,108	4
窓 業	5,875	3
化 学 薬 品	316,844	188
人 造 色 素	12,061	7
石 炭 製 造	4,493	3
其 他	1,384	1
錠 業	6,945	4
製 鋼	179	-
輪 移 入 (島根塩)	22,342	13
其 他	75,183	45
合 計	1,682,897	1,000

全上合計可成製塩用 1,644,555
控除290元

(9) 政府收納塩ノ製造種類別 (昭和四年度)

種類別	一等	二等	三等	四等	五等	番外	計
十州地方	10730	404474	244259	43	65	3	659574
十州以外	-	17519	56102	166	15	-	73803
計	10730	421993	300361	209	80	3	733377
十州地方	45748	110448	156536	-	-	-	312733
十州以外	12	3836	12585	34	9	-	14476
計	45760	114284	169121	34	9	-	312209
海水直熱塩	2147	2355	27	-	56	-	4586
塩土製塩	-	42	1274	-	-	-	1315
汰度副産塩	121	60	26	4	10	65	287
硝石副産塩	389	419	454	37	357	62	1719
苦汁利用副産塩	61	2302	148	-	-	-	2511
ソルト外副産塩	22	-	-	-	-	-	22
温泉熱利用製塩	-	-	221	-	-	-	221
計	2741	5177	2151	41	424	127	10661
合計	59231	541454	471634	284	513	131	1073247

備考 塩田製塩ノ製造法 真塩ト差塩ト説明

真塩ト常ニ新鹹水ヲ以テ煎蒸シル塩ヲ云フ

差塩ト煎蒸^後後殘苦汁ヲ利用シ煎蒸シル塩ヲ云フ

(8) 收納塩地方局別等級別生産高 (昭和四年度)

(地方局別)	一等	二等	三等	四等	五等	番外	計
大阪	853	17690	124117	3	342	62	143067
岡山	5263	35642	67001	-	-	-	107906
広島	29300	34819	77407	-	-	-	141526
山口	16446	75633	73335	-	-	-	165414
方坂出	3888	279055	44959	18	3	3	327926
徳島	789	74429	15749	22	34	-	91023
計	56539	517268	402568	43	379	65	976862
東京	502	918	2337	44	16	-	3617
水戸	-	11	-	-	-	-	11
十仙臺	-	3393	5484	-	-	-	8877
州名古屋	30	2758	19299	74	47	65	22293
以金澤	-	13	5462	-	-	-	5475
外福岡	2160	15784	23598	68	12	-	41622
鹿児島	-	1509	12889	35	60	-	14493
計	2692	24186	69069	241	135	65	96388
合計	59231	541454	471637	284	514	130	1073250

(11) 收融塩等級別定量分析 (昭和四年十月
專賣局中央研究所分析)

	瀬戸	"	"	味野	"	"
	一等塩	二等塩	三等塩	一等塩	二等塩	三等塩
水分	3.7087	7.1180	8.2910	3.9489	5.6781	9.0641
不溶解分	0.0500	0.0750	0.1380	0.0420	0.0760	0.1890
硫酸石灰	1.0016	1.2891	1.3007	0.5035	0.9436	1.1708
硫酸苦土	1.0896	1.5515	1.7008	0.8162	1.3829	1.5517
塩化苦土	0.0084	0.5540	1.3032	0.2766	0.6092	1.3585
塩化加里	0.3832	0.4441	0.5942	0.3710	0.4489	0.8056
塩化曹達	93.4912	89.6097	85.2935	93.8650	90.9367	84.9187
計	99.7127	100.6414	98.6214	97.8432	100.0754	99.0584

(10) 輸入塩の種類別数量及割合 (昭和四年度)

産地	等級	数量	割合
臺灣	一等塩(天日塩)	34,802.832	
	並等塩(天日塩)	35,366.081	
	煎煮塩	14,987.760	
	計	85,156.673	15
關東州	上等塩(天日塩)	17,698.600	
	並等塩(天日塩)	94,347.201	
	洗滌塩(天日塩)	20,663.627	
	再製塩	2,994.960	
	木盤塩(天日塩)	49.700	
	計	135,754.088	24
青島	並等塩(天日塩)	324,756.911	
	等外塩(天日塩)	8,110.560	
	計	332,867.471	60
獨逸	精製塩	4,945	
	粗製塩	5,141.900	
英國	精製塩	12,791	
米國	粗製塩	181.617	
瑞西	精製塩	300	
	計	5,341.553	1
	合計	559,119.785	100

(13) 内地输入盐分折表 (昭和四年度)

種別	分桶数	成		分	
		水分	灰雜物	塩化曹達	鑑定成績
台湾上等塩	17	8.59	4.61	86.80	85.02
“ 並等塩	16	6.55	4.40	89.05	87.51
“ 煎煮塩	2	4.50	2.48	93.02	92.07
關東州特選上等塩	4	5.40	3.88	90.72	89.40
“ 並等塩	15	6.32	4.39	89.29	87.78
“ “	5	7.18	4.61	88.21	86.57
“ 沅滌塩	6	3.28	2.89	93.83	92.92
“ 再製塩	1	7.90	5.63	86.47	84.55
“ 大盤塩	1	6.45	5.38	88.17	86.35
青島並等塩	20	8.06	4.80	87.14	85.37
“ “	82	8.61	5.60	85.79	83.81
“ 等外塩	5	8.27	5.80	85.93	83.94
独7.精製塩	7	0.22	0.40	99.38	99.28
“ 粗製塩	9	0.14	1.05	98.81	98.59
英國精製塩	6	0.32	1.09	98.59	98.34
瑞西 “	1	0.05	0.34	99.61	99.54
英國粗製塩	1	2.10	0.12	99.58	99.69

(12) 政府直營加工塩成分分析
(成分百分率)

精製塩

食卓塩

	(昭和三年)	(“四年)	(昭和三年)	(“四年)
水分	0.40	0.48	0.10	0.10
灰雜物	1.50	1.78	1.86	1.64
塩化曹達	98.10	97.74	98.04	98.26
鑑定成績	97.76	97.34	97.66	97.92

(13) 内地製塩地ニ於ケル気象 (昭和四年)

(蒸発量)

	大坂 赤穂	岡山 小田	広島 三田	坂出 福浜	徳島 徳島	福岡 高田	名古屋 吉田	仙台 深田	金沢 大谷	鹿児島 鹿児島
1月	51.7	52.5	38.8	48.2	64.7	11.0	55.4	10.8	52.2	56.4
2月	72.9	58.6	53.0	56.8	67.6	30.5	74.2	55.8	50.9	82.7
3月	91.2	85.2	71.5	63.1	102.2	52.0	95.2	54.7	77.5	125.6
4月	113.9	129.7	98.8	102.9	140.3	89.7	103.2	99.0	82.3	153.0
5月	108.8	131.5	103.7	93.2	140.8	99.2	106.4	94.4	74.8	134.5
6月	151.2	179.2	100.2	110.3	156.5	106.8	152.3	101.0	105.8	129.3
7月	161.5	164.5	134.9	145.6	163.7	153.8	173.3	147.7	123.9	186.5
8月	212.3	211.5	148.0	155.2	183.8	145.5	173.2	189.0	105.8	130.6
9月	110.3	106.5	107.4	90.3	112.0	85.5	70.1	75.9	68.3	158.5
10月	86.0	66.9	90.5	70.6	104.3	52.6	72.0	63.2	65.4	120.2
11月	89.3	46.1	77.0	48.3	78.7	30.1	49.2	42.8	40.7	81.7
12月	36.3	28.6	61.5	27.3	57.5	21.4	35.6	37.2	40.7	62.5
計	1270.4	1260.8	1085.3	1011.8	1372.1	878.1	1178.1	971.5	888.3	1421.7

(降水量)

1月	7.1	6.5	16.0	15.0	6.2	27.3	2.9	50.6	116.1	58.5
2月	25.7	21.1	70.5	17.1	32.0	53.7	45.2	10.2	29.8	106.9
3月	28.4	37.8	93.0	46.6	52.0	56.6	32.1	36.1	70.3	106.7
4月	77.1	70.5	95.0	49.4	76.3	90.4	114.2	62.3	134.0	158.4
5月	151.7	106.5	213.5	147.0	151.4	127.1	215.3	134.9	78.0	172.1
6月	53.7	52.5	201.3	131.5	135.2	172.5	72.5	61.8	41.2	275.1
7月	130.9	99.4	127.0	78.1	71.8	245.5	70.8	20.3	44.3	371.1
8月	50.0	22.5	48.4	50.4	114.5	14.1	105.5	46.9	143.7	83.2
9月	249.5	204.5	74.0	240.3	317.0	172.1	527.8	217.6	144.7	251.2
10月	145.2	108.3	18.0	177.8	305.0	34.4	20.3	91.3	52.7	48.6
11月	94.7	65.6	63.5	142.5	132.7	92.7	150.5	105.3	224.1	110.4
12月	90.8	82.6	103.0	105.9	77.6	96.1	145.4	40.5	190.2	126.3
計	1134.8	878.3	1145.2	1204.2	1475.3	1237.5	1655.5	877.8	1267.1	1857.6

45

(14) 収納塩、鑑定ニ関スル資料 (昭和四年)

地域別	鑑定件数 (新・修・再)	鑑定件数 (新・修・再)	鑑定 枚数	枚数 鑑定件数
大坂	14634	-	7.776	12
岡山	16554	-	6.522	10
広島	18095	2.541	7.830	10
山口	24116	3.512	6.859	14
坂出	48982	-	6.695	22
徳島	16172	1.654	5.628	9
計	138533	7.707	7.052	77
東京	414	-	8.734	5
水戸	2	-	5.550	2
仙台	4819	-	1.842	3
名古屋	14087	9	1.583	7
以金澤	3615	-	1.515	3
外福岡	9906	-	4.203	16
鹿児島	12371	-	1.711	8
計	45214	9	2.133	44
合計	183.737	7.716	5.841	121

46

(17)

十州塩田専賣局派出所

地方専賣局名	派出所名	地名
大坂	八木	兵庫縣飾磨郡八木村
	網干	“ 揖保郡網干町
	新浜	“ 赤穂郡新浜町
岡山	山田	岡山縣児島郡山田村
廣島	松永	廣島縣沼隈郡松永町
	富田	山口縣都農郡富田町
	西浦	“ 佐波郡西浦町
徳島	瀬戸	徳島縣板野郡瀬戸町

十州外専賣局派出所

仙臺	渡波	宮城縣牡鹿郡渡波町
名古屋	塩津	愛知縣豊橋郡塩津村
金澤	大谷	石川縣珠洲郡西海村
福岡	小波瀬	福岡縣京都郡小波瀬村
	長府	山口縣豊浦郡王司村
	姪島	大分縣東国郡姪島村

(17)

十州塩田/貨鹽区域

大藏省令第十六号
昭和六年六月十五日

塩田所在地 出張所名	地名
大坂地方専賣局	大塩
	赤穂
	牛久保
岡山地方専賣局	味野
	宇野
	玉島
廣島地方専賣局	尾道
	竹原
	瀬戸
	柳井
	平生
	下松
	三田尻
	秋徳
	伯方
	高松
	土庄
	詫間
坂出地方専賣局	波止
徳島地方専賣局	多喜
	養
専賣局	東京市
専賣局中央研究所	東京府荏原郡荏原町
三田尻試験所	山口縣中関町

十州塩田外

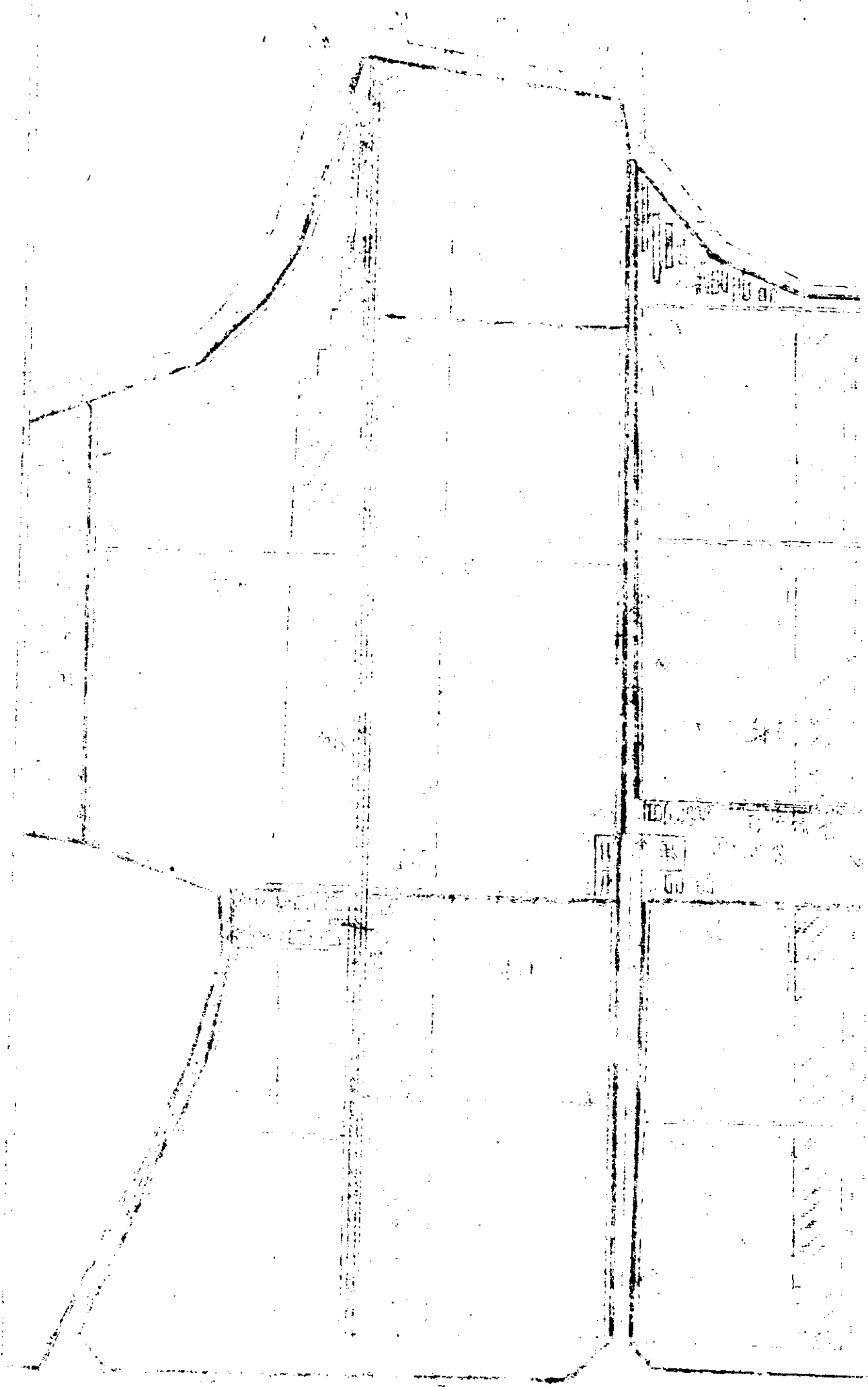
名古屋地方専賣局	吉田	愛知縣幡豆郡吉田町
福岡	豊後高田	大分縣西國郡高田町

第三類 臺灣專賣局 関スル 資料

附

台灣塩産地一覽図
安順天日塩田圖

區田圖



區田圖

區田圖

區田圖

區田圖

區田圖

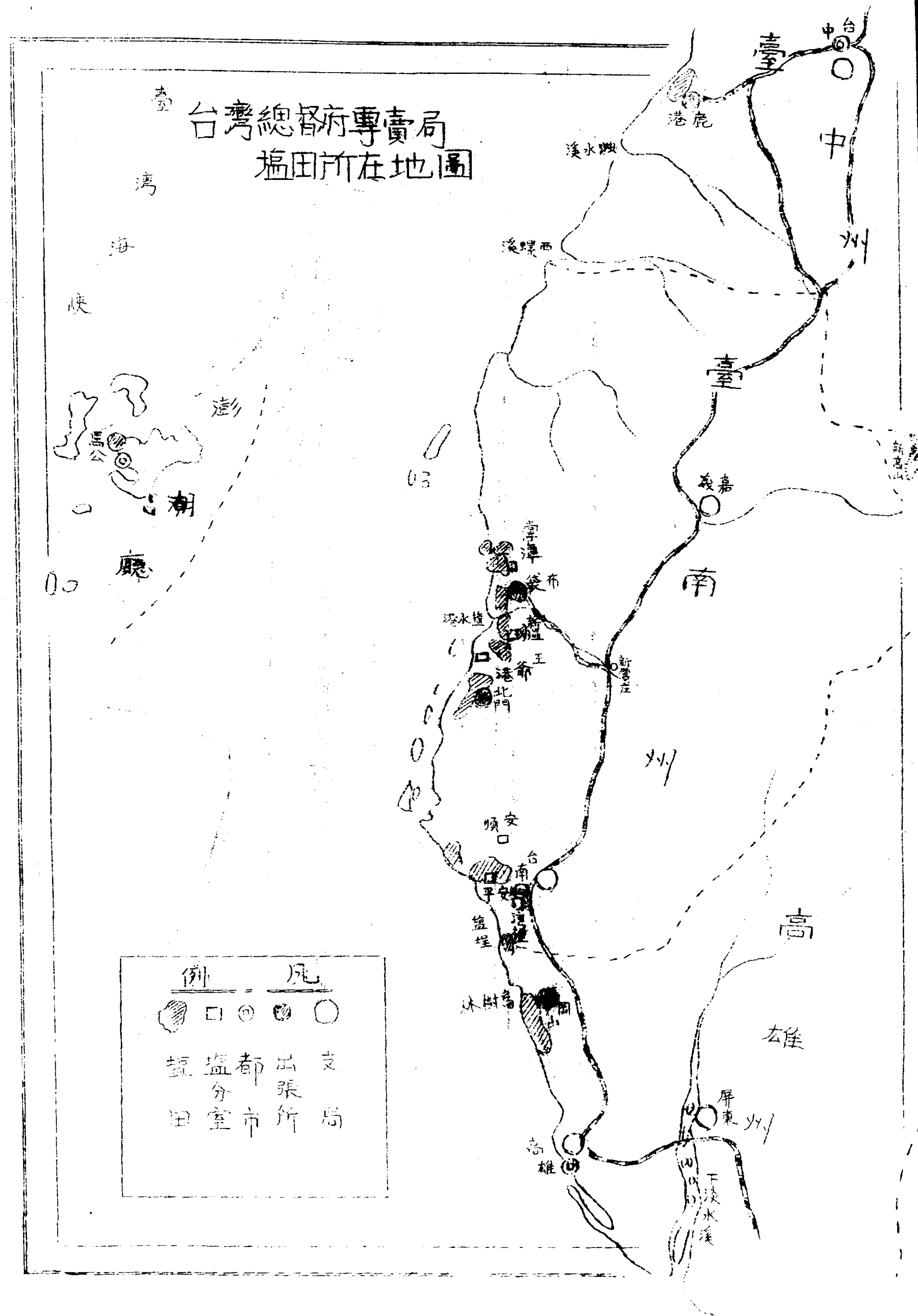
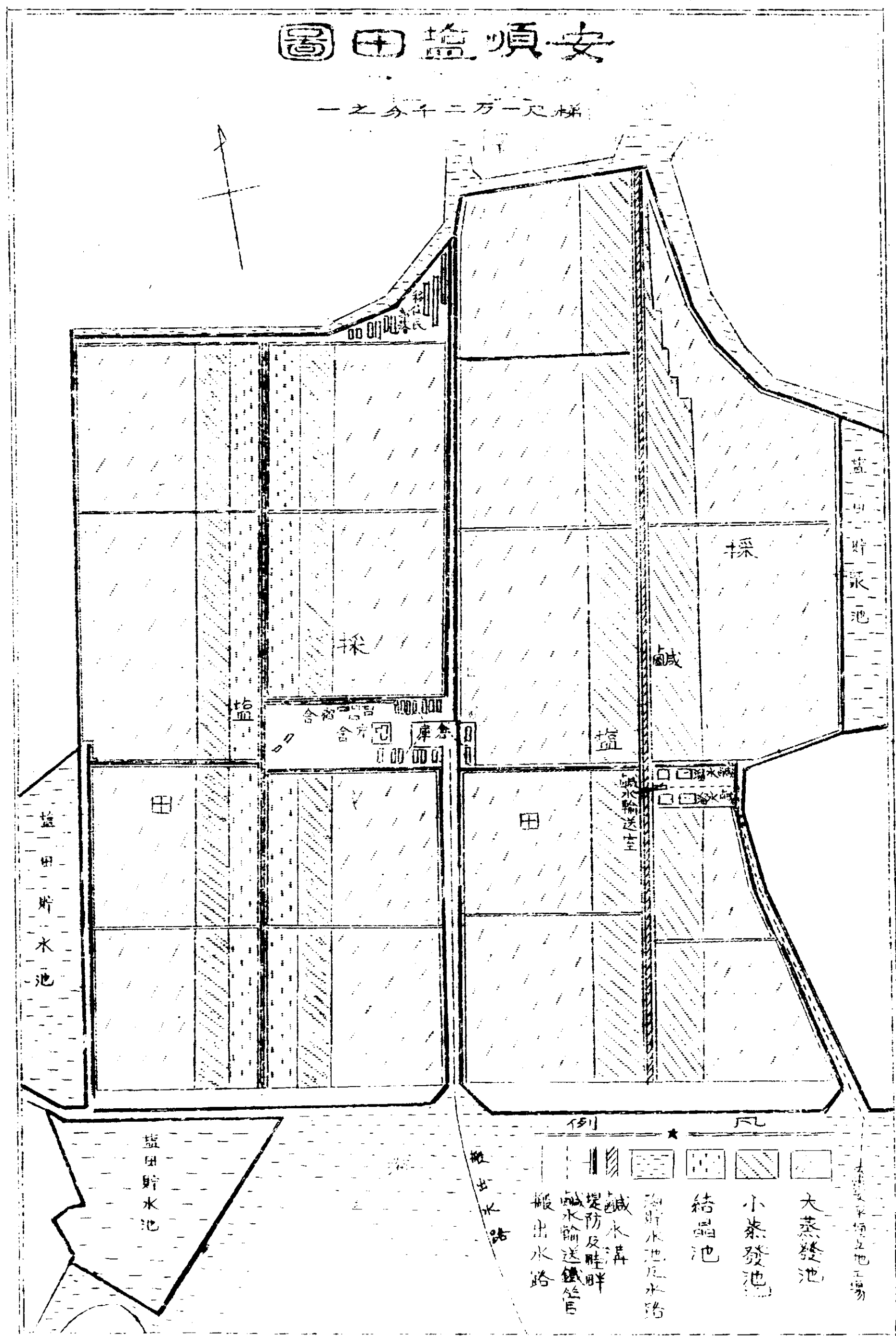
區田圖

區田圖

區田圖

區田圖

區田圖



(1) 臺灣=於下列種類別生產消費及輸出數量表
(昭和五年度)

生產

台灣總督府專賣局製天日塩

上等塩	122.335 ^{4斤}
並等塩	96.264
下等塩	22.442
計	241.041

台灣民製塩

煎熬塩	27.968
合計	269.009

消費

上等塩	37.562
並等塩	32.972
下等塩	3.611
計	74.145
煎熬塩	2.445
合計	76.590

輸出

内地へ

煎熬塩	14.932
上等塩	32.170
並等塩	58.232
下等塩	21.958
計	127.292

露領へ

煎熬塩	10.100
粉碎塩	5.436
計	15.536

朝鮮へ

上等塩	10.950
合計	153.578



(3) 臺灣總督府專賣局塩田所在地表

(官轄)	(所在地)	(塩田名)	甲歩	丙歩換算
鹿港出張所	台中州彰化郡鹿港街	鹿港	205	200
		布袋	249	244
		寧澤	148	145
		(計)	609	596
布袋出張所	台南州東石郡布袋庄	新堀	212	207
		北門	344	336
		王爺港	78	76
		(計)	422	412
北門出張所	台南州北門郡北門庄	安順	120	117
		塩埕	83	81
		灣裡	31	30
		(計)	234	228
台南出張所	台南州台南市	(計)	234	228
		(計)	234	228
烏樹林出張所	高雄州岡山郡彌陀庄	烏樹林	92	90
		(計)	1562	1526

(民間)

煎熟塩製造會社 臺南安平

生産能力 年額 3,000 万斤

(2) 臺灣塩 / 塩價 (昭和六年四月一現在)

(種類)	(正味換算価)	(百分換算価)
煎熟塩	1.17	4.00
上等塩	4.50	2.70
下等塩	4.17	2.50

備考 食塩小賣人へ前項の価格=専賣局長ノ認ムル運費ヲ加ヘ
賣捌クコトヲ得 専賣局長ハ下記用途ノ食塩消費者ニ對シ一回ノ買入
數量 1,000 担以上ニ限リ下記定價ヲ以テ賣捌クコトヲ得 但シ買入ノ費
用ヲ以テ食塩ノ賣性セシムルコトアルベシ

		(百分換算)	(百分換算)
1. 石鹼製油味増進劑 魚類塩蔵、獸皮保存用 揮發性水蒸氣用	煎熟塩	2.27	2.56
	上等塩	2.73	1.76
	並等塩	2.37	1.42
2. 曹達工業用	並等塩	1.52	1.31
3. 窯業用	並等塩	1.95	1.57
4. 再製塩用	上等塩	1.80	1.48
5. 煎熟塩用	上等塩	1.72	1.43
	並等塩	1.53	1.33

(5)

臺灣=於此食塩販賣高

	昭和1年 ^{4fr}	2年	3年	4年	5年
島外	69.787	74.900	70.218	74.004	76.590
内地	75.362	77.580	75.360	106.636	127.292
朝鮮	11.950	7.950	-	10.100	10.950
露領沿海州	11.669	11.628	-	14.000	15.536
香港	-	3.300	-	-	-
計	168.768	175.358	145.578	204.740	230.168

(4) 臺灣=於此塩田所在地別種別天日塩生産高表

(昭和5年度)

	鹿港	布袋	北門	台南	烏樹林	計
面積 ^坪	206	609	422	234	92	1563
塩田畝 ^畝	216	190	266	201	168	
上草塩 ^{4fr}	4728	15.912	70.080	21.241	10.374	122.335
並等塩 ^{4fr}	10.526	74.875	11.612	16.107	5.586	118.706
計 ^{4fr}	15.254	90.787	81.692	37.348	15.960	241.041
一畝当 ^{fr}	74.115	149.002	193.372	159.950	173.522	154.212
一畝当 ^{fr}	76.268	152.326	198.282	163.810	179.337	157.956

備考

1甲步 = 2.934坪

一畝步 = 3.000坪

(参考) 塩田所在地=於ケル 蒸発量 降水量 並=原料海水比重
(昭和5年調)

平均蒸発量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
鹿港	44	-	53	67	69	69	56	71	73	69	58	45
布袋	34	-	43	59	58	45	39	46	48	46	38	30
北門	41	-	44	58	64	49	30	42	57	56	49	31
台南	42	-	64	76	85	75	62	69	75	68	57	45
烏樹林	38	-	49	61	68	62	46	60	71	55	59	38

降水量月計

鹿港	38	-	107	7	217	193	517	103	-	-	-	60
布袋	44	-	100	4	203	200	698	383	70	3	2	24
北門	34	-	119	6	141	290	740	440	23	13	4	23
台南	30	-	159	6	164	261	744	450	32	-	21	18
烏樹林	18	-	160	29	242	355	505	518	19	44	19	30

海水比重

鹿港	2.2	-	1.0	1.6	1.3	1.4	0.4	0.6	1.4	2.1	2.4	2.0
布袋	2.3	-	2.8	3.0	2.1	1.4	0.7	0.5	1.5	2.7	2.7	2.5
北門	3.1	-	2.9	3.0	2.2	2.2	1.0	1.2	2.5	2.5	2.6	2.3
台南	2.4	-	2.8	2.9	3.2	2.2	0.7	0.1	2.4	3.0	3.5	3.3
烏樹林	3.0	-	2.7	1.5	1.5	0.7	0.3	-	1.1	2.9	3.0	3.0

(6) 鹽湾=於ケル 塩田所在地別 月別 生産高 及 割合
(昭和五年度)

	鹿港 (4ヶ所)	布袋	北門	臺南	烏樹林	計	月別 割合
1月	211	5,275	3,631	3,863	1,639	14,619	6
2月	1,116	5,534	4,972	1,948	292	14,362	6
3月	470	8,689	7,396	5,718	3,043	25,316	11
4月	2,313	20,996	13,757	7,292	2,761	47,119	20
5月	2,896	23,412	16,694	8,242	2,460	53,704	22
6月	1,299	9,222	7,371	1,820	865	20,579	8
7月	117	124	1,382	84	8	1,715	1
8月	104	18	1,605	-	-	1,727	1
9月	1,521	1,204	6,920	484	200	10,329	4
10月	2,198	5,910	8,807	2,811	1,891	21,617	9
11月	2,087	7,542	6,666	3,444	1,881	21,620	9
12月	422	3,061	2,491	1,642	720	8,336	3
計	15,254	70,987	81,692	39,348	15,960	241,041	100

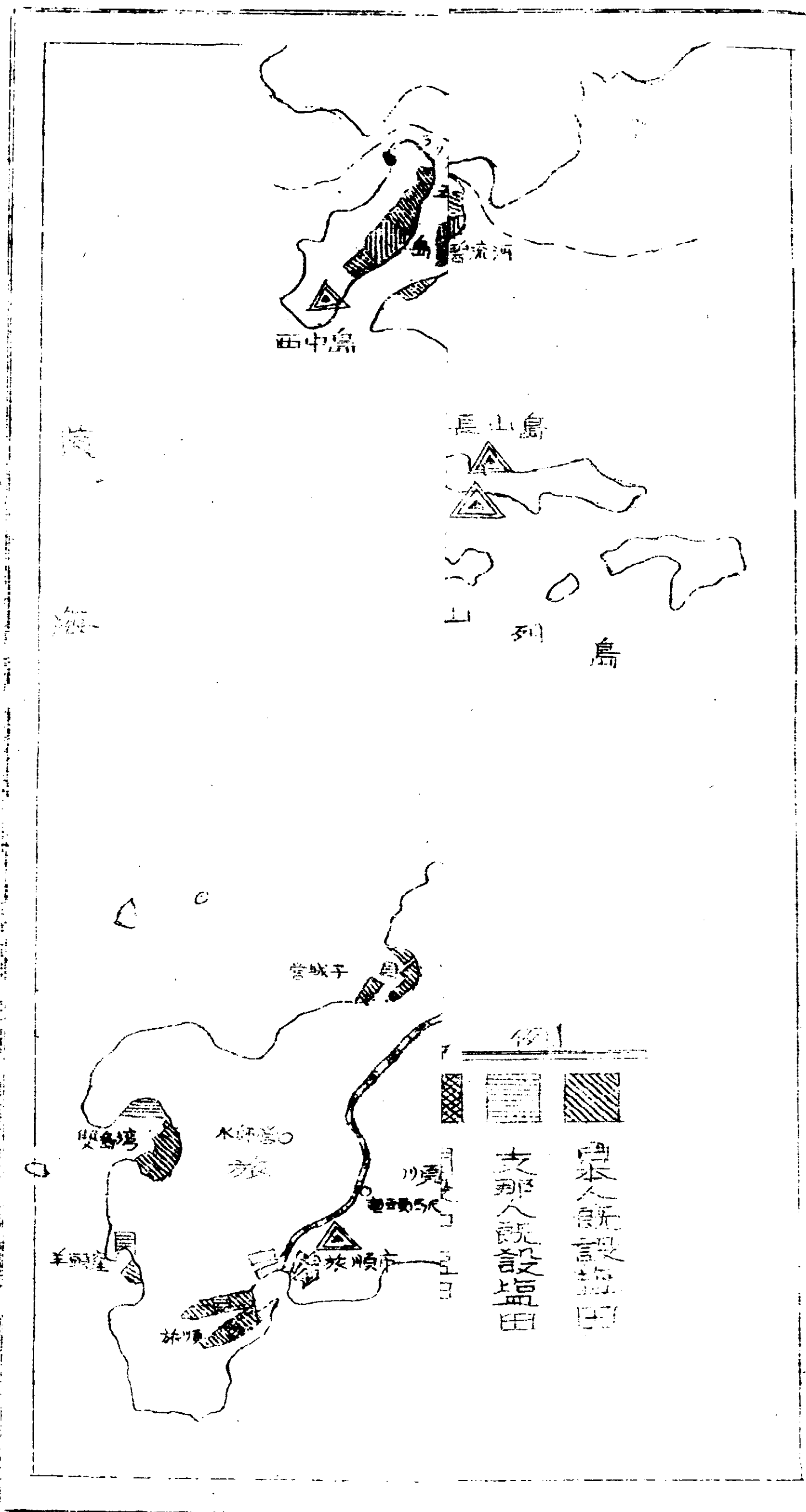
第三類 關東州山東省塩產地ニ関スル資料

附 關東州塩田一覽圖

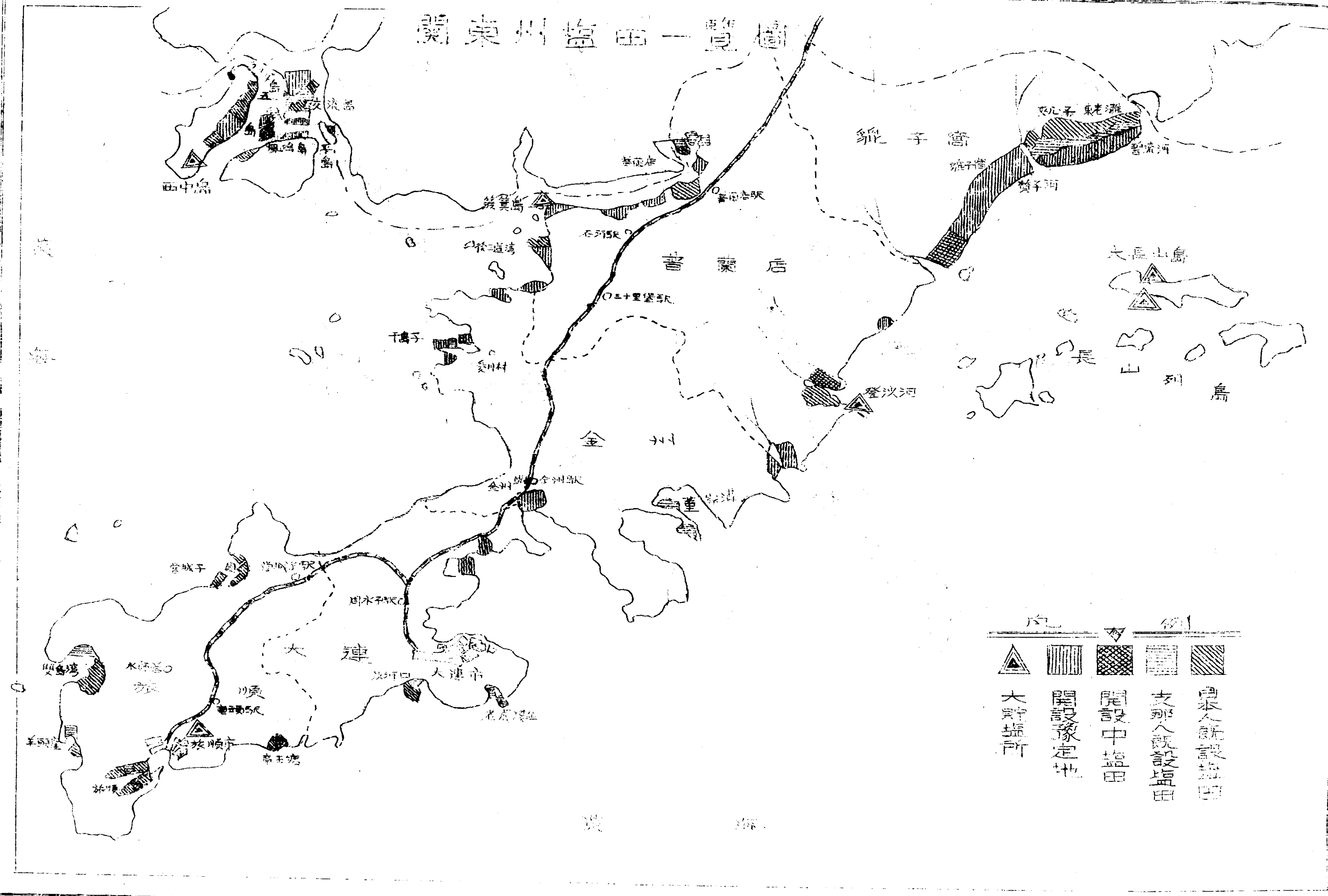
第三卷

關東地方之海峽與島嶼

關東地方之海峽與島嶼



圖一覽鹽州東蘭



圖例	說明
▲	大鹽壩所
▨	開設豫定地
▩	開設中鹽田
▧	支那人既設鹽田
▦	日本人既設鹽田

(1) 関東州ニ於ケル塩ノ生産及消費 (昭和四年度)

生産

原 塩	356,611.800 斤
洗 滌 塩	17,207.400
木 板 塩	5,019.000
粉碎洗滌塩	34,095.000
再 製 塩	1,966.800
計	414,900.000

消費

州内消費	66,955.812 斤
内地へ	105,462.600
朝鮮へ	99,307.320
沿海州へ	37,791.780
計	309,517.512



(3) 關東州塩田所在地別經營者別面積表

(管轄)(所在地)	(經營者)	(面積)町	(面積)町	(合計)	
旅順管内	雙島湾	大日本塩業	638	30	668
	管城子	"	116	21	137
	柏嵐子	武田	53	-	53
	楊樹溝	東洋拓殖	37	-	37
	盛家溝	宮田	21	-	21
	"頭窪	矢原	27	-	27
	羊頭窪	東洋拓殖	14	10	24
	竜王頭	"	12	-	12
	"頭村	矢原	12	-	12
	計		930	179	1,109
大連管内	沙河	大日本塩業	39	4	43
金州管内	董家溝	-	-	49	49
	干島子	-	-	33	33
	計	-	-	82	82
普蘭店管内	普蘭店	大日本塩業	432	-	432
	三官廟	"	53	179	232
	交流島	"	194	187	381
	西中島	"	738	-	738
	鳳鳴島	"	373	-	373
	后三道	東洋捕鯨	45	-	45
	登三沙	東洋拓殖	571	-	571
計		2,406	366	2,772	
皮子窩管内	夾心子	大日本塩業	992	432	1,424
	贊東	"	10	15	25
	老流河	"	821	262	1,082
	計		1,69	263	431
	計		1,972	972	2,964
合計		5,367	1,603	6,970	

(2) 關東州ニ於ケル塩價 (1)

塩産地	最高	最高月	最低	最低月	平均
雙島湾	152	3月	105	9月	125
山頭村	181	5月	97	5月	139
管城子	269	2月	201	9月	220
沙河	236	10月	207	8月	249
干島子	308	3月	198	8月	267
董家溝	336	8月	179	3月	308
三官廟	133	5月	75	4月	109
交流島	228	4月	209	8月	220
夾心子	225	1月	91	8月	160
東老灘	221	3月	81	7月	146
碧流河	140	3月	52	8月	96

塩價 (2)

天日塩百斤当生産費

労銀	1.071
塩田修理費	0.10
器具補修費	0.03
塩蓋費	0.10
事務監督費	0.039
雜費	0.02
計	1.55

粉碎洗滌塩百斤当生産費 (軟塩)

原塩代	0.50
動力費	0.35
機械器具補修費	0.25
建物補修費	0.11
労銀及給料	0.63
工場雜費	0.05
事務費	0.10
資本利子	0.85
計	5.84

(5) 關東州ニ於ケル製塩高月別表 (昭和四年度)

	旅順	大連	金州	普蘭店	皮子窩	計	合計
1月	邦人 支人	- -	- -	- 6	- -	- 6	6
2月	邦人 支人	144 -	- -	- -	- -	144 -	144
3月	邦人 支人	626 513	- 12	- 373	- 1	626 1477	2103
4月	邦人 支人	10,204 3,600	- 48	- 1,189	4343 5,376	16,838 26,860	43,698
5月	邦人 支人	19,703 4,288	- 54	300 1,681	14,323 6,983	41,456 21,514	62,970
6月	邦人 支人	35,405 5,892	- 72	228 2,974	14,791 15,908	135,152 54,264	189,416
7月	邦人 支人	8,629 4,460	- 54	120 1,208	22,181 456	5,242 4875	51,335
8月	邦人 支人	1,070 311	- -	- 79	- 36	2,998 856	4,058
9月	邦人 支人	1,917 518	- 9	18 -	180 360	299 1,511	2,398
10月	邦人 支人	10,039 13,744	- -	30 590	6,904 258	28,66 4,236	20,839
11月	邦人 支人	3,551 582	- -	36 -	1,513 770	9,064 2,133	14,169
12月	邦人 支人	- 7	- 9	- 312	2,390 -	1,739 2,504	4,129
計	邦人 支人	91,313 21,567	- 238	932 8,466	111,625 34,264	17,487 4,239	25,726
合計		112,880	238	9,132	150,889	146,735	414,900

(4) 關東州塩田所在地別生産高 (昭和四年度)

	(邦人 塩田) (株塩高) 4斤	(支那人 塩田) (一町布高) 4斤	(合計) (株塩高) 4斤	(合計) (一町布高) 4斤
雙島湾	64,124	100,496	47,118	148,328
管城子	10,107	87,024	2,251	117,522
柏嵐子	6,924	130,294	-	-
楊樹溝	1,440	38,744	-	-
盛泉溝	3,147	148,018	-	-
"	4,220	157,518	-	-
半頭窪	290	21,636	1,031	100,762
龍王塘	706	59,076	-	-
"	355	28,553	-	-
山頭村	-	-	13,507	114,089
計	91,313	98,117	21,567	120,245
沙河口	732	18,688	258	62,469
計	732	18,688	258	62,469
董泉溝	-	-	3,726	76,572
干島子	-	-	4,680	142,509
計	-	-	8,406	103,142
普蘭店	17,724	41,032	-	-
三官廟	2,181	41,472	9,364	52,437
文流島	11,856	61,145	24,900	132,892
西中島	42,917	58,123	-	-
鳳鳴島	22,123	59,348	-	-
後三道湾	2,370	52,468	-	-
登沙河	17,454	30,568	-	-
計	116,625	48,477	34,264	60,543
夾心子	39,289	39,619	36,974	85,548
賚子河	592	59,878	1,672	109,437
東老灘	25,505	31,087	19,316	73,614
碧流河	2,071	12,224	16,316	62,159
計	67,457	33,879	74,278	76,389
合計	576,127	51,449	138,773	86,555

合計 576,127 51,449 138,773 86,555 414,900 59,524

第四類 外國塩ニ関スル資料

附 世界塩産地一覽圖

(b) 関東州ニ於ケル加工塩 製造者別生産高 (昭和四年度)

木板塩	旅順	東洋折鹽株式会社	5,819,000 ^斤
洗滌塩	雙島湾	大日本塩業株式会社	17,207,400
粉碎洗滌塩	雙島湾	全 上	34,095,000
再製塩	柏島子	武田政吉	120,000
	大連	檜村彦一	610,200
	大連	中華人四名	1,236,600

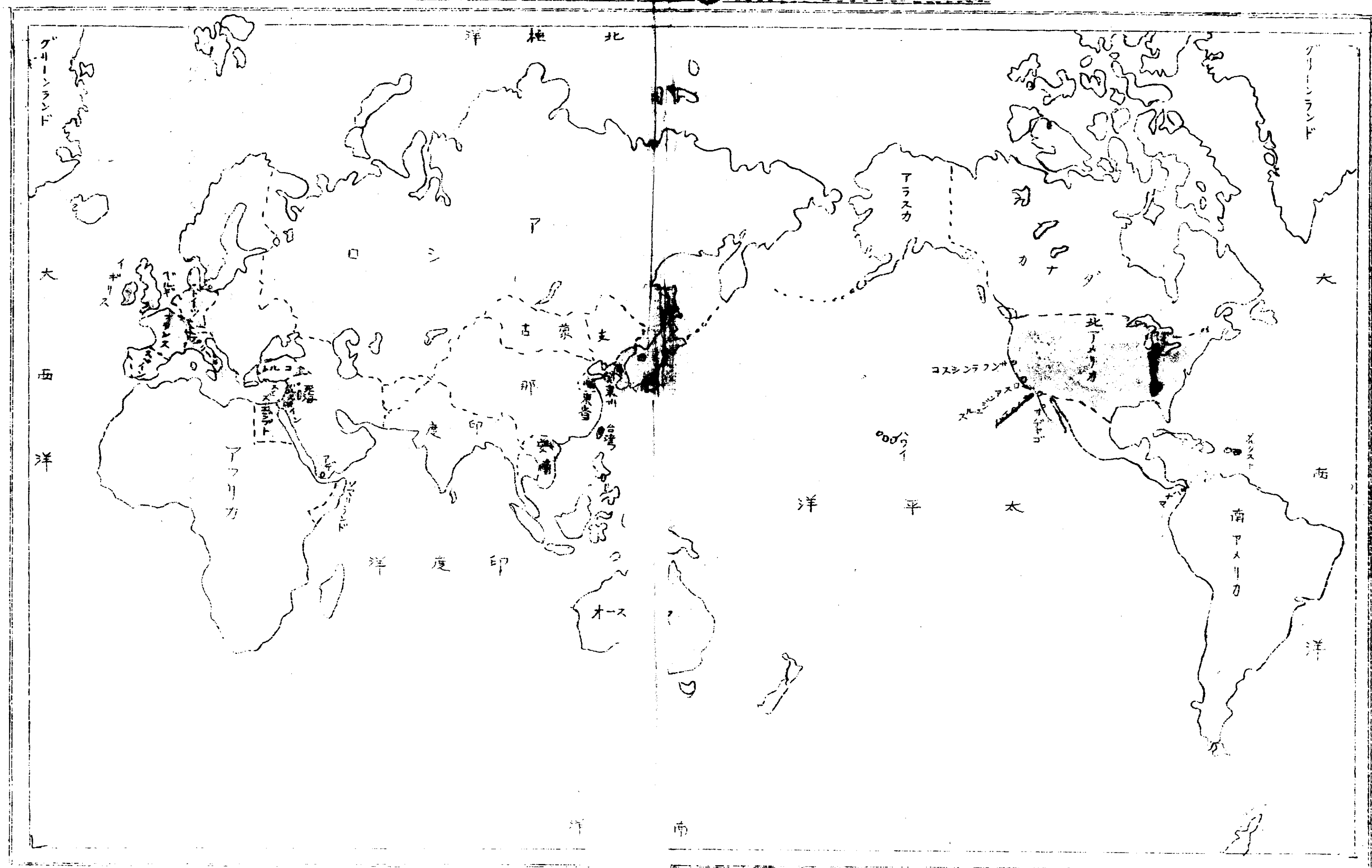
美國、英國、法國、德國、日本、中國、印度、暹羅、安南、菲律賓、荷屬東印度、南洋羣島、太平洋、大西洋、印度洋、北冰洋、南冰洋、世界地圖

世界地圖

本圖



鹽ノ標本附帶世界地圖

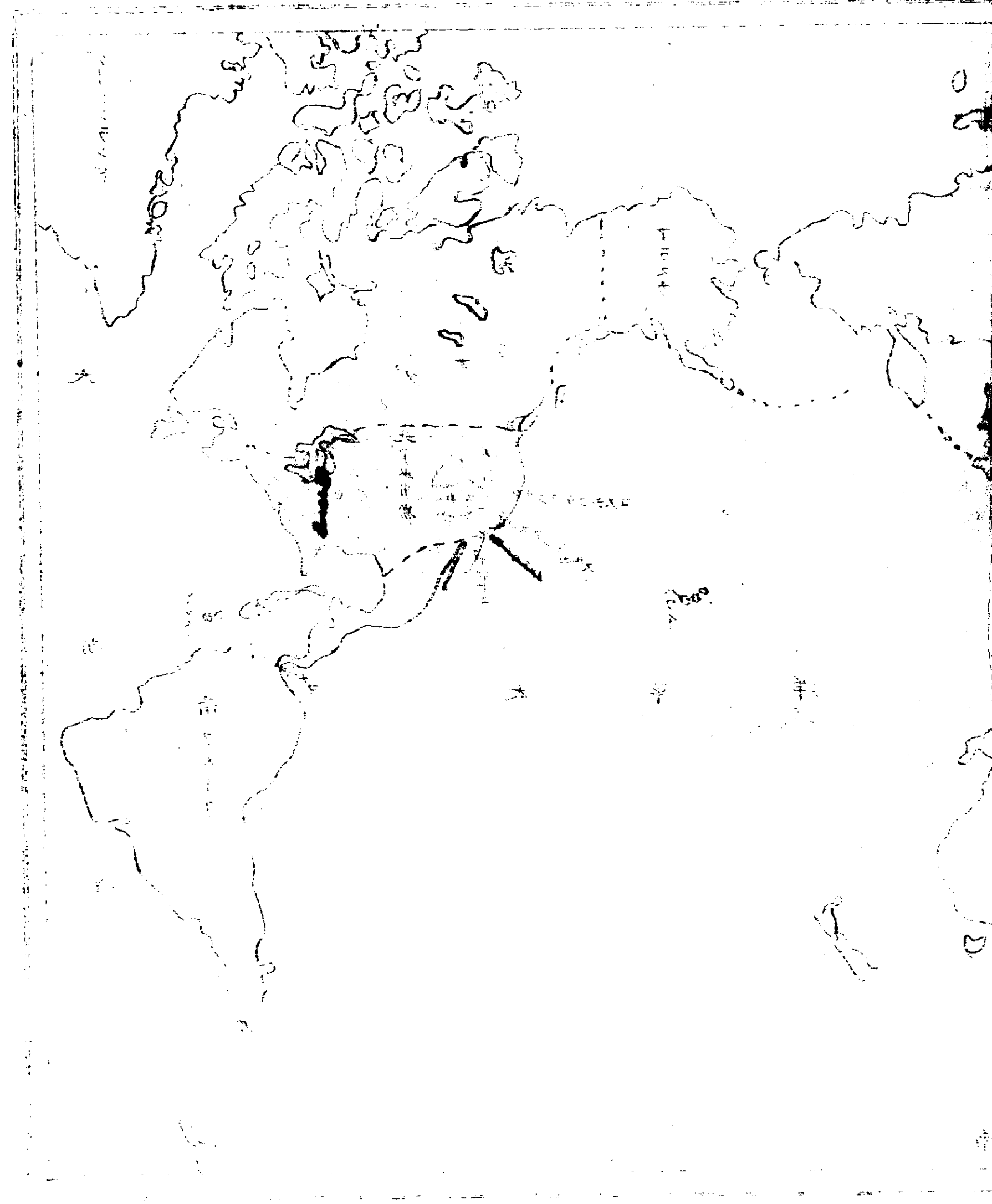


(1) 世界ニ於ケル塩ノ産額

(昭和元年 不國統計局調査)

(國名)	(産額) 千噸	(噸數概數) 萬噸
北米合衆國	6,710,864	11.2
獨逸	2,223,470	3.7
中華民國	2,000,000	3.3
英國	1,947,342	3.2
佛蘭西	1,724,428	2.9
露西亞	1,326,939	2.2
印度	1,315,931	2.2
日本	947,381	1.6
伊太利	915,637	1.5
西班牙	860,141	1.4
葡領東印度	427,683	0.7
加拿大	216,727	0.4
埃及	210,978	0.4
奧地利	130,807	0.2
希臘	128,442	0.2
比利時	126,000	0.2
土耳其	100,000	0.2
其他	874,762	1.5
合計	22,139,134	37.0
(備考)	1噸 = 1,000kg = 2,204.62lb	

世界地圖



(3) 欧米ニ於ケル塩ノ生産地

(岩 塩)

- 獨逸 -- スタウスフルト, シエーネベック, ベルンブルグ, アッセルスレーベン, エルフルト, ヴェステレーゲルン, クラスレーベン, テーデ, リッネブルグ, (ヤクストフルト), ハイムブルン, ハル, ベルヒテスガーデン
- 佛蘭西 -- ヴァランデヴィユ, ロゲエール, アンジサンローラン, グーナン, メルセー, モンモロー, サラン
- 伊太利 -- グナレテラ, ルンクロー, カルタニセツタ
- 西班牙 -- カルトナ, サラゴサ, ガダラハラ, クエニカ, アルバセテ, アリカンテ, ハエン
- 英吉利 -- ノースウイッチ, フッシーザル, カリクフアーガス
- 奧地利 -- アウスゼー, ハルシエタット, サルツブルグ
- 波蘭 -- ウィーリカ, ホホニア, イノウラツロウ
- ルーマニア -- スラニツク, ドラツナ, カチニカ, マロスウナヴァル, テーサツカ, パラナト, トルダ
- 露西亜 -- イレツ, バクムート, ツァン, 44, テレシナエンコ
- 北米合衆國 -- レッドウツ, デトロイト, カノホリス, リオンス, リットルソウアー, レッドモンテ, デエファソンアイランド, アヴァリーアイランド, ウィクスアイランド, アンムボーイ
- メキシコ -- サンドミンゴ, カルメン

(天 日 塩)

- 佛蘭西 -- 地中海沿岸地方 { イエール, マルチーギユ, ベール, ジョウ, ベツクユエ, モンベリエ, セット, ショラン }
大西洋沿岸地方 { バヨンス, カルカシオン, トランブラード, マレンヌ, オレオン, レー, サール, ハー, クロアシック }
- 伊太利 -- ビラノ, コマキヨ, セルヴィア, マーケリタテイサウオキ, ソルキニア, エルバ島, サニヒエトロ島, サルダニア島, シンリー島
- 西班牙 -- 地中海沿岸地方 { サンカロー, アリカンテ, マサリン, サンペドロデルビナル, アルメリア, イビサ島, フォンメンテラ島, トレビヤ湖 }
大西洋沿岸地方 -- カデス, サンフェルナンド
- 北米合衆國 -- アルヴァラート, マウントエタング, ニューヨーク, サンマテオ, ハワイ, レッドウツ, モンテレイ, ロングビーチ, サンディエゴ
- ユコスラヴィア -- スタグノ, アルゴ, パゴ
- ギリシア -- リューカス, ミソロンギ, ロウリコームクレウ島
- メキシコ -- エンシナダ, マニサオ, テワンテペク

(2) 世界ニ於ケル塩ノ主要輸送國及輸入國

(1920--1924 年 平均)

輸出

(國 名)	(数 量)	(按噸數)
		噸
1. 獨逸	83	14
2. 西班牙	42	7
3. 英國	32	5
4. 中華民國	26	4
5. 伊太利	13	2
6. 米 國	12	2

輸入國

1. 英領印度	51	8
2. 日 本	21	4
3. 白 俄	10	2
加 拿 大		
威 威		

(5)

岩塩 = 就イテ

岩塩ハ朝鮮ハ無論内地ニ於テモ未ダ発見サレテ居ナイ。従ツテ我々ハ甚ダ關係ガ薄イ称デアルガ決シテ縁ノナモノデハナイ。試ニ少シ氣ノ利イタ。ホテル乃至ハレストラン等デハ國產ノ食卓塩ヲ使ハナイ称デアル。之レハ強チレッテル許リニ魅惑サレテ居ルハ思ハレナイ。即チ外國ノ食卓塩ハ非常ニサラサラシテテ團塊ニナラヌ。特長ガアル爲デアルガコレハ主トシテ岩塩ヲ原料トシテ製セラレタモノデアルコトニ注意セネバナラナイ。

岩塩ハ塩化ナトリウムノ結晶塊ヲ稱スルモノデアルガ中ニハ種々ナ夾雜物ヲ多量ニ含有シ居ルモノアル。岩塩ノ純粹ノモノハ水晶ノ称ニ無色透明デ殆ド99%ノ塩化ナトリウムヲ含有シ居ル。故ニ其ノ製品ノ純良ナ事ハ海塩ヨリ製セラレタ國產食卓塩ノ遠ク及バザルハ無理ノナモノデアル。

岩塩ヲ埋藏スル地方ハ地勢ハ欧米トモ山脈中或ハ森林中ニハ存在スルコトナク寧ロ雜草、茂生スル平原ノ地下ニ埋藏サレテ居ル。其ノ地層ノ西ニ置ハ別圖ノ称ナ系統ヲ多分ニ有シ岩塩單位トシテハ発見サレナイノデアル。其ノ埋藏位置ハ場所ニ依ツテ各々相違アルガ一般ニ獨逸ハ最も深く英國ハ浅ク米國ハ其ノ中間ニアル。例ハバ獨逸スタスファルト塩床ハ地下300—400米英國ノスウィッチ塩床ハ100—300米其ノ厚サハスタスファルトニ於テ1,000米ノスウィッチ27米。米國ノ米ヲ有スル埋藏量ハ欧羅巴全体ニテ約150億ト有テ稱セリ。

岩塩ヨリ製品ヲ得ルハ多クハ炭礦ノ如ク採掘ニ依リ得タル塩塊ヲ種々ノ工程ニ依リ加工スルノデアルガ場所ニ依リ

47

(4)

主要塩産國ノ塩價

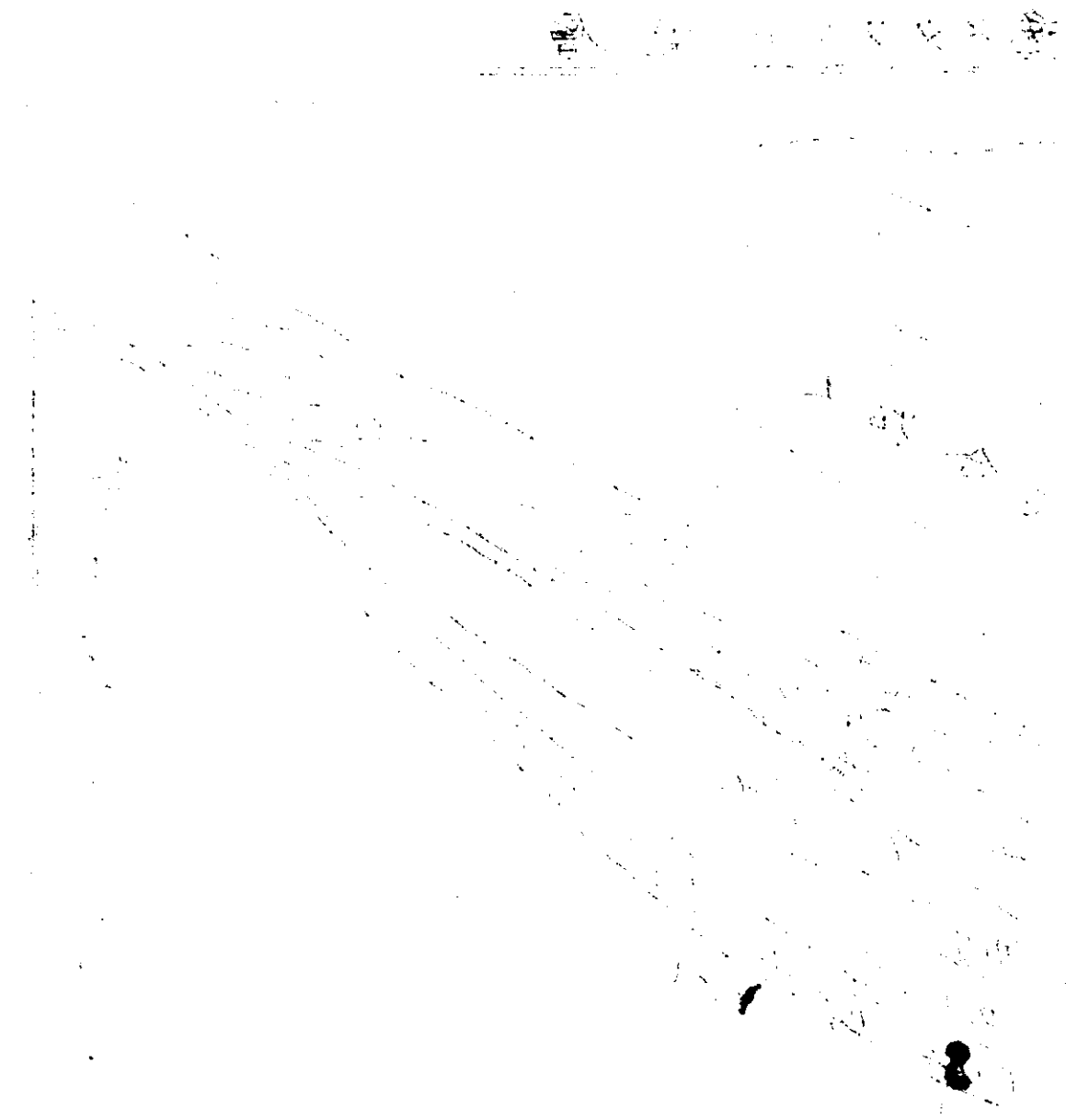
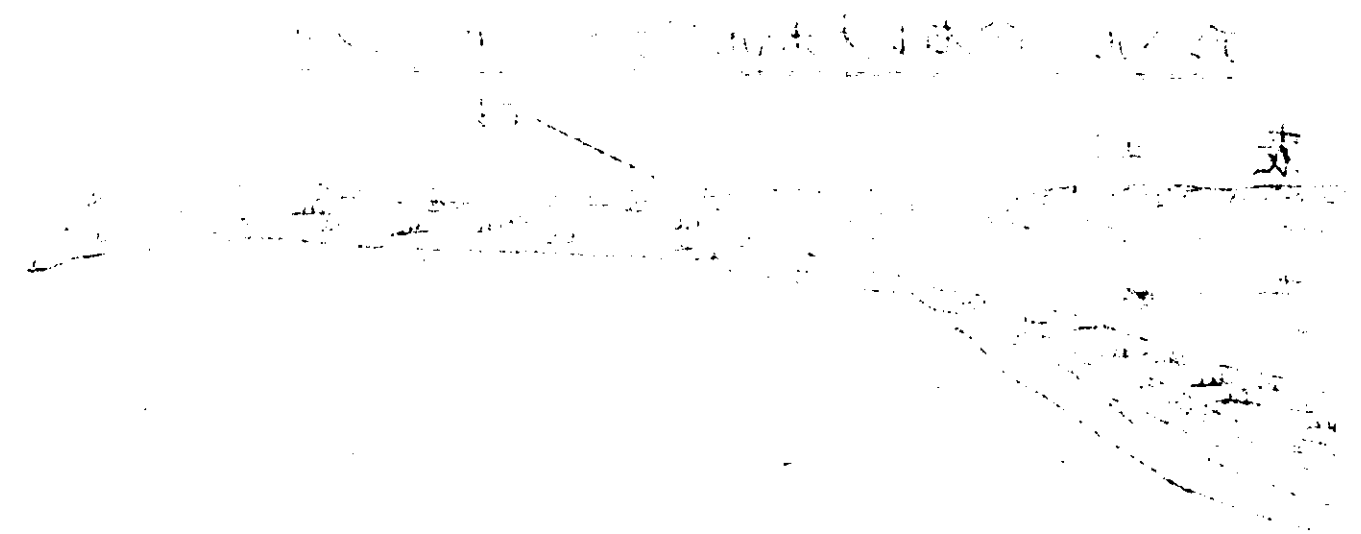
獨逸 --- 加工岩塩、海業及工業用塩、漢堡港波散塩
100斤当 邦價38%外
食卓塩 500瓦 5%—6%

	100斤当 円	(参考) 昭和五年度 生産高 千トン	平均塩價 円
岩塩	442	3,185,557.200	14,076.686
岩及海相岩塩	1,177	1,048,027.180	12,333.354
真空式製塩	947	1,575,628.720	15,114.836
天日製塩	532	487,777.280	2,603.894
圧搾塩	1,057	233,664.480	2,469.412
鹹水塩	1,076	4,573,183.840	3,511.852
(計)		11,145,859.200	50,110.024

備考一 鹹水塩トハ地下ノ岩塩ヲ溶解シテ之ヲ汲出シタルマ、ノ液狀塩ヲ言フ。本表數量ハ米國額(15/26)ヲ換算セリ。

西班牙 --- 天日塩粉碎洗滌塩 産地LEIYAニ於テ100斤散塩 30%—35%
天日塩 " " 20%—25%

66

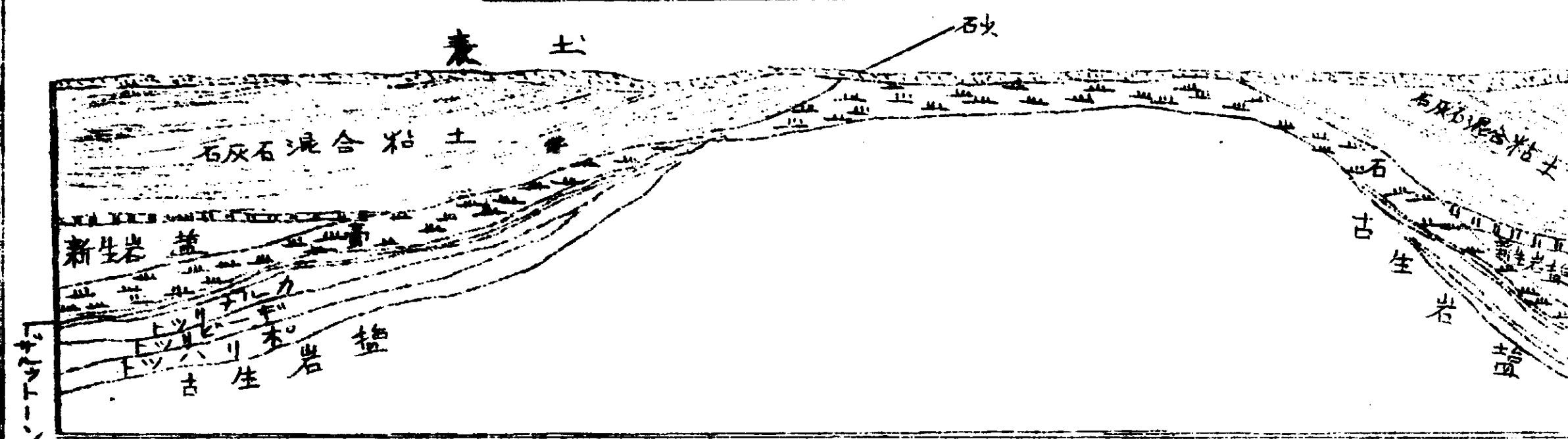


山口県
塩田
塩田

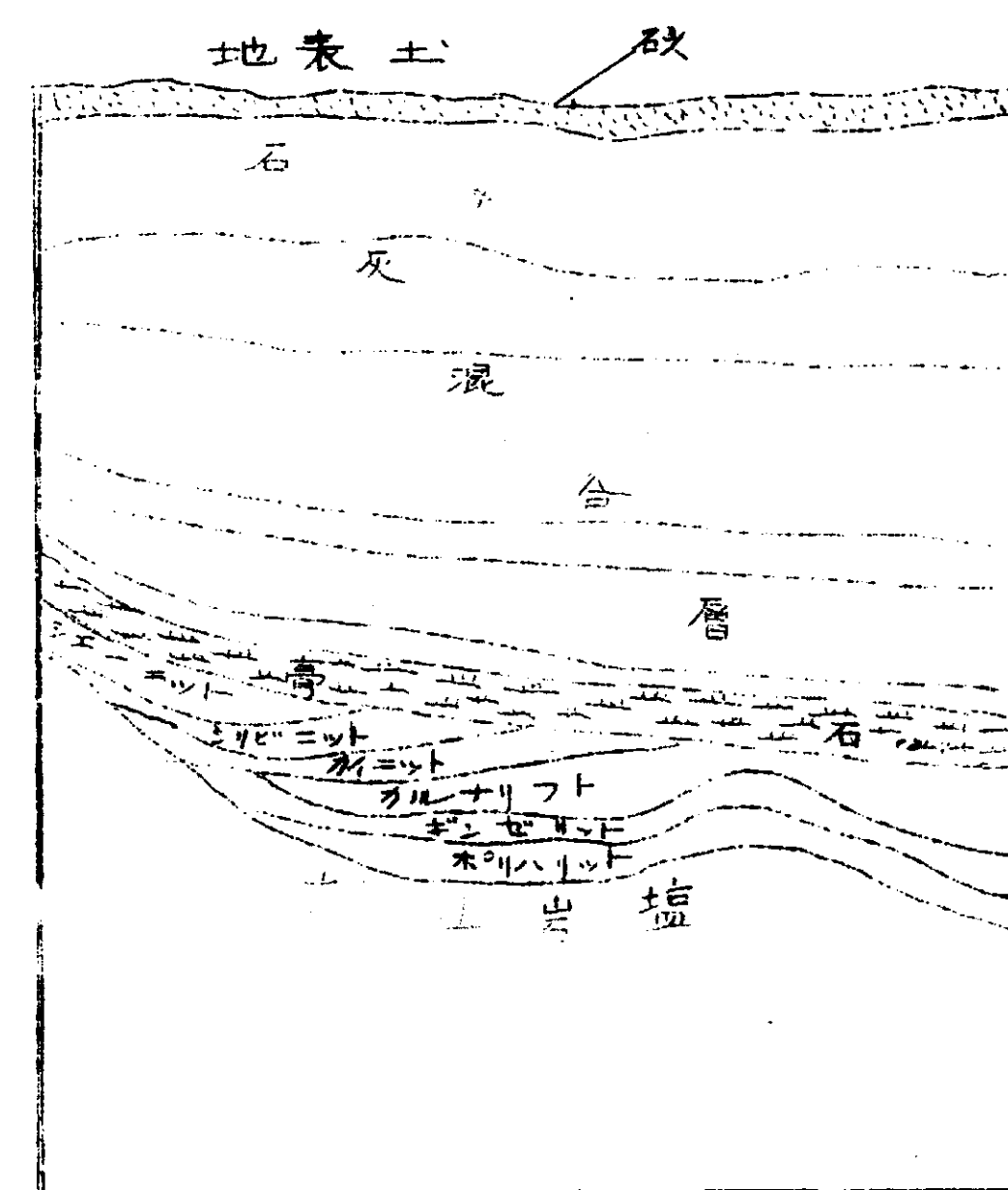
テハ塩田=淡水ヲ送り溶解シ人工鹹水トシ掘出シ後
真空罐或ハ煎熬釜ニテ用途ニ従ヒ多種多様ノ製品ヲ
製造サレ居ルノアル

岩鹽地層

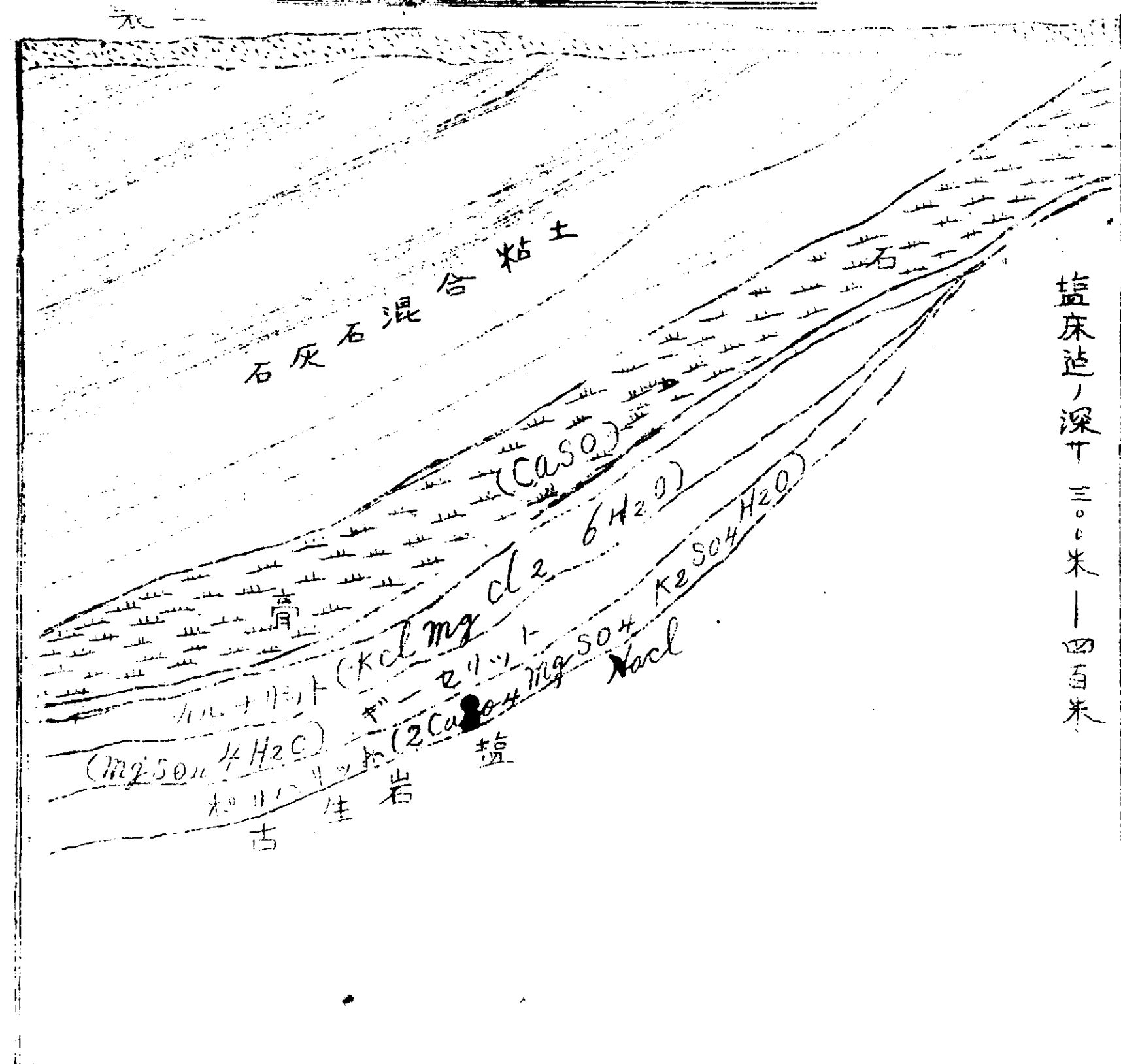
アンハルト國有レオホルド・シヤル市鹽層



掘逸アッセルレーベン、シュミットマーシャル岩塩層



獨逸 スタフルト 塩 層



岩 塩 NaCl

ホウチット ($2\text{Mg}_3\text{B}_2\text{O}_{15} + \text{MgCl}_2$)

ツェグライト ($2\text{KCl} \cdot \text{Teuch}_2\text{H}_2\text{O}$)

カイニット ($\text{K}_2\text{SO}_4 \cdot \text{MgSO}_4 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$)

シルベイン KCl

ジエーニット ($\text{K}_2\text{SO}_4 \cdot \text{MgSO}_4 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$)

(6)

外國塩 / 組成分

	水分	不溶解分	硫酸石灰	硫酸苦土	塩化苦土	塩化加里	塩化普通
独逸岩塩							
スタフルト産	0.249	0.243	0.705	0.241	0.233	0.187	98.142
米国精製塩					0.371		
ソルト・キ産	0.441	0.102	0.650	0.030	0.371	-	98.407
米国食卓塩					0.311		
全上産	0.911	0.201	0.422	0.022	0.311	-	98.121
米国粗塩							
全上産	0.952	0.214	0.364	0.021	0.322	-	98.101
米領西印度群島産							
タルクス島産	0.900	-	1.580	0.600	1.140	-	96.760
ハワイ島産			0.039	-	0.088	1.525	98.392
ホノルル産	0.236	0.042	0.039	-	0.088	1.525	98.392
伊太利産							
ソマリランド産	3.960	0.120	0.98	0.07	0.27	-	94.78
伊太利			0.16	0.15	0.05	1.40	97.69
岩塩	0.210	0.440	0.16	0.15	0.05	1.40	97.69
伊太利産							
トラベール産	2.12	0.91	0.45	-	0.50	0.51	96.35
伊太利産			0.18	-	0.40	1.27	97.85
タルキヤ産	0.30	-	0.18	-	0.40	1.27	97.85
蒙古							
青塩	0.665	0.2098	0.4634	0.0434	0.2483	-	98.37
蒙古							
土塩	9.88	1.056	0.114	23.022	0.366	0.207	65.358
蒙古							
白塩	3.158	3.515	0.458	8.044	1.047	0.295	83.460
ロシアバシキヤ州産							
沈殿塩	-	0.80	0.60	0.13	0.15	-	97.98
ロシアオデッサ州産							
海水塩	-	0.41	1.27	0.52	2.22	-	94.64
ロシアイレツカヤ							
岩塩	-	0.08	0.43	-	0.03	0.08	99.19
ロシアドンバックス							
煎煎塩	-	0.05	0.17	0.16	0.15	-	99.4

備考: ① 印ハ当局ニ標本ナキヨニシテ 昭和四年二月 ソビエト聯邦
田中特命全權大使ノ報告ニヨル分析表ヲ上掲セリ。

(8)

世界海水成分

(昭和四年本局分析)

	塩化ナトリウム	塩化カルシウム	硫酸マグネシウム	硫酸カルシウム	その他成分	塩化カリウム
大西洋	2756	0.061	0.205	0.172	-	-
地中海	2942	0.322	0.248	0.136	0.056	0.051
太平洋	2588	0.435	0.116	0.162	-	-
瀬戸内海	2750	0.308	0.197	0.146	-	-
徳島	2590	0.313	0.088	0.290	-	0.143
臺灣安平	2664	0.958	0.216	0.149	-	0.229
仁川	2531	0.313	0.208	0.114	-	0.063
旅順	2068	-	-	-	-	-

(9)

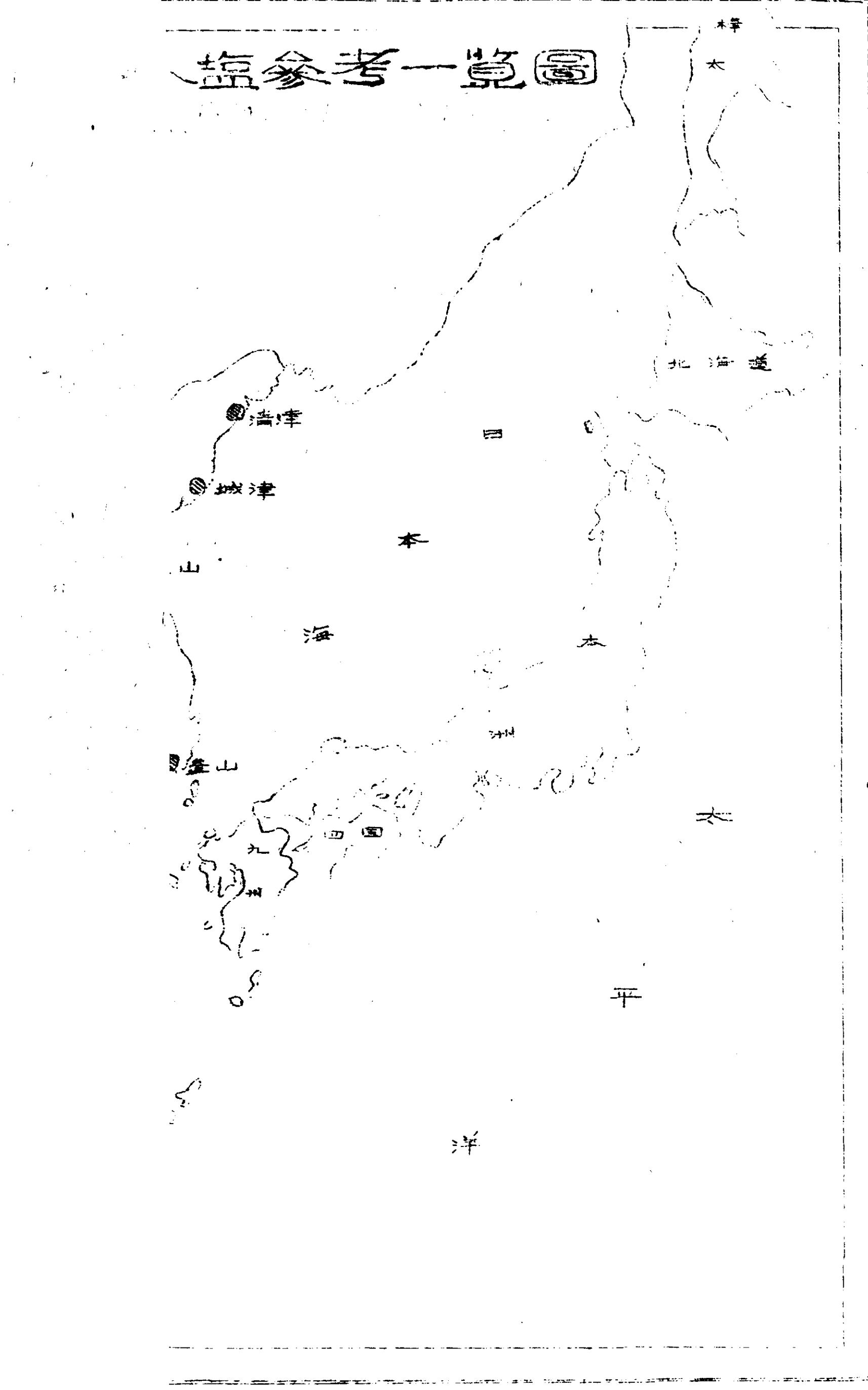
各國塩一升重量

種類	重量	摘要
独逸塩	466 — 484	食卓塩
英國塩	440 — 448	"
米國塩	480 — 488	"
支那塩	403 — 433 (一石280斤)	南東州山東省産原塩
台湾塩	420 — 443	並等塩
内地塩	320 — 343	煎熬塩
朝鮮塩	350 — 430 (一石270斤)	官製天日原塩
鮮内再製塩	290 — 320 (一石200斤)	京城府内販賣
專賣局精製塩	420 — 435 (一石290斤)	
"食卓塩	430 — 440	
"粉砕洗滌塩	445 — 450 (一石280斤)	
"粉砕塩	384 — 400	

第六類 輸移入塩ニ関スル資料

附 輸移入地一覽図

圖覽一參考



海峽 倭人 歐二國之 參考

海峽 倭人 歐二國之 參考

昭和五年度

	穀 量 斤	金 額 圓	百斤當 單價	輸入割合
關東州一等	13.383.438	46.266.660	.570	7
" 二等	60.461.916	302.554.340	.500	30
山東省 二等	108.603.828	548.261.350	.505	53
青 島 二等	11.210.690	53.920.920	.481	1
台 灣 一等	10.011.184	42.457.560	.626	4
計	203.671.056	1,043,660,330	.512	100

[illegible]

中國第一家



(4) 月別輸入塩数量及百斤当價格

(昭和五年度)

	数量 4斤	金額 円	百斤当 円
4月	21.164	116.338	550
5月	6.218	34.317	552
6月	49.824	242.569	487
7月	5.062	31.132	615
8月	45.303	225.636	498
9月	14.480	74.259	513
10月	24.444	140.000	573
11月	9.849	46.091	468
12月	-	-	-
1月	11.823	57.934	490
2月	15.505	75.384	486
3月	-	-	-
計	203.672	1,043.660	512

(3) 輸入港=於以輸入塩の種類別数量價格内訳表

(昭和五年度)

港別	産地等級	数量	金額 円
新義州	関東州=等	22,757.800	109,258.400
鎮南浦	山東省=等	10,081.383	47,680.770
仁川	" "	5,347.617	294,818.450
群山	" "	22,602.138	119,177.100
木浦	" "	3,931.840	21,409.780
釜山	関東州一等	9,737.148	54,528.020
	" 二等	21,130.749	101,002.420
	山東省=等	14,511.850	65,175.250
	青島=等	7,278.492	34,063.330
	台湾一等	10,011.184	12,657.560
元山	計	12,669.623	317,426.580
	関東州一等	1,259.300	9,178.010
	" 二等	10,705.179	59,532.190
	青島=等	3,932.198	19,857.590
	計	15,896.677	86,567.790
清津	関東州一等	2,386.990	14,510.630
	" 二等	5,867.998	32,704.330
	計	8,254.988	47,214.960

(7) 貯塩場經由本船積百斤当見込経費 關東州塩

	大長山島 (荒子島)	西中島 (五島)	渡葉島 (普蘭店)	旅順	平均
塩田引搬出					
式克積込	27厘	12厘	18厘	12厘	17厘
貯塩場迄					
式克運賃	78	33	33	125	67
貯塩場場賃	13	8	12	8	10
貯塩場塩費	10	10	10	10	10
貯塩卸賃	13	10	8	8	10
貯塩場引本船					
迄式克賃	30	58	33	22	36
本船積込					
船外人夫賃	13	12	12	8	11
式克用施料	7	7	3	3	5
倉庫費組合費					
其他公課	8	8	8	5	7
雜費	13	13	13	13	13
計	212	171	150	214	187

(5) 輸入港 = 於ケル塩價 昭和六年八月
(百斤当)

	關東州青森塩
新 潟 州	600 ^厘
鎮 南 浦	700
仁 川	700
群 山	830
木 浦	720
釜 山	720
元 山	800
清 津	850

(6) 關東州塩 / 朝鮮 = 搬出サル系統

塩田 —— (人力) —— 塩田内貯塩場 { 直接 —— (汽船式克) —— 朝鮮其他
(鉄道馬車トロッコ式) —— 大貯塩場

大貯塩場	荒子島	ハ	大長山島貯塩場
	普蘭店	ハ	渡葉島又ハ西中島貯塩場
	五 島	ハ	西中島貯塩場
	荒子島其他	ハ	旅順貯塩場

大貯塩場 —— 汽船式克 —— 朝鮮其他

(9) 青島塩=関スル資料

内地専賣局 昭和六年三月調査

1. 最近四年=於ケル塩生産高

年 別	塩田面積 町	塩生産高 4年	平均 一町考生産高 斤
昭和元年	5,032	270,828	53.821
二年	5,534	481,618	87.027
三年	5,434	250,000	46.007
四年	5,434	440,000	80.972

2. 最近四年=於ケル塩輸移出高

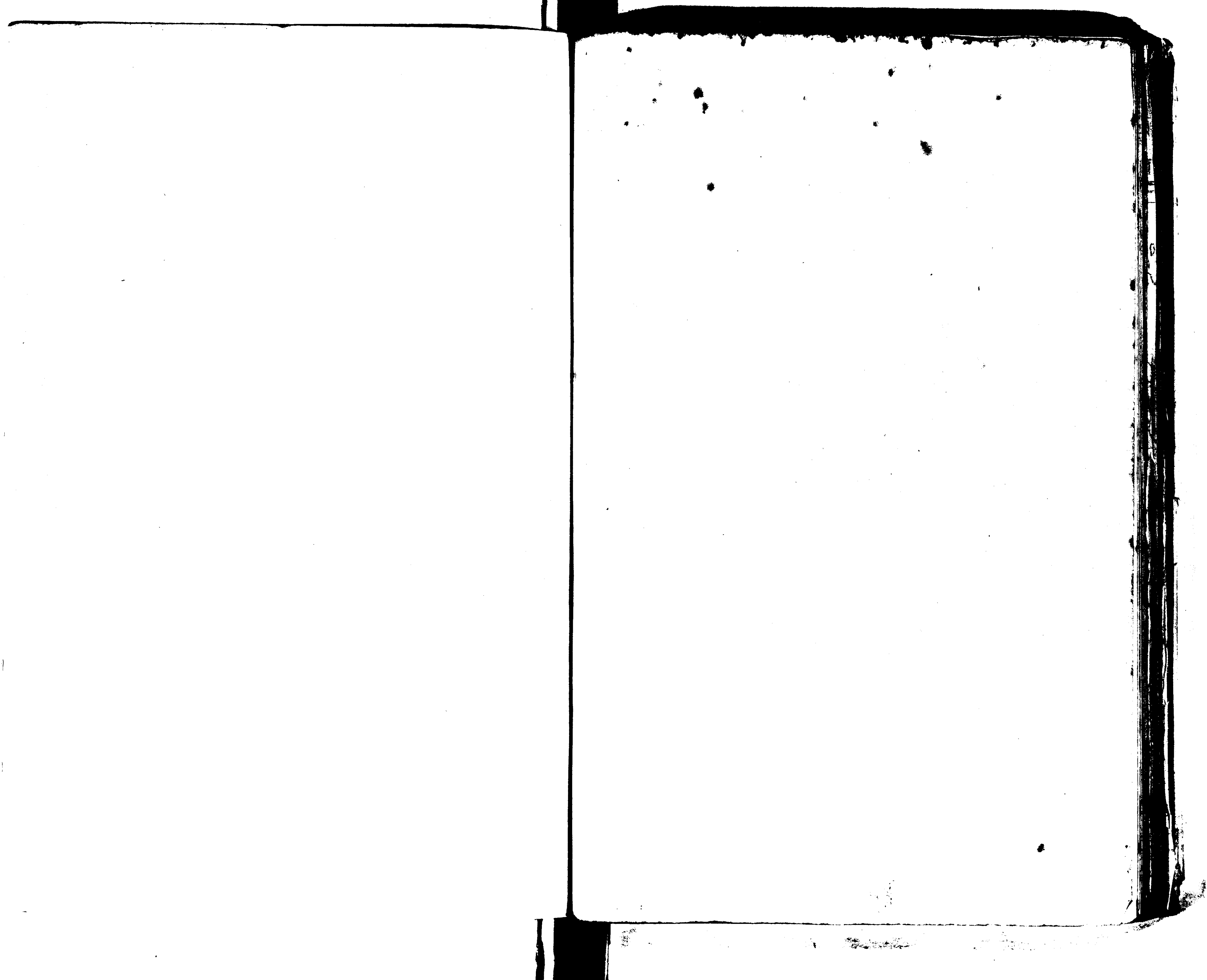
年 別	日本内地	朝鮮	香港其他	計
昭和元年	113,787	41,778	-	155,785
二年	227,462	48,938	42,252	318,652
三年	275,177	14,700	15,120	304,997
四年	338,531	5,554	-	344,085

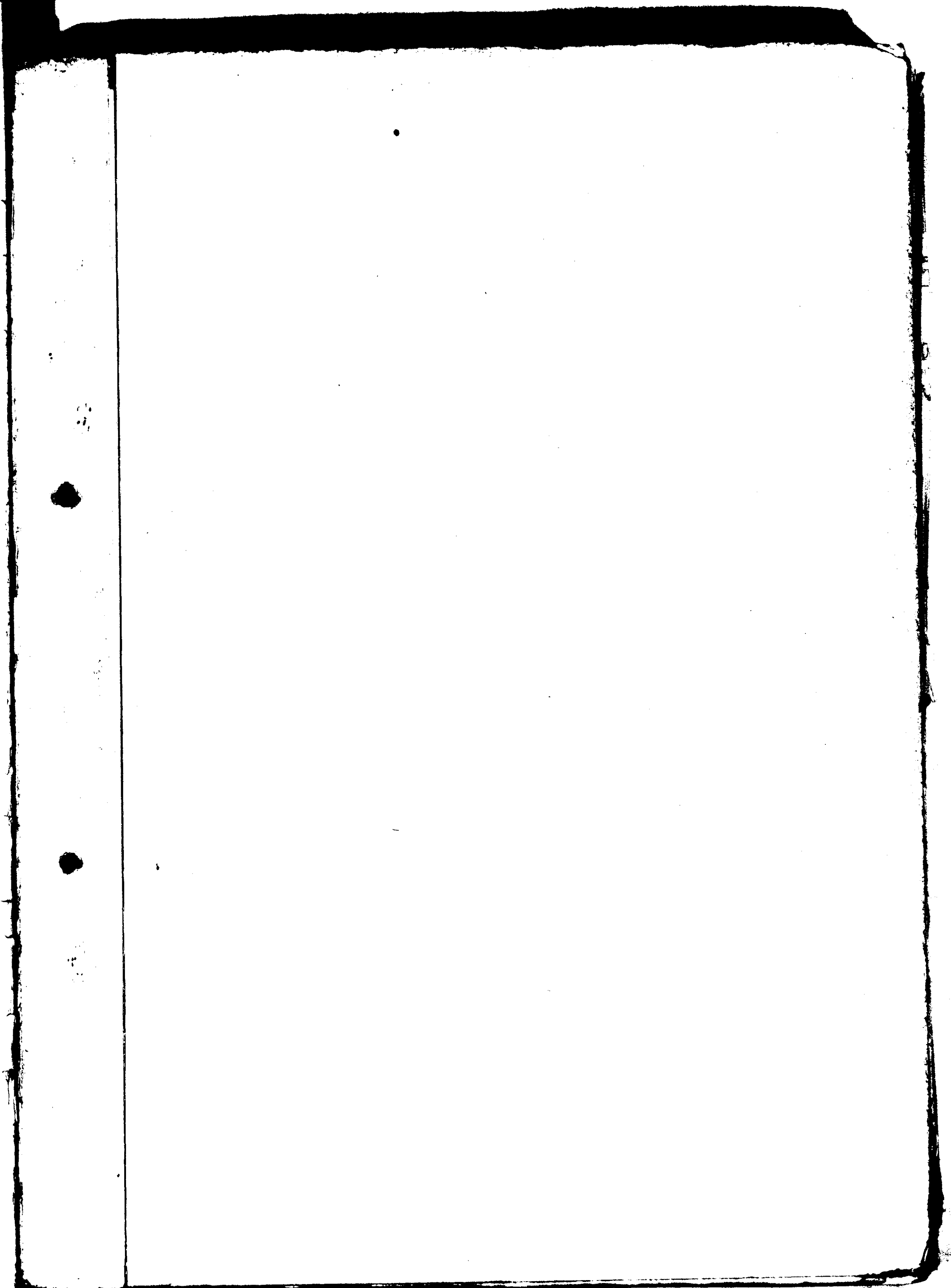
(5) 本船直積百斤当見込諸経費調 關東州塩

	蛸子窟 厚	五島 厚	青蘭店 厚	平均 厚
塩田引繰 式克積込	27	12	18	19
本船造 / 式克積	58	17	58	61
本船積込 船及人夫賃	13	12	12	12
式克積施料	3	3	3	3
倉費組合費 其他、公課	8	8	8	8
雑 費	13	13	13	13
計	122	115	112	116

(16) 内地輸入塩等散塩百斤当価格

	細末価格	門目注 / 量販価格	購買価格
昭和元年	514	163	700
二年	426	163	800
三年	449	152	800
四年	422	152	770
五年	406	130	710





(12)
~~(13)~~

昭和五年

朝鮮天日塩の生産費が、関東州天日塩に比し
高き理由について、

(本書は昭和五年頃、本局より広島湾出張所長の奥田技師に
対し意見を徴したものである。)

朝鮮ニ於ケル天日塩、直接生産費、關東州ニ比シ高キ原因

の氣象

塩、直接生産費、其、生産、豐山、勞銀、多寡、塩田修理、器具、板、事務監督費等、如何ニ依リテ差異アルハ、免レサル所ナリ、今朝鮮、及關東州、塩百斤當生産費、内訳ニ付テ之ヲ見ルニ別表(第一表)ノ如ク、朝鮮ハ關東州ニ比シ、勞銀ニ於テ五錢七厘、塩田修繕費ニ於テ二厘、事務監督費ニ於テ二錢四厘、増ヲ示シ、器具補修費ニ於テ四厘、塩蓋費ニ於テ一錢三厘、雜費ニ於テ三厘、減ヲ示シ、差引、直接生産費ニ於テ六錢三厘、高シ之ニ固定資本利子ヲ加算スルニ於テハ、百斤當九錢三厘、增高トナルヘシ、右、中、最モ相違セル莫ハ、勞銀ニシテ、事務監督費之ニ次グ、即チ朝鮮、塩田使役、塩夫、勞銀ハ、關東州ニ比較シ、概チ四割乃至五割、高率(銀相場ニ依リ、時々變動アルモ)ナリ

朝鮮總督府專賣局

而シテ、事務監督費ニ於テモ、關東州ニ比シ、監督者其他ノ員數多ク、為ニ增高ヲ示セリ之等ノ要素ハ、懸テ生産費ヲ左右スル一因ナルハ、論ヲ俟ミザル所ナリト雖モ、最モ直接至大ノ影響ヲ及ボスモ、生産量ナリ、而シテ、生産量ハ、塩田ノ地理的環境、人為的操作ニ因ル所多シト雖モ、氣象的條件、良否ヲ以テ、最モ大ナリトス、即チ別表(第二表)ニ於ケル、昭和四年、如ク、氣象條件良好ナル所謂製塩の豐年ニ在リテハ、生産量著シク増加セシ結果、其、生産費ハ、遂ニ關東州ニ比シ、低減セシレシヲ見テモ、如何ニ氣象ト製塩ハ密接ナル關係ノ存置スルカハ、自ラ明ニシテ、即チ氣象條件、良否ハ、懸テ生産費ニ左右スル最モ大ナル原因ヲ構成スルモノト言ハザル可ウラス

今朝鮮ニ於ケル、塩田所在地、氣象狀態、關東州其他、製塩各地ト比較、対照スルニ別表、如ク、關東州ニカレモ、内地、台灣ニ比シ、良好ニシテ、青島トハ大ナル相違ナシ

前述、如く朝鮮ハ關東州ニ比シ、氣象狀態ナルト雖モ近時年々
共ニ塩田内容ノ充實ヲ圖リ、所謂人為的最善ヲ施シ、ソノナル
ヲ以テ之ガ収得ノ補填ニ得ヘリ、今後ト雖モ特別ノ凶年
ニアラサル限り、關東州ノ生産費ニ追従スルコト敢テ難事ニア
ラザルベシ

然モ關東州塩ヲ朝鮮ニ輸移出スルニ於テハ、輸出税及輸送振
出費等、増高ヲ来スヲ以テ、朝鮮着両者生産費ハ朝鮮
塩著シク有利トハ明ナルヘシ

第一表 朝鮮關東州塩百斤當生産費比較表

已	今	朝鮮	關東州	増	摘要
分	銀	一七。五	一一。五	五七。五	
塩田修繕費	二八	二六	二		

朝鮮總督府專賣局

已	今	朝鮮	關東州	増	摘要
器貝補修費	九	一三			
塩蓋費	一	一三			
事務監督費	八一	五七	二四		
雜費	九	一二			
計	二九七	二三四	六三		
固定資本利子	一三三	六四	六九		
合計	四三〇	二九八	一三二		

備考

一 朝鮮關東州共ニ成熟塩田ニ付テハ、生産費ナリ

二 朝鮮ハ、自昭和元年 至昭和五年 五ヶ年平均

關東州ハ、昭和五年 五ヶ年平均

三 關東州ハ、固定資本三、二八四、四四、年五分、資本利子ト千百斤當

四、朝鮮ハ固定資本三六二、八九四円、年五分ヲ資本利子トシテ百斤當
 ヲ計上ス

第一表 朝鮮塩百斤當生産費内訳表

已	分	昭和元年	全二年	全三年	全四年	全五年	平均年	平均年
分	銀	二一四	一九八	一四三	一三三	一六一	一七〇	一四六
塩田修繕費	三〇	三一	二六	二〇	三〇	一八	二七	
番員補修費	一二	一二	七	六	一	九	八	
塩蓋費	一	一	一	一	一	一	一	
事務監督費	一〇・七	一〇・三	六〇	五二	六二	八一	六五	
雜費	一四	一一	一〇	四	七	九	七	
計		三三七	三〇五	二五六	二一五	二八五	二九八	二五五
固定資本利子		一六二	一五二	一一九	一〇二	一三一	一三三	一一七
已	分	昭和元年	全二年	全三年	全四年	全五年	平均年	平均年
合計		五三九	五〇七	三七五	三二五	四一六	四三一	三七〇

朝鮮總督府專賣局

備考
 本表ハ成熟塩田ニ付テハ生産費ナリ

氣象表

地	名	蒸發量	降水量	全日数	晴天日数	平均湿度	平均流速	平均日照時
内地	地(青島)	一三二九 ^花	一五三八 ^花	一三六	五九	七四 [%]	一九	四七 [%]
台	灣(台南)	一六六六	一六九九	一〇八	五七	八〇	三一	四三
朝鮮	鮮(仁川)	一三三八	一〇一一	一〇四	七九	七二	四〇	五九
朝鮮	鮮(平壤)	一三二三	九一三	一〇三	八七	七二	二五	六三
関東州	(大連)	一五二四	六二二	七七	一一三	六六	四七	六二
青島		一四九〇	六三四	七八	九〇	七二	五一	六一

備考

本表ハ各地觀測創始ヨリ昭和四年ニ至ル累計年平均数ニシテ左記ノ通
トス

記

内地(廣島)	自明治三十五年 至昭和四年	三十八年間
台灣(台南)	自明治三十四年 至昭和四年	二十九年間
朝鮮(仁川)	自明治三十九年 至昭和四年	二十四年間
朝鮮(平壤)	自大正二年 至昭和四年	十七年間
關東州(大連)	自明治三十九年 至昭和四年	二十四年間
青島	自大正五年 至昭和四年	十三年間

(2) 勞銀

(1) 一日當勞銀高

關東州塩田、一日當勞銀ハ銀價ノ高低又給料制度ニ作

朝鮮總督府專賣局

契約制度等、種別ニ依リ一律ニ論シ難キモ別表、如ク最近
大々年、塩大分銀ハ平均四十五兩内外ヲ給與セリ朝鮮塩田
ニ於テハ平均六十二兩ヲ以テ朝鮮ノ勞銀ハ關東州ニ比シ約
四割高ナリ目下、如キ銀價暴落時ニ於テハ兩者ノ銀、關
差ハ蓋シ甚大ナルヲ以テ生産費ニ影響スル所亦大ナリ
之朝鮮、關東州ニ比シ生産費高キ一因ヲナスモノナリ

勞銀比較表

年次	關東州 平均	旅順 平均	青島 平均	増減 摘要
昭和元年	六〇・〇	五八・五	六五・〇	一〇・〇
二年	六〇・〇	五八・五	六五・〇	九・九
三年	六〇・〇	五八・五	六五・〇	九・七
四年	六〇・〇	五八・五	六五・〇	九・七

五年	六・	五八五	六五・	五九七	四三・	四三・	四五・	一六七
大年	五八・	五七五	六二・	五七八	三・	三・	三・	二七八
平均	五九七	五八三	六五三	五九五	四五五	四四三	四五三	一四二

備考

關東州分銀、金貨ニ換算セリ

(四) 塩夫、能率

國民性ニヨル能率ハ俄ニ矯正スルコト能ハザルベキモ支那人ハ朝鮮人ニ比シ賃銀低廉ナルニ抱ラス早出脱退能ク仕事ニ忠実ナルヲ以テ作業ノ能率高上シ從テ生産増収トナリ生産費低廉ノ一因ヲナセリ

殊ニ關東州ニ在リテハ自作小作向ハス家族共稼ミテ塩田ヲ充分ニ手入スルヲ以テ氣象的好條件ト相俟テ生産増収

朝鮮總督府專賣局

多キ一因ヲナセリ

ニ塩田築造費關東州ニ比シ高キ理由

關東州ニ於ケル潮、干満、差ハ七八尺ヨリ處ニヨリテハ十六・七尺ニシテ朝鮮塩田地帯ニ於ケル二十尺乃至三十二尺ニ比シ約半ナリ從テ關東州ニ於テハ概ネ高地式ヲ採用セシニ對シ從前朝鮮塩田ハ一部貴城、百四十九町歩ヲ除キ他ハ全部低地式ヲ採用セリ即チ朝鮮塩田、關東州ニ比シ築造費高キ主タル理由ハ凡ソ次ノ三條件、相違ニ因ル

(一) 潮、干満、差關東州ニ比シ大ナリ

干満、差大ナレハ塩田築造ニ際シ外廓堤防其他貯水池堤防等、増嵩ヲ必要トシ從テ之ガ築設費多額ヲ要スルモノナリ

(2) 朝鮮塩田、殆ど低地式ナリ

低地式、高地式ニ比シ塩田築造ニ際シ整地工費多額ヲ要シ
從テ築造費、増高ヲ来スモナリ

(3) 勞銀則東州ニ比シ高率ナリ

朝鮮塩田、今銀、關東州塩田ニ比シ著シク高率ナル爲メ塩田
築造費亦肉東州ニ對シ高キ一原因ヲナスモナリ

三、保留塩田豫定地ハ既設塩田ニ比シ劣等土地ニ非ス

從來朝鮮ニ於テハ低地式塩田、築造方針ヲ採用シ現在ニ
於テハ貴城塩田ノ百四十九町歩ヲ除キ他、二千二百九十七町歩
ハ凡テ低地式塩田ニシテ現在保留塩田豫定地ハ概テ高
地式ナリ之塩田築造ニ對スル主義ヲ針、相違ニシテ保留
塩田ハ素質其他製塩條件等既設塩田ニ比シ劣等、

朝鮮總督府專賣局

土地ニアラザルナリ然モ近時築造費風水害等、災害防
止策及蒸發促進等ヨリ考察スル時ハ寧ろ高地式塩田
ノ築造ヲ得策トスルミナズ内陸ニ主トシテ搬出スル目的
ナルニ於テハ低地式ヲ採用スル理由一層乏シキモノト認ム

現在塩田豫定地トシテ保留、個所別表、如シ

而シテ別表、現在塩田豫定保留地、内、京義道富川郡
南洞面、始興郡君子面、水原郡松山面、全郡半月陰德
兩面及平安南道、海雲貴城兩面沿岸、豫定地ハ共
ニ大正九年以降七ヶ年間、繼續事業トシテ塩田二十
六百町歩擴張計畫中ニ属セシモノニシテ偶々中途ニ於テ
東都大震災、影響ヲ受ケ大正十二年以降公債事業
ノ打切リトナリタルメ、本事業亦中止、余業ナキニ至リシモノ
ニシテ豫定地トシテノ價值ナキニアラズシテ眞ニ財政上己ハ

ヲ得サル事情ニ因リシニ外ナラザルナリ

塩田保留豫定地調査表

高地式	京畿道		平安南道		計
	江都	水原	龍岡	江華	
位置	江都	水原	龍岡	江華	
面積	九三〇	六二一	一〇四六	三三二	三二九八
内	六九八	四七三	一〇五五	二五二	二四五八
概	二三二	一五八	三五一	九八	八四〇
摘要	大正九年以降拡張 計區中ニ属セシメ 全				

低地式

京畿道	平安南道		計
	江都	水原	
位置	江都	水原	
面積	九六三	五七七	一五四〇
内	五七七	三八六	九六三
概	三八六		五七七
摘要	大正九年以降拡張 計區中ニ属セシメ 全		

朝鮮總督府專賣局

平安南道	平安北道		計
	龍岡	江華	
位置	龍岡	江華	
面積	二九七	一〇九	四〇六
内	一七九	六六	二四五
概	一一八	四三	一六二
摘要	大正九年以降拡張 計區中ニ属セシメ 全		

備考

本表保留豫定地中高地式ニ属スル三二九八町歩ハ將來塩田
築造ニ最モ好適ノ保留地ニシテ低地式ニ属スル五〇五一町
歩ハ平安南道龍岡郡ノ大代新寧面ノ三五〇町歩ヲ除ク

他、係留地、塩田築造價值概ネ僅カナルモナリ

朝鮮總督府專賣局

昭和六年製塩勞銀調

銀

月別	米塩高	準備作業費	製塩燃料費	計	換算高(米)割	合上塩高(斤)
四月	二,二七,三三〇	四,六六,二二五	四,六四,六三六	四,五二,六六〇	二〇,四四,六〇〇	二二一
五月	七,〇八,五二〇	一,四八,八三三	四,三〇,六八八	六,八八,五一一	六三,六六,〇〇〇	九一
六月	六,九一,四七〇	一,四八,四二二	四,四四,六三六	六,八三,三三九	六二,三三,三〇〇	九二
七月	四,五八,九四〇	九,三三,五八八	三,六六,六六六	四,五〇,三三〇	四一,三三,〇〇〇	一〇六
八月	八,四九,六〇〇	一,九三,三二六	三,五五,六九九	三,五五,六九九	七,六四,〇〇〇	四三八
九月	一,七六,六八〇	三,九三,八四一	三,三三,三三〇	三,三三,三三〇	一五,八九,〇〇〇	二一五
十月	九,一〇,六〇〇	二,四二,八九六	一,六六,八九八	一,五八,一〇九	八,一九五,〇〇〇	一五六
計	二,四三,八二〇	五,一五,二八三	三,三三,八九七	二,八四,六六三	二,九四,八二〇	一三三

備考

一、右表勞銀ハ製塩夫、塩田手入其他製塩ニ要スル雜役夫等、賃銀、總テヲ含ム

朝鮮總督府專賣局

一、準備作業塩田手入等一時ニ施行シ、然モ其、効果製塩全期ニ及ツモ、ハ各月ノ生産数量ニ割当各月分ヲ算定セリ

內譯

朱安

月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計
別採塩高	八三三.〇〇〇	二六九七.〇〇〇	三三二二.〇〇〇	一四九〇.〇〇〇	四四二五.〇〇〇	一〇三九五.〇〇〇	七三五六.〇〇〇	一〇四二七九.〇〇〇
海備作費	一九六六.七二五	六五五五.五九	七.八八〇.一六七	三三三三.三三〇	九六.八八六	四四四三.二五	一七二一.六五〇	四四四三.二五〇
製塩諸費	一八三三.三三〇	一九.〇八.一九二	一八.三三.一九二	一三.八六.八二一	一五.〇九.九四一	一四.四八.八九一	七.二九.七七一	一〇三三三三.三三〇
計	二〇.二八.八二五	二五.三九.五八三	二五.八九.九四九	一七.四八.〇二二	一四.〇八.〇三九	一四.九三.〇六六	八.九七.四三二	二六.二五.五八〇
採塩高	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇
全塩高	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇	二.〇〇.〇〇〇

朝鮮總督府專賣局

月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計
別採塩高	一二二二.〇〇〇	三八二〇.〇〇〇	三三三三.〇〇〇	二七〇九.〇〇〇	二五二四.〇〇〇	二一〇八.〇〇〇	一四〇〇.〇〇〇	一三三〇〇〇.〇〇〇
海備作費	二二五六.三三三	六六八四.三二六	五八二二.八五五	四四四四.七九	四三三三.二四六	一八九七.七三九	四三三.四六	二二五六.三三三
製塩諸費	一八.五八.六六六	一九.八八.二二六	二〇.一〇.八八六	一七.七.三三六	一五.四.三三六	一五.〇三.三五五	三.四.八四三六	一〇.一〇.一六九
計	二二.六三.四〇〇	二六.五五.五九四	二五.九四.二〇〇	二四.八四.一三六	二四.九三.五八二	二六.〇六.九六六	三.八三.九六三	二二.六三.四〇〇
採塩高	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇
全塩高	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇	一.〇〇.〇〇〇

南 市

月 別	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	計
採 塩 高	一、七、七、〇、〇、〇	五、八、五、〇、〇、〇	四、三、四、五、〇、〇	三、九、〇、〇、〇、〇	一、五、六、六、〇、〇	二、五、五、〇、〇、〇	一、七、六、九、一、〇、〇	
海 産 物 賣 入	五、四、八、八、八、八	一、八、一、二、二、二、二	一、三、〇、二、一、一、一	一、二、〇、六、五、八	四、九、三、九、五、五	五、四、八、八、七	五、四、八、八、七	
製 塩 高 天 價	三、八、三、三、三、三	三、九、五、二、四、八	四、〇、二、五、八、八	三、一、四、九、六、八	三、九、九、二、五、四	二、六、八、四、九、三	二、〇、九、四、四、八、八	
計	四、三、九、四、六、〇	五、七、六、三、六、六、六	五、三、九、八、〇、八	四、三、五、一、六、六	三、四、六、六、四、九	二、八、五、三、三、六、九	二、六、二、三、三、六、八	
採 塩 高 一 全 産 出 高	一、五、九、四、〇、〇、〇	五、三、六、九、〇、〇、〇	三、九、二、〇、〇、〇、〇	三、五、一、〇、〇、〇、〇	一、四、〇、九、〇、〇、〇	二、二、九、〇、〇、〇、〇	一、五、九、二、〇、〇、〇	
海 産 物 賣 入 一 全 産 出 賣 入	二、四、八	一、〇、九	一、三、八	一、二、四	五、四、六	一、二、五	一、六、五	

朝鮮總督府專賣局

貴城塩田塩百斤留生産費調

年 度	前年比増減	製造費	管理費	利息	定資本	計 算
第一年(昭和十一年)	八・一〇	一九三五	三八七	七三八	二九六	
第二年(昭和十二年)	一五・八五	二・三五	二・四	四八一	一九二	
第三年(昭和十三年)	五七・八四	三・四七	四・八	一・二四	五一九	
第四年(昭和十四年)	四三・八一	三・八七	六・四	二・八五	七五六	
第五年(昭和十五年)	七・七九	二・八六	五・八	一・七八	五五〇	
第六年(昭和十六年)	八・一一	二・五五	四・七	一・五六	四五八	
第七年(昭和十七年)	一・三一	一・九一	三・九	一・二五	三五五	
第八年(昭和十八年)	一・八四	三・三〇	三・二	一・二二	三八四	
第九年(昭和十九年)	九・五五	二・九	三・九	一・三九	三八七	
計 算						平均

朝鮮總督府專賣局

一製塩賣

二、管理費

朝鮮總督府專賣局

三、固定資本利子

片岡

四合計

合計

七三〇、七二、九三

三三〇、九七、四四五

一〇、三三九、五三八

塩百介當

四三四

六〇一

四八一

五參取

塩實収高

一五九、六七、五二九

五五、九二、三四九

二、四七九、八七八

固定資本額

四二、七六、九二二

二〇、九七、九六八

六、二六七、五二六、九〇

新旧塩田別

朱谷、南洞、廣津、
徳洞、貴城

君子、南市

朝鮮總督府專賣局

結晶池改良ニ因ル収支計算表

年次	改良工事施行全結晶池	所要経費	増収高	金	差引損益
第壹年(七年)	一五〇	三九三七五	二八五	一八、二四〇	二一、一三五
第貳年(八年)	三〇〇	三九三七五	五七〇	三六、四八〇	二、八九五
第參年(九年)	四五〇	三九三七五	八五五	五四七二〇	一五、三四五
第肆年(一〇年)	六〇〇	三九三七五	一一四〇	七三、九六〇	三三、五八五
第伍年(一一年)	七五〇	三九三七五	一四二五	九一、二〇〇	五一、八三五
第陸年(一二年)	九〇〇	三九三七五	一七一〇	一、九四四〇	七〇、六五
第柒年(一三年)	一、〇五〇	三九三七五	一九九五	一、二七、六八〇	八八、五〇五
第捌年(一四年)	一、二〇〇	三九三七五	二三八〇	一、四、五九〇	一〇、六四五
第玖年(一五年)	一、三〇〇	三九三七五	二、五、六五〇	一、六、四一六〇	一二、四七五
第拾年(一六年)	一、五〇〇	三九三七五	二、八、五〇〇	一、八、二四〇〇	一四、三三五
第拾壹年(一七年)	一、六五〇	三九三七五	三、一、三五〇	二〇、六四〇	一六、二六五
年次	改良工事施行全結晶池	所要経費	増収高	金	差引損益
第拾貳年(一八年)	一、八〇〇	三九三七五	三、四、二〇〇	二二、八八〇	一八、九三五
第拾參年(一九年)			三、四、二〇〇	二二、八八〇	二一、八八〇
第拾肆年(二〇年)			三、四、二〇〇	二二、八八〇	二一、八八〇
第拾伍年(二一年)			三、四、二〇〇	二二、八八〇	二一、八八〇
備考					

朝鮮總督府專賣局

一、結晶池改良塩田 大田六町

朱安二二三町 南洞三〇町 君子五町 廣梁灣七二町

貴城一二町

二、結晶池未改良塩田 一八〇町

君子五二五町 廣梁灣六九八町 德洞二二三町 貴城一三七町

スレート瓦敷設費其他比較表

区 分	敷設面積	敷設費	採塩高	採塩價格
スレート瓦	二〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	六三八
瓦 片	二〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	五八〇
比較増減				五八〇

摘 要

一、スレート瓦敷設塩田、瓦片敷設塩田に比し、一割、採塩増収トシテ算出セリ從ッテ一町歩當採塩價格ニ於テ五拾八円ノ增收トナル

二、敷設工費、差額ニ對シスレート瓦敷設費坪當三円ナル時、約四ヶ年(240+580=820)四円ナル時、七ヶ年半、五円ナル時、十一ヶ年ヲ以テ償却セラル、モトス前年、如ク供試敷設実績ナル時、大体十五ヶ年ヲ要スヘシ

朝鮮總督府專賣局

三、敷設工費、差額ニ對シ金利五分ヲ拂ヒ償却スルモトセハスレート瓦坪當敷設費三円ナル時、約五ヶ年

$$240 + (58 - 240 \times 0.05) = 5.2$$

四円ナル時、十二ヶ年、五円ナル時、二十五ヶ年、六円ナル時、大体五十三ヶ年ヲ要スヘシ

四、當局塩田ニ於テハ、四寸角厚四分乃至其以上ノモノヲ必要トシ一坪當敷設費(材料代一枚當一丈八厘坪百八十枚使用トシテ三円二十四美塩田渡運賃朱安三十五美、廣梁渡二十五美平均坪當三十美トシ敷設工費一円)四円五十四美、即チスレート瓦、塩田着値が三円五十美程度ニアラザレハ瓦片ニ對シ拮抗シ得ザルモト思惟セラル

各年度塩夫使役人員調

年度別	味 安			廣 梁 灣			南 市		
	塩夫使役 延人員	一日平均使役 人員	一日平均使役 人員 金上 銀	塩夫使役 延人員	一日平均使役 人員	一日平均使役 人員 金上 銀	塩夫使役 延人員	一日平均使役 人員	一日平均使役 人員 金上 銀
昭和元年	二四、一三五	五二、九	三、七、四	二九、二九	一、三、九	七、七、四	三、九、五	一、九、三	一、五、五
二年	二五、三九五	六四、九	三、七、三	二六、一三三	一、六、五	六、三、三	四、九、一	一、九、一	一、三、七
三年	二七、五八二	五九、三	三、五、三	二六、七三九	九、六、三	六、三、三	四、六、八	三、四、四	一、五、三
四年	二〇、七二四	九、八	五、五、三	二六、九、六	九、八、五	六、六、三	四、七、五	一、九、一	一、九、七
五年	二〇、四六二	九、三	五、五、三	二五、四八三	一、三、三	六、三、三	四、六、七	一、四、八	一、三、六
六年	二二、九〇三	八、一	五、五、三	二四、九六五	九、五、一	六、三、三	四、三、五	一、七、一	一、二、一

朝鮮總督府專賣局 塩田面積調

昭和十九年現在

官署別

所在地

塩田面積

摘

要

朱安出張所

京畿道富川郡朱安面

一、六六四

朱安 二、一四〇

蘇子 五、四九

安梁湾

平安南道龍岡郡金谷面

九、九三

南洞 三、〇〇

德洞 二、二三

貴城

平安北道 貴城面

一、五三三

一、正 三、四七

四、正 五、〇七

南布

平安北道

四、八三

二、正 一、四九

四、正 五、三二

海南

黃海道延白郡

一、二五〇

一、正 三、四七

四、正 五、〇七

瑞山

忠清南道瑞山郡

五、三〇

一、正 三、四七

四、正 五、〇七

松山

忠清南道瑞山郡

四、二五

一、正 三、四七

四、正 五、〇七

計

六、八八〇

大日本鹽業株式

平安南道清川江

一、一五〇

第一 九、〇〇 昭和十八年完成
第二 二、五〇

益養且令中

一 塩業組合年々

塩田築造費

塩田別面積	工事期間	築造費	物価倍率	率築造費
塩田別面積	工事期間	築造費	物価倍率	率築造費
朱安	昭和三十八年	六、七、八二	一、五〇〇	九、四九、八四四
南洞	昭和三十八年	八、〇〇、三三八	一、五〇〇	一、二〇〇、〇五三
蘇業	昭和三十八年	一、四四〇	一、五〇〇	二、一六〇、〇〇〇
君子	昭和三十八年	一、五七、八九九	一、五〇〇	二、三六七、四八八
計				
灰東湾	昭和三十八年	一、二四八、七〇〇	一、五〇〇	一、八七三、〇五〇
徳洞	昭和三十八年	七、七八、二一五	一、五〇〇	一、一七七、三二二
貴城一	昭和三十八年	五、〇〇、〇〇〇	一、五〇〇	七、五〇〇、〇〇〇
三邑	昭和三十八年	一、四四〇	一、五〇〇	二、一六〇、〇〇〇
三邑	昭和三十八年	五、六九、二二〇	一、五〇〇	八、五三九、三三〇
田邑	昭和三十八年	五、九四、〇〇〇	一、五〇〇	八、九一〇、〇〇〇
南	昭和三十八年	五、五三、三七八	一、五〇〇	八、三〇〇、〇〇〇
瑞山	昭和三十八年	二、八三、五〇〇	一、五〇〇	四、二五二、五〇〇

鹽田築造費及工事期間				鹽田築造費及工事期間				鹽田築造費及工事期間			
鹽田名	面積	築造費	工事期間	鹽田名	面積	築造費	工事期間	鹽田名	面積	築造費	工事期間
朱安	二〇〇	一六七八	明治四十年 大正八年	南洞	三〇〇	八〇〇	明治四十年 大正八年	蘇萊	五四九	一五七八	明治四十年 大正八年
君	六〇三	一五七八	明治四十年 大正八年	廣翠濟	七〇〇	一五七八	明治四十年 大正八年	德洞	二〇〇	一五七八	明治四十年 大正八年
計	一、五三三	六、九二九	明治四十年 大正八年	計	一、五三三	六、九二九	明治四十年 大正八年	計	一、五三三	六、九二九	明治四十年 大正八年
減	一、四四九	六、四四九	明治四十年 大正八年	減	一、四四九	六、四四九	明治四十年 大正八年	減	一、四四九	六、四四九	明治四十年 大正八年
計	四、四四九	一、四四九	明治四十年 大正八年	計	四、四四九	一、四四九	明治四十年 大正八年	計	四、四四九	一、四四九	明治四十年 大正八年

一、五三三
六、九二九
明治四十年
大正八年

一 埤 溝 築 合 計 表

埤 名	面 積	築 造 費 金	工 事 着 手	完 成
塩 田 別 面	四 八 三	一、七、〇〇〇	大 正 三 年	大 正 三 年
南 市	四 八 三	一、七、〇〇〇	大 正 三 年	大 正 三 年
海 南	四 七 〇	一、六、九、九	大 正 三 年	大 正 三 年
端 山	五 二 五	一、八、三、五〇	大 正 三 年	大 正 三 年

昭和十四年 昭和十七年 十月十日

昭和十九年

塩田名		面積	工費着手	完成工事期間
① 第一二期		自 大正八年三月至 大正九年三月		
南洞	六	三三四	大正八年三月	大正八年三月
君子	七	四六九	大正八年三月	大正八年三月
貴城	八	四四六	大正八年三月	大正八年三月
南洞	計	一三六九		
② 第四期		自 昭和元年一月至 昭和十七年十二月		
蘇美	一	一〇五	大正九年十月	大正九年十月
貴城	二	七六	大正九年十月	大正九年十月
貴城	三	四〇〇	大正九年十月	大正九年十月
貴城	計	二二二〇		
合計		三四六九		

塩田名		面積	工費着手	完成工事期間
① 第三期		自 大正九年三月至 大正十四年三月		
南洞	三	〇〇〇	大正八年三月	大正十年三月
君子	六	三三三	大正十年三月	大正十四年三月
貴城	一四九	大正九年三月	大正十年三月	大正十四年三月
南洞	二一七	大正十年三月	大正十三年八月	大正十三年八月
計	一三六九			
② 第四期		自 昭和元年一月至 昭和十七年十二月		
蘇美	五	四九	昭和十三年三月	昭和十四年三月
貴城	五〇	七	昭和九年三月	昭和十年三月
貴城	五三	二	昭和十年三月	昭和十三年三月
南洞	二六六	昭和十年三月	昭和十二年三月	昭和十二年三月
海南	四七〇	昭和十四年三月	昭和十七年三月	昭和十七年三月
貴城	三四七	昭和十三年三月	昭和十五年三月	昭和十五年三月
計	二六七一			

天日塩田築造費の内訳

区分	朱安南洞君子広翠秀徳洞貴城南市				
	朱安	南洞	君子	広翠	秀徳
掘削及 掘造物	二二〇.五五	三八四.一四	一四三.五四	五五九.九四	二七〇.二七
内部築造	一八〇.五四	二四四.五〇	四〇五.七五	四六九.〇七	一四一.三二
塩田	三三.三四	三〇.〇〇	四一.三八	三六.五三	二〇.五二
土工工事	三三.七五	四〇.〇〇	四〇.九四	八.一九	二.七五
器具機材	七.六二	五三.〇五	三三.三八	二一.八八	一.三三
軟地買収費	五.七二	六.八〇	一一.二五	二.七三	九.八〇
運物運送	五.七二	六.八〇	一一.二五	二.七三	九.八〇
電話加算	一一.〇〇	一一.二五	五.七三	四.〇三	五.〇九
輸送設備	二二.八三	一一.二五	五.七三	〇.〇〇	一.三三
監督費	三四.六九	一〇.〇〇	三.五八	二.二三	一.二二
測量設計	三三.三〇	三三.五四	五.五八	三.七五	一.二二
雑費	一.五八	三三.五四	五.五八	三.七五	一.二二
計	五八.八二	一〇〇.三三	一四三.五四	一四八.七五	二七〇.二七
歩歩 歩費	二九.九	二九.九	二九.九	二九.九	二九.九

正
目
二
正

(4)

豊成
南河
松山
三ヶ所

塩田築造費、豫算額、昭和七年調 (本局)			
工種	数量	単価	金額
外廊堤防	一五七〇	三六〇〇	大八五、〇〇〇
野水堤堤防	三、二五〇	二〇〇〇	六五、〇〇〇
埴田堤防	八二七	一五、〇〇〇	一、二三四七
計			七六三、二四七
塩田内	大田五、〇六七	一、五〇〇	九、五七、〇〇〇
仕上工事	大六、〇〇〇	〇、〇四三	二、四〇〇、〇〇〇
排水路工事	二七、四〇〇	二、〇〇〇	五四、九〇〇
結晶池改良	三〇、〇〇〇	二、〇〇〇	六〇、〇〇〇
計			一、九六六、五〇〇
海水取入	一	八、〇〇〇	九、六〇〇
排水伏樋	四二	大五、〇〇〇	二、九二、五〇〇
給水伏樋	一〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇
橋梁	一三	一、四〇〇	一八、二〇〇
計			四四三、三〇〇
計			
揚水機	一	一、八〇〇	一、八〇〇
ポンプ	一	二、〇〇〇	二、〇〇〇
揚水場	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
家屋倉庫	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
附屋	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計			三、四〇〇
計			
豊成	四ヶ所		
南河	三ヶ所		
松山	三ヶ所		
三ヶ所	三ヶ所		
計			

[illegible]

益養且令中興

貴城第四區塩田築造工事所要人員調							
已	分	数	量	單	價	金	額
内地人	世話役	一六八〇人					
"	大工	五〇四一					
"	高	一三三					
"	石工	一五八八					
支那人	石工	三三三					
鮮人	杭	六九一					
内地人	鉄工	六六六					
鮮人	什	一五七九					
"	人	二九五七九					
支那人	苦力	八七二					
"	苦力	六〇四九					
計		四〇、〇四八					
已	分	数	量	單	價	金	額
整地費	一、三三三、三三八						
地用	七、七八四九						
害虫駆除	七〇〇						
塩田面均水路							
畦畔、鹹水溜仕上							
計							
一町歩当	五三二町歩						
仕上工事	一〇、八八〇三						
計							五、七八八三、〇九

塩田築造工事所要人員調

塩 養 且 全 中 凡

貴城第四區塩田築造費單價網

品名	寸法	單價	品名	寸法	單價
松丸大	長一丈二尺 太一尺二寸	一・八七	已分	昭和十九年	
コンクリート	一・三六	一・九六	人夫費	要機運送 用大入	
砂利	並末	四・五〇	大工	三・四〇	
砂	並末	三・〇〇	石工	三・四〇	
セメント	十和	〇・三三	セメント	十和	〇・三三
釘	長一〇mm 十和	二・四〇	砂利	並末	四・五〇
世話役			砂	並末	三・〇〇
薪職			外見		
大工	三・〇〇		表石		
石工	三・〇〇		裏石		
人夫賃	〇・六八		込		
杭			縄		
苦力					

品名目今口上

昭和十九年
二・二〇
四・九五
〇・六八
四・五〇
〇・三三
八・二五
〇・四〇
〇・一七
官舎坪当
利入三・〇〇
備入二・八〇
現物二・五〇
増大二・五〇

天日塩田内部築造規格

第一 貯水池

(イ) 塩田一町歩當一日の所要海水量を五百石とす

計算基礎 資材等正塩田に於ける使用海水の実績に徴し一日二百五十石とし海潮其他の關係に因る安全率二割を加ふ

(ロ) 貯水量 一日一町歩所要海水量に一期望(十五日)中海水取入不能日数を乗せるものとす

(ハ) 貯水池面積 低地式塩田は第一蒸發池上段の地盤高に十種を加へたる

より高地式塩田は貯水池地盤高と貯水面見込高との差

に之前項の貯水量を除したるものとす 備考の海水取入日数は一日の

取入量に一日の所要海水より大なる日数とす (二) 一期望中、海水取入

不能日数及第一蒸發池地盤高、貯水池地盤高、貯水面見込高

等は各地の地形及海潮位の高低に依り概を異にするもの

なれば現地に應じ決定するものとす

第三 貯水池の位置

(一) 第一 貯水池の位置は、一般に在来河筋を利用。貯水池となし、海水は自然流下により

低地式塩田にあり、(二) 第二 高地式、低地式の区分

高地式塩田にあり、(三) 第三 最高潮面と所潮堤防地盤の差による

にして塩田地盤面に対し二米内外の低位にあり、従つて海水の引入は、電力ポンプにより、一旦代用貯水池に送水、これより自然流下により塩田に送水す。

第三 塩田面積に對する貯水池面積比

塩田別	面積	貯水池面積	面積比	塩田別	面積	貯水池面積	面積比
第一	四六〇	一四九	三三	第二	一〇五	三三	三三
第二	一七三	四八三	二八	第三	一〇五	三三	三三
第三	一四二	二五五	一八	第四	一〇五	三三	三三
第四	九三〇	一〇四	一一	第五	一〇五	三三	三三
第五	五二〇	一四七	二八	第六	一〇五	三三	三三
第六	一六〇	二四六	一五	第七	一〇五	三三	三三
第七	三三〇	一七九	五四	第八	一〇五	三三	三三

第四 塩田築造位置と潮位の調査									
塩田別		高潮より高潮迄の日数		低潮より低潮迄の日数		塩田最高地盤		最低地盤	
大岸湾	高潮 6.3	二三日	7.8	7日	大岸湾	一五五号	五〇〇	六五八号	三〇一
徳洞	"	二三日	"	七日	徳洞	一五八号	四九一	一五八号	四七三
貴城	"	二三日	"	七日	貴城	一五九号	五七〇	一五九号	五二八
第五 塩田の潮位と海水濃度		朱安指田		南子		朱安指田		南子	
区		一		二		三		四	
最潮		五五		五八		六三		六八	
最低		五八		六三		六八		七三	
比		三六		三八		四一		四四	
昭和三十九年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九		三二		三五	
十三年		二六		二九		三二		三五	
比		二六		二九					

(13)

塩

仁

肉

下

子

諸

院

計

表

12表

No 朝鮮に於ける塩の需給状況

赤松 朝鮮要塩は乃長 朝鮮食料

年度別	塩 需要高	需要の内訳		摘要
		鮮内生産高	輸入高	
大正		28%		
14年	261.460	72.182	144.000	22%
15	265.077	116.600	174.028	44
昭和				
2年	262.314	124.741	168.077	48
3	260.310	157.488	160.855	61
4	264.203	173.756	136.144	73
5	276.931	153.066	122.203	55
6	287.758	146.322	192.436	43
7	338.475	213.445	185.049	54
8	388.774	201.924	186.850	52
9	313.081	142.717	170.363	46
10	443.578	273.781	169.797	63%
11				昭和19年度
12				食塩需要量
13				天日塩 320萬ト
14				煎製塩 10.
15				持越塩 97.
16				輸入計 170
17				計 597萬ト
18				外
19	597.000	330.000	267.000	工業塩 4萬14ト
				輸入の足り
				昭和36年対日輸出
				119.130ト
昭和				
37年10月	300.000	400.000	100.000	人口 2,000万人

朝鮮に於ける塩の需給状況

年度別	需要高	鮮内生産高			不足高	輸入高
		官塩	在来並製塩	計		
大正		4	12	12		403
昭和						389
14	261,460	41,816	30,366	72,182	189,278	154,000
1	265,077	36,306	40,294	76,600	148,477	174,026
2	262,314	30,010	34,731	64,741	137,573	168,077
3	260,310	124,843	34,645	159,488	100,822	160,855
4	264,203	152,341	41,615	193,956	70,247	186,144
5	276,931	119,146	33,920	153,066	123,865	122,203

備考 官塩の生産高は、昨年度減産1割5分を控除したる
実収高と計上せり
需要高は其の年の販賣高に在来並製塩の
生産を加へたるもの

朝鮮に於ける塩類別消費高

昭和4年一年間264,000kgの消費

区分	数量	千分比	備考
醬油醸造用	103,800 ^{kg}	39.5	① 其の他内訳
漬物用	86,400	32.7	搾糖用 5
味噌製造用	29,400	11.2	肥料 2
魚翅塩蔵用	22,800	8.8	家畜用 2
麵類製造用	2,100	8	化学工業 46
其他	19,500	6.8	獸皮保存用 13
計	264,000	1,000	

自昭和10年
至 16年 製塩官署別塩生産高

No

区 介	昭和10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
朱安出張所							
朱 安					5,535		
南 河					4,906		
蘇 葉					700		
君 子							
計							
松東湾	84,651	56,948	61,390		71,072		
後 岡	26,226	16,099	19,520		21,766		
計							
鹽城出張所							
1 区	0	0	0		0		
2	14,992	9,696	12,253		12,400		
3	24	9,731	21,485		30,953		
4							
計	125,893	92,474	114,648		167,329		
南 部							
1 区							
2 区							
計							
海 南							
1 区							
2 区							
計							
合 計							

No 天日塩田 年別増設額

塩田別	昭和12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
米 安	212	212	212	212	209	209	212
南 河	300	300	300	300	300	300	300
蘇 菜	0	0	549	549	549	549	549
君 子	575	575	575	575	603	603	603
計	1,087 512	1,087 512	1,636	1,636	1,661	1,661	1,664
大 沢 湾	770	770	770	770	770	770	770
後 河	223	223	223	223	223	223	223
計	993	993	993	993	993	993	993
豊城 1区	0	0	0	347	347	347	347
2区	149	149	149	149	149	149	149
3区	507	507	507	507	507	507	507
4区	0	532	532	532	532	532	532
計	656	1,188	1,188	1,535	1,535	1,535	1,535
南 市 1区	217	217	217	217	217	217	217
2区	266	266	266	266	266	266	266
計	483 217	483 217	483 217	483	483	483	483
海 南	0	0	0	0	303	470	747
計	0	0	0	0			
合計	3,219 2,953	3,751 3,485	4,300 4,034	4,647	4,775	5,142	5,417 5,145

昭和5年度 官塩生産量調

No

費目	成熟塩田	未熟塩田	計
1. 製塩費			
塩夫給	201.942	101.416	303.358
租与員給	46.062	18.435	64.497
製塩加給	8.911	5.769	14.680
塩田修繕	54.679	22.289	76.964
器具機材	15.345	7.103	22.448
雑費	11.000	5.109	16.111
小計	337.940	160.116	498.056
塩100kg 60kg当	1.212	292	232
(2) 管理費			
俸給	39.605		
廣費	7.099	13.920	50.525
雑給雜費	58.208	4.303	11.402
修繕費	10.005	3.669	13.674
分析費	145	90	235
小計	115.062	44.800	159.862
塩100kg 当	1.072	1.081	074
固定資本	250.069	125.984	376.052
100kg当	1.150	238	175
合計	703.072	330.907	1,033.980
塩100kg 当	434	601	481
塩実収高	95.764	29.115	128.880
固定資本額	4,167,787	2,099,739	6,267,526
支店 南14		南子	
支店 南13		南子	
支店 南12		南子	

昭和17年度官塩生産量調査

No

官署別	塩田別	塩実収高	二町歩塩生産高		
朱安出張所	1.664	127.750	76.772		
広梁湾	993	59.418	59.950		
貴城	1.535	59.661	38.670		
南市	483	16.817	34.810		
海南	470	734			
計	5.145	264.380	51.380		

官署別	製塩費	管理費	計	資本利子	合計
朱安	848.403	352.088	1,200.491	239.396	1,439.886
広梁湾	448.674	208.393	657.068	231.619	888.686
貴城	765.876	274.134	1,040.010	245.068	1,285.078
南市	243.362	98.450	341.812	51.216	393.028
海南	275.384	143.531	418.915	17.088	436.003
計	2,581.700	1,076.531	3,658.235	784.385	4,442.621

官署別	製塩費	管理費	計	資本利子	合計
朱安	664	276	940	187	1,127
広梁湾	755	351	1,106	390	1,496
貴城	1,302	443	1,745	406	2,151
南市	1,447	583	2,032	305	2,337
平均	857	345	1,202	284	1,486
貴城	1,218	518	1,736	426	2,162
海南	37,518	19,555	57,073	2,328	59,401
平均	3,160	1,536	4,696	528	5,224
総平均	277	407	1,384	277	1,661

朝鮮官塩生産費

No

60+2書

年 別	区 分	製塩費	管理費	資本利子	計	平均
昭和 元年	成熟塩田	250	107	195	552	722
	未熟塩田	449	143	412	1,004	
2	"	252	103	183	538	612
	"	327	96	294	717	
3	"	186	90	143	399	440
	"	234	113	220	567	
4	"	163	52	120	335	372
	"	218	85	179	482	
昭和 5年	"	212	72	150	434	481
	"	292	81	238	601	
昭和 十七年	成熟塩田	857	345	254 1,202	1,456 2,544	1,681
	未熟塩田	3,160	1,536	528	5,224	

在来煎盐場の生産費 60相当
(100相当)

No

昭和5年調				
区 分	上	中	下	平均
元 銀	415	404	477	432
燃 料	441	446	429	439
器具 機械 他	246	252	249	249
資本利子	46	99	136	94
雑 費	72	186	96	118
計	1,220	1,387	1,387	1,332

再製塩の生産費 60相当
昭和5年調

区 分	釜山	京城	元山
原 塩 代	720	1,000	860
燃料費	334	450	432
人 夫 賃	106	150	123
事務員給料	24	30	-
工場修理	30	25	30
器具其他修理	5	4	10
固定資本	95	40	40
資本利子	15	10	10
保険料	6	4	4
雑 費	11	100	10
計	1,346	1,813	1,579

在来並越塩の塩田面積及生産高

No

年別	製造者数 人	全数 個	塩田面積 町歩	生産高 t	價額 千円	並越塩 m
大正						
10年	7,516	2,858	3,70.5	40,455	1,719	
11	6,689	2,483	2,81.5	39,062	1,093	2,25
12	6,627	2,408	2,66.1	40,786	1,583	2,36
13	6,772	2,490	2,602	33,829	1,377	2,41
14	7,193	2,232	2,504	30,366	1,260	2,49
15	7,274	2,259	2,282	40,294	1,380	2,06
昭和						
2年	6,980	1,844	2,048	34,797	1,237	
3年	6,723	1,754	2,170	34,706	1,061	
4	6,217	1,525	2,103	42,700	1,211	
5	5,421	1,353	2,530	33,920	819	
指数	72%	47	68	84	48	

昭和5年現在

道別	製造者数	全数	塩田面積	生産高	價額
京畿	351	20	95.8	3,654	64,281
東 南	711	200	163.8	1,734	59,351
全 北	172	65	72.2	1,133	39,246
全 南	3,734	809	1,137.0	11,026	325,919
廣 南	224	90	145.6	13,000	230,840
東 海	47	23	33.7	643	16,252
平 南	47	43	55.2	85	11,446
平 北	10	20	6.0	18	900
江 原	37	23	10.1	222	21,430
威 南	53	45	802.3	2,322	54,575
威 北	28	10	60.0	62	3,573
愛 北	7	5	1.2	20	910

計 5,421 1,353 2,530 33,920 819 塩業組合中央会

No

用製塩の原塩使用量及生産高

年別	製造者数	全数	原塩 使用量	製造数量	価額
大正			4	4	474
10年	101	229	37,115	36,147	1,136
11	88	214	35,919	35,073	1,069
12	67	183	40,596	39,756	1,501
13	74	183	38,873	27,526	755
14	70	174	28,601	28,040	998
昭和元年	65	159	33,462	32,606	1,040
2	65	153	39,018	37,866	1,094
3	50	146	34,868	33,800	908
4	64	162	34,221	33,030	870
5	67	165	38,805	36,590	947

用製塩道別生産高 昭和5年度

年別	製造者数	全数	原塩 使用量	製造数量	価額
京畿道	17	28	5,061	4,863	160
全羅北道	7	8	1,320	1,091	39
全羅南道	1	2	701	631	23
慶尚北道	2	5	2,246	1,736	47
慶尚南道	19	39	20,939	20,939	444
平安北道	4	8	179	154	7
平安南道	10	19	2,585	2,123	71
江原道	3	4	935	935	47
釜山北道	2	6	2,820	2,412	62
咸鏡南道	2	6	2,029	1,691	47
計	67	165	38,805	36,590	947

朝鮮に於ける民間塩業関係

No

会社名 面積		
大日本塩業KK 清川塩田	873町	昭和18年生産 23,500ト
朝鮮塩業KK 資本金 五拾萬円	47町5反 再製塩 天日乾塩 計	4,877ト 2,633 7,512 昭和2年創設 4年7月より製塩
群山塩田	80町5反	昭和19年 2,000ト, 103万7千
鏡紡海水利用	600町	
資本金 24萬円	社長 津田新吾	
蘇業製塩工場	資本金 五百萬円	社長 高橋敏 専務 前田昌英太
事務所 富士ビル		若計生産見込 20年度 25,500ト
東振鹽澤塩田	300町5反	
蒲州塩業 茅北塩業	15,000町5反 20,000	7町5反 50,000ト

12

15枚

11-2
12。

昭和十四年

意見書

天日製塩法と、天日鹹水並煎法との優劣に關する
朝鮮に於ける、民間資本による、製塩事業關係、

天日並煎製塩事業目論に対する意見書

一 昭和十四年頃 事業家の伊勢村鳳次氏は、広津濱、塩田、九九〇所より生産
する天日鹹水の拂下を受け、これを、鎮南浦迄、パイプラインにて送水、並煎製塩を
行は、官民共に塩の増産に存すること、許可申請を致し、また、
これに対し、本局に於ては、莫田技師、及田辺隆平氏に意見を徴した。

$$30p + 14p = 44p$$

一、真田技師の意見書

朝鮮總督府專賣局に對し
の度梁海出炭所長時代に專賣局に對し
意見書を差出した時の寫し

甲、意見、要旨

本意見書、主旨ハ天日塩田（廣梁灣）ニ於テ
鹹水ヲ製造シ之ヲ塩集散地（鎮南郡）へ
輸送シテ煎熬法又ハ木板槽ニ依リ製塩
セントスルモノニシテ其ノ結果品質良好ナル
食塩ヲ天日塩田ニ於ケル生産額ニ比シ三倍
額生産シ得ルノミナラス塩田ヨリ塩集散地
迄ノ回送費ヲ節約シ得ルノ利益アリト
謂フニアリ

乙、本意見ニ對スル批判

一、採塩高

本意見書、計畫ハ天日塩田ヨリモ三倍額ノ生産
アルコトヲ標榜シ居ルモ現在、天日製塩ト本方法

朝鮮總督府專賣局

トノ生産量、差異ハ天日塩田結晶日數ニ三日間
ニ於ケル漲水ノ地中滲透亡失量及降雨被害ニ
所禦ノ及ハサル部分ニ對スル損失量等、差ニ過ギ
スレテ提案者ノ考フルカ如キ莫大ノ增收ヲ見シミ
得サルハ關東州、台灣ニ於ケル當業者並ニ仁川
ニ於ケル朝鮮塩業株式會社ノ實績ニ鑑ミ明ニシ
テ本計畫案ハ採鹹及採塩ノ起算点ニ於テ大ナル
見込違アリト謂フヘシ又天日塩田ニテ製造セル
鹹水ヲ遠距離ニ輸送スルコトハ種々ノ障害アリハ
灣ニ於ケル此複製塩ノニケ年間ノ實績ニ徴スルモ
送鹹意ノ如クナラス鹹水ノ過度放ニ比重低下ヨリ
却テ天日製塩ヨリモ減収シタル實例サエアリ以上ノ諸
点ヨリ考察スルニ設計及操作ニ過誤ナシトスルモ

本法ニ依ル採塩増収量ハ天日製塩ニ比シ恐ラク二五割ヲ出テサルヘシ

二、設備費及生産費

天日煎熬又ハ木板槽製塩ノ為鎮南浦及廣梁灣兩地ニ於ケル揚水設備送鹹設備煎熬工場又ハ木板槽等ノ特別設備ニ要スル施設費ハ約百六十万円ニシテ略現在廣梁灣ノ採鹹塩田（七百七十町歩）ノ築造費ニ相當ス尙其ノ生産費ニ於テモ百斤當約一円餘ニシテ天日製塩費ノ略二倍額ニ當ル從テ塩田ヨリ塩集散地迄ノ運送費ノ節約ノ如キ採算上謂フニ足ラサルヘシ（廣梁灣塩田ヨリ鎮南浦マテハ散塩ニテ舟便ヲ以テ運送スルモノニシテ百斤當運送費ハ八美入厘三毛ニ過キス）

朝鮮總督府專賣局

三、製塩ノ品質

製塩ノ品質改良ニ就テハ尙攻究ノ余地アルモ現在當局所管塩田ニ於テ繼續施エシツ、アル甕破片又ハ煉瓦其他ノ材料ニテ結晶地改良ヲ施行スレハ一面坪當ニ円乃至四円ノ工費ニテ煎熬塩又ハ木板槽ノ製塩ニガラサル色相及成分ノ製品ヲ得ルガ故ニ敢テ一面坪當拾枚内ノ木板設備（木板ハ廣東州及米國シラキユス等ニ於テ敷設セシモ採算不引合ニテ失敗ニ終レリ）ニ依ル改良施設ヲ為スニ及ハサルヘク又煎熬製塩ノ如ク小粒塩ノ需要ニ對シテハ優良ノ天日塩ヲ粉碎洗滌スル等經濟的ノ加工法ヲ利用スルヲ可トスヘシ

四、結論

本計畫案ノ要旨トスル處ハ良塩増産ニアルモ良塩ノ生産ニ付テハ前項ニ述ベシ如キ更ニ有利ナル良法アルノミナラス煎熬塩等ノ小粒塩ノ價格不廉廉ナル限リ朝鮮ニ於テハ當今天日塩ノ消費ハ衰ヘサルモノト見ルヲ得又増産計畫ニ對スル論莫ハ

(イ) 現在ノ天日塩田ヲ二倍ニ擴張シテ倍額ノ生産塩ヲ得ルヲ可トスルカ

(ロ) 右擴張費ニ相當スル工費ヲ投シテ特別設備ヲナシ煎熬法又ハ木板槽製塩法ニ依リ生産費不廉ナル製品ヲ現在ノ天日塩田ニ比シニ三割方増産スルヲ可トスルカ

等ノ二莫ニ歸着ス而シテ前者ノ有利ナルコトハ今更多言ヲ要セサル所ナリ

朝鮮總督府專賣局

之ヲ要スルニ天日塩田ニ於テ一週間以上ノ日子ヲ費シテ濃縮セル鹹水ヲ以テ後二日乃至三日ニシテ完全ニ製塩シ得ルモノヲ殊更莫大ノ設備費ト燃料費トヲ投シテ天日塩ニ比シ倍額以上ノ生産費ヲ要スル煎熬塩ヲ製造セントスルガ如キハ未タ天日製塩ノ事情ヲ克ク究メサルノ結果ニヨルモノナルヘシ

附表一

製塩條件比較		(赤字ハ木板法)	
區	分	伊勢村氏計算	當局計算
田一町歩	四三六七石	二〇〇〇石	天日製塩賣績
水一町歩	七〇斤	六〇斤	
水一町歩	六〇斤	五四斤	
田一町歩	三五・五	一二〇・〇	九五〇・〇斤
田一町歩	二六・二	一〇八・〇	一八四四斤
田一町歩	不	三九六五斤	
田一町歩	明	五七四三	
田一町歩	一〇〇・〇	一七五八斤	四二五斤
田一町歩	六〇〇	六九三	

一、當局計算、塩田一町歩當鹹水生産量及鹹水一石當製塩量ハ朱安塩田ニ於ケル試驗成績ニ依ル

二、廣梁灣ニ於ケル天日製塩百斤當生産費ハ三十三

美五厘ナルモ 鎮南浦迄、廻送費ヲ加レハ四十二美五

重トナル

朝鮮總督府專賣局

附表二

廣梁灣塩田(七百七十町歩)ヨリ採取セル鹹水ヲ	
四里ヲ距テル鎮南浦へ埋設管ニテ輸送シ	
煎煮又ハ木板製塩スル場合、生産費調	
區	分
採鹹量	一五四〇・〇〇石
製塩高	九二、四〇〇・〇〇斤
現在迄設備費	八三、〇〇〇・〇〇斤
増加設備費	一、四一九・八八・円
内訳	一、四一九・八八・円
送鹹設備費	一、六三三・九五〇・円
煎煮設備費	三、〇〇〇・二一五・円
煎煮燃料費	三、五五一・五五〇・円
煎煮燃料費	二、八六四・四〇〇・円
煎煮燃料費	二、六五〇・六〇〇・円
煎煮燃料費	九七七・二九六・円
煎煮燃料費	五七五・一三五・円
生産費	二四五・〇五三・円

赤字ハ木板法

内 部 及 廣 東 經 商 資 本 利 子	廣 東 經 商 資 本 利 子	廣 東 經 商 資 本 利 子
二 大 一 四 八 六 円	一 七 一 五 八 一 〇 円	一 〇 五 八 厘
四 〇 四 一 〇 〇	一 七 一 〇 三 五	大 九 三
八 五 一 九 五 円	一 五 九 八 六 〇 円	四 二 三 厘
	六 四 五 九 一 円	

朝鮮總督府專賣局

一、田辺隆平技手の意見書

伊勢村屬次氏朝鮮鹽業新見ヲ讀ム

本論ノ主旨トスル所ハ天日鹽田ニ於テ鹹水ヲ製
造シテ之レヲ煎敷ルニテ品質ノ良好ナル塩
ヲ製造スルト共ニ其ノ塩田結晶池ニ於ケル損害
ヲ防止シ制衣塩量ノ増加ヲ謀リ以テ生産
費ヲ減減セシトスルコアリ皆好ノ向上ニ伴
良塩ヲ製造供給スルト及ビ單位面積ニ於
ケル採塩量ヲ増加シテ生産費ヲ減減セ
トスルコトハ主新義義裁トシテハ最モ策ノ得
ルモノナルベシ然レトモ天日鹽田ニ於テ一週間に
ノ日子ヲ費員シテ制衣造セシ鹹水ヲ後日乃至
五日コシテ完全ニ制衣塩ニ得ルモノヲ特殊ノ
設備ヲ爲シテ且ツ多額ノ経費ヲ投シ

朝鮮總督府專賣局

テ煎敷製塩ヲ爲サレトスルカ如キハ未ダ以
テ天日制衣塩ノ性質ヲ能ク究メザルノ結果
ニヨルモノナルベシ若シ現在ノ天日鹽田ニ於テ本
計畫ノ煎敷設備ニ要スル費用ヲ塩田ノ
結晶池其他ノ改良費用ニ投治員スルコ
ハ其塩ノ設備ハ永久的ノモノニシテ格別修
理改築等ノ必要ナク要セザルノコトヲ鹹水
煎敷ノ爲メニ要スル經常費カタクモ塩百
斤當面七十或ハ七十五有略ニ得ルノ利益
アルベシ又塩ノ品質ニ就テハ採塩方法加工方
法ノ如何ニヨリテ僅々ノ経費ヲ以テ如何ナル
良品ヲモ自由ニ制衣造シ得ルコト共ニ採塩
量モ強レト限度ニ近ク迄之ヲ増加シ得ル

ヲ以テ生産費ハ自然ノ遞減スルコト明ナルハ
朝鮮ノ天日塩田於テハ先以テ天日塩田完
全ナル改良發達ヲ謀ルコトガ凡テノ点ニ於テ
最モ有利ノ策タルベキヲ信ズルモノナリ
猶夫天日煎敷製塩ハ止レテ實創ニ徴スルモ
近々仁川ニ於ケル朝鮮塩業會社(漢東
州ニ於ケル大日本塩業會社ノ垂簾店工
場ニ於ケル東拓ノ旅順工場ニ於ケル台灣ノ
台灣塩業會社ノ順安工場ニ於ケル其
方法ニ多少ノ差異アリ然レモハキモ
其成績ニ於テハ一毛見ルニ足ルベキモノ
聞カズ殊ニ台灣塩業會社ノ工場(牡丹
八天日塩ニ比シテハ非常ナル減収ヲ連續
セリト聞ク)又以テ其性質ノ如何ナルモノ
カヲ推知スルノ由ヲトナスニ足ルベシ

朝鮮總督府專賣局

第一鹹水ノ清澄

鹹水ノ清澄ハ製塩作業上最モ大切ノモノトモ所論ノ清澄法ナレモハ如何ナル程度ノモノナレカ之ヲ知ルコ能ハサルモ其清澄費用ヲ二十或ト計上セリヲ以テ其効力如何ハ別トシテ經費ハ約二十或見當ト見レコトヲ得ベシ天日製塩法ニ於テハ其作業ノ行程中ニ於テ清澄セラルルモノニ幾方ノ操作ヲ加フル程度ニテ相當ノ清澄セラルルヲ以テ殊更ニ多額ノ費用ヲ投シテ之ヲ清澄スルノ必要ヲ認メザルナリ

第二方轉製塩法

所論ノ方轉製塩法ニ依ル現在ノ天日製

朝鮮總督府專賣局

塩ノ二倍以上ノ製塩ヲ為シ得ルガ如ク見エモ現在ノ天日製塩法ト方轉製塩法トノ數字上ニ於ケル差異ハ漲水三日間ノ千度以上二日ト結晶池二日ノ滲透亡失ト降雨ノ場合ニ防禦ノ乃バザル部方ニ對スル損害ノ差ニ過キズテ(最モ此三日間ハ最モ大切ノ時)而モ其損害タルヤ平素ノ九方ナル注意ト設備ノ完成トニヨリテ其大部方ハ之ヲ防止シ得ベキ性質ノモノナリ近時結晶池ニ溜ル鹹水溜ノ改良修築塩田手入作業ノ改善等ハ皆是等ノ損害ヲ除去シテ理想的ノ採塩量ヲ達サゲントスノ行程ニシテ漸時其目的ニ近ツキツウアルモノナレハ今後ニ宗旨替テシテ多額

設備費ト前費トノ投下ノ方輕製法ニ
ヨリテ製法ノ増加ヲ謀ルノ必要ヲ認ムナリ
第三優良塩

生産費ヲ多ク増加セズレテ優良塩ヲ生
産シ得ルナリハ此ノ越シタルアトナキヲ前敷
製法ニ於テハ天日製法ト異リ此点カ
困難ナル所ナリ現ニ内地專賣局ノ昭和四
年塩賠償價格ニ於テハ十パーセント(三等塩ト
九パーセント上等塩ト)間ニ塩百斤當五十銭
ノ差格ヲ三等塩ニ當リ一等塩ニ當リ(設ケ居
ル如キ明ニ其間ノ消息ヲ物語ル能ハナリ
但レ所請ノ清澄法ナリモノカ實現化別問題
コレヲ國家ノ為メ甚責獻スル所決シテ少ク

朝鮮總督府專賣局

コトナリナリ)前敷製法ニ於ケル此難
点ヲ或ル程度迄容易ニ經濟化シ得ルモ
ノハ天日製法ナリトス天日製法ニ於
テハ結晶池サヘ適當ニ出耳居シハ(築造費
利子塩百斤當十銭外)品質ハ或ル程度迄
自由ニ之レヲ左右シ得ルヲ以テ優良塩ヲ製
造スルニモ水分其他ノ夾雜物除去ニヨリ起ル
減量鹹水ノ精製(池水及苦汁除去等)ニヨリ
減量僅カノ努力等僅カノ經濟負ニテ容
易ニ之レヲ製法ニ得ルナリ想之ナキヲ結晶池
改良ノ結果鹹水及苦汁ノ滲透ニ失テ防ギ
得ルヲ以テ塩及苦汁ノ生産ヲ増加(従来苦
汁トシテノ生産量ハ強トナキ有様ナリ)スルヲ以テ

茲之始メテ其計利用ノ工業ヲ起シ得ルに至ルハシ
第四生産費

所論ニ依ル生産費ヲ塩(率五ハセト品所)百
斤當志用捨或ト豫定セリ品質ノ点ハ暫ク
置キ生産費ノ就テ見ルニ廣梁海塩田ノ
生産鹽水ヲ鎮南浦ニ輸送シテ之レガ煎煮
製取塩ヲ為シテ之ヲ需用季節ニ於テ販賣
スルニ採鹹ト塩ノ需用季節トガ異ルメ
鹹水溜塩庫、揚水及送水設備等莫大ノ
經費ヲ要スベシ計上セラレタニ五拾七万円ノ
倍額ニテモ或ハ不可能ニヤリサナキ力又鹹
水清澄法果シテ理想通りニ實現シ得ルヤ
疑問ナリ若シ清澄法ニシテ多サノ缺陷アラ

朝鮮總督府專賣局

シ力茲ニ大ナル艱難ヲ来スベシ又鹹水如何ニ完
全ニ清澄セラレタリトスルモ塩(率五ハセト品所)
百斤當田石炭五拾斤ノ消費量ト云フコトハ
或ハ少キニ失セシムアラサナキ力今日取進
歩セルト稱セラルニト具ウ空式蒸發設備ニ
於テスルモ塩百斤當六七十斤ヲ下ルコトハ頗
ル困難トセラレ居ル微スルモ容易ニ有
肯シ能ハザリナリ斯ク觀ミ来ルニ豫定通
商事カ理想的一ニ實現化セシ場合ノ塩
生産費百斤當志用捨既ニ天日塩同
等品所(生)ノ生産費ニ比シテ強シト五割ノ
高率ヲ示セル有様ナレバ若シ諸種ノ事
項中多サノ艱難ヲ来スガ如キコトアラハ

其差ハ益々隔絶スルニ至ルベシ

第五天日製衣塩ニ於ケル結晶池

所論ノ本枝結晶池ハ鹹水及苦汁ノ滲透

ヲ全ク防止シ得ルノ最大特長ヲ有ス然レ

トモ朝鮮ノ如キ良材拂底ノ場所ニ於

テハ其築造ニ経費ヲ要スル下多クナリ

上ニ其保存ニ要スル費亦用モ決レテ少ク

ニアリサルナリ殊ニ作業上ノ不便少カ

サルノ缺點アリ

然ルハ鹽豆片結晶池ニ如何是レ其築造

費極メテ安ク而モ作業上ニモ塩質ノ向

上ニモ生産増加ノ上ニモ相當ノ効果アリ

ト明ナリ然レトモ其性質上約三割ノ土

朝鮮總督府專賣局

底面積ヲ保有スルノ缺點ニ對シ

十全ヲ期スル能ハサルト鹹水滲透防止充

分ナリサルノ嫌アリナリ以テ築造及ビ作業

方法ニヨリテ或ル程度迄ハ之ヲ補ヒ得ル

モ未分ナリナリ以テ充分ナリト為スベカラザル

ナリ故ニ曰ク益々向上シツツアル各種用途

並ニ嗜好好ニ適スル塩ヲ自由製衣造スル

能ハサルヲ以テ執カ前敷製衣再製衣塩等

ノ如キ不経済ナル製衣塩法ノ相當發展

スルモ亦止ムヲ得サルニ由ツルモノナリ

漸時鹽豆片結晶池以上ニ適當ナル煉豆

或ハ豆類ノモノヲ製衣造スル設レ相當

完全ナル結晶池ヲ作り生産増加ヲ謀ル

ト其ニ用途並ニ嗜好ノ適スル處ヲ安撫ス
製衣造供殆ズルノ途ヲ講ズルニ於テハ所轄ノ
如キ企圖ハ全ク其影ヲ没スルニ至ルハ
ナリ

朝鮮總督府專賣局

1580 70 p

寫

昭和十四年

5。

(4)

朝鮮産天日塩の品質に関する資料。

一 昭和十三年頃、京城市内の再製塩業者より本局に対し
官塩は外塩（現在）に比し並致中、粘り製品不良と苦情が
寄せられ、
当時、公衆衛生部長の長田技師は私見として本書を答申した。

官塩が再製原料トシテ煎煮中液ノ粘ル理由

從來再製塩原料トシテ官塩ヲ使用スルトキハ煎煮中溶液粘リ不適当ナリトシ外塩ヲ使用シテアリ俗ニ溶液ノ粘ルト云フコトハ大体夾雜物(夾雜物中不溶解分ハ瀘過ノ際除去シ得ルヲ以テ問題トナス)多キコトヲ意味スルモノニシテ當業者ノ言ヲ歸納スレハ官塩ハ支那塩ヨリモ夾雜物多シト云フコトニ歸ス而シテ本問題ノ結論ヲ得ルニハ結局多數ノ分析結果ニ徴スル外ナキモ今俄ニ之ヲ試験スルヲ得サルヲ以テ茲ニハ旧塩ニシテ粒形、色相、含有水分等相似セル材料ヲ撰ヒ分析シタル第一表ノ結果ニ基キ之ヲ觀ルニ液ノ粘ル最大原因ヲ爲ス

朝鮮總督府專賣局

苦土及石灰類ノ含有量ハ外塩ノ平均數ニ九ニ對シ官塩土埋產三七六官塩蘆花池產四〇・〇ノ成績ニシテ又第二表ニ示ス昭和二年度分析成績(簡易分析ナル爲苦土、石灰等ノ区分判然セス)ニヨリ夾雜物ノ平均數ヲ比較スレハ支那塩五・八四官塩六・八六ニシテ之亦明カニ官塩ハ支那塩ヨリモ多量ノ夾雜物ヲ含有ス以上ノ結果ニヨリ判定スレハ當業者ノ云フ所無稽ノ言ニアラサルモノト思考セラル然ラハ何故ニ官塩カ支那塩ヨリモ夾雜物多キカト云フニ(海水ノ成分、製塩操作ノ方法、塩田ノ土質及地層等ノ兩者比較ハ不明ナルヲ以テ論外トス)同時期採取ノ旧塩トシテモ支那塩ハ官塩ニ比シ(一)野積ヲ常例トシ(二)朝鮮内ニ入ル迄ニ度々積換

ヘテ行フコト等ノ原因ニヨリ水分ハ勿論若汁
逸失ノ機會多キカ爲ニシテ官塩土埋産モ今少
シク積換ヘ又ハ空氣ニ曝露サル、機會多カラシ
ニハ支那塩ト同一程度ノ状態トナルヘキモノナラン
唯タ鹽片池産塩ハ最初ヨリ比較的多量ノ若汁
ヲ含有スルノミナラス粒形小ナル關係上相當期
間貯蓄スルトモ若汁ノ逸失遲々タルモノアリテ
土埋産ニ一箭ヲ輸スルモノトス

官塩ニテ再製スレハ歩留少キ理由

官塩ヲ原料トシテ再製スレハ支那鹽使用ノ
場合ヨリモ歩留少シトハ之ホ多量者ノ等シク
認めル所ナリ元來歩留ノ多少ハ鹽化曹達量ノ

朝鮮總督府專賣局

多少ニ起因スルモノニシテ昭和二年朝鮮ノ
市場ニ販賣サレタル官塩及外塩ノ一部平均
成分ハ第二表ニ示スカ如ク(第一表ハ特ニ水
分、色相等同程度ノモノヲ撰定セルニ付其場
合比較ノ標準トナラス)官塩ハ水分多クシテ
鹽化曹達ノ量少ク一再製原料トシテ歩
留少キハ当然ノコト、ス然ルニ之ニ反シ枳
目ニ於テハ官塩ハ支那鹽ヨリモ多シトノ
定評ナルカコハ第三表乃至第五表ニ示ス
試験成績表ノ如ク(粒形ノ様ナル場合)帶
濕鹽ハ乾燥鹽ヨリモ枳目多キヲ通
例トスルカ故ナリ

煎煮中若汁ヲ添加スレハ大粒ノ結晶ヲ得ル理由

塩ノ結晶粒ノ大小ハ製造中ノ溫度ノ高低ニ因ル
コト大ニシテ今鹹水ヲ其ノ沸騰矣ニ保チツゝ不
斷ノ泡沸ヲ持續スレハ細粒ノ結晶ヲ收得シ
得是レ食塩ノ結晶ヲシテ毫モ成長ノ機會ニ
逢ハシメサルガ爲ナリ溫度稍々低クシテ
泡沸ノ波ヲ起サハルトキハ結晶ハ漸ク尖銳トナ
ル然レトモ末タ粒ノ大サヲ増サス尚溫度下リテ
根長五。乃至七。度ニ於テハ一辺ノ長サ二乃至四
粒ノ大粒ヲ生ス而シテ朝鮮大日塩田結晶池ノ日
中水温ハ最盛期ニ於テスラ根長四。度内外ニ止
マリ從テ結晶粒ハ煎煮塩ニ比シ非常ニ大ナリ
由來塩ノ結晶ハ液ノ表面ヨリ生スルモノニシテ

朝鮮總督府專賣局

液力絶エス動搖シツ、アルトキハ結晶ハ直ナニ釜
底ニ沈澱スレトモ若シ然ラスシテ液面靜後ニ
保テルトキハ結晶ハ暫時液面ニ浮ヘルヲ以テ上
位ニ在ル結晶ノ邊緣ニ新シキ結晶ノ邊緣ヲ附
着シ從テ其ノ重量ニヨリ幾分カ液面ヨリ下
降スレトモ而モ容易ニ沈澱セス蓋シ斯ル結晶
團ノ中央ニハ小ナル空間ヲ形成スレハナリ斯ノ
如クニシテ追々結晶附着スレハ漸次肥大シ從テ
其ノ重量ヲ増加スルニヨリ結晶ハ益々下降シ已
ニ彼ノ空間ニテ支フル能ハサルニ至リ遂ニ沈降
ス要スルニ結晶ヲ液面ニ長ク浮滯セシムレハ
結晶粒ヲ大ナシムル訳ニシテ朝鮮ニ於ケル煎
煮及再製塩工場ニ於テ其目的ノ下ニ若汁ヲ

添加スル理由モ又茲ニ存スルナリ即チ此重大
ナル液ハ食塩ノ結晶ヲ浮游セシメ易キヲ以
テナリ因ニ真空蒸製塩ノ場合ハ低温煎煮
ナルモ煮沸状態激烈ナル爲結晶粒結合ノ機
會ナク微細ナル結晶粒ニ終結ス、終採塩
サル、モノナリ

(第一表) 輸入鹽及官鹽分析成績表(百分率)

種別	水分	不潔物分	灰分	蛋白質	脂肪	糖質	纖維素	總計	總計摘要
平均(外港)	八.九.	六.四三	五.五八	八.二三	一.三二九	九.九三	五.五五	九.九三	九.九三
南洲二等魚	九.五.	一.三六	五.三一	一.七.四	一.四七	五.一四	五.一四	九.九三	九.九三
平均(本港)	九.九.	一.〇九	四.九	一.六六	一.八三	三.七四	五.四六	九.九三	九.九三
君子二等魚	七.四.	一.七五	六.四九	一.八七	二.〇九	五.九九	六.六六	九.九三	九.九三
廣興二等魚	六.六.	八.五	五.九七	二.八九	〇.九八	五.七四	五.五七	九.九三	九.九三
德興二等魚	五.一.	五.六八	五.九七	一.六八	一.七三	五.七四	四.六八	九.九三	九.九三
南洲二等魚	七.九.	一.〇八	五.一三	一.〇五	一.三三	五.七三	五.八八	九.九三	九.九三
平均(本港)	六.九.	一.〇三	四.一三	一.八八	一.四七	五.四九	五.一四	九.九三	九.九三
廣興二等魚	八.六.	四.六	五.三	五.五	一.九	五.一	五.七	九.九三	九.九三
山東省二等魚	七.五.	六.四	五.八	七.九	一.〇九	五.四	五.九	九.九三	九.九三
青島二等魚	八.七.	九.七	三.九	二.二	一.四	五.四	四.〇	九.九三	九.九三

朝鮮總督府專賣局

楊花遺說
紀
新
摘
要

備考

一、可檢塩採収ニ當リ内外塩トモ旧塩ニシテ色相、水分等可成
相近似セリト認メラル、モノヲ採収セリ

二、瓊片敷設結晶池產塩ト土埕結晶池產塩トハ成分相異セルヲ以テ比較、便宜上、各別ニ平均ヲ掲記セリ

(第二表)朝鮮ニ於テ販賣サル、天日塩分析成績				
產地	水分	夾雜物	塩化曹達	分析摘
関東州	七、八八	六、五三	八五、五九	一四
山東省	七、一九	五、二三	八七、五八	一五
青島	五、七八	五、七六	八八、四六	一一
平均	六、九五	五、八四	八七、一一	四〇
鎮南浦	一〇、一〇	六、四四	八三、四六	四
仁川	一一、八〇	七、二八	八〇、九二	七
平均	一〇、九五	六、八六	八二、一九	一一

備考

輸入塩ハ各輸入港へ陸揚シタル貯蔵中ノ塩ヲ採收シ

官塩ハ仁川及鎮南浦、在庫中平均ト見做サル、モ、ヲ

試験セシモノニシテ双方共將ニ市場へ現レントスル直前

朝鮮總督府販賣局

ノ状態ヲ調査セシモノニシテ昭和ニ年度ノ試験ニ依ルモ

ノナリ

(第三表) 原塩量衡比較表

種別	乾燥一等塩	帶濕一等塩	乾燥二等塩	帶濕二等塩
番号	一	二	三	四
衡	百斤目	百斤目	百斤目	百斤目
秤	四七、三五	四七、三八	四六、六五	四六、六三
目	二一、二五	二一、〇〇	二一、三五	二一、三五
斗	五、二〇	五、一五	五、一五	五、一五
量	一九、三五	一九、五〇	一九、三〇	一九、三〇
秤	四四、九五	四四、四〇	四五、六〇	四五、六〇
目	二二、〇〇	二一、七五	二一、六〇	二一、六〇
斗	四、八六	四、九七	四、八三	四、八三
量	二一、〇〇	二〇、五〇	二〇、六〇	二〇、六〇
平均	四七、五	二一、二一	五、一四	一九、三五
計	四七、五	二一、二一	五、一四	一九、三五

備考、本試験ハ大正元年八月二十六日廣梁湾第五已塩田

ニ於テ施行ス

(一) ハ不熟練者ノ量リシモノ

(二) ハ熟練者ノ量リシモノ

(三) ハ熟練者ノ原塩ヲ一旦箕ニ取リテ後秤ニ入レシモノ

朝鮮總督府專賣局

(第四表) 朱安粉砕塩量衡比較表

種別	乾燥一等塩	帶濕一等塩	乾燥二等塩	帶濕二等塩
番号	一	二	三	四
衡	百斤目	百斤目	百斤目	百斤目
秤	四一、六六	四一、六六	四一、六六	四一、六六
目	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇
斗	四、四七	四、四七	四、四七	四、四七
量	二三、〇〇	二三、〇〇	二三、〇〇	二三、〇〇
秤	三八、三二	三八、三二	三八、三二	三八、三二
目	二五、五〇	二五、五〇	二五、五〇	二五、五〇
斗	四、三一	四、三一	四、三一	四、三一
量	二三、二〇	二三、二〇	二三、二〇	二三、二〇
平均	四一、六六	四一、六六	四一、六六	四一、六六
計	四一、六六	四一、六六	四一、六六	四一、六六

備考、(一)ヨリ(三)マデハ鮮人普通ノ量リ方ニシテ(一)ハ最モ巧妙ナル

方(二)(三)之ニ次ク

(第五表) 乾燥塩一斗ニ水分ヲ加ヘテ其ノ容積及重量

増減調査表

供試品 番号	水分百分率	塩一斗ノ 重量	増減量	容積一斗ノ 容積	増減容積	重量増減 百分率	容積増減 百分率	備考
一	五.三七二	二五.三八	1	一〇.〇〇〇	1			水五.〇〇〇 若シ
二	七.〇〇一	二五.〇七	一〇.三一	一〇.二二五	〇.二二五	二.二二五	二.二二五	水五.〇〇〇 若シ
三	九.〇八五	二五.九四	一〇.一五	一〇.四八四	〇.三〇九	一.二六三	二.〇八九	水五.〇〇〇 若シ
計						四.八八八	四.八八八	

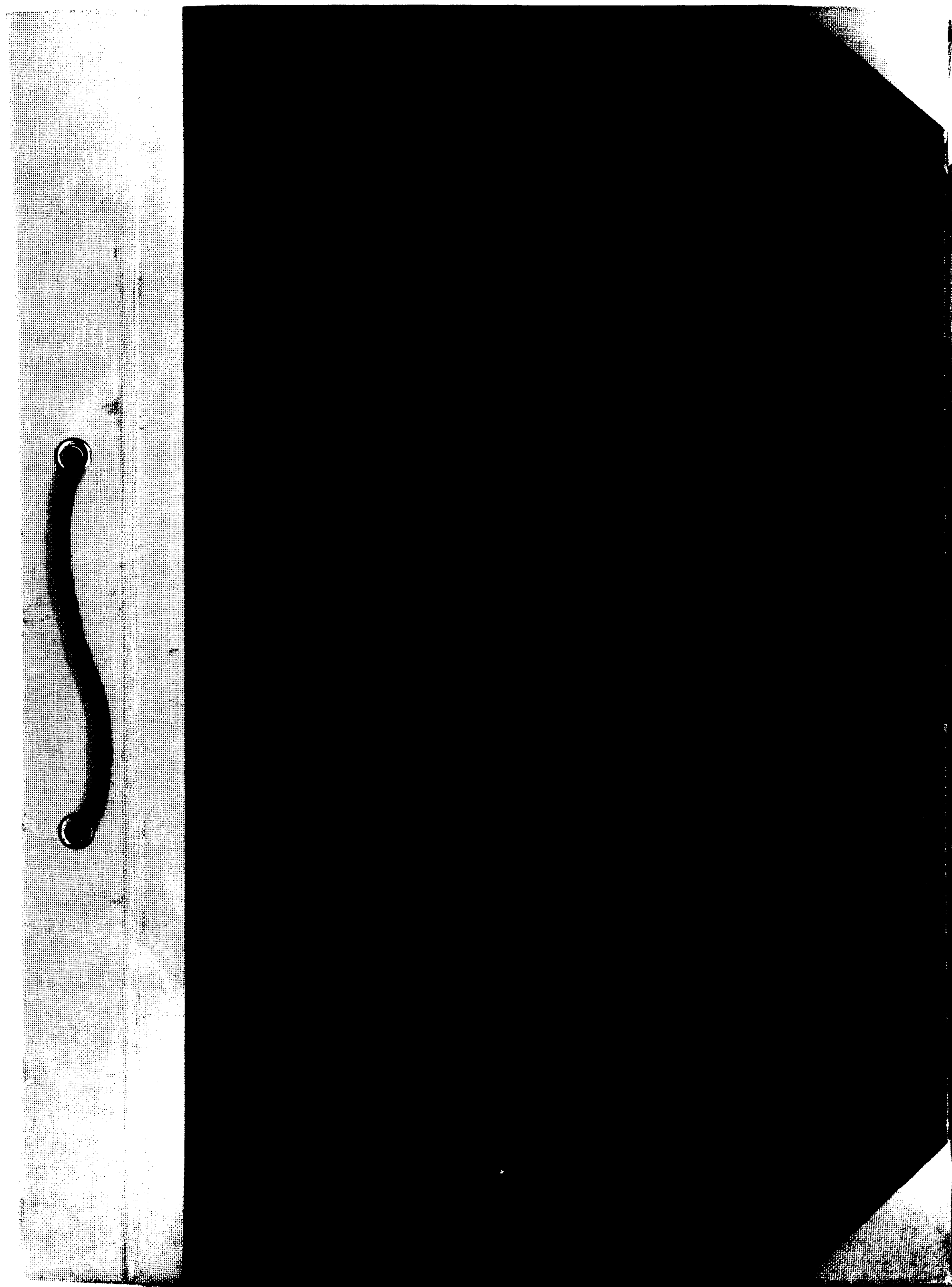
備考 本試験ハ廣梁灣ニ於テ施行セシモノニテ、供試塩ハ採塩後
一ヶ年ヲ経過セルモノヲ採リ其ノ容積ヲ量ルニ際シ常ニ析
縁ヨリ四寸ノ高サヨリ塩粒ヲ落下セシメ之ニ斗概ヲ引キ
其容積重量ヲ量リシモノナリ

朝鮮總督府專使

第五表ノ二 今上第二回試験成績表

供試品 番号	水分百分率	一斗ノ重量	摘要
一	九.三三四	二五.七五	六月ノ採塩
二	一三.一三〇	二一.〇〇	七月ノ採塩

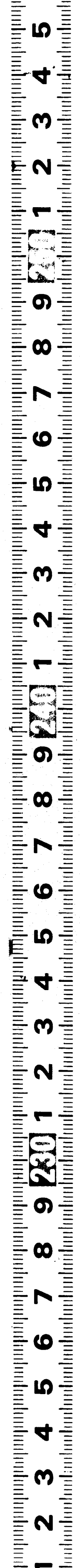
備考 本試験ハ大正元年八月二十七日廣梁灣塩田ニテ
施行



二專賣局朱安出張所関係資料
工業部事務司 海軍省 自一巻三
告

669
76 Is.2

M4-159-3



(二)

昭和拾六年拾月壹日

專賣局 朱安出張所 関係資料

千葉縣船橋市海神町一丁目二〇番二号
石川 武吉

669
7152

5 6 7 8 9 280 1 2 3 4 5 6 7 8 9 240 1 2 3 4 5 6 7 8 9 250 1 2 3 4 5

二、製塩官署、米安出張所管内の文書資料

目

次

1. 管内の塩田面積と、塩田築造年代、及び天日塩の生産額
2. 明治四十四年九月、第一期工事として竣工した、米安塩田、九十八町歩の平面
3. 昭和三年八月発行の米安塩田概要
4. 昭和十七年七月一日現在の塩田職員配置表
5. 大正十二年撮影の庁舎、天日塩粉碎工場、倉庫塩工場写真
6. 大正十二年六月米安塩田を視察した、青木専賣局長
7. 昭和十七年度、管内塩田の、採塩豫定数量、及製塩作業の方針表
8. 塩夫給配付等の計画書
9. 昭和十四年度、製塩加給金、支拂調書
10. 昭和三年度、管内塩田所長會議録
11. 大正十三年に於ける米安塩田、塩蔵収に対する推問書、答申
12. 塩田若汁を原料とする、菓品製造の收支調査（武田菓品工業）

別冊

- (12) 昭和四年度、塩床別の塩生産量及品質改良試験報告書（別冊）
13. 大正十三年頃米安に設置された、塩田監督員養成所の教科書
14. 大正十一年頃米安塩田の塩夫長用として配付する塩田規程要必携書

南洞派出所関係

1. 昭和三年、南洞塩田を視察した、松本専賣局長、及び大山清、米安出張所所長の写真二葉
2. 昭和三年、管内塩田に於ける、製塩成績優良塩田として表彰された
3. 南洞第二区塩田の、監督及び塩夫長の写真
4. 昭和三年度、南洞塩田、事業年報
5. 仁川港、運送塩の欠減立會検査、復命書（昭和三年）
6. 南洞第一区、第二区、第三区塩田平面圖

君子嶺出張所関係

1. 昭和十四年、車道通報に掲載された、君子嶺塩田竣工に關する記事二編

- 一 君子塩田増設切込に臨みて、近藤青太郎氏及び榎木謙平氏
- 二 昭和十八年君子派出新長が申請した、従事員子弟の國民學校
學級増設申請書、及び戰時下、食糧確保の農場設置申請書
- 三 昭和十七年度、製塩加給金支拂調書
- 四 君子塩田、平面圖

蘇業派出新関係

- 一 昭和十五年頃、專賣直報に投稿された、鈴木琢雄氏の「塩田の
紋リハツリ」
- 二 蘇業塩田、三町歩地割標準圖
- 三 蘇業塩田平面圖
- 四 京畿道、仁川沿岸綿天五萬分地圖

4項目
961

4項目
961

(昭和29年現在)

朝鮮總督府專賣局製塩官署 朱安出張所管内。

天日塩田面積、塩田築造年代、及、塩生産額

$$S = \frac{1}{100.00}$$

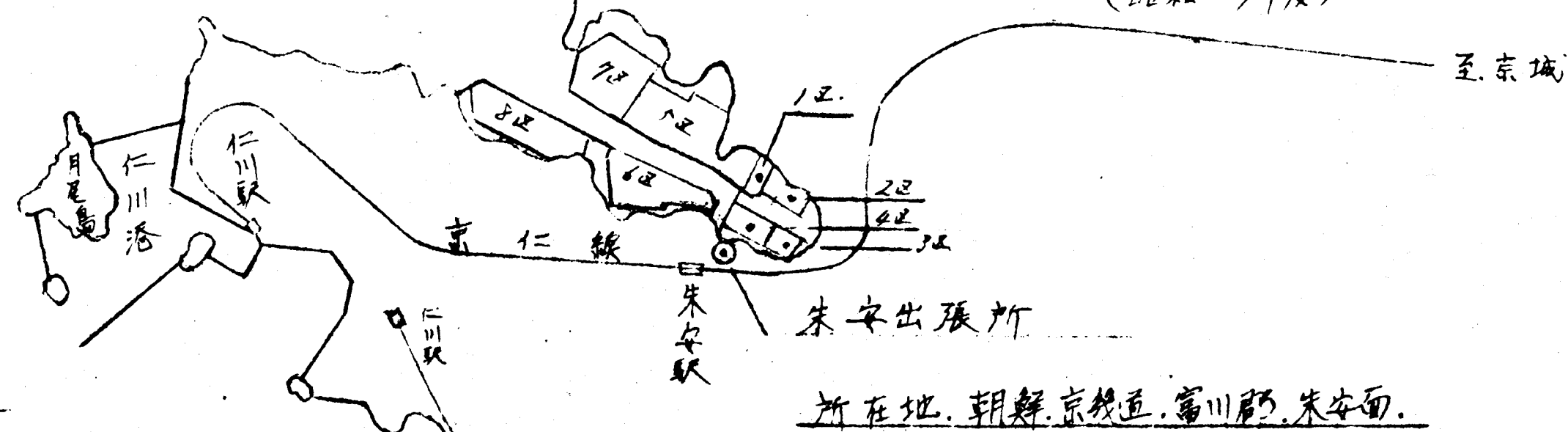
京義道 富川郡

永宗島

松山里

海草島

江華島



塩田面積 1,664.729-12

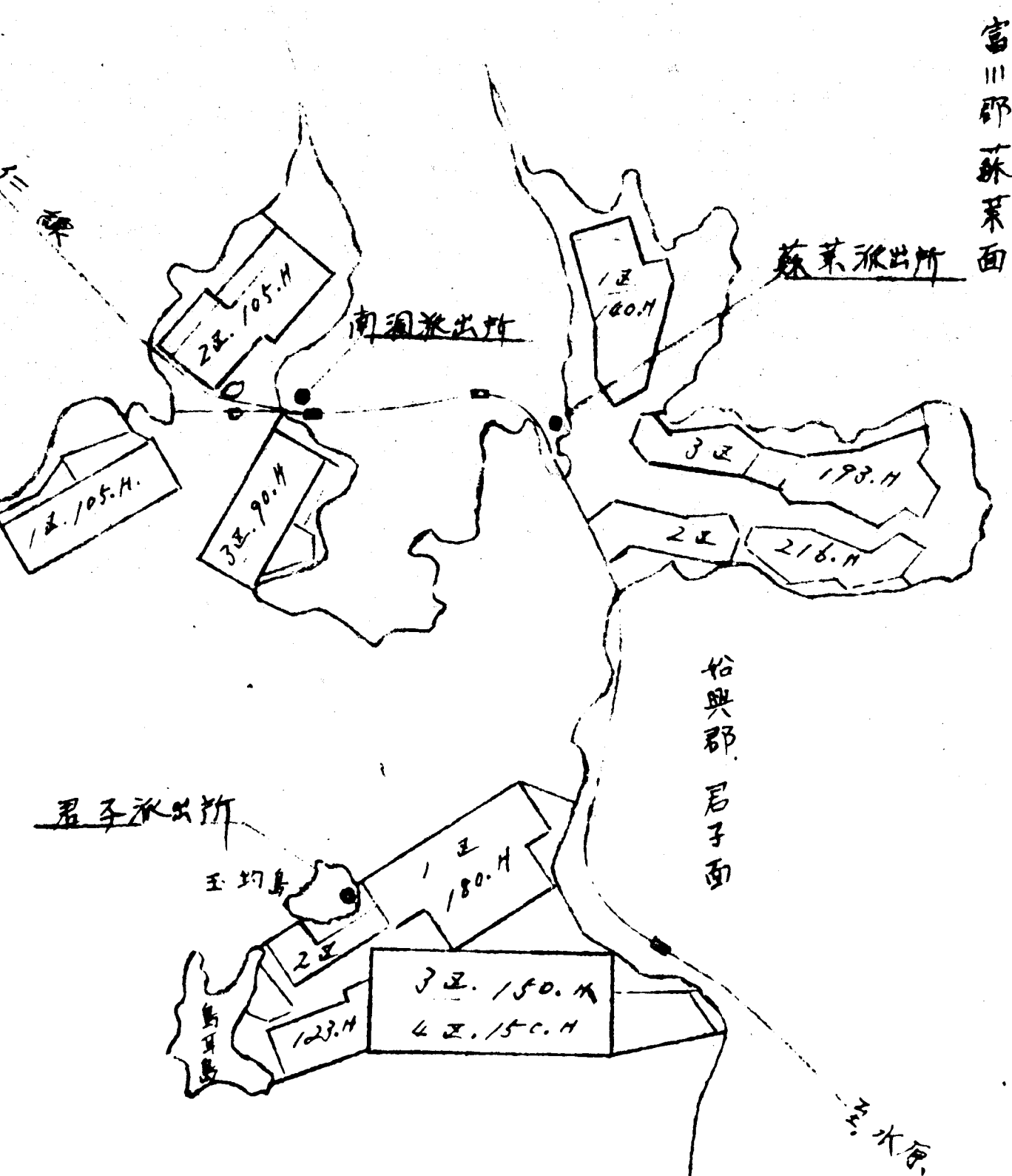
塩生産額 127,750.76
(昭和17年度)

至京城

朱安管内塩田築造年代と築造費

塩田別	面積	塩田築造年代	築造費
朱安	1区 1.1	明治40年9月	
	2区 8.6	明治42年6月	
	3区 9.0	明治43年5月	
	4区 14.5	明治43年5月	
	5区 57.3	明治44年7月	
	6区 32.4	大正8年3月	
	7区 48.9	大正8年3月	
	8区 64.6	大正8年3月	
計	2,124		74
南洞	1区 105.0	大正10年5月	
	2区 105.0	"	
	3区 90.0	"	
	計 300.0		800
蘇萊	1区 160.0	昭和14年	
	2区 218.0	"	
	3区 192.0	"	
	計 548.0		
君子	1区 180.0	大正14年3月	
	2区 123.0	"	
	3区 200.0	"	
	計 603.0		1,518
合計	1,664.0		

黄海



富川郡蘇萊面

蘇萊出張所

南洞出張所

君子出張所

怡興郡君子面

至水原

昭和26.5月石川

六 製塩官署、米安出張所管内の文書資料

目次

1. 管内の塩田面積と、塩田築造年代、及び天日塩の生産額
2. 明治四十四年九月、第一期工事として竣工した、米安塩田、九十八町歩の圖面
3. 昭和三年八月発行の米安塩田圖面
4. 昭和十七年七月一日現在の、塩田職員配置表
5. 大正十二年撮影の、片倉、天日塩粉砕工場、倉庫、塩工場寫真
6. 大正十二年六月、米安塩田を視察した、青木専賣局長
7. 昭和十七年度、管内塩田の、採塩豫定数量、及製塩作業の方針、塩夫給配付等の計畫書
8. 昭和十四年度、製塩加給金、支拂調書
9. 昭和三年度、管内塩田所長會議録
10. 大正十三年に於ける、米安塩田、塩減収に対する、推問書、答申
11. 塩田苦汁を原料とする、菓子製造の收支調査（武田菓子工業）

別冊

- (12) 昭和四年度、塩床別の塩生産量、及品質改良試驗報告書（別冊）
13. 大正十二年頃、米安に設置された、塩田監督員養成所の、敘科書
14. 大正十一年頃、米安塩田の、塩夫長用として、配付する、塩田規程要必携書

南洞派出所關係

1. 昭和三年、南洞塩田を視察した、松本専賣局長、及び大山清、米安出張所所長の寫真ニ乗
2. 昭和三年、管内塩田に於ける、製塩成績優良塩田として表彰された、南洞第三區塩田の、監督及び塩夫長の寫真
3. 昭和三年度、南洞塩田、事業年報
4. 仁川港、運送塩の欠減立會檢査、復命書（昭和三年）
5. 南洞第一區、第二區、第三區塩田平面圖

君子嶺出張所關係

1. 昭和十四年、車賣通報に掲載された、君子嶺塩田竣工に關する記事ニ編

- 一 君子塩田増設式に臨みて、辻藤幸太郎氏及び櫻木時平氏
 二 昭和十八年 君子派出所長が申請した、従業員子弟の國民學校
 學級増設申請書、及び戰時下、食糧確保の農場設置申請書
 三 昭和十七年度、製塩加給金支拂調書
 四 君子塩田、平面圖

蘇業派出所関係

- 一 昭和十五年頃、東貢通報に投稿された、鈴木球雄氏の「塩田の
 紋リについて」

二 蘇業塩田、三町歩地割標準圖

三 蘇業塩田平面圖

四 京畿道、仁川沿岸綿尺五萬分地圖

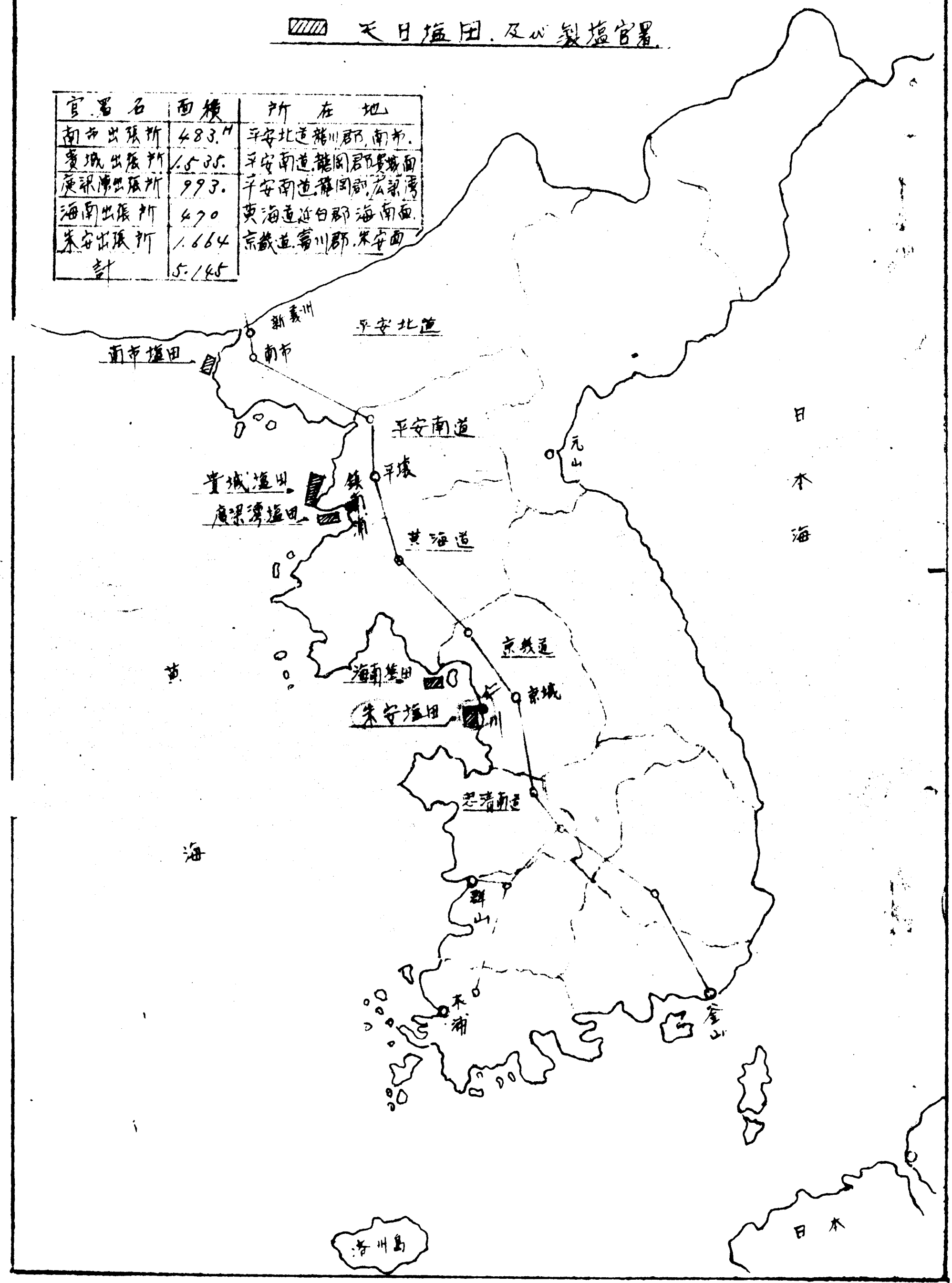
①

(昭和20年現在)

朝鮮總督府、專賣局、製塩官署所在地。

天日塩田、及製塩官署

官署名	面積	所在地
南浦出張所	483.4	平安北道龍川郡南浦
襄陽出張所	1,505	平安南道龍岡郡襄陽
慶源出張所	993	平安南道龍岡郡慶源
海州出張所	470	黃海道延白郡海州
朱安出張所	1,664	京畿道密川郡朱安
計	5,115	



(昭和20年現在)

朝鮮總督府. 專賣司. 製塩官署. 朱安出張所. 管内.

天日塩田面積. 塩田築造年代. 及. 塩生産額

$$S = \frac{1}{100.00}$$

京釜道. 富川郡

永宗島

松山里

苧栗島

江華灣

塩田面積. 1,664.728-12

塩生産額. 127,750.78
(昭和17年度)

至京城

朱安管内. 塩田. 築造年代と築造費.

塩田別	面積	塩田築造年代	築造費
朱安	1区	明治40年9月	
	2区	明治42年6月	
	3区	明治43年5月	
	4区	明治43年5月	
	5区	明治44年7月	
	6区	大正8年3月	
	7区	大正8年3月	
	8区	大正8年3月	
計	2,124		617.
南洞	1区	大正10年5月	
	2区	"	
	3区	"	
	計		800.
蘇萊	1区	昭和14年	
	2区	"	
	3区	"	
	計		549.
君子	1区	大正14年3月	
	2区	"	
	3区	"	
	計		1,518
合計	1,664.0		

朱安出張所

所在地. 朝鮮. 京釜道. 富川郡. 朱安面.

富川郡蘇萊面

蘇萊出張所

南洞出張所

君子出張所

怡興郡君子面

昭和20.5.15.石川.

(2)

一、朝鮮總督府專賣局朱安塩田平面圖

縮尺 三十分之一

一、所在地 京畿道富川郡朱安地先

一、天日塩田面積 九八町步(第一期工事分)

一、塩田築造年月

起工 明治四十四年七月
完成 四十四年九月

大正8年3月. 農商務省. 水産講習所. 資料.

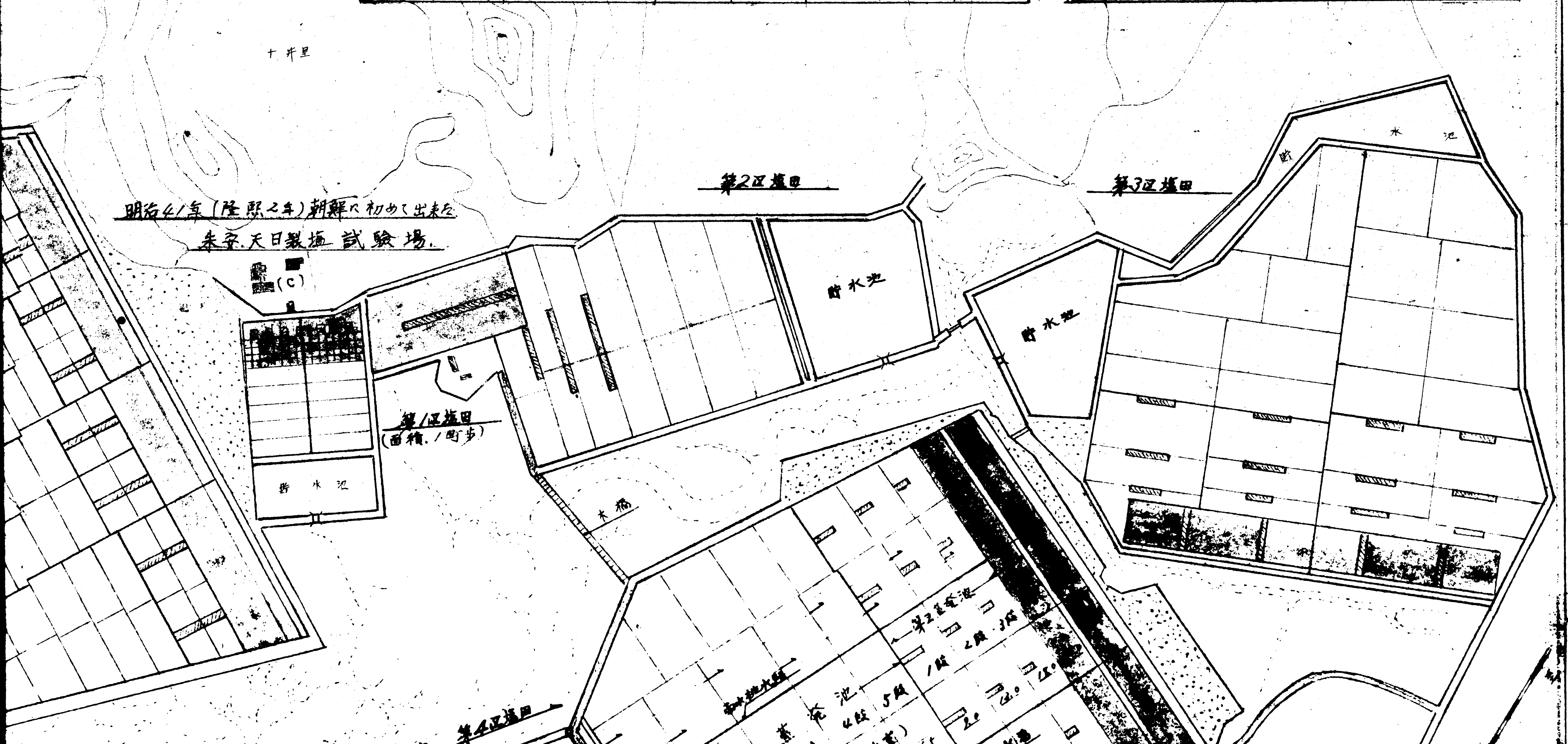
海水蒸発作業に必要な塩田面積.

外堤. 貯水池. 等の附帯面積

87.450町. 1町歩当り883町
 1町歩当り生
 2,800,000斤. (5,800トン) 88.8トン
 元. 韓國. 財政顧問. 男爵. 目賀田種太郎氏
 内地. 大蔵省技師. 奥. 健蔵氏

區分	蒸発池	結晶池	鹹水溜	畦畔水路	給水池	塩堆場及道路	計	町歩換算
第1區	2,388	320	100	192	0	0	3,000	町歩 1.0
第2區	9,860	1,648	410	1,438	079	307	13,742	4.5
第3區	22,769	2,640	670	3,004	1,593	643	32,319	10.8
第4區	25,910	3,990	621	3,687	523	4,180	48,912	16.3
第5區	135,215	14,423	4,396	27,934	3,473	11,954	197,415	65.8
計	209,142	23,021	6,197	36,257	5,687	17,084	295,388	98.4

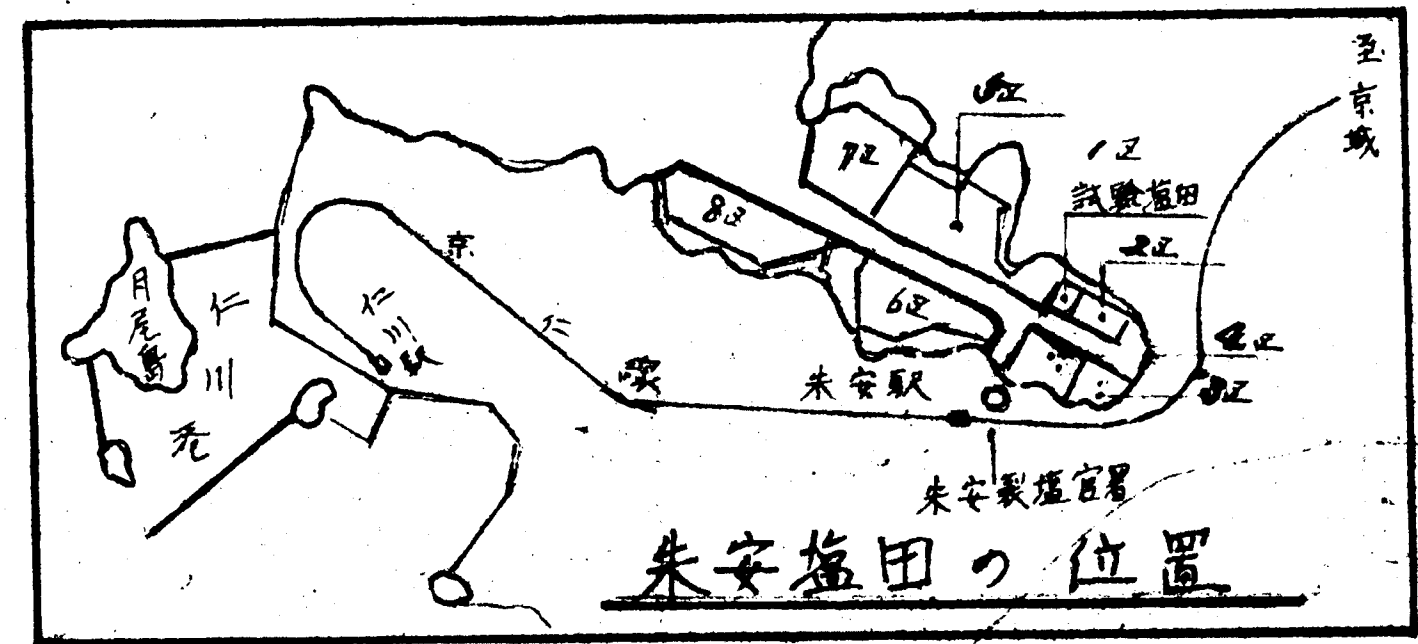
區分	堤防敷地	貯水池面積	計	町歩換算	合計
1區	1,650	1,350	3,000	1.0	2.0
2區	2,013	7,779	5,992	1.93	6.5
3區	2,306	2,989	5,295	1.77	12.5
4區	4,440	26,056	30,496	10.200	26.5
5區	20,193	27,195	47,388	15.800	81.6
計	30,602	61,369	91,971	30.90	129.1



朝鮮總督府專賣局朱安塩田平面圖

大正8

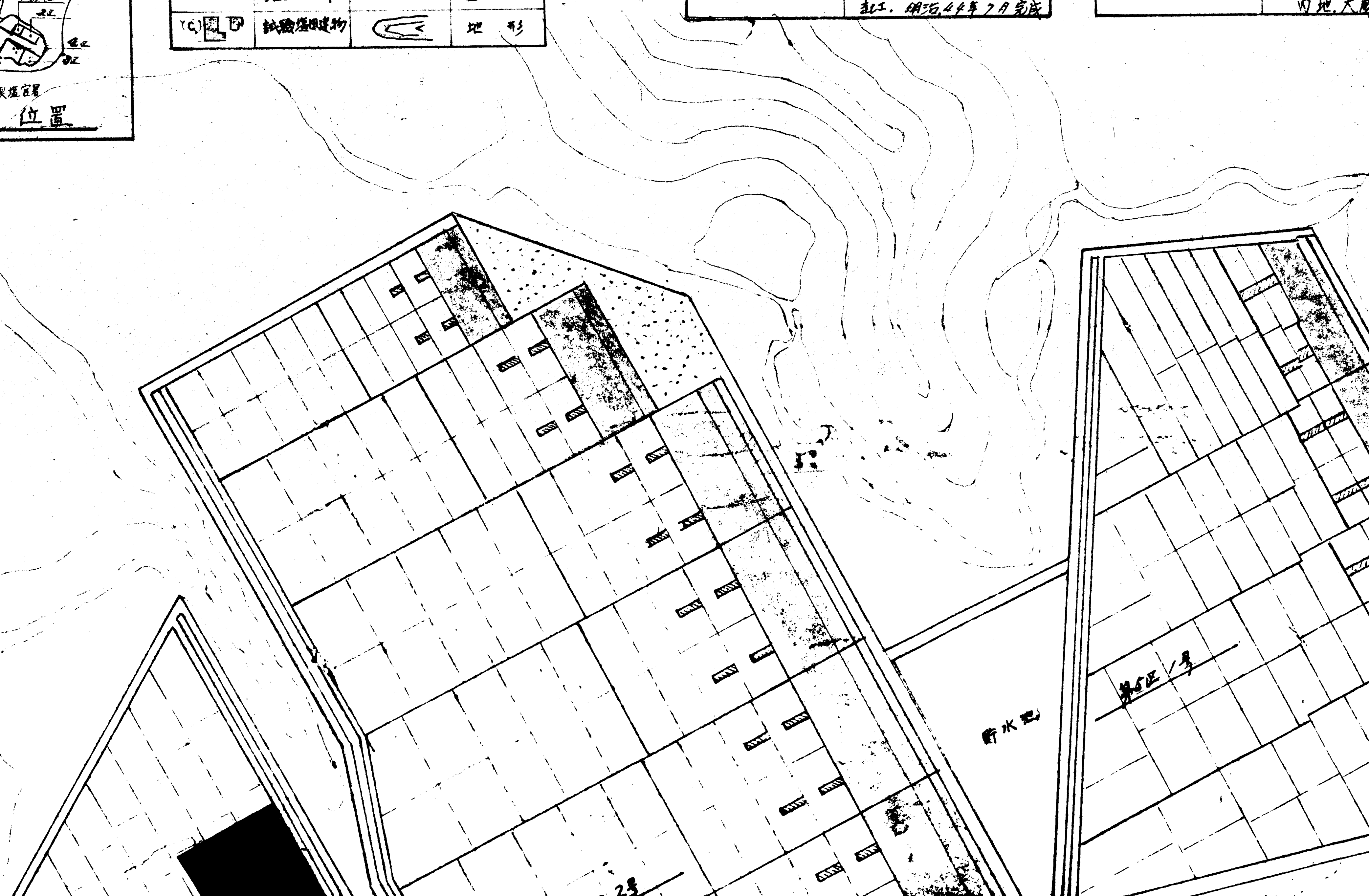
$S = \frac{1}{3,000} \text{ 尺}$

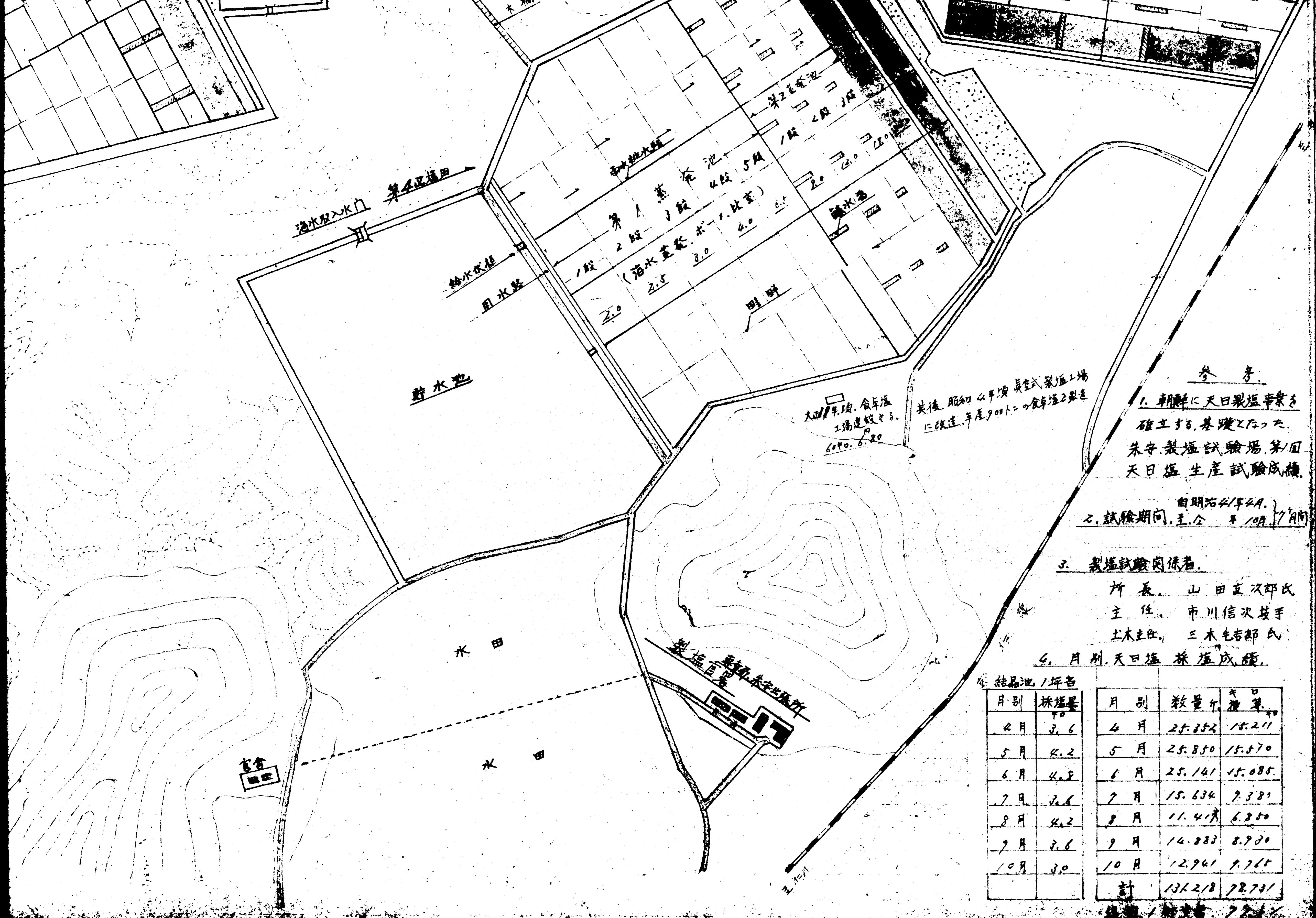


凡	例
	製塩官署
	貯蔵所
	官舎
(A)	塩粉砕工場
(B)	塩庫
(C)	試験塩田建物
	外部堤防
	蒸発池
	結晶池
	塩堆場
	道路
	地形

1. 所在地	京畿道 富川郡 朱安面
2. 面積	第1期工事 98町歩
3. 築造年月	明治41年7月 (光武11年) 起工 明治44年7月完成

4. 築造費	87,450
5. 天日塩生産 (量)	9,800,000
6. 工事関係者	元 韓國 駐 内地 大蔵





参考

1. 朝鮮に天日製塩事業を確立する基礎となつた。朱子製塩試験場、第1回天日塩生産試験成績。

自明治41年4月、
2. 試験期間、至全 年10月、7月

3. 製塩試験関係者

所長、山田直次郎氏
主任、市川信次技手
土木主任、三木吉郎氏

4. 月別、天日塩採塩成績

結晶池1坪当り

月別	採塩量	月別	数量	天日塩
4月	3.6	4月	25.852	15.211
5月	4.2	5月	25.850	15.570
6月	4.8	6月	25.141	15.085
7月	3.6	7月	15.634	9.381
8月	4.2	8月	11.418	6.850
9月	3.6	9月	14.883	8.980
10月	3.0	10月	12.961	9.765
		計	136.218	78.731

採塩1坪当り 72.1

第5区1号

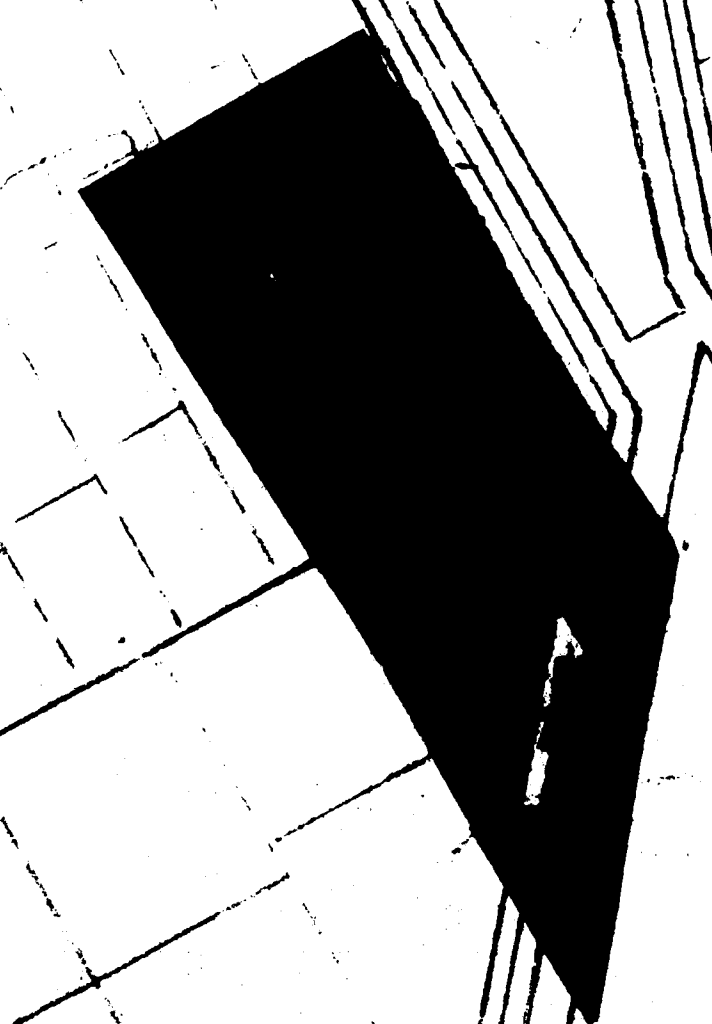
貯水池

第5区2号

貯水池

第5区3号

天日塩の原料となる海水浴場



朝鮮總督府專賣局 天日塩田

京釜道沿岸所在地 石川武吉

朱安塩田管内 五萬分之地圖

川 仁 5

浦金	城京	崎藤
川仁		州廣

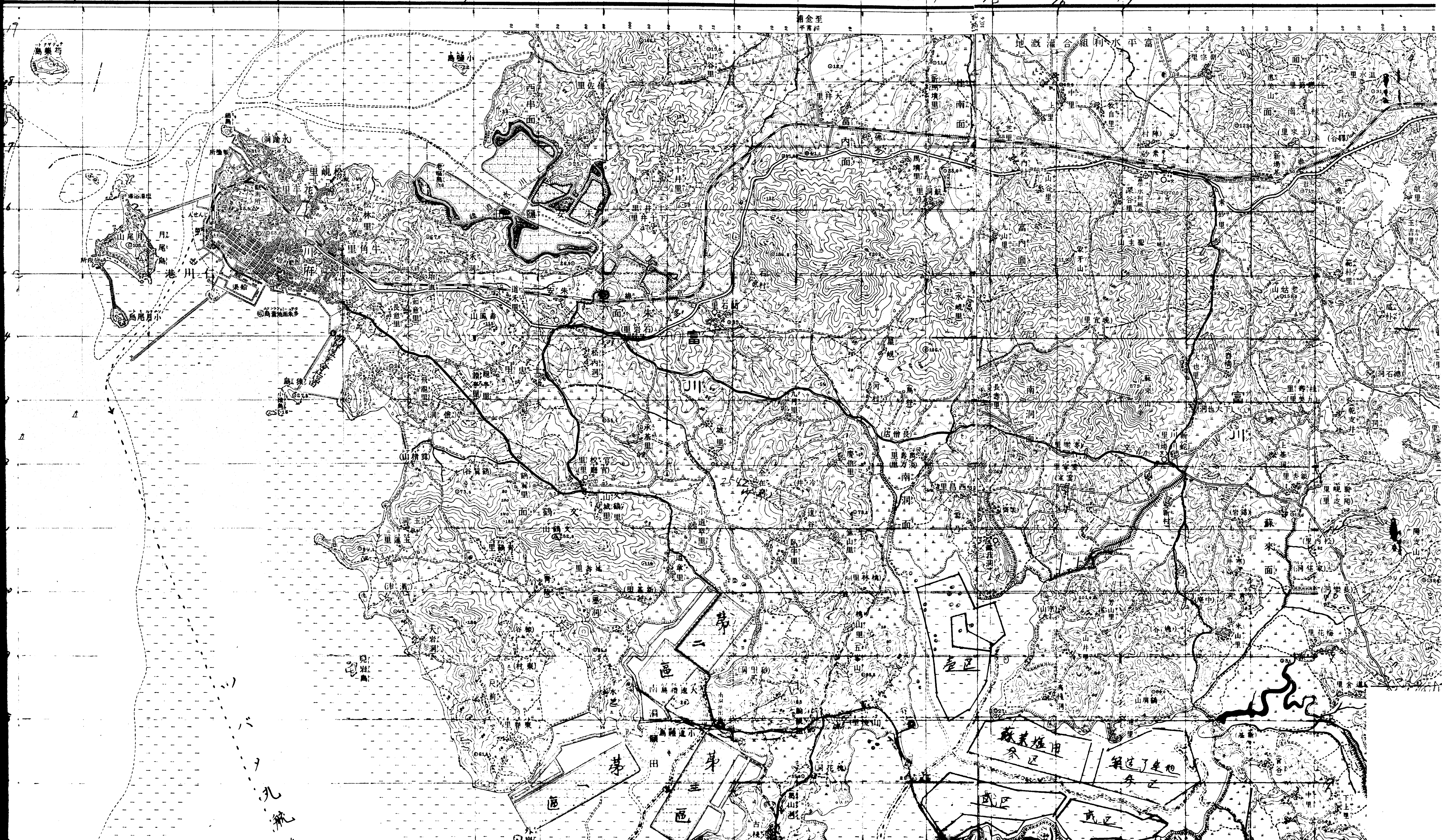
國圖名
仁川

嘉川富
府川仁
嘉興

道鐵京
島阜大

陽南

原水



九統

- 墓墳 祠神
- 碑念記 宇佛
- 像立 廟
- 標界 + 堂會教蘇耶
- 標立 庫藥火
- 樹立獨 房車水
- 樹出抽 場市
- 突烟 園陵
- 車風 城城
- 點角三大 地礦採
- 點角三小 場獸屠
- 點準水 港商

- 下以開一 上以開一 上以開二 路道等一
- 路道等二
- 路連
- 路聯
- 路間
- 路小
- 線電及樹並
- 道鐵常尋
- 道鐵便輕
- 道鐵種特
- 界道
- 界郡
- 界面
- 界類地

- 通 人馬渡出船岸
- 人渡出船岸
- 徒涉所
- 流水方向
- 岸高及水深

- 木橋
- 徒橋
- 坑工橋
- 坑工被覆
- 疊石被覆
- 瀑布

- 果園
- 鹽田
- 桑畑
- 苗圃
- 庭園

- 矮松地
- 荒地
- 竹林
- 雜樹林
- 濕潤樹林

- 泥地
- 礫地
- 沙地
- 濕地
- 蘆田

- 散類
- 露崩
- 雨
- 流離
- 流離



リアニ式圖ハ細詳ノ號符

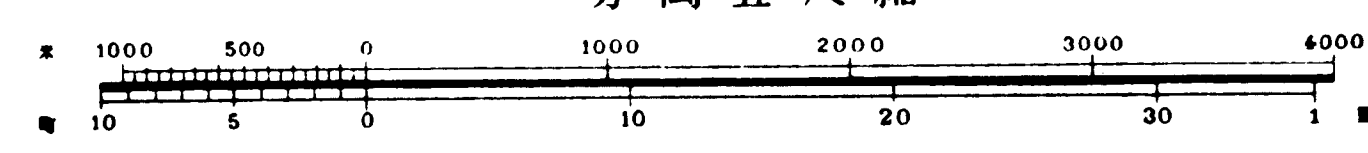
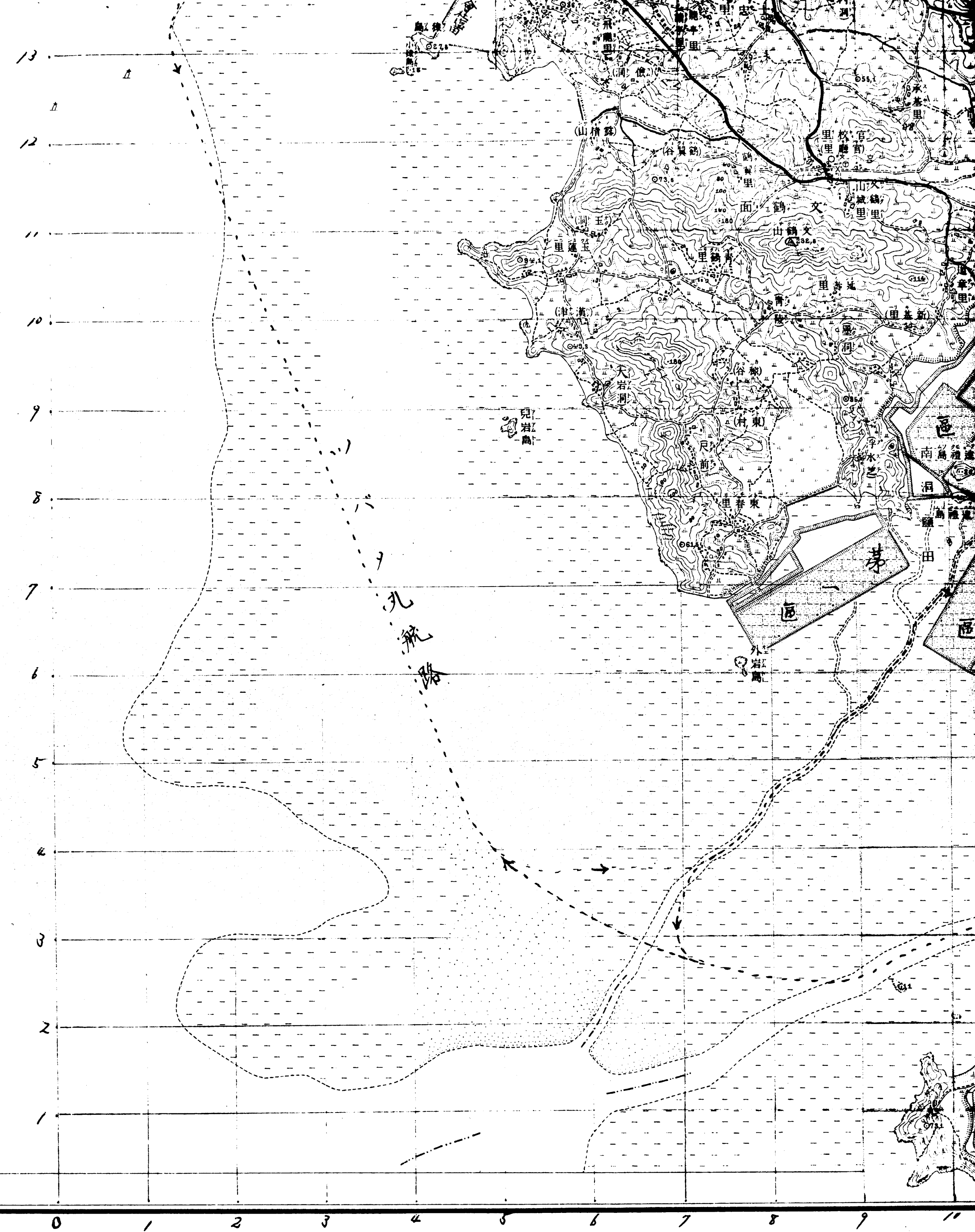
昭和七年九月二十五日印刷同九月三十日發行

著作権所有者朝鮮總督府

印刷兼發行者陸地測量部



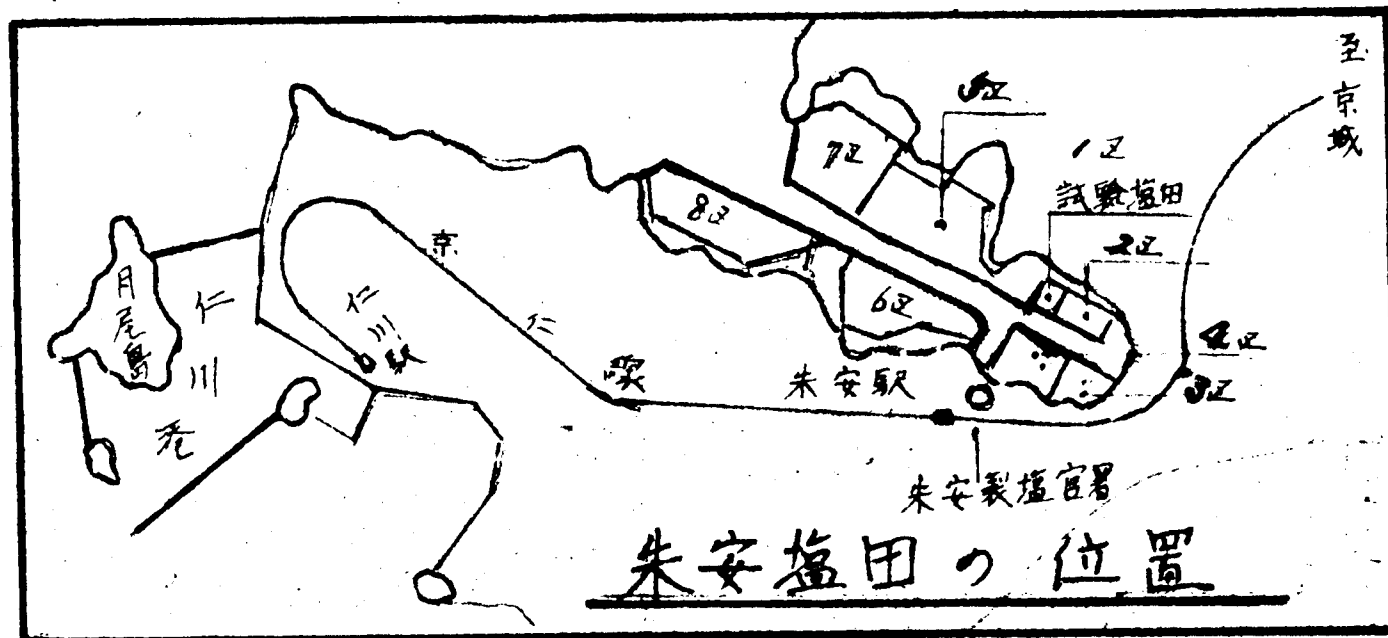
地面・海・龍・島・尾・八



錢八拾金價定

朝鮮總督府.專賣局.朱安

$$S = \frac{1}{3.000} \text{ 尺}$$

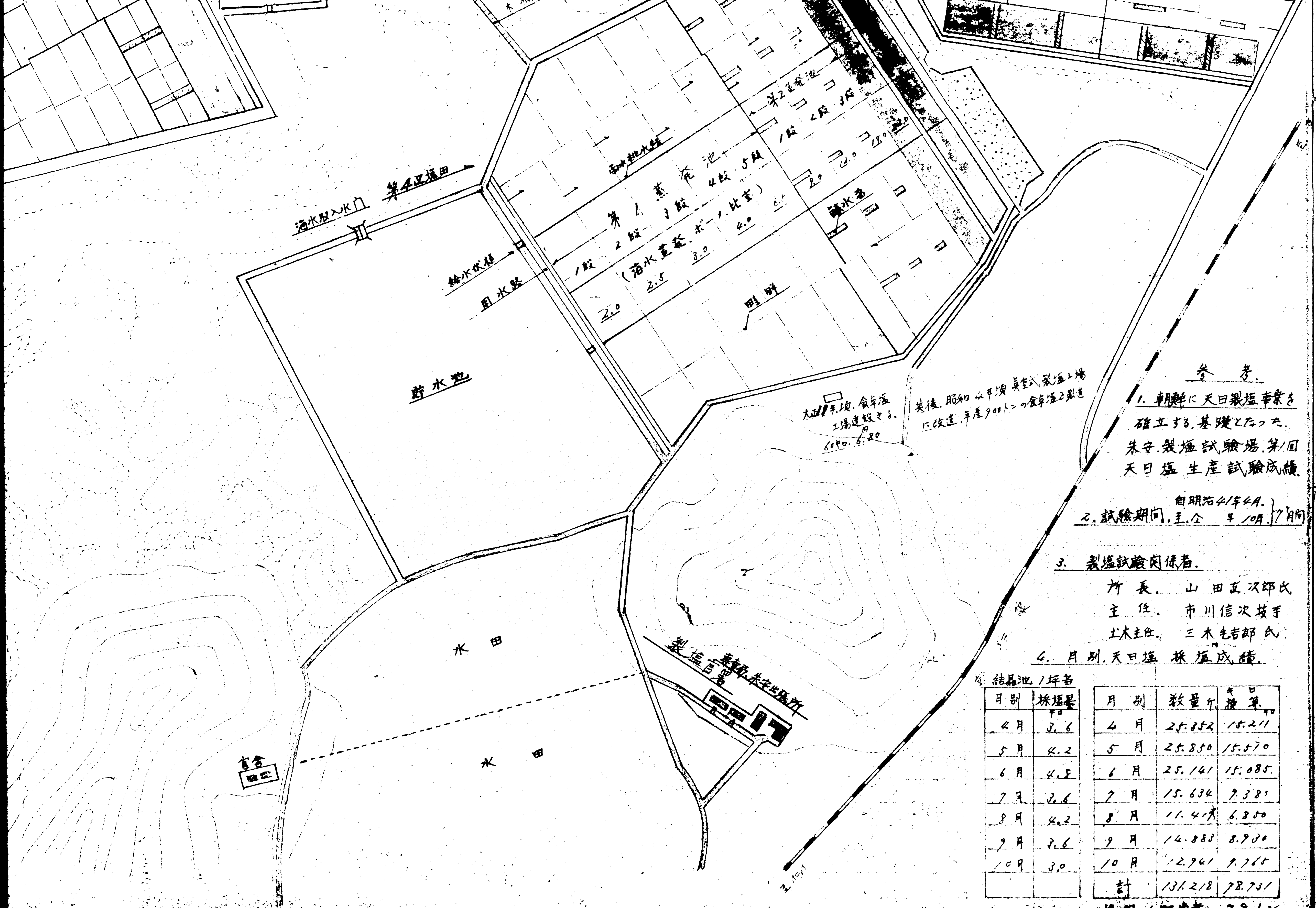


凡	例
	製塩官署
	製塩官署
	製塩官署
	製塩官署
	製塩官署
	製塩官署
	製塩官署
	製塩官署
	製塩官署
	製塩官署

1. 所在地	京畿道.富川郡.朱安面
2. 面積	第1期工事. 98町歩
3. 築造年月	明治41年7月(光武11年)
	起工. 明治44年7月完成



貯水池



参考

1. 朝鮮に天日製塩事業を
確立する基礎となつた。
朱子製塩試験場、第1回
天日塩生産試験成績。

自明治41年4月。
2. 試験期間、至今 年10月、7月間

3. 製塩試験関係者。

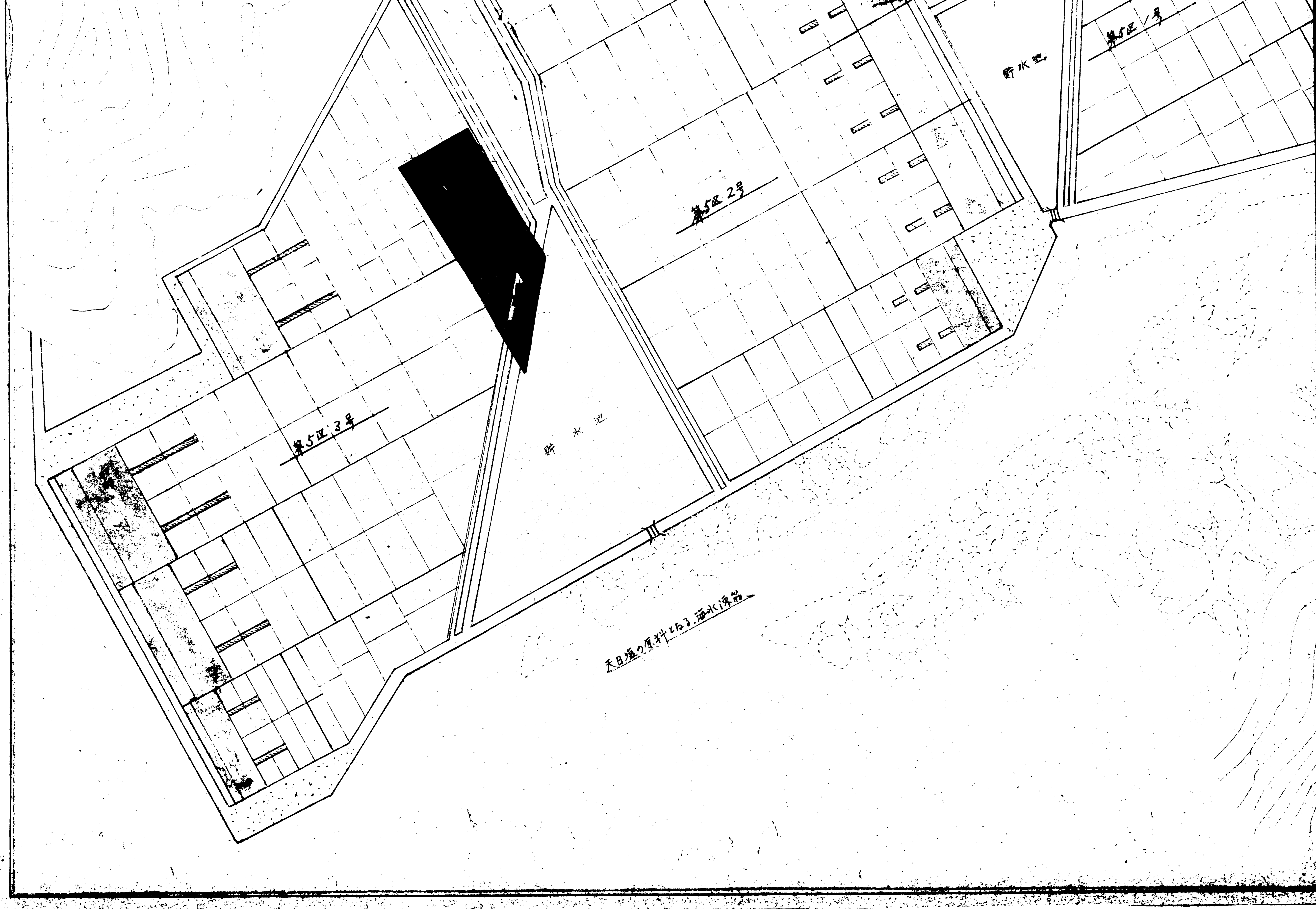
所長、山田直次郎氏
主任、市川信次技手
土木主任、三木毛吉郎氏

4. 月別、天日塩採塩成績。

結晶池1坪当

月別	採塩量 kg	月別	数量kg	天日 採算 kg
4月	3.6	4月	25.852	15.211
5月	4.2	5月	25.850	15.570
6月	4.8	6月	25.141	15.085
7月	3.6	7月	15.634	9.381
8月	4.2	8月	11.418	6.850
9月	3.6	9月	14.883	8.980
10月	3.0	10月	12.941	9.765
		計	131.218	78.731

塩田1町分、79.1%



一 朝鮮總督府專賣局 天日塩田

京畿道沿岸所在地 石川武吉

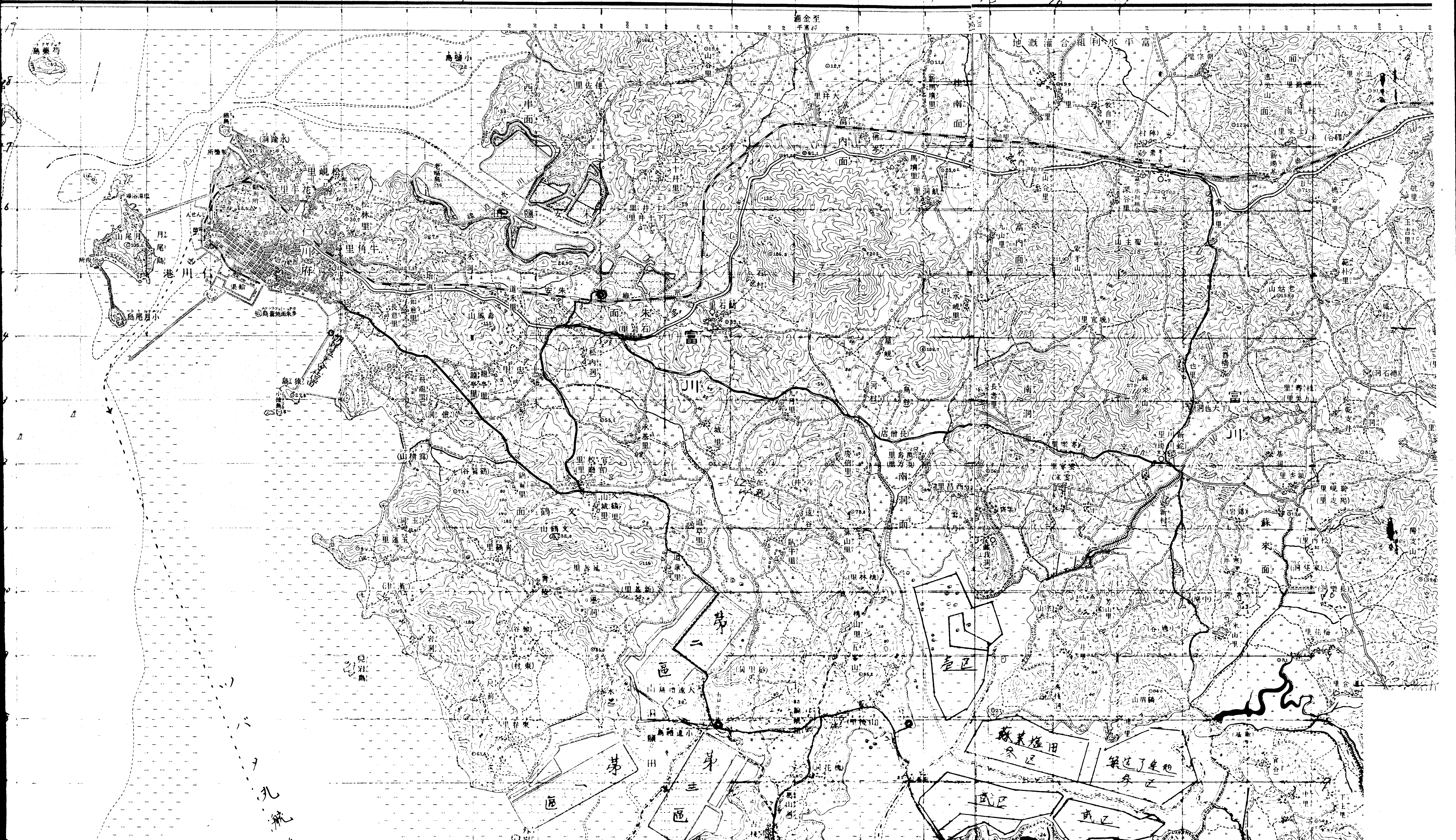
朱安塩田管内 五萬分之地圖

川 仁 5

浦金	城京	嶋
川仁	川廣	川廣
島阜大	陽南	厚水

富川
富川
富川

地圖名



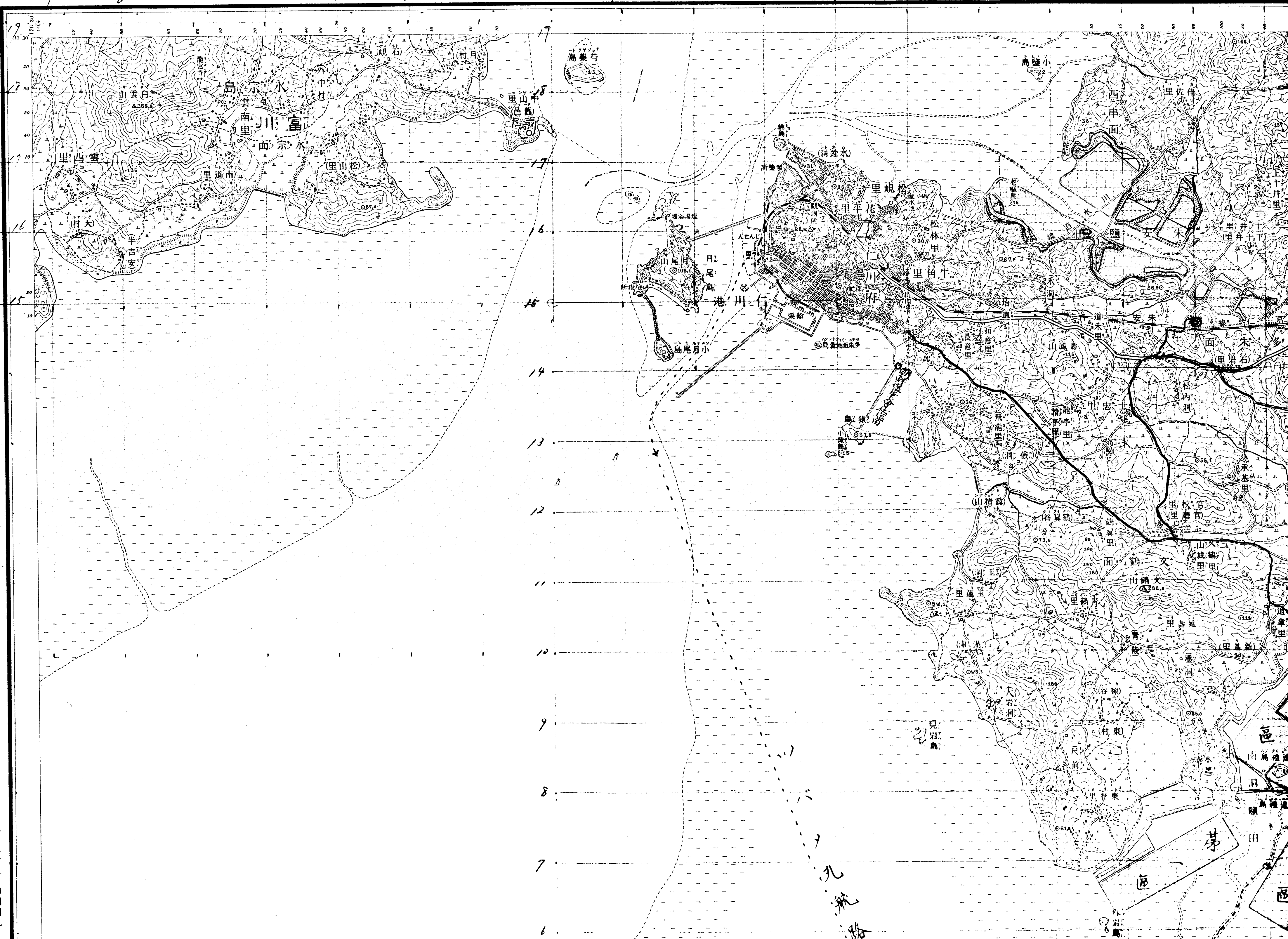
隣國名

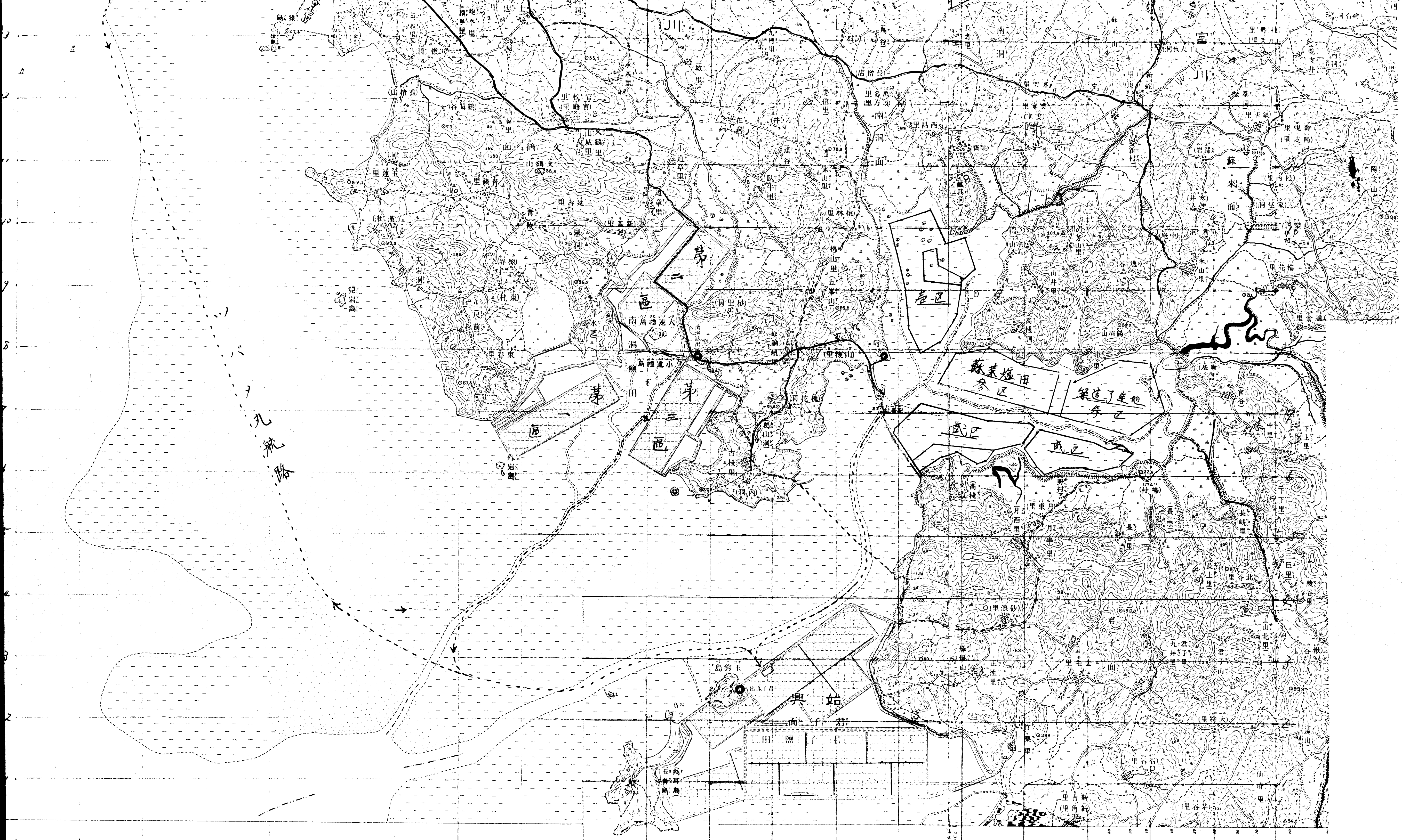
名

大正六年測圖昭和二年第一回修正測圖

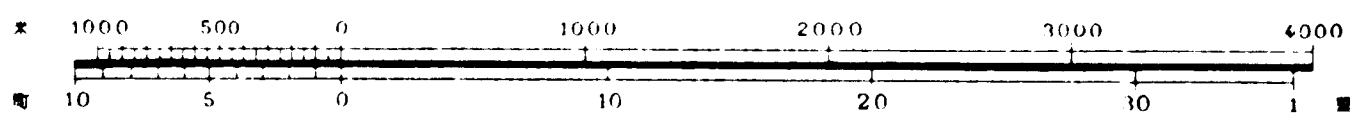
領事館	道廳	府廳	面事務所	警務部	警務署 巡警駐在所	憲兵分遣所	兵營	裁判所	刑務所
-----	----	----	------	-----	--------------	-------	----	-----	-----

昭和七年九月二十五日印刷 同九月





一分萬五尺縮



2.900 m

昭和三年八月

③

朱安鹽田概要

For

專賣局朱安出張所



目次

朱安鹽田光景
朱安管轄鹽田略圖
附圖 製鹽期圖
鹽田構造圖
製鹽系統一覽表

—(目)—

(1)

—(次)—

一、概 説.....	一
二、鹽田構造.....	二
三、製鹽方法.....	二
四、鹽の品質.....	二
五、鹽田面積.....	三
六、生産額.....	四
七、鹽田導入海水比重.....	五
八、朱安鹽田蒸發量.....	六
九、朱安鹽田降水量.....	七
一〇、粉碎鹽.....	七

一、優良鹽	七
二、食卓鹽	七
三、販賣價格の變遷	八
四、製鹽人夫使役數	一〇

附 錄

(一) 食鹽の用途	一一
(二) 官營大日鹽田面積及生産見込高	一二
(三) 在來煎熬鹽	一二
(四) 再製鹽	一三
(五) 輸移出入鹽	一三
(六) 港別鹽輸移入高	一四

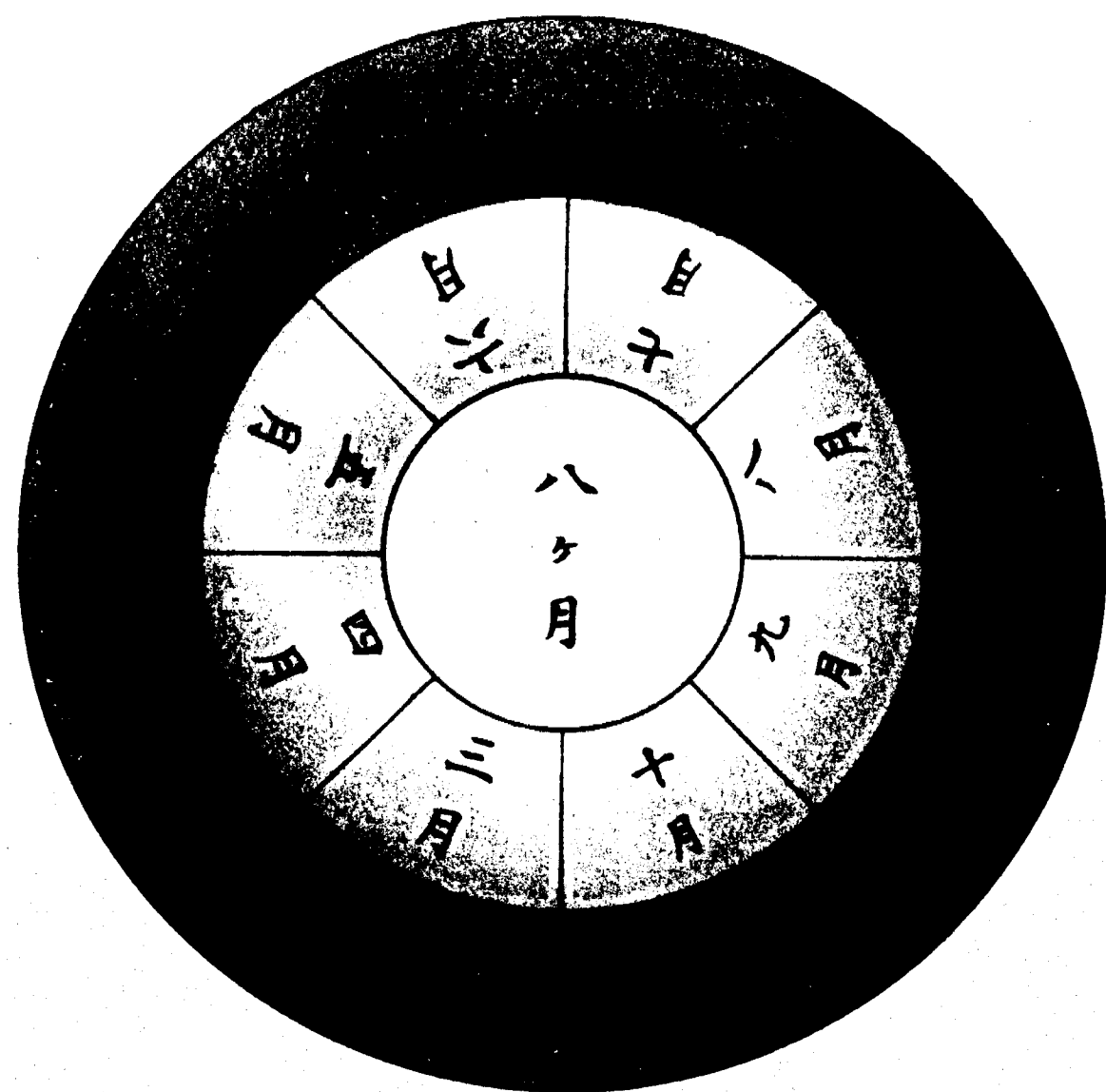


朱安鹽田の光景

圖略田埧轄箇安米

二五

期 塩 製



各季節ニ於ケル
製塩歩合



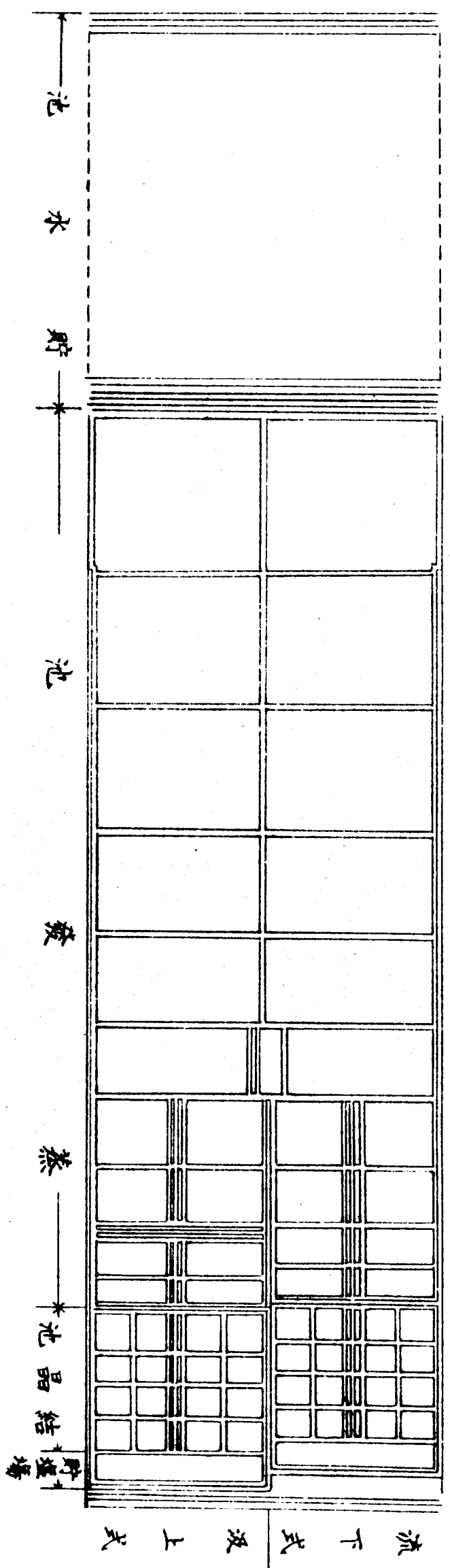
製塩季節区分



製塩期間

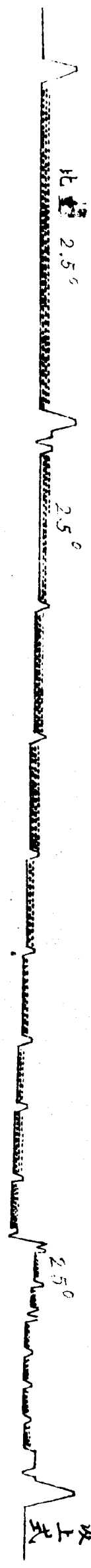
鹽田構造物圖

平面圖

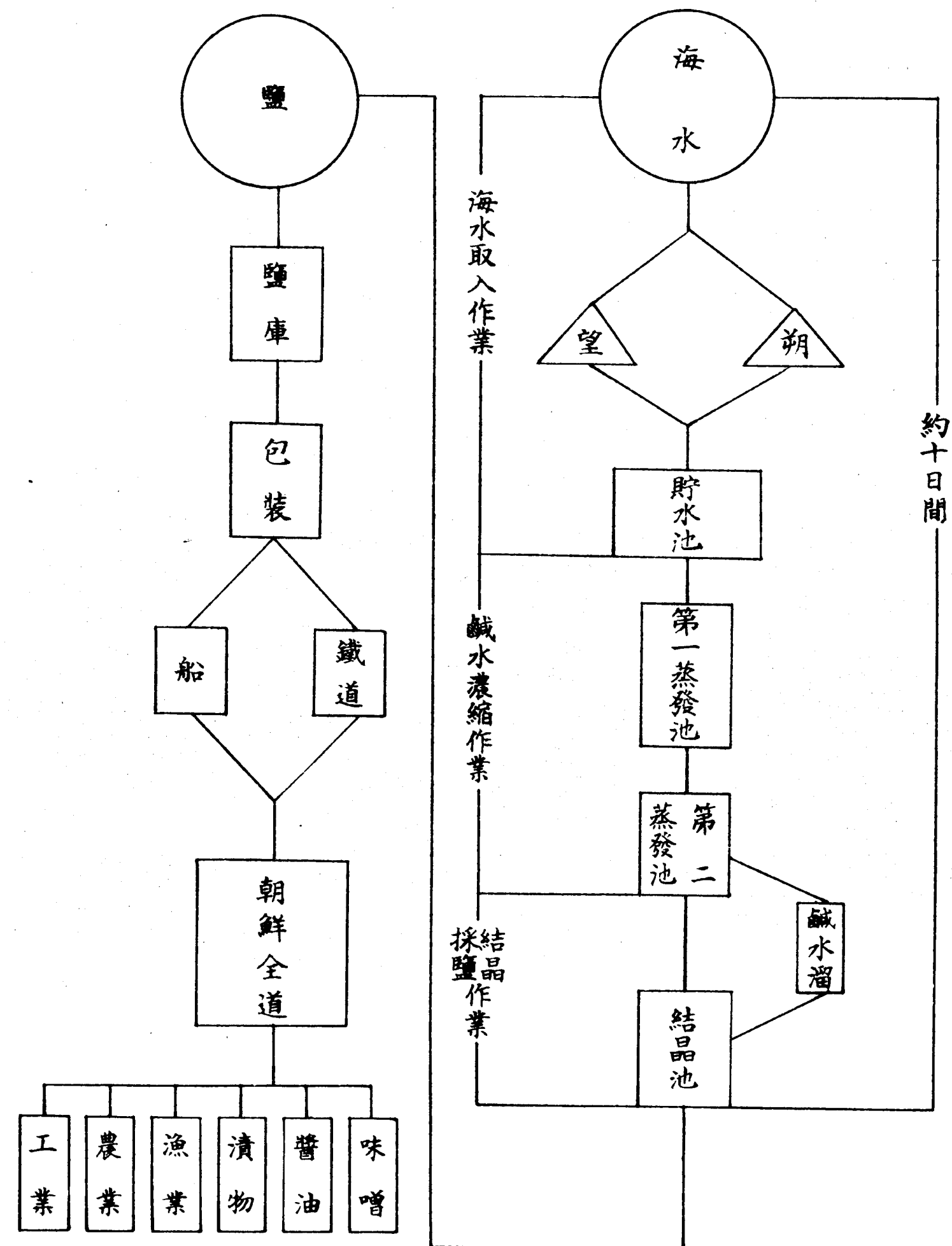


縱斷面

流下式



製鹽系統一覽



朱 安 管 轄 鹽 田 概 要

一 概 説

朝鮮の沿岸は到處に鹽田散在す。雖も其の製鹽方法は煎煮法に依り内地製鹽法に類似するも甚だ幼稚なり。規模小にして多くは農家の副業とす。朝鮮在來鹽業の旺盛時に在りては鹽田面積三千七百町歩生産額三億斤を算し重要産業の一たりしが燃料及び勞力を費す事夥しく従つて其の生産費多額を要し爲めに年々支那鹽輸入増加し其の壓迫を受け漸次衰頹するに至れり。然るに朝鮮西海岸は廣潤なる干潟地を有し其の土質粘土に富み天日鹽田として適當なりと認め明治四十年京畿道朱安の干潟地に面積一町歩の天日試驗鹽田を築造したり之れ朝鮮に於ける天日鹽田の嚆矢にして又當所の濫觴なりとす。此の製鹽試驗の結果朝鮮に於ける天日鹽田は實確に成立すべく尙産額及品質に於て支那鹽に比し優越するを確め得たり茲に於て天日製鹽を官營することとなり之が第一期計劃として明治四十一年より増築に着手し同四十四年迄に面積八十八町歩を竣工せり。而して第二期計劃として大正六、七年に於て百二十四町歩の増築を爲し目下二百二十二町歩の鹽田面積を有するに至り。更に第三期計劃として大正十年南洞鹽田の三百町歩と大正十一年三月君子鹽田五百七十五町歩とを竣工せり。現在朱安管轄鹽田の總面積は一千八十七町四反歩を有し將來鹽田成熟の曉は裕に一億斤内外の生産を擧げ鮮内總需要量約四億三千萬斤に對し約四分の一の供給を充たすに至る可し。

二 鹽 田 構 造

天日鹽田は貯水池、蒸發池及結晶池の三部より成れり。貯水池は其の要素たる海水を貯溜する池にして蒸發池及結晶池に比し高所に在り。蒸發池は高さ七寸天幅二尺内外の小畦畔を以て數十の方形に區劃し一寸乃至一寸五分の落差を以て九段乃至十段に階段を付し池底は極めて平坦に地均しを行ひ更に石製ローラーを滑轉して堅固ならしむ。結晶池は鹽を結晶せしむる池なり。其の池底土盤のまゝにては採鹽の際土砂の混入を來し品質低下の恐あるを以て漸次鑿片又は敷板を敷設せんとしつゝあり。其他用水路、鹹水溜、水路並に排水溝等之れに附屬す。

三 製 鹽 方 法

朱安管轄鹽田附近に於ける大潮時の潮位は三十一尺に達するも大潮以外の平時に在りては露出して一面の干潟地と化するを以て毎月朔望の大潮時に當り所要の海水を各貯水池に設備したる水閘より貯水池へ導入貯溜するなり。而して蒸發池に注入するには貯水池よりの導入口を開けば自然に流下して蒸發池に至る、水深一寸五分内外を程度として天然の日射と風力とに依り池水を蒸發濃縮せしむ、斯くして蒸發池上段より下段に向け順次移注せられたる鹹水の濃度母氏比重計二十度乃至二十五度に達する時は之を結晶池に移注し更に蒸發濃縮せしめ、二十五度に至れば飽和鹹水となり茲に初めて鹽の結晶を開始し數時間後には結晶池の全面は鹽の結晶を以て蔽はるるに至る。之を掻き集めて籠に容れ倉庫に收藏して水分滴下の頃を見計ひ以て包裝を施し搬出販賣するものなり。

四 鹽 の 品 質

鹽の品質は色澤純白にして鹽化曹達の含有量多きものを優良なりとす。故に色澤純白、鹽質亦純良なるものを一等鹽とし、之に亞ぐものを二等鹽とす。之を輸入の支那天日鹽に比するに遙かに優良なり。近時生活の向上に伴ひ需要者の嗜好向上し一等鹽の賣行頗る良好にして年々増加の趨勢を示せり。故に此の嗜好狀態に鑑み純白なる良鹽を多量に生産するを急務なりとし鹽田地盤の入手及び作業方法の改善に就き研鑽を重ねたる結果近年一等鹽の生産高全體の七割を占むるに至れり。

五 鹽 田 面 積

鹽田別	區別	面積	竣工年月	摘	要
朱	一	一、四一	明治四十年九月	面積は貯水池を除きたる鹽田内部面積なり	
	二	六、六	明治四十二年六月		
	三	九、〇	明治四十三年五月		
	四	一四、五	明治四十三年五月		
	五	五七、三	明治四十四年七月		
	六	三二、四	大正八年三月		
安	一				
	二				
	三				
	四				
	五				
	六				

合 計	南 洞			君 子	合 計	六 生 産 額
	一	二	三	一	二	
	區	區	區	區	區	
	計	計	計	計	計	
	四六、九	四四、六	二二、四	一〇五、〇	一〇五、〇	大正八年三月
				一〇五、〇	一〇五、〇	大正十年五月
				九〇、〇	九〇、〇	大正十年五月
				三〇〇、〇	三〇〇、〇	大正十四年三月
				一八〇、〇	一八〇、〇	大正十四年三月
				九五、〇	九五、〇	大正十四年三月
				三〇〇、〇	三〇〇、〇	大正十四年三月
				五七五、〇	五七五、〇	
				一、〇八七、四	一、〇八七、四	

現在に於ては三區四區に等分せり

鹽の生産は天候の如何に依り豐凶あるを免れず雖も鹽田地盤の良否、熟否、及製鹽技術の巧拙は其の影響する處又甚大なるものなり、依つて鹽田に於ては専ら地盤の地均し地固めに努むるに共に優秀なる技術員並鹽夫の養成に苦心し居れり。尙鹽田は築造后年々其の生産額を増加し概ね築造以後六七年を経過し初めて熟田となり完全なる生産能率を發揮するに至るものなり。大正元年以降の生産高を示せば次の如し。

年 度	鹽田使用面積	生 産 高	鹽田一町歩當	摘	要
大正元年 度	八六、〇〇	三八七二、六七三	四五、〇三一		
大正二年 度	七八、七五	五、二七四、三一	六六、九七五		
大正三年 度	七八、七五	六、八二三、七七〇	八六、六五一		

七 鹽田導入海水比重

本年採鹽豫想高

〔君子鹽田五七五町步〕
製鹽開始

南洞鹽田三〇〇町步
製鹽開始

備考 朱安は大正元年以降昭和二年迄の平均比重を示す
南洞は大正十一年以降昭和二年迄の平均比重を示す
君子は大正十四年以降昭和二年迄の平均比重を示す

八 朱安鹽田蒸發量

(5) ——(要 概 田 鹽 安 朱)——

年 別	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	計
明治四十一年	四四、三	四三、四	二二〇、四	一五四、〇	一五九、〇	一六二、五	一六四、三	一七四、七	一八〇、〇	一七三、五	一八四、五	一八九、五	一、四九九、五
明治四十三年	五九、九	六九、三	二〇八、四	一七一、九	一八〇、六	一七九、三	一五九、三	一八〇、五	一八〇、〇	一五〇、〇	一七〇、四	一四三、一	一、三三三、七
明治四十四年	五三、四	六四、一	二〇九、六	一四七、七	一七五、〇	一九二、一	一九〇、六	一九〇、六	一九三、二	二〇〇、〇	一五五、三	一四四、七	一、三八三、三
明治四十四年	元九、七	五五、九	七九、八	一六六、三	一五九、八	一九五、〇	一九九、一	一九六、七	二八、九	一九〇、四	六八、五	一、七四七、七	一、三〇七、七
大正元年	六三、四	七八、八	一三三、二	一六四、五	一七四、〇	一九三、三	一九三、二	一七五、九	六〇、〇	一七〇、〇	六六、二	四九八、八	一、四九八、二
大正二年	四四、八	六二、九	一五〇、六	一三三、六	一四七、一	一四一、一	一四九、八	一九九、七	一三三、四	一六五、五	六七、八	五〇、〇	一、三六七、三
大正三年	四九、五	六八、八	一八〇、九	一三〇、九	一五五、四	一四一、一	一九九、七	一九六、六	一六八、八	一三四、九	七八、一	六八、〇	一、三八二、七
大正四年	六六、五	七〇、〇	二四九、〇	一四四、〇	一五八、一	一五八、一	一八三、六	一四四、四	一三三、五	一九三、三	七五、二	五五、八	一、三八一、五
大正五年	五三、一	七二、一	二二二、三	一四三、六	一四八、八	一九二、五	一九〇、〇	一七三、四	九〇、〇	一九六、五	六九、六	四四、五	一、二〇四、四
大正六年	五三、一	六六、七	一九〇、〇	一四四、三	一五五、九	一八五、九	一九六、四	一九〇、九	一〇〇、五	一九〇、一	六二、九	五七、〇	一、一五六、七
大正七年	六五、七	六六、六	二〇三、〇	一三〇、九	一四三、二	一四四、四	一五〇、三	一九六、一	一五〇、四	一九三、六	六六、九	五二、三	一、一五〇、五
大正八年	五三、七	五九、四	一九九、九	一三九、三	一五五、八	一三七、九	二〇〇、三	一九八、三	一三三、四	二二、一	六三、三	五三、五	一、一四二、八
大正九年	四〇、九	四四、九	一九〇、七	一三六、二	一四〇、八	一七六、二	一九一、八	一九〇、〇	一三八、四	二二、七	五四、一	四六、六	一、一三六、三
大正十年	四四、五	六四、九	一九九、四	一四八、五	一六〇、七	一六二、二	一九七、一	一九四、六	一九九、四	九五、〇	六八、三	五〇、二	一、一三三、八、一、五五九
大正十一年	五〇、三	五八、四	二〇〇、〇	一五三、四	一七一、四	一九九、一	二〇六、一	一九三、〇	二二一、七	一〇三、六	五九、一	五三、九	一、一四〇、〇、二八五
大正十二年	五四、七	五五、五	二〇六、六	一三六、〇	一九九、八	一九九、〇	一九六、六	一九七、六	一九五、四	二二、一	五五、一	五四、一	一、一四四、七、三九一
大正十三年	五八、五	六四、四	一九七、七	一三六、一	一九九、〇	一九九、二	一九五、三	一九四、四	一九〇、〇	二〇、七	四八、六	四八、六	一、一四三、五、九九七
大正十四年	四七、七	五五、八	一九三、四	一三六、九	一九四、八	一九四、六	一九三、〇	一九九、四	一九三、六	一〇三、四	六五、〇	四〇、六	一、一三八、四、二九九三
昭和元年	四二、二	四二、二	七〇、五	一四四、九	一九五、七	二〇〇、七	二〇〇、四	一九四、四	一九八、八	二〇、〇	五五、四	五九、三	一、一四〇、〇、〇七四
昭和二年	三二、一	三六、七	七五、四	一九三、六	一九五、七	二二五、七	二四三、〇	二四四、七	二〇九、九	一〇六、五	七七、三	三三、六	一、一四九、六、一四九
昭和三年	三二、七	五二、二	七五、二	一九〇、六	一九五、一	二五〇、八	二五〇、〇	二四四、七	二〇九、九	一〇六、五	—	—	—

九 朱 安 鹽 田 降 水 量

年 別	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	計
明治四十一年	一五〇	一九〇	五三	三、七	九、〇	九、五	四、〇	三、四	三、三	三、五	三、五	六、四	九、〇
明治四十二年	一六	五九	一、〇	一、〇	四、五	八、九	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	九、〇
明治四十三年	一九一	二四	三、八	三、五	四、七	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	九、〇
明治四十四年	一五〇	三、〇	三、二	八、一	四、一	七、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	九、〇
大正元年	一、四	七、三	一、〇	三、二	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	九、〇
大正二年	五九	三、七	四、四	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	三、七	九、〇
大正三年	五九	七、六	一、五	三、六	三、六	三、六	三、六	三、六	三、六	三、六	三、六	三、六	九、〇
大正四年	四、四	三、七	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	三、九	九、〇
大正五年	四、八	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	九、〇
大正六年	四、七	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	九、〇
大正七年	四、三	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	九、〇
大正八年	一、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	九、〇
大正九年	三、七	三、七	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	三、八	九、〇
大正十年	八、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	九、〇
大正十一年	三、四	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	九、〇
大正十二年	三、二	三、二	三、二	三、二	三、二	三、二	三、二	三、二	三、二	三、二	三、二	三、二	九、〇
大正十三年	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	九、〇
大正十四年	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	九、〇
昭和元年	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	九、〇
昭和二年	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	九、〇
昭和三年	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	九、〇

一〇 粉 碎 鹽

天日鹽は結晶大なるが故に用途に依りては使用上不便を感ずる事あり。殊に一般家庭の日常用、魚類鹽藏用の如きは小粒なるものを便利とするを以て之等の需要に應ぜむ爲め明治四十三年朱安に粉碎工場を建設しローラー式粉碎機式臺（一日の粉碎力約三萬斤）を据付け毎年相當の粉碎を行ひつゝ、あり。之れに依り出來上りたる粉碎鹽は煎煉鹽又は再製鹽に比し外觀上毫も遜色無きのみならず成分に於ては遙に優良にして前掲の用途に適當す。價格は粉碎費を加算するを以て天日鹽百斤當に約二十錢高價なるも煎煉鹽又は再製鹽に比すれば價格安價なるのみならず効用價值遙かに優越せり。

一一 優 良 鹽

天日製鹽出に於て鹽質の良否は殆んど其の結晶池の良否の程度如何に依り左右せらる。從來鹽片等を敷設して良鹽の採收を圖りつゝ、ありしも尙一層品質の向上を圖らんため朱安鹽田の一部に現在最も理想的と稱せらる、青黑色の硬質素燒敷を敷設せり。而して本結晶池により製出せらる、鹽は品質優良純白にして其の價格は頗る低廉再製鹽の約半額にて製造し得るを以て此後本結晶池改良面積の増加につれ漸次煎煉鹽再製鹽は驅逐せらる、に至らん。

一二 食 卓 鹽

朝鮮内に於て消費せらる、食卓鹽は從來外國及び日本内地より輸入し來りしも朝鮮に於ても之が製造の必要を痛感せしを以て大正十一年初めて朱安に工場を建設し之が製造を開始せり。爾來銳意品質の改善に意を用ひし結果漸次優良品製出するに至り需要額亦年々共に増加するの趨勢を示せり。

年 度	販 賣 高	價 格	摘 要
大正十一年	一七、四四〇	六、八〇〇	價格は百斤當なり
大正十二年	二三、四五〇	六、八〇〇	

大正十三年
大正十四年
大正十五年
昭和二年
昭和三年

二、五九〇
三、六七五〇
四、〇〇〇
四、〇〇〇
七、二〇〇〇

本年度見込

一三 大正八年以降(百斤當)販賣價格ノ變遷

年 月 日	朱	安	南 洞、 君 子	仁 川	摘 要
大正八年五月六日	天日鹽一等 一、〇五〇	天日鹽二等 九、五〇	天日鹽一等	天日鹽二等	
同 年六月七日	一、三五〇	一、二五〇			
同 年七月五日	一、五五〇	一、四〇〇			
同 年八月一日	一、七五〇	一、六〇〇			
同 年九月二〇日	一、五五〇	一、四〇〇			
同 年十一月一〇日	一、三〇〇	一、一五〇			
大正九年六月二〇日	一、〇〇〇	八、〇〇			
同 年八月二〇日	八、五〇	六、五〇			
大正一〇年三月二六日	七、五〇	六、五〇			
同 年九月一日	八、二〇	七、二〇			
同 年十一月五日	九、五〇	八、五〇			
大正一一年一月二八日	一、〇五〇	九、五〇			
同 年六月二三日	九、〇〇	八、〇〇			

南洞開始

君子開始
仁川十四年八月一日開始

同 年九月二二日	一、〇〇〇	九、〇〇	八、〇〇	七、〇〇	
同 年二月二六日	一、一五〇	一、〇五〇	九、〇〇	八、〇〇	
大正一二年五月二日	一、〇五〇	九、五〇	八、五〇	七、五〇	
同 年七月一〇日	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	
同 年九月八日	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	
大正一二年一月二六日	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九、〇〇	
同 年二月九日	一、一〇〇	一、〇〇〇	九、〇〇	八、〇〇	
大正一三年六月二三日	一、〇〇〇	九、〇〇	八、〇〇	七、〇〇	
同 年九月二日	一、一五〇	一、〇五〇	九、五〇	八、五〇	
大正一四年一月二日	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	
同 年三月一〇日	一、一五〇	一、〇五〇	九、〇〇	八、〇〇	
同 年六月一日	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	
同 年九月二六日	一、四五〇	一、三五〇	一、二五〇	一、一五〇	
同 年十一月二七日	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	
大正一五年五月六日	一、〇五〇	九、〇〇	八、〇〇	七、〇〇	
同 年六月五日	九、五〇	八、五〇	七、五〇	六、五〇	
大正一五年七月九日	一、〇〇〇	八、五〇	七、五〇	六、五〇	
同 年十一月七日	一、一五〇	一、〇〇〇	九、〇〇	八、〇〇	
同 年二月二日	一、〇五〇	九、五〇	八、五〇	七、五〇	
同 年三月五日	一、〇五〇	九、五〇	八、五〇	七、五〇	
昭和二年六月一日	九、〇〇	八、〇〇	七、〇〇	六、〇〇	

摘

要

同	年	八月二八日	八五〇	七〇〇	六〇〇	八五〇	七〇〇
昭和三年	二月七日	九〇〇	七五〇	八〇〇	六五〇	九〇〇	七五〇
同	年	五月六日	八五〇	七〇〇	六〇〇	八五〇	七〇〇
同	年	六月五日	八〇〇	六五〇	五五〇	八〇〇	六五〇
同	年	六月三〇日	七〇〇	六〇〇	五〇〇	七〇〇	六〇〇

一四 製鹽人夫使役數

鹽田十町步當一日配付人員表

(昭和三年度)

鹽田別	面積	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計
朱	二二四町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人
南	三〇〇町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人
君	五七五町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人
鹽田別	面積	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計
朱	二二四町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人
南	三〇〇町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人
君	五七五町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人

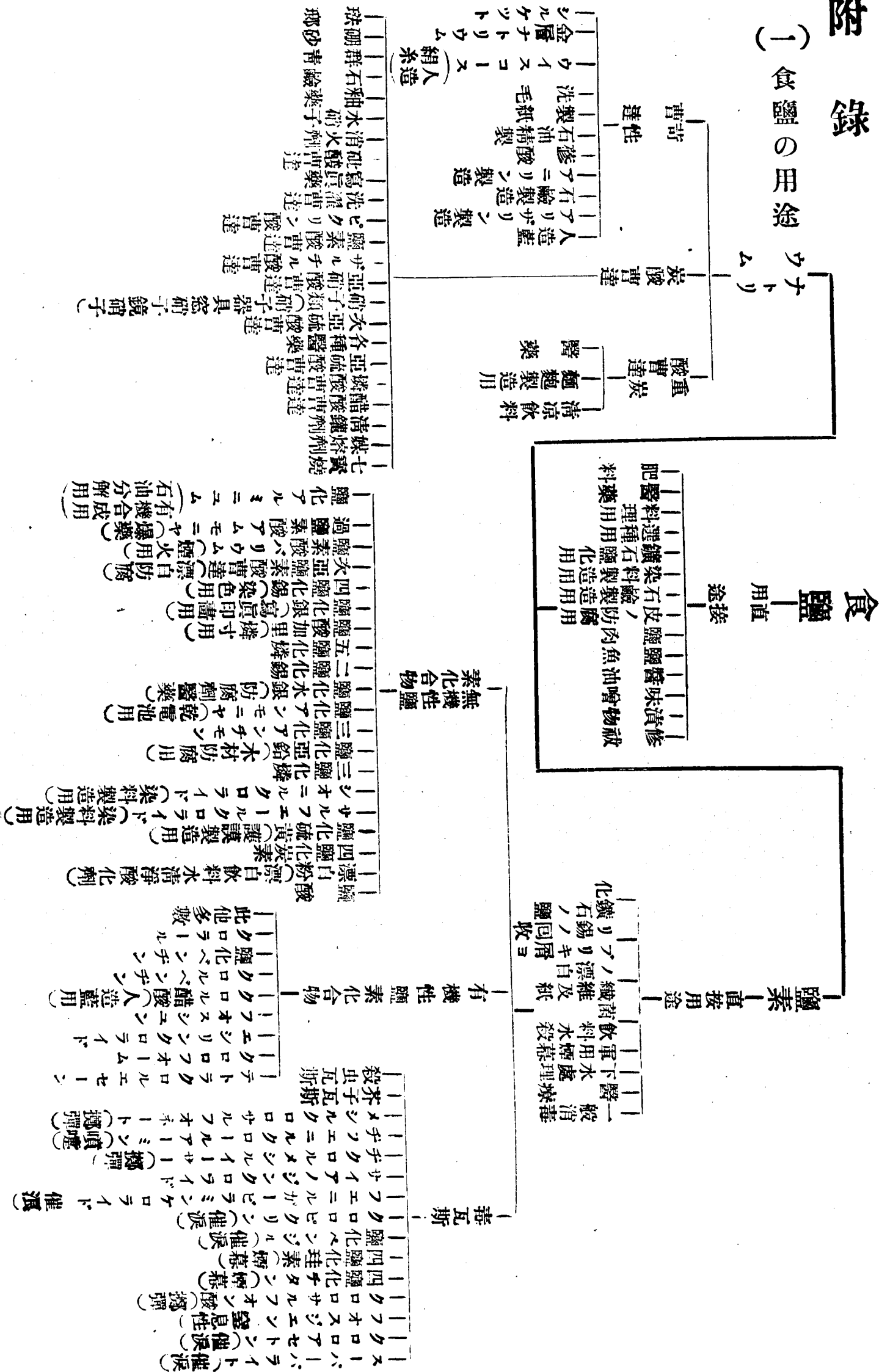
鹽田月別使役人員表

(昭和三年度)

鹽田別	面積	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計
朱	二二四町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人
南	三〇〇町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人
君	五七五町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人
鹽田別	面積	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計
朱	二二四町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人
南	三〇〇町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人
君	五七五町反	八人	九人	九人	九人	六人	六人	五人	四人	四八人

附 錄

(一) 食鹽の用途



(二) 官營天日鹽田面積及生産見込高

(昭和三年度)

出張所	派出所	鹽田面積	生産見込高	同上 一町歩當
南(平北)市	(直轄)	二二二町	一六、七八〇、〇〇〇斤	七九、一五〇
廣(平南)梁	南(直轄)	三〇〇町	二三、四〇〇、〇〇〇	七八、〇〇〇
貴(直轄)	德(直轄)	五七五町	三三、三五〇、〇〇〇	五八、〇〇〇
德(直轄)	洞(直轄)	一、〇八七町	七三、五三〇、〇〇〇	六七、六四五
廣(平南)梁	貴(直轄)	七七〇町	六八、一七〇、〇〇〇	八八、四六三
廣(平南)梁	德(直轄)	二二三町	二〇、七三九、〇〇〇	九三、〇〇〇
廣(平南)梁	洞(直轄)	一四九町	一二、九六三、〇〇〇	八七、〇〇〇
廣(平南)梁	貴(直轄)	一四二町	一〇、一八九、〇〇〇	八九、一五八
廣(平南)梁	德(直轄)	二二七町	一三、四五四、〇〇〇	六二、〇〇〇
廣(平南)梁	洞(直轄)	二二七町	一三、四五四、〇〇〇	六二、〇〇〇
廣(平南)梁	貴(直轄)	二四四六町	一八八、八〇三、〇〇〇	七七、一八八

(三) 在來煎熬鹽

年次	製造者數	釜數	面積	製鹽量	價	造價	百斤平均價格	高
大正十一年	六、六八八	二、四四四	八、三三三	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四
大正十二年	六、六八八	二、四四四	七、七七七	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四

年次	製造者數	釜數	面積	製鹽量	價	造價	百斤平均價格	高
大正十三年	六、七三三	二、四四四	七、八三三	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四
大正十四年	七、七三三	二、四四四	七、八三三	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四
大正十五年	七、七三三	二、四四四	六、八三三	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四
昭和二年	七、七三三	二、四四四	六、八三三	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四

(四) 再製鹽

年次	製造者數	釜數	原鹽使用量	製鹽量	價	造價	百斤平均價格	高
大正十一年	八、八八八	二、四四四	五、八三三	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四
大正十二年	八、八八八	二、四四四	五、八三三	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四
大正十三年	八、八八八	二、四四四	五、八三三	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四
大正十四年	九、八八八	二、四四四	五、八三三	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四
大正十五年	九、八八八	二、四四四	五、八三三	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四
昭和二年	九、八八八	二、四四四	五、八三三	六、八三三	一、四八六、二五五	一、四八六、二五五	二、四四四	二、四四四

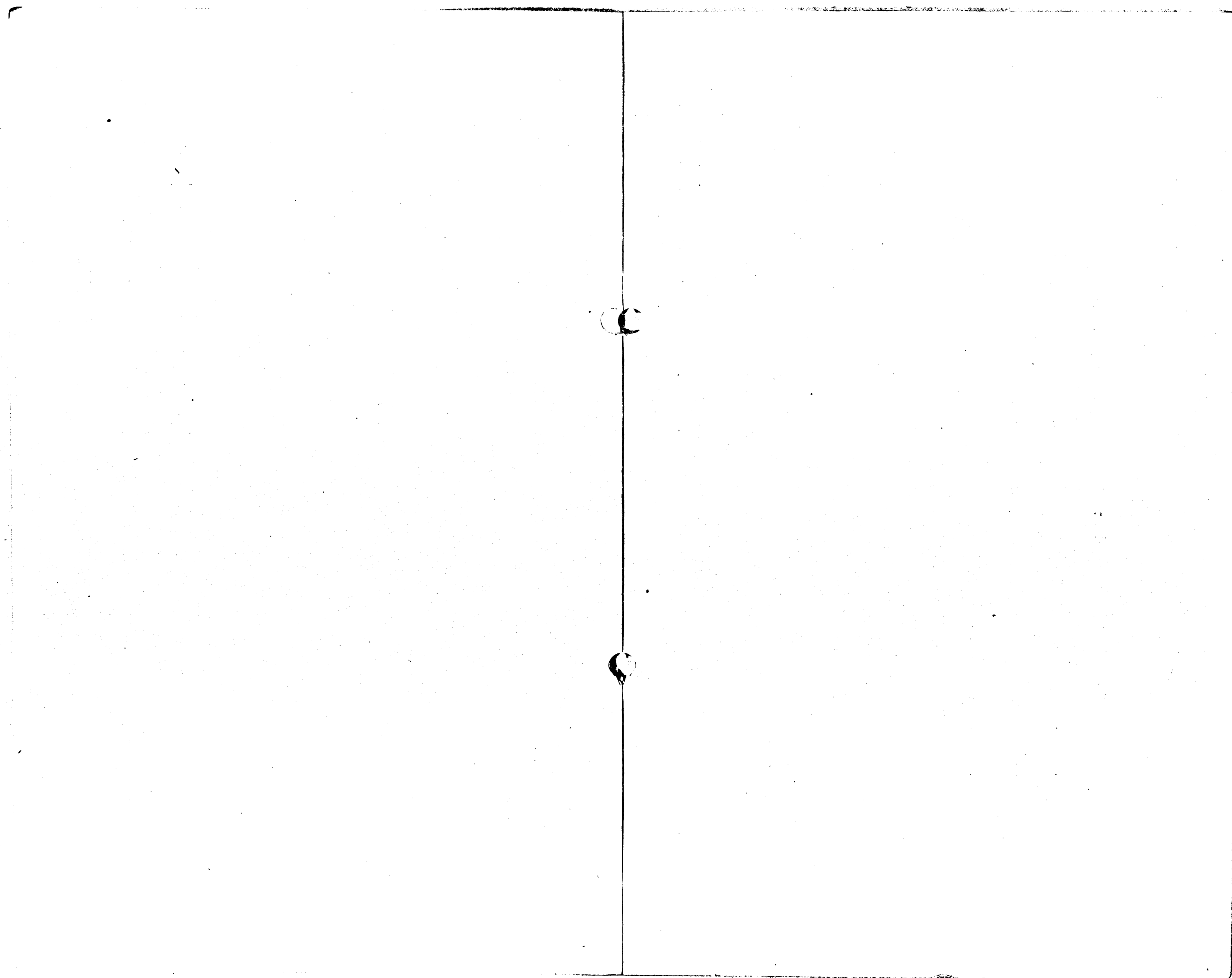
(五) 輸移出入鹽

年次	輸移入	輸移出	輸移入超過
大正十一年	一、七五五、七五五	一、七五五、七五五	一、七五五、七五五
大正十二年	一、七五五、七五五	一、七五五、七五五	一、七五五、七五五

(六) 港別鹽輸移入高表

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

京城本町西丁目一三一
印刷人 谷 岡 貞 七
京城本町四丁目一三一
印刷所 谷岡商店印刷部



C

7

Q

26,

昭和十七年七月一日現在、米安出張所管内の職員配置

一、米安出張所直轄

所長 技師 利島久雄

庶務主任 肩五級 浅野 久

庶務係 肩 真子室五郎

全 局 九級 鶴 郷 高

事業主任 技五級 阿川伊之助

塩田監務 技 九級 遠藤哲市

土木係 肩七。 福森謙次郎

一、君子派出所

所長 技三級 溝口東次

塩田監務 森田壽一

一、蘇業派出所

所長 技四級 松下大四郎

塩田監務 技七級 遠藤理助

醫務係 四級 橘 秋義

一、南洞派出所

所長 技五級 石川 武吉

塩田監務 技月六。 陳 原 清 蔵

昭和十八年六月現在 君子派出所 職員配置 職員 二五 薪大。名

新長	石川武吉	四級俸 一五二四	車庫手	石川得根	日給 一三三	大工	花田清三郎	日給 六二五
醫師	橋本秋義	四級俸 一五二		松本福太	一四三	小使	范明山	一五三
塩田監督	松田政助	大。四		西原甲錫	一、二	雜役	平山芳昭	一、一三
庫員	田中直一	八一		平田寅	一、三九	給士	金田鐘祐	七七
	宮崎米次	七六	塩田監視	山中太一	二、〇二	車庫手	石川鐘煥	八五
	宇藤雅美	七六		土岐篤志	二、二〇		平野鏡大	八五
	金澤俊昭	五五		西原玄義	一、三九		中原完成	一、八
巡視	古賀敏治	六八		平沼祐祐	一、一九		金澤鏡	八五
車庫手	坂元重晴	六八		下村義次	一、六八	計	二五名	

塩田監督								
正一	塩田長	金本義二	日給 一三九	塩田長	金山忠雄	日給 一四〇	一五	一一名
心得	大山征夫	一、三一		松山忠夫	一、六六	二五	七	
	金川芳龍	一、一四		西原輝夫	一、五四	三五	七	
	蘇山良錫	一、一四		李山玉順	一、二五	四五	七	
	陽津淳根	一、四〇		島本成一	一、三九	計	三三名	
塩田長	金川義五	一、五二		西山吉模	一、四九	農場	三	
	高城照吉	一、五七	君子農場 農夫	中野福次	二、〇〇	合計	三二	
心得	池田元泳	一、二三		木下栄起	一、〇〇			
塩田長	山本幸研	一、三九		菅原一郎	八四			

昭和十六年現在、製塩官署、在勤者、氏名

製塩官署、管内塩田	塩田面積	職	氏名
-----------	------	---	----

朱安直轄	二一六。	技師	羽島久雄
------	------	----	------

可歩 出張所長

南洞派出所	三〇〇。	所長技手	石川武吉
-------	------	------	------

蘇茅派出所	五四九。	所長技手	松下大五郎
-------	------	------	-------

君子派出所	七三。	所長技手	溝口東次
-------	-----	------	------

計 一七六四。

南河塩田職員配置

五級條
一三六
000

0.00

0
0
0
0

大
大
0
0

2001/11

九二〇

三三三

五九四

七
九
〇
●

合上 旅費規定

判任 偏人

1	1
2	0
0	0

一、

三

10

2. 甲	同七号表
月 月	一等地
額 額	二等地
一七〇〇	一八〇〇
一五〇〇	一三〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇

塩田面積

朱安 二二四
南洞 三〇〇
君子 五七五
計 一〇八七

大正十四年現在。朱安出張所管内、塩田現場担当者配置 四十六名

朱安	二二四	七	塩夫長	成昌成	朱安	八	三	塩夫長	常岡庄三郎
南洞	三〇〇	二	井上金勝	八	南洞	二	二	岩尾惟命	
君子	五七五	二	松本義七郎	一	君子	二	三	洪廣順	
計	一〇八七	二	山下兼	一	計	二	一	中條八一	
		二	韓士益	一		二	一	李元益	
		二	山田義一	二		二	二	田中利正	
		二	伊應俊	二		二	二	島中貞次郎	
		二	成有京	二		二	二	原田隆三助	
		二	山口平一郎	二		二	二		

南洞	三	二	李徳勲	君子	四	四	鄧景同
君子	五七五	二	柘植定一	南洞	二	二	松田政之助
計	一〇八七	二	佐藤富喜	君子	二	二	金哲津
		二	李聖喜	南洞	二	二	崔鳳奎
		二	西田蔵男	君子	二	二	古島勇義
		二	山本基作	南洞	二	二	池田七郎
		二	李鳳魯	君子	二	二	呂貞錫
		二	貝貴祖	南洞	二	二	井坂弥太郎
		二	綾部金蔵	君子	二	二	千昌烈
		二	金永相	南洞	二	二	金義現

⑤
製塩官署、東養局、朱安出張所。

所在地、朝鮮京城道、富川郡朱安面、撮影、大正十二年大月。



製塩官署の所長と年代

管内塩田の塩生産高推定表
昭和17年度

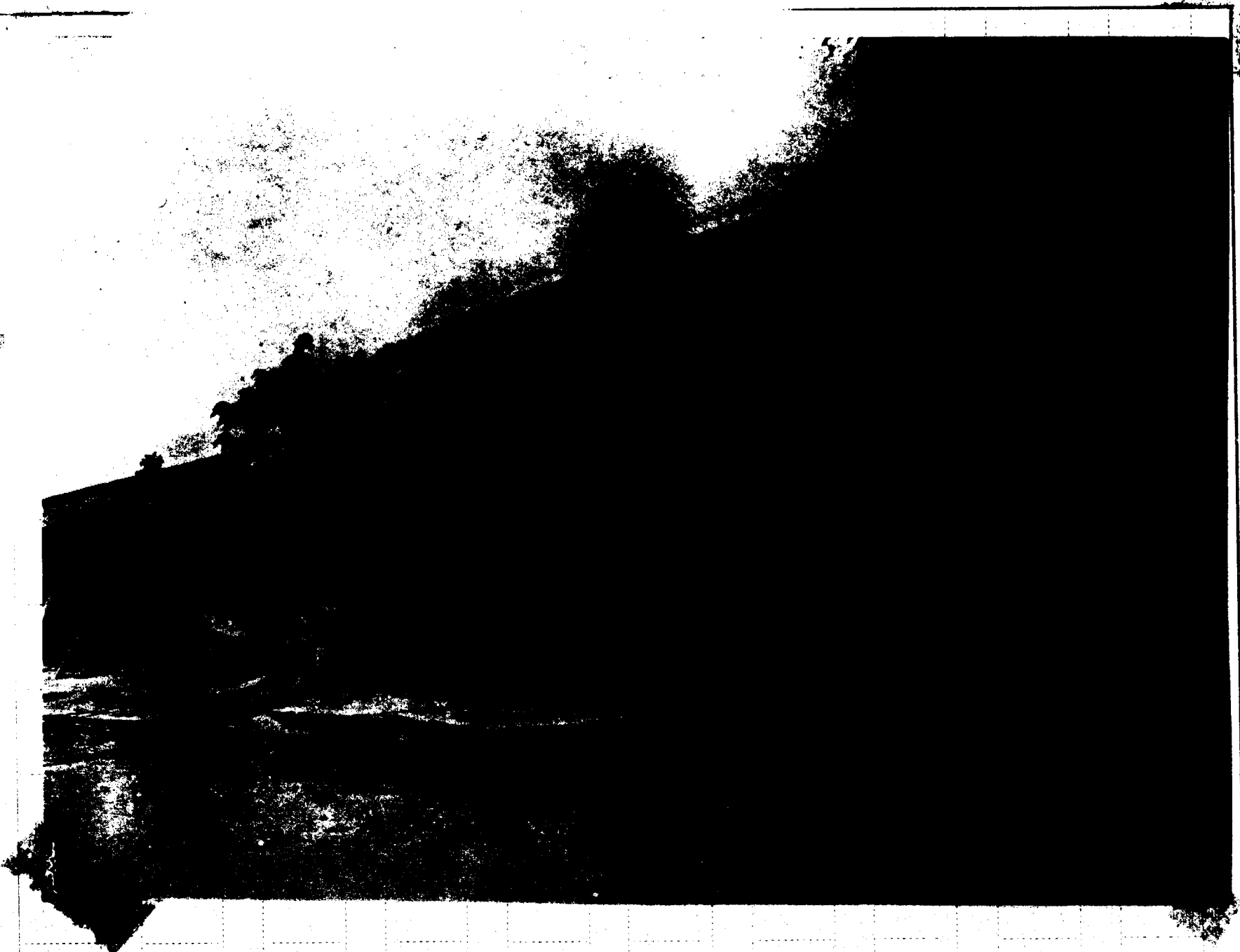
年 代	期 間	氏 名
自大正10年 至 13	×	属、宮田大蔵
自 14 至 昭和2	3	技師、野口庄次
自 3 至 6	×	技師、大山 清
自 7 至 10	×	技師、山岸睦造
自 11 至 13	3	技師、佐藤興市
自 14 至 20	7	技師、羽島又雄

塩田名	面積	天日塩生産高 一丁量
朱安	209 4164 149	18.302. 88.
南洞	300	30.030. 100
蘇基	549	45.794. 83
右子	603	55.870. 93
計	1.661	149.996. 90

⑥

製塩官署朱安出張所が経営した、粉碎塩製造工場。

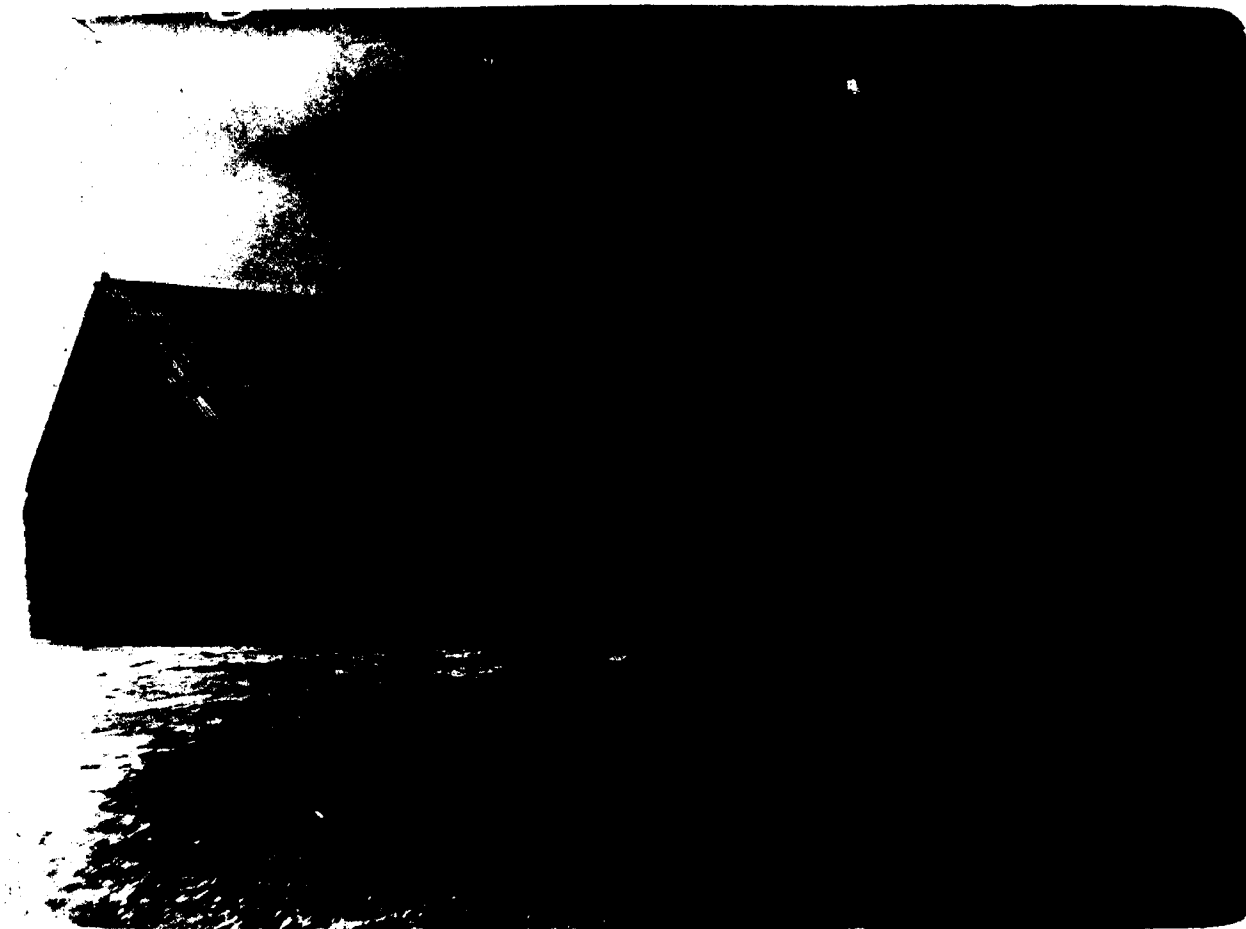
江津池、朝鮮京城道富川郡、朱安出張所構内、撮影、大正十三年



1. 工場長、梅林 枝平。
2. 粉碎機動力 石油圧搾吸入式
3. 日産製造能力。
4. 塩 價。
- 5.

7. 製塩官署、朱安出張所が経営した食卓塩製造工場。

所在地、朝鮮京城道富川郡、朱安塩田内、撮影、大正十三年



(大正十三年頃)

工場長

技手、山口重道

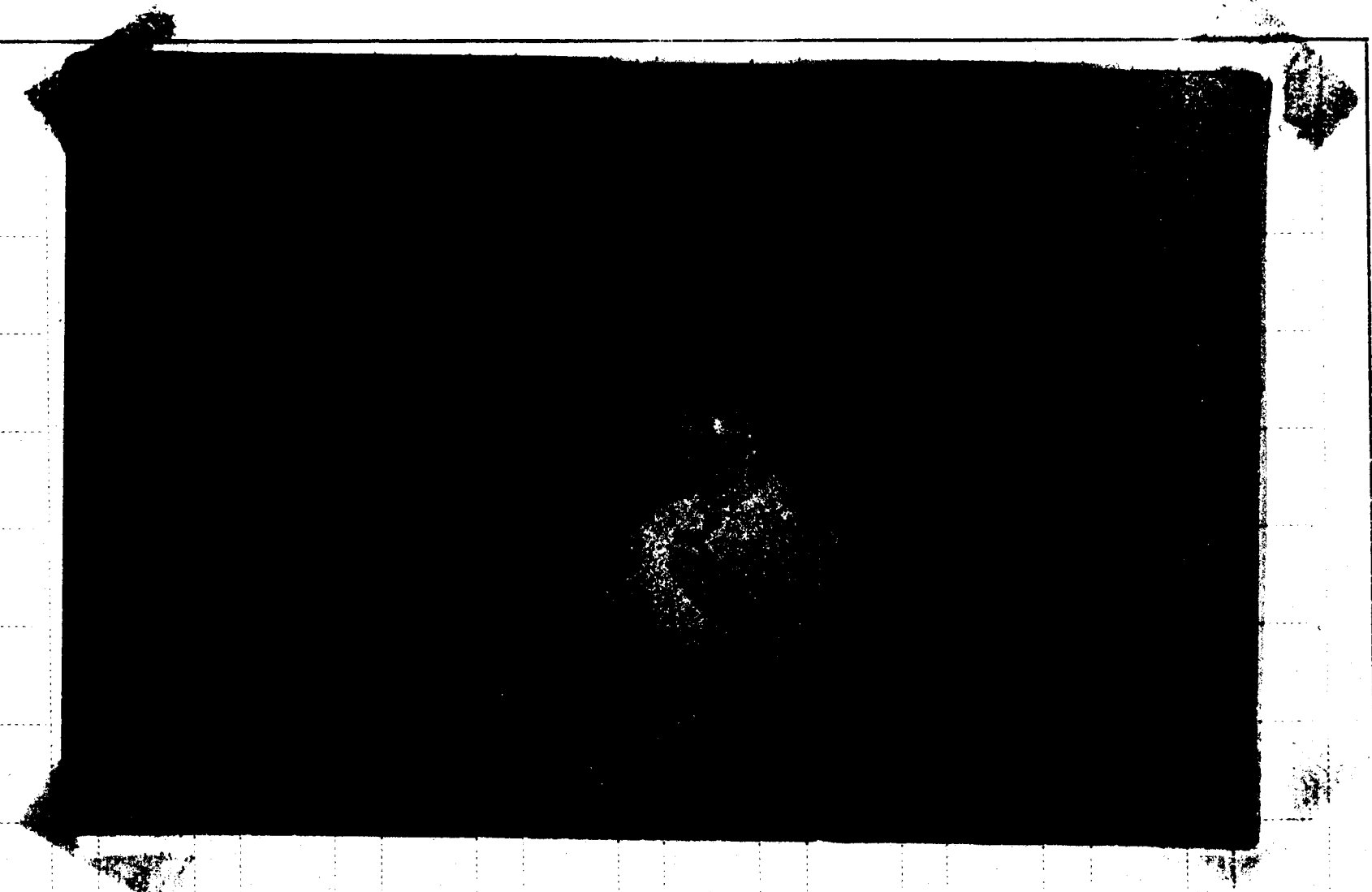
◎ 昭和三年頃の所長、技師、大山清氏は、旧式食卓塩工場を廃し、と朱安式製塩工場と建設
 ◎ 新式の精製塩を製造する事になった
 ◎ 製塩能力、年産九〇〇吨
 朱安式の正統 三 叹



1. 日産製造能力
2. 煎熬釜 ST式
3. 従業員
4. 塩 價

(6) 専賣局長、製塩官署、塩田視察記念写真。(青木局長)

場所、朱安出張所、大正野水池上 観覧^亭 撮影、大正十二年



後列	A 塩田監督 技手山口重道 崔員石川武吉 給士	土木主任 技手三木吉郎	庶務係 川村氏 B 塩田監督 技手梅林 崔務係 崔員李 善浩	塩田監督見習 崔員高木雄雄	今上 崔員渡辺護	の備考 土木主任の三木吉郎氏は明治四十年頃台湾で鹽田より来朝、朝鮮大日蓮田の指導、製塩方法を指導された功勞者。
前列		専賣局長 青木武三	朱安出張所長 局 宮田才蔵		庶務主任 局 近藤壽太郎	

⑦

昭和十六年度製塩並附帶作業計畫書

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

昭和十七年度製塩並附帶作業計畫書

一 製塩作業着手終了豫定

着手

四月一日

終了

十月三十一日

二 塩田十町歩當一日配付人員及塩夫日給額

（月別）塩田十町歩當一日配付人員

種別	月別											
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
常備流下式	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
塩夫汲式	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
臨時塩汲式	三	三	三	三	二	二	一	一	一	一	一	三
計	九	九	九	九	八	八	七	六	六	六	六	九
汲式	一	一	一	一	九	九	八	七	七	七	七	一

備考

1. 常備塩夫ハ塩田十町歩當定員
 2. 右表、外特等塩製造塩田限、生産量一吨對シ一人増配
 (口) 塩夫、日給額

人常備塩夫、初任日給額ハ最高一円七錢平均九十八錢トシ
 担当作業別定員並職別單價ハ左表ニ依ル
 常備塩夫、定員並日給額表

流下式塩田

職名	定員	日給額	内訳	全上計	摘要
班長	1	19.50	1番手	19.50	
副班長	1	18.00	2番手	18.00	
一番手	1	15.00	3番手	15.00	
二番手	1	14.00	4番手	14.00	
三番手	1	13.00	5番手	13.00	
四番手	1	12.00	6番手	12.00	
五番手	1	11.00	7番手	11.00	
六番手	1	10.00	8番手	10.00	
七番手	1	9.00	9番手	9.00	
八番手	1	8.00	10番手	8.00	
九番手	1	7.00	11番手	7.00	
十番手	1	6.00	12番手	6.00	
十一番手	1	5.00	13番手	5.00	
十二番手	1	4.00	14番手	4.00	
十三番手	1	3.00	15番手	3.00	
十四番手	1	2.00	16番手	2.00	
十五番手	1	1.00	17番手	1.00	
十六番手	1	0.50	18番手	0.50	
十七番手	1	0.20	19番手	0.20	
十八番手	1	0.10	20番手	0.10	

汲揚式塩田

職名	定員	日給額	内訳	全上計	摘要
班長	1	19.50	1番手	19.50	
副班長	1	18.00	2番手	18.00	
一番手	1	15.00	3番手	15.00	
二番手	1	14.00	4番手	14.00	
三番手	1	13.00	5番手	13.00	
四番手	1	12.00	6番手	12.00	
五番手	1	11.00	7番手	11.00	
六番手	1	10.00	8番手	10.00	
七番手	1	9.00	9番手	9.00	
八番手	1	8.00	10番手	8.00	
九番手	1	7.00	11番手	7.00	
十番手	1	6.00	12番手	6.00	
十一番手	1	5.00	13番手	5.00	
十二番手	1	4.00	14番手	4.00	
十三番手	1	3.00	15番手	3.00	
十四番手	1	2.00	16番手	2.00	
十五番手	1	1.00	17番手	1.00	
十六番手	1	0.50	18番手	0.50	
十七番手	1	0.20	19番手	0.20	
十八番手	1	0.10	20番手	0.10	

2. 臨時増配塩夫ハ平均九十錢トシ最高一円トス
 但シ特殊作業アリテハ常備塩夫初任平均單價依事ル

如夕配置シ極力増産ヲ計ル豫定ナリ
 (1) 特等塩製造増配塩夫給

所別面積塩夫延人員	單價	金額	特等塩 豫定量	摘要
朱安	一三四 ^四	四五五二 ^八	九八 ^四	四四六 ^四 九六 ^八
南洞	一三〇	六五三八	九八 ^四	六四 ^四 七二四 ^〇
君子	四一五	九五七六	九八 ^四	九三八四四八 ^〇
計	六七九	二〇六六六	二〇三五二六八 ^〇	二〇六六六

備考

本表増配塩夫單價ハ常備塩夫初任給平均單價トス
 (1) 製塩準備作業塩夫給

ハ秋季整理作業(期間自十月一日至十一月十日)四〇日

所別面積塩夫延人員	單價	金額	摘要
朱安	二二 ^四	五五二 ^〇	常備塩夫(流下式塩田六人 早町步当(汲上式塩田七人
南洞	三〇	七五二 ^〇	九八 ^五 五四九二四 ^〇
蘇萊	五四九	一二七六 ^〇	九九五 ^一 二六九六二 ^〇
君子	六三	一四六四 ^〇	九九五 ^一 四五五六八 ^〇
計	一六六四	四四四 ^〇	四〇三三七八 ^〇

2. 冬季塩田手入並凍結採鹹作業(期間自十一月十一日至二月十日)六七日

所別面積塩夫延人員	單價	金額	摘要
朱安	二二 ^四	九二四六 ^八	常備塩夫(流下式塩田六人 早町步当(汲上式塩田六人
南洞	三〇	一三五九六 ^〇	九九五 ^一 二五三三〇 ^{二〇}
蘇萊	五四九	二一三七三 ^〇	九九五 ^一 二六六一四 ^〇
君子	六三	二四五二 ^〇	九九五 ^一 四三九九九 ^〇
計	一六六四	六七七三七 ^〇	六六三九八三三 ^〇

備考

作業期間ハ六七日間ナリ全期間中無休公休日七日間ヲ控除ス事ナリ

3. 春季準備作業 (期間 自二月十六日 至三月三日) 四日

所別面積	鹽夫延員	單價	金額	摘要
朱安	二二	臨時 六.六五	九.九五	常備鹽夫(流天)鹽夫六人 百十町步(汲式)鹽夫七人 臨時鹽夫 自二月一日 至三月三日
南洞	三〇	八.三二	九.九五	一日十町步當三人
蘇萊	五四九	一.四〇	九.九五	
君子	六.三	一.六一	九.九五	
小計	一六六四	五.六八	一.六三	
管棚	一六六四	四.一六	四.四六	十町步當二五人
小計	一六六四	四.一六	四.四六	
計	一六六四	六.四二	六.三三	

(二) 製鹽附帶作業鹽夫給

種別面積	延人員	單價	金額	摘要
專屬鹽夫	一六六四	四.三八	九.〇三	自四月一日 至三月三十一日 鹽夫一人

器具修理	五.八四	一.二〇	七.〇〇	自四月一日 至三月三十一日
揚水工	三.六五	一.〇二	三.七三	自四月一日 至三月三十一日
運轉夫	二.七三	三.八〇	一.〇五	自四月一日 至三月三十一日
炊事	七.一四	九.八〇	七.〇〇	自四月一日 至三月三十一日
飲料水	三.九二	九.八〇	三.八五	自四月一日 至三月三十一日
配給費	一.六六	三.八五	〇.四二	自四月一日 至三月三十一日
計	一六六四	三.八九	七.〇三	請負配給費

(三) 製鹽加給金

種別面積	鹽夫延員	單價	金額	摘要
最盛期時	一六六四	七.四八	一.二四	
外給金	一六六四	六.五二	一.二四	
製鹽	一六六四	二.八九	一.三三	割増實質収見区量
蘇萊新設	一六六四	二.八九	一.三三	一三三六九六。第三已定田
計	一六六四	一.六六	五.八四	
合計	一六六四	五.三六	五.八四	

附記

製塩器具修理

製塩器具修理、爲各監督區專屬木工配置、ポンプ運轉夫

君子第ニ区ノ疏塩田ハ高地式ナルガタメ揚水ポンプ運轉ヲ要シ運轉夫ヲ配置ス

水車製作及水車修理並製塩器具修理

製塩器具費節約目的ヲ以テ冬期間熟練老塩果工一部ヲ使役シ水車製作ヲナス共ニ其他木工水車並製塩器具修理ヲナス豫定ナリ

飲料水配給

飲料水配給前年度ニ準シ請負配給、豫定ナリ、炊事婦

塩夫舎一棟ニ對シ塩夫五名ハ一區一ノ手ヲナス其田ニ限

リ炊事婦一名ヲ配置ス

四、塩田手入計畫

塩田内部手入ハ春秋準備作業中採鹹ト併行實施スルハ勿論製塩作業期間中ハ作業着手當初手入計畫ヲ樹立シ塩夫餘暇ヲ利用シ極力生産ニ効果アル手入ヲ爲サシメルト共ニ八月ハ特ニ藻苔類除去ヲ促進セシムル目的ヲ以テ常備塩夫外ニ手入塩夫ヲ配置シ製塩後半期ニ於ケル生産増加ニ努ムル方針ナリ、而シテ冬ニ作業期間中ハ常備塩夫ヲ以テ凍結採鹹作業ヲ實施スルハ勿論貯水池堤防修理蒸發池苔取其他ノ塩田手入ヲ爲ス豫定ナリ

五、塩増産計畫

昭和十七年一月二十九日專鹽第二號通牒、本年度採鹽
實行方針ニ基ク、勿論左記各項ヲ實施勵行シ從
業員ヲ督勵萬難ヲ排シ鹽増産ヲ期ス
牒ヲ從業員ニ徹底セシムルコト
鹽田監督員ハ右通

(一) 保健

鹽夫、足部疾患豫防ハ特ニ之ヲ勵行シ疾患ニ依ル製
鹽勞力、低下ヲ極度低減スルコト

(四) 期間、延長

前表ニ掲記セルガ如ク製鹽期間ヲ自四月一日秋季整理作
業ヲ自十一月一日冬季凍結採鹹ヲ自十一月下旬實施シ増産ヲ
至十一月十日

圖ル豫定ナリ

(ハ) 最盛期特別作業

ハ作業時間ヲ二時間以上延長シ結晶時間、延長ヲ圖ル

2. 鹽田監督員ハ一週三日以上特ニ早出晚退專ラ製鹽指
導及從業員ヲ督勵並慰撫ニ努ム

(ニ) 督勵

ハ最盛季作業時間延長ニ伴ヒ加給金規定ニ基キ担
當員並鹽夫一番手以上一日十六錢以下、鹽夫ニ對シテ八十
錢ヲ加給ス

2. 製鹽加給金内規第十條一項ヲ製鹽獎勵並督勵
ノ爲鹽夫ニモ適用、豫定ナリ

3. 採鹽成績特ニ優秀ニシテ鹽田管理成績良好ナル鹽田
監督員並担當員ニ對シテハ本局ノ指示ニ依リ其定員
ヲ朝鮮神宮參拜等ヲナサシム豫定

六 鹽製造豫定數量

所別面積	特等鹽	一等鹽	二等鹽	計	一畝步	摘要
朱安	二〇九四	四五五二	三三五〇	八三三〇	八七五九	
南洞	三〇〇	六五八〇	三三九二	二〇三〇	一〇〇一〇	
蘇萊	五四九	三三八九	二六九五	四七九四	八三四三	
君子	六〇三	九五七六	三八九六	七三八〇	五五八七	九二六五
計	一六六一	二六六〇	一〇〇五七	二九三三	四九九六	九〇三五

右三對五別担當作業區別豫足高八別途送附通
 七、塩製造試驗計畫
 在來塩ト特等塩製造ト生産量比較

以上

1
C
1
C
1

8/16/16

⑧

昭和十四年度 製塩加給金支拂調書
(米安・南洞・君子・蘇業・塩田)

大正十四年度

製造加給金調書

專賣局 朱安出張所

朝鮮總督府 專賣局朱安出張所

肉譯

[illegible]

三 四 一 〇	一 二 五 〇 〇 〇	三 〇 三 三 三	一 二 五 三 三 三	四 五 二 八	一 一 一 一	三 七	向江武大
三 三 一 一	二 五 〇 〇 〇 〇	四 五 一 八	一 二 五 三 三 三	一 二 一 二 四	三 三 一 一	五 四	山本友次郎
三 三 一 一	一 〇 〇 〇 〇 〇	九 三 五 〇	一 〇 〇 三 九	一 三 九 五 九	四 五 五 二	六 八	金致徳
計	三 〇 三 三 三 〇 〇	八 九 三 三 三	二 五 〇 三 三 三	一 四 九 九 九	二 五 〇 九	四 一	
合計	三 三 九 九 〇 〇	一 三 〇 三 三 三 三	三 三 三 三 三 三 三	一 一 五 三 三 三 三		五 八	

朝鮮總督府
 專賣局朱安出張所

鹽生產費、多寡、依調書

內 譯

鹽別		鹽生產費	鹽天給	器具費	消耗費	計	鹽產額	全額合	摘要
朱安	已辦別	三、四、五。	八、五、九、四。	一、五、九、五。	一、三、五、二。	八、八、四、八。	二、五、五。	一、四。	
		三、四、五。	一、一、三、九。	三、六、〇、三、七。	一、九、四、四。	二、三、三、五、一。	二、〇、〇。	一、六。	
		五、五、一。	一、〇、五、九、八。	一、一、五、七、一。	九、一、四、八。	一、〇、七、一、六、九、九。	二、〇、一。	一、七。	
		五、五、二。	一、〇、〇、八、九。	一、五、五、五、六。	一、〇、〇、四、七。	二、〇、五、七、一、八、三。	二、〇、〇。	一、七。	
		五、五、三。	九、九、二、〇、〇。	二、〇、七、九、六。	一、一、八、六、九。	一、五、四、〇、七、五、五。	一、五、五。	一、〇。	
		五、五、一。	一、五、九、九、三。	四、一、五、八、八。	九、九、九、四。	一、四、四、四、〇、三、二。	二、九、九。	一、五。	
		五、五、二。	七、四、一、三。	三、七、七、九、八。	一、五、三、七、六。	一、六、一、六、五、五、一。	二、九、三。	一、二。	
		七、五、一。	九、五、五、九。	一、五、九、〇、五。	一、〇、一、九、二。	一、四、四、七、九、七、七。	二、五、一。	一、四。	
		七、五、二。	一、七、三、四。	一、五、七、一。	一、三、五、八。	一、五、九、九、四、八、八。	二、二、二。	一、五。	
		八、五、一。	一、一、〇、一、〇。	一、四、三、五、二。	三、一、五、八。	一、五、七、三、九、五。	二、九、五。	一、二。	
朱安		八、五、二。	五、五、三。	三、〇、二、八。	五、九、九、八。	一、五、四、〇、八、二。	二、五、九。	一、五。	
計		九、三、四、五。	二、〇、九、二、八。	二、三、四、四、八。	一、四、五、七、七。	二、一、三、三、五、九。	二、五、一。	一、五。	
南河		一、五、一。	二、四、七、三、六。	二、五、一、九、一。	九、五、四、八。	一、五、〇、〇、〇、八。	三、五、九。	一、〇。	
		一、五、二。	一、八、五、五。	一、六、五、五、五。	五、一、一、八。	一、四、三、〇、〇。	四、五、九。	一、〇。	
		一、五、三。	一、二、五、五、五。	一、七、五、五、一。	五、五、五、二。	一、八、八、七、五、九、五。	五、一、五。	一、〇。	
		一、五、四。	二、〇、九、一、八。	三、一、〇、七、九。	八、四、七、一。	二、一、三、一、三、一、〇。	三、三、五。	一、〇。	
		一、五、五。	二、〇、九、二、四。	三、一、一、四、〇。	七、五、三、三。	二、一、三、一、三、一、〇。	五、一、一。	一、〇。	
		二、五、一。	一、四、五、九、〇。	一、六、五、五、五。	五、五、五、九。	一、五、〇、〇、五、五、五。	三、四、四。	一、〇。	
		二、五、二。	一、八、〇、〇、〇。	一、八、八、八、八。	一、一、一、一、一。	二、九、九、九、九、九。	三、三、三。	一、〇。	
		二、五、三。	九、七、三、五、〇。	七、一、三、五、五。	七、八、八、九。	一、五、〇、〇、九、二。	五、五、七。	一、四。	
		二、五、四。	三、五、五、一、〇。	二、五、二、〇、九。	八、九、八、五。	九、八、八、八、四、〇。	一、五、八。	一、四。	
		二、五、五。	七、七、一、八、〇。	五、一、一、一、二。	七、五、五、四。	一、五、九、九、五、五、五。	三、三、五。	一、〇。	
總督府		一、五、一。	二、四、七、三、六。	二、五、一、九、一。	九、五、四、八。	一、五、〇、〇、〇、八。	三、五、九。	一、〇。	
專賣局朱安出張所		一、五、二。	一、八、五、五。	一、六、五、五、五。	五、一、一、八。	一、四、三、〇、〇。	四、五、九。	一、〇。	

三三二	五五四九。	二〇九。五。	一六一九。	八二二一	二二一五二	三
三三二	四一四。五。	一七三。一。	一九四八	一四四	一〇一	二。
三三二	四九。五。	一五。三。	一九九	六二五	三	九。
三三二	八四。九。	二〇九。四。	三二八	一五。八	二五	一。
三三二	六八。一。	二二。三。	四。三	一〇。七	三	九。
三三二	九三。四	一五。八。	五。七	一五。七	一	〇。
三三二	二〇。	一五。七。	三。八	二〇。五	一	〇。
三三二	九七。九	一五。八。	二。八	一五。八	一	〇。
三三二	六。五。	三。一。	八。五	三。三	一	〇。
三三二	一五。三。	一五。三。	一。九	一五。八	一	〇。
三三二	二六。九	二六。九	三。九	四。七	一	〇。
三三二	二六。八	二六。九	二。九	一〇。九	一	〇。
三三二	一五。九	一五。八。	二。九	一〇。九	一	〇。
三三二	四。八	三。一。	一。九	一五。八	一	〇。
三三二	二。一。	二。一。	四。四	五。一	一	〇。

朝鮮總督府 專賣局朱安出張所

三三二	五五四九。	二〇九。五。	一六一九。	八二二一	二二一五二	三
三三二	四一四。五。	一七三。一。	一九四八	一四四	一〇一	二。
三三二	四九。五。	一五。三。	一九九	六二五	三	九。
三三二	八四。九。	二〇九。四。	三二八	一五。八	二五	一。
三三二	六八。一。	二二。三。	四。三	一〇。七	三	九。
三三二	九三。四	一五。八。	五。七	一五。七	一	〇。
三三二	二〇。	一五。七。	三。八	二〇。五	一	〇。
三三二	九七。九	一五。八。	二。八	一五。八	一	〇。
三三二	六。五。	三。一。	八。五	三。三	一	〇。
三三二	一五。三。	一五。三。	一。九	一五。八	一	〇。
三三二	二六。九	二六。九	三。九	四。七	一	〇。
三三二	二六。八	二六。九	二。九	一〇。九	一	〇。
三三二	一五。九	一五。八。	二。九	一〇。九	一	〇。
三三二	四。八	三。一。	一。九	一五。八	一	〇。
三三二	二。一。	二。一。	四。四	五。一	一	〇。

[illegible]

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

	三 一 四
	乙
	甲
	甲
	甲
	1
	/ 0
	/ 0
	= 0
	// 0

備考

一、塩生産多寡及生産費多少ハ君子塩田採塩初年ニ付製塩ヲ想高
不竟分ニシテ尚生産費ハ他ニ比シ高上セラル以テ本年ニ限リ控除セリ。

傷人加給規定作業區標準面積及能力表

內 譯

標別	已別	面積	標準面積	全工增減	一町步高	標準能力	全工增減	摘 要
朱安	一、二、三	七、八	二、六、七	一、五、〇	八、七、九、三	五、五、二、八	三、三、四、四	
〃	三、四、五	二、五、五	二、六、七	八	一、〇、五、三、七、四	〃	四、八、一、三、六	
〃	五、五、一	一、五、一	二、六、七	九、五	八、四、四、九	〃	一、九、一、三、一	
〃	五、五、一、二	一、五、一	二、六、七	二、五	八、五、三、九	〃	三、〇、一、一、九	
〃	五、五、一、三	一、八、九	二、六、七	三、八	八、四、二、八、五	〃	二、九、〇、四、八	
〃	五、五、一、四	一、二、五	二、六、七	一、〇、二	五、五、九、〇、〇	〃	一、四、八、〇	
〃	五、五、一、五	一、九、九	二、六、七	二、八	五、一、八、四、九	〃	三、三、五、九	
〃	七、五、一	二、二、八	二、六、七	二	五、〇、九、三、一	〃	四、三、一、七	
〃	七、五、一、一	二、四、一	二、六、七	一、四	五、〇、八、二、九	〃	四、四、〇、九	
〃	八、五、一	三、六、五	二、六、七	九、八	五、一、五、〇、〇	〃	三、五、三、八	

朝鮮總督府 專賣局朱安出張所

標別	已別	面積	標準面積	全工增減	一町步高	標準能力	全工增減	摘 要
朱安	八、五、二	一、一、一	二、六、七	一、〇、五	五、五、五、五	五、五、二、八	一、九、三、三	
計	一、九、五	〃	〃	三、四	五、七、八、三、二	〃	一、二、五、二、四	
南洞	一、五、一	三、〇、〇	二、六、七	七、三	五、〇、〇、〇、〇	五、五、二、八	五、二、三、八	
〃	一、五、二	一、〇、〇	〃	一、二、七	三、九、〇、〇、〇	五、五、二、八	一、六、二、三、八	
〃	一、五、三	一、五、〇	〃	七、五	三、九、〇、〇、〇	五、五、二、八	一、七、二、三、八	
〃	一、五、四	一、五、〇	〃	二、五	四、五、〇、〇、〇	五、五、二、八	一、〇、二、三、八	
〃	一、五、五	二、五、〇	〃	三、三	四、五、〇、〇、〇	五、五、二、八	一、〇、二、三、八	
〃	二、五、一	一、五、〇	〃	七、七	四、八、〇、〇、〇	五、五、二、八	七、二、三、八	
〃	二、五、二	三、〇、〇	〃	七、三	四、五、〇、〇、〇	五、五、二、八	九、二、三、八	
〃	二、五、三	二、五、〇	〃	二、三	五、五、〇、〇、〇	五、五、二、八	二、三、八	
〃	二、五、四	一、〇、〇	〃	一、七、七	五、四、〇、〇、〇	五、五、二、八	一、三、八	
〃	二、五、五	二、五、〇	〃	二、三	五、五、〇、〇、〇	五、五、二、八	二、三、八	
〃	三、五、一	三、〇、〇	〃	七、三	四、五、〇、〇、〇	五、五、二、八	九、二、三、八	
〃	三、五、二	三、〇、〇	〃	七、三	四、五、〇、〇、〇	五、五、二、八	九、二、三、八	
〃	三、五、三	三、〇、〇	〃	七、三	四、五、〇、〇、〇	五、五、二、八	九、二、三、八	
〃	三、五、四	三、〇、〇	〃	七、三	四、五、〇、〇、〇	五、五、二、八	九、二、三、八	
〃	三、五、五	三、〇、〇	〃	七、三	四、五、〇、〇、〇	五、五、二、八	九、二、三、八	

[illegible]

〃	三 五 十	二 五 〇	〃	一 三	五 〇 〇	〃	五 〇 三 八
〃	三 五 十 一	四 五 〇	〃	二 三	五 〇 〇	〃	四 九 三 八
〃	三 五 十 二	三 〇 〇	〃	七 三	五 〇 〇	〃	四 九 三 八
〃	三 五 十 三	二 四 〇	〃	一 三	五 〇 〇	〃	四 九 三 八
合 計	一 〇 七 七	一 〇 七 七	〃	一 三	五 〇 〇	〃	四 九 三 八

備考

一、標準面積ハ朱安南洞君ヲ總面積ヲ各尾跡數ヲ以テ除シタルモノ

二、標準能力ハ第々余ノ君ヲ塩田ヲ除キ朱安及南洞塩田ノ製塩予想高

ヲ同塩田總面積ヲ除シタル一町歩當リトス

三、朱書ハハナラス

第九條=係以面積及能力割合計算表 △減ヲ入

種類	作業區面積=對ル標準面積割合	作業區能力=對ル標準能力割合
朱安	$(22.7 - 7.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.152$	$(87.922 - 55.236) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.355$
一、四、五	$(23.5 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.007$	$(103.374 - 55.236) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.523$
五、五、一	$(22.7 - 13.2) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.084$	$(84.469 - 55.236) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.516$
五、五、一	$(25.2 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.023$	$(85.367 - 55.236) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.329$
五、五、一	$(22.7 - 19.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.034$	$(84.265 - 55.236) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.316$
五、五、一	$(22.7 - 12.5) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.090$	$(86.720 - 55.236) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.716$
五、五、一	$(22.7 - 19.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.035$	$(85.236 - 54.859) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.037$
五、五、一	$(22.8 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.010$	$(85.236 - 54.924) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.049$
五、五、一	$(24.1 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.112$	$(85.236 - 54.829) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.046$
五、五、一	$(22.5 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.016$	$(85.236 - 54.600) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.040$
五、五、一	$(22.7 - 16.1) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.090$	$(85.236 - 53.345) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.229$
基礎別 商 同	作業區面積=對ル標準面積割合	作業區能力=對ル標準能力割合
一、五、一	$(30.0 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.064$	$(85.236 - 59.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.257$
一、五、一	$(22.7 - 10.0) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.112$	$(85.236 - 39.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.496$
一、五、三	$(22.7 - 15.0) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.068$	$(85.236 - 39.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.176$
一、五、四	$(25.0 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.020$	$(85.236 - 46.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.111$
一、五、五	$(25.0 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.020$	$(85.236 - 46.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.111$
一、五、一	$(22.7 - 15.0) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.068$	$(85.236 - 46.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.079$
一、五、一	$(30.0 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.064$	$(85.236 - 46.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.110$
一、五、三	$(25.0 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.020$	$(85.236 - 55.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.026$
一、五、四	$(22.7 - 14.0) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.112$	$(85.236 - 46.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.111$
一、五、五	$(25.0 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.020$	$(85.236 - 50.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.047$
一、五、一	$(25.0 - 22.7) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.020$	$(85.236 - 38.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.187$
一、五、三	$(22.7 - 20.0) \times \frac{2}{10} \div 22.7 = 0.024$	$(85.236 - 33.000) \times \frac{6}{10} \div 55.236 = 0.246$

總督府 專賣局朱安出張所

[illegible]

(朱安那和十一年度)
大正 製塩加給金支給細則

第一條 製塩加給金ノ算定ハ塩業現業傭人加給金支給内規(以下單ニ内規ト稱ス)
ニ依ルノ外本細則ニ依ル

第二條 製塩成績ノ調査ハ三名以上ノ委員ヲ設ケ製塩終了後之ヲ行フ

第三條 作業區ノ担当ハ成ル可ク十一月中ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四條 内規第五條ニ依ル加給金ノ率ハ一厘以上ヲ減額スヘシ但シ特ニ製塩成績優良
ナル塩田ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 作業區ノ生産能力ハ既往七ヶ年中最高最低ヲ除キタル五ヶ年ノ平均實績ヲ
基礎トシ現在ノ狀況ニ依リ之ヲ決定スヘシ但シ既往年中天災其ノ他ノ事故ニ依リ生産
高著シク減小セル年ハ之ヲ除外ス

新規塩田ノ生産能力ハ左ノ標準ニ據ル但シ二年度以後ニ於テハ前項ニ依リ算定シタル

能力ト前年度ノ生産實績トノ差額ヲ加除スヘシ

初年度	一萬斤
二年度	二萬五千斤
三年度	四萬斤
四年度	五萬五千斤
五年度	六萬五千斤
六年度	七萬五千斤
七年度	八萬斤

結晶池ノ全部ニ對シ改良工事ヲ施シタル場合ハ翌年度ヨリ五千斤ヲ増加ス

第六條 作業區ノ標準面積ハ反位(反未滿ハ四拾五入ス)標準能力ハ百斤位(百斤未滿ハ四拾五
入ストス)

第七條 製塩實收量ハ拂出實績ニ依ル但シ在庫塩ハ其ノ容積ヲ測定シ塩質及堆積密
度ヲ査察シテ之ヲ算定スヘシ

第八條 内規第十條ニ依ル成績ハ左記ニ依リ決定スヘシ

(イ) 塩生産ノ多寡ニ依ルモノ

總生産豫定高ニ対スル總實収量ノ歩合ヲ基準トシ各作業區ノ同步合ヲ對比シ

二割以内ノ増減ヲ為ス

(ロ) 塩田管理ノ良否ニ依ルモノ

塩田管理ハ平素ノ管理状況並調査當時ノ現状ニ基キ之ヲ定メ三割以内ノ増減ヲ為ス

(ハ) 塩生産費ノ多寡ニ依ルモノ

直接生産費タル左ノ費額ノ塩百斤當總平均額ヲ基準トシ各作業區ノ百斤當金額ト對比シ二割以内ノ増減ヲ為ス

担当員給料 準備作業ヨリ製塩終了迄ノモノ

塩夫給料 同

塩田修繕費 外廊堤防及之附屬スル建造物、軌條、結晶池改良等ノ工費ヲ除ク

器具費

當年度交付シタル器具ノ價額及製塩成績調査期ニ於テ現存品評價受入額ト同残存額トノ差額ヲ加減ス

消耗品費

當年度使用額

雜費 同

(ニ) 塩ノ品質ノ良否ニ依ルモノ

拂出當時ノモノ及在庫塩ニ就テ検査シタルモノニ依リ一割以内ノ増減ヲ為ス

(ホ) 製塩器具及塩田營造物ノ保管ノ良否ニ依ルモノ

製塩器具及塩田、宿舍、塩夫舍等ノ保管状況ニ基キ之ヲ定メ一割以内ノ増減ヲ為ス

前項中塩生産費ノ多寡ニ依ルモノハ新規塩田ニシテ他ノ塩田ノ生産費ト著シク差異アリ比較シ

難キ場合ハ之ヲ適用セサルコトヲ得

第九條 塩夫ニ支給スル加給金ハ其ノ出勤日數ニ應シ適當ノ時期ニ於テ之ヲ支給ス

但シ自己便宜ニ依リ一ヶ月五日以上缺勤セシモノハ支給セサルコトアルヘシ

第十條 担当員ニシテ製塩期中退職等ニ依リ作業區ヲ離ルルニ至リタル者ハ加給金

ヲ支給セサルコトアルヘシ

第十一條 製塩期中途ニ於テ就職シタル担当員ニハ其ノ就職後ノ製塩成績ニ依リ加給金ヲ算定ス

第十二條 各監督區ノ製塩成績ヲ調査シ其ノ優良ナルモノニ對シ優勝旗ヲ授典ス
優勝旗並副章ハ受賞區監督員ニ於テ保管シ製塩終了期ニ至リ之ヲ返還スヘシ

第十三條 優勝旗ニハ金百圓ノ以内特別加給金ヲ付ス

特別加給金ハ受賞區ニ於テ處分シ其ノ結果ヲ報告スヘシ

第一號書式

大正

年製衣稿
給金少
調書

[illegible]

第二號書式

標準面積及能力(內規第九條)ニ依ル増減割合調書

標準面積

標準能力

[illegible]

鹽生產多寡(內規第十條)三依ル増減割合調書

[illegible]

生產費之多寡（內規第十條）ニ依ル増減割合調書

[illegible]

塩田管理，良不其他（内規第十条）ニ依ル増減割合調書

[illegible]

新規塩田調書

	鹽田區辨別			
		面		
		積		
		築造年月		
		經過年數		
		備		
		考		

第七號書式

器具費使用額調書

塩田區別	前年度現在價額	本年度購入額	計	返納額	本年度残存價額	差引使用額	備考

第八號書式

担当員缺勤日数調書

塩田區別	缺勤日数	職氏名	備考

作業區面積及能力ニ対スル増減割合算出表

塩田區別	作業區面積ニ対スル標準面積割合	作業區能力ニ対スル標準能力割合
例	作業區面積÷標準面積ヨリ×100の場合	作業區能力÷標準能力ヨリ×100の場合
朱古一、二區	(標準面積-作業區面積)× $\frac{100}{\text{標準面積}}$	(作業區能力-標準能力)× $\frac{100}{\text{標準能力}}$
	面積=	能力=
例	作業區面積÷標準面積ヨリ×100の場合	作業區面積÷標準能力ヨリ×100の場合
八區、一	(作業區面積-標準面積)× $\frac{100}{\text{標準面積}}$	(標準能力-作業區能力)× $\frac{100}{\text{標準能力}}$
	面積=	能力=

松戸所長 朱安出張所関係

昭和十四年度製塩現業員加給金支給調書

一金八千貳拾八月七拾五也

本年度製塩加給支給ハ左記ニ依リ査定セリ

考 査 項 目

一製塩加給金支給内規第二條ハ本年二月管内塩田ヲ八十九作業區ニ分チ夫々事業手塩夫長又ハ之ニ準スル者及塩夫ノ所屬ヲ定メタリ

二内規第三條作業區ノ生産能力ハ其ノ作業區既往ノ實績及現在ノ狀況等調査シ三月之ヲ定メタリ

三内規第四條本年度ノ作業區標準面積ヲ一七・七町標準能力ヲ一町步當八九・三三町ト定メタリ

四内規第五條加給率ハ一等塩二等塩共二百町當壹錢ト定メタリ

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

五内規第六條第二項ノ新設塩田ハ左通リ増加シタリ

以蘇萊第一區塩田

以蘇萊第二區自一〇號至一七號塩田

經過年數四年……………二割増

以蘇萊第二區自一六號至一七號塩田

經過年數三年……………四割増

以蘇萊第三區塩田

經過年數二年……………七割増

六内規第七條

以朱安第四區試驗塩田ノ一部三町步ノ真空式製塩工場附屬塩田ハ朱安直轄塩田ノ實收歩合ニ應ジ支給額ヲ割増シタルモ同塩田ハ面積減少ニシテ擔當員ヲ常置セズ採鹹作業ノミナルガ故ニ其ノ百分六十五ヲ塩夫ニノ

三支給セリ

(四) 朱安直轄塩田中第四區塩田ヲ除ク一八八町歩ノ塩田ヨリ苦汁拂下ニ依テ減收量ハ過去ニ於ケル試験結果ニ基キ増額支給セリ

八内規第八條各製塩擔當區ノ加給金ハ其ノ區ノ加給金ノ百分ノ六十五ヲ塩夫ニ支給シ百分ノ三十五ヲ擔當員ニ内規各條ノ増減歩合並ニ成績ノ良否等ヲ斟酌シテ支給額ヲ算定セリ

八内規第九條標準面積一ヘ七町歩生産能力一町歩當八九三八三町ト定メ各作業區ノ面積及能力ヲ標準面積並能力ニ比シ小ナルモハ増シ大ナルモハ減ジタリ

九内規第十條

一、塩生産ノ多寡ニ依ルモハ舊塩田(朱安南洞君子)

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

及新塩田(蘇茨)別ニ各作業區ノ塩生産豫定量ニ對シ實收歩合ト平均實收歩合トヲ對照シテ平均ヨリ以上ヲ増シ以下ヲ減ジタリ、其ノ増減歩合ハ平均歩合トノ差〇〇三ヨリ〇〇六未満六分〇〇九未満九分〇一二未満一割四分〇一五未満二割一分以上三割ヲ夫々増減シタリ

四、塩生産費ノ多寡ニ依ルモハ直接生産費(即チ擔當員給料塩夫給塩田修繕費製塩器具費補修品費消耗品費塩田雜費等)ヲ調査シ之ニ依リ算出シタル塩百石當生産費内規第九條ノ能力ニ對スル増減割合ニ準シ能力大ナルモハ増シ小ナルモハ減ジタル金額ノ大小ニ依リ増減歩合ヲ左ノ如ク定メタリ
生産費ノ多寡ニ依ル増減歩合

百兩當生産費	増減率
二二以上	〇・〇
二〇六以上	〇・七
一九六以上	〇・三
一八一平均	一
一七一未満	〇・三
一五六未満	〇・七
一四一未満	〇・〇

ハ) 塩田管理ノ良否ニ依ルモハ平素ニ於ケル塩田管理
及塩田手入ノ良否ヲ調査シ之ヲ甲乙丙ニ採點シ甲
ハ一割五分乙上ハ七分ヲ増シ乙ハ増減ヲ行ハズ乙下ハ
七分丙ハ一割五分ヲ減ジタリ

(二) 塩品質ハ色相及成分ニ分チ増減率ノ最高ヲ色

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

相一割成分一割トシ計二割トセリ

ノ色相

色相區分ハ最低標準塩ニ等シキモノヲハ〇點トシ
最高ヲ八五點トシタル割合ニテ上下採點シ最低標
準塩點ハ〇點ニ比シマ一點ノ増減ニ對シ二分ノ増
減ヲナセリ

ニ成分

成分ニ依ルモハ改良結晶池塩田及土底結晶池塩
田ノ等級別平均塩化曹達量ニ對スル差ニ依リ最
高一割ノ増減ヲ基トシ生産割合ニ依リ左如ク定メタリ
改良結晶池塩田増減率

成分	増減率
ハ一七七未満	〇・一〇

八二〇未満	〇〇五	
八三〇未満	一	
八四〇以上	〇〇五	
八五〇以上	一〇	

土底結晶池塩田増減割合

一等塩		二等塩	
成分増減率	成分増減率	成分増減率	成分増減率
八二九未満	〇五	八二九未満	〇五
八三九未満		八三九未満	
八四〇以上	〇五	八四〇以上	〇五

(ホ)製塩器具及塩田營造物保管ノ良否ニ依ルモノハ平素ノ保管ノ良否ヲ調査シ猶製塩作業終了後器具検査ノ際器具ノ手入ヲモ調査シ是等ニ依リ甲乙丙ニ採点シ甲ハ五分ヲ増シ乙ハ増減ヲ行ハズ丙ハ五分ヲ減シタリ

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

分ヲ減シタリ

(ハ)塩欠減歩合ニ依ルモノ

塩欠減歩合ハ一割ヲ標準トシ欠減一割二分未満ハ増減セス二以上二〇未満ハ五分二〇以上ハ一割ヲ控除スル事トセリ

(ト)試験塩田中朱安第四區君子第三區六號甲乙塩田ハイロハニ項ノ増減ヲ免除セリ

一、製塩期間中病氣轉勤退職其他ノ事由ニ依リ所屬塩田ヲ離レル擔當員ハ離脱日数一日ニ付キ加給金額ノ二百四十分ノ一ヲ控除シ其職務ヲ代理シタルモノニ支給シタリ

二、製塩器具補修品費及消耗品費ノ節約ヲ促シ塩生産費ノ低下ヲ徹底セシムル目的ヲ以テ豫算額ヲ超過シタル塩田擔當員ニ對シテハ加給金額ヨリ其超過額ヲ差

引スベキ豫定ナリシモ物資節約ノ主旨徹底シ抵觸者ナシ

三優勝監督區特別賞與加給金採塩成績優勝監督區ハ舊塩田(朱安南洞君子)及新塩田(蘇萊)ヨリ各一監督區ヲ査定シ優勝旗ト共ニ授與スベキ特別賞與加給金ハ金壹百圓宛トシ之ヲ左記ノ方法ニ據リ控除額ヲ算定セリ

記

舊塩田

朱安南洞君子塩田ヲ通シ塩生産豫定高ニ對シ実收歩合ノ劣ル塩當區十五作業區ヲ特別加給金負擔區ト定メ擔當員ノ數及面積竝採塩成績ニ比例シテ朱安二名南洞五名君子八名ヲ以テ各加

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

給金額ニ按分比例シテ負擔額ヲ決定セリ
新塩田

蘇萊塩田中ヨリ塩生産豫定高ニ對シ實收歩合劣ル塩當區十三作業區ヲ特別加給金負擔區ト定メ各ノ加給金額ニ按分比例シテ負擔額ヲ決定セリ

三製塩加給金及年末賞與金額加給與令第十七條ニ依ル制限額ヲ超過セル塩田相當員ニ對シテハ其超過額ヲ控除セリ

(朱安)

昭和十七年度 君子張出所 製造加給金

加給金		支給額		氏名
由親芽丸茶内現芽十茶 按所加給金	依此増減 依此増減 責任加給	由親芽丸茶内現芽十茶 按所加給金	依此増減 依此増減 責任加給	
一、一八	一〇、七、八	一、四、七、八	一、四、七、八	金村義生
二、二一	八、七、九	一、二、七、九	一、二、七、九	大山延男
三、一	四、一〇、〇	八、二、〇	八、二、〇	池田元珠
三、二	三、七、三	六、二、一	六、二、一	安田録載
四、九	一、四、九、三	一、二、六、七、〇	一、二、六、七、〇	陽津淳根
五、七	一、六、〇	一、三、二、〇	一、三、二、〇	金川龍王
六、八	四、七、二	八、九、七	八、九、七	高城照祐
七、九	一、七、八	七、五、三	七、五、三	國本龍成
八、〇	二、六、八、八	一、〇、一、八	一、〇、一、八	金村典彦
九、一	一、七、七	八、四、八	八、四、八	木村希則
一〇、二	一、〇、二	一、〇、三、四	一、〇、三、四	長谷敏奎

山本幸雄

二月羊恩平事重司

25枚

(3)

昭和三年

製塩官署に於ける塩田管理関係

事業年報

南洞氷出所 技手 石川武志

一、朱安塩田に於ては、毎年、塩田監督に対し製塩管理の年報提出を

求めて居ります。本書によれば、塩夫の使役人員、労銀、製塩期の作業の有様

等がよくわのります。因に、私の監督歴六年目にあたり南洞氷二区塩田にて

採塩成績優秀者の表彰を受けた年もありました。

二、昭和二年所長會議協議事項答申

朱安 石川武志

昭和三年度

事業年報

專賣局朱安出張所南洞派出所 第二区

昭和三年度事業年報

目次

- 一、製塩準備作業開始及終了期並前年ト比較表
- 一、製塩準備作業方法及前年ト相違點
- 一、製塩準備作業、効果
- 一、製塩準備使役塩天負教及支拂額前年ト比較
- 一、製塩作業開始及終了期並前年ト比較表
- 一、製塩作業上、改善
- 一、製塩作業塩天使役状況
- 一、製塩塩天使役月別表及一人當給額前年ト比較
- 一、製塩器具修理費配付及支出額前年ト比較
- 一、製塩作業用消耗費配付及支出前年ト比較
- 一、塩田器具配附數前年ト比較

一、採塩高比較表

一月別採塩高比較表

一月別結晶坪数表 月別坪當採塩高比較表

一、春秋兩季採塩高比較表

一、本年度各等塩別欠減高合歩合前年ト比較表

一、臨時採塩天(秋季準備作業)使役表

一、製塩作業終了期、處置

一、堤防及建築物、管理並ニ保護

一、結 論

一、製 塩 準備作業

一、準備作業開始及終了期並前年ト比較

年度別	開始	終了	日数
昭和六年度	二月二十日	三月三十日	三十五日
昭和七年度	三月一日	三月三十一日	三十一日

一、準備作業、方法及效果

本年度準備作業ハ塩田ノ實情ニ徴シ作業費ノ關係上碇畔修理ヲ第一蒸發池ノミニ止メ第二蒸發池ハ施行ス。特ニ第一蒸發池ノ面均整地及藻苔除去ニ主力ヲ注ギ第二蒸發池以下結晶池等ノ修理作業ニ移ラサレタ所ニハ一般ヨリ早期ニ漲水ヲ開始シ鹹水ノ生製收率ヲ計画セリ。而シテ次第ニ第一蒸發池ノ修理成ルヤ第二蒸發池トノ漲水ヲ交代シ地盤適度ニ成ルニ及ビ結晶池及第二ノ地盤固メヲ入念ニ施行セリ。

効果

本準備作業期間ハ幸ニ晴天持續シ寒氣可成強カリシモ北西ノ風
延リ漲水ノ濃縮旺盛ニシテ意外ノ鹹水ヲ收斂スル事ヲ得タリ尚
蒸發池ノ整地ニ意ヲ用シ結果水際薄漲ヲ可ナシメ鹹水ノ生製
ニ至大ノ効果ヲ能ヘタリ

本年度ノ町費當配付豫算ハ一四八八四ニテ其ノ實行豫算ハ左ノ如シ

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
第一蒸發池 畦畔修理	町	一八三〇	二五	二七二五	
用水路復舊	町	一〇〇	三〇	三〇〇〇	
第二蒸發池ノ費	町	四二二二	二〇	四二二二	十字ニ四ノ
結晶池手入	町			四六四〇	此ノ費町費一ノ
第一蒸發池舊地 及口ノ修繕費	町			六六九八	口ノ修繕費一ノ 修繕費六ノ
計	全			一四三〇〇	

一製塩準備作業使役塩夫負教及支拂額並前年ト比較

種別	面積	人員	金額	人員	金額	人員	金額
一	一五	四三〇	二二二	三八六	二二三	八八	二七八四
二	三〇	八四七	四九二	七二三	四八八	六四	四二九二
三	三五	七二七	四二八	六四四	五七三	七三	四二三四
四	一〇	二八二	一六三	二五七	一四九	一五	一四五〇
五	三五	七二七	四二八	六四四	五七三	七三	四二三四
計	一五	四三〇	二二二	三八六	二二三	八八	二七八四

一製塩準備作業

製塩準備作業開始終了並前年ト比較

年度別	開始	終了	日數
昭和二年度	四月一日	十月十五日	二〇八
昭和三年度	四月一日	十月十五日	一九八

製塩作業上ノ改善

鹽片結晶池ノ補給比重ニ就テの一部ノ間ニ四季ヲ通ジテ二十一度以上ノ通度ナリト七月頃アルガ本年ヨリハ結晶水ノ状態ヨリ四月ハ二十一度ノ限度トシ五月下旬ヨリ六月中旬ハ二十一度ヲ標準トシ七月以降秋季ニカケ二十一度ト定メ結晶面坪ノ擴大ヲハカリ毎日採塩ヲ實行セリ

蒸發池漲水ノ巧拙ハ鹹水ノ生製ニ重大ナル影響ヲ能フルモノト稍モスレバ使用塩夫ノ配置ヲ誤リ操下作業ヲ多少阻害ニ及リ傾向アルニ鑑ミ本年ハ此莫ニ注意シ第一蒸發池ノ面均ノ完成ヲ機會ニ各段薄張ヲ勵行シ操下塩夫ハ經驗深キ者ヲシテ之ニ當ラシメ左ノ如キ項目ヲ嚴守セヨタリ

- 一 蒸發池各段ノ水深ハ薄張ヲ平均ニ漲水スルコト
 - 一 蒸發池各段中ハ蒸發池面ヲ望ニテストリ嚴禁シテ天日ヲ完全ニ利用スルコト
 - 一 降雨ノ際鹹水貯溜ハ第一蒸發池ノ大鹹水溜ヲ利用セシムル為晴天ノ場合
- ▲同鹹水溜ハ空ニナレ置クコト

塩夫使役状況

本年度製塩塩夫月別使役数並ニ塩夫給支拂額ハ別項明細表ノ通ニシテ塩夫一人當ノ單價ハ平均六十文内最高七十文最低四十文ナリ

コレヲ前年ニ對比スルニ全製塩期間ヲ通ジテ人員ニ於テ一九六三人金額是ノ百十七円四十文ノ節減ヲ示セリ

塩夫ノ採備ニ就テハ専ラ地着元農村ヨリ採備方針ヲエテ五町歩パート制度ニテ各鄉一名ノ大パートヲ指定シ租富員ノ補助ヲナサシム尙塩夫採備條件トシテハ通勤ヲ全廢シ塩夫舎ニ収容可能者ヲ模檢シ塩最盛期ニ備ヘ欠勤ノ停止ヲナセリ

月別入舎人員表

期別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計
上	五	五	三	二	一	一	一	一
下	五	三	二	一	一	一	一	一
計	一〇	八	五	三	二	二	二	二

月別	四月		五月		六月		七月		八月		九月		十月		計
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五

次一塩天、移動欲動ハ塩量盛期ハ四月五月ニ於テ多ク秋季ニ於テ少シクハ
労働、難易ニシテ自然傾向ニシテ本年ノ如ク未曾有ノ天気連續ニ際シテハ
結晶面坪、伸展ト共ニ採塩量非常ニ多ク、労働業務ニ過ヤ足部傷
病者或ハ身ハ過勞者相次ガ状況ニシテ塩天使役ニ困難ヲ感ジタリ

月別致勤表

号別	四月		五月		六月		七月		八月		九月		十月		計
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	
一	三	八	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
二	三	八	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
三	三	八	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
四	三	八	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
五	三	八	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
計	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五

月別	四月		五月		六月		七月		八月		九月		十月		計
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	
一	三	八	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
二	三	八	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
三	三	八	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
四	三	八	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
五	三	八	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
計	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五

其他製塩、傍ラ左ノ如キ作業ヲ實施セリ

- 一、二三号及五号間大百間口道路ヲ基準トシ學校前ニ至ル区間、道路修理
- 一、天気連續期間中外側貯水池、貯水濃縮採鹹作業
- 一、貯水池内側堤防修理
- 一、外廓堤防修理
- 一、蒸發池整地
- 一、塩積出ドック浚渫
- 一、軌條道路修理

製塩塩夫使役月別給額並二前年ト比較

昭和二年 度

別	一	二	三	四	五	計	別	一	二	三	四	五	計	別	一	二	三	四	五	計	別	一	二	三	四	五	計	別	一	二	三	四	五	計		
105	25	10	25	30	15	105	25	10	25	30	15	105	25	10	25	30	15	105	25	10	25	30	15	105	25	10	25	30	15	105	25	10	25	30	15	105
3109	750	310	750	900	449	3109	750	310	750	900	449	3109	750	310	750	900	449	3109	750	310	750	900	449	3109	750	310	750	900	449	3109	750	310	750	900	449	3109
3255	775	310	775	930	445	3255	775	310	775	930	445	3255	775	310	775	930	445	3255	775	310	775	930	445	3255	775	310	775	930	445	3255	775	310	775	930	445	3255
2322	558	232	558	651	332	2322	558	232	558	651	332	2322	558	232	558	651	332	2322	558	232	558	651	332	2322	558	232	558	651	332	2322	558	232	558	651	332	2322
3327	797	332	797	912	495	3327	797	332	797	912	495	3327	797	332	797	912	495	3327	797	332	797	912	495	3327	797	332	797	912	495	3327	797	332	797	912	495	3327
2940	702	294	702	828	428	2940	702	294	702	828	428	2940	702	294	702	828	428	2940	702	294	702	828	428	2940	702	294	702	828	428	2940	702	294	702	828	428	2940
2320	600	232	600	720	360	2320	600	232	600	720	360	2320	600	232	600	720	360	2320	600	232	600	720	360	2320	600	232	600	720	360	2320	600	232	600	720	360	2320
1838	437	183	437	520	267	1838	437	183	437	520	267	1838	437	183	437	520	267	1838	437	183	437	520	267	1838	437	183	437	520	267	1838	437	183	437	520	267	1838
180	42	18	42	50	24	180	42	18	42	50	24	180	42	18	42	50	24	180	42	18	42	50	24	180	42	18	42	50	24	180	42	18	42	50	24	180
98	22	9	22	26	13	98	22	9	22	26	13	98	22	9	22	26	13	98	22	9	22	26	13	98	22	9	22	26	13	98	22	9	22	26	13	98
17576	4246	1757	4246	5097	2548	17576	4246	1757	4246	5097	2548	17576	4246	1757	4246	5097	2548	17576	4246	1757	4246	5097	2548	17576	4246	1757	4246	5097	2548	17576	4246	1757	4246	5097	2548	17576
1157	281	115	281	337	168	1157	281	115	281	337	168	1157	281	115	281	337	168	1157	281	115	281	337	168	1157	281	115	281	337	168	1157	281	115	281	337	168	1157

類別	計	五	四	三	二	一	面
積面	105	25	10	25	30	15	積面
四月	3134	747	27	27	27	27	四月
五月	3205	747	27	27	27	27	五月
六月	3449	747	27	27	27	27	六月
七月	3449	747	27	27	27	27	七月
八月	3449	747	27	27	27	27	八月
九月	3449	747	27	27	27	27	九月
十月	3449	747	27	27	27	27	十月
十一月	3449	747	27	27	27	27	十一月
計	3449	747	27	27	27	27	計

比較増減

昭和六三年度

昭和四年度減額

類別	計	五	四	三	二	一	面
積面	105	25	10	25	30	15	積面
四月	105	25	10	25	30	15	四月
五月	105	25	10	25	30	15	五月
六月	105	25	10	25	30	15	六月
七月	105	25	10	25	30	15	七月
八月	105	25	10	25	30	15	八月
九月	105	25	10	25	30	15	九月
十月	105	25	10	25	30	15	十月
十一月	105	25	10	25	30	15	十一月
計	105	25	10	25	30	15	計

製塩所 費用 配付額及支出額並前年比較

類別	計	五	四	三	二	一	面
積面	105	25	10	25	30	15	積面
四月	105	25	10	25	30	15	四月
五月	105	25	10	25	30	15	五月
六月	105	25	10	25	30	15	六月
七月	105	25	10	25	30	15	七月
八月	105	25	10	25	30	15	八月
九月	105	25	10	25	30	15	九月
十月	105	25	10	25	30	15	十月
十一月	105	25	10	25	30	15	十一月
計	105	25	10	25	30	15	計

總督府

事實篇先安出強所

摘要

朝鮮
專賣司未定三島所

品名	年度別	一町	二町	三町	四町	五町	計
解凍	三年度	四	九	八	三	八	三三
比重計	三年度	三	五	五	二	一	一六
シロベル	三年度	二	一	一	二	一	三
カレー	三年度	一	二	一	一	一	三
タゲ	三年度	一	一	一	一	一	五
水車棒	三年度	一	一	一	一	一	五
増減	三年度	△	△	△	△	△	△

總督府 專賣局 支店出張所

採塩高比較表

採塩高	一町	二町	三町	四町	五町	計
一町	一五	二五	三三	四八	六六	一六六
二町	二五	三五	四二	五九	七八	二二九
三町	三五	四五	五二	六九	七八	二九一
四町	四五	五五	六二	七八	八八	三六二
五町	五五	六五	七二	八九	一一八	四三二
計	一〇五	二五	一〇	二五	三〇	一八五
増減	△	△	△	△	△	△

朝鮮 專賣局 支店出張所

月別坪當採塩高比較表

計	五	四	三	二	一	一	別別
105	25	10	25	30	10	10	面積
增 減	增 減	增 減	增 減	增 減	增 減	增 減	年度別
一三 八四	一一 六九	三一 四六	一一 五九	一一 六九	一一 五九	一一 五九	四月
三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	五月
三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	六月
三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	七月
三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	八月
三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	九月
三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	十月
三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	四三 五九	三三 六九	平均

春秋兩期採鹽高比較表

別別	面積	昭和二年	昭和三年	歩合	比	増減
一	15	15	15	100	100	0
二	30	30	30	100	100	0
三	25	25	25	100	100	0
四	10	10	10	100	100	0
五	25	25	25	100	100	0
計	105	105	105	100	100	0

各等糧飲減高並前年比載

[illegible]

各號別採塩高實收高全歩減一覽表

[illegible][illegible][illegible]

各種採鹽步合一覽表

辨別	面積	採鹽步合			豫想高：對支安出帳所		
		一等	二等	計	一等	二等	計
一	一五	六六八	三三二	一〇〇〇	一六六	三三二	一四七六
二	三〇	七七八	二二二	一〇〇〇	一四二	二九九	一五一四
三	二五	八八八	一八二	一〇〇〇	一四四	一八五	一五〇八
四	一〇	七七二	三三八	一〇〇〇	一三四	二四一	一四九九
五	二五	六六三	二五七	一〇〇〇	一五八	二八三	一六六九
計	一〇五	七七一	一〇九	一〇〇〇	一四二	二九九	一五五八

秋季準備作業使役鹽夫員數及支拂額

辨別	面積	期間	人員	金額	摘要
一	一五	自十月十六日 至十月三十一日	一三八	七六八〇	
二	三〇		二四〇	一四四〇	
三	二五		二〇八	一二四八〇	

秋季準備作業作業種目

四	一〇	全	八	四八	〇〇
五	二五	全	二	一四八	八〇
計	一〇五	全	八六四	五二八四	〇〇

秋季準備作業作業種目

- 一、排水溝浚渫
- 一、結晶池畦畔修理
- 一、第二蒸發池畦畔修理
- 製鹽作業終了期、處置
- 一、持越鹹水、貯溜整理
- 一、外圍堤防、貯水池堤防、給排水伏樋、應急處置
- 一、製鹽器具整理、在庫塩格上、及建造物、戶締完備
- 一、水口板、歩板、塩夫舍、煙突等、格納
- 一、蒸發池及鹽片結晶池、漲水、排水

堤防及建造物、管理並保護

堤防及建造物、管理ニ関シテ、總テ規定、管理法ニ從ヒ各担当別ニ責任ヲ明カシ且、高潮時ニハ各部位置ヲ定メ高潮前後四日間、塩夫半數ヲ以テ警式ニ任ジ堤防、保全ヲ期セリ
堤防保護トシテハ製塩、餘暇ト否トハ抱テ天端、玄肩、流火、土、填丸ヲナレ絶エズ原形ヲ保持スルコトニ勉メタリ

結 論

本年度気象状態ハ三月一日準備作業開始以來全製塩期間、通シテ製塩上綿有、良天候ニ遭遇シ三月下旬ヨリ鹹水、生製旺盛ニシテ結晶面坪ノ伸展ハ四月中旬ニ於テ正ニ結晶池全格ヲ占メ宛然盛最盛期、状況ヲ示シ採塩量ハ一躍前年四月同期ニ對シ二百万斤ヲ増収し越エテ

六月未計ニ於テ豫想量町歩當入三〇〇〇斤ヲ超過シ尚七月以降八月ニ及ビ更ニ天氣連續シ遂ニ十月製塩終了ニ際シハ町歩當一四三〇六斤全豫想高ニ對シ十七割一分ヲ收納スル事ヲ得タリ

使役塩夫ハ前年同様春季十町歩當十人ナリが雨期ヨリ七人ニ減シ秋季亦大人ノ割ヲ以テ此ノ濃鹽生産塩、收納ニ非常ナル努力ヲ傾注シ人天使役並人員ニ於テハ前年ニ比シ一九六三人、製塩費、節約ヲナスニ至リ、製塩器具費ハ前年ヨリモ十町歩當三円ノ増配ヲ受ケ豫算ニ對シ一二四〇三、剩餘ヲ生シ消耗器具ニ就テハ採塩量ニ比例シ水車、大肥、塩炭、消費料多大ナリ

惟ニ本年、天候ハ製塩上非常ニ有利ナ年デアリシ半面、附近農村ハ深刻ナル早魃ニ苦シメラレ為ニ農業中絶シ例年農繁期ニ起ル塩夫、欲動移動等甚ダサシ製塩頭初、実行計畫ヲ遺憾ナク遂行スル事ヲ得タリ、コレモヨリ天祐ノ致ス處ナルが本年ハ特ニ現業従事員、緊張努力ノ大ニ、預ッテ力アレン事、深ク、信スルモノナリ

昭和貳年五月

昭和貳年所長會議協議事項答案

朱安・石川武吉

協議事項

一、塩ノ品質ヲ向上セシムル方法並ニ施設

土屋塩田ニ於ケル等塩生産ノ現在以テ増加セシメ得ル特種ノ作業方法トシテ
第一ニ土屋塩田ガ塩トシテ理想的ノ土質アルヤ否ヤヲ調査シ若シ不
適當ナル場合ハ先ヅ之ヲ改良シ良土質結晶池タラシムルコト、

第二ニ採塩作業ノ利害関係ヲ考慮外トシ採塩連續三回ヲ限度ト
爲シ結晶池洗滌及地盤固メノ操作ヲ行ヒ結晶池浮エノ結晶塩
ニ混入スルヲ防止スト共ニ採集セル堆積塩ノ上部、美シキ部分ガ一等
塩トシテ細シ底部ノ汚染セルモノヲ二等塩トシテ嚴密ニ区分スルヲ要ス
製成品ハ塩庫ニ所定ノ位置ヲ定メ土足塵埃ノ汚染ニ注意スルハ無論
ナル可レ一面監督区ニ於テハ各担当已ヨリ品質鑑定試料トシテ採
塩ノ都度試料ヲ送ラシメ規定標準塩ニ比較シ品質検査ヲ行ヒ
品質及眼色ノ統一ヲ計ルコト、

第三、特種作業ノ別法トシテ、第二項デ陳ベタルニ等塩トシテ收納スベキ汚染
塩ヲ洗滌装置ニ依リ洗滌スルコト、

以テ作業法ニ伴ヒ増加スル経費ハ、第一項ニ於テハ品質改良、面坪當盛
費、第二、三項ニ於テハ、再々、洗滌ニ供フ塩丈、増員、十町歩當數
ニム以テラ必要トス

結晶池洗滌及汚染塩洗滌ニ伴フ一等塩ノ增收割合ハ所期ノ増割
ハ確実ナリ、然レハ之ガ採塩總高ニ及ボス影響者ニ至ラザレド
豫測スルハ許サザルモノアリ、何トモバ、特ニ一等塩ノ增收ヲ計ラガ爲メニ
スルニ、三日隔日ノ採塩法ハ吾人ノ理想ニシテ、實際ニ應用スルハ生産
費ヲ論ゼザル場合ニ於テノミ、可能性アリ

ニ結晶池改良ニ関スル意見

(イ) 用材ノ品質

結晶池用材トシテハ、鹽破片、敷瓦、木板、及セメントハ何モ特種ノ長

所ヲ有シ、優劣ノ莫ク至リテハ殆ド大同小異ノ觀アリ、就中、鹽片、結晶池ハ
理想ニ近キモノナレド、其ノ築造方法及時期ヲ誤ル時ハ築造後、数年
ナラズニテ凹凸ヲ生ジ、排水ノ敷板、若シハ鹽片ハ轉脱ヲキタル、乃
至ハ土埋塩田ニ比シ、簡單ニ結晶池修理ヲ出来ず、一事ナリ、而シテ
其用材タル鹽破片ハ從來迄廢物利用ノ程度ニ有リ、モガ逐年塩
田ノ擴張ニ伴ヒ、該品ノ需要ハ微増ナレド、鮮内有カ産地ノ品不足
告グルニ至リ、採集ノ困難ト價格ノ暴騰ハ當事者ノ常ニ悩ミ、ツツ
ル向頭ナリトス

○當所ニ於テハ、茲ニ見ル所アリ、最近、耐水、耐寒等、結晶池要素ヲ具
備セタルセメント結晶池ノ築造、試験中ニ屬スルモノアリ、之ガ完成
ノ曉ツキハ、斯業ニ貢獻スル所尠カラザル可シ

○其他、鹽破片ニ換テリ可キ結晶池改良ノ意見トシテ參考迄ニ列舉
スレバ、如キモノアリ、即チ當所塩田ノ玉石鹽及鹽破片盤結晶池

ノ各々特長ヲ利用シタル改良構造ナル用材ハ、磚片ト同質ノ燒物ニシテ形狀モ兩者ノ折衷ニ面坪当三円内外一丁從來ハ玉石敷瓦、磚片ノ欠点ヲ除去スルニ充分價值アルモ、條件トスルニ上記三種結晶池ノ欠点トス可キモノ概要ヲ列記ス、

(イ) 數瓦ハ敷設後、採掘ヲ續行スルハ地盤縱綫ヲ歪ムス由、從ツテ腐蝕ガ生成ニ依ル結晶池洗滌ノ煩勞アリ、次ニ磚片結晶池ノ如ク雨後、地盤固マハ不可能ナルベシ、又築造費、相當高價ナルハ當然ナル可シ、

(ロ) 玉石盤ノ欠点トスル所既ニ足評アリ、單ニ特長トシテ參考トスベキハ形狀、玉石ナルガ故、地盤高低ヲ生ゼシ場合、隨時打込水平ヲ保フニ便ナルコト

(ハ) 磚破片ノ欠点ハ前記ノ如シ
以テハ結晶池種類ノ優劣概念ヲ陳ベタルニ過ガザレ共モ、結晶池

用材品質ニ就テ論ズルハ既ニ木板及玉石ノ時代ニ非ズ、將來ハ斯クトモ現在、磚破片ノ採集ヲ全国的ニ求ムルカ内至ハ之ニ代用サル可キ供給円満ニ加エ品、又目下試驗中ハセメント削タル可シ、

(ロ) 敷設方法

結晶池用材敷設方法トシテセメント材ヲ別トシ、磚破片ニ就テ、

○地盤造、在来土堤結晶池ヲ改良スル場合ハ、既ニ充分地盤ノ出来、エリタルモノナレバ、直ニ盛エユニ移ルモノナレド、塩田築造仕工事終了後著手スルトモバ、地盤造ヲ施行スルモノトス、其法、先づ一處、地盤造ヲ行ヒ、之ヲ深サ七八寸、鋤込ニ相當ノ水ヲ注入、練リ均シテ施シ、曝乾セシメ乾燥適当ヲ見計ヒ、即チ固メラレ、後再び敷造地ヲ行ヒ、而シテ、數回濃厚鹹水ヲ通過セシメ、ローラ曳ラ施シ、高、高所ハ之ヲ鋤取リ、漸次完成セシムルモノナリ、

○盛エヲ施ス土質ハ、粘土微細砂ノ混合エヲ撰ビ、厚サ二寸ニ盛均

乾燥セシム後適當ノ水ヲ注入充分練リ土塊ノナキ程度ヲ見計
ヒ小把ヲ以テ水平平均ニ三四日間晒乾シ適當ノ硬度ニ達セ
一日三四回宛四五日ニ渉リ即チ整メ充分ニ乾燥ヲ待テ小量ノ
水ヲ張り凹凸ノ整地ヲ行ヒ再び乾燥セシメ用材敷込ニ移ル
○用材ノ配列及打込、瘠瓦破片ヲ一寸内外ニ破リ揃ヒ之ヲ細密ニ敷
列ベ適當ノ散水ヲ施シ濕潤後直ケテ搗込ニ著手地面ニ連
スル迄搗固メ仕エラス

○以上敷設方法ノ大體ヲ記述セルモノニテ敷設後生ズル地面ノ凹凸ヲ
可成リ小ナラシムルニハ結晶池築造箇所ヨリ將來瘠瓦片ヲ敷
設ス可キモノト爲シ瘠瓦片結晶池ニ適當ナル四十坪ノ倍八十坪ヲ
單位トシ地割ヲ定メ土埕結晶池トシテ三ヶ年以工使用経過
セシメタル後充分地盤沈下、硬度ヲ見定メ尙盛土用土質ノ撈取
ニ注意シ練固ヲ完全ニスルハ最モ肝要ナリ

(ハ)敷設池一格ノ標準面積

結晶池ハ長方形ニシテ一格四十坪ヲ限度トス其以上ニ面積ヲ擴大ス
ルハ強風ニ際シテ吹寄部分ヲ生シ蒸発有効面積ヲ縮サスルノ
不利アリ殊ニ新タニ結晶池ヲ築造スル場合ハ年中凡何ヲ考慮
シ製塩ニ適シタ凡何ニ對シ横長ニ設計スルヲ得策トス、

(ニ)瘠瓦片及敷瓦塩田ト土埕塩田トノ収支比較(敷瓦ハ当所ニテ)

兩塩田一面坪築造費ヲ舉クニハ次ノ如シ
瘠瓦片結晶池、老田九十式、土埕 十式ナリ
次ニ兩塩田同一氣象狀態下ニ於ケル生産増減比較ニ依ッテ
其ノ収支ノ一端ヲ窺ヒ知ル可シ

○通例トシテ朱安鹽田、瘠瓦片結晶池ノミナリ、之レヲ甲ト休ス
南洞第一已塩田結晶池ハ大正十五年、一部瘠瓦片敷込ミタレド
其ノ以前ハ土埕結晶池ナリ、之レヲ乙トス

○鹽片結晶池ト土堤結晶池ノ特長 甲ハ京畿道、如キ多雨ナル土地ニ適合シ乙ハ降雨斯ク、廣梁灣地方ノ如キ、土地ニ適合ス、其ノ理ハ鹽田関係者ノ既ニ熟知スル所ナレバ煩畧ス
斯ノ如キニ様ノ性質ヲ具備シタル結晶池ガ其ノ年々候ニ支配セラレテ増減甚カシキ事實ヨリ考ヘンバ収支ノ依ツテ来ル原因ハ、一ニ天候ニ歸スルヲ外ニナク之ヲ過去數ヶ年ノ実況ニ鑑ミレバ鹽片結晶池ハ当所京畿道地方ニ於テ、榮達スベキ結晶池ト云フ可シ

鹽片及土堤結晶池鹽田ノ氣象ニ對スル生産増減割合表

年	別	蒸発量	降水量	降水數	一町歩當		摘	要
					南洞一己米田	前年ニ對シ増収割合		
大正十三年	五、四、八	二、五、七、一	二、一	一、〇、九、七	二、一、四、三	一、		
大正十四年	四、九、三、三	三、〇、〇、八	二、三	一、四、一、〇	二、二、六、〇	一、二、八		〇、五
大正十五年	四、二、五	二、四、四、三	三、〇	一、五、二、〇	三、六、〇、一	一、〇		四、〇
大正十六年	五、〇、三	一、五、一、一	二、三	四、〇、七、九	四、三、八、九	一、三、〇		三、七

備考前表蒸発量降水量降水日數生産高一町歩當ハ共ニ最盛期四月一日ヨリ六月末日迄ノ統計ナリ而シテ大正十四年度及十五年ハ兩鹽田一町歩當生産高割合ノ比較ハ十五年度ハ連續天氣ニ重シメテ土堤、十割ノ増収ニ對シ鹽片ハ前年ニ對シ大差ナク僅ニ三割七分ノ増収ニ過ギズ然レニ十三年度十四年度ノ比較ハ前者ト及對ニ十四年ノ多雨ナル氣象ニ對シ鹽片ハ四割ノ増収ヲ示シ土堤ハ前年ニ對シ一割ノ増収ヲ為セルニ過ギズ(南洞鹽田ハ新鹽田ナル以テ遂年一定ノ増収率ヲ収メトス)○之ノ通例ニ依ツテ考ヘバ氣象ト結晶池ノ關係ハ切離ス事ノ出ス不問ナリトス

(ホ)敷設後ニ生ジタル池面凹凸修理ノ方法

結晶池凹凸ヲ生ジタルハ主トシテ築造後地盤ノ沈定、傾斜等ニ基クモノナレド其ノ多クハ結晶池築造當時盛土用土質ノ攪定ヲ誤リシモノ及請負者ノ為ニ地盤沈定、用材排列等ニ干テ有カレタルモノ乃至ハ冬

季結氷ノ際地盤ヲ風化セシタル場合ニ生ズル以テ此ノ原因ヲヨク調
査シ修理スルヲ要ス修理方法ハ築造當初ニ於ケルト同様ニ盛土用
土質ヲ嚴密ニ練固メ水平均ハ充分入念ニ施行シ地盤ノ乾燥程
度ヲ見計シ用材ヲ細密ニ打込モトス而シテ凹凹部分ノ大ニ程度言
一部分削取ル或ハ盛土法ヲ講ズルモノト其ノ状況ニ從フ可シ

○修理ニ至ルヲ經過年数及一面坪当修理費

朱安題ニ鹽田鹽片結晶池ハ近年地盤沈定及傾斜其他ノ原因ヨリテ
其ノ大部分ハ凹凹ヲ来ス抹塩能力ニ関係スル事甚ダシキ為ニ絶エズ
製塩ノ餘暇ヲ利用シ修理セシムルヲ取リ之ノ実績ニ依ル一面坪當修
理費ハ修理ヶ所ノ難易ヲ平均シ面坪塩天三人日給六十元トシテ老
四八十元ヲ必要トスル状況ナリ

○上記不良凹凹結晶池ハ築造後五年目頃迄ニ地盤沈定^{傾斜}ヲ見タリ
○請負ニ附ス場合ハ數量ノ關係上大體面坪塩天三人日給六十元充テラシ

三、現在鹽田ノ最大生産能力ヲ發揮セシムルヲ要ス製塩塩天數及

及塩増収程度(但大正十五年最盛期ノ状況ニ據ル)

大正十年以降六ヶ年、塩最盛期ニ於ケル塩天配置數ト採塩量ト關係ヲ
考察シ本内題ヲ研究ス

當初ニ於ケル製塩最盛期ハ例年、時恰モ農繁期ニ屬シ使役塩天ノ
大多數ハ附近農村ヨリ採用スル關係ニ農事多忙ノ際ハ塩天出勤率
ハ非常ニ低下スル作業上支障ヲ来スハ勿論鹽田經營上切ニ考究ス
ル可キ内題ナリ然レ共サリトテ其ノ為ニ蒸発池ノ漲水或ハ結晶面坪ノ
縮サ等ヲ散テテ作業ノ簡易ヲ期スルカ如キ風潮ハ更ニ無ク担当者ハ
極力殘存塩天ヲテ作業時間ノ延長ナカシメテ努力不足ヲ補正塩
搬入其他ノ作業ニ從事スルカ故ニ所期ノ收効ニ至ラズ^難佳影響ヲ及ボサ
ル実情ヲ有ス從ツテ右ノ事情ニ徴シテ本内題ヲ考ルバ最モ必要トス可キ
最盛期ニ於テ塩天増員ヲ不可能タラシムルニ地ニ有リテハ既ニ内題外ニ

此、故ニ此地ノ状況ニ依リテハ無理ニ最盛期ニ増員セズトモ、塩田ノ手入時期タル四五月ニ於テ十町歩一人ノ増加ヲ行ハ必ズヤ最盛期ニハ新期ノ生産ヲ舉ゲル事ト明瞭ナリ

大ケ年間ニ於ケル採塩量ト塩夫配置数ト關係

年 別	採 塩 量	塩夫配置数	備 考
大正十年	三、五、五、四、三、三、〇	十町歩至八	適例ト採塩量ノ平均ヲ得ル為ニ采
大正十一年	五、二、〇、二、九、〇	九	乃安塩田至五、二、〇ヲ舉ゲタリ
大正十二年	三、二、五、〇、二、〇、〇	九	
大正十三年	三、二、七、一、三、〇	九	
大正十四年	三、一、八、二、五、〇	九	
大正十五年	五、二、八、二、〇、〇	九	

四、製塩冬季間塩田各池ヲ乾燥セシムル可否

冬季間塩田ノ蒸発池及結晶池ヲ乾燥セシムル事ハ地盤ノ結氷風化ヲ皆無ニスル上ニ強ト理想的ナレド實際ハ降雨雪ノ為メ、塩田面ハ常ニ濕潤ヲ免レザルモノトス、塩田濕潤スルハ結晶池其他地盤ハ結氷ヲ招致シ風化ニヨリ損傷ハ、次年度採塩成績ニ影響甚大及ボスト甚大ニサレバ比較的安安全全ナル防水法トシテ海水或ハ鹹水ヲ漲水シテ之ノ欠点ヲ除除ニ免メフアルナリ、

五、製塩準備作業ヲ春秋兩季ニ亘リ施行ノ件

例年ノ準備作業期間ハ先強ノ關係工三月十日ヨリ開始シ今下旬ニ終ルヲ常トセリ而シテ此ノ間、約廿日ノ作業日数ハ塩田ノ熟否ニ依リテ相違、長キハ、欠スル塩田モアリ或ハ短キヲ嘆ズル新塩田ノアルアリテ一概ニ期限ヲ限定サルモノニ非ズ、此ノ意味ニ於テ未熟塩田ハ特ニ大修理ヲ要スル整地、排水溝、用水路後等ノ簡單ナル作業ハ可成秋季ニ

行は春季準備を為し置く。成熟塩田均衡を保つに必要ノコトス
大害虫駆除及藻苔類除去ノ方法

第一ニ地盤、硬度が高き事、即チ塩田漸次熟田ニ達スル自ラ、蟹類ノ棲息地帯ト化スルハ日常目撃スル所ナリ、サレバ茲ニ著眼シ塩田將來ノ為メ微々タル藥品駆除或ハ捕獲等ノ消極方法ヨリ積極的ニ地盤、硬化ヲ速進セシム方法ヲ先ヅ採ルニシクハナレ、其方法ノ一階級トシテ排水状態ノ完全化ヲ要望ス、其引例トシテ伏樋ノ不完全ニ依リテ害虫、絶エザル當所ハ已塩田ハ築造後既ニ九年ニ達シ、今ヤ熟田ノ域ニ達シテ蒸発池ハ勿論、結晶池一部ハ常に軟弱ニシテ蟹類、棲息ヲ見ル、此ノ現状ヲ以テスル地盤、硬化ヲ期スルハ未ダ遠キ日ニアラズ云フ可シ、依リテ先ヅ伏樋ノ漏水ヲ減少セシメ塩田内部ノ排水設備ヲ完成スルニ必要アリ、

第二ハ消極法昨年八月敷田ノ蟹取日ヲ定メ其日ハ強制的ニ捕獲

セシムルカ或ハ買上ノ法ヲ取ル、

○第三防禦法トシテ畦畔ニ麥藁束或ハ芦草等ヲ踏込、或ハ畦畔ニ沿ヒ巾天深ニ尺内外ノ溝ヲ掘リ煙草泥ヲ踏込込取ル、畦畔、硬化ヲ計ル為メ苦汁ヲ練固ヲ為スニ良法ナリ

六、藻苔類

塩田外部ヨリ浸入スル種子ノ流入防止網ノ設備モ其一法ナレ共蒸発池ノ繁殖性能ハリニ就テ研究スルニ池底ニ有機物、沈着肥エタル池ト然ラザル池ヲ比較セバ自ラ有機物、多ク塩田程、繁殖速ヤカナリ之ノ事實ニ依リテ考エバ其根本ナル下等植物ノ発生ヲ助ケル腐蝕藻苔類ノ排除ニ勉メルコトハ夏日、單ニ日乾ニ依リテ枝葉ノ枯死ヲ計ルヨリモ寧ロ如果アルモトス、此ノ故ニ昨年施行セシ蒸発池小肥突ノ如キハ一面鹽地ト腐蝕土及藻苔類除去ヲ兼テタル良方法タルヲ失ハヌモト信ス、尚日乾枯死ノ方法ト併セ実行セバ益々、如果顯著ナリト思

右方該ヲ実作業ニ應用スルセバ春季四月乃至八月十月、低気
温ニテ水漲、上昇鈍ク、蒸発量極メテ緩漫ナル期節ニ実施
セハ最モ有効ナリ、但シ塩最盛期ハ蒸発池、操下煩雑ナ
ル事ト同時ニ日光強烈ニテ漲水操下ハ厚薄ヲ論セス鹹水ノ
濃縮ヲ盛ナク所要鹹水ヲ得ルハ散テ至難ニアラザル可シ

(四) 鹹水漏失防止対策

第一ニハ前記害虫駆除法ヲ実行スルト次ニ蒸発池排水溝側
畦畔ニ蟹穴防止ノ対策ヲ講ズルハ無難ナル可シ。
第二ニハ可及的ニ害虫被害畦畔ハ廃棄棄苦汁ヲ加ヘ畦畔
練固メヲ施行シ畦畔ノ硬化ヲ計ルト
(ハ) 苦汁溜ノ設置及苦汁利用

朱安塩田ニ於テハ嘗テ仁川苦汁工業ノ請願ニ依リ各塩庫側面ニ苦汁
溜ヲ設置ヲ許可セシ事ナリ設置當座ハ同所ヨリ工業原料トシ苦汁
ヲ搬出セシ事ナレド現在ハ營業中上ニテ其ノマツルヲ幸ヒ各塩田
ニテハ採塩母液ノ滴出採集ニ兎ニ結晶坪擴張ノ際等ニ使用シ
効果ヲ舉ゲテマツ

其他最盛期ニ生製ナル炭ノ苦汁ハ鹹水溜ノ一部ヲ利用シ用ニ應
ジ、結晶池其他、地鹽硬化劑トシ摘里利用ノ道ヲ講スル事ニ
一方法ナリ

○又工業的ニハ苦汁ヲ各成分ヲ分別シ化學藥品ノ製造ニ使用
スルハ其ノ量ニ於テ莫大ナル一工業業タルヲ失ハズ殊ニ金屬、マグネシ
ムノ用途ノ需要ノ廣大ナル現在ニ於テ固レテ研究ノ必要アリ
(四) 結晶池ニ適當ナル凹所ヲ設テ洗滌採集及雨水溜失ノ豫防
一便ナラシムルコト

結晶池ニ適當ナル凹所ヲ設ケ洗滌採取及雨水溶失ノ豫防ニ便ナラシムルニ殊更ニ結晶池ニ凹所ヲ設ケルニ必要ナル採塩洗滌ニハ現在ノ鹹水溜ノ一部ヲ利用シテモ可ナリ雨水溶失ノ豫防ニハ初期ノ雨ニ溶失サレタル鹹水ヲ之レ亦鹹水溜ニ流下セシメ使用スル津^{オカ}溜^カ徒^ラニ結晶池面積ヲ縮ヤスル^{ハ其ノ可キナリ}其^ハ爲^ニニ從來ノ最低標準ヲ稍クレベルヲ高ム

(ホ) 鹹水分割製塩法ノ研究

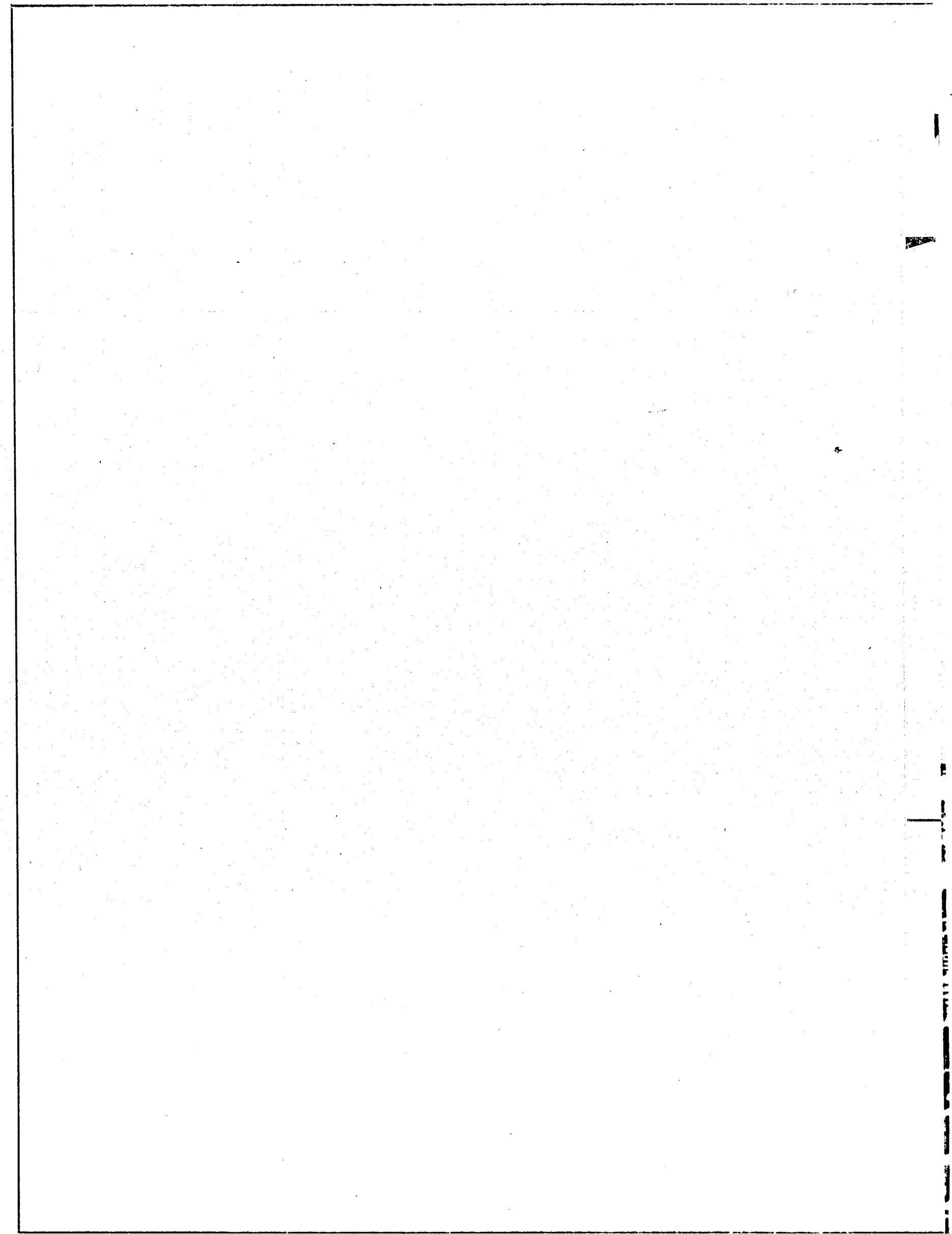
之ノ法々ハ大ニ研究ノ餘地ナリ

二 昭和貳年度標準塩決定ノ件

標準塩ノ決定ハ過去及現在ノ販賣状況ニ鑑ミ民間塩トノ關係上對等以テラ標準トシ官塩ノ聲價ヲ向上セシムル事ニ勉ム可キナリ其^ハ爲^ニニ從來ノ最低標準ヲ稍クレベルヲ高ム事肝要ナリ

總督府
興實所
出強所

164 20 20



023

大正十五年七月。

天日塩田に於ける製塩作業関係資料

一、朱字塩田 自大正
至八区 塩田(一二四町步) 減収に對する 答申

二、今塩田の設計構造と、製塩成績不良の原因。

三、朱字塩田、採塩方法の改良につて

大正十五年頃の朱字塩田は、沼澤地帯に比し毎年製塩成績が不良であり、その原因は、本局より朱字出張所長に對し、推問書が送られ、本局は、その回答書で、

因に、不良塩田の整備は、石川で、塩田経験四年目にあり、
本局は、その見解を、本局に、但し、当時の朱字を知る上に、何の
参考にと、見、資料に、加え、する。

大正十五年七月十八日

(一)

本年自六月迄
本局ヨリノ推同書ニ答ヘテ
蘆田盛減収ノ就テ

朱事
蘆田盛減収ノ就テ

石川武吉

朱安第五已塩田一對元自所已塩田、塩田実質、相違

一、爐田墾墾年月及築造後經過年數

五區鹽田八明
光緒十四年
設六火
正十五年
迄光緒
二十六年

本
勘
田
大
正
入
年
殘
工
大
正
五
年
迄
經
過
年
數
八
年

三、西廬田築造後，今年間，發育時代比較

五區進田八當時、我が朝鮮天日製塩創業時代、（事）諸種研究ト

豊中、塩田築造投資ト依リ塩業、荒造ヲ専ラニシタ傾向ガアタ

此三本燈罩竣工、障戸燈田内都一八米、不完全、箇所アリ、其後

三、三、年間ハ製塩ト云フ依モ、塩田築造、補修工事ニ次、月日ヲ清

費シタ。越前大正九年南洞鹽田、築造工事起リ、今十年、今鹽田竣

エヲ告グルヤ亦君ヲ鹽田ノ攝張機運ニ付シ當出張所ハ全カラ此方

面ニ傾注シ當熟爲ス可キ本塩田ノ平入時代ヲ顧ミルノ餘獨チアリシ

ト.

三、塩田ノ構造及ビ玉質（肉眼鑑定）

五、五塩田、流下式、玉質、粘土多ク砂質極メ、本塩田、踏式、玉質、砂質分強ク粘粒多シ又ハ砂礫層（八五塩田）

四、野水池ト蒸発池ノ関係

五、五塩田、野水池ハ皆第一蒸発池ノ道ニヨリテ用水路ヨリ隔テラル、然ルニ本塩田ノ野水池ハ第一、第二蒸発池或ハ結晶池ニ沿ヒ設計セラル、爲メ野水池面高ク海水ハ常に地下ニ浸透シ塩田ヲ浸潤タラシム

五、蒸発池ノ格ト風向（北田ノ製造場通リニ對スル位置）

第五五塩田、蒸発池格ハ總テ横長（短冊状）設計シタル爲メ北面ノ風稍ク強ク日ハ漲水ノ不寄ヲ防止スルニ都合タリ、然ルニ本塩田ノ蒸発池格、多クハ長方形風向き又ハ方形ナルガ爲メ漲水ノ不寄ヲ生ジ鹹水標下ヲ好ムスルトナリ。

六、蒸発池ノ段數ト第一蒸発池一段ヨリ第二蒸発池最下段迄向數

第五五塩田、蒸発池ハ第一、第二、第三、第四段ナル、本塩田ハ十三段ナリ

第五五塩田、向數 自一百八十間 至二百五十間 本塩田 自二百四十間 至四百五十間

七、結晶池ノ種類

第五五塩田、結晶池全体ノ種類別百分比ハ、鹽破片鹽、四十三パーセント

玉石鹽、四十九パーセント、又鹽ハ、パーセントナリ、本塩田ノ鹽破片鹽、七十四パーセント

玉石鹽ナリ、又鹽ハ、パーセントナリ。

八、蒸発池ノ手入状態

第五五塩田、蒸発池ハ面均、充分熟田域ニ達シテ居ル。

本塩田ノ蒸発池ハ第一蒸発池於テ面均、蒸發差、不充分殊ニ害

虫ノ棲息、第二蒸発池ニ及ビ、塩田アリ、塩田ノ手入不充分ナリ。

而塩田、築造初年度より年間塩実収高の所管比較表

第五已塩田				第六已塩田				摘要
築造後年別	面積	実収高	全年度年別	面積	実収高	全年度年別	摘要	
初年度明治四十四年	五三	一、五九八	一、四五一	大正七年	四、七三	一、一七	大正七年、八、九、已塩田、築造	
二年目大正八年		一、九五〇・三	三、三三六	大正八年	三、三三	六、〇二六	大正八年、九、已塩田、築造	
三年目大正九年		三、三七五・五	五、八九七	大正九年		五、〇二六・九	大正九年、一〇、已塩田、築造	
四年目大正十年		五、九四四・九	九、九七二	大正十年		三、八八八・四	大正十年、一〇、已塩田、築造	
五年目大正十一年		三、〇一八・八	五、四二五・五	大正十一年		四、四八八・四	大正十一年、一二、已塩田、築造	
六年目大正十二年		一、七五五・五	三、〇三三・六	大正十二年		四、三〇八・八	大正十二年、一三、已塩田、築造	
七年目大正十三年		五、九四四・七	一、〇一三・〇	大正十三年		五、〇五五・五	大正十三年、一四、已塩田、築造	
八年目大正十四年		四、五八二・二	八、〇五五・六	大正十四年		四、九七九・六	大正十四年、一五、已塩田、築造	
備考、第五已塩田、最高一町歩當一〇、一三〇斤、第六已塩田、最高一町歩當一四、〇三九斤、二過、大正十四年、								

大正十五年度自四月一日迄、自五月一日起、已塩田、塩減収理由

一、其減収塩量

種別	朱安塩田	南河塩田
塩田名	第五已塩田	第一已塩田
面積	五、七三	一、〇一
大正十五年度生産額	四、九七三・九	一、〇一
全一町歩當	八、六八二	五、九七三・九
本年生産額	三、二六六・一	四、四八八・四
全一町歩當	五、三三三・五	四、四八八・四
豫想二町歩	五、三三三・五	四、四八八・四
生産額	五、三三三・五	四、四八八・四
減収額	一、七〇七・四	一、〇一
第五已塩田、第一已塩田、	一、〇一	一、〇一
減収額	一、〇一	一、〇一
減収割合	一、〇一	一、〇一
減収理由	一、〇一	一、〇一

第一、本年準備作業ニ於テ先ヅ一歩ヲ進メタ事。

ハ、外廊塩所ノ延長線比較的長ク有テ、自今迄塩田ハ大正十四年度雨期ノ蒙リテ大水量ノ跡、塩所前落流入ガ砂ハ所屬、養龍池、用水路、畦畔、排水路等ヲ埋、壞シ、昔當時復旧修理セズナリ、本年準備作業迄ハ、持越ス事トシタ、然ルニ準備作業ノ金ハ、代表案カ如ク、水害復旧費ト見テ、前中、勝手ノ金ハ配付セズ、又ツ、例年ヨリ儘チデナリ。

大正十四年度雨期度各塩田準備作業配付人員比較

塩田別	米安 至正	白 至正	南 同	摘 要
大正十四年度	配付人員 一九四九	配付人員 一九四七	配付人員 一〇八〇	大正十四年度 至正塩田ハ八人、 用水路復旧増配アリ。
大正十五年度	一九七九	三一九三	八七三六	
増減	増 三〇	減 八〇二	減 一〇〇四	
十町歩増減		減 方四人	減 方九人	

弗以テ配付人員不足ハ、面塩田準備作業ニ約一ヶ月、差シテ、本塩田ノ採、採塩作業ヲ米常ニ進メセリ。

ロ、冬季中降雪多カリ、為メ、凍片盤結品池ヲ凡化セシメタ事。

（其二）本塩田ハ踏工式ナルヲ以テ、旧塩田ノ流下式、如ク、野水池、簡、單ニ海水ヲ繰下ル事カ出来ズ、所以作業面雪ガ意、如クナラナカ、タ、（海水、中ノ水車踏ハ困難ナリ）

ハ、昨年ヨリ、持越鹹水ノ少カリシト

大正十四年ハ製塩作業終了後、天気連續セル為メ、一都採塩作業ヲ、連續シタル関係工、例年ヨリ少量ノ採鹹水ヲ持越シタ、過ギナカ、シ、尚、ハ、且、塩田ハ、土質砂礫、鹹水溜アリ、漏水多シ、鹹水ヲ失シシト。

（四）四月中、氣候凡ニ疎害セリタ事。

本月ニ入リ、北西風強、此ノ凡ニ、直面シ、長可、吹、蒸、乾、迄、格、有、ス、ル、本、塩、田、ハ、漲、水、ノ、方、寄、為、蒸、乾、面、積、縮、カ、シ、同、時、ニ、鹹、水、操、下、不、可、能、ニ、遂、入、ラ、シ、

其茶池最下段、鹹水操作を交障、未タシタ、然ルニ、第五已塩田ハ凡向、
 村シハ以テ、交障ハ少カラ、

(六) 準備作業ノ作業トシテ、其茶池葉茶類除キ、秋ヲ、労働力不足カラ、
 第五已塩田、其茶池葉茶類(肥料)ハ附近農夫が自費ヲシテ、準備作業中、全
 部塩田外ニ搬出スル例トスルガ、本塩田附近、農夫其習慣、其為塩大ラシ、之レ
 一者ラシタ、

第二、五月天氣連續中、第一次労働不足ヲ告ゲタ事、

塩田構造、其茶池葉茶類、踏上、式ナル、塩最盛期、鹹水踏ハ、製塩期ヲ得
 シ、ハ、十町歩ノ、水車大、又、テ、ハ、揚水機、其カ、為、勢、ハ、水車大、神、ハ、通、第
 一、天、橋、車、配、付、人員、中、テ、作業ヲ、續、行、果、成、ラ、カ、タ、之、カ、為、無、採、塩、時、直、々、第
 一、茶池、葉茶、採、下、水、車、踏、其茶池、鹹水、採、塩、ト、シ、諸、作、業、ガ、一、時、重、復、ス、ル、度
 係、上、一、日、一、人、操、下、三、ハ、平、ガ、通、テ、素、不、上、テ、得、ス、其茶池、鹹水、一、部、休、止、シ、空、
 其茶池、日、乾、ス、ル、概、會、ヲ、得、ル、(鹹水、生、製、機、史)

塩生産額、鹽、出、年、結、晶、池、南、係、

一、米、島、塩、田、終、ケ、ル、過、去、數、年、各、号、別、塩、田、塩、生、産、額、計、ヲ、一、覽、ス、ル、其、
 年、天、候、ニ、又、比、例、シ、テ、著、キ、生、産、増、減、ヲ、示、ス、塩、田、有、ル、事、ヲ、見、出、ス、ル、
 最近、例、ニ、依、テ、バ、次、表、ニ、示、ス、ガ、如、キ、大、正、十、四、十、五、年、度、南、洞、及、米、島、第、五、已
 塩、田、ニ、對、ス、ル、自、己、已、塩、田、採、塩、成、績、ガ、其、カ、如、実、ニ、証、明、ス、ル、モ、ト、云
 フ、可、シ、

各、結、晶、池、種、類、ト、所、屬、塩、田、

結晶池別	米島五已塩田	米島、南、洞、已、塩、田	南、洞、已、塩、田	備、考
採、取、額	四、三、二、七、九、五、二	七、四、一、八、八、五、〇	二、二	
在、石	七、七、四、一			
鹽	一、〇、八	二、六、五、七、五、〇	七、八	
計	一、五、九、五、八	一、〇、〇、一、四、五、〇、〇	一、〇、〇	

口、玉石鹽ノ欠点

い前左様ノ天候ニ際シ、採塩又ハ鹹水貯溜トシ場合ニ玉石ト玉石間ニ
塩粒又ハ鹹水ヲ残留セシメ、雨到レバ雨水ト共ニ排除セラル量ハ概
ル数量ニホル、(一)從テ雨後、初採塩ニハ残留塩、為メ採取サル塩量
ハ尙片ニ也、ト僅カナリ。

五、天氣連續スル時、土鹽ノ特長

1. 廣片結晶池ノ採塩法ハ二日間ヲ一採塩トシ漲水スル迄々ナルが為メ前
記不良結晶池、水際、一定ヲ欠ク結晶格ニ於テ、同一採塩時刻迄ニ乾
キツキヲ生シ、數時間池面ヲ遊ハススト、此ル場合土鹽ハ常ニ濃鹹
水(シホ度江)ヲ注入スル様ニ作業ヲ運ハレテ居ルカラ、直ニ神給スルコト
が出来ル之ニ及シ、廣片ハ、稀薄鹹水(自ナ度外)ヲ神給水トスル為メ
注入水トスルコトハ、結晶ノ溶解、或ハ中止等、因ヲ及ボスモノナレバ不利
ノ点アリ

然レニ土鹽ハ毎日採塩法ナルが為メ濃厚鹹水ヲ、時々注加シ結晶及天候ノ長
態ニヨリテハ、數日置ニ採塩スルヲ得策トスル故、結晶池面ヲ一刻モ遊ハス事
が無ク、廣片鹽ハ之ニ及シ採塩回数多ク為メ、採塩毎ニ結晶池面ヲ掃
結晶又ハ鹹水蒸発ヲ妨ゲ有効天候ヲ要スル機會ヲ造ル之レアルが為メ、前
者ハ鹽夫ノ労働微シ、後者ハ鹽夫ノ労働ヲ節約シ、他ノ方面ニ利スル量
が出来ル、土鹽ハ以上ノ理ニヨリ、小ナル面積ニ大ナル廣片結晶坪數ニ對シ
ニ能率ヲ擧ゲ得ルカラ、鹽最盛期ニ際シ、廣片不良結晶池ノ濃
薄スル間ニ其ガ生産量ヲ増加スル事ニナル。

若シ鹽類ノ處理及結晶池ノ手入れ充分ニ為レ得ルハ(前章ニ記ス)
大、以上數項、總括トシ、鹽田不作ノ原因

天日鹽田ニ於ケル結晶池及蒸発池、使命ハ云フ迄モ無ク、前者ハ濃厚
鹹水ヲ蒸発結晶セシムル池、後者ハ、單ニ稀薄鹹水(海水)ヲ蒸発濃縮セシ
ムル池ノ休ニシテ、其ノ蒸発ヲ目的トシ造ラレタ、一ツノ廣大ノ器ト見ラレル。

此、意味ニ於テ、暑比重、鹹水が同一、天候、時間、暑水深ニ於テ、蒸発スル速
度ハ其鹹水ノ濃度ニ又比例スルト云ハレテ居ル、サクトモ、塩田ニ於テ、濃度
水ヲ蒸発結晶セラルハ、蒸発池ノ其レヨリモ、ヨリ又上結晶池ノ地盤、種類
其他ニ注意シ、蒸発機能ヲ円滑ニナラシムルハ必要アル事ハ最早疑フ
可カラサル事、実デアル、然ルニ、朱安、本塩田ノ結晶池ニ至リテハ、築造後
一回ノ平入モ、概カス、逐年傾斜凹凹ニナルニ、マカセ、サレテ、顧リミラレ、無カ
一軍ヲ見テモ、本年ノ不作、原因ハ其ノ造ニ素因ヲ有シテ、居ラテ、カ、
参考、尤モ、島見ノ、披露シ、之ガ、将来結晶池改良ノ一端トナルヲ、得ハ、幸ナ
備考、
塩生産量ノ増減ハ、單ニ結晶池、其ノシテ、非ズ、夫、無効蒸発池ノ、良不良、最大ニ関係ヲ有
ス、以テ、説明ハ、昨年、朱安、第五、已、塩田、熱田、デ、ヤリ、作ラ、未、然、塩田、本、塩田、一、所、等、多、リ、モ、造、カ
ニ、劣、勢、デ、ア、タ、ガ、其、理由ハ、天候ト、結晶池ノ、種類、ニ、ヨリ、期、如、キ、生産、減、少、ラ、ネ、エ、メ、テ、アル、コト、ヲ
指、通、シ、テ、過、キ、ナ、イ、。

(二)
昭和叁年十月完

朱安、自、天、已、塩田ニ就テ

朱安、石川武吉

目 録

- 一、朱安鎮鹽田、青島真
- 二、朱安鎮鹽田、築造初年より年周に於て優劣鹽田、鹽更長高、可歩當比較表
- 三、朱安鎮鹽田、結晶池、構造、地盤高
- 四、朱安鎮鹽田、鹽田、蒸發池及結晶池各級、絞、一覽表並に南浜鹽田、各級、絞比較
- 五、朱安鎮鹽田、周る序言
- 六、朱安鎮鹽田、概念……附朱安及廣深灣鹽田、製鹽に關する統計、説明
- 七、朱安鎮鹽田、設計ニ就て
- (A) 貯水池、蒸發池、肉係
- (B) 蒸發池、絞、棟下ニ就て
- (C) 水車揚水設備ニ就て

(D) 結晶池ニ就テ

(E) 外廊堤防修理ト塩田手入ニ就テ

六 結 論

完

朱安自著 塩田調査序言

塩田の生産能力ハ其の築造シテ塩田が完全ナル塩田要素ヲ備ヘル場合、築造初年度
より約一庄ノ割合ニ於テ年々生産ヲ増加シテ之を終ニ或ニ年致ニ達スルト塩田熟田ニシテ
ト称スル程ナリ。且、生産サル處ノ塩を所希量ノ十萬斤以テ收納スル事ハ易イナル
モノト信ぜラレテ居リス。然ルニ茲ニ説明ヲ試ミントスル本塩田ハ別表統計ノ示ス
通り、築造後十ヶ年ヲ経過セル今日ニ至リテ尚所希量實収メ萬斤以テラ生産
シタ年ハ一回モアリセシノミナズ、其ハ年間ト云フモノハ累年三、四萬斤程度ヲ上下ス
ルニ留リ、其間五萬斤ヲ超過シテ記録ニ更ニ有レナイ處、實ニ稀レイ。塩田ナリ
マス恐ラク、專賣局管收デ斯ルキ不成績ノ塩田ハ外ニナイト思フコト
尤モ大正十五年ヨリ昭和二年ニカケテ稍々成績ノ向上セルハ、塩田要素ノ一部分ヲ追マ
完備サレツル事ヲ証明スルモノト云フ事ヲ出来マス。

次ニ之ノ節ニ本塩田ノ解説ヲ載シ前ニ一應朱母塩田ノ累年塩生産統計ヲ
 見テ過キ、五場ヲ一言述ベザレバ載キマス
 即チ私等ノ目ニ映ジテ過キタル朱母塩田其ノ統計数字ノ示ス通り對應スル一
 廣東鹽産田ニ比較シテ例年男勢ノ地位ニ置カレテ居ル事ハ一般肉保者ノ固知ノ事
 突デアリマス從テ之ノ事實ノ前ハ朱母ノ製塩技術ト云フモノガ大ナリナリ疑問ヲ
 抱カレ易ヒ五場ニアリテ事ハ何人モ想像セラルルナリマス而シテ其等疑問ガ過去ニ三
 年向ニ種々態ヤノ法ヲ朱母ヲ研究スル鹽材ト爲テ参リシテ追々莫ク朱母
 ノ姿ヲ知ル事ガ出来ルト思ヒ陰々ラ喜ビテ居ル次第ナリ其處チ私等モ多年朱母ニ在
 勤シ其ノ造ノ事情ニ熟シマス聊カ知レルトモナリ傍々僅リノ経験ヲ得マシテ其レヲ
 基礎ニ爲見テ披歴シ大方ノ批判ヲ進メ次チアリマス

築造初年度より十年間ニ於テ優劣兩塩田ノ実収高一町歩當

塩田別	築造年度	年別	実収高	全町歩當	塩田別	年別	築造年度	年別	実収高	一町歩當
自合鹽					面					
初年目	大正七年	四七三三	一ノ	大正七年	初年目	八六七八	一四六一			
二年目	八年	二五八八	一六三四	大正元年	二年目	六九三五	三三三六			
三年目	九年	五五九九	四九五	二年	三年目	三三三六	五八九五			
四年目	十年	六九八八	四二五	三年	四年目	五九八八	六九八八			
五年目	十一年	四四九九	五八八	四年	五年目	二二八八	五四四四			
六年目	十二年	四二八八	五九八	五年	六年目	一七五五	二二六六			
七年目	十三年	六九五五	四四一	六年	七年目	五九四四	一三一一			
八年目	十四年	四九八八	四三三	七年	八年目	四六六六	八一六四			
九年目	昭和元年	六二二三	五二一	八年	九年目					
十年目	昭和二年	八二二二	六六六	九年	十年目					

一、朱安塩田ノ概念

一、項、朱安塩田、過去、先般事業、廣米澤塩田ニ比較し、劣リテ居タ

二、項、朱安塩田、地勢ノ有利トナルニ、水田ニ接觸セル部分ガ多クナル。

三、項、朱安塩田、累年塩害、系統新設等ニ、現ル不長成候、半面ニ、第一ニ先般状

況ノ悪カラシ事、其當時築造セラレ向セテ、自今、鹽田ノ内部ナリ、時期ノ雨

却セ、爲ニ朱安塩田ノ五割ノ分強ヲ占ムル本塩田百ニ一ノ所、尤反歩分、莫ク、塩害

能力ヲ發揮シ得ナリ。

以上第一項より第三項ニ就テハ、先般統計ナリ、或ハ朱安塩田ヲ實際ニ目撃セル人ニ、直ニ

了解セラル向、鹽田ナリ、コガ、第三項ニ就テハ、當時其尙ニ、需シ、管理者モ一般製塩

関係者モ此ノ点ニ注意ヲ拂フ事ヲ忘レテ居タリ、思ヘマス。

尚朱安塩田ノ、莫ク、劣リ、知ルニ、参考ニト、大正十三年以降、昭和二年度迄ノ前

四ヶ年三回の朱母及廣梁湾海面塩田の製塩ト先象肉保ヲ統計一依テ説明ヲ
申上ス、本表ニ依リマシ、其ノ月々、先象變化、爲ニ家ル兩地ノ製塩作業ノ一部
が極簡單ニ何人モ了解セシムル様ニ曲線ヲ以テ現シテアリマス、此ノ曲線ハ一月ヲ
細刻ニ日別トシ、其ノ日、其ノ日、結晶池鹹水、漲水、有様ヤ天気連續日数或
ハ降雨、爲ニ鹹水溜ニ鹹水貯溜、記録ヲ下、曲線ヲ現シテ統計デアリマスガ
製塩實際事務者、立場ヨリ之ヲ見マス、朱母ノ製塩作業ト云フモノが如何ニ
苦心ヲ要シテ居タリシム事ヲ了解セマス、其ノ葉ヲ使エテ申シマス、鹹水ノ貯溜
ト云フ事ハ、塩田ニ採リテ、重大ナル欠損ナリテアリマス、申上迄モテ、降雨ノ時
鹹水ヲ貯溜スル場合ハ、必ズ降水量ノ大ナル時ナリマス、從テ貯溜ノ爲ニ損
失スル鹹水ノ量及塩夫ノ努力、若貝ノ損傷、貯水池ノ海水稀釋、空
氣ノ濕潤等、數ヘバ制限ナリ、理由ハ生ジテ参リマス

斯ナル現象ヲ繰返ス事ニ依テ而テ、製塩作業ニハ自カラ重大ナ相違ノ現シテ
参リマス、ニ不見識ハアリマス、然レテモ朱母塩田ハ此ノ一事、更ニ餘リニ考慮シ過キ
及テ、消極的設計ニ偏シテ、故ニ製塩ノ方法ガ廣梁湾塩田ニ對シテ朱母
相違ヲ来シ、此ノ一因ヲ以テ製塩技術ノ平面ニ凝ラ、抱カシ、塩長盛期ニ失敗
ヲ招イテ居ル事ハ、朱母トシテ悲シムル事、更ニアリマス、一例ヲ舉ゲマス
ハ、朱母塩田ハ結晶池ニミ、苦心シテ居ル、即チ結晶池ニ現リ、敷設ニ優良
ナ塩ヲ採ル（著秋兩季先盛、依テ貯溜シ生産ヲ舉ゲル）（再々降雨ニ際シテ
其間巧ニ利用シテ採塩スル）等、目的、爲ニ結晶池改良ノ事業費ヲ多額
ニ使用セシメ、抱ラス蒸發池ノ手入ニ餘ラ重ラ思ハナカッタ
口、現存結晶池ノ漲水鹹水ハ、降雨貯溜ノ場合、又復結晶池漲水鹹水ヨリ稀
釋セラル、割合ニ速クニ早ク、再々貯溜ヲ爲ス時、終ニ鹹水ヲ失フ、欠失ガアリマス

未だ本表一就テ、説明スル材料、多々有リ、長文ニ亘リマテ本論ニ至ケテ、本
表(即ち本表)ノ研究ニ移ラヌ

(一) 自大正 至八五 塩田ノ設計ニ就テ

本塩田ノ設計ハ、モトモト、本塩田全權ニ亘リ、地割ノ方法、極端ニ地形、左右スル
其土地、概テ利用シ、築造費、輕減ヲ計フ様、思ハレマヌ、塩田ノ何レカ、非常ニ
無理ヲ發見セシメ、例ハ、貯水池ト結晶池ト位置テ、アリス、貯水池ハ、元來、地形ニ
重キヲ置キ、設計セラレ、關係、塩田ノ利、合ハ、一定シナイ、然ルニ、結晶池ハ、之
ニ反シ、地形、概テ築造費ヲ顧慮シ、設計セラレ、モトモト、其ノ如ク、塩田ノ生命
ヲ結晶池トシ、此、結晶池ヲ基本ニ、蒸發池、地割、貯水池、位置ヲ決定シ、様ニ
思ハヌ、其、証據、結晶池ハ、必ズ、塩田ノ中心ニ設計セラレ、塩庫ヲ集中シ、鹽、輸送
製造、管理ヲ易カラシメ、方法ヲトクモト思ハヌ

亦他面ヨリ觀察シ、本塩田結晶池ハ、勿論、塩田其ノモ、極端ニ降雨ニ對スル理
想ノモト、設計セラレ、モトモト、考ヘラヌ、即チ、結晶池ハ、塩田中ニ、一、番、高キ地盤ヲ
據ビ、蒸發池、十、數、目ヨリ、落差、二、尺、五、寸、外、附シ、水車揚水、設備ヲシ、降雨、時、浸水
ヲ防、却、シ、居ル、蒸發池、格ニ、(改メ)区劃ヲ、十三、段ニ、分ケ、鹹水ヲ、筒、ニ、小、サリ、分、割、標、下
ヲ、テ、テ、濃、縮、セ、ル、長、鹹水ヲ、降雨ニ、臨ミ、分別貯藏、セ、ル、方法ヲ、據、シ、居ル、斯、様ニ、種
々、十、方、面ヨリ、本塩田ヲ、見、渡、シ、モト、此、塩田ハ、下、意、味、於、テ、突、行、屈、イリ、設計、テ、アル
申、サ、ネ、バ、ナリ、モ、モ、モ、現、狀ヨリ、推、察、シ、ス、ハ、甚、カ、潛、越、ノ、言、分、テ、アリ、モ、ガ、設計、當初、
理想、ガ、南、ト、テ、消、極、ナ、現象、ニ、ミ、カ、ラ、レ、過、ギ、傾、多、ク、ア、リ、ト、思、ハ、ヌ

(A) 貯水池ト蒸發池ノ關係

優良ナル塩田ノ貯水池ハ、大概、第一、蒸發池ノ、真、上、ニ、アリ、テ、用水路ニヨリ、隔、テ、アル
其、貯水池、參、考、ハ、第一、段、ニ、止、リ、二、段、以下、ニ、及、バ、イ、様、ナ、ス、然、ル、ニ、本塩田ノ貯水池

ト蒸發位置ハ各已決ス片側ノ第一級ヨリ下級迄ニ或ハ結晶池ノ眞上ニ貯水池、
接近セル大池ニ号シ如キアリテ海水ハ常ニ接觸部分ノ各田ヲ濕潤セシメ漲水ノ比重ヲ
低下スル原因ヲ爲シテイル。

(B) 蒸發池ノ絞リト操下ニ就テ

本鹽田ノ蒸發池ノ絞リハ別表ニ示ス通り各級ノ割合甚ク緩慢ニテ第一蒸發池ニ於テハ
僅カニ一割ノ差ヲ付スルニ過ぎス從ツテ最下級ニ漲水ス可キ相當ノ水量ヲ得ル爲メニ上級ノ
漲水ハ厚漲セザレバ下級ニ一定ノ水深ヲ保ツ事ハ出来ナイデアリマス其故操下作業ノ
理想ナル各級漲ノ操作ハ水不足ノ爲ニ殆ト至難トナリヨカラ止ムヲ得フ下級ノ水
口ノ間々ハ漸次上級ノ水口ヲ一齊ニ開ケテ所謂直通操下ヲナス傾向ヲ生ジテ参リ
マレタ尤モ直通操下ヲナス一面ハ甚差ハ不充分ナル事ト蒸發池ノ格ガ長
方故ニ地割セシメイル關係上水落ガ不完全ナ爲ニカカル習慣ヲ招イタヨリ一解

釋セラレマス之ノ直通操下ハ製鹽上ニ甚ク影響ヲ及ボス操作デアリマスナリ塩田鹽池ノ事
ノ機會ニ是非確明ヲ移動シテ標準ヲ絞リニ改革シテヤレ成リマセン。

(C) 水車揚水設備ニ就テ

本鹽田ノ構造ハ踏式ナルヲ以テ必ズ第一蒸發池ニ四級ニ水車揚水ヲシテヤレ成リマセン
而シテ之ニ要スル水車ノ配置及揚水ノ割合數ハ從來流下式ヲ基準トシ其ノ二割ヲ
増配スルニ過ぎス然ルニ現在鹽田ノ實際ニ使役スル揚水及水車數ハ規定ノ倍四割ヲ使
役シテ居リマス一例ヲ本鹽田大池ノ上五及六歩ニトレバ四月配付十町歩九人踏式ニ及
テ二人増ヲ加ヘ十町歩トナル其内増加セラルニ割リ人員ハ僅カニ二人五分同様ニ水車ニ
台半ト云フ計算ニナルケ夫實際鹽田ノ使役ハ絶對必要ノ數ハ水車大台ト揚水大
人(漲長數期)ガアルニシテハ最盛期ノ揚水操作ハ出来ナイデアリマス從ツテ事實ニ
於テ本鹽田ハ永年コノ人員不足ノ爲ニ如何バカリ損失ヲ蒙ツテ居タカ次ニ記ス様ナ

経費ニ由リテ証明シタイト思ヘラス、即チ水車及勞力不足ノ為ニ揚水可キ鹹水ハ一級毎
一工段ノ空釜発池ニ揚水スル事ハ事實上不可能トナリコナラ、孰レ証明セル蒸發池ノ水口
ヲ数ヶ所開ケ相當ノ水量ヲ得ニ到リ始メテ揚水ヲ開始ス、此際當然ニ其比量鹹
水ハ混合セラレテ、鹹水ノ分割操下セルモノハ破ラレ殆ド意味ヲナサナリ、ナリマス次ニ勞力
不足ノ結果降雨ニ際シ鹹水ノ處理ヲ怠ル操下ナリ、本塩田ノ作業ハ林塩ヲ除イテ
ハコレ水車揚水作業トモ銘ス可キ床下式ニ比シテ水車ヲ使用スル事ハ煩雜ヲ
要ス（特ニ鹽ヲ結晶池ノ通性）從テ塩夫一人當ノ勞力ハ自ラ一方ニ偏スルハ止
ムヲ得セシガ、次第ニ鹽夫等が水車揚水ノ勞ヲ嫌惡スル操下ナリ、且ツ當選ナキ
バナリ又、第二蒸發池、三、四、五、鹹水貯溜ヲ全然無視ニ扱フ傾向ヲ見留メ
ノデアリマス、大体本塩田ノ降雨ニ際スル處理ハ雨ノ緩急ヲ向ハズ先テ第一階工所
ヨリ揚水ヲ開始^{（五級）}シ蒸發池ノ操下及貯溜方法ヲ講ズ、然レ此ノ場合ハ必ず林塩

ト云フ大仕事ヲ控エ次ニ結晶池ノ汲水等、突ニ全作業ノ重複スル危機ヲアリマス、割當
レタル水車鹽夫七勢、林塩ノ方ニ應接スルハ次第ニ水車揚水作業ハ一時休止ノ状態ト
ナリ、其間、降雨益々加ヘリ、階工下段ノ蒸發池ハ全然降雨ノ稀釋ニ委ニテ、海水
ニ等シキ比重ニ還元セラレテ、排水ノ餘義ナキ到ル、此ノ現象ハ早ニ勞力ノ不足ヲミテ
スル問題ガハアリセシ、次ニ記述スル操下事ハ、由テ尚深ク考ヘテテ
本塩田ノ第一蒸發池ト第二蒸發池ノ境ニ振替セラル、大排水ハ他塩田ニハ預メテ、設
テアリマス、此ノ排水溝ハ凡ソ巾ニ間、以外ノ廣ク有シ蒸發池ヲ全然一ニ分シテ取^{（五級）}テ、居
リマス、蒸發池ノ汲水ノ操下ニハ口全、從テ巾一尺三寸内外ノ耕植ヲ設置連絡セシメ、雨
レテ水排水溝ハ各附毎ニアル從テ排水溝ト合テ太キ幹線トナリ、外堤ニ面シタル排水伏植
ニ直通ス、此ノ外堤排水伏植ハ築造后十年内外ヲ経過セシメ、腐蝕漏水ハ、毎朝噴流
入スル海水ハ、第二蒸發池ヲ浸潤セシメ、尚第一蒸發池排水溝ニ逆流れ、充滿スルハ故ニ

永年、釐ごの類、機息盛ニテ漏水ニ臨ミ新田城ヲ脱スル事が出来ず、
殊ニ朝降雨ニ遭遇セカ、兩者、水ハ合テ忽々汎濫シ、堀田中一巻位、十餘目即ち水車
揚水ヲ所ハ、海ニ海水ニ浸水セリ所謂、堀田結ミ（も、か）ヲ操返ス状態、アリミ
之ノ災害ハ、本堀田ノ最大ト、欠莫ニテ前述ノ水車揚水ニ周スル説明ト相俟テ、大イニ研
究スル問題ナリトス、尚附言致シ、度前記蓋發池、一、二、三、後ノ鹹水貯溜ヲ、租界ニ移シ
タ原因、一ツニ、故ニ存シ築造以來一回モ使用シテ記録、一、今所ノ鹹水溜ノ存在、別ニ不
思議トモ、思ヘテ、一、チ、アリ、ミ、近ニ三、三、年、同、ニ、ミ、莫、留、竟、セ、テ、漏、水、排、伏、樋、ニ、鉄、筋
伏、樋、ニ、改、造、セ、リ、漏、水、ハ、心、配、ラ、ル、リ、降、雨、ニ、際、シ、ハ、全、所、ノ、鹹、水、溜、ヲ、治、用、ス、ル、等、遂、年、連
歩ノ、運、送、ヲ、歩、ミ、ツ、マ、リ、マ、ス、

(D) 結晶池ノ軌テ

前記米倉ノ概念ヲ際中ニ通リ本堀ハ、特ニ結晶池ニミカ入テ、迄、ミ、テ、失、敗、ヲ、拒、ミ、ズ、
アリ、ミ、カ、即チ全結晶池ニ萬一千四百五坪、約ニ割、ニ、カ、一、千、五、百、坪、ノ、境、界、ヲ、敷、結、ノ、所、謂
有見堀田ノ條ヲ有シ、春秋降雨、^期可成リ、成績ヲマゲ、ツ、マ、リ、ミ、カ、一、度、好、天、氣、連、續、セ、リ
結晶池不完ノ為ニ生産能力ハ漸々低下シテ行ク之ノ原因ハ、結晶池築造當時地盤造、本
完全ナルニ、境、界、ヲ、敷、設、シ、而、カ、モ、敷、設、以、來、一、回、モ、修、理、ヲ、加、ヘ、カ、ル、為、ニ、結、晶、池、面、ハ、高、低、甚、
シ、カ、為、ニ、天、候、ニ、依、リ、漲、水、ニ、調、節、ヲ、為、ス、事、能、ハ、サ、ル、ノ、ミ、カ、ス、残、蓄、計、ハ、常、ニ、低、初、シ、集、リ、テ
結晶ノ好害ヲ為シ、其ノ品質及結晶量ニ及ボス損害ハ、莫ニ多大ナリ、ミ、カ、ス、一、日、モ、早、リ
修、理、ノ、必、要、アル、モ、ト、思、フ、ミ、カ、ス、内、別、紙、六、八、ハ、結、晶、池、青、島、渠、ニ、テ、通、リ、結、晶、池、内、
大小不同ノ結晶格ヲ有シ、此ノ結晶格ニ附随セル、堀、田、敷、設、ニ、應、ジ、テ、修、理、ト、修、リ、ミ、カ、ス、可、成、リ、
敷、設、ニ、違、ス、之、ノ、堀、田、結、晶、池、有、知、面、積、ヲ、狭、ミ、一、因、テ、アリ、ミ、カ、ス、内、別、紙、六、八、ハ、改、善、ヲ、望、ミ、マ、ス、

序アリマス。本年^三三三三塩田中ノ天石敷設、結晶池ハ、石ト石ト間ガ低ク、稼働ノ際ニ塩カ
残留スルコトノ多ク、石ノ熟^引ヲ利用シ力ノ弱ク、等々其生産量ニ及ボズ影響ガ多大
アリマス。之レモ一日モ早ク改造ヲ利益ト思ヘマス。

(E) 外廊美防修理ト塩田手入ニ就テ

本塩田ヲ迎テ又外廊美防ハ總延長ニテ八百四十間、之ヲ十町等需ニ割當ツレバ二百四十間より
尙相當別ニテ最大ナルノ約六百間ニ及ボズ。此ニ延々タル堤防ノ管理ト云フモ、本塩
田ニトリテ非常ノ負擔ガアリマス。サレバ過去ノ度情ニ徴スバ現在ヨリ一尺外低キ堤防ヲ以テ
常ニ是レ廢ト戦イフ。堤防保護ニ當リテハ、塩田手入ヨリモ堤防手入ノ難大ノ勞力ヲ
要ス。其手入ナリマス。本塩田内部ノ手入不充分ナリ。過去ヲ想ヘバ想イナカヘ。過
去ノ事ナリマス。感^シガ致シマス。

(三) 結 論

以上本塩田ヲ總括シテ結論ヲ下セバ、此ノ塩田ハ非常ニ多ク、塩田デアルト云フ事ガ顯
ハシム。即チ塩田ノ良否ハ、一ツ莫ク、塩田ノ多ク、大ニ依ツテ比較ス。モテマス。其故、本塩
田ノ各部ニ亘リテ有形無形ノ多ク、抽出スルハ、次ノ様ニ結果トナシマス。

本塩田ノ多ク

1. 自然附多ク (本年頻々大雨) 塩田ノ位置

2. 稍々自然附多ク、塩田ノ構造 絞リ 蓋發池ヲ掘斷スル大排水溝ノ面積及浸水

貯水池堤防不充全、雨水流入、伏樋漏れ、結晶池不充全

ハ人為的ナリ。人ノ勞力不足、貯水池海水取込設備、其地 以上

前記數項ニ亘リ本塩田ノ実質ニ就テ獨斷的記述ヲ試ミ、甚ク遺憾ノ想ガ致シマス。ナ
リ。此ヲ以テ筆ヲ止マス。尚念、爲メ一言申添テ、本項ヲ打切リト思ヘマス。

塩田ノ生産能力ハ必ズモ、完全ナル結晶池ノ築造ノミニ由ルモノデハナイト思ハス兎ニ角
塩田ノ九割ヲ占ムル蒸発池ノ總テが活用サレテ或ル程度迄、ろすヲ無ニスル事ガ一番
大切デス、其レハ本塩田ノ大欠陥デアル蒸発池ノ絞ヲ改良シナケレバ成リマズ、絞ガ改良サレ
レバ、自然乾燥エテ所ノ一時湯水モ中止サレ、然タル一段操下ガ実行サルデシヨ、
亦例ヘ絞ガ完成サキモ本塩田ノモウク、原因アル横ノ排水溝ノアル故ニ降雨時、満潮
ノ際ハ必ズ、湯水ヲ免カス故ニ將來本塩田ニ大革ヲ行ヒトスバ、横ノ排水溝ノ埋設ヲ從テ排水溝
ヲ直線ニ結晶池下段迄ニ振設シ、塩田内外部ニ海水ノ浸スル事ヲ防ガバナク、排水溝ノ未開カ
結晶池ニ存スル時ハ、濃厚鹹水滲透ヲ爲ノ懼、こゝノ類ハ結晶池以テ浸スル事ヲ得テ、塩田
ハ漸次乾燥トナル、次ニ降雨ニ際シ、第一蒸発池ノ鹹水溜ノ全部ヲ活用セヨト、……
結晶池現片敷設換ラヌト、……本塩田内水田ニ寄リ大田ハ已山手ニ大排水溝ヲ振設
シテ山水ノ滲透ヲ防ガク、或ハ其ノ一部分ヲ廃田トスルコト、……以テ

尚本稿ノ一部ハ朱安塩田ノ過去ノ工場ヲ物語ル材料トシテ亦將來ノ参考ニナル事ヲ得ハ
幸ト思ヘマス

完

昭和貳年十月完

(三)

朱安鹽田採鹽法，改良ニ就テ

石川武吉

序

言

本竟見書ヲ御覽ニ入レマスニ就テ一言申添エマス。現業ニ從事シテ居ル私等、ロウラス様ノ
事ヲ申エマス。聴キ様ニ依ッテハ朱安塩田ノ製塩法ヤ諸制度カ如何ニモ悪イ様ニ
モ、聴エ亦悪イト知リテ人ゴトノ様ニ考ヘテ居ル自分等、誹ヲ臆面モテ公開スル様ニ
聴エテ甚ダ不本意ナリデアリマス、ケレドモ暫ラス私ヲ第三者ノ立場ニ置イテ自由ニ意見
ヲ述べサレテ載キ度イト思イマス。トハ申シマスモノ、其ノ意見が果シテ實際ニ叶ツタ有益
ノ事トモ新言スル事カ出来マセン。尚此、上ニモ良イ方法ガ澤山アルト思ヒマス。其辺
ハ御断リ申シテ置キマス。

唯、私トシテ七年ノ永イ間朱安塩田獨特ノ鹽片結晶池製塩作業ニ從事サシテ載イタ
關係上、近頃ニナリ漸ク下記ノ様々種々疑問ヤ経験ヲ與ヘラレテ参リマシタ。此ノ僅ノ経験
ヲ土臺ニナシテ折角経験シタ事物ヲ無ニセヌ様亦自分ノ立場ヲ明ラカナス必要上
一書ヲ認メテ御参考ニ供シタコトモ尤モ本論ニハ局部的ナ探塩非即野搬入
ノ事ノミニカヲ入レテ其他ニハ餘リ詳シク説明ハ申エマセンカス。疑問ノ真カアリマシタ。

遠慮ナリ御教ヲ願ヒマス。別表ニ説明材料トシテ朱安塩ニ廣梁灣塩田内地ノ製塩ニ必要ナ製塩期間、結晶池鹹水漲水貯溜作業、比較統計ヲ掲ゲテ其ノ月別日附別ニ相當スル、欄内曲線ノ上線ハ鹹水漲水ヲ示シ下線ハ鹹水貯溜ヲ明示シテ、モノデ降雨、為ニ漲水作業ヲ休止シテ取ナリマス、其ニテ此ノ曲線ノ上リ下リが多ク程天気ガ不安定ナル事モ、鹹水操作ノ苦心モ、作業ノ多忙ナル事モ、鹹水漲傷ノ微シイ事モ、氣象ニ對スル批判モ、之ノ統計ニ依リテ種々、數字統計ヤ辯解ヲ聽クヨリモ早解リテアリマス、次ニ品質ヲ改善セシガ為ニ不良結晶池修理ノ事ヲ申シテ居リマス此ノ説明材料トシテ朱安七區塩田ノ結晶池圖面ヲ掲ゲテ此ノ結晶池ハ朱安デハ鹽片敷設面ノ高低著キヶ所ニシテ結晶格ノ大小不同、并用晒研ノ無教ニアル代表的結晶池ヲ試料ヲ得ル為ニ昨年実際にシテモノデアリマス、其他非即時搬入許画ノ為ニ不箱、(秤量槽)ノ設備トシテ容積計算根基トシテ第一表ニ掲ゲテ表ハ朱安管内ノ中庸以エノ塩田一回ノ稼塩量ヲ基準トシテ拾町步當一立坪箱ト定メメシテ、以上大体ノ事ヲ申エテ序言ニ換エマス。

朱安塩田採塩法ノ改良意見書

茲數十年間ニ於ケル市場及一般消費者嗜好、近來著シク向上シ輸入鹽ノ品質ハ年ト共ニ一新サレ改メテ廣梁灣塩田モ昨年ヨリ鹽品質ノ改善ニ目覺メテ著々其ノ實績ヲ擧ゲツツアル今日、鑑ツテ我ガ朱安塩田ノ生産鹽ニ目ヲ注シ、其ノ品質ノ美ニ於テ果シテ外鹽ニ對抗シテ市場ニ往普、販路ヲ維持スル事ガ出来得ルヤ否ヤ、現状ヲ以テスル最早行フヨリノ状態ニ置カレテ居ル、然レバ何故ヤ朱安ノ生産鹽ガ今謂フ行フヨリノ状態ニアルカ、曰ク品質ガ粗悪ニシテ高價ナル所以ニ外ナラズ、換言スルバ一般嗜好ニ適セサル時代迄ノ鹽ト云フ意味アル、斯如ク外鹽ハ日ニ日向エスル今日、官鹽ナル朱安塩田モ其ノ競争場裡ニ現状ヲ甘スル事ハ最早一刻モ猶豫スル時期デハナイ、明日ト云ハズ今日ヨリ鹽品質ノ改善ヲ計画シ時代ニ適應スル鹽ヲ生産スル事ガ吾々ノ務デアリ、且ツ吾々ノ生クル道デアル、カルガ故ニ其ノ根本デアル製塩法ニ一大改良ヲ施シ従前ノ行柵ヲ捨テ新シイ合理的ノ製塩法ヲ考究スル事ハ、敢テ人ノ指示ヲ受クル迄モナリ事ト思フ。

茲一從來、採鹽法ト反對、採鹽法ヲ試ミ品質改善ヲ期セントス、朱安塩田、採鹽
法ハ申ス迄モナク、二十餘年前、台灣、天日塩田、設計及採鹽法ヲ其儘ニ朝鮮
ニ移シタルモノニテ、其、承、年月ヲ経過セル現在ニ於テ、製鹽法ハ依然トシテ、往昔
其儘ヲ繰返シ、鹽夫ヨリ、鹽夫ニ、相當員ニ、相當員ヲ、監督ニ、放エラレタル
モノニテ、今猶其ノ道程ヲ歩ムニ過ギナイノデアル
斯、觀、シ、未、知、時、自、力、其、處ニ、重大、志、意味ノ、存、ス、事ヲ、吾々ハ、知、ル、ト、共ニ、採鹽法
ノ、改良ヲ、講、シ、ナ、ケ、レ、バ、成、ラ、ナイ、ト、思、意、ス、以下三項ヨリ、成、ル、改良案ヲ、披、歷、シ、テ、大方、批
判ヲ、仰、ガ、ント、ス

- 一、 塩田ハ、科學的、管理法ニ、依、ル、コト
 - 二、 鹽片、結晶池、改修ヲ、要、ス、ル、コト
 - 三、 採鹽、非、即時、搬入ト、ナス、コト
- 今之ヲ、説明、ス、ル、順、予、ト、シ、テ、遂ニ、採鹽、非、即時、搬入ノ、項目ヨリ、説ク、可、シ

(一) 採鹽、非、即時、搬入ニ、就、テ

朱安塩田、鹽品質ヲ、惡化セ、ル、現因ハ、現行製鹽法、採鹽、即時、搬入、法、ナリ

一、 有、如、結晶、時、ヲ、損、失、ス

鹽片、結晶池、ハ、夕、方、採鹽ヲ、有、利、ト、ナス、ガ、故ニ、採鹽、開始、ヲ、終了、迄、所、要、時間
ヲ、相當ニ、見、込、ミ、日、中、結晶、旺盛、ト、時刻ニ、早クモ、採鹽ヲ、開始、シ、結晶、ヲ、貯、蓄、ス
ニ、即時、搬入ノ、作業ニ、注意、力ヲ、減、却、ス、ル、原因、ト、ナル

凡、何、モ、作業ニ、於、テ、モ、注意、力、及、親切、ガ、大切、ナ、要件、ナル、ガ、如、ク、製鹽、作業ニ
殊、更ニ、大切、ナル、デ、アル、然、ル、ニ、本、作業ヲ、見、ル、ト、採鹽、開始、ト、共ニ、鹽、檢、査、ヨリ、鹽、質
盛、一部、搬入、鹽、量、計算、差、水、水、車、踏、込、入、蒸、發、池、水、線、下、等ニ、作業、ガ
一時、重、複、シ、剩、リ、至、日、傾、キ、鹽、夫、歸、路、ヲ、急、ク、心ノ、ミ、集、リ、テ、落、付、カ、ズ、終、ニ、全、般
ニ、亘、リ、作業、エ、ノ、注意、ガ、行、キ、届、カ、ナ、ク、ナル

三、 即時、搬入ハ、鹽、色、澤、及、品質ヲ、低下、ス

從、テ、一、二、等、鹽、ノ、区、別、結晶、池、漲、水、水、深、水、口、留、等、作業ハ、租、漏ニ、流、シ、採鹽

ニ對スル研究心算ラガ尙倉入ノ有様ヲ見バ世流ノ痛ル水塩ハ重量、重量ガ為ニ祖
傳ハ折ルバカリニテ走り行キ塩庫内ノ處ヲ嫌ハ抛リ出ス後潤世流ノ庫内ノ泥玉
ヲ交ニ塩大ノ足ハ徒ニ白鹽ヲ汚染セテ塩色澤ヲ低下ス而テ搬入サレル水塩ハ在塩
ノ上ニ上ヘト搬リ出ガル為ニ苦計ハ在塩ニ後潤ニテ所謂米臭ノ塩ハ苦計ガ多
ト謂ハルル原因ヲ構成ス、

若レ亦急雨ニ遭遇セシカ即時搬入ナルガ故ニ塩庫ノ遠イヶ所ハ採塩搬入中ニ
鹹水ヲ樹木損傷ニ至ルニ採塩セシ塩モ一ニ等塩、區別スル間モテク白鹽ニ混合セシメ
全ク問題ニナラザル経験ヲ感ズ、サレバ之等ノ因ヲ未ル原因ハ申ス迄モテテ總テノ
作業ニ餘裕ガナシ、餘裕ガ無イカラ無理ヲスル、採塩時ハ無理ガ一番禁物ナリテ
アルモ、モ、希望スル製塩法ハ無理ナシ、合理的ノ製塩法ヲテケレバ成リ、

（一）吾等ノ希望スル非即時搬入

非即時搬入トハ採塩直後ニ搬入シテ製塩法ヲアル從テ搬入ニ要スル勞力ヲ平均シ
塩色澤ノ統一塩品質ノ改善採塩介数ノ正確ヲ期スル製塩法ニテ塩筆ノ経

済ヲモ、供ヲモノナリ、

一、設備

施設トシテ十町歩當ニヶ割合ニテ一五坪ノ箱ヲ用意ス、但シ一五坪ノ四分シタル小箱ヲ便宜
使用スル可トス、材料ハ現在アル所ノ煙草箱板ヲ使用ス、之ヲ適宜組合ニ採塩
ニ便利ナ所ニ配置シテ一ニ等塩ノ區別ヲ附シテ置ク、次ニ収容量ヲ調査シテ採
塩介数ノ標準ヲ定メル、秤量箱ト名ツク、亦ニ降雨ニ對スル為ニ屋根ヲ設備ス

（屋根ハ廿五ニテモ可ナリ）亦運搬ニ最モ便利ニ仕置タル鹹水桶ニニ常設的設備ヲ施シ桶ニホリタル塩ヲ安全ニ

二、使用法

（注意）移レ得ル程度ノ箱ニテモシテ而シテ必要ノ場合ハ此ノ箱ニ鹹水ヲ添テテ不長塩
ノ流漏ヲカスニ甚ク便利ナリ、

採塩ノ都度便宜ナ所ニ運ビ製塩ハ一旦之ノ箱ニ投入シテ塩庫ニハ搬入セズ而シテ
之ノ箱ノ設備ヨリ母液ヲ充分ニ滴下セシメ翌日乃至適宜乾燥ヲ待テ倉入ヲナス
モトス、尤モ塩最盛期ハ採塩量多量ナルト天気連續スルガ故ニ、採取塩ハ塩
堆場ニ野積トナシ乾燥程度ヲ見計ヒ倉入ヲナス

三、本装置ノ特長

一、即時搬入ニ要スル勞力ヲ平均シ日照時ヲ有効ニ使用スル事ヲ得ルト夫ニ注意
行フ

二、本器ヲ使用スル秤量槽トナリ採塩介敷ノ正確ヲ期セシム

三、塩庫内ニ蓄計分ノ浸潤スル事ナク品質ヲ良好ニナス

四、塩庫内ニ再度ノ塩採ノ必要ナク其日其日採塩ヲ處理スル事が出来

五、採二要スル勞力ヲ塩田手入ニ使用スル事が出来

六、塩倉入ニ際シ水分滴下シテ重量輕キガ爲、塩倉倉入ニ勞働ヲ安カラシメ

七、破損ヲナカラシム

八、降雨ノ際、遠ナク塩庫ニ搬入スル必要ナク鹹水ノ處理ヲ早カラシム

九、夜間採塩ニ際シモ暗夜ニ倉庫ニ至ルニ必要ナク結晶池附近ニ便所ニ

用テ足レ塩大雨中ノ操作簡便ナリ

十、本器ニ入レル塩ハ庫入ニ際シテ分類スル事が出来、塩色澤ノ統一ヲ期スル事

が出来ル

(三) 非即時搬入ハ實行出来ルカ

概テ以テ之ヲ実施スルニ臨ミ先ヅ設備ニ對スル後慮ヤ、從來ノ作業習慣ヲ如何

ニス可キヤ、ナドノ問題ガ取り残サレ居ルガ之ヲ説明スル前ニ應米安塩田現行

採塩法ノ半面ヲ述ベテ茲分ノ反省ヲ促シテ見タイ

米安塩田ノ既往製塩高ニ及ボシテ氣象要素ハ廣梁灣塩田ニ比較シテ常

ニ劣勢ノ地位ニ置カレテ居ル事ハ多ハレ又事實テ其ノ爲作業員モ亦

對シテ作業ノ難カシクモハレ神教通教ノ由ニシテハ熱帯ノ製塩ノ難ナ

作ノ難ナリハ不ノ事ハ出来

今其一例トシテ製塩作業ニ最モ必要ナ製塩期間中ノ鹹水漲水及貯溜日数統

計ヲ一覽スルニ當リ別表廣梁灣塩田ニ米安塩田ノ大正十三年ヨリ昭和二年迄

ノ統計曲線ニ現ル兩者ノ優劣ハ如何ナルト異モ一日シテ直ニ米安塩田

ノ不利ナル立場ヲ聯想スルデアル亦同時ニ仔細ニ雨期ニ八月頃及ビ昨年四

五月頃ニ於ケル曲線ヲ對比シテ見ル時ニ後者ハアノ場合何故ニアノ様ナ無謀

ナ漲水ヲシテ貴重ナ鹹水ヲ損失セシメルガト、不審ノ念ニカラシテ来ル。即チ此ノ現象ガ
或ハ本製塩作業ヲ阻害スル原因デハ無イカト考ヘラシモスル、免ニ角其ノ原因ヲ次ノ
様ニ細別シテ研究シテ見ル。

一、天候ハ要スルニ不測ノ現象デアルカラ天気ト見テ揚水シテセバ成ラナイ。
二、朱安地方ハ降雨頻繁ナルガ故ニ僅カノ天気モ利用シテセバナナイ。
三、朱安塩田ハ鹽片結晶地ナルガ故ニ土埧結晶池ヨリ短時間ニ鹹水漲水及日溜
等結晶等ノ簡便カラ漲水ヲ次行スル。

右三項ノ内ニ相當ノ理由アル事ヲ認メルガ其ノ結果ハ次ノ様ニ解釋サレル。

- 一、従業員ハ天候ヲ餘リニ不測ノモト過信スルカラ自然氣象ニ對シテ神經過敏トナル。
- 二、從ツテ製塩作業ヲ冒險視シ作業ハ次第ニ不統一トナル。
- 三、同様ニ常ニ雨ヲ顧慮スルノ餘リ採塩作業ハ直搬入ヲ原則トナシテ来タ。
- 四、此ノ習慣ハ塩最盛期ノ天気連續ニモ降雨ヲ顧慮シタル直搬入ヲナスガ故
ニ作業ノ平均ヲ失ヒ効力不足ニ終ニ塩品質ノ低下ヲキタレタ。

以上數項ニ亘ツテ朱安塩田ノ製塩狀態ヲ或ル程度迄ニ心得ナク批評シテ見タ其處デ
亦本論ニユケテ前記ノ意ノ存スル所ヲ基本トシテ非即時搬入ノ施行能否ヲ考ヘテ
見ル。

- 一、非即時搬入ヲナスガ故ニ畦畔其他ニ塩堆シテ時不時浸水ヲ如何ニ處置ス可ヤ。
- 二、塩倉入作業ハ即時搬入ナレバ一回デ終了スルモ、非即時搬入ヲナセバ二回ノ手数
ヲ要シ從來ノ製塩作業ニ慣レタ塩夫ノ作業ニ影響ハセヌカ。
- 三、設備費トシテ箱其他ニ經費ガカルカラ生産費が高クナリハセヌカ。

大体本作業施行ニ就テハ右三様ノ問題ガ必ズ附帯シテ起ル事ハ明ラカナリサレバ之ニ
對シテハ如何ナル方法ヲ講ジタラコイカ。

- 一、第一項ニ對シテハ塩堆場ノ位置或ハ位置ヲ撰定セバ可ナリ。
- 二、第二項ニ對シテハ如何ナル作業モ結局ハ習慣ニ左右セラルガ故指道宜シ
キヲ得ハ返テ本作業ヲ次第ニ有利ト認ムルニ至ル。
- 三、第三、品質ヲ改善セントセバ多クノ犧牲ハ覺ユセネバナナイ、品質ガ改善サル

トハ勢と需要を喚起シ生産費ハ低下ス

(四) 在未甕片結晶池ノ缺點

朱安塩田ノ結晶池ハ一格ノ面積ニスラ一定ノ原則ナク千差萬別、ハ飽迄ハサ大ハ飽迄大ナリ、其ノ小ナル格ノ畦畔ノ数ハ實ニ夥シク結晶池有効面積ヲ之ノ畦畔ニ取ラレ其ノ水操ノ繁雜ナル事ヲ採塩ニ不便ナルコト、有効面積ヲ空費スルコト等ハ塩生産能力及作業能率ニ至大ナル關係ヲ及ボスモノナリ、而シテ既ニ畦畔及格ニシテ不同ナルニ、甕片敷設面ノ高低、敷設密度ノ粗雜、製塩期中修理法ノ難事ナルガ爲、永年放置ノ状態ニシテ現在ニ於テ俄カニ優良ナル生産塩ヲ擧ゲヨト云フモ無理ナル注文ト謂ハル可キ、幸ニ去年ハ僅ニ其ノ一部ヲ修理スル事ヲ得タリト虽モ、其他ハ押シ知ル可キ、此ノ問題ニ就テハ往年結晶池改修ノ必要ヲ高潮セシ書類ニ因リ説明セシテ、本問ニハ現在、結晶池ヲ其ノ儘有利ニ導キ使用スル法ヲ述ベントス。

(五) 修理ニ對スル希望

- 一、毎年別途豫算ヲ配付シ秋季製塩終了後結晶池修理ヲナサントルカ、又ハ根本的ニ一部讀員ニ付シ改造スルノ必要アリ。
- 二、餘リ小ナル格ノ畦畔ヲ取去リ標準ノ格トナスコト
- 三、不良甕片結晶池ノ周圍ハ大概不屈曲甕片ヲ據テ之ニ工事ヲ行フ其他ヲ簡略ニセシ爲メ或ハ結晶池打固ニ際シ畦畔ニ邪魔ヲサレ完全ナ打固ガ出来ナイ爲ニ常ニ甕片出テ結晶池ノ使命ヲ全スル事ガ出来ズ、且ツ漲水ノ流動ヤ水落ヲ妨害ス、然レニ之ガ土堤結晶池ナド周圍ハ、絶エズ平均ニスキ取り水落ヲ完全ニシテ漲水ハ向新ナク流動スルヲ見受ク、試ニ此ノ流動スル鹹水ヲトリ比重ヲ測定セバ格ノ中央ノ比重ヨリ周圍ヲ流動スル比重ノチガ當上ノ高キ事ヲ知ル、之レハ申ス迄モナク、若シ種類ノ集合セルモノニシテ、含鹽量ナキ鹹水ナリ、突ニ土堤塩ノ品質ノ優良ナル所以ハ此ノ僅ノ作用ト結晶池土壌中ニ吸收サル苦汁ノ誘作作用ニ起因スルモノト推察ス

斯如ク結晶池周圍ノ低キ事モ品質良好ノ原因トナルヲバ、甕片結晶

此ニ此ノ理ヲ應用シ修理ノ完成ヲ期ス可キナリ

(大) 科學的管理法ニ就テ

天日塩田ノ經營モ一般事業界ノ經營法ト同ク之ヲ科學的ニ經營スル必要ナルハ
今更ニ申ス迄モ有マセン然レテ今現狀塩田ハ殆ド天候ニ支配サルガ故ニ一面百姓仕事
ト輕視スル傾向ヲ有スレド此ノ變化極リキ天候ノモトニアリテ其ノ持ツ處ノ技術巧巧ノ應
用レテ作業ヲナシテ行クハ如何レテモ一定ノ組織が必要ナル其ノ組織ハ前述ノ通り
科學ヲ基礎トシタル統一シタル機關デアル第一ニハ之ニ從事スル人ノ研究ヲアル即
チ勞働者ノ素質、勞働、作業指導者ノ養成、第二ニハ氣象、製塩作業
ノ指導、從來施行シテ凡ハ氣象觀測ヲ品々一歩進メテ事業ノ中心トナスコト第三ニ
ハ製塩作業ノ統一ヲナスコト、今カニ一本、曠野造リモ、甲乙論アルガ如キハ心細キ事
ナリ第四ニハ化學的製塩法ヲ試ムルコトナリ
今試ミニ一例ヲ彼ノ製糖工場ノ糖液ノ處理ニ就テ學バントス、糖液が生汁ヨリ散糖

トナル迄ハ製糖ト同ク幾多ノ順了ヲ經テ精製セラレテ行ク採塩ニハ採塩ノ順序ニ依リ
初會ノ採塩次ニ二回、三回、四回ト採レテ回ヲ重スルニ從ヒ採取サル塩ハ品質ヲ低下シ
行ク同様ニ製糖モ其ノ糖液ノ蒸沸順了ニ依リ一番糖ニ番糖三番糖ト採レ
テ漸次製糖品ヲ低下シテ行ク其レ之ヨリ生ズル蜜ハ其ノ回数ニ應ジテ一番蜜ニ番
ニ番蜜トナリテ最後ニハ全糖分ナキ廢蜜トナリテ排泄セラル尤モ蜜ノ全糖量査
定ハ分析ノ結果指導セラルモノナリ、然ルニ製糖ノ方ハ採塩ノ回数ニ應ジテ一番蜜計
モニ番蜜計^(處理法)採塩後ノ母液ト新注入差水ノ割合、或ハ残存母液ノ處理ニ
就テハ~~從來~~只從業員ノ經驗ト任意ノ作業ニ委レテ顧ミラナイ
故ニ從業員ハ比重高キモノハ全糖量多キモノト信ズルモアリ亦一部指導者ハ此等
持餘タル鹹水ハ焼付法ヲ以テ採塩セヨト命ズル位ニテ甚ダ心細イ伏態ニ於カレ
テ居ナサル

(七) 結論

以上諸項目ハ現行製塩法ノ缺陷デアツテ今俄カニ之ヲ根本ヨリ改良スルト

云々事ハ至難ノ事ナレド幾分ニテモ前途ノ如キ方法ヲ講ジ積極的ニ進ム時ハ漸次改良ノ実蹟ヲ舉グ外塩ニ對抗シテ朱安官塩ノ聲價ヲ挽回スル事ハ敢エテ至難~~ナ~~非ニスト確信ス。

廣戸縣島池月別採塩平均回採塩量調査

内 詳

塩田名	月別	採塩量	前年同月	前年同月	前年同月	前年同月	前年同月	前年同月
大正三年	四月	一、二、三	一、二、四	一、二、五	一、二、六	一、二、七	一、二、八	一、二、九
西曆	五月	一、二、三	一、二、四	一、二、五	一、二、六	一、二、七	一、二、八	一、二、九
西曆	六月	一、二、三	一、二、四	一、二、五	一、二、六	一、二、七	一、二、八	一、二、九
西曆	七月	一、二、三	一、二、四	一、二、五	一、二、六	一、二、七	一、二、八	一、二、九
西曆	八月	一、二、三	一、二、四	一、二、五	一、二、六	一、二、七	一、二、八	一、二、九
西曆	九月	一、二、三	一、二、四	一、二、五	一、二、六	一、二、七	一、二、八	一、二、九
西曆	十月	一、二、三	一、二、四	一、二、五	一、二、六	一、二、七	一、二、八	一、二、九
西曆	十一月	一、二、三	一、二、四	一、二、五	一、二、六	一、二、七	一、二、八	一、二、九
西曆	十二月	一、二、三	一、二、四	一、二、五	一、二、六	一、二、七	一、二、八	一、二、九
西曆	合計	一、二、三	一、二、四	一、二、五	一、二、六	一、二、七	一、二、八	一、二、九

本表ハ採塩非即時搬入要スル木槽、容量算ハ概基、為調査セシメ、ナリ。

(四) 在未甕片結晶池ノ缺點

朱安塩田、結晶池ハ一格ノ面積ニスラ一定ノ原則ナク千差萬別、ハ飽迄小サ大ハ飽迄大ナリ、其ノ小ナル格ノ畦畔ノ數ハ實ニ夥シク結晶池有効面積ラニ遊畦畔ニ取ラレ其ノ水操ノ繁雜ナル事、採塩ニ不便ナルコト、有効面積ヲ空費スルコト等ハ塩生産能力、及作業能率ニ至大ナル關係ヲ及ボスモノナリ、而シテ既ニ畦畔及格ニシテ不同ナルニ、甕片敷設面ノ高低、敷設密度ノ粗雜、製塩期中修理法ノ難事ナルガ爲、永年放置ノ狀態ニル現在ニ於テ俄カニ優良ナル生産塩ヲ擧ゲコト云フモ無理ナル注文ト謂ハサル可キ、幸ニ去年ハ僅ニ其ノ一部ヲ修理スル事ヲ得タリト虽モ、其他ハ押シテ知ル可キ、此ノ問題ニ就テハ往年結晶池改修ノ必要ヲ高潮セシ書類ニ因リ説明セラシテ本問ニハ現在、結晶池ヲ其ノ儘有利ニ導キ使用スル法ヲ述ベントス。

(五) 修理ニ對スル希望

一、毎年別途豫算ヲ配付シ秋季製塩終了後結晶池修理ヲナサントルカ、又ハ根本的ニ一部讀員ニ付シ改造スルノ必要アリ。

二、餘リ小ナル格ノ畦畔ヲ取去リ標準ノ格トナスコト

三、不良甕片結晶池ノ周圍ハ大概ホ辰曲甕片ヲ搗込ニ工事ノ手向其他ヲ簡易

ニセレ爲ク或ハ結晶池打固ニ際シ畦畔ニ邪魔ヲサレ完全ナ打固カ出来ナイ爲ニ常

ニ露出シテ結晶池ノ使命ヲ全スル事が出来ズ且ソ漲水ノ流動ヤ水落ヲ妨害ス然ル

ニ之レガエ堤結晶池ナレ周圍ハ絶エズ平均ニスキ取水落ヲ完全ニテ漲水ハ間

断ナク流動スルヲ見受ク、試ニ此ノ流動スル鹹水ヲトリ比重ヲ測定セバ格ノ中央

ノ比重ヨリ周圍ヲ流動スル比重ノ方が高シ事ヲ知ル之レハ申ス迄モナク若

汁類ノ集合セルモノニテ含鹽量ナキ鹹水ナリ、實ニエ堤塩ノ品質ノ良ナ

ル所以ハ此ノ僅ノ作用ト結晶池土壤ニ吸收サル苦汁ノ滲透作用

ニ起因スルモノト推察ス

斯如ク結晶池周圍ノ低キ事モ品質良好ノ原因トナルコトハ甕片結晶

此ニ此ノ理ヲ應用シ修理ノ完成ヲ期ス可キナリ

(大) 科學的管理法ニ就テ

天曰鹽田ノ經營モ一般事業界ノ經營法ト同ク之ヲ科學的ニ經營スル必要アルハ
今更ニ申ス迄モ有マセン然レテ今現存鹽田ハ殆ド天候ニ支配サルガ故ニ一面百姓仕事
ト輕視スル傾向有スト此ノ變化極リキ天候ノモトアリテ其ノ持ッ處ノ技術巧巧應
用レテ作業ヲナレテ行クハ如何レモ一定ノ組織が必要アル其ノ組織ハ前述ノ通り
科學ヲ基礎トシタル統一シタル機關デアル第一ニハ之ニ從事スル人ノ研究アル即
チ勞働者ノ素質、勞銀、作業指導者ノ養成、第二ニ氣象^{氣象}製鹽作業
ノ指導、從來施行レフ凡氣象觀測ヲ品々一歩進メテ事業ノ中心トナスト第三ニ
ハ製鹽作業ノ統一ヲナスト、今カニ一本ノ硯研造リモ、甲乙論アルカ如キハ心細キ事
ナリ第四ニハ化學的製鹽法ヲ試ムルコトナリ
今試ミニ一例ヲ彼ノ製糖工場ノ糖液ノ處理ニ就テ學バントス、糖液が生汁ヨリ散糖

トナル迄ハ製糖ト同ク幾多ノ順丁ヲ經テ精製セラレテ行ク採鹽ニハ採鹽ノ順序ニ依テ
初會ノ採鹽、次ニ二回、三回、四回ト採テ回ヲ重スルニ從ヒ採取サル鹽ハ品質ヲ低下シ
行ク同様ニ製糖モ其ノ糖液ノ蒸沸順丁ニ依リ一番糖、二番糖、三番糖ト採シ
テ漸次製糖品ヲ低下シテ行ク其レ之ヨリ生ズル蜜ハ其ノ回数ニ應ジテ一番蜜、二番
蜜、三番蜜トナリテ最後ニハ全糖分ナキ廢蜜トナリテ排泄セラル尤モ蜜ノ全糖量査
定ハ分析ノ結果指導セラルモノナリ、然ルニ製糖ノ方ハ採鹽ノ回数ニ應ジテ一番蜜計
モニ番蜜計^{蜜計}モナリ採鹽後ノ母液ト新注入差水ノ割合、或ハ残存母液ノ處理ニ
就テハ未ダ^{蜜計}不明ナル外只從業員ノ經驗ト任意ノ作業ニ依テ願ミラナイ
故ニ從業員ハ比重高キモノハ全糖量多キモノト信ズルモアリ亦一部指導者ハ此等
持餘タル鹹水ハ燒付法ヲ以テ採鹽セヨト命ズル位ニテ甚ダ心細イ伏態ニ於カレ
テ居ナサル

(七) 結 論

以上諸項目ハ現行製鹽法ノ缺陷デアツテ今俄カニ之ヲ根本ヨリ改良スルト

云々事に至難ノ事ナレド幾分ニテモ前途ノ如キ方法ヲ講ジ積極的ニ進ム時ハ漸次改良ノ実蹟モ擧グ外塩ニ對抗シテ朱安官塩ノ聲價ヲ挽回スル事ハ敢エテ至難ト非ラズト確信ス。

廣平縣晶池月別採塩平均回採塩量調査

内 詳

塩田名	月別	採塩量	前年同月	本年同月	本年同月	本年同月	本年同月	本年同月
大正三年	四月	五八	一〇	四七	一〇	一〇	一〇	一〇
西曆十一年	五月	一三三	一九	六四	一九	一九	一九	一九
西曆十一年	六月	四〇	一五	一六	一五	一五	一五	一五
西曆十一年	七月	一六	一三	一六	一三	一三	一三	一三
西曆十一年	八月	一〇九	一四	八八	一四	一四	一四	一四
西曆十一年	九月	一九七	二〇	九八	二〇	二〇	二〇	二〇
西曆十一年	十月	七一	一五	四七	一五	一五	一五	一五
計		一〇九三	一〇八	九三	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八

本表ハ採塩非即時搬入要スル木槽ノ容量算ハ概基ヲ調査セシメテ

24/2

11

昭和十三年

天日塩田産、苦汁利用、及薬品製造関係資料

一、昭和十三年頃朱安塩田の武田製薬會社は塩田苦汁から、ブローハイと主として薬品を製造している。本署は、全社の製薬方法、及収支計算。
二、昭和四年頃本局分析室に於ては分析のため、薬用塩化ナトリウム、塩酸等の製造法を調査した。

(一、二)

半世塩田産鹹水利用ブローム製造工程及収支計算

本年度副生品採取豫想

ブローム一度ノ生苦汁ヲ井ルタプレスニテ漏過シ漏液ヲ濃厚釜ニシテ約百八度迄熱シ結晶池ニ移シシテ六度迄冷却シ食塩ヲ採取ス之レヲ漏過シ食塩ハ遠心分離器ニテ分離ス母液ハ再々濃厚釜ニテ蒸發シツ、シテ一度迄熱ス時ハ濃厚釜内ニ食塩一部が結晶シ來ルヲ採取ス其母液ハシハ一度迄濃縮シ受タンクニ流出ス此際固型塩ハ沈澱スルが故約一時間放置ノ後上層液及遠心分離器ニテ分離シタル母液ハカーナ槽ニ移シ充分冷却シカーナノ結晶ヲ採取ス其母液ハ尚多少カーナノ結晶含有スルが故濃縮釜ニシテ移シ透明ニシテ放置ス此透明ナル濃厚苦汁ハブローム釜ニ移シ塩素酸ソーダ及硫酸

テフロム釜移シテ遊離セシメフロム蒸氣ハ冷却器ニテ冷却シ
時ハ液體ナリフロム受瓶ニ溜ルフロムヲ採取シタル廢液ハ
石灰ニテ充分中和シ透明ニナリ液ヲ廢液タンクニ貯藏ス此處
明ナル廢液ハ蒸發釜ニテC一六。度迄濃縮シ固型モノトナリ
詳細は工場ニ就テハ説明中トナリトナリ

一石當り比較

	昭和十三年度	昭和十三年度	
ブーム	0.159 kg	0.134 kg	
圓型塩	33.000	25.229	
再製塩田貯 圓型塩	17.500		
カーナー	67.80	33.41	
圓型苦汁	24.600	18.222	
食塩	15.540	14.255	
粗製塩		13.977	
硫酸ソーダ		11.977	
	23.128 kg	25.822 kg	

昭和十三年度收支計算書

收入之部

目	数量	単價	金額
雑	三二二八.五	五十七.七八	三七八四.〇〇
刀口一〇	七四七.八	二八.三	二一六.五〇
食塩	三〇〇.〇〇	一四.二	四二五.〇〇
粗製塩	四〇五.三四	三.一五	一二七五.一〇
固型塩	一〇〇.二五	四.二二	四二三.二〇
硫酸 三六.六	二九四.四〇	四.八二	一四一八.七五
固型苛性	五二九.五〇	三.九二	二〇七五.六四
合			三六七五.一七

月羊總計書算司

(單價 毛位以下四捨五入)

支出部

科目	目数	單價	金額
苦汁	二八四・七四 LT	LT 〇・六五	一七三九・二四
石灰	七号九四軒	軒 三・五五	二四・五五
硫酸	二八・五	、 一・一〇	三・一〇・七五
塩素酸ソーダ	一三・五	、 四・〇	五・五・二五
カラメル	五・五	、 三・三	一・八・七五
石灰	六・〇 LT	LT 二・三三	一四・八・四〇
包装材料	一	一	六・五七・四八

一八八・二五五
一五・五

4.

工場消耗品	1	1	二、一三、二
營業費			二、二〇、二、九
取付及修理			九、七、二、三
工賃	延工費 八、三、三、二、人	一、〇、〇	八、三、三、九、九
動力費			八、五、五、八、一
電燈費			四、七、三、一、五
土地使用料			三、一、九、四、一
利息			一、〇、〇、〇、〇、〇
合計			三、九、八、九、三、九、二
差引損			四、一、三、五、七、五

月羊恩管守庫算司

備考

一、工場消耗品内譯、遠心機、袋、コキ、硝子管、半田、

一、營業費内譯、

一、出張費、一、通信費、一、車以用費、一、税金、

一、家財金、一、衛生費、一、炊事費、一、運賃、一

一、土地賃料内訳、

二、揚子地、一、三八坪、若汁厩地、一二九坪、

秋定、五〇坪、軌條、一〇二四九メートル、

一、包装材料内訳、

圓型若汁、圓型枕、倉枕、カーナ、硫酸、カネ、

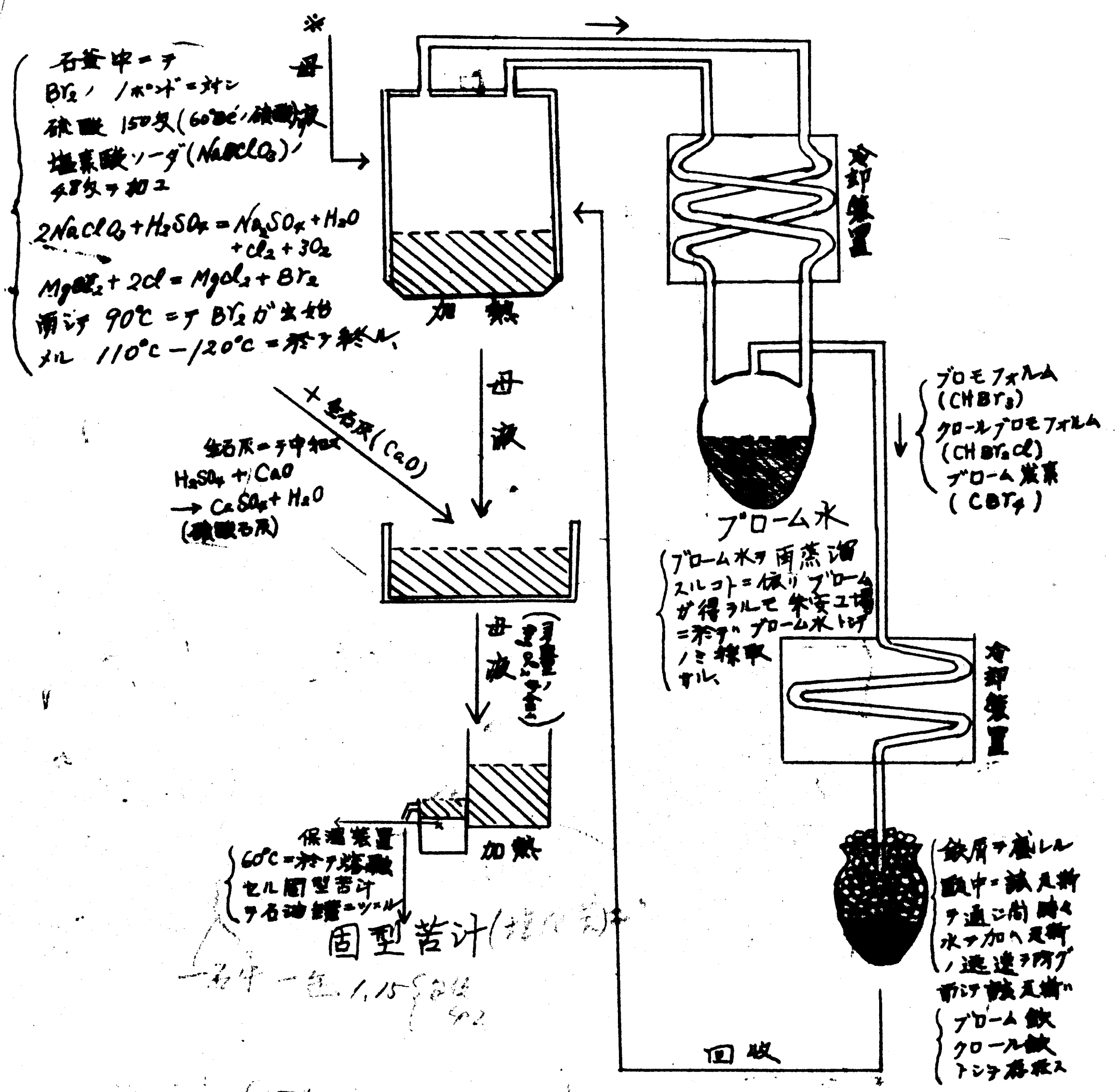
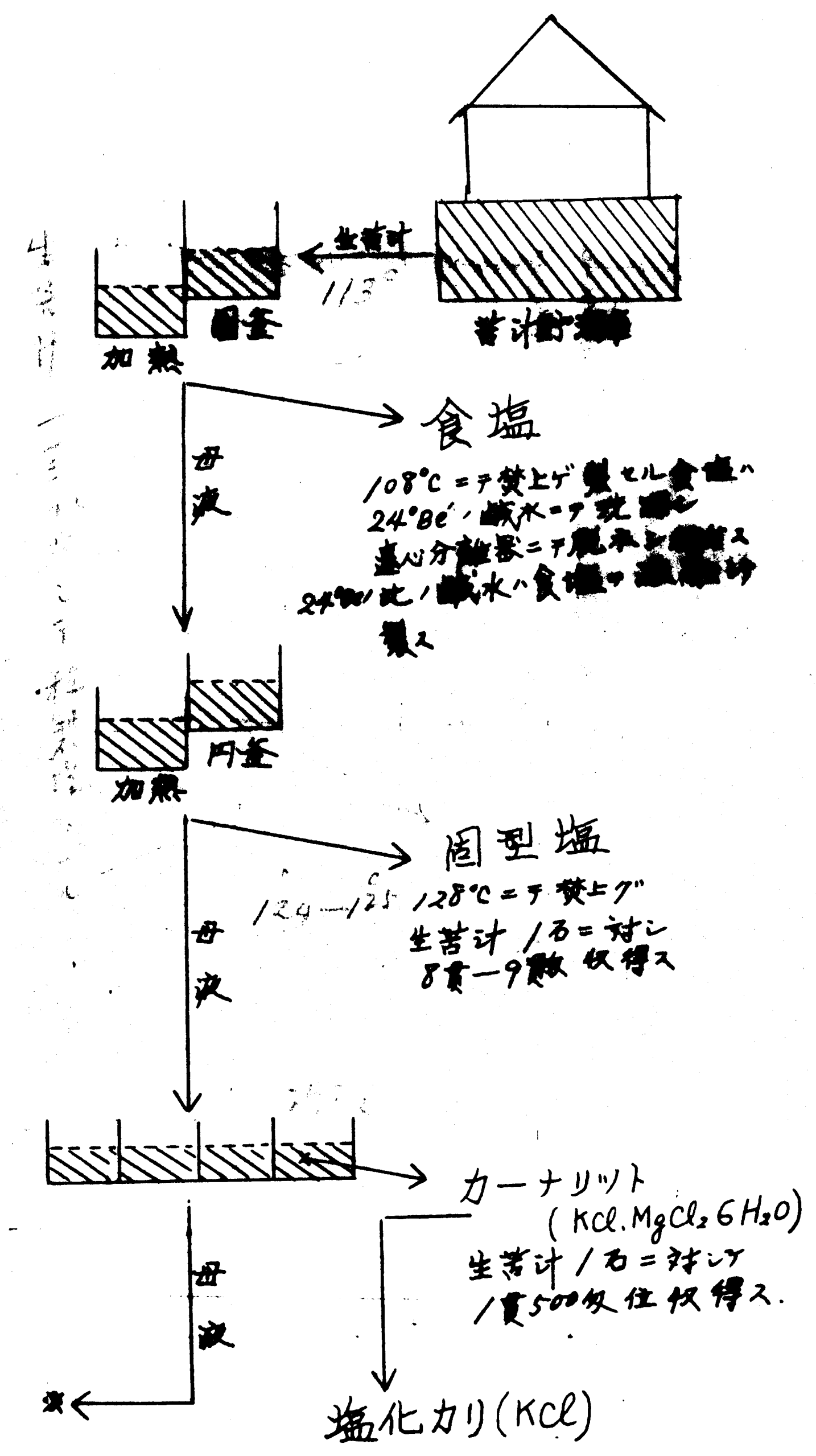
若汁、カネ、以、織、カネ、

一、三隻人

工場作業上特殊器械作業多ク熟練之ヲ必要トスル関係上原料
缺乏時ト雖モ之ヲ養育月ノ里直中常ニ訓練ヲ養成スルモノニシテ
将来ノ準備トス

目下器械装置ニ改良ヲ加ヘ将来ノ経費ヲ節減ヲ計リ損失ヲ
求メサシム樹力カス

武田長兵衛製薬會社 朱安分工場
 ブローム製造工程



24	7 匁 - 1 匁	1 匁	カ	2 匁	カ
	3 匁	6 匁	カ	2 匁	カ
	カ	6 匁	カ	2 匁	カ
	カ	4 匁	カ	2 匁	カ
	カ	4 匁	カ	2 匁	カ

(二)

一 昭和四年本局分析室調査

技手 石川武吉

藥用名「ルナトリウム」製造調査

朝鮮總督府專賣局

藥用クロールナトリウム製造調査目次

一、朝鮮輸入年額数量

二、クロールナトリウムノ規格（日本藥局法）

三、製造方法

四、試験成績

(イ) 製品一万千當生産費及収益概算

(ロ) 供試原塩ニ對スル精製クロールナトリウム製造歩留

(ハ) 供試原塩一キログラムニ要スル藥品ノ数量

(ニ) 製品一万千ニ要スル藥品ノ使用数量價格内譯

(ホ) 藥品價格（大量取引京城渡卸價格）

(ヘ) 勞銀内譯（鹹水精製ニ要スル經費）

(ト) 煎熬費

(チ) 燃料費内譯

朝鮮總督府專賣局

(リ) 消耗品費内譯

五、參考資料

（第一表）昭和四年朝鮮主要地へ移入セシ「クロールナトリウム」量

（第二表）昭和四年朝鮮ニ移輸入セシ「クロールナトリウム」供給者及数量

（第三表）移輸入「クロールナトリウム」散塩百斤當價格

藥用クロールナトリウムノ製造調査

一 朝鮮輸入年額數量

昭和四年京城外六主要府面へ移入サレタル數量ハ第一表ニ示スカ如ク一万一千余斤此價格三千三百二十圓ナリ

二 クロールナトリウムノ規格（日本藥局法）

(イ) クロールナトリウムハ白色ノ霰子形結晶或ハ結晶性粉末ニシテ純鹹味ヲ有シ氣中ニ於テ變化セス三分ノ水ニ溶解シ中性ノ反應ヲ微シ酒精ニ殆ト溶解セス

(ロ) 本品ヲ無色焰中ニ熱スレハ其ノ大焰ヲ黃色ニ染ム又本品ノ水溶液ハ硝酸銀溶液ヲ和スレハアンモニア水ニ溶解スヘキ白色乾酪様ノ沈

澱ヲ生ス

朝鮮總督府專賣局

(ハ) 本品ヲ無色焰中ニ熱シコバルト硝子ヲ透シテ之ヲ窺フニ永ク紫紅色ヲ現スヘカラス

(ニ) 本品ノ水溶液（ $\sim 10\%$ ）ハ硫化水素水硫酸重土溶液又ハ稀硫酸ニ由テ又、アンモニア水ヲ加ヘタル後、磷酸アンモニウム溶液並ニ磷酸曹達溶液ニ由ッテ變化セス又此ノ水溶液ニ。立方センチメートルハ黃色血濁塩溶液。五立方センチメートルニ由テ藍色ヲ呈スヘカラス

三 製造方法

本品ノ製造法ニ數種アリト虽モ實用向ニシテ工業的ナル法ヲ舉クレハ次ノ如シ

(イ) 普通食塩ヲ原料トシ之ヲ四分ノ水ニ溶解シ必要アレハ濾過シ清澄ナル液ヲ得、後加熱シ塩化バリウムノ適量ヲ投シ含有スル硫酸塩類ヲバリウム塩トシテ沈澱セシメ生成シタル沈澱ノ沈着ヲ得待テ濾過シ其ノ濾液ニ適量ノ純炭酸ナトリウム液ヲ混和シ二四時間ヲ経タル後再ヒ濾過シ純塩酸ヲ以テ其ノ濾液ヲ中和シ蒸發結晶セシム

(ロ) 食塩ノ濃厚溶液ヲ製シ塩素瓦斯ヲ通シ食塩ヲ析出セシメ吸引濾過シ後過剰ノ塩素ヲ驅逐シ製ス

備考本法ハ製藥工場ニ於テ各種製藥

朝鮮總督府專賣局

製造ノ際停生物トシテ多量ニ生産サル、クロール瓦斯ヲ利用スルトキハ有利ニシテ現今大坂工業都市ニ於テ多ク本方法ニ依リ製塩シツ、アルモノ、如キモ特ニ本品製造ノ為ニクロール瓦斯ヲ用アルコトハ瓦斯發生裝置其他操業設備ニ多大ノ投資ヲ要シ採算上不利益ナルヲ以テ本方法ニ依ル製造試驗ハ省畧ス

四 試驗成績

前項(イ)ノ試驗ヲ經濟的見地ヨリ本局分析室ニ於テ施行セシ結果藥局法ニ依ル合格品製造ニ要スル經費ハ左ノ如シ

(1) 製品一万吨生産費及収益概算

種別	数量	單位價	金額	種別	数量	單位價	金額
原塩	一一五〇	二六八	元九百	精製塩	一五五〇	五五	八三、五五
藥品	六三二	二五五	元二二	燃料	二八、五〇	八六五	元四、九二
燃料	一八、五〇	六五	元一、二二	勞銀	二二〇	一、八二	元四、一六
勞銀	一八〇	一二六	元二二、〇〇	消耗品	一〇〇〇	八二五	元八二五、〇〇
消耗品	一〇〇〇	八二五	元八二五、〇〇	計	一〇〇〇	八元、八六	元八、八六〇、〇〇
計	一〇〇〇	八元、八六	元八、八六〇、〇〇	販賣工場販賣價格	一〇〇〇	二六六	元二六六、〇〇
販賣工場販賣價格	一〇〇〇	二六六	元二六六、〇〇	差引利益	一一八元	二六八	元三、一五二、〇〇
差引利益	一一八元	二六八	元三、一五二、〇〇				

朝鮮總督府專賣局

備考、煎熱其他ノ設備ハ朱安眞空式製塩工場ヲ

利用スルモノトシテ本表ニハ計上セズ

(四) 供試原塩ニ對シ精製名ルトリウムノ製造歩階

種別	供試原塩含有 純塩化重率 失量率	精製名ルトリウム 製造操作 中 失量率	製品一万吨ニ要スル 原塩ノ所要數量
精製塩	九七%	三%	一〇、三〇〇
一等塩	八五%	一五%	一四、五〇〇
二等塩	八〇%	二〇%	一五、〇〇〇

(ハ) 供試原塩一キログラム精製ニ要スル藥品數量

種別	塩化バリウム	炭酸ナトリウム	塩酸
精製塩	二、五	二、五	一、〇
一等塩	五、〇	一、五	二、〇
二等塩	六、〇	一、八	六、〇

(二) 製品一ツ斤ニ要スル藥品ノ使用数量價格内譯

種別	数量	單價	金額	数量	單價	金額	数量	單價	金額
炭酸水	二二六	一六〇〇	三六、一六〇	七二五	一六〇〇	一、一六〇、〇〇〇	九〇〇	一六〇〇	一、四四〇、〇〇〇
炭酸水	二八三	二六〇〇	七三、五八〇	二、一七五	二六〇〇	五六、六五〇	二七〇	二六〇〇	七、〇二〇、〇〇〇
炭酸水	一一三	二六〇〇	二九、五八〇	四三五	二六〇〇	一、一五五、〇〇〇	九〇〇	二六〇〇	二、三四〇、〇〇〇
計	六二二	二二、三四〇	一三、九一二	四、三三五	二二、八八六	九八、五五五	四、五〇〇	二四、〇〇〇	一、〇八〇、〇〇〇

(ホ) 藥品價格 (大量取引京城廢價格)

種別	一封信度單價	百封信度單價	摘要
塩化ナトリウム	一・二〇	一六、〇〇〇	百封信度箱入
炭酸ナトリウム	二・〇〇	二六、〇〇〇	純塩酸五十封信度箱入
塩酸	二・〇〇	二六、〇〇〇	

朝鮮總督府專賣局

(ハ) 勞銀内譯 (鹹水精製ニ要スル經費)

種別	人員	單價	金額	人員	單價	金額	人員	單價	金額
原塩溶解精製通清淨作業	一〇	七〇〇	七、〇〇〇	二	七〇〇	一、四〇〇	二	七〇〇	一、四〇〇
清淨液ヲ加シ強塩化ナトリウムヲ以テ強塩化ナトリウムヲ作業	一〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
以テ強塩化ナトリウムヲ作業	三〇	一、〇〇〇	三〇、〇〇〇	五〇	一、〇〇〇	五〇、〇〇〇	五〇	一、〇〇〇	五〇、〇〇〇
炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水	一〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇	一、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇	一、〇〇〇	二〇、〇〇〇
計	六〇	九、五七〇	五、七四二	一〇〇	九、五七〇	九、五七〇	一〇〇	九、五七〇	九、五七〇

(ト) 煎煮費

種別	人員	單價	金額	摘要
炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水	一〇	一、二〇〇	一、二〇〇	炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水、炭酸水
計	一〇	一、二〇〇	一、二〇〇	

(4) 燃料費内譯

種別	数量	單價	金額	摘要
鹹水精製用炭	三、〇〇〇	八六三	一五、八九〇	撫順炭(一吨一四、五〇元)
鹹水煎煮用炭	九、五〇〇	八五三	八、一、九八五	
製品乾燥	六、〇〇〇	八五三	五、一、七八〇	
計	一八、五〇〇	八五三	一五九、六五〇	

(リ) 消耗品費内譯

種別	数量	單價	金額	摘要
鹹水通利	〇、五〇〇	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
砂	一、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	
木炭	一五、〇〇〇	一、二〇〇	一八、〇〇〇	
布	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一六、〇〇〇	

朝鮮總督府專賣局

種別	数量	單價	金額	摘要
リトス、試験紙	四、〇〇〇	九六〇	三、八四〇	
シユロ皮	二〇、〇〇〇	二、二四〇	四、四八〇	
計			八二、三二〇	

以上(イ)ノ生産費ハ分析室ニ於ケル實驗ヨリ推定シタルモノニシテ實際ノ操業ニ當リテハ(イ)表ニ示スカ如キ利潤ヲ得ラレサルベキモ塩價現状維持ノ場合ハ相當収益アルコトハ確實ナリ、乍併、鮮内ノ需要量余リニ僅ナル為、藥商等々家庭工業的ニ經營スヘキ程度ノモノニシテ殊ニ販賣價格ハ現價ヲ基準トシテノ計算ナルモ、由來内地品ハ主トシテ工場ノ副産物塩素瓦斯ヲ利用シテ製塩セルモノナルヲ以テ

生産費割安ナルカ故尚値下ノ余地アルカ爲ニ鮮内
生産ノ曉ニハ之ニ對面^杭上移入品ハ値下ノ方途ニ
出スハキハ明ニシテ今鮮内ニ之ヲ專業トシテ
經營スルコトハ事業成立ノ望薄キモノト認メラル

五、参考表

(第一表) 昭和四年朝鮮主要地(移輸入セリタル)之量

地名	数量	單價	金額	摘要
京城	二、八九一	五二二	一、五〇九、二〇八	
平壤	六六〇	四二二	二七八、三〇〇	
釜山	一、九一六	三四五	六六〇、六二五	
元山	一六〇	四六九	七五、〇〇〇	
大邱	三八一	四二四	一六一、五〇〇	

朝鮮總督府專賣局

地名	数量	單價	金額	摘要
群山	五〇〇	七〇〇	三五〇、〇〇〇	
木浦	六四八	四四六	二八五、〇〇〇	
計	七、一五六	四六四	三、三二〇、四一三	

斤ニ換算一、一九二八^斤
二七、八三七^圓
三、三二〇、四一三

(第二表) 昭和四年朝鮮ニ移輸入セリタルモノノ供給者及数量

供給者	数量	單價	金額	摘要
大坂府 藤澤友吉	五、七二五 ^斤	四五六	二、六一〇、六二三	
大橋商店	八〇八	四一四	三三四、七五〇	
凡石製藥	一五〇	三六〇	五四、〇〇〇	
塩野商店	一六〇	四六九	七五、〇〇〇	

小地商店	一二五	三六。	四五。
武田長兵衛	七。	一七七八	一二四。
大坂製藥	五。	四。	二。
田辺五兵衛	三八	一一七本	四四。
石澤化學	二。	四。	八。
七里利和	一。	三八。	三八。
計	七一五六	四六四三三二。	四一三

第三表 移輸入名ルナリ公散塩百斤當價格(昭和五年月相場 藤澤支店調査)

種	別	金	額	摘	要
大坂道修町	原價	二四。	。	。	包裝(箱四十五)十八円
藤澤支店	大坂渡價格	二六。	。	。	二十円
	京城渡價格	二九	二六七		二十二円

朝鮮總督府專賣局

(三)

昭和四年本局分析室にて調査

塩化マグネシウム原料トスル湿式
塩酸製造法

朝鮮總督府專賣局

明細書

塩化マグネシウムヲ原料トスル湿式塩酸製造法

茲明ノ性質及び目的、要領

本發明ハ液相ニ於テ塩化マグネシウムヲ石灰及び硫酸ノ二酸處理ニヨリテ直ニ粗製塩酸ヲ生成セシムルコトヲ特徴トスル湿式塩酸製造法ニ係リ其ノ目的トスル所ハ之ヲ加里工業製塩工業ニ應用シ最も簡易經濟的ニ塩酸ヲ製造シ兼テ塩化加里食塩塩化マグネシウム、臭素、石膏等有用ナル化合物ヲ分離副成セシメ以テ塩化加里食塩ノ製造法ニ改良ヲ加ヘントスルニアリ

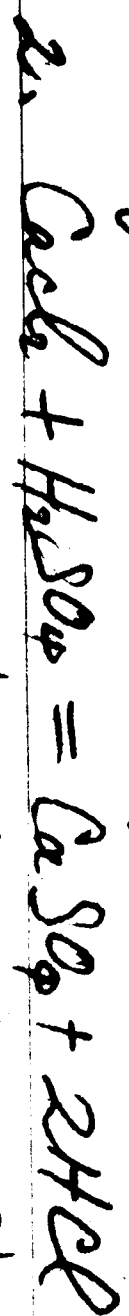
發明ノ詳細ナル説明

本發明ハ液相ニ於テ塩化マグネシウムヲ石灰及硫酸ノ二酸處理ニヨリテ直ニ粗製塩酸ヲ生成セシムルコトヲ特長トシコレガ爲ニハ先ツ石灰處理ニヨリ水酸化マグネシウムノ沈澱ヲ除去シ次イデ硫酸處理ニ

朝鮮總督府專賣局

ヨリテ塩酸溶液トシテ硫酸石灰ノ沈澱ヲ除去セシメ斯クシテ簡易ニ塩酸ヲ湿式ニテ生成セシム

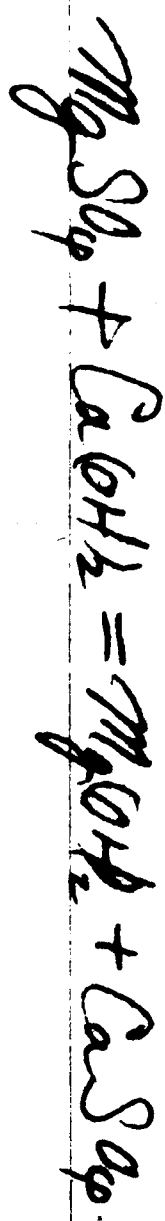
コノ際ノ化學變化ハ次ノ方程式ニヨリテ示サルベシ



即チ第一酸ノ變化ハ水酸化カルシウムノ過剰ニヨリテ一層水酸化マグネシウムノ溶解度ヲ減サセシムベク第二酸ノ變化ニ於テハ硫酸イオンノ増加ニヨリテ著シク硫酸石灰ノ溶解度ヲ減ズ從ツテ右ノ處理ニヨリ液中ヨリ強ドマグネシウム及石灰ノ分離ヲ完了シタル後不純塩酸ヲ蒸溜精製セシムベシ

塩化マグネシウムハ製塩工業ノ副産物タル苦汁或ハ岩塩ノ夾雜カラナイトノ如キニ多量ニ含有セシ居リテ而カモ直ニ之ニ代用セシメ得ルガ故ニ今日採用セラレ居ル塩酸製造ノ諸法ニ比シ原料ニ

於テ甚ダ安ク而カモ其ノ製法タルヤ簡易ニ行ハル但シ苦汁ヲ使用スル場
合ニハ硫酸マグネシウムヲ含有スルヲ以テ更ニ次ニ變化ヲ随伴スレドモ第一般
ノ處理ニヨリテ充分除去セラレ從ツテ何等差支ナレ



斯クノ如ク一般ニ塩化マグネシウム及塩化物硫酸塩燐酸塩炭酸塩等ヲ含
有スルモノニサリテモ液相ニ於テ石ト同様第一般ノ處理ニヨリテ塩化カルシウム
塩化アルカリノミシテ液相トナスコトヲ得ルカ故ニ從ツテ之ニ本法ノ適用何等
差支ナレサレド安値ニ無盡藏ナル原料ヲ求ムレバ失張前記ノ苦汁
カーライイト或ハ海水ナラン是レ本法ガ塩化マグネシウムヲ原料トセル所以ナリ
斯クテ石灰及硫酸ニ般處理ヲ經タル塩酸中ニ於テハ共通イオニノ増加ニ
ヨリテ塩化物ヲ充分析出セシムコトヲ得ベシ
次ニ今日採用セラレ居ル塩酸製造諸法トノ比較ヲシテ試ミン

朝鮮總督府專賣局

即チ「ソルトケークスプロセス」或ハ同理論「ハーグトリブ」式プロセスニアリテハ
何レモ高温處理ニシテ且ツ生成塩酸蒸氣ヲ高塔ノ中細雨中ニ吸収
溶解セシムルモノナルヲ以テ得ラル、塩酸溶液ハ可成リ稀薄ナリ
而カモ此ノ生成變化ハ理論的ニ悉ク及應ニ完結ヲ許サザルガ如シ又其
副産物タル芒硝ハ塩酸工業ノ副産物トシテ多量ニ得ラルガ為メニ
曹達工業、硝子工業ノ主要原料ナリト雖モ極メテ安便ナリ
次ニ食塩電解曹達工業ニ依ル合成塩酸製造法ニ於テハ純良ナル
塩酸ヲ得ラルノ利アリト雖モ電力料金ノ高價ナル場合ニハ前二法ニ及
ベザル下ガ故ニ從テ勿論本法ニ及バザルベシ

猶鹽塩化マグネシウムヲ高温水蒸氣處理ニヨリテ分解セシメ塩酸ヲ製
造セシムル方法アレド、該法ハ前記三法ノ如ク廣ク採用セラザル事實
ヨリ察スルニ其ノ工業的價值ノ甚ダサキヲ思ハシム茲ニ本法ハ旅
相ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ルノミナズ高温ニテ變化ヲ起サシムルモノナル

表算概費造製酸塩

[illegible]

朝鮮總督府專賣局

ヲ以テ格別ニ設備^{反修科ニ要スル其製造工程タルヲ簡易ニテ取テ修科ニ要スル}ヲ要セ^{要スル}ル而カモ原料ニ於テハ前記ノ如ク誠ニ事^實上無盡藏且フ安價ナル苦汁カ^ナイト、或ハ海水ヲ選ブコトヲ許サレ之レニヨリテ塩酸ヲ始メテ水酸化マグネシウム、石膏、食塩、塩化カリウム及臭素ヲ得ラレ從フテ國家産業上本法ノ果出^ハ、或ハ意義アルモ

別表ニ本法ト他ノ諸法トノ經濟的優劣ヲ示レ以テ本法ノ工業的位置ヲ明ニセシ

石膏	五〇六。	オンド
二二。付	一四四。七	十支
石膏ハ純品ニテ終ッテ		
「ギブス」價銀トセリ		
高シ	五、九四	
尚自家發電ナリ		
塩類純品ニ付工業用ヨリ		
ハ「グレース」氏「ロセス」ニ於テ「ハコロ」		
多少有利ナリカ	二四、九二	
	計	

ハーグ・グー・氏。百セスニ於テハコレヨ
多少有利ナラセカ

高純品ニ付工業用ヨリ
高シ尙自家發電ナリ

市價ヲ以テセリ

次ニ本法ノ實施例ニ、三ヲ舉ゲシ

第一例 苦汁處理

試料成分		三等苦汁比重三度	五等苦汁比重三二度
塩化ナトリウム	八〇〇	三〇〇	
塩化マグネシウム	一三〇〇	一九〇〇	
硫酸マグネシウム	八〇〇	九〇〇	
塩化カリウム	一八〇	二三〇	
臭化マグネシウム	〇二〇	〇二四	

朝鮮總督府專賣局

即チ本試料ニツキテ實施スルニ前記表中ニ記載セルガ如キ數字ヲ以テ示サル猶獨實施中ノ要點ヲ摘記センニ試料ヲ攪拌シツル之ニ細末消石灰ヲマグネシウム置換量ヨリ少シク過剩ニ加ヘエクトキ全マグネシウムヲ次茅ニ沈澱セシメ得ラル此ノ際消石灰ノ代ニ細末石灰ヲ用フニバ石灰ハ水ト作用シテ直チニ消石灰ト變ジ同様ノ目的ニ合致スルミナラス消化熱ノ爲ニ作用溫度ノ上昇ニヨリテ水酸化マグネシウムノ生成ヲ速進スベシ、又硫酸石灰ノ沈澱ヲ伴フトキハ膠狀水酸化マグネシウムノ沈澱凝集著シク速進セラレ引イテ沈澱降下ニ良好ナル影響ヲ與ノ若レ又沈澱降下速別ヲ成ルベク速ナラシメントセバ更ニ之ニ炭酸瓦斯ヲ導入スルガ可ナリ斯クシテ濾液ヲ硫酸處理ニ移ス此際硫酸ノ濃厚ナル程發熱甚ク攪拌不充分ナラニハ濃硫酸ノ酸化作用ヲ起レ塩素瓦斯ノ發生ヲ見ルベキニツキ酸化ヲ目的トナスニ非ズンバ成ルベク低温ニ成ルベク稀薄

溶液ニ或ハ稀硫酸ヲ使用スルガ可ナリ又沈澱生成ヲ數回ニ分テ行フ
カ亜硫酸瓦斯或ハ亜硫酸アルカリノ候用モ致ルベク若レ又酸化
ヲ考慮ノ中ニハル場合ニハ特ニ無水硫酸或ハ過硫酸又ハ過硫酸
アルカリノ併用ヲ為スベシ

斯クシテ硫酸石灰ノ沈澱濾別ヲ行ハル濾液ハ塩化物及臭化物ヲ
含有スル塩酸溶液ニシテ致ルベク酸化處理ヲナシテ臭素ヲ抽出セシ
メ又濃縮シテ塩化アルカリノ沈澱析出ヲ為セバ粗製ノ塩酸ヲ得ル

第二例 塩水母液處理

試料成分

Be	二十五度	Be	三十五度
塩化ナトリウム	二〇・一七		一〇・五一
塩化マグネシウム	二・二二		一・二八五
硫酸マグネシウム	一・六九		七・五三
塩化カリウム	〇・三七		二・一七

朝鮮總督府專賣局

硫酸カルシウム

〇・一六

臭化ナトリウム

〇・五七

一・一四

即チ本試料一應ニツキ實施セル結果ハ第一例ト略同様ニシテBe
二十五度ノモノヨリ粗製食塩一九八尾、比重一・〇八塩酸一〇・〇〇又Be
三十五度ノモノヨリ粗製食塩一〇一尾、比重一・〇五塩酸一〇・〇〇ヲ得タリ

第三例 カーライイト處理

本試料ハマグネシウム工業或ハ加里工業ノ原料トシテ用ヒラル、故ニ
從テコレガ廢液ニ對シテ適用スルガ得策ナラン、他ニ格別特記ス
ベキコトナシ

要之本法ハ從來ノ塩酸製造法ニ比シ遙カニ簡易經濟的優秀ニシ
テ一面塩酸ノ製造法トド同時ニ亦他面最モ合理的ナル食塩或ハ
塩化加里ノ製造法ナリ而カモ更ニ種々有用ナル多量ノ副産物
ヲ得ラル即チ水酸化マグネシウムハ耐火材料トナリ或ハ輕合金工

業興隆ノ曉ニハ極メテ有用ノモノタルヘク或ハ又有時ニモ平時ニモ
光材トシテ見逃スベカラザル金屬マグネシウム製造原料タルベク又
硫酸石灰ハ洋式建築ノ流行ニツレテ屋壁材料トシテ今後日ニ
増レ需要ヲ喚起セントレヌ、臭素ハ種々ノ臭素化合物ノ原料
トシテ或ハ有機合成化學上漸ク重用ナルモノタラントス、斯ク觀ズ
ル時ハ本法ノ前途尙ニ光アラシカ、而カモコレガ原料トシテ許サレ
ベキ苦汁ハ本邦ニ於テ百萬石モ産レ其ノ利用セラル、僅カニ四分
ノ一ニ過ギス残ハ從ニ空ニシテ海中ニ投ゼラレテ顧ミラル所ナレ
若レ之ヲ塩酸ノ原料トシテ採用セシカ年平均塩酸三千萬封度ヲ
以テセバ實ニ石廢棄量三分ノ二ニテ足ル或ハ本法ノ實施セラル、
曉ニハ内地苦汁ノ價格昇騰スル懸念アラシモ台灣朝鮮、廣東
州、青島ノ天日製塩殘液ヲ玆ルベク處理スルコトニヨリテ杞憂
スルヲ信ズルモノナリ

朝鮮總督府專賣局

特許請求範圍

本文ニ詳記シタル如ク液相ニ於テ塩化マグネシウムヲ石灰及硫酸ノ二酸
處理ニヨリテ直ニ粗製塩酸ヲ生成セシムルコトヲ特徵トスル濕
式塩酸製造法

附記

- 一、本文ニ詳記シタル如ク消石灰ノ代リニ生石灰ヲ使用スベキ
- 二、本文ニ詳記シタル如ク炭酸瓦斯ヲ導入シテ沈澱降下後
別ヲ容易ナラシムル特許請求範圍記載ノ方法
- 三、本文ニ詳記シタル如ク硫酸代リニ無水硫酸ヲ使用スベキ特許
請求範圍記載ノ方法
- 四、本文ニ詳記シタル如ク亜硫酸或ハ亞硫酸アルカリヲ併用ス
ベキ特許請求範圍記載ノ方法

五、本文ニ詳記シタル如ク過硫酸或ハ過硫酸アルカリヲ併用スベキ
特許請求範圍記載ノ方法

米谷榮松

朝鮮總督府專賣局

昭和十一年

(13)

朝鮮總督府、專賣局、天日塩田製塩技術員

養成関係 資料

一、專賣局は大正の年代に天日塩田の大拡張工事を致し、それと共に、新塩田には多数の製塩技術員が必要となりました。当時は製塩官署の未発達に、養成機関を設けられず、本資料は受講者が集録した内容の一部であります。因に講師は、本局の技師 山岸睦造氏である。

4982

鹽菜一斑

千葉縣船橋海神町北一丁目五三

石川藏書



正誤表

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
65	13	實費	經費	66	70	妨カレズ	免カレズ
61	5	万州國	滿洲國	11	4	談ジシ	断ジシ
55	1	石灰抗	石灰坑	4	4	出來ル	助勢
53	8	生成法	精製法	5	5	地田地盤	断成
53	7	炭抗	塩坑	31	4	塩田地盤	
53	3	大クハ	多クハ	35	4	塩台場	
52	7	生成スル	精製スル	36	11	木層	
36	11	木層	木槽	52	7	生成スル	
35	4	塩台場	塩埤場	53	3	炭抗	
31	4	出來ル	出來テキル	53	7	生成法	
29	5	地田地盤	塩田地盤	55	1	石灰抗	
目次	七章	製衣法	製塩法	61	5	万州國	

序

本書ハ昭和十一年 余等、

專賣局朱安出張所技術員養成所
ニ於テ製塩実習中 山岸技師、
講義セラレシ所ヲ集録セルモノナリ

昭和十一年 初秋

三森嘉久

山下伊佐男

星野龍策

柳谷義四郎

鹽業一斑 目次

第一章 海水

第一節 海水

第二節 海水 / 鹹 / 原因

第三節 海水 / 組成表

第二章 鹹水

第一節 鹹水 / 分類

第二節 鹹水 / 性質

第三章 鹽

第一節 鹽 / 語源

第二節 人體二對之食鹽 / 必要十ル所以

第三節 食鹽 / 物理的性質

第四節 食鹽 / 化學的性質

第五節 世界 / 鹽 / 生產額表

第四章 製鹽法

第一節 世界 / 製鹽法

第二節 歐米 / 天日製鹽法

第三節 歐米天日鹽田所在地 / 地勢

第五章 鹽田 / 構造

第一節 朝鮮天日鹽田 / 構造

第二節 歐米 / 天日鹽田構造

第六章 採鹽作業

第一節 歐洲 / 作業

第二節 米國 / 作業

36 34

30 29

27 25 21

20 17 11

9 9

6 5

3 2 1

頁

第七章 特殊天日製法

第一節 スペインニ於ケルモノ

第二節 米國ニ於ケルモノ

第三節 各地天日塩ノ代表的分析例

第八章 日本外地ノ塩業

第一節 關東州

第二節 台灣

第九章 岩塩

第一節 岩塩採掘製塩法

第二節 岩塩採掘方法

第三節 日本ノ岩塩

第四節 岩塩ノ組成

第十章 日本版圖内ノ塩ノ需給

第十一章 工業用塩

第一節 曹達工業

第二節 我國ノ工業用塩

第三節 朝鮮工業塩ノ販路

塩ノ工業的用途表

塩業一斑

第一章 海水

第二節 海水

海水ハ地球表面ノ四分ノ三ヲ被ヒ其ノ深サハ處ニヨリテ差異アルモ最モ深キモノハセ乃至八斷ニ及ブモノアリ 今海水中ニ溶解シテナル塩分量ヲ三%トセバコノ廣大ナル海水中ニ含有スル塩分ヲ算出スルト其ノ量ハ實ニ夥シク一寸計算サレヌ

獨リ海水ノミナラズ塩ハ淡水中ニモ含有シテナルガ其ノ量ハ海水ヨリモ遙カニ少イモノデアル 其ノ他 吾人が呼吸スル空氣中或ハ浮遊スル塵埃中ニモ又多少ノ塩分ヲ含有スル 而シテ海水ノ成分ハ何レノ海デモ同一デアルトハ云ヘヌ 處ニヨリ其ノ含有量ヲ異ニスル 陸地ニ近ク淡水ノ注グ所ハ稀薄デアリ大洋ノ中央ニ於テハ濃厚デアル 從シテヨリ 朱安広梁

1

2

灣ノ如キ漢江或ハ大同江ノタメ海水ノ薄イ事ハ領オレル又氣候ニヨリテモ其ノ成分濃度が異なるモノデアリ 兩極地方ハ0.29%アリ熱帶ノ赤道直下デハ3.55%トスフ程異ナリ世界ノ平均ハ3.3%デアルト云フ

第二節 海水ノ鹹イ原因

海水ノ濃度ハ各海岸處ニヨリテ異なるガ平均海水千分中ニ各種ノ塩類が三十五瓦位アル 海水ノ塩分ヲ含有スル原因ニシイテハ從來學者ニヨリテ色々論究セラレシガ現時ニ於テハ河水ハ多少陸上ノ鉱物ヲ溶カシコレヲ海ニシテ其ノ鉱物質が長年月ノ間河水ニヨリ流入セラレルモノトスレバ河水並ビニ海水ノ固形物ノ成分ハ大体同一ナル組成ヲ有スベキナリ然ルニ海水ト河水トハ成分ニ於テ大ナル相異ガアル勿論河水ノ塩量ハ其ノ河ニヨリテ色々異なるガ大体千分中ノ二六セ瓦ヲ含ム 今其ノ塩量ヲ百分比ニシテ見レバ

炭酸化合物	硫酸化合物	塩化化合物
河水 八〇・〇%	一三・〇%	七・〇%
海水 〇・二%	一〇・〇%	八九・〇%

故ニ河水ノ成分ハ現時ノ海水組成ノ原因トシテハ断云セラレヌ依シテ海水組成ノ大部分ハ汽水が成立當時ヨリ其ノ中ニアリテ更ニ海水ノ蒸發作用ハ雨トナリ雪トナリ汽水トナリテ反復シテ海水中ニ陸上ノ鉱物更ラ流入蓄積セルモノナリト云フ從シテ海水ノ濃度及ビ組成ハ理論上時ヨリテ變又更スベキモノナルガ吾人ハ其ノ變化ヲ認めラレヌ

第三節 海水ノ組成表

世界ノ海洋中ヨリ其ノ代表的ナルモノ五、六ヲ抽キ其ノ組成ヲ與テ之レバ次ノ如シ

海洋名	塩化曹達	塩化苦土	硫酸苦土	硫酸石灰	塩化加里	臭化苦土	總計	摘要
大西洋	二、七三三	〇、三四三	〇、二二一	〇、一四二	〇、〇六八	〇、〇〇八	二、五五五	
太平洋	二、五九〇	〇、二八五	〇、二五三	〇、一二一	〇、〇七九	〇、〇〇八	三、四七〇	
地中海	二、九四〇	〇、三三二	〇、二四七	〇、一二五	〇、〇五〇	〇、〇〇六	三、七六五	
アドリア ナク海	二、五五〇	〇、五六二	〇、四四六	〇、〇三八	〇、〇〇五	〇、〇〇五	三、六〇一	〇、四六ハ ニ、〇小計
印度洋	二、七八三	〇、三三三	〇、二三八	〇、一二八	〇、〇五一	〇、〇〇五	三、五五二	
紅海	三、一〇九	〇、三六九	〇、二七六	〇、二二八	〇、〇七四	〇、〇〇六	三、九七六	

第二章 鹹水

第一節 鹹水ノ分類

鹹水ヲ分類シテ三種トナス 即チ

1 天然鹹水 (Natural Brine)

2 人工鹹水 (Artificial Brine)

3 湖水鹹水 (Lake Brine)

1. 天然鹹水 天然鹹水ハ食塩以外ニ多量ノ塩類ヲ含有シ其ノ中普通ナルモノハ「マグネシウム」「カルシウム」「ナトリウム」ノ酸塩類及塩化物ヲ含有スルモノニ於ケルモノハ「バリウム」ヲ含有スルト云フ著シイモノガアル コレガ爲ニ日本ノ「オハイヨ州」ノ製塩場ラ異似タル爲非常ナル困難ヲ來セリ

2. 人工鹹水 人工鹹水ハ岩塩ヲ人工的ニ地上或ハ地下ニ於テ淡水ニ溶カシタル飽和ニ近い濃厚ナ液ヲ世界ノ煎煮場ノ大部分ハコノ種ノ鹹水ヨリ生産サレル

6

欧米ニ於テハ曹達工業ノ塩ハコノ種ノ鹹水ヲ直接供給サレル處モアルモ界デ最も有名ナハ英國ノ「チェシャ地方」(Cheshire)ニアル

3. 湖水鹹水 湖水ハ多量ノ塩分ヲ含有シコレヲ自然的又ハ人工的ニ濃縮シ塩ヲシクルデアル 湖水鹹水ノ多クハ加里或曹達ヲ生産スルニ用ヒラレルガ食塩ヲシクルニモ又用ヒラレル 其ノ主ナルモノハ美國ノ湖塩 (salt lake) 及「スパイン」ノ「トレヴィス」(Trevise) 及死海ト滿洲ノ湖塩デアル

5

第二節 鹹水ノ性質

1. 溶解度 塩ノ水ニ対スル溶解性ハ溫度ノ上昇トトモニホルガ其ノ度食ハシ僅ナリ又含有量ノ増加ト共ニ沸騰点ハ上昇シ氷点ハ降下スル

2. 容積ノ変化 溫度ガ上昇スレバ容積ハ増加シ溫度ガ降下スレバ容積モ減ズル

3. 鹹水ノ持溫性 コレハ含塩量ノ増加トトモニ減少スル即濃厚ナレバ熱容量ハ少ナクナリ即チ僅カノ熱量ニテアタタメラレル

4. 鹹水ノ熱傳導度 鹹水ノ熱傳導度ハ含有塩量ニ正比例スル

5. 鹹水ノ蒸發力 鹹水ノ蒸發力ハ塩分が増加スルト共ニ減少スル但シ蒸

發力トハ一定時間ニ於テ一定ノ溫度ノ下ニ海水ヨリ蒸發シタル分量ト同一

状態ニ於テ蒸溜水ヨリ蒸發スヘキ水分量ノ比ヲ云フノデアル

今蒸溜水ヲ一トスレバ

五%ヲフクモノハ 〇.八二六八

一〇% " 〇.七七八〇

一五% " 〇.七〇四四

二〇% " 〇.六五八三

二五% " 〇.六四二九

6. 鹹水濃度ト含塩量トノ間ニハ一定ノ式アリ

攝氏十八度ニ於テハ $S = 1 + 0.00754P$

右ノ式ニ於テ S 比重量 P パーセント

第三章 塩

第一節 塩ノ語源

塩ハ英語デ *salt*、佛語デ *sel*、独逸語デ *salz*、ト云ヒ何レモラテン語ノ *salis* ヨリ分岐セルモノデ元々ハ *salum* (海)ノ名ヨリ來タトノ話デアル。

第二節 人體ニ対シ食塩ノ必要ナル所以

独逸ノブンゲ氏(Bunge)ノ説ニ依ルバ人體ニ磷酸カルシウム又ハ枸橼酸加里トシテ十八瓦ヅツ体内ニ攝取シタラ体内カラ六瓦ノ食塩ト二瓦ノ酸化曹達ヲ排出シタ事ニ依リ加里ハ人體カラナトリウムノ排泄ヲ促ストノ事ヲ断定シタ。即チ加里ヲ攝リタルタメ体内ノ塩化ナトリウムハ $\text{Na}_2\text{CO}_3 + 2\text{NaCl} \parallel \text{Na}_2\text{CO}_3 + 2\text{NaCl}$ トナルデアアル。米、野菜等ノ菜食ヲナス人ノ食物中ニハ多量ノ加里ヲ含ムタメコノ

10.

加里ノタメ塩化ナトリウムノナトリウム丈ケガ排泄サレル。從テ体内ニナトリウムノ不足ヲ來スタメ人ハ食塩ヲ攝ル事が必要デアル。

コノ説ニ対シ「ラピック」氏(Lapicque)ハ之ニ又對シテ或黑人ノ中植物性ノモノヲ攝ルニカ、ハラズ食塩ヲトル事ナク生存シテイルモノガアルト稱ヘタ。之ニ對シ「ブンゲ」氏ハ之ヲ説明シテソノ「ラピック」氏ノ云フ黑人ハ生レテラニシテ塩ヲ知ラヌデ、之ヲ知ツタラ喜ンデ之ヲ攝ツタデアラウ。實際ノ調査デハ塩ハトラヌガ塩ヲ含ム一種ノ灰ヲ常食トシテイタ。

以上ノ如ク食塩ハ人類生活上ニ必要缺ク可ラザルモノデアル。

尚体内デハ $\text{NaCl} \rightarrow \text{Na}_2\text{CO}_3 + \text{HCl}$ トナリ、 HCl (塩酸)ハ胃ニハ分泌サレル。

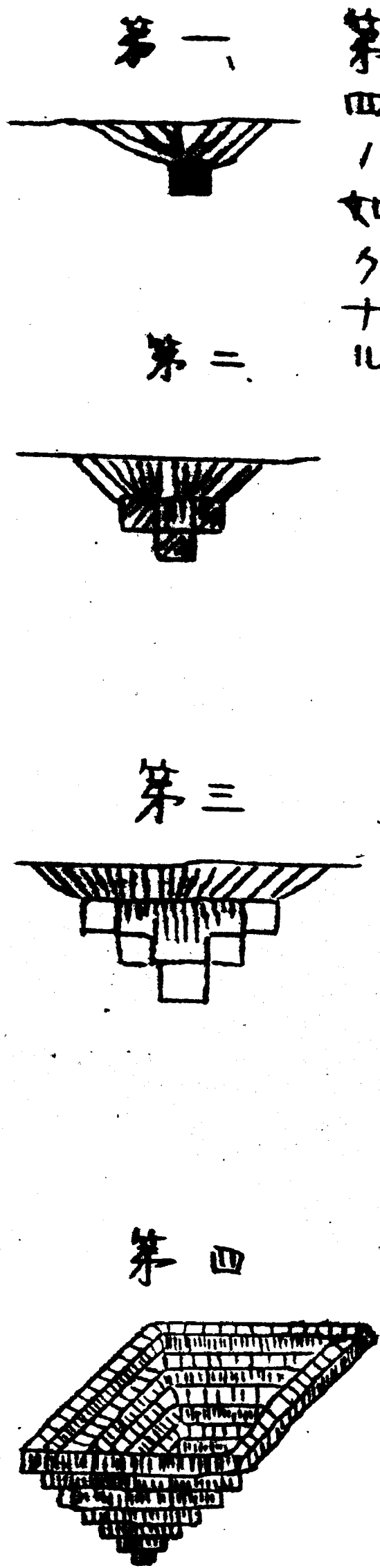
古代ノローマ、ギリシヤニ於テハ動物ヲ神ニ供ヘルトキ塩ハ一諸ニ供ヘヌガ植物ヲ供ヘルトキハ必ず塩ヲ之ニソヘタノハ以上ノ理由カラ來ルモノデア

ハ十カラウカ。アラビヤ人ハ塩トパンヲ以テ人ヲ歡待スル唯一ノ御馳走トシヌハ食塩ヲ散布シ互ニ之ヲ食シテ兄弟ノ契トナスト云フ。又ローム人ハ食卓デハ塩ガ覆ヘルノヲ非常ナ凶事ノ前徴トシ、食卓ノ塩ノ番ニ非常ナ注意ヲ拂フト云フ。又ヌマトリノ土人ハ裁判上
Das meine Crünte wackeln, mein Vieh sterben und ich nie Salz gemessen möge, Wenn ich nicht die Wahrheit sage.
 「私が眞實ヲ云ハナイナラバ、私ノ財宝ヲ放棄シ、私ノ家畜ヲ殺シ、塩ヲ絶メデアラウ。」ト云フ言葉ヲ誓フノ言葉トシテイル。カク重大ナ意味ヲモツカラ月給ヲ *Salary* ト云フ、モリノ *Salt* カラ來タ必要可ク可ラズト云フ意味デハ十カラウカ。

第三節 食塩ノ物理的性質

(A) 食塩ノ結晶ノ散子

食塩ノ結晶ハ散子ノヤウナ立方体デ、結晶ハ等軸晶系ニ属スルガ時ニハ滿斗狀ノ結晶ヲモナス。之ニ關スル「メンデルフ」氏 *Mendeleff* ノ説ニ依レバ食塩ノ溶液ヲ上部ヨリ靜ニ熱セバ上部ヨリ蒸發作用起リ上部ハ下部即チ冷タキ部分ヨリ先ニ飽和狀態トナリ結晶ハ表面ヨリ起ル。第一番ニ析出スル結晶ハ水ニ浸油サレル迄ハ表面張力ニ依リ表面ニ浮游スルガ食塩ノ比重重キタメ結晶ハ一部液中ニ浸ツテユク。次ニ發生スル結晶ハ元ノ結晶ノ一側面ノミニツキ上側カラツク。カクシテ次ニ生ズル結晶ハ全ノ順序ニ由リ既ニ生ジタル結晶体ニ結合シテ、之ヲ繰返シ左圖第四ノ如クナル。



尚食塩ノ結晶ガ底ニ起ラズ表面カラ起ルコトニ就テノ同氏ノ説ニ依ルト

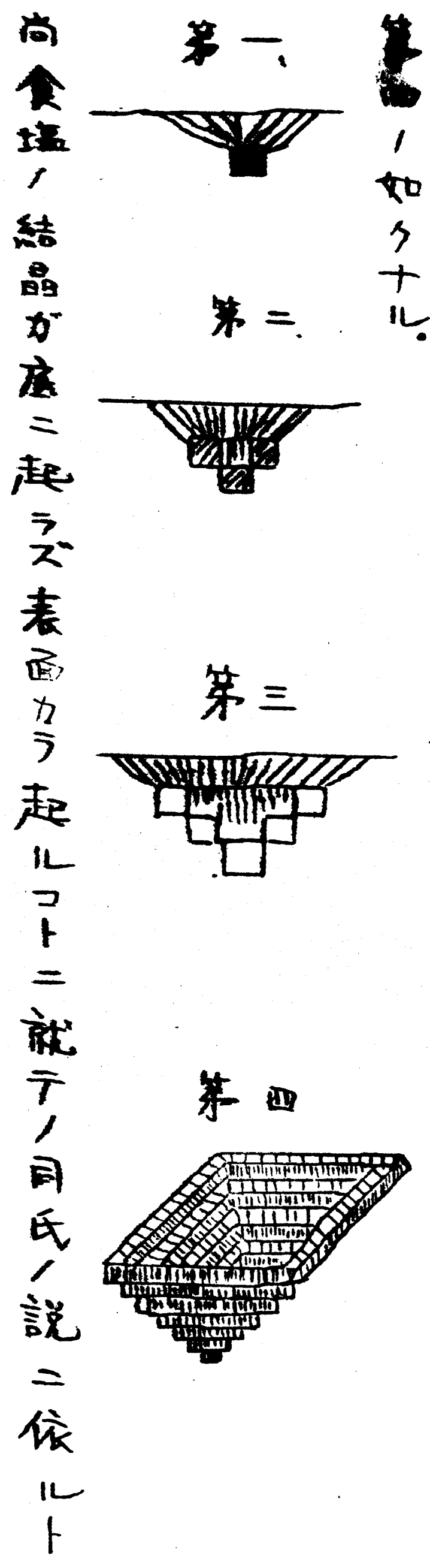
ハ十カラウカ。アラビア人ハ塩トパンヲ以テ人ヲ歡待スル唯一ノ御馳走トシ又ハ食塩ヲ散布シ互ニ之ヲ食シテ兄弟ノ契トナスト云フ。又ローム人ハ食卓デハ塩ガ覆ヘルノヲ非常ト凶事ノ前徴トシ、食卓ノ塩ノ器ニ非常ト注意ヲ拂フト云フ。又スマトラノ土人ハ裁判上
Das meine Günte werden, mein Vieh stecken und ich nie Salz genießen möge, wenn ich nicht die Wahrheit sage.
 「私が眞實ヲ云ハナイラバ、私ノ財産ヲ放棄シ、私ノ家畜ヲ殺シ、塩モ絶マデアラウ。」ト云フ言葉ヲ誓フノ言葉トシテイル。カク重大ナ意味ヲモツカラ月給ヲ *Salary* ト云フモノ、*Salt* カラ來タ必要可クアラズト云フ意味デハナカラウカ。

// 12
 同し物

第三節 食塩ノ物理的性質

(A) 食塩ノ結晶ノ散子

食塩ノ結晶ハ散子ノヤウナ立方体デ、結晶ハ等軸晶系ニ属スルガ時ニハ漏斗狀ノ結晶ヲモナス。之ニ関スル「メンデレフ」氏 *Mendeleff* ノ説ニ依レバ食塩ノ溶液ヲ上部ヨリ靜ニ熱セバ上部ヨリ蒸發作用起リ上部ハ下部即チ冷タキ部分ヨリ先ニ飽和狀態トナリ結晶ハ表面ヨリ起ル。第一番ニ析出スル結晶ハ水ニ浸油サレル迄ハ表面張力ニ依リ表面ニ浮游スルガ食塩ノ比重重キタメ結晶ハ一部液中ニ浸ツテユク。次ニ發生スル結晶ハ元ノ結晶ノ一側面ノミニツキ上側カラツク。カクシテ次ニ生ズル結晶ハ全ノ順序ニ由リ既ニ生ジタル結晶体ニ結合シテ、之ヲ繰返シ左圖



食塩ノ結晶ノ比重

二、一六

一五度(攝氏温度)ニ於ケル食塩飽和溶液比重

一、二、三〇 二六五%

二五度

シ

シ

一、二、〇四 二六七%

即チ高温ニテ飽和サレル溶液ハヨリ多クノ食塩ヲ含ムニカ、ハラズ比重が輕イカラ表面ニ浮ブ。依テ表面カラ塩が結晶スル之ハ食塩丈ケデ他ノモノハ之ト違ヒ温度上ルニツレ比重ハ輕クナル割合ニ中ニ含マレル物質ノ溶解度高マルタノ結晶スル事がデキズ表面結晶ガデキヌ。コノ時ハ飽和溶液ハ下ニ下リ下ヨリ結晶スル。

(B) 食塩ノ溶解度

食塩ハ水ト湯ニハ溶ケル。然シアルコールニハ僅ニ溶ケエーテル、油ニハ絶対ニ溶ケヌ。食塩ハ他ノ溶解スル塩類殊ニ硫酸マグネシウム、硫酸ナトリウム、塩化マグネシウム等ヲ含ム液ニハ溶解度著ルシク減少スル。故ニ飽和溶液中ニ苦汁ヌハ塩酸ヲ加エルト食塩ハ析出スル。

13

14

食塩ハ水ニ溶解スル性質アルモノノ溶液ハ一般ノ物質ト異リフツウノ物質ハ冷水ヨリ温水ニヨク溶ケルガ食塩ハ少し異リ殆ンド温度ニヨル影響ナク零度ニ於テ三五%溶解スルノニ百度ニ於テモ三九%ヲ溶解スル如クソノ差ハ少ナイ。

食塩ヲ水ニ溶カストソノ溶液ノ沸点上昇シ、之ニ又シ氷点上降下スル。此ノ性質ヲ利用シる百度以上ノ温度ヲ得ルトキコノ溶液ヲ利用シ、普通鑛詰ヲ煮ルトキ之ヲ利用ス。又塩ハ氷ト混合セバ寒冷清トナリ、氷ニ塩ニ混スレバ零下二十一度迄下ル。氷ニ塩ヲ加ヘ寒冷清ヲ得ルトキ食塩ニ氷ヲ加ヘタ方が温度降下ノ度ハ少ナイ。コトキ生ズル氷ハソノ中ニ含ム食塩少量ナレタメコノ理ヲ応用シテ凍結採鹹ヲナス。

食塩ハ氷ノ熔融ヲ促ス性質ガアル。氷塊上ニ大粒塩ヲ散布スルト塩粒ノフシタ所ニ小サナ穴ガデキトケル。ソノ溶解水ノタメ塩モ又溶ケル。之ヲ応用シテ昔バリトデ道路上ニ降ワタ雪ヲ除カントクワダテタルニ寒冷清ヲ生ジタ

ルタノ寒気強クナリ路上ヲ人ガ行クニ耐エラレナカクタト云フ。
(C) 結晶水

明礬ノ如キハ結晶ノ際結晶水ヲ含ムガ食塩ハ之ヲ有セズ。只結晶ト結晶トノ間ニ水分ヲ含ニデイルノ際結晶水デハナイ。故ニ食塩ヲ火中ニ投ズルト夾ミタル水ガ蒸氣トナルタノ結晶体ハ破壊サレル。只絶対ニ結晶水ヲ含マヌカト云ヘバ例外ハアツテ零下十五乃至二十度ニ飽和鹹水ヲ放置スルトニ分子乃至四分子ノ結晶水ヲ含ム結晶 $\text{NaCl} \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ 及 $\text{NaCl} \cdot 4\text{H}_2\text{O}$ トナル事ガアリシハフツツノ食塩ノ結晶ト異ナリ六角形ノ板狀ノ結晶ヲナス。

(D) 比重

食塩ノ比重ハ二、〇七八、二二五〇、二二四五、二二六〇トノ説ガアリ確定セズ。比重ハ温度ニ依リ異ナルガボーノノ比重ハ粗末ナモノデアルカラソノ差異ハ認めラレヌ。比重計ハ一種ノ浮秤デ硝子管ニシテ下部ニ重リヲツケ上部ニ目盛ヲ施ス。之ヲ水中ニ直立シテ管ノ上端ニ至ル迄水中ニ沈下サセソノ水

準矣ヲ零トス。食塩十五ト水八五ヲ加エタルトキノモノヲ十五ノ目盛トシテ零ヨリ十五ト同ジ距離ニ三十ノ目盛ヲナス。故ニボーノ十度トハ食塩十ノヲ含ム事デアル。

比重計使用ノ注意ハ水中ニ之ヲ無理ニ入レト事ハサケネバナラヌ。之ニツイタ水ノ重量丈ケテ正確トナル。又比重計ノ見方ハ正確アルガ上部デ見ルガ正確ト思ハレル。

ゲールラッハ *Geilbach* ノ食塩溶液ノ比重ハ次ノ如シ。

塩化曹達ノ重量百分比	一五度(二)ニオケル比重	塩化曹達ノ重量百分比	一五度(二)ニオケル比重
Be' 一度	一、〇〇六	Be' 六度	一、〇四四
Be' 二 "	一、〇一四	Be' 七 "	一、〇五一
Be' 三 "	一、〇二二	Be' 八 "	一、〇五九
Be' 四 "	一、〇二九	Be' 九 "	一、〇六一
Be' 五 "	一、〇三六	Be' 十 "	一、〇七三

出 産 地 別 産 量	0.0030	0.1172	1.7488	27.1074	0.6242	0.1532	0.2224	29.9762
出 産 地 別 産 量	+	+	+	+	+	+	+	+
出 産 地 別 産 量				2.5885	1.8545	3.164	0.3300	0.5339
出 産 地 別 産 量								8.4777

海水ノ母氏三十度ヨリ三十五度迄ニ濃縮サレタトキノ成分表左ノ如シ

	比重 1.264 (母氏比重 30°)	比重 1.320 (母氏比重 35°)
	100g中	100g中
硫酸苦土	6.231	7.876
塩化苦土	8.041	10.160
塩化加里	1.449	1.832
氯化曹達	1.161	1.472
塩化曹達	16.830	242.80
總計	33.712	420.20
		39.619
		522.93

第五節 世界ノ塩ノ生産額表

一九一九—一九二三年ノ統計ニヨルト世界ノ總生産高ハ二千万ト

デアッタガ一九二九—一九三二年デ二千七百万トナリテイル

世界各地ノ生産高次ノ如シ

北米合衆國	六六二、三〇〇、〇〇〇 吨	其他諸國	九〇、四〇〇、〇〇〇 吨
独逸	三〇七、〇〇〇、〇〇〇 〃	總計	二、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇 〃
露西亞	二四八、三〇〇、〇〇〇 〃		
フランス	二〇七、三〇〇、〇〇〇 〃		
支那	二〇〇、八〇〇、〇〇〇 〃		
英國	一九二、二〇〇、〇〇〇 〃		
英領印度	一七八、〇〇〇、〇〇〇 〃		
日本	一一一、九〇〇、〇〇〇 〃		
スペイン	九八、七〇〇、〇〇〇 〃		

第四章 製塩法

第一節 世界ノ製塩法

世界各國ニ於テ現時最モ盛ニ行ハレテ居ルモノヲ大別スレバ次ノ如シ、

1. 天日製塩法

2. 岩塩採掘製塩法

3. 煎煮製塩法

4. 日本製塩法

天日製塩法

コレハ全ク太陽熱ニヨリ海水或鹹水ヲ濃縮シテ塩ヲシクル方法デ降水量少ナキ暖國支那南洋、印度、埃及、米國、伊太利、スペイン、ブラジル、西印度諸島ニ行ハレル

元來海水ヨリ食塩ヲシタラントスルニハ先九〇%以上ノ水分ヲ蒸発スルヲ

21

22

要シコレガ爲ニハ多量ノ熱量ヲ要スルコトハ明カナリ天日製塩法ハ他ノ製塩法ト異ナリ安價ナル太陽熱ヲ利用スルカラ生産費が極メテ低廉デアリコレニ匹敵シ得ルハ岩塩ノ製塩法ノミデアル今日ノ國際狀勢ヨリ見レバ天日製塩法ハ國際商品トシテ唯一ノ方法デアル此ノ方法ヲ「ソーラーソルト」(solar salt)ト稱スルハ太陽熱ヲ利用スルコトヨリ起リタリソーラーソルトハ海水ヨリ得タルモノト岩塩ノ溶解水ノ鹹水ヨリ得タルモノトヲ區別スル爲メ「バーソルト」(key salt)ト稱スルコトアリヨシテ天日製塩法ノ成立スル要素トスルハ氣候が乾燥シテ年々少ナキコト風浪ノ少ナキ灣内ニアルト土壤が水ヲ滲透セヌコト等ノ地形氣象ニヨリテ支配サレモノナルヲモシテモ世界各國ニ於テ其ノ風土ニ適合スルヨウニ出來テ居ル歐洲式ハ米國式ト異ナリ台灣ト關東州ト異ナルが如シ

朝鮮天日製塩法

朝鮮ニ於テハ古來其ノ消費スル塩ハ専ラ朝鮮沿岸各地ニ於テ製造スル煎熬塩ヲ以テ充テシタリ元來朝鮮ノ煎熬塩ハ其ノ方法幼稚ニシテ勞力燃料ヲ要スルコト多ク生産費ノ高價ナルヲ免カズ故ニ明治三十五六年頃ヨリ漸次安價ナル支那天日塩ノ輸入ヲ訪ヒ逐年其ノ數量ヲ増加セリヨシテ時ノ政府ハ明治四十年度尙南道龍湖ニ於テ在來法ノ改善ヲ研究スルト同時ニ朱安ニ於テ天日塩ノ試験ヲセシメ其ノ食塩トシテ頗ル良好ニシテ品質ニ生産費等ニ於テ輸入塩ニ對抗シ得ルニ及ビ在來煎熬塩ノ改良ハ不成巧ナリキヨシテ朝鮮ノ正貨ノ流出ヲ防止シ政府ノ財源ヲ資スルト共ニ國民生活上ノ必需品タル食塩ノ自給自足ヲ圖アルヲ以テ急務トシ官營場ノ下ニ次々如キ塩田ノ築造ヲ見タリ

第一期計畫(明治四十二年ヨリ大正元年ニ至ル)



玄梁勇 朱安 計
七七〇町歩 八五町歩 八五五町歩

第二期計畫(大正六年ヨリ大正九年ニ至ル)

徳洞 朱安 計
二二三町歩 二三四町歩 三四七町歩

以上増築シタル其ノ生産ヲ以テスルモ未ダ鮮内ノ需要ニ及バザルコト遠キニヨリ大正九年後七ヶ年繼續事業トシテ貴城南市・南洞・君子ニ二千六百町歩ヲ拡張スルコトニテ内二千三百四十町歩ヲ竣工シタル後餘ノ面積ハ帝都ノ大震災ヨリ公債事業削減ノ爲中止ノ已ムナキニ至レリ

第三期計畫(昭和八年ヨリ昭和十二年ニ至ル予定)

貴城 蘇來 貴城 蘇來 南市 蘇來 計
五〇七町歩 一四〇町歩 五三二町歩 二六町歩 二六六町歩 一九三町歩 八五五町歩

殘餘ノ三四六町歩ハ昭和十一年度ヨリ徳洞並ニ貴城ニ移築シ本計畫實施ノ時ニハ大体ニオイテ自給自足ノ目的ガ達セラルベシ

第二節 欧米ノ天日製塩法

欧米ニ於ケル天日塩ノ産地ヲ要テズレバ次ノ如シ

地中海沿岸地方

スペイン、サンカロス、アリカンテ、マサロン、サンペトロデル、ピナタール

アルメニヤ、エピザ島、ホルメンテラ島

フランス、イエール、マルチーグ、ベール、ジロウ、バシケ、モンペリエ、セシト

ギリヤン

イタリー、ピラノ、コマキオ、セルビヤ、マーゲリッタ、ヂサビラヤ、タルキ

ニヤ、エルバ島、サンペートロ島、サルヂヤ島、シシリ島

ユーゴスラヴィヤ、スタグノ、アルベ、パコ

25

26

大西洋沿岸地方

ギリシヤ、リウス、ミノロンギ、ローリウムクレニテ島

イスパニヤ、カデス、サンフェルナンド

ポルトガル、ペホー、セチバル、フギッテ、アベエーロ、オホルト、ビアンナ

フランス、バイオンナ、アルカション、トランブラード、マレンヌ、オレロン島

サールブル、フアーッ、プロアネシク

太平洋沿岸地方

北米、アルバード、マウントエデン、ロングビーチ、サンタゴ、ニュナ

ーク、サニマテオ、レシド、ウエシトシナイ、モンテレー、ハワイ

メキシコ沿岸地方

エンシダナ、マンサニホ、ケハニテペシク

紅海沿岸地方

ソマリーランド、エリトリヤ、アデン

右ハ海水ヲ原料トセルモノナリ スパイニトレピアシハニハ
湖底ニ沈メル塩ヲ定期的ニトル又北米ノ湖塩ニハコノ湖水ヲ原
料トシテ普通ノ天日法ヲナス シラキウスニハ自然鹹水ヲ汲ニゲ
テ本製ノ蒸發槽ニテ天日製塩ヲナシモ工業的ニハ有名ナ
ガ今ハ荒廢ニ歸セリ

ロシア地方

西部ノエルトン湖、バスリンチヤツク湖
ルーマニヤ、ブルガリヤノ黒海ニ近キ湖地方ニハアハリ天日デ湖水
ヲ利用シテ採塩ヲナス

第三節 欧米天日塩田所在地、地勢

27

塩田所在地、多クハ北緯多ク原野カ海岸カ湾内ニアリ附近ニハ山嶺ト称ス
ベキモノナク朝鮮地方ノ塩田トハ其ノ趣ヲ異ニス殊ニ地中海ハ恐ラクハ昔ハ海ナ

28

リシモノガ地殼ノ隆起又ハ陷没ニテデキタコトハ目撃者ノ感ズルトコロデアル
ノノ最モ標準ノモノハトレピアシハ地方ナリコノ地方ハアフリカノ沙漠地方カラ來
ル乾燥セル風ニアタルカラ天然ノ絶好ノ塩田ノ所在地ナリ
塩田地方ハ内地、朝鮮ト異ナリ耕地ハナク大抵ハ広イ野原デ其ノ附近ニ
生ズル植物ハ野草ニアラザバ一年生ノ小サイ灌木デシカモ塩ニ耐ヘル特殊ノ
植物デアール 伊次利ノタルキミヤ、佛蘭西ノセシト塩田地方ニハライマツガ作
ラレルガ之ハ稀ニ見ルモデ「シシリ」島ノ如キハ極メテ土地ヤセ地下ニニハハ山
盤デホハ茂ラヌ スマイニノ「トレヴィア」地方ノ如キハ貧弱ナル「オリ」ゾラ處々
ニ見ルノミデアール

第五章 塩田、構造

第一節 朝鮮、天日塩田、構造

朝鮮、天日塩田、構造ハ高地式ト低地式ニ分ケ、各々ヲ流下式ト複上式ニ分ケル
高地式ト低地式、利害ヲ見ルニ高地式ハ地田地盤ガ高地位ニアル
タメニ排水関係容易ニシテ通風ヨク塩、結晶ガ良イ且ツ又
外廊堤防低ク且ツ小サキ断面積ヲ以テ足リル故ニ築造費
ガ著シクサ即約セラル、極論スレバ外廊堤防ハ簡單ナ土堤ニ
テ足リ、タマタマ龍巻ハレル海潮被害ニ対シテ其、復舊ガ容
易ナルニヨリ民間又ハ個人會社トシテハ最も適合セル塩田築造法
ト稱シテモヨイ

29

30

但シ海水ノ揚水費ヲ要スル事ノ不利ナル莫ハアルガ其ノ費用
極メテ僅カニシテ低地式塩田ノ修膳費ニ比スルト殆んど數
ヘルニ足リヌ
又塩田内部ノ構造並ビニ製塩方法ニ就イテハ省略スル

第二節 欧米、天日塩田、構造

(A) 貯水池

單ニ地ヲ掘リ起シタトイフニスギヌ粗末ノモデルアル
スヘイン、ノカザス、カンフルナンド、塩田ニハ池トシナイデ
ヂツクザツクニ中四乃至五米溝ヲ不規則ニ作ル
原料タル海水ハ羊腸式ノ溝ヲ延々蒸発シテカラ流動シツ
蒸発シ結晶池ニ至ル
即蒸発池兼貯水池ナリ

通商船ハ極メタルニシテ、
津本ガアリンノ鐵線セル根ニエ、崩壊ヲ防リ

件、南西部、南部、北米カリフォルニア地方、塩田ハスペイント異
リ稍々規則正シク出来ル

干満ノ差ハ所ニヨリ異ナルガ

伊太利	タルキニヤ	〇・五米
スペイン	カヂス	五米
北米合衆國	カリフォルニア	六呎

(B) 蒸発池

段數ハ極メテ少ク、歐洲ハ二三至三段、米國ハ五至七段、一格ノ面積
ハ極メテ大ナリ、畦畔ハ中廣ク且ツ高ク、道路ヲ兼用スル蒸発池ノ
落差ハ四・五寸位ナリ

水深ハ歐洲デハ一・五ノ二〇、米國デハ六寸、一般ニ「ライムホンド」
ト稱スル深イ鹹水溜ノ如キモノヲ作り、結晶スル以前ニコレニ鹹
水ヲオトシテソコデ石灰塩類ヲ沈澱セシム

(C) 結晶池

結晶池ハ蒸発池ヨリ一般ニヒクイ所ニアリ、畦畔ハ土ヲ以テ固メ且ツ
コレニ木板ヲ張ルガ普通ナリ、米國ノ如キハ木板ニ代ヘルニ
泥山成ラ並ベテ畦畔ノ崩壊ヲ防グヲ見ル

結晶池ノ格ハ色々、アツテ併國ハ大キク、スペインハ極メテ小サク
十米平方カラ百米平方ノ如キモノアリ

米國ノ方ハ格ガ非常ニ大デ「エトカー」カラ四乃至五「エーカー」
マデノモノモアル

畦畔ハ一般ニ大テ通路ヲ兼用スルハ蒸発池ト同様ナリ

(D) 塩田ノ面積

歐洲ハ一ヶ所ニハ 1000 町歩位集マル
米國デハ 2000 町歩位ガ各所ニ散在ス

伊太利ノタルキニヤ「塩田デハ結晶池ニ一種ノ下等ノ植物ヲ栽培シテソノ地方デハ「フェルトロ」ト稱シ（佛蘭西デハ「フートル」ス。ペインデハ「フェートロ」）フェルトロハ結晶池ノ表面ニ密生シ粘土ガ塩ニ混入セズタメニ有効ナリ 従ツテ採取セル塩ハ色沢良好ナリ

コノ栽培法ハ五十六年目ニ結晶池ノ地盤ノ手入ヲサス時一畝且ヨク底ノ土ヲカタメテコレニ海水ヲハリテ~~池~~放置シテオイトセーハ度（ 10 ）ノ鹹水トナル頃「フェルトロ」芽ガ出ルコノ時鹹水ヲ排除シテコレヲ太陽ニサラン更ニ海水ヲハリテ前同様ニセーハ度（ 10 ）マデス 同様ナルコトヲ四十五廻繰返スト其ノ藻類

ハ密生シテ適有ナル厚サトナル。コノ表面ヲローラデ押シ付ケルカクシテ地底ニ約 2 ニ 3 耗ノ毛氈狀ノ盤ガ作ラレルコレハ表面ガ滑ラカテ結晶塩ハ容易ニ離レズタメニ鹹水ノ泥土ニ汚サレル憂ナリ良好ノ色ノ塩ガトレルコノタメニ藻類ガ鈍カト思ハレルガ藻類ヲ妨ゲルコトハ少ナイトイフ

第六章 採塩作業

第一節 歐洲ノ作業

三四目頃ヨリ塩田ノ作業ヲ初メコレハ朝鮮ト大差ナキモ塩田内ノ揚水ニハ風車或ハ螺旋式ノポンプヲ使用スル
結晶母液ハ繰返シテ使用スルカラ母液ハ次第ニ~~薄紫~~色ヲナス
薄紫色ノ原因ハ鹹水ノ稀薄ノ時ニ繁殖セル細菌ガ

濃度ノ高マルニシテ死滅セル殘骸ノタメアル

最後ノ苦汁ハ苦汁溜ニ入レルカ或ハ海中ニ捨テル

此ノ如クシテユーサ目頃トナルト結晶層ノ厚サハユー一〇櫃トナリ

コレヲ採取シテ貯塩場ニ集メ母液ノ滴下ヲマナテ塩台場ニ

フリズム形ニ堆積ス 雨が降ルト其ノ儘ウタセテオリ

シシリ島ノトラパニ塩田ニ於テハ堆積塩ヲ家根瓦デ被フ

トコロモアル

俾爾西ノバツツデハ泥ヲ以ッテ被ヒヲナシテ居タ

以上ノ堆積塩ハコレヲ洗滌シ或ハセラズシテ粉碎機ニカケラレル

カヂスノ塩田ノ如キハ粉碎機ハ運河ノスグ近クニ設ケテアリ

原塩ヲ粉細シツ直クニ船ニ積ム 俾爾ノセツトデハ塩田ノ

一隅ニアル貯塩場ニ粉碎機ヲ設ケ粉細セルモハ端カラ

トリテトロッコニ積ミ包裝場ニ送リ麻袋ニ包裝スル

生産額ハ大体一町歩當リ一〇一ニ万斤位生産シ最モ大

キナモノガ二〇万ニ達スル

第二節 米國ノ作業

主トシテカリフォルニアニテアル 四一五目頃塩田ヲ初メ貯水池ヨリノ

汲ミアゲハ風力、螺旋式揚水機、又ハ遠心カポンデ第一蒸

発池ニ送ル漲水ハユー一〇吋ニシテ七月中旬ニ結晶ノ厚サハ

六一八吋トナル八月頃コレヲ取り苦汁ハ苦汁工業ニ利用モスルガ

大抵ハコレヲ海ニ捨テル

標塩方法ハ人夫ガツルハシテ結晶層ヲ破壊シシヤベルニテ

貨車ニ積ミ移動式ノトラクター又ハガソリンカーニテ洗滌

工場ニ送ル

洗滌ハ地ヲ掘リU字形ノ木層ヲウツメタルモバテ長サ三〇

呎、厚サ二呎又深サ四呎ナリ

一方ヨリスクリーナーコンペアー」デ塩ヲ送り反対側ヨリ鹹水ヲ
 流シテ洗滌スル洗滌セラレタ塩ハバスケットコンペアー」デ母液ヲ
 タラシツツ上昇シ更ニ「ベルト」デ斜ニセ。乃至六〇呎ヲアゲテ
 塩堆場ニ落下セシム
 塩堆場、場、高サハ一山ガ教十呎トナルソノ塩ヲソノママ露天
 積ミトシ一部ハソノママ賣ルガ多クハトカシテ再製スル
 ロングビーチ」ノ工場デハ堆積塩ハ更ニ粉碎工場デローラー式
 ノ粉碎機ニカケテ粒形ニヨリ三種トナシコレヲ麻袋ニハレテ三
 種ノ塩ヲ販賣ス

米國ノ産額ハ次ノ如シ

一エーカー當リ――

二〇―二四噸

一町歩當リ――

七五〇〇―九〇〇〇斤

第七章 特殊天日製塩法

第一節 「スペイン」ニ於ケルモノ

「スペイン」ノ「トレビアッハ」ニハ他ニハ全ク見ラレヌ變ツタ稀シキ
 モノアリ即「トレビアッハ」ハ「スペイン」ノ南東部ニアリ、アリカント
 ノ南方也。料ニアリ人口一百万外ノ山都市ナリ一望廣漠ヲ
 ル原野ニシテ只所々ニ麥畑ヤオリブ」ガアル

コレモ近時栽培セラレタモノテソノ生育状態ハ不良ナリ

氣候ハ砂漠性ノモバテ熱乾ヲモヨホシ此處ノミナズ佛國ノ

南西「スペイン」ノ南東岸地方ハ一体ニ同様ナ感じガスル

汽車ノ窓ヨリコレヲ見ルト入江ニ沿フテ塩ガ海岸ノ砂ニ結晶シ

美シイ光ヲ放ツ免ニ角コノ地方ハ雨ノ多イ日本人カラ見ルト全ク

想像モ及バヌ。此處ニ「トレビアッハ」ト「マタ」トニツノ湖ガアル

コニツハ昔ハ海ナリシガ母侍カラハナレテ成立セル湖ナルコトハスグ
ワカルコノ中ニ入ル淡水ハナリ且ツ蒸発スルノミテアルカラ次第
ニ海水ハ濃縮セラレ塩ガ出来更ニ乾湖トナリタモノカラ塩ヲ取ツ
タガ初メナリ 現在ハ海ト湖トノ間ニ中五米、深サ二米ノ運
河ヲ開キ扉内ニヨリ海水ヲ取入レ其ノ扉内カラ又母液ヲ排除
ス湖ノ深サハ約二尺、深イ所デ三尺、塩ハ湖ノ底ニ沈澱スル
湖ノ大サハトレビアツハハ一タノ町歩、マタ湖ハ七〇町歩
位アリ前者ハ目下製塩ヲナスガマタ湖ハ余程遠レテ成立
セルモノナルガ末ダ製塩ヲ初メルニ至ラズ目下ハ乾燥シテオリ
湖ノ中央ノミニ鹹水ガアリ湖ノ邊カラ數百米ハ一面ノ結晶デ
アリ壯觀ナリ

海水ノ蒸発作用ハ年中^ニ繼續シテオリ海水ノ濃度ハ三・五度
(ベ)デアルガ夏ハ毎日秋冬ハ月ニ二三回ニ運河ヲ通ジテ商賣
アリ

量、又海水ヲ導入ス

結晶セル塩ハ湖ノ底ニ沈澱シ鹹水ハ次第ニピンク色トナリ
一月末トナルト塩ノ層ガ五・六厘米トナルコノ時ニ一時ニ千
數百人ノ人夫ヲヤトヒテ採塩ヲナシ十一月ノ末又ハ十二月初
メマデ採塩ヲナスコノモノハ洗滌工場マデ舟デ運ビソコデ
洗滌スル洗滌ハ飽和鹹水デ洗滌シ「バスケットコンベアー」デ
採取サレ塩堆場ニ積マレル粉砕法ハローラー式ガ最も
タイ

塩堆場ノ上層ヘハトロツコデ運搬ス塩堆場ノ大サハ高サ
一五米ニレテ中十五米、長ニ〇一五〇米ナリ

塩ノ種類 トレハ

ゲルエサ……コノママデ賣ル塩

サラソソ……粉砕シテ大キイモノ

ホルメントウ……粉砕シテ中ナルモノ

セ……粉砕シテ小ナルモノ

主トシテ漁業用塩

コリエントー微粒塩ー台所用

此ノ中日本ニ輸入セラレハ「サラソニ」ナリ

第二節 米國ニ於ケルモノ

湖塩 (Salt Lake)

北米「ロッキーマウンテン」シラネバタ「山脈」南ニサマレタ「ユタ州」ニアリ高原ニシテ海拔四〇〇呎世界有名ナル大鹹湖ニシテ東西四十五哩南北七十五哩面積二四〇〇平方哩デアル即琵琶湖ノ約九倍ナリ

湖ノ南方一〇哩ノ所ニ「ユタ州」首府 Salt Lake City ガアル人口約十二万人、コノ湖ノ沿岸ハ一年生ノ灌木ガアリ

41

42

農業的ニ何等利ナク牧場アリ飛行場ガアル湖水ハ鹹度ガ強ク所ニヨリ異ナルガ一エーセ度 (Be) 時ニハ二十二度 (Be) ノ所モアル從ツテ海水ノ浮カハ非常ニ大ニシテ人甬ハアダカモ「コルク」ノ如ク浮ビ溺死ハ出来ヌ

コノ湖ニハ遊覽客ガ多ク水泳ニ適スルガ濃度ガ高イタメニ速カガ出ズ目ガ痛ムトイフ

コノ湖ハ高原ナルヲ以テ日中ハ可成暑イガ朝晩ハ涼シク避暑地トシテ禁ヘルコノ湖ヲ廻ツテ数ヶ所ニ製塩所ガアリ其

有名ナルモノハ「モントル製塩会社」「エンラント製塩會社」ガアル

塩田ハ蒸発池ト結晶池トアリ貯水池ハ湖全体ナリ湖ノ鹹水ハポンプデ汲ミ上げ長イ木樋ヲ通過シテ

石灰池 (lime pond)

ニ入り五、六ヶ日放置シテ蒸発池ニ送り水深ハ七一
呎デアリ一〇日内外デ飽和トシコレヲ結晶池ニ入レル
結晶池ハ塩層ヲ以テ地底ヲ作り毎年ソノ表面ニ結晶
スル塩ハ深ハ六呎トイワレル、コノ塩田デトレル収量ハ
毎年一町歩約二十万斤ニ相當ス

結晶母液ハ再ビ湖ニ入レテコレヲ利用セヌ結晶塩ハ
コレヲ工場ニ送り粉碎シ竹節ヒ分ケ各種ノ粒形ノ塩ヲ
作ル

ソルトレークノ鹹水ハ異性質非常ニ良好ニシテ同シ塩湖
デ有名ナル死海、裏海、エルトン湖ト比較ニナラス

死海ハ固形物ニ十二%デソノ中塩化曹達ハ八%、大部分ハ「マグ
ネシウム」塩ナリ、「エルトン」湖ハ固形物ニ六%デ塩化曹達ハ一二%
ナリ「ソルトレーク」ハ固形物少ナク一五%ナルモノ、中一塩化曹

43
43

44
44

達ハ八五%ナリ。

硫酸石灰、塩化マグネシウムノ含有量ハ少ナクタメニ製塩上
鹹水ヨリハハルカニ良イ結果ナリ

「ソルトレーク」一五%中ノ割合ハ次ノ如シ

NaCl	KCl	MgCl	MgSO ₄	CaSO ₄	Total
13.22%	0.47	0.62	1.25	0.11	15.67

此ノ如ク良好ナル鹹水中ニ含有セラレル塩化曹達ノ量ヲ
計算スルト約四億噸アルトイフ

ユノ湖ガ「ソルト」今日日本現在ノ需要ハ四百年間ハ
足リル

(日本現在ノ需要ハ百万噸ナリ)

第三節 各地天日塩ノ代表的分析例

CaCO_3 CaSO_4 CaCl_2 MgSO_4 MgCl_2 NaSO_4 KCl NaCl insoluble H_2O

サルキニヤ(伊)	0	0.62	-	0.09	0.05	-	0.08	98.79	0.01	0.80
トラハニ(伊)	0.03	0.74	-	1.29	1.07	-	-	91.59	0.11	5.16
セツト(伊)	-	0.70	-	0.01	0.27	-	0.09	97.57	0.12	0.73
トヒエツハ(西)	-	0.11	-	0.02	0.16	-	-	96.72	0.02	2.64
カヅス(三)	-	0.68	-	1.61	1.22	-	0.58	86.79	0.01	8.43
ユ(米) (Salt Lake)	-	0.49	0.02	-	0.12	0.15	-	99.14	0.02	0.08
Salt Lake	-	0.29	0.01	-	0.07	0.05	-	99.53	0.01	0.04

一般ニ天日塩ニテハ風力が強ク水深が浅ケレバ

45

46

結晶塩ハ透明度が低ク柔ラカイ 反之風力弱ク

水深深ケレバ結晶塩ハ透明度高ク結晶が堅イ力

一般ニ通性ナリ

第八章 日本外地ノ塩業

第一節 關東州

關東州ノ塩田面積ヲアゲバナルニ

地名	邦人土鹽田		在來支人土鹽田		計	
	昭7 現在	昭10 現在	昭7 現在	昭10 現在	昭7	昭10
旅順管内	985.97	1102.42	145.74	139.97	1131.51	1242.39
大連 "	39.17	39.17	4.13	4.13	43.30	43.50
金州 "	-	-	81.50	81.50	81.50	81.50
普蘭店 "	2720.53	3380.93	123.09	125.11	2843.62	3506.04
總計	2421.03	3262.55	542.73	517.42	2963.76	3779.97
合計	6166.56	7785.07	897.19	868.13	7063.69	8653.20

48 以上ノ外試驗鹽田

旅順 ----- 二九町五反
大房身 ----- 一〇九町 ----- 政府直屬

關東州ノ産額ハ次ノ如シ

年度	邦人	支人	計
昭7	298,994.840↑	76,350.600↑	375,145.440↑
" 8	382,831.416	102,451.680	485,283.096
" 9	339,322.080	96,355.160	415,677.240
" 10	727,422.300	145,593.180	843,015.480

分析例

塩、産類	水分	灰分雜物	塩化曹産	分析者
上等天日塩	6.80	5.30	87.90	大藏省事務局
並等" " "	6.99	5.72	87.29	同上
特殊結晶塩	2.90	2.64	94.46	同上
再生塩	5.90	2.78	91.32	同上
洗糸塩	4.25	1.90	93.85	南興産業分析
粉砕塩	1.90	1.48	96.62	同上

49

第二節 台湾

50

塩田面積次ノ如シ

管内	昭和七年	昭和十年	(甲比町)
鹿港	301,452.2	275,008.5	
布袋	772,689.0	769,549.0	
北門	453,011.3	450,819.1	
台南	298,482.0 (並起塩)	294,995.5 (並起塩)	
烏樹林	129,757.8	129,757.8	
計	1955,393.0 (並起塩)	1920,124.9 (並起塩)	

生産額ハ次ノ如シ

年度	天日塩	煎乾塩	合計
昭和7	10,525,067.3 [↑]	17,078,835 [↑]	122,329,508 [↑]
8	16,961,828.6	22,316,046	191,934,832
9	161,295,669	30,341,768	191,637,737
10	119,387,531	28,932,916	148,320,777

分析例 (昭和七年度)

種類	水分	灰雜物	塩化曹達
上野原産	7.42	3.97	88.61
井ノ口産	7.01	5.01	87.98
海産塩	3.71	3.00	93.21

51

52

第九章 岩 塩

第一節 岩塩採掘製塩法

岩塩ハ最も廣ク存在スル鉱物ニシテ地球上コレヲ抱擁セザルハ僅カニシテ欧米ニシテ末ダ岩塩産見セザルハ「スエデン」、「ホルウェイ」ナリ其ノ製塩法ハ岩塩ヲ採掘シ粉碎シ或ハユレニ直接精製法ヲナシテモ力或ハ淡水ヲ地中ニ注入シテコレヲトカシ或ハ地下水ニヨリテ自然ニトケタモヲ揚水シテ水分ヲ蒸発シテ生成スルモノニシテ如何ニ云々岩塩ガ全世界ニアリ人類生活上ニ重大ナル資源ヲ与ヘツツアルカハ敬告ノベキモノナリ

(A) 英國ノ「チェシャー」地方

此ノ地方ノ「ハウスウエッチ」ハ第一層ハ地下二三〇—一五〇呎ニシテ約七十一呎ノ岩塩ノ厚サガアル第二層ハ地下一六〇—三〇〇呎ニ

アリテ約一〇〇呎ノ厚サアリ

英口ノ岩塩ハ塩化曹達ハ約九六%アリテ化学的成分ハ良好ナルモ大クハ赤色ヲ帯ビ粉砕ノミニテハ一般ニ使用出来ズ故ニ殆んど飽和鹹水トシテ地上ニ出シ蒸発タニヨリナス

(B) 独乙

スタスフルト¹、²中ハトシテハンブルグ³市、マグデブルグ⁴市ガ有名ナリ後者ノ「グラスレーベン」⁵ノ炭坑ヲ見ルニ二〇〇—三〇〇呎以下ニシテ何等ノ生成法ヲナサズシテ粉砕セルノミニテ一般ノ使用トナル

スタスフルト¹ノ塩ハ世界的有名ナル岩塩坑ニシテ規模大ナルモ前記「グラスレーベン」⁵地方ノ如ク純粹ナラズシテ直接ノ用途トナラス

53

54

(C) オーストリア¹ノザルツブルグ²

此處ハ岩塩層ニ粘土ヲ混入スルヲ以テ淡水ヲ注入シテ岩塩ヲトカシ其ノ溶解水ヲ蒸発法ニヨリ製塩スル

(D) 併南西ノアルサスローレンス¹、シニール²、ハウセ³、メツツ⁴附近ニ生産スル

(E) スペイン¹ノバルセロナ²附近ニトレル

(F) ハンガリー¹ノウエリツカ²ニトレル

(G) ロシア¹ノ東南部ノオーレンベルグ²

(H) 米國、ミシガン州¹、ニューヨーク州²、カンサス州³、ルイジアナ州⁴、レトロイド⁵附近ノ岩塩ヲ見ルニ黒キ斑點アリ直接食用トハナラス専ラ化学工業用ニ用フ

第二節 岩塩探掘方法

岩塩坑ハ石灰坑ト同様デアルが異ナル所ハ坑内ニ水ノ出ルコトがサイ
瓦斯ノ危険ノ無イコト、岩盤高クシテ支柱ヲ要セナイコトが
異ナル其ノ他ハ殆ド同様也

代表的ナルハ米国ノ岩塩坑ニシテコレヲ見ルニ縦坑ヲ塩ノ層ノ最
底部マデ達セシメ其處カラ縦横ニ坑道ヲ作りサク岩機ニテ
穴ヲ掘リ「ダイナマイト」ヲカケ破壊シコレヲ電力自働シヤベル
ニテ坑道中ノ「トロツコ」ニ移シ数台ノ「トッコロ」ハ馬又ハロープニ
ヨリテ縦坑ノ側ニ送りコレヲ「エレベーター」ニヨリテ地表上数十尺
ノ最高ノ粉碎工場ニ引キアゲ自動鉄製ノ篩ニテフルヒ多
数ノ人夫ハ「ハンマー」ニテコレヲ碎キ落下セルモノハ更ニ下段ニ
粉碎篩ニカケ此ヲシテ四種ノ粉碎塩ヲ作ル

55

コレヲ木棉袋或ハ散塩ノママ「コンベアー」ニテ直接貨車ニ積ミ
コレヲ販賣スニ供ス

56

獨乙ニテハ縦坑ノ途中「デ」数段ニ横坑ヲ掘リ米國同様ノ
探掘法ヲナシ地下最底部ノ工場ニテ粉碎包裝シ製品
ヲ初メテ地表ニ引キ上ゲル方法ナリ

オ三節 日本ノ岩塩

我國ニ於テハ未ダ岩塩ハ発見セラレズ 嘗ツテ奥技師ト神保
博士ノ調査ニシテ日本ニハ生産セズト結論セラレシガ我
ニテモ塩泉ノ生産スルトヨリガ各所ニアル所ヨリ見ルトサズ
ヤ岩塩ハアルト見ラル

明治十一年農商務省ノ囑託トシテ扶國ノ塩業調査
ヲセシユルセル氏モ又日本國ハ幅員短カク岩塩ノ発見ハ

見ラレヌガ絶無トハ言ハレヌ其ノ形狀ガ日本ニ似タル伊国ノ
 フロレンス¹⁾附近ニ於テ之ヲ生産スルコトヲ以テ見レルナリ
 我國ニハ九州・四国・中国ノ南部ヨリ東京ニ産スル南ニハ岩鹽
 ノ発見ヲ見ラレヌガ中国ノ北部中部地方ニ於テ稍々²⁾コシガ
 産出³⁾シ望ミアリトイフ。

第四節 岩鹽ノ組成

此ニ就イテハ⁴⁾前述ノ独乙ノガラスレーベン⁵⁾ソノ他ニ純粹
 ノモノモ少ナクナイガ普通ハ硫酸石灰、マグネシウム⁶⁾鹽
 ヲ含有スルノミナラス中ニハ多量ノ粘土中ニ混入シ
 一見岩鹽ナリヤ否ヤヲ判明セラレヌ

	NaCl	CaPO ₄	Mg salt	Al ₂ O ₃ 酸化物	H ₂ O
Cheshire	98.30 %	1.65 %	0.05 %	— %	— %
Stassfurt	pure 99.00	1.50	0.50	—	1.00
	impure 94.57	0.89	0.97	3.35	0.22
Wilzigka	100.00	—	—	—	—

第二章 日本版図内塩ノ需給

今半部内地外地ヲ通シ昭和九年、塩ノ消費量ト生産量ト
ト可比スルト約百万噸、不足ト海外ヨリ輸入スル
昭和九年ノ塩消費量生産量ハ次表ノ如シ

産地別消費量	生産量		輸入	不足
	塩田	天日	輸入	
内地	1,829,093 ^噸	45,720 ^噸	676,175 ^噸	-1,152,918 ^噸
朝鮮	350,938	4312	18,0574	-170,364
樺太	15,000	-	-	-15,000
台湾	578,93	1644	191,636	+133,743
関東州	23,538	7080	249,406	+225,868
計	2,976,463	17,608	1,297,791	-968,671

60 サレバ昭和十年度ハ勿論本年度ノ如キハ益々不足量ヲ
増スハ想像ニカタカラズ

而レテ此ノ不足量ノ輸入移入先ヲ示スト次表ノ如ク
全体ノ六割ハ紅海、地中海ヨリ取り日本版図内カラハ
僅カニ一割ヲ供給セラレルニ過ギヌ

年度	数量	指数
昭元	92901	100
2	104350	112
3	143784	155
4	189358	204
5	199919	217
6	299530	322
7	440738	474
8	732600	789
9	1026529	1105

内地工業用塩の年次表

此、日本内地、塩、大輸入百万噸ハ主トシテ工業用塩ニシテ
過去十年ニ於ケル日本、化學工業ハ急遽、発達シ、需要
増加シ、原料タル工業用塩ノ輸入ハ昭九迄、倍々ニ
進マセリ

輸入地	昭元 噸	昭五 噸	昭九 噸	塩 輸 入 表
台湾	—	12,721	—	移 入 表
南東州	21,614	102,060	95,635	
青島	23,640	72,337	126,658	
万州国	—	—	111,183	
威海衛	—	3,905	—	
シヤバ	—	—	46,883	
エヂプト	15,848	—	150,370	
佛領マリーナ	—	—	14,300	
伊" " " " "	—	—	208,057	
エリトリア	—	—	174,495	
スペイン	28,213	6917	54,498	
独乙	3,586	1979	1,159	
合衆国	—	—	21,773	
英領スダン	—	—	15,127	
シヤム	—	—	4,834	
其、他	—	—	1,557	
計	92,901	199,919	1,026,529	

第十一章 工業用塩

第一節 曹達工業

曹達工業ハ化学工業ノ基礎工業ニシテソノ発達ハ化学工業ノ興衰ニ影響スル所大ニシテ曹達ナクシテ化学工業ハ成立セズト云ハル所ナリ。絹工業、石炭工業等凡百ノ化学工業殆ンド其ヲ使用セサルモノナク、曹達ハ化学工業ノバロメータート云ハルモノノ故ニ外ナラズ。然ラバ曹達工業ノ原料タル工業用塩ハ化学工業ノ基本原料デリノ生産高ノ多寡ハ延イテハ化学工業發展助長ノ根源ト云フモ過言ニアラズ。

過去ノ日本ノ曹達ハ殆ンド総テヲ英國ブラウナムンド会社ニ仰ギ、後アフリカノマカデ湖ノ天然曹達輸入ニ俟ツ状態ナリシガ大正三年歐洲大戦ノ始マリ以來曹達ハ暴騰ニ暴騰ヲ重ネ當時ノ化学工

65



66

業ニ慘憺タル悲劇ヲ演ジタリ。

大正六年始メテ我國ニ曹達灰製造ノ濫觴ヲ見タガ原料ハ専賣制度ニ制肘サレヌリノ品質不良、價格不廉ノ故遲々トシテ進マズ。昭和五年國家が多クノ補助ヲナスト共ニ經營ノ合理化ヲハカリ不景ノ努力ト相俟ツテ最近確立シ我國ノ需要ヲ充スニ余リアル状態トナレリ。コノ曹達工業ノ発達ト並行シテ進ムベキニカ、ハラズニトリ残サレタルガ工業用塩ノ問題ナリ。前述ノ如ク之ヲ地中海ニ仰グハ非常時ハ勿論、躍進化学工業上重大問題ナリ。

第二節 我國ノ工業用塩

日本内地昭和^{九年}利度工業用塩ノ消費量ハ百万屯ニシテ十年度ハ更ニ二十万屯ヲ増シ、目下曹達工業新設中ノモノヲ加ヘルト此數年ヲ出カシテ工業用塩全需要高ハ百万屯(三十三萬斤)以上ニ達スベシト云フ。之ニ對シ日本勢力圈内ノ現在ノ狀況デ工業用塩

ニテ供給せラル塩ノ量ハ次表ノ如ク僅カ三十三万屯ナリ。

地名	塩田面積	生産数量	内地及朝鮮ニ食料用トシテ供給	地元消費其他	外分工業用等ニ給可能数量
南東州	七千町歩	三十万屯	十二万屯	三万屯	十五万屯
青島	五千町歩	二五〇〇〇	十二〇〇〇	二〇〇〇	十一〇〇〇
滿洲國	一万町歩	三十〇〇〇	十レ	二四〇〇〇	六〇〇〇
台灣	千五百町歩	十四〇〇〇	八万屯	五〇〇〇	一〇〇〇
合計	二万三千五百町	九九〇〇〇	三二万屯	三四〇〇〇	三三〇〇〇

コノ不足量ヲ如何ニ解決スベキカハコノ兩三年間此ノ供給先ニツキイロイロ識者間ニ論アリ。ソノ結果外地又ハ隣接國ノ沿岸ニ目ヲツケテヨ塩田トシテノ開發ニ着手セリ。

今各地ノ概況ヲ記サン。

(A) 臺灣

65 此処ハ熱帶地域ナルモ暴風國內ニアリテ、塩田ノ補修ニ實費カ

66 サミ一町歩ノ生産量多クモ生産費低廉トスル事難ク工業用塩トシテ適當トハ云ヒ難ク、又冬^期季節風ノタメ積込不便ニシテ、其後堤防内ニ大砂洲ヲ堆積センカ、マスマス搬出困難ナル難矣アリ。

候補地約三千町歩ノ中有利ニ開設シウベキ地域ニシテ工業用塩ニ振向ケル事必ラズシモ不可能ナラザルモノアリ。

(B) 南東州

此処ハ日本版圖中ノ四頭ノ製塩地ニシテ工業用塩トシテ海外塩ニ拮抗スルノ特性アリ。現在七千町歩ニシテ今後塩田ヲ開設セントセバ候補地約三千町歩アリ。之が開設ニヨリ年額約二十万屯生産スルモ同候補地ハオホムネ沖合ニアルヲ以テ既設塩田ノ如ク経済的ニ出來ザルノミナラズ冬季搬出不利ナルヲ妨カレズ。

(C) 滿洲國

軍部ノ主張ニヨリ滿洲國ニ内地工業用塩補給國策ヲ樹テ約二

年ニワタル調査ノ結果経済的要素ヲ有スルモノ候補地ニ外ニ少
 ナク三千町歩開設ヲ目的トシテ滿洲塩業株式會社ノ設立ヲ見多リ。
 將來十五方屯ノ移出可能ナリト云フモノ南東州以上搬出困難ナルハ遺憾
 ナリ。

(D) 北支

近來世上ニカマビスレキ北支自治問題解決ノ曉同地塩田ヲ考慮スルニ
 長蘆ニ塩田九千町歩年三十五方屯ヲ産ス。コノ中蠟集可能數量
 ハ約十方屯ニシテ白河積込ニ依ラザルベカラズ。依テ冬季搬出國難ナ
 ルハ滿洲國ト同様に外治安安定セザル今日之ガ企業ハ急速ニソノ
 發展ヲ見ルニ至ラザルベシ。

以上隣邦外地ノ状態ヲ見テ以上ノ計畫完成セリトシテ今後十年後ノ
 本邦工業用塩最大見込數量ハ八六方屯ニシテ全需要一四〇方屯ニ比
 67 シ尙五四方屯ノ不足ヲ生ズ。

68 將來昭和二十年ノ豫想數量表

地名	面積	生産量	内地及 食料供給	地元消費 其他	本邦工業 供給量
山東省	10,000 町	500,000 屯	60,000 屯	35,000 屯	405,000 屯
蘇北	5,000 "	275,000 "	60,000 "	30,000 "	185,000 "
蘇南	10,000 "	350,000 "	—	250,000 "	100,000 "
浙江	1,500 "	155,000 "	80,000 "	55,000 "	220,000 "
福建	3,600 "	150,000 "	—	—	150,000 "
合計	30,100	1,430,000	200,000 屯	370,000 "	860,000 "

コニ於テ識者ハ一朝有時ヲ思ヒ現在及將來ノ供給塩ニウキモフルトキ日
 本勢力範圍内ニシラボメントスルハ當然ナリ。軍部ノ唱ヘル滿洲塩業
 会社ハ近クソノ途ニウキモ更ニ軍部ハ北支長蘆塩ニ目ヲツケ又滿洲ニ近
 ク舊産工場ヲモ設立サレントス。何レモ南東州、滿洲ヲ最も適地ト談ジ
 ツアリ。然レドモ滿洲國、北支共ニ日本勢力範圍内ニアルモ何レモ独立國

ニシテ日本ノ領土ニアラス。故ニ之ニ對シ絶對的ノ勢力ヲ振ヒ同一經濟傘下ニ統制スルハ困難ニシテ立國ノ一礎石ト云フ可キ曹達工業ノ原料タル塩ヲ滿洲北支ニ集メ、内地工業用塩ノ供給地タラシムルハ果シテ軍事上ヨリモ又經濟上ヨリモ最善ノ策ト云フ可キヤ。

(三) 朝鮮

ヒルガハツテ工業塩給源地トシテ朝鮮天日塩ニツキ来フルニ地理上氣象上ノ條件ハ必ラスモ良好ナラザルモ專賣局多年ノ努力カト研究ノ結果最近技術ノ進歩著ルシク上記ノ難點ヲ着々解決シソノ成績見ルベキモノアリ。加フルニ西海岸ニハ広漠タル塩田適地アリ。又冬積可能ノ地必ラズシモ乏シカラズ。將來本邦工業用塩ノ有力ナル源泉タリ。若シコノ塩ヲ鮮内曹達工業ニ利用セバ母國ニテハ何カヨリ有利ヲ採算トナリ、ソノ企業ノ發達ハ助長サレ、ヒイテハ化學工業ノ發展ヲ助長シ半島産業開闢上極メテ有意義ナリ。

I

第三節 朝鮮工業用塩ノ販路

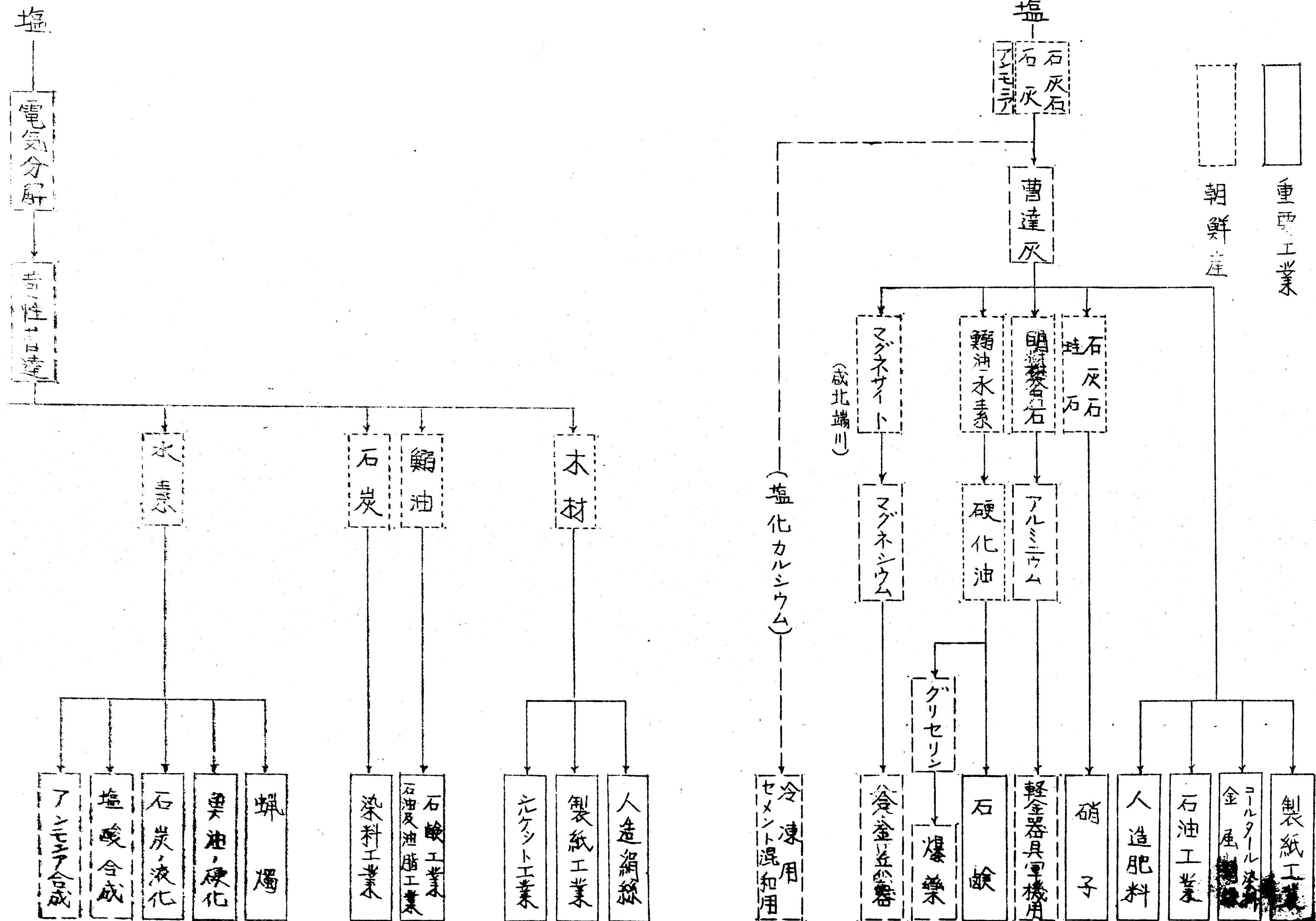
朝鮮工業用塩ハ日本今日ノ情勢ヨリスルト窮迫セル内地工業用塩ヲ補給スルガ先決問題ナルモ一方半島化學工業ノ基礎タル曹達工業ニ資シ半島ノ化學工業ノ發達ヲ助勢セザル可ラズト信ズ。内地曹達工業ノ前途ハ貯塩所ニ余地ナシ。之ガタメ關東州、滿洲ニ生産サレル塩ノ搬出ノ冬季四月ノ結氷ノタメノ杜絶ハ作業休止ノ止ムナキニ至ル。今半島ニ製塩ヲ始メバコノ不安ヲ解消シ日本勢力範圍内ニテ自給自足ノ政策ヲ充タスノミナラズ半島ニ曹達工業ヲ誘發シ、半島ニ化學工業ノ發達ヲ促シ、又半島文化發展ノモトトナルベシ。未ダ工業用塩皆無ノ朝鮮デ朝室ノ如キハ二万五千屯ヲ遠ク紅海ヨリ輸入シ將來六万屯ヲ要スト云フ。マレテヤ半島ニアル豊富ナル資源、南鮮ニアル明礬利用ノアルミニウム工業、咸北マグネサイトヲ原料トスルマグネシウム工業、黃海ニ珪砂利用ノ硝子工業、褐炭ノ液化、柴油ノ精製、人絹、纖維工業等

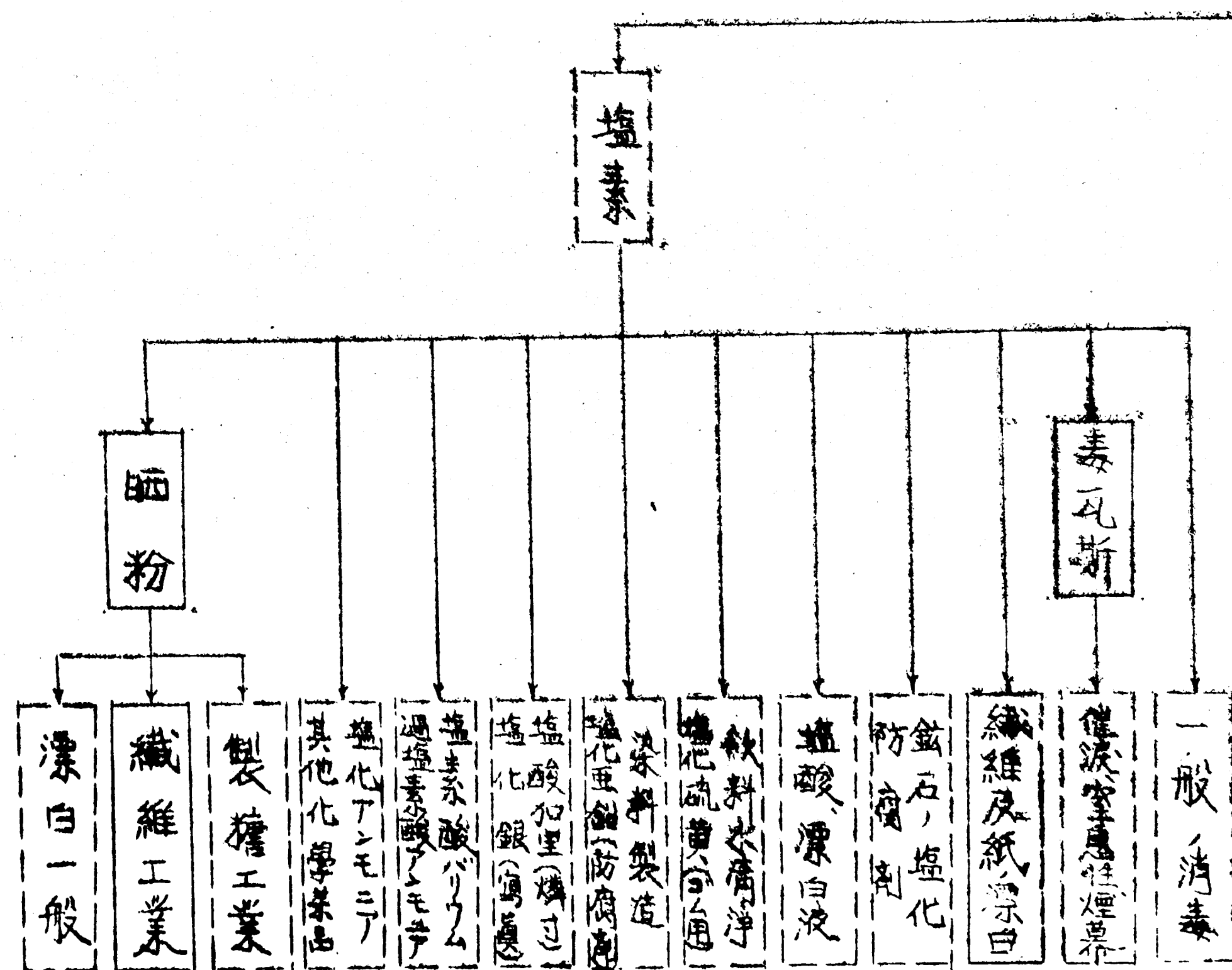
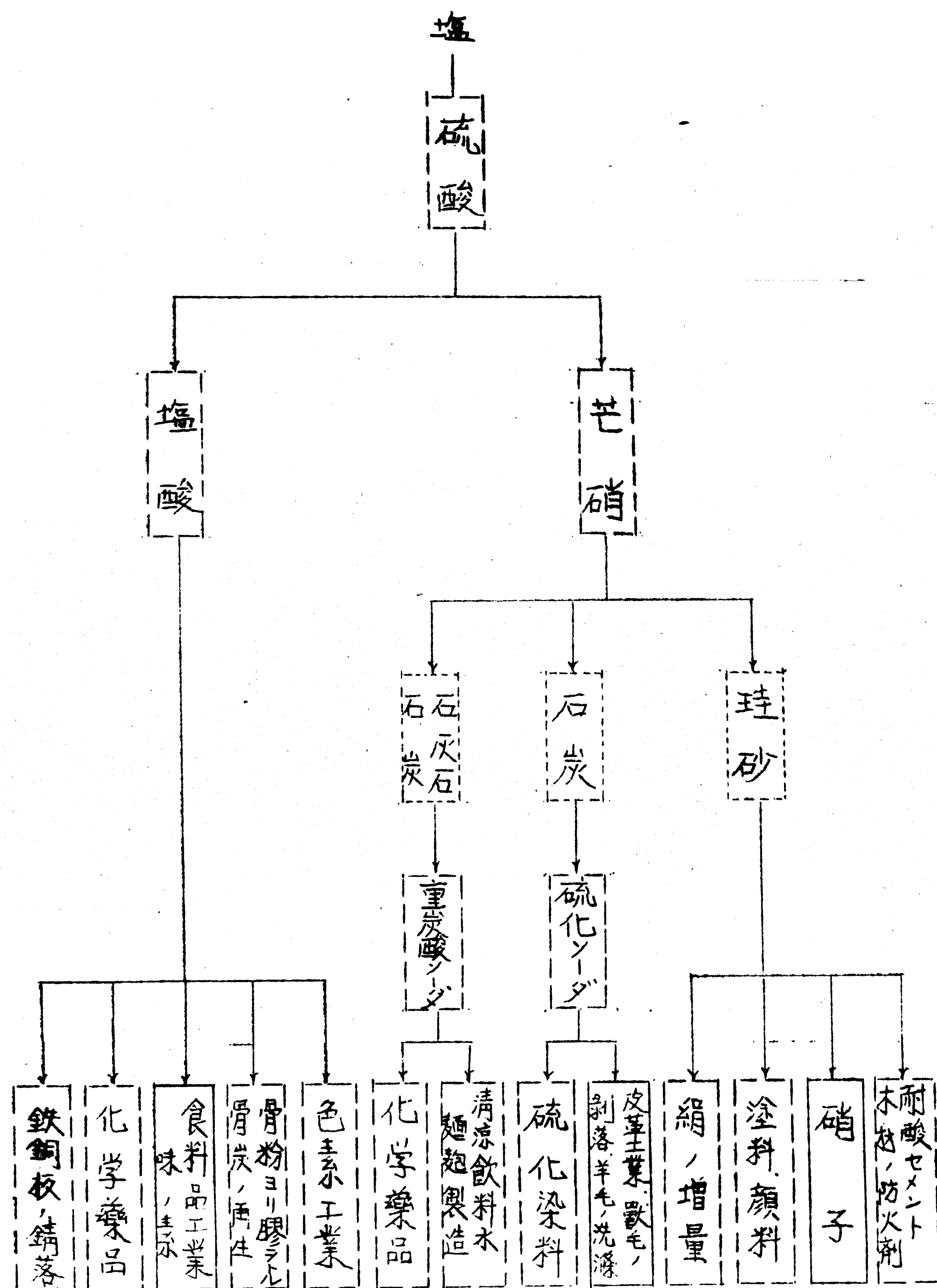
枚 舉ニイトマアラザルベシ。
尚工業用塩用途ハ別途圖解参照。

塩ノ工業的用途表

重要工業

朝鮮産





煖液

苦汁工業

曹達灰

炭酸多ネシ

臭素製造

加里製造

豆腐凝固用

齒磨用
コム混和剤

⑭

大正十一年

朝鮮總督府專賣局

塩田現業員必携

續通文獻通考

朝鮮總督府庶務局

鹽田現業員必携



目次

鹽田現業員服務心得

一、通則

二、鹽田監督

三、鹽田擔當員

四、現業員ノ交替

天日製鹽操業一斑

(一) 準備作業



一

五

七

九

一

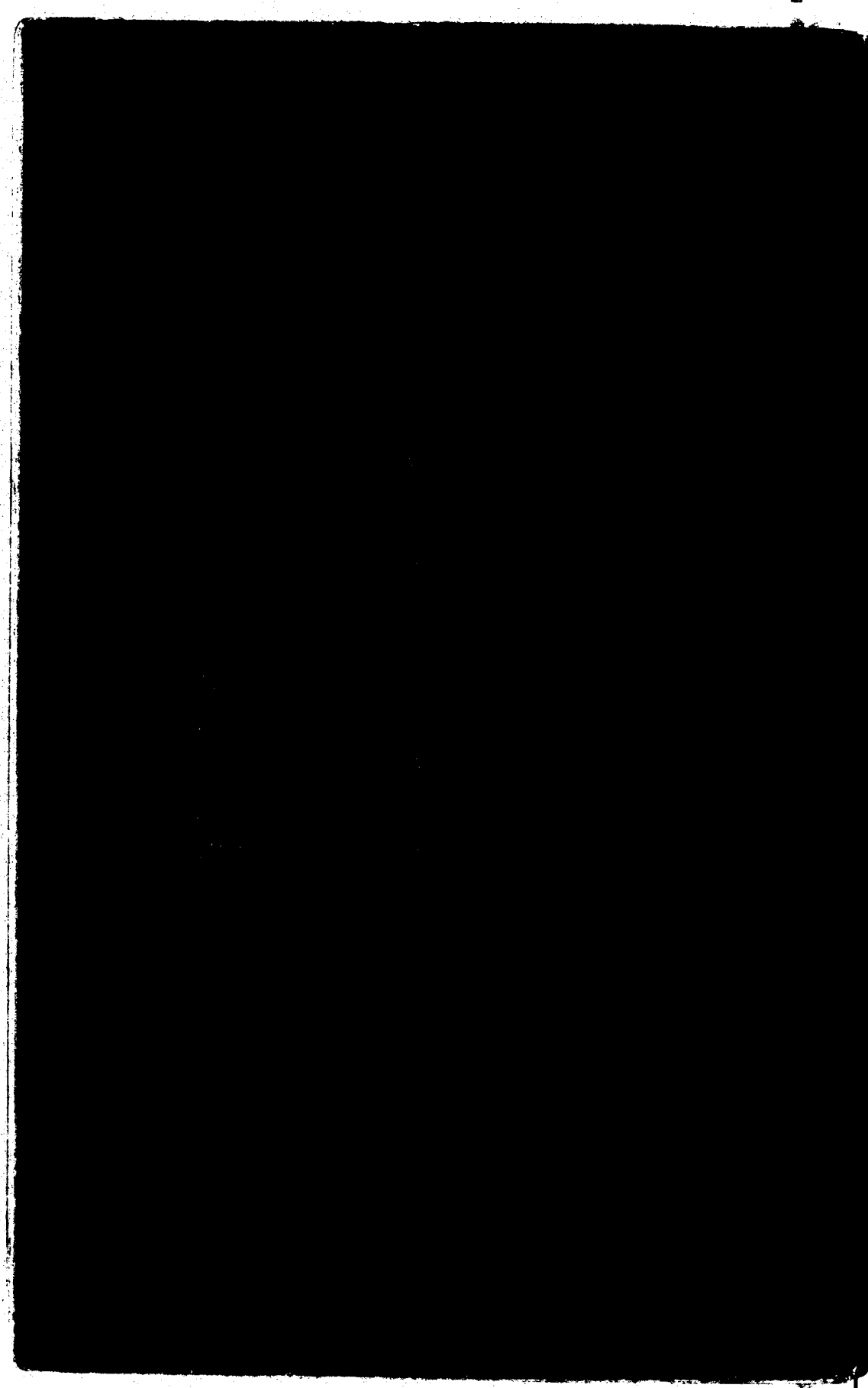
一

14

大正十一年

朝鮮總督府專賣局

塩田現業員必携



鹽田現業員必携

目次

鹽田現業員服務心得

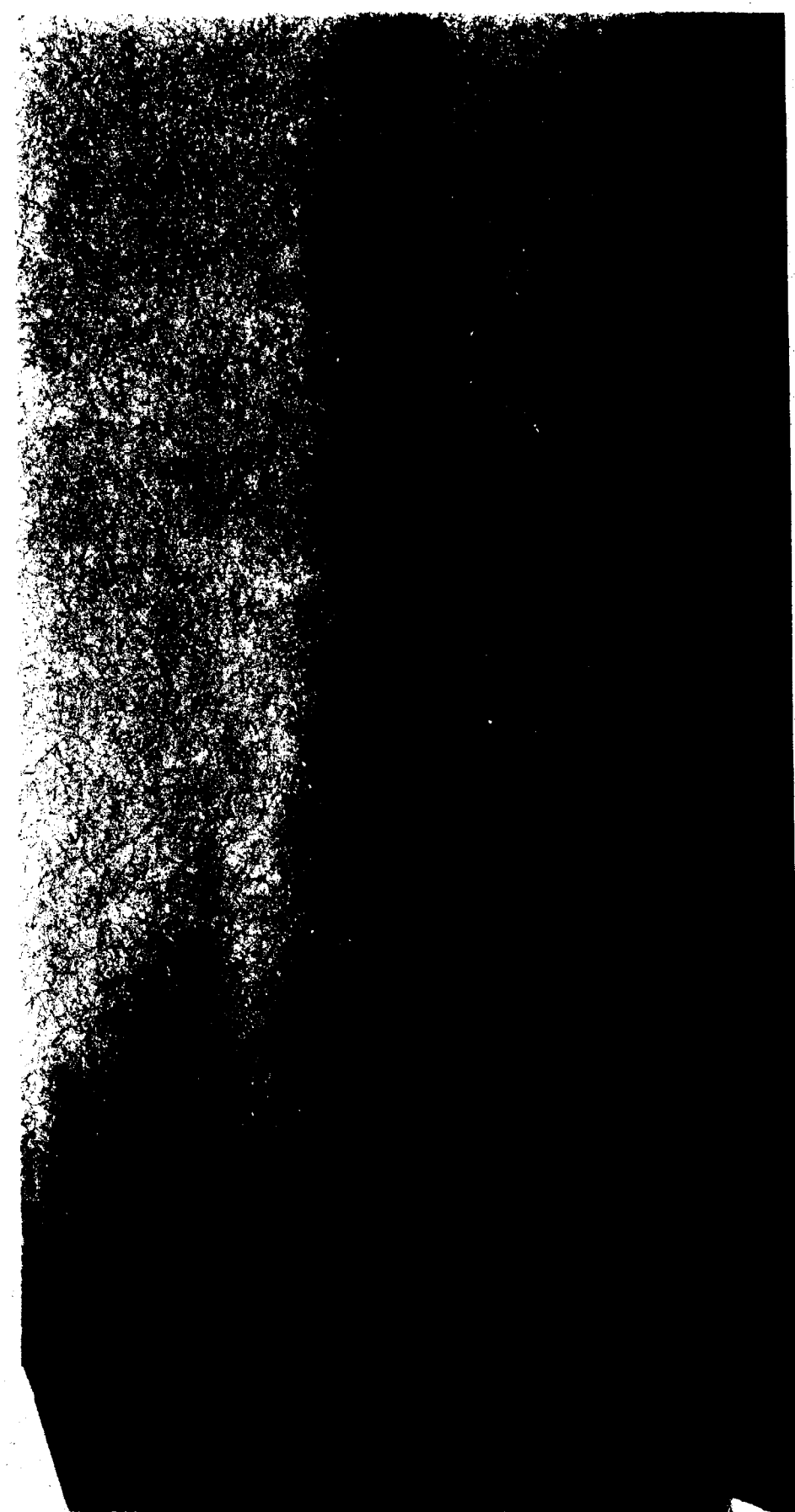
一、通則	一
二、鹽田監督	五
三、鹽田擔當員	七
四、現業員ノ交替	九
天日製鹽操業一斑	
(一) 準備作業	一一

一、海水取入	一一
二、排水	一四
三、畦畔修理、排水路及鹹水溜浚深	一五
四、藻苔類除去及地均	一七
五、地盤造り及地固め	二〇
六、鹹水造り	二八

(二) 製、鹽作業

一、海水取入	三一
二、鹹水造り	三二
三、結晶及採鹽	三五

四、降雨ニ於ケル操作	四五
五、鹽田、堤防、建造物及器具類ノ管理並ニ修理	四九
六、鹽田有害物ノ除去並ニ豫防	五二
七、製鹽終了期ニ於ケル處置	五七
八、秋季ニ行フ準備作業	五九



鹽田現業員服務心得

一通則

- 一 鹽田現業員ハ別ニ規程アルモノノ外本心得ニ依リ勤務セネハナラヌ
- 二 鹽田現業員ト稱スルハ製鹽ノ現業ニ従事スル鹽田監督、鹽田擔當員並鹽夫ヲ謂フノテアル
- 三 鹽田監督ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鹽田擔當員以下ヲ監督シ受持鹽田ノ作業ヲ掌理スルノテアル
- 四 鹽田擔當員ハ鹽田監督ノ指揮ヲ受ケ鹽夫ヲ監督シ作業ニ従事スルノテアル

五 鹽夫ハ上長ノ指揮監督ヲ受ケ鹽田ノ作業ニ従事スルノデアル
六 鹽田ノ就業定時間ハ左ノ通り

自三月一日 九時間
至十月末日
自十一月二日 八時間
至二月末日

始業、終業ノ時刻及休憩時間(就業定時間ノ外)ハ出張所長ニ於テ適宜之ヲ定メル

作業上必要ノ場合ニ於テハ休日及前記ノ時間外ト雖モ勤務セネハナラヌ

七 食事時間ハ就業定時間外トシ左ノ通りテアル

食事時間 一時間以内

現業員ハ晝食ヲ現場ニ於テ喫セネハナラヌ

八 現業員ハ現場ニ於テ勤務セネハナラヌ、時間中現場ヲ離ル、必要アルトキハ鹽田監督ニアリテハ所長(出張所長ヲ謂フ派出所在勤者ハ派出所長經由以下同斷)其他ニアリテハ鹽田監督ノ承認ヲ受ケネハナラヌ
九 現業員ハ天氣豫報ニ留意スルノ外常ニ天候ノ變動ニ氣ヲ付ケ作業上遺憾ナキ様注意セネハナラヌ

一〇 現業員ハ常ニ鹽庫、鹽夫舎、堤防、水閘及伏樋等ヲ巡視シ破壊若クハ危険ト認ムル箇所アルトキハ直チニ所長ニ報告スルト同時ニ臨機ノ處置ヲ爲シ高潮期ニハ上官ノ指揮ヲ承ケ堤防ノ警戒ヲ嚴重ニセナケレハナラヌ

一一 現業員ハ貯藏鹽ヲ監視シ盜難其ノ他事故アリト認ムルトキハ直チニ物品會計官吏ニ其ノ事ヲ報告スルヲ要ス

- 一三 現業員ハ鹽田ニ於テ使用スル器具其ノ他ノ物品ノ保管ニ付責任ヲ忽
ニシテハイケナイ
- 一四 現業員ハ消耗品ノ使用ヲ節約シ其ノ受拂ヲ嚴重ニセナケレハナラヌ
- 一五 現場ニハ揭示板ヲ設ケ毎日左ノ事項ヲ揭示シテ置カネハナラヌ
前日ノ採鹽量及當年度ノ採鹽量累計
當日ノ結晶坪數
鹽夫出(面)及缺勤數
前各號ノ外上官ニ告知ヲ要スル事項
- 一六 現場ニハ業務ノ分擔ヲ記載シタル現業員ノ名札掲ヲ設ケ缺勤者ノ分
ハ裏面(朱書)ヲ掲ケテ置クコト

二 鹽田監督

- 一六 鹽田監督ハ毎日必ス一回以上受持鹽田ヲ巡視シ鹽田擔當員以下ニ對
シ作業上ノ指揮監督ヲ爲スノ外特ニ左ノ各號ニ留意スルヲ要ス
- (イ) 各自衛生ニ注意セシメ若シ疾病ニ罹リタルモノアルトキハ直チ
ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムル事
- 平素品性ノ陶冶ニ努メ兼テ勤儉貯蓄ノ美風ヲ養成セシムル事
- 勤務成績ノ良否ヲ監察スル事
- 始業、終業時間ヲ嚴守セシムル事
- 鹽田及之ニ附隨スル堤防ヲ愛護シ常ニ手入ヲ怠ラシメサル事
- 鹽ノ生産並品質ノ改良ニ關シ研究ヲ怠ラサル事

- 一七 鹽田監督ハ鹽田擔當員ノ毎月ノ勤務成績ヲ翌月五日マテニ所長ニ報告セネハナラヌ
- 一八 鹽田監督ハ毎日鹽田擔當員以下ノ出勤簿及鹽夫給調書ヲ整理シ毎月二日及十七日ニ遲滞ナク庶務係ニ提出セネハナラヌ
- 一九 鹽田監督ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ毎日所定ノ事項ヲ記入セネハナラヌ
 - 鹽受拂簿
 - 結晶面積調査簿
 - 鹽夫使役數及鹽夫給豫算差引簿
 - 備品受拂整理簿
 - 消耗品受拂整理簿
 - 器具修理費豫算差引簿

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)

消耗品費豫算差引簿

(ト)(チ)

鹽田監督日誌

- 二〇 鹽田監督ハ毎日ノ作業報告ヲ翌日出勤時刻前ニ事業係ニ提出セネハナラヌ

採鹽ハ翌日午前中ニ鹽受拂規程ニ依リ受入ノ手續ヲ爲サネハナラヌ

- 二一 鹽田監督ハ鹽夫給、鹽夫製鹽加給金等ノ受領分配ニ付キ其ノ責任ヲ負ハネハナラヌ

三 鹽田擔當員

- 二二 鹽田擔當員ハ鹽夫ヲ指揮シ始業前ニ在リテハ作業準備ヲナシ終業後ニ在リテハ器具類ヲ取り纏メ其ノ數量ヲ調査格納スルヲ要ス

二三 鹽田擔當員ハ毎日午前十時ニ蒸發池及結晶池ノ鹹水比重及水深ヲ調査セネハナラヌ、但シ調査スヘキ蒸發池及結晶池ハ鹽田監督ノ決定スルモノニ依ル

二四 鹽田擔當員ハ鹽田日記ニ毎日所定ノ事項ヲ記載シ作業終了後又ハ翌朝鹽田監督ノ査閲ヲ受ネハナラヌ

二五 急ヲ要スル場合又ハ特ニ必要アル場合ハ鹽田擔當員ヨリ直接上官ニ具申指揮ヲ受クルコトヲ得ルノテアル、此ノ場合ニハ可成速ニ其ノ事項ヲ鹽田監督ニ報告スルヲ要ス

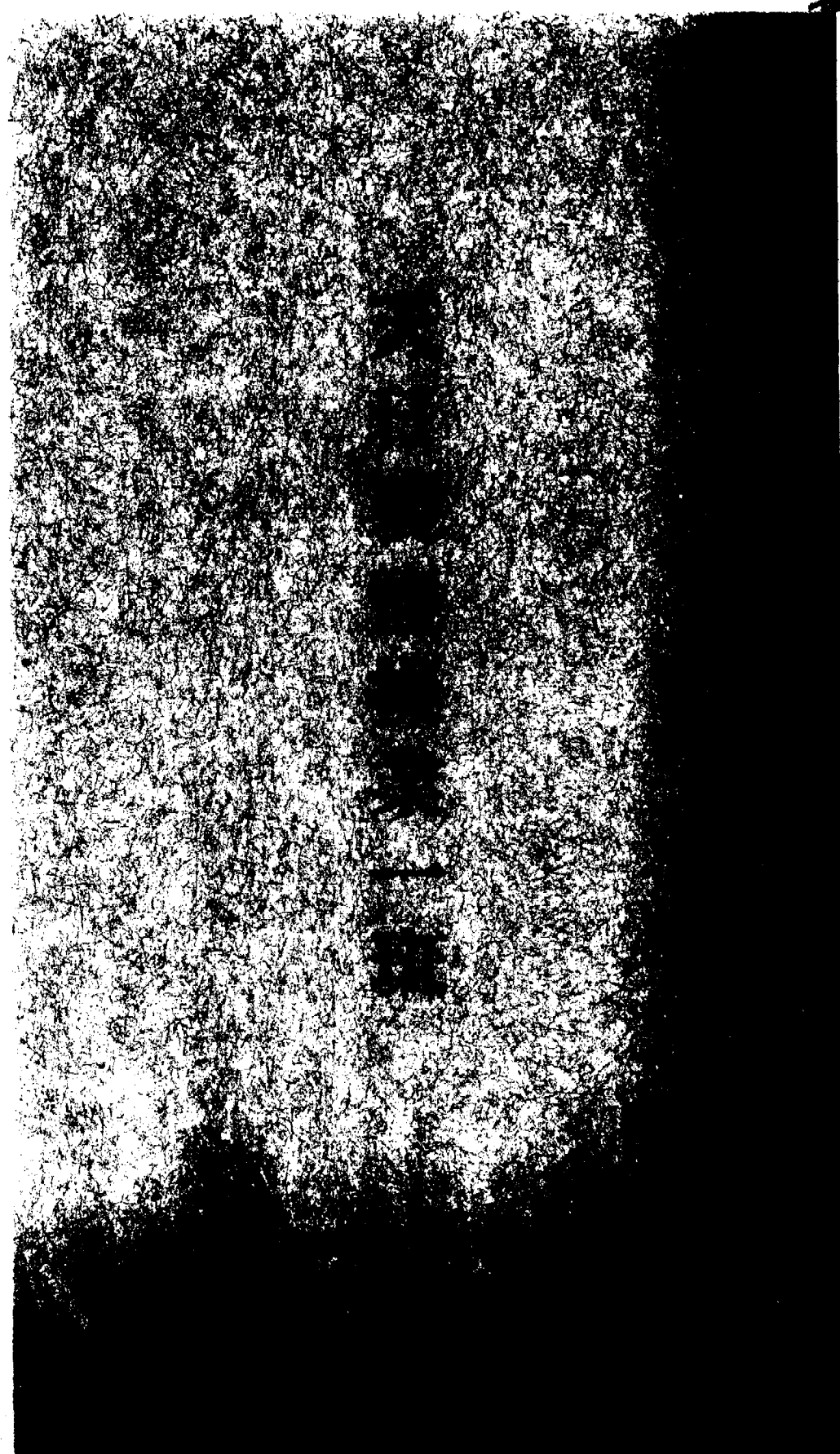
二六 鹽田擔當員ハ其ノ保管ニ係ル器具其ノ他ノ物品ニシテ亡失又ハ毀損シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ取調ヘ直ニ鹽田監督ニ報告セネハナラヌ

二七 鹽田擔當員病氣其他ノ事故ニ因リ缺勤セントスルトキハ始業時刻前ニ鹽田監督ヲ經由所長ニ届出テネハナラヌ

四 現業員ノ交替

二八 鹽田監督並鹽田擔當員交替ノ場合ハ後任者立會ノ上帳簿ト現品トヲ對照シ其ノ引繼ヲ爲スヲ要ス、但シ鹽田擔當員交替ノ場合ハ鹽田監督之ニ立會スルコトヲ要スル

二九 現業員交替シ事務ノ引繼ヲ了シタルトキハ文書ヲ以テ所長ニ報告セナクレハナラヌ



天日製鹽操業一斑

(一) 準備作業

一、海水取入

毎年三、四月ハ潮位ノ低イ時期テアルカラ此ノ期間ノ作業ニ備フル爲前年結水前ニ豫メ堤防ノ危険ナラサル程度ニ於テ十分貯水シ置ク必要カアル。クレトモ結水中ニ於テモ蒸發又ハ浸透等ニ依ツテ自然貯水池ノ水カ減水スル、之カ爲メニ準備作業ノ際高イ地盤ノ鹽田ハ勢ヒ海水ノ不足ヲ來ス場合カアルカラ準備作業中ニ於テモ潮位ニ注意シ海水取入ヲ怠ラナイ様ニセナケレハナラス。

海水取入
ノ方法

貯水池ニ海水ヲ取入レントスルトキハ豫メ其ノ時間及潮位等ヲ見計ラ
ツテ水開箇所ニ到リ貯水池内ノ水位ト外海潮位ノ平均スルヲ待ツテ水開
ノ挿戸ヲ引揚ケ潮ノ満ツルニ從ヒ之ヲ取入レ所要ノ量ニ達セハ挿戸ヲ閉
鎖スルノチアル。一潮ヲ取入不充分ナラハ數日間ニ亘ツテ取入レネハ
ラヌ。取入ヲ了シタル後ハ一重戸ノ水開ニアリテハ槓肌ヲ戸ト柱トノ間
隙ニ詰メ込ミ二重戸ノ水開ニアリテハ土ノ充填ヲ完全ニシテ漏水ヲ防カ
ネハナラヌ海水ハ鹽生産ノ原料テアルカラ一滴ノ水モ粗末ニシテハイケ
ナイ。

貯水不足
ノ場合

貯水不足シ鹽田枯渴ノ虞アル場合ハ水開ノミテハ十分ノ取入カ出來ヌ
カラ石垣ノ無イ堤防ヲ切開キテ取入ル、事モアル。併シ夫ハ重大事デア
ルカラ萬己ムヲ得ナイ場合ノ外避ケタ方カヨイ。五月以降ハ潮位モ高マ

潮時及潮
位

ルカラソシナ必要モナイタラウカ其ノ季節ニ入ツタラ堤防カ危険タカラ
絶對ニ切開イテハイケナイ。潮位ノ低イ時季ニ貯水不足ノ虞アル場合ハ
海水取入前ニ成ル可ク貯水池ノ水位ヲ低クシテ置イタ方カ多量ノ海水ヲ
導入シ得ル点ニ於テ利益テアルカラ、高潮時ノ前ニ豫メ貯水池ノ水ヲ第
一蒸發池ヘ出來得ル限リ水深厚ク引入ルルノモノ一ノ應急策デアル。
海水比重貯水池ノ比重ヨリモ幾分高イ場合キハ小潮時ニ於テモ潮位貯水
池内ノ水位ヨリ高ケレハ取入ル事ヲ怠ラナイケナイ。此季節ハ潮ノ變
リ目テ小潮時テモ變潮カ來ル事カアルカラ注意ヲ要スル。
潮位ハ潮位表ヲ參考トシテ其ノ時ノ潮位及時間トノ差ニ注意シ海水取
入レノ時間ヲ誤ラサル様注意スヘキデアル。秋分ヨリ春分マデハ夜間ノ
潮位高キヲ以テ此時季ニ於ケル海水取入ハ夜間ニ行ハネハナラヌ。満潮

時ハ一潮ニ約二十四分間遲延スルモノテアルカ種々外界ノ状況ニ依リ變調ヲ來ス場合カ多ク正確ナ豫測カ出來ヌルカラ油斷シテハイケナイ。天候及風位風力ハ潮位ニ重大ナ關係ヲ及ホスヲ以テ左ノ事項ヲ心得テ置ク必要カアル。

- 一、天候曇雨ノ時ハ比較的潮位カ高イ
 - 二、東ヨリ南ニ亘ル風ハ比較的潮位カ高イ
 - 三、西ヨリ北ニ亘ル風ハ比較的潮位カ低イ
- 但シ風ノ爲ニ生スル潮位ノ變化ハ前滿潮時以後ノ風位及風力ニ起因スルモノテアル。

二、排水

結水中池ニ漲水シテ無カツタ處ヲモ降雨雪ノ爲池面浸潤シ甚シキハ水ノ

滯溜スル事カアルカラ準備作業ニ取カ、ルト同時ニ水口ヲ開キ排水シテ畦畔ヤ地盤ヲ乾カサネハナラス。

結水中漲水シテアツタ處ハ先ツ其ノ比重ヲ檢シ海水以上テアツタ場合ハ之ヲ下段ノ池又ハ空キタル鹹水溜ニ水深厚ク集メテ置キ地盤造ヲ終ツタ後使用スルノテアル。若シ池水ノ比重海水以下ナレハ之ヲ排棄スヘキモ鹽田ニ要スル水量如何ヲ考ヘ貯水不足ヲ來ス憂アル場合ハ之ヲ排水セス蒸發池又ハ鹹水溜等ニ送り海水補足ノ用ニ供スルカ得策テアル。

三、畦畔修理、排水路及水鹹溜浚渫

準備作業着手當時ハ解水ノ季節ナレハ時折寒氣再來シ之カ爲メ折角着手セシ作業モ凍結ノ爲メ徒勞ニ歸スル場合カアルカラ作業開始後ハ天候ノ一定スル迄可成地盤造リ等ノ操作ヲ後廻シトシ地盤ヲ乾燥セシムル傍ヲ

畦畔修理

畦畔修理、排水路淺溝等ヲ爲スヘキナル。之等ノ手入ハ秋季作業終了後ニ大部分終了セシムルト雖モ仕上ケハ矢張り春季ニ於テ行フヲ普通トス而シテ斯ル操作ハ製鹽作業ニ移レハ施行ノ機會ヲ逸スルカラ此際十分ノ修理ヲ施スカ得策ナル。

畦畔ハ適當ナル乾燥ヲ待テテ打固メ破壞セル箇所ハ池又ハ溝ニ流出セシ土ヲ取リテ原形ニ修理シ後打固ムルヲアル。製鹽當初及ヒ降雨後殊ニ新鹽田ニ於テハ土壤中含量少キカ故烈シク乾燥セシムレハ風化狀態トナルヲ以テ鹹水ヲ浸潤セシムル必要カアル。

水路淺溝 水路、水口等ハ秋季ニ浚渫シテ置イテモ降雨及結水ノ爲メ春季作業開始期ニハ畦畔ノ土流レテ多少其ノ底ヲ埋ムルヲ以テ速ニ浚渫セネハナラス。尙地盤固メ等ノ余暇ヲ以テ破損ヲ修理シ原形ニ復セシメ溝

鹹水溜浚

敷ヲ滑ニシ溝側ハ畦畔ト同シク打固メヲ爲シ可成乾燥セシメ置クヲ要ス。結水期中結晶池ノ畦畔カ沒スル程度ニ漲水シアリタル鹽田ニアリテハ排水後其ノ儘畦畔ヲ乾カシ、決シテ乾燥前ニ畦畔上ヲ步行セシメサル様ニセナケレハ手入ニ非常ノ手數ヲ要スルコト、ナル。

鹹水溜ハ秋季ニ於テ豫メ浚渫シ鹹水貯藏ニ便ナラシムルト雖解水後貯藏鹹水ヲ汲上ケタル後乾燥セシメ浚渫並ニ法面ノ打固メヲ爲スカヨイ。

藻苔類除去

四、藻苔類除去及地均

苔類發生ノ地盤ヲ乾燥セシムルトキハ厚サ一分位ノ龜ノ子形ノ龜裂ヲ生スルニ至ルカラ之ヲ小把鋤手等ニテ掻キ集ムレハ容易ニ除去スルコトカ出來ル。乍併年々斯ル操作ヲ繰返ストキハ池ノ地盤低下シ各段ノ落差

地

均

ニモ變化ヲ來シ延イテハ製鹽ヲ不能ニ終ラシムル虞ナシトセス。故ニ藻苔類除去ノ方法ニ就テハ各自慎重ニ攻究ヲ要スルノテアル。取除キタル藻苔類ハ池水ニ浸潤スレハ再ヒ發生スル虞カアルカラ斯ル憂ナキ處ニ於テ處分セネハナラヌ藻苔類ハ肥料トシテ有効ナルカ故ニ附近ノ農家ニ持チ去ラシムルコトヲ得レハ一舉兩得テアル。

結氷期ヲ經過スルト蒸發地ノ面ニ高低凹凸ヲ生スル事力多イ。殊ニ新鹽田ニ於テハ其ノ程度カ甚シイ。處カ其ノ高低ハ製鹽ノ成績ニ甚大ノ影響ヲ及ホスカラ準備作業期ニ手入ヲシテ置カナイト其ノ鹽田ハ年ヲ通シテ敗者ノ位置ニ立タネハナラヌ事ニナル。製鹽期ニ入ツテハ人手力不足スルノテ蒸發池ノ手入ナト十分ニ行届カナイタラウカラ此ノ時期ヲ逸シテハナラヌ。

一八

地均ハ高イ部分ノ土ヲ鋤取ツテ細カク碎イテ低イ箇所ヘ水平ニナル様盛土スルノテアルカ池一面ヲ水平ナラシムル事ト前後ノ落差ノ關係ヲモ考慮セナケレハナラヌカラ或場合ニハ池外カラ土ヲ運ンテ低イ部分ニ盛ルカ、或ハ高イ部分ノ土ヲ池外ヘ切捨テルカノ方法ヲ探ル事モアル。水ノ無イ池ノ地均ハ機械ヲ用フルノカ最も便利テアルカ之ハ一般ニ利用ハ困難テアル普通ハ高低ヲ目測シ地盤ノ乾燥程度ヲモ見テ茲カ高イ茲カ低イト判斷スルノテアルカ之モ大キナ高低テナイト見分ケカ六ケ敷イノミナラス相當ノ熟練ヲ要スルカラ間違ツテ盛リ過キタリ切リ過キタリスル事カ起リ易イ。割合正確ニシテ簡易ナノハ風ノ少イ日水ヲ淺ク池ニ漲ツテ其ノ高低凹凸ヲ知ル事アル。殊ニ結晶池ノ地均ハ極メテ少イ凹凸ヲ正スノテアルカラ此ノ方法ニ據ルヨリ外ハナイ。

一九

第一蒸發池ノ地固メ

五、地盤造り及地固メ

第一蒸發池ハ地均シ後直サニ地固メ作業ニ移ルヲ普通トス地固メ作業ハ土ノ「ローラー」ニ甚シク附着セサルヲ度トシテ第一段ヨリ順次第二段ニ及ネホカ作業ノ順序ヲケレト、先ニ乾キタルモノヨリ之ヲ行フハ勿論ナアル。「ローラー」風ハ普通二人ヲ以テタルノテアルカ其ノ地盤軟弱ナルトキハ三人又ハ四人ヲ以テタル事モアル。其ノ曳跡ハ蛇曲ナラサル様心掛ケ畦畔ヲ隔ツル事四尺位ノ所ニテ其ノ一方ヲ強ク急ニ曳タトキハ「ローラー」ハ斜ニ畦畔ニ當リテ正位ニ復シ引返ストキ其ノ初メノ跡ハ二寸乃至三寸位掛ル様ニスル。普通之ヲ縦横ニ一回曳タ事ヲ稱シテ一回ノ地固メト謂フ。地固メタルト壓力ノ爲地中ノ水分浸出シ地表濕潤スルヲ以テ之ヲ乾カシタル後更ニ第二回ノ地固メヲ爲メノテアル。普通ニ

第二蒸發池及地固メノ地盤造り

同ノ地固メヲ標準トスレトモ「ローラー」曳ニ非常ノ手數ヲ要スル鹽田ニアリテハ第一蒸發池ノ地固メニノミ没頭スル譯ニハ行カナイカラ一回ノ地固メヲ以テ打切ルノモ餘儀ナイ事タラウ。地固メヲ終ツタナラ順次取水スルノテアル。

第一蒸發池ノ作業遲延ノ爲地盤固メヲ終サル中ニ第二蒸發池ヘ送水ノ必要アル場合ニハ貯水池ヨリ排水路ヲ通シテ直接第二蒸發池ヘ注入スルヨリ仕方カナイ。

第二蒸發池結晶池ハ排水後熟田ニアリテハ其ノ僅數日間乾燥セシメ其ノ乾度ヲ見計ヒ「ローラー」ヲ曳キ一旦乾カシタル後地盤ノ鹹度(含鹽分ノ程度)ヲ見テ比重十度内外ノ鹹水ヲ漲リ一、二日間放置シテ池表面粘土ノ落付キタルヲ見計ヒ小把掛ヲナス。小把掛ノ作業ハ池ノ一方ニ數

人小把ヲ以テ立チ池面ニ小把ノ及面ヲ當テ、足元ヨリ前方ニ突キ出シ自
己附近ノ沈澱土並ニ殘留水ヲ掃ヒツ、隣接ノ者ト連絡ヲ採リ乍ラ前方ニ
進ミ最後ニ掃キ寄セタル粘土及殘留水ヲ小把ノ脊ヲ下ニシテ強ク畦畔外
ヘ突キ出スノテアル。斯クシテ小把掛ヲ了レハ全面ヲ大把ヲ用ヒテ圓滑
ニ均シ乾カスノテアル。大把ヲ使用スルニハ柄ヲ左腋或ハ右腋ニ抱ヘ前
方ニ押シ其ノ均セシ端ヲ踏ミ次ノ均シヲ以テ前回ノ足跡ヲ均シ池ノ一邊
ヨリ真直ニ對邊ニ進ミ或ハ中央ヨリ渦狀ニ均スノテアル。大把ヲ掛ケ終
ツタ池ハ一定時乾カシタル後地固メヲナシ漲水スルノテアル地固メノ方
法ハ曩ニ述ヘタ第一蒸發池ノ場合ト同様テアルカ茲ニ注意ヲ要スルハ地
固メヲ急ク積リテ同一ノ池ニ引續キ幾回トナク「ローラー」曳ヲ繰返ス
トキハ却テ地盤ヲ軟化セシムルカラ數度ノ「ローラー」曳ヲ試ミ様ト思ツ

タラ第一回ノ「ローラー」曳後暫時乾カシテカラ第二回ノ「ローラー」曳ヲ
セナケレハナラヌ。斯ル操作ヲ繰返シテ居ル裡ニ鹹水モ漸次濃縮サレ地
盤モ出來上ルノテアル。地盤固メニ伴ヒ地盤ニ凹凸ヲ生スルモノナレハ
送水ノ都合ヲ見計ツテ凸部ハ削リ凹部ハ乾キタル土ヲ粉碎シテ埋土ヲナ
シ地固メシテ平坦ナラシム。此ノ地均ヲ完全ニシテ置カナイト結晶池ノ
水深ヲ平均ニ保タシムル事カ出來ヌノテ製鹽期中鹽ノ附キ方カ少イト云
フ事ニナル。

地盤造リハ何日間テ出來上ルト云フ事ハ豫斷シ難イノテ其ノ年ノ結氷狀
態、鹽田ノ熱度、土壤ノ成分等ニ依ツテ遲速ヲ免レナイ。初進者ハ往々
ニシテ他ノ鹽田ヲ結晶シタト云フ噂ヲ聞クト狼狽シテ自分ノ鹽田ノ狀態
ヲ省ミス探鹽ヲ急クタメ地盤造ヲ誤リ後日却テ多クノ手數ヲ要スルニ至

地盤軟化
セサル場
合

ル事カアル。
地盤比較的軟化セサル池ニ於テハ小把ヲ以テ殘留セル水ト共ニ沈澱土ヲ排出シ池ノ周圍ナル凹部ヲ原形ニ復シ(表面少シク軟化セル池ハ靜カニ表面ノ泥土ト水トヲ小把ヲ以テ排出スヘシト雖モ此ノ際小把ヲ強ク押盤ニ押シ付ケ池底ヲ搔キ起ス可カラス)適當ニ乾燥セシメ地固メニ移ルノテアル。

地盤軟化
セシ場合

地盤著シク軟化セル池ニアリテハ排水後小把ヲ以テ押セハ沈澱土ト共ニ池底ヲ搔キ起ス虞アレハ少許ノ水(比重ハ海水位ノモノガヨシ)ノ殘レル儘小把又ハ大把ヲ以テ不同ナク練リ廻ハシ面均ヲ行ヒ乾燥セシメ地盤龜裂ヲ生シ足跡ヲ付スルヲ程度トシテ「ローラー」ヲ曳キ龜裂ノ全ク癒合セナルヲ度トシテ止メ後乾燥シ翌日或ハ翌々日又龜裂ヲ生スルニ至リ

地盤軟化
ノ鹹水

テ更ニ「ローラー」ヲ曳キ尙濕潤ナレハ重ネテ乾燥龜裂ヲ生セシメテ地固メラナシ濕潤ノ度微少ナル程度ニ至レハ少シク乾燥セシメテ直チニ漲水スルヲ要ス。若シ其適度ヲ失セハ龜裂ヨリ乾固シ風化狀態トナリ易キヲ以テ注意ヲ要ス。

「ローラー」ヲ曳テ終リタル後漲水スル鹹水ハ地盤ノ固マリ程度ヲ斟酌シテ稀薄ナルモノヨリ漸次濃厚ナルモノニ及ボスヘキテアル。普通四、五度位ノ差ノアルモノカヨイ。例ヘハ第一回目「ローラー」ヲ曳後漲水スル鹹水ハ五度位ノモノヲ使用シ(成熟鹽田ハ十度位)第二回目「ローラー」ヲ曳後ハ九度乃至十度位ノモノ第三回目ハ十四、五度位ノモノヲ漲水スヘキテアル。地盤ノ固マリ程度ト漲水スル鹹水ノ比重トハ密接ノ關係カアルカラ能ク注意シテ兩者相並行シテ進マネハナラヌモノテ何レ

カ一步ヲ先ンシテモ其結果ハ宜シクナイノテアル。地固メカ進ンテ地盤ノ鹹度カ遅レル場合ハ何時迄モ完全ノ地盤造リカ出来ナイ。之ト反對ニ鹹度カ進ミ過キテ地固メノ方カ遅レタトキハ池ノ表面カ護謨ノ様ニフアスルコトニナル。斯ル場合ハ薄イ鹹水ヲ入レ二、三日間鹽抜ヲシテ地盤造リノ第一歩カラ遣リ直サチハナラス。斯クテ地盤ニ漸次濃厚ノ鹹水カ吸收セラル、ニツレ。地盤ノ含鹽量ハ次第ニ増加シ飽和点近キ鹹水ヲ二、三回漲水セル池ハ日光ニ晒スモ殆ント龜裂ヲ生セサルニ至リ最早地固ハ完全ナモノト見テ差支ナイ。

練リ固メ

鹽田未熟ニシテ地盤未タ堅固ナラス含鹽ノ度合少キ池ニアリテハ結水期ヲ經過スルト甚シク毀損セラレルノテアル。斯ル池ニハ練リ固メラナス必要ノ場合カアル。練リ固メラナスニハ若干水ノ殘リタル池ノ一側ニ

鹽片並玉
石鹽田ノ
地盤造リ

行キ亘ル丈ケノ人數ヲ一列ニ立タシメ他方ニ向ツテ一齊ニ一、二寸宛ノ歩幅ヲ以テ進マシメルノテアル。コンナ事ヲ數回繰返シテ池ノ全面ニ限ナク足跡ヲ印スルニ至レハ漲水ヲ補足シテ克ク大把ニテ練リ廻シ足跡ノ窪ミヲ平スト同時ニ池面ヲ均平ナラシメテ水ヲ排出シ乾燥セシメテ地固メ、地均シヲ爲スコト前ニ陳ヘタ通りテアル。練リ固メニ用ユル水ハ海水又ハ夫以下ノ淡水水カヨイ。

鹽片並ニ玉石地盤ニアリテハ解水後排水シ其儘乾カシ縦打ニテ地盤ヲ叩キ地盤ノ土カ鹽片又ハ玉石ト癒合スルマテ打固メラスルノテアル。地盤ノ結水中ニ軟化セシモノハ解水後ニ於テ其ノ表面粘着力乏シキヲ以テ直チニ之ヲ叩タトキハ地盤ノ土剝離シ損傷スルモノナルヲ以テ此ノ場合ニ於テハ適度ノ鹹水ヲ浸潤セシメテ粘着力ヲ増シ地固メラ爲シタル後漸

次濃厚ノモノヲ浸潤セシメ打固メヲ爲シ注水スル事土底ノ場合ト同シ。
叩キ固メノ際ハ可成鹽夫ヲ一列ニ配置シ池ノ一方ヨリ叩キ始メ全部ヲ平
均ニ叩カシムルノテアル。而シテ打固メ作業ヲ終ヘタル池ニハ十度内外
ノ鹹水ヲ入レ丁寧ニ洗滌スルノテアル。

六、鹹水造リ

第一蒸發池ノ第一段ヨリ順次第二、第三段ニ亘リ「ローラー」ヲ曳キ了
リタルトキハ之ニ海水ヲ注入ス。海水ヲ注入スルニハ蒸發池畦畔ニ於ケ
ル水口ヲ開キ置キ貯水池ノ伏樋ヲ開キ用水路ヲ通シテ第一段ニ注入ス。
而シテ水深約一寸五分ニ達スルヲ度トシテ之ヲ閉塞スル。第一段ニ注入
スル海水ハ翌日第二段ニ注入ス。

第二段ニ注入スルニハ第一段ト同シタ境界セル畦畔ノ水口ヲ開キ注入ス

ル事第一段ノ場合ト異ナルコトナシ。

第一段ノ水ヲ第二段ニ注入セルトキハ第一段ヘハ直ニ貯水池ヨリ海水ヲ
注入シ順次補給スルノテアル。鹹水ハ一段ツ、移送シ順次結晶池ニ濃厚
ナ鹹水ヲ補給スルモノナルニ手數ヲ省カンカ爲ニ數段ノ水口ヲ一時ニ開
放シ濃稀鹹水ヲ混交セシムルカ如キコトカアツテハナラヌ。

以上述ヘタ如ク第一蒸發池ヨリ順次第二蒸發池及結晶池ニ向ツテ鹹水ヲ
流下セシムルトキハ次第ニ其ノ水量ヲ減シテ濃縮サレ第二蒸發池ノ末段
ニ至リテ飽和点ニ達スル筈ナレトモ鹽田ノ熱否又ハ氣象ノ關係等ニ依リ
結晶池ニ至ルモ尙飽和点ニ達セサルトキハ之ヲ鹹水溝(逆溝)又ハ鹹水溜
ニ落シ水車ニテ更ニ上段ニ汲揚ケ順次下段ニ移シ飽和セシムルノカ得策
テアル。若シ第二蒸發池及結晶池ニ於テ鹹水濃縮シテ水深淺キニ過クレ

ハ次ノ濃度ノ鹹水ヲ注加シテ水深ヲ保タシムルノテアル。
結晶池及第二蒸發池ニ於ケル鹹水ノ移送ハ地盤ノ手入ト關聯スルモノナ
アルカラ全般ニ於ケル鹹水ノ配置及比重ヲ考ヘ之カ移送ト池ノ手入トヲ
考慮斟酌シテ落差及地盤ノ溫熱ヲ有益ニ用フヘキテアル。第二蒸發池及
結晶池ニ於テ尙地盤固メヲ要スル池ニアリテハ其ノ漲水ヲ次區ヘ注下後
地盤固メヲナシ鹹水ヲ注入スヘシ。池面ヲ乾燥セシムルニ當リ日没近ク
ニ至リテ地盤ノ漸ク熱セラル、カ如キハ須臾ニシテ夜ニ入り溫度速ニ降
下スルカラ其ノ効力少イ。此等ノ作業ヲ繰返スニ從ヒ其ノ鹹水ハ漸次濃
厚トナリ地盤益堅硬トナル。地盤カ堅硬トナレハ從テ比重モ亦昇騰カ早
クナル。サレハ結晶池及第二蒸發池ハ地盤ノ成熟ニ至ル迄常ニ一部分宛
交代ニ此ノ操作ヲ反覆スル要カアル。而シテ地盤固メノ完成ニ近ツクニ

從ヒ含有鹽分益々多量トナルヲ以テ水ノ注出後其儘日光ニ晒ラシ一時間
乃至二時間ヲ經地盤固メヲ畧シ直チニ注水スル事カアル。此ノ方法ハ一
見其ノ時間内池ヲ空虛トナスノテ甚不利ナルカ如シト雖モ比重ノ昇騰ス
ル事急速ナルノ外地盤ノ軟化ヲ防ク利カアル。

(二) 製鹽作業

一、海水取入

貯水池ハ日夜間斷無ク水ヲ滿ヘ置ク處ナルヲ以テ其堤防ハ外廊堤防ニ比
シ破損程度モ甚シク修理モ亦困難ナ箇所カ多イ。斯ル狀態ナルカ故貯水
池ニ必要限度ヲ超エテ多クノ貯水ヲ爲ス事ハ注意セナクレハナラス。二三
四月ハ低潮位ノ時期テ貯水不足ノ虞アルカ爲前年結氷前ニ多クノ取入ヲ

シテ置カネハナラヌ事ハ曩ニ述ヘタ通りテアルカ、五月以降ハ潮位モ相當高マリ來ルヲ以テ貯水ニハ春季ノ様ニ苦心ヲ要シナイ。其代リ此ノ季節ニハ多量ノ降雨カアツタリ強風カ吹イタリスルカラ其点ニハ殊ノ外氣ヲ配ラネハナラヌ。貯水ノ程度ハ季節、鹽田ノ地盤高、貯水池面積等ノ關係ヲ顧慮セナケレハナラヌカラ一定シ難ク各區鹽田個々ニ其標準ヲ定メル必要カアル。

從來高潮期ニ過度ノ海水ヲ取入レ之カ爲ニ貯水池堤防ヲ壞サレタリ或ハ水閘伏樋等ノ管理不充分ニテ日々多クノ漏水ヲ省ミサルカ如キ事往々アル。之等ハ現業ニ從事スルモノノ與々モ戒メネハナラヌ事柄テアル。

二、鹹水造リ

作業ニ經驗ノ少イ者ハ兎角結晶池ノミニ重キヲ置キ蒸發池ヲ全然閑却ス

ル傾カアル之ハ大ナル誤テアル。結晶池ハ人手ヲ多ク要スルシ勿論重要視セネハナラヌカ結晶池ノミニ偏シテハイケンナイ。蒸發池ハ全面積ノ九割モ占メテ居ルカラ其ノ良否如何カ鹽田ノ運命ヲ左右スルト云ツテモ差支ナイ。如何ニ結晶池カ完全テモ濃厚ナ鹹水カ出來テ來ナケレハ採鹽成績カ擧ラナイ。此ノ道理ヲ辨ヘテ蒸發池ノ水ノ繰リ方ニ細心ノ注意ヲ拂フ必要カアル。蒸發池ノ操水ノ爲最盛期ニハ經驗ノアル鹽夫ヲ一作業區ニ一名宛專屬サセテ置イテ操水ノ傍ラ畦畔ノ手入ヤ藻類ノ除去ニ當ラシムルノカヨイ。今日ノ様ニ勢力ノ少イ場合ニハ終日專屬ト云フ事ハ困難カモ知レヌカ採鹽等テ忙シイ時ノ外可成蒸發池ニ勞働セシムヘキテアル。

操水ニ就テ鹽夫ニ注意セシムヘキ事ハ水深ヲ一定度ニ保タシムル事、池

ヲ理由ナクシテ空虛ナラシメサル事、蟹穴等ヨリノ漏水ヲ防カシムル事、餘裕ヲ見テ藻類ノ除去並ニ地盤均シヲ爲サシムル事等テアル。現下ノ鹽田狀態ニテハ各鹽田水深ヲ一定セシムル事ハ困難テアル。鹽田ノ構造モ異レハ地割率モ同一ナラス、土質モ違フシ蟹ヤゴカイノ棲息ノ程度モ違フト云フ工合テ從テ水深ヲ同一ニ保タシムル事ハ六ヶ敷イカラ標準ヲ決定スル事ハ意義ヲナサナイ様ニ思ハレル。併シ大体ニ於テ蒸發量最多キ節ハ第一蒸發池第一段一寸五分、第二蒸發池第一段一寸結晶池第一段五分ヲ標準トシテ成ルヘク之ニ據ル様考慮ヲ巡ラサネハナラヌ。普通降雨ノ際ハ蒸發池ノ排水口ハ平素ノ水面ト同高ニ止メ置キ其以上ニ降り溜リタル雨水ヲ自然排出スル様手配シ置クトキハ鹹水ノ被害カ少イ。併シ雨カ霽レタ後蒸發池ノ比重ヲ檢シテ貯水池ノ水ヨリモ淡イ様

タツタラ入換ヘナケレハナラヌケレトモ單ニ比重ノミヲ見テ性急ニ入換ヘテ決行スル事ノ出來ナイ場合カアル。例ヘハ貯水量カ少イ爲メ全蒸發池ニ供給覺束ナイ場合外海ノ水ノ比重カ降雨ノ爲メ非常ニ稀釋サレテ貯水池及蒸發池ノ水ヨリモ淡イ様ナ場合等カ夫テアル斯ル時ハ周圍ノ利害關係ヲ考ヘテ有利ニ處理セネハナラヌ。

蒸發池ニ發生スル藻苔類取除ノ爲ニハ池ヲ時々乾カヌノモ一策テアル。仍テ第一段ト第三段トニ漲水シタトキハ第二段ト第四段トヲ乾カスト云フキ風ニ一格置ノ漲水法ヲ採ル事カ有効テアルカラ結晶池ニ於ケル鹹水ノ必要程度ヲ考慮シテ出來得ルナラハ此方法ニ依ツタ方カヨイ。

三、結晶及採鹽

結晶ノ方 鹹水比重二十三、四度ニ達セハ其ノ量ト補給鹹水量トヲ案シ結晶池ノ

結晶上ノ
注意

最下段ノ内、地盤ノ最良ナルモノヲ撰ヒテ豫定結晶格トシ、此ノ格ノ鹹水ヲ適當ナル上段ニ移シ結晶池ノ上段ニ於テ鹹水二十五、六度ニ達スル様操作シ此豫定結晶格ハ土底鹽田ニアリテハ小把ヲ以テ丁寧ニ泥土ヲ排出シ乾燥ノ適度ヲ見テ「ローラー」ヲ曳キ(結晶セシムル池ニ「ローラー」ヲ曳クハ主トシテ地盤固メナリト雖モ又一面ニハ池面ノ土壤ヲ能ク地盤ニ癒着セシムル目的ニ使用セラル、モノナリ)池面ニ溫熱ヲ帶フルヲ見計ヒ靜カニ水口ヲ開キ上段ノ鹹水ヲ徐々ニ注入シ結晶セシム。鹽並ニ玉石地盤ノ結晶池ニ結晶セシムルニハ豫メ池中ノ泥土ヲ排出シテ掃除ヲナシ然ル後結晶セシムルノテアル。

結晶ヲ開始スルニ當リ最モ注意ヲ要スルハ鹹水ノ量ト其比重トヲ考慮シテ之ニ適應スル結晶ヲ始ムル事ヲアル。之等ノ關係ヲ無視シテ結晶面

積ヲ擴張セシメンカ折角開始シタル結晶面モ中途補給鹹水不足ノ爲日光ニ曝露セシムルカ、然ラサレハ淡キ補給鹹水ヲ注入セネハナラヌ事ニナル淡イ補給鹹水ヲ添加シテ結晶鹹水ヲ飽和点以下ニ下ラシムル事ハ唯ニ結晶鹽ヲ溶解セシムルノミナラス或ル一定ノ期間結晶ヲ中止セシムルカヲ結晶能率ヲ減退セシムル事夥シイ。斯ル事ハ天日製鹽法トシテハ最モ拙劣ナル方法ヲアルカラ此ノ場合ニハ結晶面積ヲ一部分減シテ補給鹹水ノ充實ヲ計ラネハナラヌ。之ト反對ニ有リ餘ル鹹水ヲ持テ乍ラ補給鹹水ノ不足ヲ恐ル、ノ餘リ之ヲ鹹水溜ニ貯ヘテ置ク者モ見受ケルカ之亦愚策ヲ出來タ鹹水ハ貯ヘテ置イタトテ鹽ハ餘分ニ探レル譯テナイカラ一日モ早ク結晶セシメテ鹽ニスル事ニ努メネハナラヌ。要ハ上カラ出來テ來ル鹹水ニ順應シテ結晶面積ヲ増減スル事カ最モ自然的テ有効ナ方法テ

結晶中ノ
水深

アル。

結晶中ハ終始水深ニ氣ヲ付ケネハナラヌ結晶ハ出來得ル限り水深ヲ淺クシ其ノ代リ濃イ補給鹹水ヲ隨時少量宛注入スルノカヨイ。一日ノ蒸發量十耗以上ニナルト一日三、四回ノ補給ヲ要スル事カアル。所カ勞力ヲ厭フテ最初一度ニ多量漲水シテ置イテ最盛期テモ二日間ニ一回ノ補給ヲモナサナイト云フ鹽田ヲ見受ケル。斯ル方法ハ氣象狀態ノ非常ニ良好ナ土地ナラハ兎モ角朝鮮ノ様ナ土地テハ適法トハ申サレナイ。

水深ハ期節ニ依リ變更セナケレハナラヌカ最モ淺キハ池ノ全面ニ鹹水ノ行キ亘ルヲ度トシ、最盛期テ蒸發盛ンナ時テモ四分ヲ限度トス。而シテ濃厚鹹水量増加スルニ從ヒ結晶格ヲ増加セシムルト共ニ一方補給鹹水ニ

不足ヲ生セサル様注意ヲ拂フ事カ肝要テアル。結晶面露出セハ直ニ補給鹹水(比重二十二度以上)ヲ時々添加スルノテアル。一日ノ補給回数ハ最盛期平均二回春秋ハ一回位ヲヨイ。

鹹水ハ其ノ比重母氏二十五度カ飽和点ヲ二十五度ヲ過キルト鹽ヲ析出スル事ニナツテ居ルカ夫ハ新鹹水ノ事テ舊鹹水ニナルト含鹽量カ少クナルカラ大概二十七度位ニ至ラヌト結晶セナイノテアル。而シテ結晶中比重ハ段々昇ツテ來ル。比重カ昇ルニ從ツテ結晶量モ減スルシ品質モ惡クナルカラ比重ニ就テハ深甚ノ注意ヲ要スル。現今テハ三十一度(甕片鹽田ハ三十二度)ヲ最大限度トシテ居ル。鹹水比重三十一度以上ニ昇リタル時ハ結晶ヲ繼續スルコトナク寧ロ之ヲ排除シテ上段ノ池ニ移シ新鹹水ト混淆シテ比重促進ノ用ニ供スレハヨイ。

結晶ト天候

結晶ヲ開始スレハ晴天ノ持續スル限リ又地盤ノ軟化セサル限リ繼續セシムルノテアル。結晶中ハ常ニ天候ニ注意シ豫報ニ據ツテ大体ノ豫想ヲツケル事ハ勿論タカ時ニハ天候ノ急激ナル變化ヤ其土地ニ局限セラレタル驟雨ノ來襲モアルカラ注意ヲ要スル。殊ニ夜間探鹽ヲナス様ナ事アリテハ非常ナ損失ヲ招クヲ以テ夕刻ノ天候ヲ見定メテ怪シイト思ツタラ日中ニ全部ノ探鹽ヲ了ツタ方カヨイ。併シ一方カラ云ヘハ危惧ノ念ニ驅ラレテ一時的ノ小雨ニモ周章狼狽シテ折角ノ結晶ヲ溶カシテ鹹水溜ニ納メルカ如キハ之亦多大ノ損害ヲ招ク事ニナル。要スル天候ニ對シテハ細心テアリ又一面大膽テアラネハナラヌ。

色澤ノ良イ鹽ヲ探ラントスルニハ結晶層ヲ厚クシテ探鹽回数ヲ少クスル方カ良イケレトモ多量ノ探鹽ヲナサンニハ毎日探鹽シタ方カ有利タ。

探鹽ノ日

普通最盛期ニハ鹽片、玉石ノ鹽田ハ毎日、土底鹽田ハ隔日ニ探鹽スル事ヲ標準トシテ宜シイ。土底鹽田ノ隔日探鹽ト云ツテモ全結晶ノ半分ヲ本日探鹽スレハ後半ヲ明日探鹽スルト云フ意味テアル。次ニ探鹽ノ時刻テアルカ天候險惡ノ場合ハ朝探鹽シタ池テモ午後更ニ探鹽セナケレハナラヌ事モアルカ、普通ノ場合ハ早朝又ハ夕刻ニ探鹽スルヲヨシトスル。如何トナレハ探鹽後水ノ入レ換ヘ又ハ池ヲ洗フ事モアツテ日中蒸發盛シナ際ハ斯ル操作ノ爲結晶ヲ妨クルト云フ事ハ非常ナ損耗ヲ招クカラテアル。

土底鹽田ノ探鹽法

土底鹽田ノ探鹽ハ豫メ之ニ要スル器具ヲ(泥土ノ附着スルモノナキ様)準備シ小把ノ脊ヲ以テ輕ク結晶面ヲ叩クカ如キ心持ヲ以テ前方ニ押シツツ地盤面ヨリ結晶層ヲ剝離セシメ池ノ中央線ヲ限界トシテ大把ヲ用イテ

双方ニ曳キ分ケ、畦畔ノ邊ニ畝狀ニ播キ寄セ次ニ小把ニテ適宜小山ニ集メ鹽寄板ヲ以テ鹽策ニ播キ入レ色澤不良ノモノハ母液ニテ洗ヒ等級ヲ區分シテ畦畔上ニ並ヘタル鹽籠ニ入レ苦汁ヲ滴下セシメタル後倉入ヲナスノテアル。最初ノ採鹽ニ回位ハ一等鹽ハ探レル。併シ地盤造リカ不十分テアツタリ採鹽方法カ亂暴テアツタリ水深ノ淺イ池ヲ採鹽シタリシタナラハ鹽ノ品質カ粗惡ニナルカラ豫メ補給水ヲ充分ニ注加シテ採鹽スルノカヨイ。

鹽田採鹽法

鹽田ノ採鹽ハ鹽播ヲ以テ適宜鹽ヲ押シ寄セテ池ノ中ニ小山ヲ造リ、少量ノ鹽ハ鹽播ニテ水ヲ強ク播キ廻シ水中ニ動搖セル結晶鹽ヲ集中セシメルノテアル。又此ノ設備ノアル結晶池ハ地盤カ堅固テ少シ位攪拌シテモ大丈夫タカラ少量ノ結晶鹽ヲモ採レルノテ春秋ヤ降雨繁

採鹽後ノ處理

キ年ナトハ土底鹽田ニ比シ遙ニ活動カ出來得ルノテアル。採鹽了セシ池ヲ更ニ連續結晶セムル場合ニハ其ノ水深及比重ヲ適度ニ處理シ其儘結晶セシム。若シ其鹹水甚シク濁濁セル場合ニハ小把又ハ鹽播ヲ以テ地盤ヨリ濁濁ヲ生セサル様輕ク攪拌シ殘鹽上ノ沈澱土ヲ洗ヒ去リ急速ニ鹹水溝又ハ鹹水溜ニ落シ之ヲ上段ニ移シ清澄ヲ俟ツテ元ノ池ニ注加シ結晶セシムルノテアル。

地盤ノ仕換

結晶中地盤カ軟弱トナリ採鹽ノ品質カ著シク不良トナル時ハド―シテモ地盤ヲ仕換ヘネハナラヌ。地盤ノ軟弱トナル場合ハ多ク左記ノ時ニ起ルモノテアル。

- 一、地盤固メ不十分ナル時
- 二、手入ヲ爲サスシテ長時日結晶ヲ連續セシ時

三、池水ト比重ノ差大ナル鹹水又ハ雨水ニ遇ヒシ時
長時日結晶ヲ繼續セシムル時ハ如何ニ池表面ヲ洗ツテモ黒イ鹽カ探レル
カラ斯ル場合ハ結晶ヲ仕換ヘネハナラヌ。
結晶ヲ仕換ヘルニハ夕刻蒸發量ノ減少セル時ヨリ採鹽ヲ始メ少量ノ鹽ト
雖採收シテ比重十五度位ノ鹹水ヲ注キ夜間ニ於テ殘鹽ヲ溶解セシムルヲ
可トス。
之レ日中蒸發量ノ多キ時ニ殘鹽ヲ溶解スル努力ト結晶停止ノ損失トヲ省
ク目的テ此ノ際注加スル鹹水ハ殘鹽量ト之ヲ溶解スル鹹水ノ比重ニ依リ
十八度乃至二十二度位ノ溶液トナル様其ノ量ヲ加減ス可シ。
溶液ノ比重高キニ失シ不溶解鹽ヲ存スルトキハ翌日ノ作業ニ損耗ヲ來ス
虞カアル。斯テ翌早朝直ニ其ノ溶液ヲ上段ニ移シ新結晶格ト同様ノ心得

ニテ結晶ヲ行フノテアル。

地盤甚タシク軟化ノ場合ハ地盤ノ鹽抜キヲ行フ爲海水ヲ入レテ鹽分ヲ軟
キ準備作業ニ於ケル地盤造リノ方法ニ依リテ造リカヘネハナラヌ。

四、降雨ニ於ケル操作

大雨ノ際ハ迅速ニ採鹽ヲ了シタル後結晶ヲ溶解シテ鹹水ヲ鹹水溜ニ取入
レ尙努力ノ許ス限リ小把ヲ以テ水ノ流下ヲ助ケ鹹水全部ノ取入ニ努メ其
ノ水口ハ雨水ノ流入セサル様完全ニ締切リ池ノ水口モ亦同様締切ルカ宜
シイ。小雨ノ場合ハ採鹽シテ鹹水溜ニ下スニ止メ結晶ヲ溶解セナイテ雨
カ霽レタラ其ノ儘漲水スレハヨイ。

小雨ノ場
合

降雨量少ク第一蒸發池ノ鹹水モ排棄スルニ至ラヌ、第二蒸發池、結晶
池ニ溜リタル水モ比較的濃厚ノ鹹水ヲ満フル時ハ之ヲ上段適新セ送リ手

入ヲ要スル池ハ之ヲナシ其ノ他ノ池ハ地盤ノ稍々乾燥セルヲ俟テ共ニ適宜ノ濃度ノモノヲ鹹水溜ヨリ汲ミ上ケ漲水スルノテアル。結晶池採鹽後ニハ尙幾分ノ殘鹽アルノミナラス地盤含鹽量モ亦多キヲ以テ降雨量未タ多カラサル間ハ比較的濃厚ノ鹹水滲溜スルモノナレハ雨量尙多キ豫想ノ時ハ此ノ溜水ヲモ更ニ鹹水溜ニ取入ル可シ。普通小雨ノ場合ニハ雨水カ鹽分ヲ溶解シテ池ノ中ニ滲溜スルカラ雨滴カ直接地面ヲ叩クコトナクシテ比較的地盤ハ安全ナリト雖モ豪雨ニ至リテハ其ノ効力少ナイ。

大雨ノ害

豪雨ノ後ハ鹽田各部ニ亘ツテ相當ノ被害ヲ受ケルカ解水後ニ於ケル程テハナイ。唯タ地盤ノ含鹽分ノ薄メラレ爲ニ地盤軟化シ易イカラ溜リ水ヲ處理シ天候ノ恢復ヲ俟ツテ直チニ鹹水ヲ汲上クルコトハ勿論アルカ

地盤ノ鹹度ニ應シテ適當ナル比重ノ鹹水ヲ汲ミ上ケ地盤ニ吸收セシメタ後更ニ其次ノ濃キ鹹水ヲ注入スルコトハ大体準備作業ト同様テアルカ被害程度尠イトキハ勿論大袈裟ナ手ヲ入ラシナクモ宜シイ。朝鮮ノ雨期ハ大概七月中頃カラ八月中頃マテノ間ニアルノタカ雨期ニ入ツタカラトテ毎日降雨カ續クト云フ事ハ定ツテ居ナイ。大雨ノ續ク事モアレハ晴々曇ノ場合モアルノテ此ノ期間ニ於テモ天候ト鹽夫ノ配付數トニ應シ出來得ル限リノ採鹽ヲセネハナラヌカ餘程天候ニ氣ヲ配ラヌト大損ヲ招ク事カアルカラ注意ノ上ニモ注意ヲ要スル。此期間ニハ概シテ曇天モ相當續イテ製鹽作業カ比較的閑散タカラ此ノ機ヲ利用シテ鹽田手入ヤ堤防ノ修理ヲ行フヘキテアル。

降雨ノ際ハ鹽夫ヲシテ倉庫内ニ於テ在庫鹽ノ整理ヤ器具ノ修理ヲナサシ

雨後ノ排水

メ雨ノ霽間カアツタラ假令三十分テモ一時間ヲモ外ニ出テ、鹽田ヲ堤防ノ修理ニ利用セネハナラヌ。假リニ百人ノ者カ一時間働ケハ一人ノ者カ十日間働イタ結果ニナルノ多數ノ鹽夫ヲ使役スル鹽田擔當者タル者ハ此ノ点ニ於テモ非常ニ責任ノ重キヲ自覺シテ怠ツテハイケナイ。

夜間作業

豪雨降り續イテ鹽田ニ雨水ノ停滯甚タシク低イ鹽田ハ一面ノ海ト化スル事カアル。斯ル場合ハ往々排水ニ就テ水喧嘩力起ル事モアルカラ高イ地盤ノ鹽田ノ擔當者ハ公徳心ヲ重シシ排水ノ順序方法ニ就テハ監督者ノ指揮命令ヲ遵守セネハナラヌ。

前述ノ如ク採鹽ハ普通晝間ニ之ヲ行フカラ夜間ノ降雨ノ場合ハ單ニ鹹水ノ處理ヲスレハヨイノテアルカ時トシテハ夜間採鹽ノ必要ヲ生スル事モアル。斯ル場合ハ豫テ用意シテアル作業燈ニ点火シ鹽夫ヲシテ最モ敏

責任ノ重

五、鹽田堤防建造物及器具類ノ管理並ニ修理

鹽田ノ従業員ハ鹽サヘ採レハ自分ノ責ヲ果シタ様ニ思フノハ大ナル誤解テアル。最モ少ナイ面積ヲ受持ツテ居ル擔當員ヲサヘ數萬圓ノ官有財産ヲ管理シ之ニ依テ相當ノ收入ヲ圖ラネハナラヌ責任カアルノタカラ其ノ職責ノ重大ナルヲ覺ツテ自己ノ鹽田ハ勿論之ニ附隨スル堤防ニ對シテモ寸時モ愛護ノ念ヲ忘レテハナラヌ。

鹽田ハ年々狂ヒテ生ス

完全ニ竣成シタ鹽田ヲモ何時マテモ原形ヲ保ツト云フコトハ覺東ナキ

堤防ノ保
護

五〇
ノテ年々狂ヒヲ生スルノカ常テアル。而シテ毎日作業シテ居ルト其ノ變
化カ判ル等タカラ惡クナツタ處ハ作業ノ餘暇ヲ以テ手入ヲセナケレハナ
ラヌ。單純ナ一例タカ平素水路ヤ鹹水溜ノ浚渫ヲ怠ツテ居タ爲必要ノ迫
ツタ際作業上ノ手達ヲ生シ遂ニ敗者ノ位置ニ立ツタ者モアル。
鹽田内部ニ比シ一層變化ノ甚タシイノハ堤防テアル築造當時規定ノ高
サヲ保ツテ居タ堤防カ五年ヲ經過スル内ニ五寸乃至二尺ノ低下ヲ見タ實
例モアル。其ノ原因トシテハ軟弱ナル地盤ニ因ル沈下モアラウ、土ノ落
付イタ故モアラウ、又永年風雨ニ曝サレ土ノ流失シタ爲メテモアラウカ
要スルニ堤防ハ年々瘠セテ行クモノテアル。殊ニ新堤防ニ於テ其ノ程度
カ甚タシイ。

仍テ定メラレタル受持區域ノ堤防水閘、伏樋等ニ就テハ常ニ細心ノ注意

營造物ノ
管理

ヲ拂ツテ之カ保護修理ニ努メネハナラヌ。
高潮警戒ハ上官ヨリ指揮ヲ待ツ迄モナク行ハネハナラヌカ命令カアツタ
ラ晝夜ヲ間ハス嚴重ニ勵行セネハナラヌ。
僅ナ損害ヲ濟ムヘキ事テモ警戒ノ足ラサリシ爲大破ヲ招ク事モアル。
殊ニ故障ハ水閘ヤ伏樋カラ起リ易イカラ之等ノ箇所ニモ警戒ノ手ヲ緩メ
テハナラヌ。

器具ノ保
存

鹽夫舍、鹽庫等ノ營造物モ小破ノ際ニ材料ヲ要求シテ修理シテ置カヌ
ト次第ニ大破スルニ至リ修理ニ非常ノ手數ヲ要スル事トナル。殊ニ管理
上注意ヲ要スルハ火氣ノ取扱テアル。鹽庫内又ハ附近ニ於テ焚火ハ勿論
喫煙モ嚴禁テアル鹽夫舍ノ火ノ始末ニ就テハ嚴重ナ取締ヲ要スル。
器具類ハ使用方法及手入ノ如何ニ依ツテ保存年限カ永クモナリ短クモ

ナルヲタカラ直接使ノ任ニ當ル鹽夫ニ對シテ其ノ使用法ヲ喧シク云フ
ヲ大切ニ取扱ハシメネハナラヌ。尙前ニモ陳ヘタ通リ小破ノ時ニ手入ス
ルコトカ肝要ナル而シテ折角手入ヲシテモ後ノ修理力出來ナイ様ナ事ヲ
シテハ困ル。例ヘハ水車ノ如キ一時ノ間ニ合セニ大キナ釘ヲ多數ニ打付
ケルト後ノ修理力困難ニナル。尙鹽田擔當員ハ小間ヲ得テハ器具ノ整理
ニ意ヲ用フヘキテアル。

結水中ノ
管理

結水ニナルト鹽田内ニ管理者カ居ナイカラ盜難ノ虞カ多イ故各擔當員
ハ交代シテ一日一箇以上鹽田ヲ限ナク巡回シテ安全ヲ期セネハナラヌ。
殊ニ結水前及解水期ニハ流水ノ爲排水伏樋ヲ破損スル事アルヲ以テ此ノ
点ニ注意ヲ要スル。

六、鹽田有害物ノ除去並ニ豫防

鹽田有害物トシテハ海藻類「ごかい」蟹及本造物ニ被害ヲ及ホス「りひの
りあ虫」等カ其ノ主ナルモノテアル。今日之等ノ有害物ヲ科學的ニ撲滅
スル方法ハナイテモ無カラウカ廣大ナル鹽田ノ事アルカラ實地ノ應用
ハ困難テアル。

海藻類ノ
除去

海藻類ノ種ハ極メテ微小テ布ノ織目テモ通ルト云フ厄介物ナルカラ
一旦貯水池ニ發生シタラ蒸發池ヘモ當然浸入スルノテアル。ソコテ種其
物ヲ蒸發池ヘ入レナイ様ニスルコトハ出來ナイカ、セメテ種ヲ持ツ根幹
ノ流入テモ防禦シタナラハ幾分カ効果アルカラウト思ハレルカラ給水
伏樋ノ取入口ノ前方ニ腹簀ヲ用ヒテ之カ流入ヲ防ク設備ヲナシ尙用水路
ヨリ蒸發池ヘノ分水伏樋取入口ニモ廢棄スヘキ鹽籠、鹽簀等ヲ設メテ之
カ流入ヲ豫防シタラヨイ。

「ごかい」機

海藻蒸發池ニ發生シタラ手ヲ取ルカ或ハ熊手ヲ搦キ集メ鹽籠ニ入レテ拾
テルヨリ今ノ處他ニ妙案カ無イトサレテ居ルカ此方法モ鹽田ノ素質ヲ惡
クスルコトハ曩ニ準備作業ノ項ニ於テ記述シタ通りテアル。藻類ノ繁殖
ハ五、六月頃ヨリ夏季ニ旺盛テ水ノ滯溜シテ居ル貯水池ヤ、落差ノナイ
池ヤ、有機質粘土ノ池ニ多イ。絶滅セシムルニハ時々排水シテ鹽田ヲ強
キ日光ニ當テ、乾燥セシムルノカ一番ヨイ。
「ごかい」モ製鹽ニ及ホス被害カ大テアル。此ノ撲滅ニ最近煙草屑ヲ試
用シタルニ成績ハ良好テアル。鹽田ニ於テハ濃厚鹹水ヲ繼續シテ漲ツタ
ラ死滅セシムル効果カアルカ第一蒸發池ニマテ及ホスコトハ困難テアラ
ウ。「ごかい」ノ土ヲ盛出ス事多キ池ニアリテハ操作ノ都合ヲ見計ヒ大把
テ之ヲ搦キ均シ、煙草屑ヲ使用シテ之カ撲滅ヲ圖ルカヨイ。煙草屑ヲ

かい驅除ニ用ユルニハ豫メ其池ノ水ヲ落シ置キ然ル後煙草屑ヲ適宜布袋
ニ入レテ鹹水流入ノ水口(上段ヨリノ)ニ横ヘ置キ水口ヲ開キテ上段ノ水
ヲ流入セシムルト共ニ袋ヲ足ニテ克ク踏ミ絞リテ浸出液ヲ池中ニ流シ込
ミ水カ池ノ面ニ行キ亘ル程度ニ漲ツテ暫ク放置ス。浸出液汁ハ畦畔ノ周
圍ニ沈滯スル傾向アルカ故小把又ハ大把ニテ水面ヲ始終攪拌スルヲ可
トス。斯クシテ浸出液カごかいノ棲息点ニ達スルトごかいハ穴ヨリ出テ、
死滅スルノテアルカ之ヲ一晝夜モ放置スルト又亦生返ル虞カアルカラ液
汁ヲ入レタラごかいノ動靜ニ注意ヲ拂ヒ水中ニ出テタルモノハ直チニ取
リ去ルヲ要スルノテアル。煙草ノ浸出液ノ入ツタ水ハ幾回モ繰返シ之カ
驅除ニ使用シ製鹽ニハ絶對ニ使用シテハナラスノハ勿論袋ヨリ漏レタル
粉末モ鹽ノ結晶ニ混入セサル様吳々モ注意スヘキテアル。

蟹 驅 除

蟹モ濃厚鹹水ニ弱イノテ鹽田ガ成熟スルニツレ漸次上段へ居ヲ移スノ
テアル。蟹ヲ取ルニハ夜陰點火シテ集ツテ來タノヲ捕ヘルヨリ外ニ妙案
モナイ様タ。排水路ノ畦畔ヤ貯水池堤防ニ穴ヲ穿ツタナラハヨク掘ツテ
蘆草ヤ藁ヲ入レテ埋メルト効果カアルカ穴ノ位置ヲ次カラ次ヘト移スカ
ラ蟹其ノ物ヲ捕ヲナイ以上油斷カ出來ナイ。

りむのり
防虫ノ豫

「りむのりあ」ハ水開伏樋ノ木質部ヲ始終水ニ浸ツテ居ル部分ノ表面
ニ針ヲ穿ツタ様ナ微孔ヲアケテ浸入スルカラ餘程注意シテ居ナイト判ラ
ナイ、一旦犯シタ以上夫レカ堅木ノ太イ柱テモ一、二ヶ月ノ間ニ空堀ニ
シテシマウカラ此レ程恐シイ害虫ハナイ。排水伏樋ハ浸水スル時間カ短
イカラ被害モ少イカ水開ヤ用水伏樋等ハ時々乾カシテ「クレオソート液」
ヲヨク塗布スルカ或ハ表面ヲ焼イテ豫防ニ努メネハナラヌ。併シ一旦虫

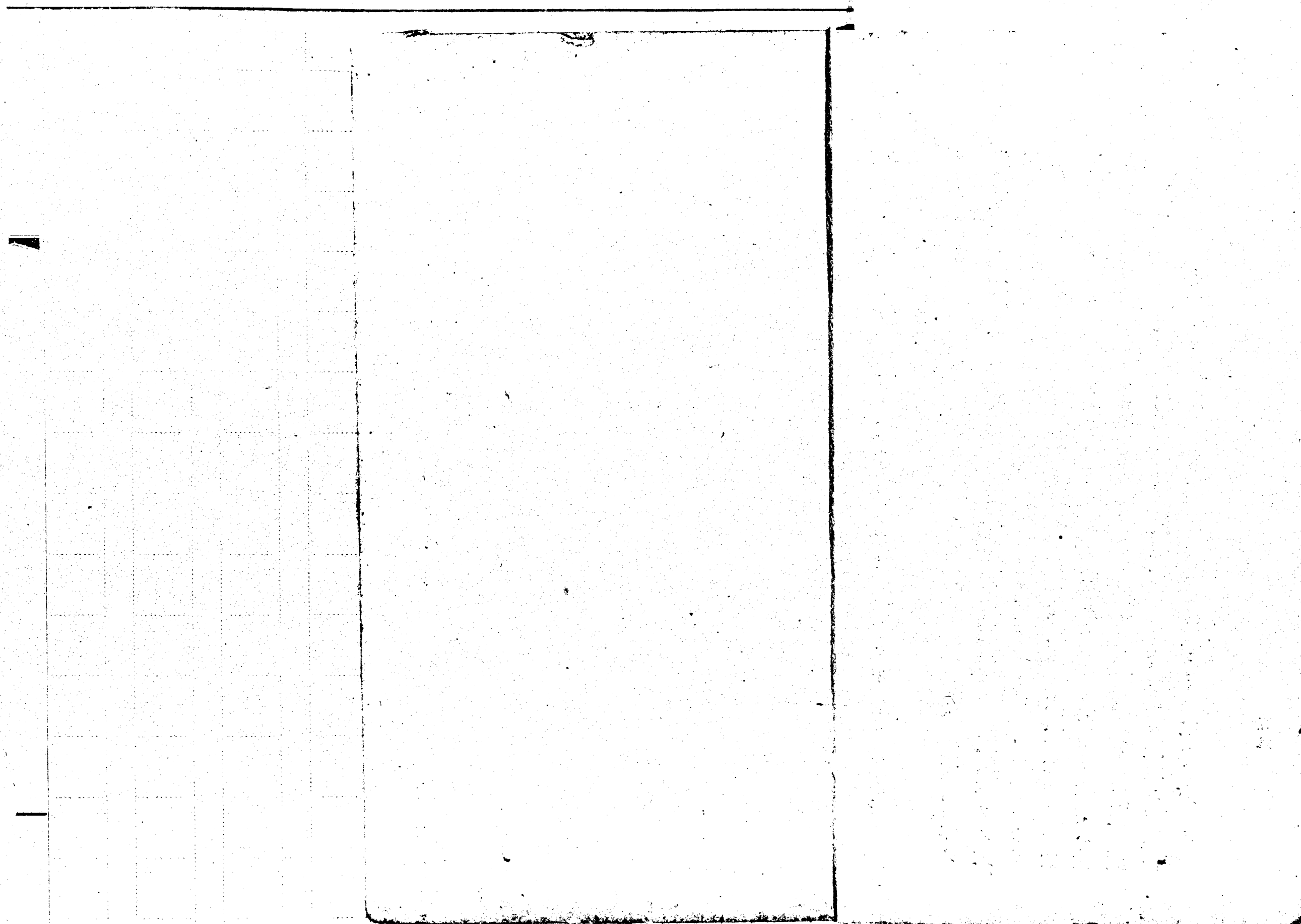
カ入ツタラ如何ナル方法ヲ講シテモ駄目テアル。
七、製鹽終了期ニ於ケル處置

製鹽ノ終了期ニハ作業上ノ處理ヲヨクシテ置カスト自然明年ノ製鹽ニ差
支ヲ生スルカラ十分氣ヲ配ツテ處置セネハナラヌ。其ノ處理方ノ如何ヲ
見テ鹽田擔當員ノ個性カヨク判ルノテアル。
製鹽ノ終期ニナツタラ鹹水ヲ同比重毎ニ又ハ可成差ノ少イモノヲ取り交
セテ同、一ノ鹹水溜ニ滿シ水口ヲ堅ク閉塞スルノテアル。
器具類ヤ板類ハ土ヲ洗ヒ落シ修理ヲ加ヘ總テ倉庫ニ格納シ種類毎ニ整頓
シ何時ニテモ検査ニ應シ得ル様準備シテ置タコトカ必要テアル。
在庫鹽モ規則正シク積ミ上ケ頂面ヲ平ニ均シ實測ニ便ナラシメネハナ
ラヌ。

以上ノ處置カツイタラ鹽庫ヤ鹽夫舍ノ戸締ヲ完全ニスルノテアル。
 冬期中第二蒸發池及結晶池ニ漲水シテ置ク鹽田ト漲水セナイ處トアル。
 完全ニ厚ク漲水シテ置ケハ地盤ノ凍結ヲ防ク爲ニハ勿論有効ニハ違ヒナ
 イ。併シ僅カ許リ漲ツテ結水中途地盤ヲ露出セシムル様ナ不徹底ナ漲リ
 方ナラ寧ロ最初カラ乾カシテ置イタ方カ利益タ。玉石ヤ鹽ノ地盤ハ漲水
 シテ置ケ方カヨイ。水量カ減スレハ時々補給セネハナラヌ。
 鹽田ニ結水ノ用意ニ漲水シタラ貯水池ニ海水ノ取入ヲ要スル。此ノ海水
 ハ明春準備作業ニ使用スルモノテ春ハ低潮ヲ少クトモ一ヶ月分ノ所要水
 量ヲ用意セナケレハナラヌノテアルカラ堤防ノ許ス限リ十分ニ取入レテ
 置カネハナラヌ。
 海水取入ヲ終ツタラ水閘ヤ用水伏樋ヲ完全ニ締メテ絕對ニ漏水シナイ様

ニシテ置カヌト數ヶ月間ノ結水期中ニ非常ナ減水ヲ來ス虞カアル。
 八、秋季ニ行フ準備作業

製鹽終了後ニ於テモ未タ外業カ出來ルノテアルカラ此時季ニ於テ明年ノ
 準備作業ノ用意ニ蒸發池ノ地均、畦畔修理、溝浚渫等ノ土工的作業ノ大
 部分ヲ爲シテ置ケハ明春ノ準備作業ノ期間ヲ短縮スルコトカ出來ルカラ
 ヨイ方法テアルカ何分結水期ヲ經過スルコト故之等ノ土工的作業ヲモ仕
 上ケ丈ケハ春季ニ讓ルカヨイ。秋季ハ日カ短クモアリ又之等ノ作業ハ仕
 事ノ性質上請負ニ附シタ方カ能率ヲ舉ケル点ニ於テ有利テアル。鹽片鹽
 田ノ如キ結晶池漲水ニ補給ノ目的ヲ製鹽終了後蒸發池ニモ漲水スル鹽田
 ニアリテハ秋季ニ於テ行フ準備作業ノ範圍カ自然少イカ之ハ致方ナイ。



9/2

①

②

朱安出張所管内

南洞 派出張所管内

10

10

①
專賣局長、製塩官署、塩田視察、記念写真。(松本局長)

場所、朱安管内、南洞派出所。 撮影、昭和三年



松本局長
佐田石川
三田監督
大井清

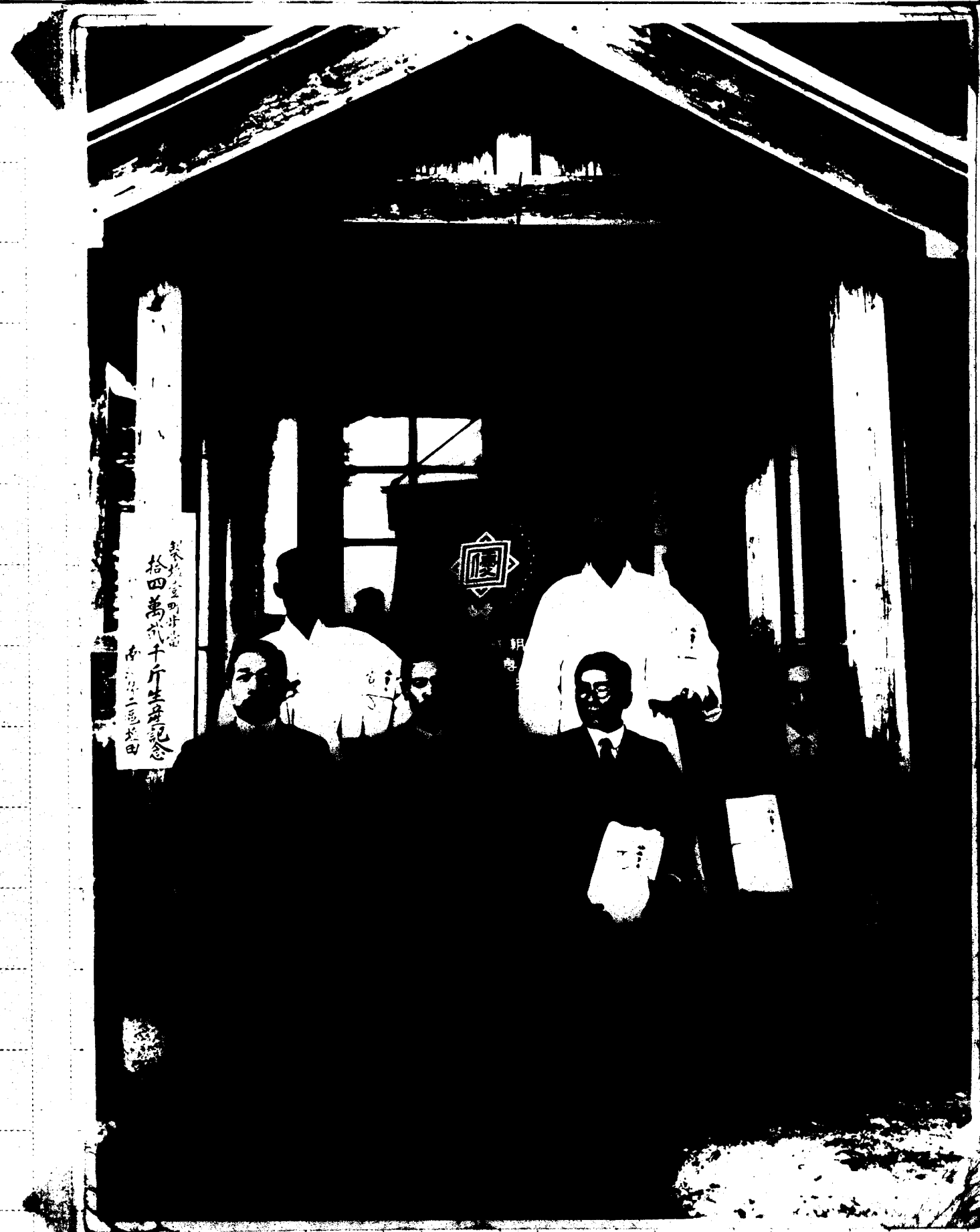
三田監督
廣原口橋之
二田監督
佐田石川
南洞派出所長
坂手野久雄
土木係
佐賀野中
一田監督
坂手橋口東次

朱安出張所長
技師大山清氏
本局製塩課長
山沢和三部氏
專賣局長
松本誠氏
本局

後列
前列

② (昭和三年度に於ける)
製塩官署の行事、製塩優良塩田表彰記念写真。

場所、米安出張所管内、南洞派出所。撮影昭和3年10月。

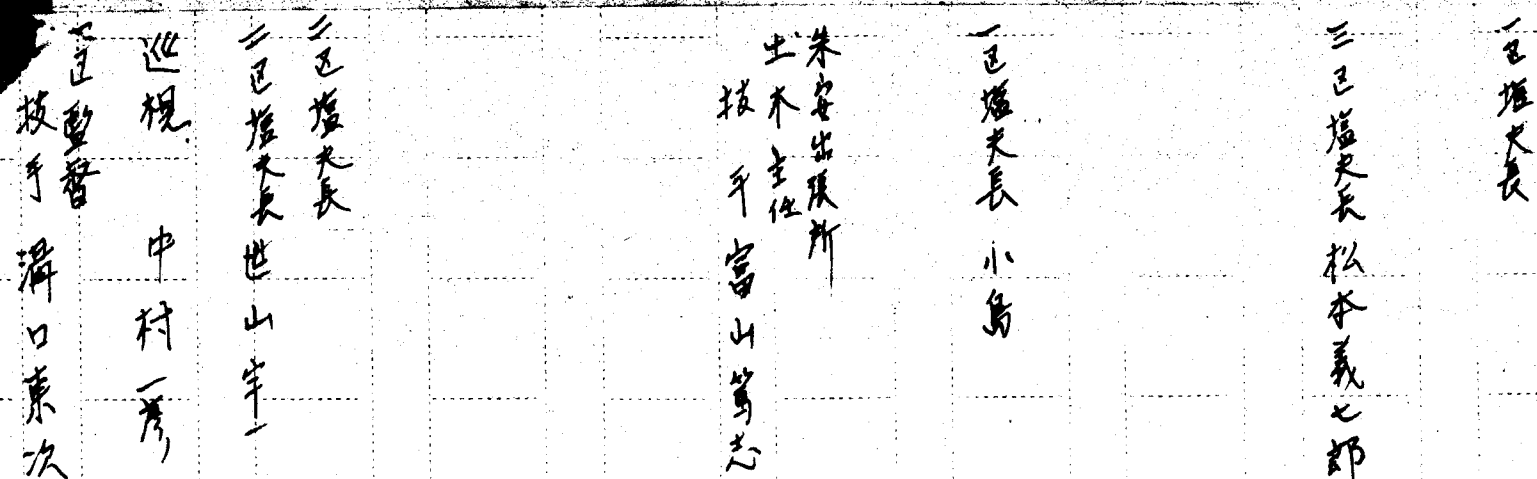


米安出張所管内第一区、
表彰塩田、南洞第三区塩田、
塩生産高、八、四、四、五、
一、四、三、〇、〇、〇、
一、四、三、〇、〇、〇、
塩田面積一〇五町歩

第三区塩田長 世山 年一
第二区塩田長 李 徳 勉
第二区塩田長 原 田 珍 之 助
第二区塩田監督 石川 武 吉
第三区塩田長 李 天 吉
所長 坂 平 羽 島 久 雅 氏

車賣局。朱安出張所管内。南洞派出所。塩田三百町步。

一、二、三區鹽田整督及鹽田巡查員 14 名



朱安出張所
董事主任
坂平 平野太郎
朱安出張所長
坂師 大山清
南羽雅出所長
坂平 羽鳥久雄
二區留置落
坂平
廣 夏石川武吉
坂平 田辺隆平

前
列

B4 **20 × 20**

朱安第三巴塩田 採塩の状況



昭和三年 第二區塩田、現場にて記念撮影

增光長
 厚田捨三助
 增天長 李德勲
 增長長 李元奎
 監督 石川武吉
 增光長
 世山亭一

コクヨ

[illegible]

南洞派出所

實面積調查表

(昭和十四年九月二十三日)

合計	分劃	三區	二區	一區	五區	面積
合計	分劃	5町	分劃	5町	分劃	5町
6708.7	6708.7	2283.0	2298.4	2127.3	1954.9	127.3
6026.7	6026.7	2005.0	2066.8	1954.9	1648.4	127.3
5111.9	5111.9	1717.0	1746.5	1648.4	1383.0	127.3
4485.8	4485.8	1408.0	1694.8	1383.0	1128.7	127.3
3537.1	3537.1	1118.0	1290.4	1128.7	907.3	127.3
2846.1	2846.1	910.0	1028.8	907.3	779.0	127.3
28716.30722	28716.30722	9441.0	10125.7	9149.6	779.0	127.3
2401.6	2401.6	788.0	834.6	779.0	586.9	127.3
1817.1	1817.1	614.0	616.2	586.9	491.4	127.3
1488.4	1488.4	508.0	489.0	491.4	382.2	127.3
1182.6	1182.6	400.0	400.4	382.2	346.9	127.3
6889.7	6889.7	2310.0	2340.2	2239.5	346.9	127.3
1136.9	1136.9	406.0	384.0	346.9	382.3	127.3
986.5	986.5	256.0	348.2	382.3	348.2	127.3
903.4	903.4	240.0	315.2	348.2	329.5	127.3
881.0	881.0	254.0	297.5	329.5	252.0	127.3
252.0	252.0	252.0	1344.9	1406.9	1406.9	127.3
4159.5	4159.5	1408.0	1381.08	1279.60	1279.60	127.3
3796.5	3796.5	1315.90	1381.08	1279.60	1279.60	127.3

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

南桐第五號蒸死地之結晶地面積調查表(附土地所有主名)

[illegible]

考調查個所，五縣煙田見張所前五步。

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

南洞第二區塩田一付當奥面積調査表(比重觀測施行塩田)

昭和十四年九月二十三日調査

二號 五町	定測 面積	第一蒸発池				第二蒸発池				第三蒸発池				計 總計
		一 段	二 段	三 段	四 段	一 段	二 段	三 段	四 段	一 段	二 段	三 段	四 段	
	坪	22854	20664	17465	16948	12804	10202							
733		101257	8346	11620	4890	4104	23402	2040	2452	2152	2775			12449
790														
097														
1000														

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

南洞第三區塩田比量觀測ヶ所真面積調査表(真面積)

五郷塩田並側一級列面積五町步(單位坪)

五郷	觀測	面積	第一	第二	第三	第四	第五	合計
町五	面積	228坪	205坪	171坪	140坪	118坪	910坪	718坪
		944坪	788坪	614坪	108坪	110坪	2210坪	475坪
		406坪	256坪	240坪	254坪	252坪	1442坪	407坪
		1216坪						1080坪

朝鮮總督府專賣局朱安出張所

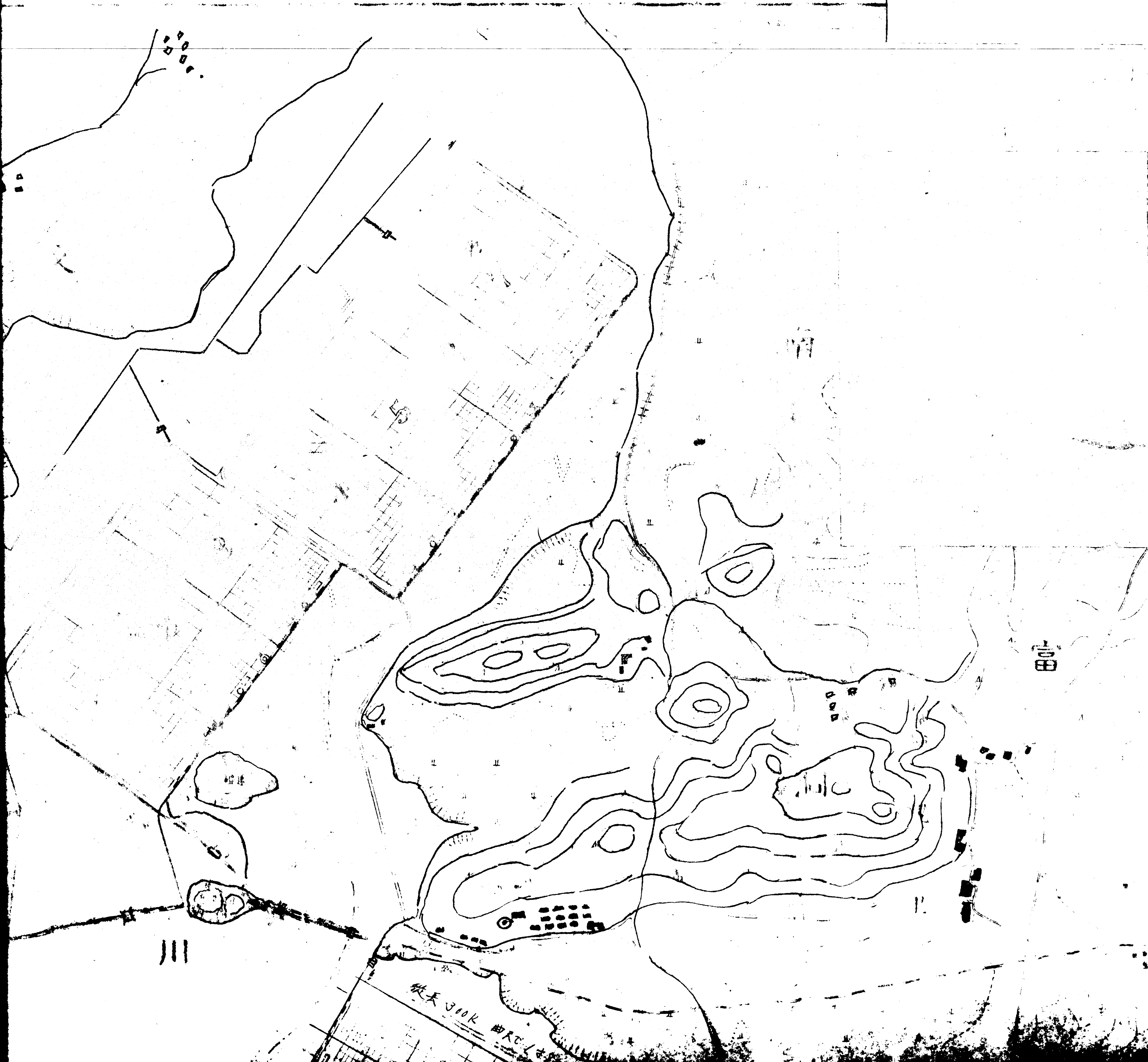
朝鮮總督府專賣局 南洞塩田平面圖

(壹萬分之二)

所在地 京畿道南洞面地先

塩田面積 三百町步

縮入





圖

縮尺一萬分之一

富

川

從長 300 呎 曲尺 1 寸 5 分

100 曲尺 1 寸 5 分





君子

①

大正十四年三月三十一日 竣工の

一、君子塩田の竣工式に臨みて

専賣局米岸出張所 庶務主任 近藤壽太郎氏
合 本 局 塩務主任 榎木隆平氏

君子塩田は、朝鮮天日塩田築造史に比類のない雄工事の結果、
竣工されたもので、近藤、榎木両氏の技術文は、塩田築造の図説と
知る上へ貴重な一文である。

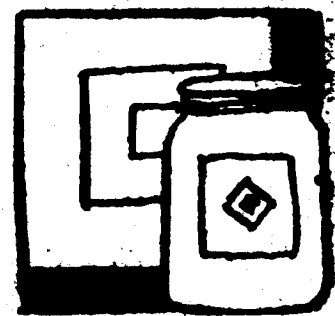
一、大正十四年の米岸南洞、君子、塩田の塩田祭につき

米岸出張所 庶務主任 近藤壽太郎氏

大正十四年五月六日

君子塩田の竣工につて。

朱子出張所 庶務主任、近藤奇太郎
京城専賣局、塩務係 櫻木醇平



君子鹽田の竣功

朱 安 近 藤 生

位 置	京畿道始興郡君子面
有 効 面 積	五百七十五町歩
工 費 總 額	金百四十三萬八千餘圓

一、沿 革

君子鹽田は大正九年度に於て我朝鮮内の鹽の自給策が講ぜらるることとなり、七ヶ年の繼續事業として二千六百町歩の天日鹽田を築造することに決定し豫算も、成立して、朱安に一千百町歩、廣梁灣に一千町歩、南市に五百町歩を割當てられたのである、朱安に於ては現在鹽田を擴張する餘地なきを以て南村（今の南洞鹽田）以南に地を撰び南進して開拓するを得策と認めたのである。先づ以て南洞鹽田第一、二、三區を築造し、四、五區を後廻しとし第六區を築造することとなつたのである、君子鹽田は即ち是である。

二、工事及其の經過

鹽田築造工事は普通の土木工事と異り蒼海を化して田と爲す工事に於て潮時と密接の關係あり故に特に經驗と信用とを要するを以て公入札と爲せず指名入札と爲すを例として居る、本工事も其の例に従ひ有力なる土木請負業者七名を選び指名入札に附したのであつた、其の結果京城吉野町戸川金藏氏に金九十一萬八千圓にて落札した。

大正十年十月二十二日請負契約を締結して同年十一月一日工事に着手した、間もなく結氷期に入りたる爲假事務所の建築や外廓堤防用の採石準備等怠りなく行つた。

干潟地は一見平坦なるが如きもそこに濤が通て居て之を締切るとは容易の業でないのである、内部總面積約一千町歩

の廣漠たるもの故大濤小濤無數ある其の内最大なるものを最終に残し他は順次締切り堤防を連續せしめるのである、同年三月解水後は毎日二千人以上の入夫を出働し工事も順調に進捗して延長約五千間に亘る外廓堤防の約五割方出来上りたる大正十一年七月二十七日大暴風雨に襲はれ折角築造せし盛土の大半を流失し之が瘡痍の未だ癒へざるに又もや八月二日前より一層激しき颶風の襲來するところとなり搗て、豪雨を伴ひ折柄高潮時なりし爲甚大なる損害を被り難工事となるに至つた其の復舊の爲に盛土すれば流失し、昨日の盛土は今朝其の影を止めざるに幾同なるを知らず工事上一大蹶跌を來たし進捗せざるに夥しく、請負人たる戸川金藏氏は遂に失脚し保證人たりし秋山研亮氏代て工事を施行することとなつた大正十二年四月其の組織を改善し極力工事の進捗を謀り現時監督員に於ても亦鞭撻を怠らず同年七月十三日外廓堤防の締切工事を了り小康を得るに至つた。



てより一月目の八月十三日西鮮一帯を襲ひ來れる大海嘯の災厄に遭遇し一時時に數ヶ所を決潰せられ再び蒼海に變して其の慘狀見るに忍びざる有様となるに至つたのである。

尋常にては最終締切まで到達すること覺束なき状態となつた、そこで此の不測の大海嘯に依る損害額の幾割かを政府に於て負擔することとなり同年十二月息も凍結するが如き嚴寒に青木局長、今村庶務課長、山岸技師、眞田技手並朱安よりは宮田所長外十數名現場に出張して殆んど直營の如く一氣呵成に息を繼ぐ暇も與へず入夫を督勵せられた甲斐あつて同月四日完全に締切工事を結了したのであつた。其れより工事は順調に進行し本年三月三十一日を以て全く竣功を告げたのである。

築造工事は始めの消費額九十一萬八千圓であつたが暴風或は海嘯の爲に數回設計變更を行はれ約百二十七萬圓に達したのである其の代り堤防なさは始めの設計と異り立派なものが出来上つたのである。内部面積一千町歩の鹽田としては此の位の堤防とすべきは寧ろ當

であらう。

本工事の犠牲者として主なるものを舉ぐれば前工事主任大住技手は工事の進捗せざる爲前途を憂ひて宿願を達し大正十二年二月某日玉釣島の官舎に於て黄泉の客となり。請負人の現場代人たりし吉城與四郎氏は常に現場に出張して粉骨碎身の勞を厭はざりしに是亦、病を得て數月の後病没せられ、請負人戸川金藏氏の失脚は前既に述べたる如く、又秋山研亮氏は數十萬圓の私財を蕩盡し尙債務の果さざるもの數萬圓あるが如し。其の他野口現所長夫妻は昨年八月六日兇漢に襲はれ頭部に大負傷し幸にして數日後全快したるも一時は重症に陥りたる等あり。

三、竣功式及祝賀會

五月六日竣功式は鹽田現場に於て、祝賀會は仁川公會堂に於て舉行せられた、當日の來賓は京城方面は青木局長、今村庶務課長、山岸技師、吉留副事務官、佐藤京城支局長、美座大邸支局長、有賀殖銀頭取(都合にて出席せられず)韓漢城銀行頭取(同)利府永登浦署長、宮田廣榮灣出張所長在京城各新聞記者其他有志合せて二十餘名仁川方面は中島仁川府尹、釜瀨税關長代理大森警察署長、保坂郵便局長、中野裁判所長、圓中海事出張所長、西林專賣局出張所長在仁川各新聞記者其他有志合せて約二十餘名午前十一時梅丸及税關ランテ宮丸に分乗し仁川棧橋を

解纜し互に相後して午後一時三十分玉釣島橋に着するや數發の煙花を打揚げ君子派出所職員全部の出迎に依り直ちに式場に至り新に造營せし鹽神神社大前にて磯野神官の祝詞に依り式を始め野口所長、秋山工事施行人、青木局長玉串を捧げ次で野口所長の式辭あり、工事報告は近藤屬之を代讀し、秋山氏の祝辭青木局長來賓を代表して祝詞を述べられ記念撮影の後式を了へ式場横に設けられた天幕内にて祝盃を掲げ午後四時各ランテに乗船し君子の人名残を惜まれて互にハンカチを振りかはし一聲の氣笛を残して玉釣島を辭し同五時三十分再び仁川棧橋を踏み差廻したる自動車に分乗し仁川公會堂に迎へて同六時野口所長の簡單なる挨拶に中島仁川府尹來賓を代表して祝詞を述べられ直ちに宴を開き京城及仁川の一流の紅裙隊入り亂れて酒間を舞踏し宴酣なるや仁川藝妓の勳進帳、汐波其の他數番の餘興あり野口所長お箱の八木節の手踊を演し一段の興を添へ主客胸襟を開いて十二分の歡を盡して豫定の通入時十分無事故會し百五十人に餘る大宴會にして而も式場と海を隔て、行ひ何一つ故障なかりしは實に天祐であつた。宴畢てて重荷を卸した様な何とも言へぬ快感を覺えた。次ぎに當日の式辭並祝辭を添記して擲筆する

祝 辭

時は正に陽春の佳節今日此處に君子鹽田築造工事の落成式を
舉行す、渺々たる雪千町歩の鹽田は眼前に横わりて此の舉式を
飾る、あゝ何たる痛快ぞや。

願れば大正十年十一月此の工事に着手してより今日に至る迄
實に三年五ヶ月の長き時日を要し、當初茫漠たる海濱泥土膝を
没する中に入り水鳥の如く全身泥土にまみれて築堤に従事し、
寄せてはかへず波に持ち去られつゝも尙精勵よく其の工程を進
めたるも或は海嘯に或は暴風雨に、幾多の災厄を蒙り最早や其
の完成もあやぶまれたりしも事實當局を始めとして各位の深刻
なる同情によりて漸く此の難關を突破し、爾來困苦窮乏に耐へ
あらゆる辛酸を嘗め盡して今日の祝典を舉ぐるに至れり。

一度杖を洩いて外堤を一周すれば嘗て身命を賭して戦ひたる
地點の外郭は外海より寄せ来る泥土に掩れて其の當時の状況
を偲ぶに足らずと雖も、内部に渾々たる碧水をたゝへた埋没し
能わざるものあるを見れば僅に昔日の面影を追想するよすがた
るを失わず、予輩此の地點に立ちて當時を追憶すれば感慨無量
低回して去る能わす。

嗚呼此の苦みを經て此の喜びを迎ふ、予の心中に覺ゆる爽快

の念は到底筆舌に盡し得べきものならず感極りて瑞喜の涙にむ
せぶのみ。

工事設計者大住技手は此の地に永遠の眠りに就き、請負人戸
川金藏氏失脚して此の地を去り、現場主任吉城與四郎氏は此の
事業の責任に堪へずして倒る、予輩又其の保證責任の爲めに素
封を湯瀝し多額の負債を負ふて本事業に殉じ、落莫の境遇に呻
吟す泉下に於て此れを眺むる父祖の心臓は誠に冥目し能わざる
ものあらん。

然れども人皆何等かの使命を帯びて此の世に生るるものなれ
ば各々其の使命を全ふして天意に添ふを以て本分とすべきもの
なるべし、不肖の使命は此の事業の爲めに殉じて倒るべきにあ
りたるを感ずれば家を倒し身を殉ずると雖も、本事業の完成せ
られたるを見て自ら慰むる處あると共に人生の意義を永久に此
の地に止めて安ぜんと欲す天神地祇も幸ひに之れを諒せよ、

君子鹽田竣功の佳節に臨みていささか祝意を述ぶ

大正十四年五月六日

工事施行人 秋山 新 亮

式 辭

君子鹽田築造工事全く完成して本日茲に其の竣功式を舉ぐる
に當り、朝野紳士各位の御臨場の光榮を得たるを欣幸とするこ
ころなり。

抑々我君子鹽田は京畿道始興郡君子面の干潟地を利用して築
造せしものにして、同面正往里沖に點在せし鳥耳島及玉釣島を
堤防に依り之を陸地に連結し、總面積約一千町歩の鹽田を開拓
したるものにして、一區域鹽田にして斯く廣衍なるもの東洋に
曾て其の比なし、所謂蒼海を化して田と成すの語に適應するも
のなりと信ず、而も本工事は大正十年十一月一日起工し此程竣
工したるものにして、此の工事期間滿三年五ヶ月を要したり、
其の間數次不測の天災に遭遇し空前の難工事たるの觀を呈し、
一時其の竣功をさへ疑はれたる程なりしも、上は事實局長閣下
始め幹部各位の御指導と他は工事關係者一同の奮勵努力と相俟
ちて竣功を告げ、此の盛典を舉ぐるに及び轉た今昔の感に堪へ
ざるなり。

惟ふに鹽は生活上缺くことを得ざる必需食料品にして、我朝
鮮に於ける需要總額約四億斤に達す、然るに従來の生産額僅に
其の四割を出てす、年々二億數千萬斤の不足を輸入に俟たざる

可からざるの狀態に在り、是時に當り我君子鹽田の竣功は大なる
使命と大なる意義を有し之を緩和すること多大なるを覺ゆ
思ふて茲に至れば將來に於ける製鹽上の責任を感ずると共に又
欣快の情に堪へざるなり茲に一言叙へて式辭とす、

大正十四年五月六日

京城事實支局朱安出張所長

朝鮮總督府事實支局技手 野口 莊 次

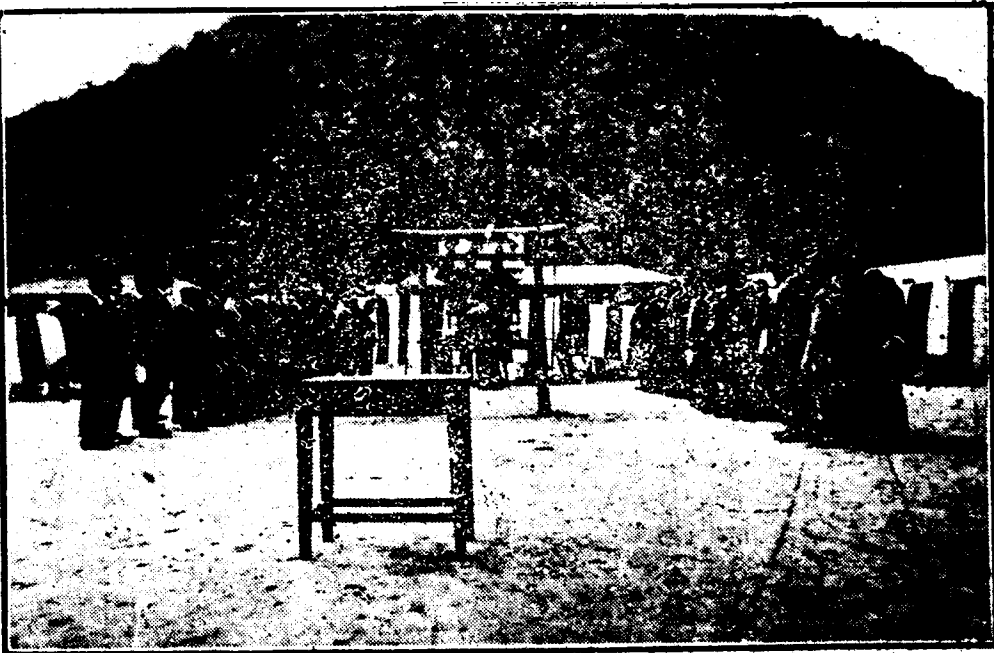
君子鹽田竣功式に臨みて

本 局 櫻 木 生

仁川港より南海路八裡、五萬分地圖で見ると指頭大位に見へ
る鳥耳玉釣の二島がある、此二島を連結して南北の兩端より陸
地に向つて先擴がりに線を以て連結する。即ち之が事實局長君子
鹽田である。其連結する堤防は大きさに於て構造に於て鹽田に
は實に惜しい位立派なもので、高さ十七尺、下巾六十尺、上巾
九尺、海面に面する方は全部石を以て積み上げられて居る、此總
延長二里餘に亘り此中に包擁する面積九百八十八町歩即ち二百七
十五萬餘坪、貯水池や堤防敷地の面積を除くと鹽田の眞面積が

五百七十五町歩、確かに東洋無二の大鹽田である、然かも本工事は大正十年十一月起工して以來十四年三月三十一日の竣功に至る迄三年五ヶ月の日子を費し、其工費總額は百四十三萬餘圓の巨額に上り、本工事に使役したる人夫の數延人員五十九萬三千六百六人を算して居る。

△此東洋一の大鹽田が、春も漸く開けて萬象悉く新緑に甦らむとする此頃、一切の工事を完結して五月六日の吉日に玉鈎島前の鹽田内で其竣功式を挙げ、續いて仁川公會堂に於て祝賀會を催さるゝことゝなつたのである。當日は來賓として京城より青木局長以下局員數名、各新聞記者、民間等合せて二十名、仁川よりは中島府尹始め官民二十餘名が二隻のランチに分乗して午前十一時仁川を發着することとなつた。此日天氣は快晴で所謂海路の日和である。船はひねもすのたり／＼の春の海を滑るか如くに進む。沖の島々や陸に重なる山々は霞を隔て、模糊の間に見へる。遠近に飛交ふ鴈の群や、悠長に遊ぶ海豚の群等、日頃塵埃と煤煙とにまみれて居



式功竣田鹽子君

る都の人達にはそんなに珍しく眺められた事であらう。
△二時間許りにして玉鈎島に着いた、巖石嶮峻として聳ゆる大巖山である。到着合圖の汽笛に應じて數發の歡迎煙火は打揚げられ、離れ小島は太古以來の靜寂を今初めて破つたかの如く思はれた。島守に等しい此處の鹽田職員に心からの出迎を受け、岩の間に突き出て居るこゝやかなる鹽か造りの棧橋に依り上陸すると濱邊には多くの島人、一度も都の風を吸ふた事の無からう顔をして、皆て見たこともない人種で、日本妓生を見て目を丸くして居るなど全く俗離れのした處である。
△一同は直に式場に至る。其處には紅白の幔幕を打廻らし、緑門や、萬國旗など立てつらね、正面には新たに造營された御宮があつて仁川から神宮が態々奉持して來た御鹽が安置される。やかて式が初まり、神官の祈詞や供物の儀があり、祈詞の聲も場所柄一層莊嚴に聞きたされたが次に野口所長の式詞朗讀及工事報告あり、それは工期間三年五ヶ月の間暴風雨に、海嘯に、相亞ぐ幾多の災厄に恰

も亡者が塞の河原に石積むと同じく盛つては崩され崩されては盛り、あらゆる自然の暴力と惡戰苦闘を續けた悲壯の歴史であつた續いて青木局長の挨拶あり「折角朝鮮食料鹽自給政策の爲に六百十五萬圓を計上して官營鹽田を四千町歩に擴張する筈であつたが東部震災の爲公債事業打切となり従て鹽田擴張も中止するの止むなきに至り本工事も將に中絶の悲運に遭はんとしたのが百方手を竭くし本鹽田文は定成せしむることゝしたのであつた。ところが圖らずも工事が意外の難境に陥り、完成も覺束なき状態となつた時は實に痛心措く能はざるものがあつた。で最後の一戦とも云ふべき十二月二日嚴寒の大濤縮切工事には自ら馬を陣頭に進めた譯であつたが天佑と各員の努力とに依り今日此の完成の式を舉ぐるこゝなり當時を追想した轉た感慨無量である」と工事の難澁なりし外に又苦心の在りし事が窺はれた、最後に工事施行人秋山研亮氏の祝詞朗讀があつた、秋山氏は當初の請負人戸川金藏氏の保證人であつたが、戸川氏工事遂行の見込なく、代りて本工事を施行した人で工事が難工事であつたのと、手順宜しきを得なかつた爲に三十萬の資産を消費ばされ尙且銀行其他に十數萬圓の負債を背負込んだ誠に同情に堪へない人である。其祝詞の一節に

「工事設計者大住技手は此地に永遠の眠りに就き、請負人戸

川金藏氏失脚して此地を去り、現場主任吉城與四郎氏は此の事業の責任に堪へずして倒る、予輩又其の保證責任の爲に素封を蕩盡し多額の負債を負ふて本事業に殉し落莫の境遇に呻吟す」
とあつて言悲痛を極め、辭人の心を刺るものあり臨場者もそろ暗涙を吞むたことである。
△思ふに君子鹽田の工事はしかく厄介な工事であつた。本工事に些少なりとも關係した程の者は皆良いことはなかつた。或は斃れ或は傷き、或は病み、或は失ひ、或は怒り、或は苦み皆之が爲に多少の命數を縮めて居る。だから何等かの因縁あるが如く思はれたのも無理のない話である。此鹽田が大きい丈其丈生れ出る悩みも大きいであらうけれど之はあまりに大きな悩みであつた。あまりに多くの犠牲を要求したのであつた。されば今日此の竣功式に臨むでは人皆様々の深い感慨があつたのである。

△斯くて劇的光景に満ちた竣功式も終りを告げ傍らに用意されたテント内にて立食にて冷酒の乾杯を爲し一同玉鈎島の巖上に立つた。今や脚下に擴がる廣袤一千町歩の大鹽田は五月の春光を浴びて永遠の勝を誇るが如く、目もはるに末は霞に連り皆ては澎湃たる泥海であり、人煙稀な孤島であり徒らに太古の匂ひ

のみした處が今は整然たる鹽田と化し、早や既に浪の花も咲かむとし、之が熟田の曉は半島需要總量四億斤の八分の一即ち五千萬斤を生産し、僅に二百萬人の生命を繋ぐと云ふもの熟々と人力の偉大なることを感ぜすには居られなかつた。折柄の満潮は濁流を送つて外廓堤防にひた寄せに寄せて居るが未來永劫に此の堤防を超へて侵入することはなからうと信じた。

鹽の防腐作用

本

局 眞田吉之助

食品貯藏のため鹽を用うるから鹽其物に絶大な殺菌力があるように思ふ人もあるかも知れないが、鹽には我々が考へる程の殺菌の効力は無く至つて僅かなものである、腐敗菌に對しては一二パーセント位の食鹽溶液で死滅せしむることが出来るが、細菌の芽胞になると食鹽では殆ど死滅せしむることが不可能とされて居る、そのみならず鹽の中に好んで生存して居ると云ふ猛烈な細菌もある、此好鹽菌は人體には有害では無いが、鹽魚を赤變せしむるから宜しくないと云ふ説と、又一方には鹽が食品貯藏に有効なのは此菌の作用によるのだから其存在が必要

である云ふ説と、二様に分れて居る。
斯の如く食鹽の殺菌力が微弱であるにも拘らず、さうして防腐に利用されるかと云ふに、それにはさう云ふ理由がある、食品に鹽を入れると食物中の水分の一部と鹽とが置換作用をなして水分の痕へ鹽が滲透する、さうして細菌の生存に必要な水分を除き肉組織を緊密にし其微弱なる殺菌力も手傳つて細菌の發育状態を不適當にして其蕃殖を防止するからである。
それであるから食鹽の滲透に先だつて腐敗作用が進行すれば肉質が著しく破潰せらるゝため腐敗は免れないのである、熱帯

地方で鹽漬中に肉類を腐らす場合が多いのも皆此原因によると云つて宜し。

話は數年前に逆るが、歐州戰亂の際米國で食糧問題が喧しく論議せられたことがある、其時多くの學者がフロリダ半島に鱈産する魚類の利用策に就て研究の結果、同地方の如き暖地では特殊の鹽を用なければ到底魚類を食糧品として利用することが出来ない云ふので、其目的に副ふ加工鹽を得ることに成功したのである、我領土臺灣及南洋などでも矢張暑熱で漁獲物の處理が困難なため十分發展すべき可能性ある漁業も不振の域を脱しないのである、臺灣中央研究所に居られた大島博士は之を遺憾とし鹽の品質を高めることに苦心されたが、結果は米國の夫と大同小異である、左に其概要を述べて見やう。

同博士の論文によると食鹽中の不純物殊に硫酸苦土及硫酸曹達が最も食鹽の滲透を妨げると云ふことが判つたのである、これは硫酸イオンが膠狀體の蛋白質に働いて之を凝固せしめ、魚肉の外側に不透過性の膜を出來さして鹽分の滲透を阻害せしむるからである、それで此硫酸類は勿論其他の不純物も總て除去して鹽化曹達の含有量を九五パーセント以上に高め殆ど純鹽に近い鹽を造り上げるのである、併し之でも炎熱烈しき時は不十分であるから更に一步を進めて、滲透速進のため加里化合物を

添加すると其効力が顯著で暖地でも完全に使へる、試験のため臺灣で平均九十四度の溫度に於て此加工鹽で處理した魚類は幾日置いても毫も腐敗せなかつたと云ふことである、是によつて考へると從來鹽化加里は食鹽中の不純物と看做されて居たのであるが、今日では漬物用鹽に對しては寧ろ其含有量の多きを歡迎さるゝと云ふ結果になつたのである、其後此加工鹽が實地に利用されるようになったか否か確聞せぬが、たゞ困るのは鹽價が高くなると云ふ缺點を生ずる、用鹽量が減するし、運賃も少くて済むと云ふ特點もあるけれども、百斤當七圓五十錢の生産費では、内地や支那向の安い鹽魚の製造に採算上使用し得るかどうかが、何れにしても斯る良鹽を使用し得るようになれば貯藏食品の品位が向上されるから敢て暖地に限らずよいことだろうと思ふ

○濃肥辛鹹は眞味にあらず、

眞味は只是れ淡

○神奇卓異は至人にあらず、

至人は只是れ常

……菜根譚……

人蔘耕作者褒賞授與式に臨みて

本 局 田 野 中 生

人蔘耕作者褒賞授與式は、政府の専賣に係る紅蔘の原料たる人蔘を耕作し其の成績優良なる者或其の雇傭人にして品行方正克く其の任務に精勵したる者を選抜して表彰するのであつて、毎年四月開城出張所に於て舉行せらるゝのである。

大正十三年第十五回の表彰式は四月二十五日午後二時より舉行せらるゝこととなつた、當日は局長代理として高武事業課長が列席せらるゝことになり私も其の御供を申しつかつて、當日朝の八時五分の汽車で出發することになつた。本年も例年の通り式後の宴會場を驛前の鐵道公園内に設け、そして舞臺をも備へ内鮮藝妓の手踊、其の他の餘興の下に一般米穀の方や耕作者の方に當日はゆつくりと召し上がつて載かうと云ふ段取になつて夫々準備がしてあつたので、此の一日は雨の降らぬことを祈念して前夜寝に就いた。四時頃ひよつと目が覺めてみれば盛に降つて居る、前夜の空模様では別に降りそうもなかつたがと外に出て四方を見たが眞暗で一寸止みそうもない。實に續だなどと思つたけれは仕方がない。若しや夜明までには晴れはせぬ

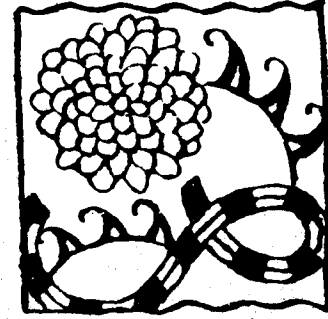
かと思つて又二時間計り眠つて起きたが相變らず盛に降つて居る。愈今日は雨かと思つたけれは行かない譯に參らるので七時頃朝粥を済ませて車で停車場に駐付けて課長のお出を待つことにした。その間に式に招待を受けて參列せらるゝ三井物産の天野氏外二名、加藤三越支店長及京城專賣支局關西庶務課長、桑原屬が見えられ課長もお出になつて茲に一行七名となつて定時に出發した。開城驛には伊森所長、大野技師、蔘業組合長外四五名の方々の出迎があつて一行は直に自動車にて休憩所たる關和館に行かれたが私は少し聞きたい事、事務の打合せをして置きたい事があつたので役所の方に廻つて行くことにした。行つて見れば雨の爲め俄に宴會場を水蔘收納場に變へねばならぬことになつたので係の者は多忙の態でほんとに雨が恨めしかつた。その外の者も忙しそうだったので話もそこへ休憩所の方へ引揚げた。毎年此の表彰式には京城府内の主なる所聞社から記者が一名位見えると云ふ話だつたが本年は雨の爲めか、それとも何か差支があつたのか一人も見えなかつた、甚だ勝手な申

——(てみ臨に式與授賞褒者作耕蔘人)——

大正十四年の

朱安、南洞、君子、塩田の塩田奈及び
慰安會につつて

近藤壽太郎氏



鹽田祭並鹽夫慰安會

朱 安

近 藤 生

一 朱 安 鹽 田

朱安鹽田には往年齋藤總督閣下御來遊のとき休憩せられた其の緣故に依り御命名せられ且御自筆の額面を賜はつた觀瀾亭がある、其の南三丁位の小高き處に鎮座しますは、天照皇大神と鹽竈大神とを合祀せる朱安神社であります。

朱安神社は大正九年の御造營に係り十月五日を以て例祭日と定め毎年當日には仁川神社の神官を請して壯嚴なる祭典を行います。但し今年には前夜祭に變裝行列を致しました。

四日午後七時半朱安神社の御前に集合したところのいでたちを見れば、羽織を裏返しに着用し漏斗を戴き冠となし手には笏を持ち天晴れ神主姿の野口所長、眼光爛々として緒顔高鼻の面を冠り晒麻を以て頭上を覆ひ身には天氣豫報の赤旗に金紙にて

張紋したるを装ひ、手に大身の鎧を提げ、一本はまの高木腹を穿ちたる鞍馬天狗は斯く申すそれがし、後ろに助産婦を従へ將に破烈せんばぶりの臨月女に紛せるは梅林さん。續いて水も滴るばかりの沈黙落雁月閉花とも申上たい程の美人は河崎さん。支那服に支那靴を穿ち支那帽を着て前から見ても後から見ても支那人そっくりの平野さん、其の外武士、盧無僧、鮮婦人順禮、姪婦、擔車等々々、初めての變裝としては確かに上出来神前に拜禮して隊伍を調へ下山して官舎町を練り歩き驛前より南部落に行く、途中より民間有志の變裝者加はり、十井里よりは鮮人樂隊來りグワングワラ々々と囃し立て京仁御道を練り歩き十分にお祭氣分を啖りて午後九時半無事解散しました。

五日例祭は定刻より始まり磯野仁川神社々司の修祓の儀あり續いて祝詞を奉奏し一同禮拜して定刻に閉帷いたしました。

鹽夫慰安會は午前十一時より開始せられ先づ運動會に始まりテニスコートを中心に鹽夫達の徒歩競争、運命競争、裸火競争など相當賑やかに豫定のプログラムを遂行しました。

午後一時より開宴し鹽夫は假説スリチビに、來賓及職員は駁けの席へ、座定まりて野口所長立て一場の挨拶を爲し、辨當券

菓子券、栗券、枝豆券等色々
の券の引換に係員汗を流し愈
開宴となるや紅裙隊入り亂れ
て酒間を輪旋し酔心顔に現は
る、頃餘興の幕が切て落され
ました、先づ以て美人連の手
踊數番次に誰、彼と各々自慢
の隠藝を出し十二分の歡を盡
して散會したのは午後三時半
でした、其の時鹽夫の方にも
歡聲が聞えて居た。



朱安鹽夫慰安會の光景

會をも同時に行はれた。一回は色の黒い目のキョロ／＼した鬼の様な鹽夫達のマラソン競争があるかと思へば、次は可憐な兒童の競技があり、剛柔相交へて感興を深くした。

運動會は三十六回の各種の競技競争を順序良く少しのよきみなく遂行して豫定の通午後一時に全部終了した、來賓、職員、

鹽夫一同萬歳を三唱して南洞鹽田の祝福を祈つた 運動會が済むと直ちに各分擔の任務に就き見る／＼内に運動場は片付けられて元の整然たるテニスコートに復しに、又他の係員の活動に依り山上、山下に模擬店が開設せられた、其の動作の敏速にして秩序あるは羽島所長日頃訓練の宜しきを得て居るのに賞讃の辭を呈したい

二 南 洞 鹽 田

十月六日朱安の慰安會の翌日の亦テニスコートを中心に大運動會が開かれた、南洞には小學校がありて此の學校生徒の運動

模擬店は甘黨向き、酒黨向きに分業になつて居て酒店は一番大きく而も腰掛けもあり又演藝場に直面して出來て居るのはやはり酒黨優待の意味にも見受けられた、之は職員にも來賓にも酒黨が多いことが察せられる、酒間は經濟的美人に依て輪旋せ

られ実情ならんとするとき、演藝が開始せられた、出演者の全部は鹽田擔當員又は鹽田監視員にして毎日鹽夫を怒鳴り付けて居る連中とは見えぬ位で面白くもありおかしくもあつた、兎に角俄作りの演藝としては中々上出来であつた。就中甲田君の鰯掬ひがお箱丈あつて何と言つても第一位に採點しなければならぬまい、私は今年の六月頃であつたが仁川に山本愛太郎と言へる出雲藝妓一座の安來節踊を観たことがある、其の節本家本元の鰯掬ひを見ました、其の時に色々の藝があつて一番最後に一番藝の優秀な者が此の鰯掬ひを演じたのである、其の時に思ふた、甲田君の鰯掬ひは毎年慰安會などの呼び物になつて度々見たことがあるが、いつも素人の隠藝としては可なり挨ぬけのしたものだ位には買つて居たのであるが、此の愛太郎一座の最終判の鰯掬ひと比較して遙かに甲田君の藝術の優れるを痛感した、其の後折があれば今一度比較して見たいと思つて居た、不圖此の鹽田祭に於て其のお箱を見て益々人上人なるを確め得て我鹽田にも斯の如き藝術家のあると思へば全く以て意を強くするに足ると思ひました、斯く宣傳したからとて別に宣傳料を強だる譯でないから甲田君なるもの心配するなけれど、大分左が利いて來た様です此邊で失禮しましょう。

三 君子 鹽田

君子鹽田は本年五月盛大なる竣工式を舉げた新鹽田であつて其の面積は五百七十五町歩を有する大鹽田であります。

南洞鹽田は大正十年度に竣工しましたが神社を造營する機會がなかつたのですが君子鹽田は其の竣工當時に神社を造營して此の鹽田の守護神として鹽竈大神を勧請し竣工式と同時に鎮座祭を舉行いたしました、故に本年は最初の例祭の爲に準備やら神官の出張の都合などもあつた爲十月八日に執行することゝ決めまして當日は鹽夫や家族の慰安會をも兼ねて行はれた譯であります、君子鹽田は朱安より陸路六里餘ありまして而も田舎で自動車の利用が出来ません、さうしても仁川より海運に依るの外ないのであります、仁川より約十裡ありまして潮時に關係がありまして一日に往復することは殆んど出来ないのであります、故にたとへ經濟的美人にせよ仁川より迎へると言ふことは出来ない相談と申すの外ないのであります、そこで職員や擔當員に總動員を行ひ分業的に料理も出來た譯であります。

朱安でも南洞でも同じでありますが年一回の鹽田祭を唯一の娛樂日即ち天下晴れての遊興日として數日前より待ち並びて居ることは一入君子に居る人達の方が優て居ること、思ひます、

其れ丈不便の土地に居ることの難察が就くと思ひます。

鹽田が廣い丈鹽夫の數も多い譯です、鹽夫が百八十餘人擔當員や職員約四十人、合計二百二十人が一團となつて少い經費を以て一年中の勞苦を忘れる程の祭典を行ひ慰安を得んとするのですから容易ではありません、蓋し運動會に如くとして、運動會を盛にし賞品を多くし可成鹽夫の多數に行き渡らす様な計畫が立てられたのであります。尙鹽夫には別に金祭を興へて隨意に隨所で隨物が得られる仕組に出來て居たのであります。私は君子にも來賓客として臨場する光榮を荷ひました。併し餘り進まなかつたのであります。

君子は何日往ても氣持のよいのは玉鈎山の動かさる山容と、廣底一千町歩の鹽田と、君子の人達が棧橋迄態々迎送せられることである、此の日は仁川神社の磯野さんを迎える爲梅丸が航行するので便乗者も多かつた、君子に着いたのは午前十時半頃で量水標棧橋から上陸した既に四合程も子て居たので子湯地に飛び上らねばならない爲梅林さんがにり込みを演じたのも餘興の一つに數へられた。

會場では運動會が盛に行はれて一區萬歳とか三區萬歳とかの歡聲が揚がつて居た、十一時半より職員全部並私共も參列して祭典が壯嚴に行はれた、下山して運動會場に臨み職員と共に實

拾ひ競争に加けり敗けぬ氣で馳け出だし封筒を拾ひ急いで開放すれば外套とある、一生懸命に探すも見當らず決勝點に行て見れば先着溝口君が雨傘とあつたが傘がないから其の代りに外套で間に合せたとは雨になる前兆であつた。惜いかな午後一時頃俄かに一天かき曇りとも言つた様に雨雲が次第に濃くなる、残念ながら競技五六番残して中止せざるを得ることゝなつたそして折角運動會場に向て棧敷が出來て居たが是も取拂ひ漸く片付いた頃弗々降り出だした、止むを得ず慰安會場を事務室に變更した、事務室で斯くの如き催しをするを異様に感じられる方もあるかも知れませんが、君子鹽田は竣工迄に非常な天災の爲に築造費の方へ廳舎などの豫算を喰ひ込まれた爲に俱樂部に出來て居た室を事務室に充て、終つたのであるから斯様の場合には致方がないのであります、鹽はやはりそれ文辛いものと御推量をお願いします。

急速に内部を片付けて疊を入れるやら食卓を急造するやら可なり混雜をして男子は男子席、婦人は婦人席へ着き、團樂として歡談が交換され手製の料理に酒は男酌にて相當捌け行き、七合満ち頃より例に依て隱藝續出し、お次の番だよ、お次の番だよに追立てられ、遂に私も一藝やらねばならぬことゝなりました。そこで私には隱藝と言ふものは持合せがない、まさか此の席

で小話を喰ふのも野暮だし、ふと思ひ付いてラヂオの實驗をやることゝいたしました。そして卓の上に簡單なる受話機を拵へ、

皆さんラヂオと申しますと無電放送のことでありまして、

近來内地にて非常に流行いたして居ります、朝鮮にても京城には受話機を取付けた家が所々にあります、此の受話機を取付ければ京城の話は勿論、大阪或は東京より放送するものも手に取る如く自由に聞くことが出来ます。故にたとへ君子鹽田の如き不便な土地に居ても此の機械さへあれば大阪の落語、東京の講談も座ながら聞き得られるのであります。私は先月内地に旅行いたしました其の際東京でラヂオを研究いたしました、其れを實驗してお目に懸けます。

此の針金は空中線から引込むであります、之を此の受話機に取り付けますと直ぐ聞える譯で御座います。(針金を受話機に取付たれど一向に發音せず)

本日は俄に天候が變りまして降雨雷鳴の激しい爲放送が出来ません遺憾ながら之にて失禮いたします。

一同隔意なく十二分の歡を盡して散會したのは午後五時でした。雨は驟突く如くに降て歸航を按して居ましたが六時半頃小降りとなり七時半又梅丸の客となり仁川に上陸したのは九時半にて終列車に歸りました。今年によく雨の多い年でした。

お別れに際して

總督府事務官 岡崎哲郎

四月三日外遊からの歸途京都に滞留中私は專賣局に轉任になつた事を知りました。林君の跡に更つたと云ふ事は朝鮮に上陸直後知りました。

久方振りに京城に歸り轉宅や何やかやをすまし落ち付いて事務を見る様になつたのは四月二十二日からだつたと記憶して居ます。それが九月十一日の朝否十日には私は亦々轉じてもはや專賣局の人ではなかつたのです。

足掛け六ヶ月正味百四十日です。此では任期甚だ短かくこの月並的ではなく電光のひらめく間に轉ぜられた様に私は感じました。此も致し方ありません。嚴然たる事實なのです。如何とも致し方がないのです。

さるにても專賣事業には皆目無經驗、無理解の私が只々上司同僚各位に御迷惑と御面倒とを煩はした文に止まりて何等爲す事もなく貴局を去らねばならぬ様になつた事は心から遺憾に思ふと同時に、皆様に對して私の心は感謝の念で満ちて居るのです。茲に謹みて皆様に私の心からの感謝を捧げます。

朝鮮總督府專賣局 君子塩田平面圖

S. = $\frac{1}{12,000}$ 尺. 曲尺 5 分 5 秒 100 向

防潮堤防の總延長. 10.8 km 約 2 里 280 步

堤防上巾. 2.73 (9尺) 下巾. 1.82 (60尺)

堤防高さ 5.2 (17尺)

塩田築造面積の内訳

塩田内部長面積	603.7292
貯水池の総面積	267.
外部堤防の敷地	16.
貯水池堤防敷地	18.
その他諸用地	42.
計	946

塩田構造物

貯水池海水取水門 鉄筋混外壁 4 個	
塩田内部雨水排水伏樋 鉄筋コン 10 "	
塩田外部雨水排水伏樋 木造 4 "	
塩田内塩庫 木造 59 棟	
塩種出用 棧橋 木造 44 "	
塩天倉 29 棟. 塩田監督詰所 4 棟	



朝鮮總督府專賣局 君子塩田平面圖

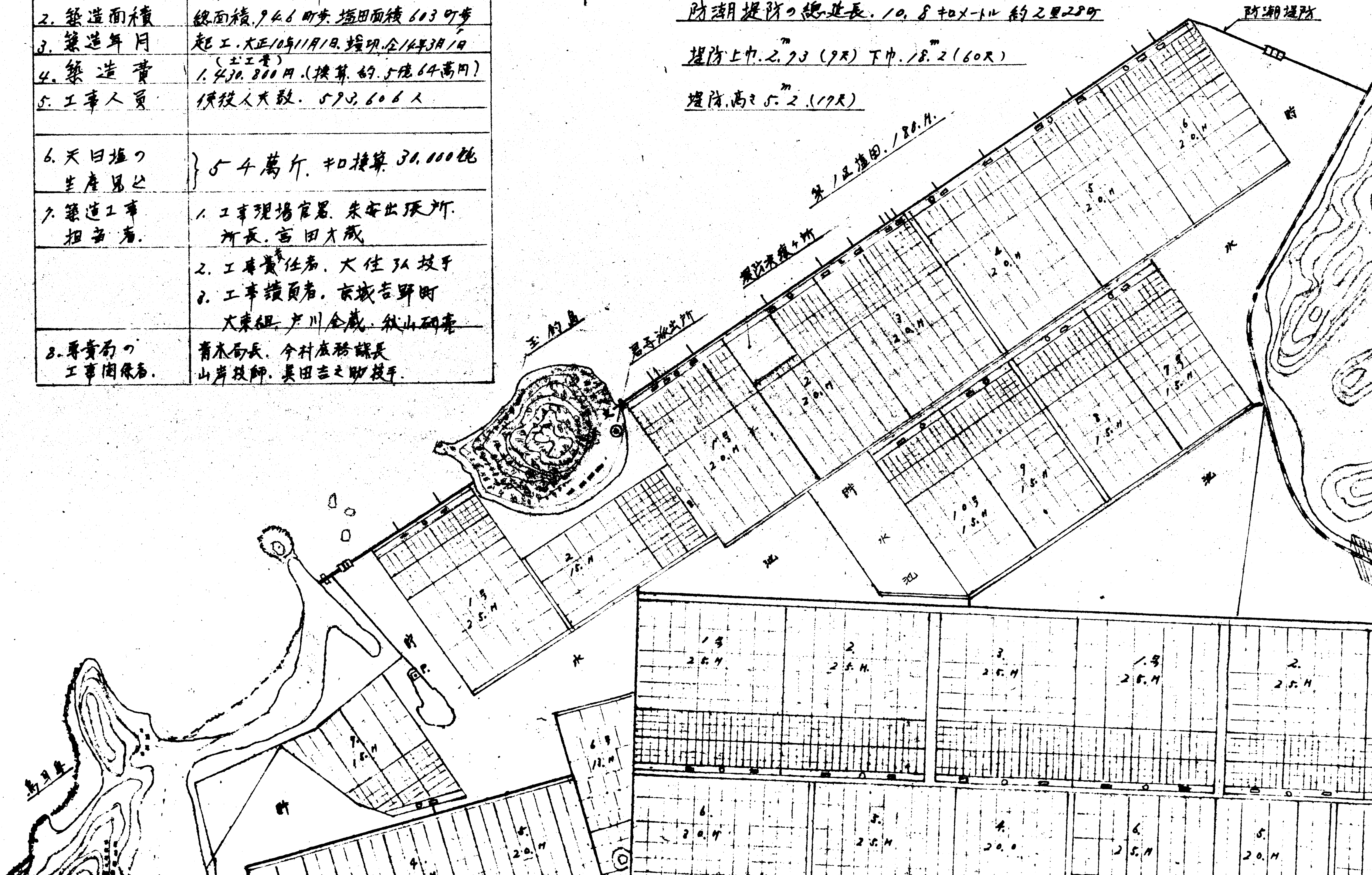
$$S = \frac{1}{12,000} \text{ R. 曲尺 } 5 \text{ 分 } 5/100 \text{ 向}$$

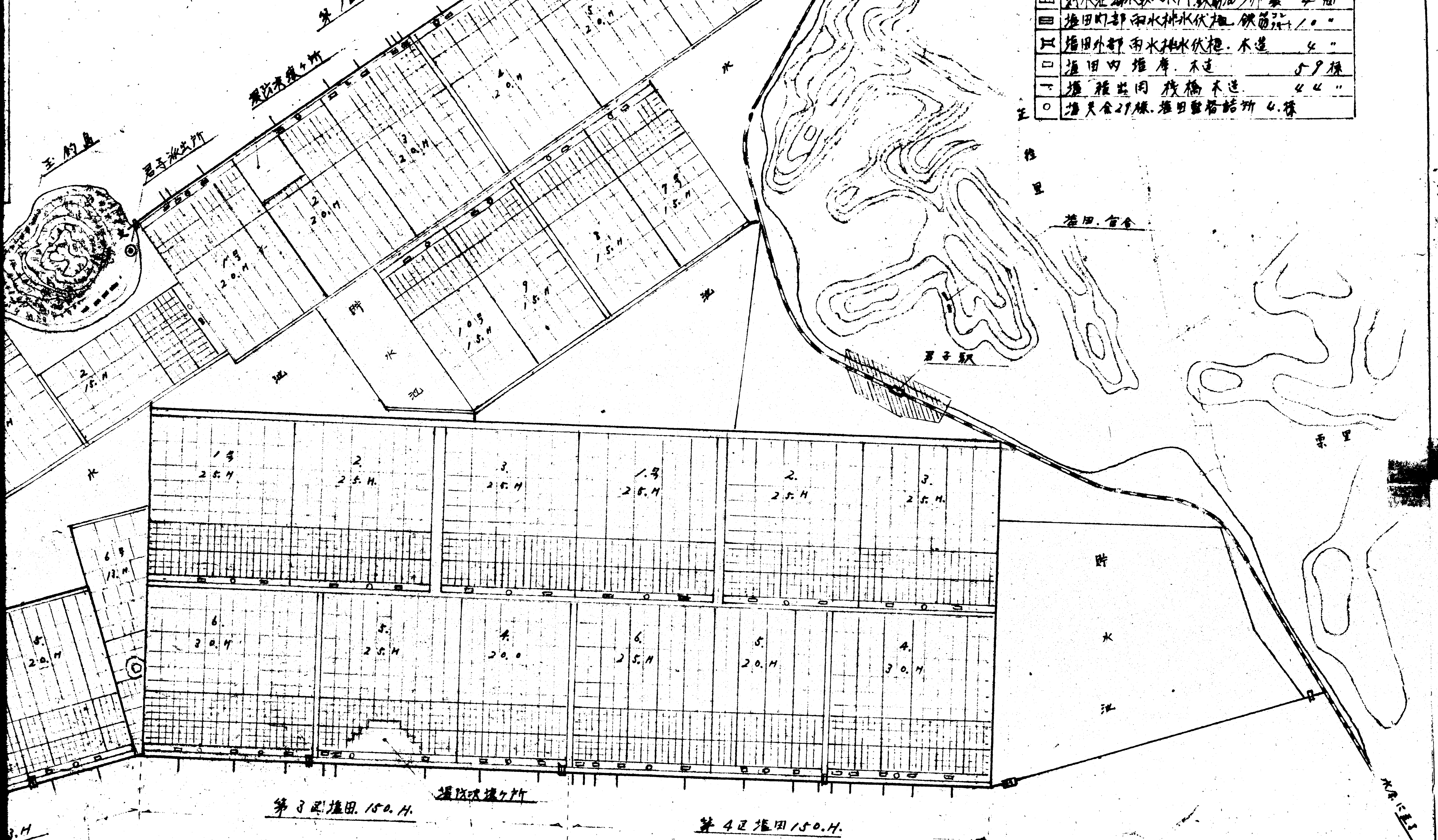
防潮堤防の總延長、10.8キロメートル 約2里28町

堤防上巾、2.73 (9尺) 下巾、18.2 (60尺)

堤防高、5.2 (17尺)

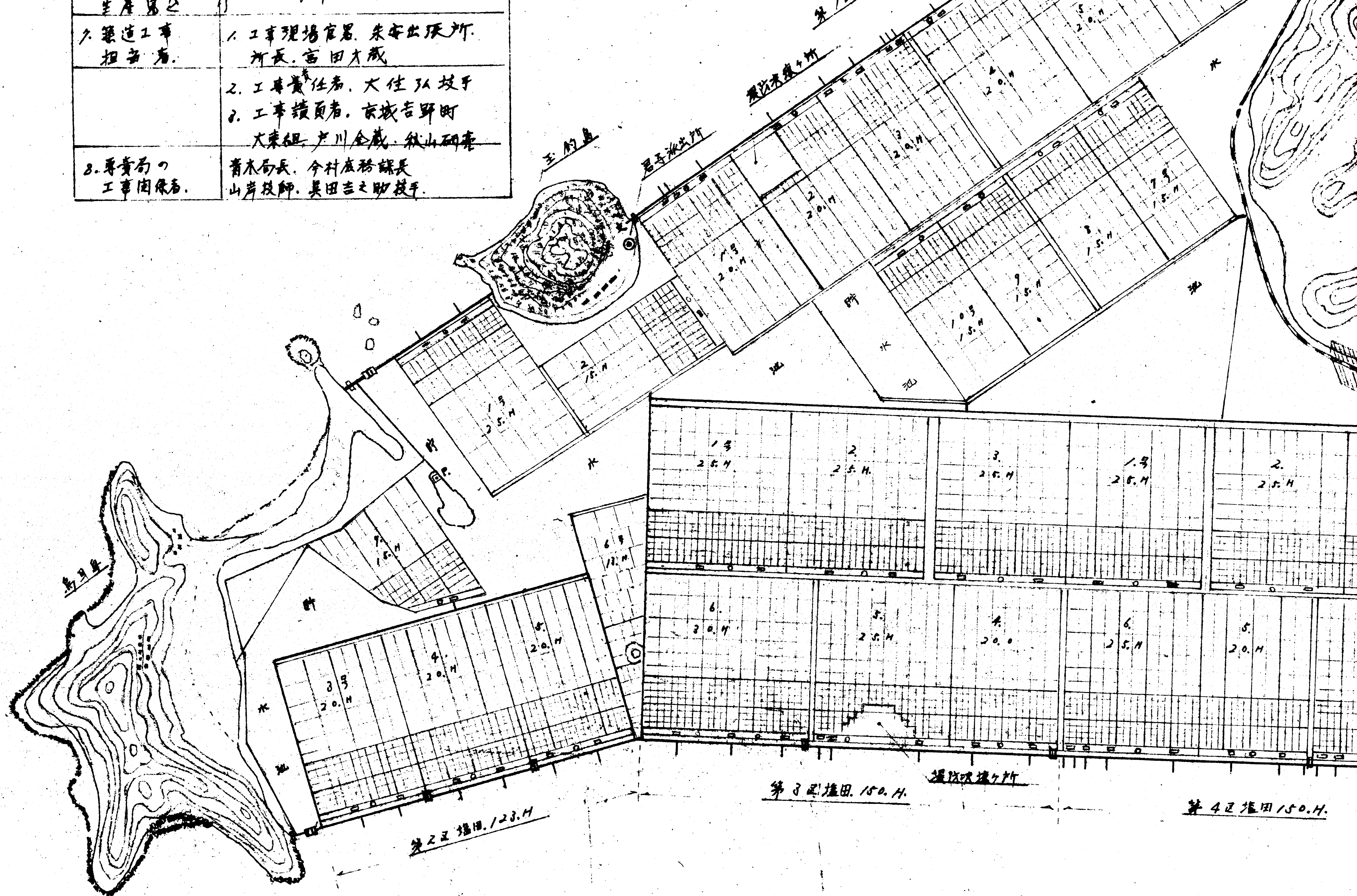
1. 所在地	京畿道 始興郡君子面干萬池
2. 築造面積	總面積、946町歩 塩田面積 603町歩
3. 築造年月	起工、大正10年11月1日 竣工、大正14年3月1日
4. 築造費	(土工費) 1,430,800円 (換算、約5億64萬円)
5. 工事人員	供役人大致、590,606人
6. 天日塩の生産見込	54萬斤、キロ換算 30,000吨
7. 築造工事担当者	1. 工事現場官署、朱安出張所 所長、宮田大蔵 2. 工事責任者、大佐弘毅子 3. 工事讀頁者、京城吉野町 大東組、戸川金蔵、秋山研亮
8. 專賣局の工事関係者	青木局長、今村庶務課長 山岸技師、長田吉之助技師





田	田内排水伏樋 鉄筋 10"
田	田外排水伏樋 木造 4"
田	田内堰 木造 59株
田	田外同 木造 44"
田	田内全29株 田外全29株 4株

1. 築造工事 担当者.	1. 工事現場官署. 朱安出張所. 所長. 富田大蔵
	2. 工事責任者. 大佐 弘 技手 3. 工事讀頁者. 京城吉野町 大東組 戸川全蔵. 秋山研亮
8. 専賣局の 工事関係者.	青木局長. 今村底務課長 山岸技師. 吳田吉之助技手.



$$\begin{aligned}
 &36 + 28 = 64 \text{ 町 } 100 \text{ 町} \\
 &17 = 60 \text{ 町 } \times 64 \text{ 町} = 3,840 \text{ 町} \\
 &6 \text{ 町} \quad 1.8 \times 6.000 = 10.8 \\
 &1 \text{ 町} = 1.8
 \end{aligned}$$

工事期間
 三年五月
 工事費
 五億六千萬円

京畿道農子面車費局農子堀田築造関係資料									
起工 大正十年十一月一日 工事請負人 大東組代表 秋山研亮									
竣工 大正十四年三月三十一日 第一回入札者 京城芝野町 戸川金蔵 死亡									
工事費 一億三、八〇〇、〇〇〇円 落札 九一八、〇〇〇、〇〇〇円									
工事人員 大〇、〇〇〇人 昭和十一年の見込 五、七〇〇人									
塩生産見込高 (五十萬斤) 昭和十一年の見込 五、七〇〇人									
区 分 面積									
堀田内部	五七五	外部堤防延長 五、七〇〇 米							
堀田内部	六〇三	青木局長							
貯水池	二五七	今村農務課長							
外堤敷地	一六	山岸技師							
外堤敷地	一八	吳田技師							
諸用地	四二	朱安出張所長 農務前渡官史							
計	九四六	堀田才蔵 近藤青太郎							
		農子堀田初代所長 野口莊次							
		土木主任技師 岡崎泰次							

22.

東京局、君子塩田築造工事、竣工式案内状

大正十四年五月六日、仁川公會堂に於て。

一 舉行 月 日
一 式場 及 時間
一 船舶 發着 時間
一 祝賀 會場
一 開會
一 散會
五月 六 日
君子鹽田(仁川の南東約八哩)自午後二時三十分
仁川發午後三時
君子發午後二時
仁川發午後五時
仁川公會堂
午後六時
全會 八時三十分
追て天候の都合に依り君子鹽田にて舉式致し難き場合は仁川公會堂
に於て竣工式並祝賀會舉行可致候に付當日は晴雨に拘らず午前十時
半迄に仁川專賣局出張所(仁川驛附近舊稅關跡)に御參集相願度候
尙は準備の都合も有之候に付乍御手致御來臨の有無折返し御一報願
上候
御注意迄に申上候船は潮時の關係上發船時刻は正確に勵行致度候條
與々も右御舍のみ程希上候

工事 施行 人 秋 山 研 亮
同 一ノ宮 上 藏
東京局 朱安出張所 長 野 口 英 次

大正十四年四月 日

敬具 段御案内申上候

拜啓陽春の候に御座候處益々御清祥の段慶賀至極奉存候隙は大正十年
十一月起工致候君子鹽田築造工事も海嘯或は暴風雨等幾多の災厄を受
くること數回誠に難工事と相成一時は其の完成さへ氣支はれしが工事
關係者一同の努力により此度愈竣工致候就ては来る五月六日をトし左
記に依り竣工式並祝賀會舉行致度候間萬障御繰合せ御臨席の榮を得度此
敬具

君子

(2)

昭和十八年三月

製塩官署に於ける塩田管理関係。

君子塩田所長の仕事について

一、君子国民学校、学級増設申請書（京教道始興郡等宛）

君子塩田は、東京出張所管内最大の塩田に面積五七五町歩あり、鮮人従業員四五〇名を雇用して居り、また、それ等の子供の爲、既設君子国民学校、学級増設を申請した記録であります。

二、君子塩田直営農場設置の件（東京出張所長宛）

君子塩田は、仁川港より海路八哩の地味にあり、必要物資は、海路神松の孤島に由りてあり、また、

従て戦中末期はなり食糧不足に陥ひようになりまゐる。

当時私は君子塩田の町長として居りましたが、これが対策として、塩田空閑地を
利用し、農場を設け、食糧の増産を計画致しました。

農場問題、資金は本局の塩田協會より、七十八万円余を借入し、十八年四月頃
より仕事を始めました。
作物は、さつまいも、じゃがいも等の野菜類で、秋の収穫には、従業員に喜ばれました。

農場計画書

一 農場面積 官有地、七町歩

農場経費

管理費 三三三四円

建造物 二、〇〇〇

家畜費 六〇〇

其他雑費 一、九二八

計 七、八四二

コクニ

1413 2511

(一)

一 昭和十八年、君子塩田従業員子弟の爲

國民學校、学級増設申請関係記録

君子學校組合管理者石川武吉

昭和十八年三月五日

京畿道始興郡君子面

君子學校組合管理者 石川武吉

始興郡守殿

君子國民學校學級増設申請ニ関スル件

當校ハ大正十一年、創立ニ係リ、爾來二十一年ヲ
経過セシムル此間、學校組合員タル専賣局君子塩田
従業員内地在籍者ハ年ト共ニ減少シ、本年四月
一日現在ニ於テハ其ノ子弟ハ僅カニ二名ヲ殘存ト相
成ル次第ナリ、一方之ニ反シ朝鮮在籍従業員ハ年
年増加シ、現在内地在籍者十一人ニ對シ朝鮮在籍者
従業員ハ四百三十人ヲ要スル状態ナリ、而シテ本年年度

ニ於て朝鮮在籍者子弟中新入學適齡兒童ハ別紙調査書通九〇名ノ多数ニ及ビ右ハ現在在籍本面内ノ國民學校又ハ簡易學校等ニ入學不可能ノ兒童ナリ即チ既ニ本面内ノ各簡易學校及公立國民學校ノ入學試験ハ全部終了セシ現狀ナリ右ノ事情ヨリテ君塩田朝鮮在籍従業員ノ子弟就學問題ニ就テ昭和十五年三月頃本局ヨリ二萬圓ノ寄附ヲ以テ本面ト協力シ本塩田ニ近キ君子驛前ニ國民學校新設ノ豫定ナリ之時ノ事情ニ依リ中絶ノ儘ト相成リシナリ收悉ナリ一爾來當所八年ト共ニ人口増加シ益々本問題ノ解結ヲ要ス事情トヨリ從テ毎年新学期ノ時期ニハ君山國民學校及簡易學校ニ對テ子弟入學競争ハ激烈ニシテ入學時ニ於テハ各學校ニ寄附金ヲナシ入學競争ナス傾向アリ實所彼等ノ收入ニ對シハ餘リモ高額ノ寄附金ヲ夫ノ習慣アリ別紙調査書ノ通故ニ此際何等カノ方法ニテ本問題ヲ解結セズハ據當員ノ失費ニ益ニ及トナリ次第ニ局ニ對シ不平ヲ招キ事ト相成リ從業員ハ本局ニ教育施設ニ地方ニ對シスル慮慮アリ

當所ハ專賣局米安出張所管内ニ於テモ面積六百町歩有之從業員總數四百五十名ニ達ス重々要ニ製塩事業場ナリ、次戰體制下ニ於テ本年ハ鮮内食糧ノ自産自給上是非トモ從業員ノ士氣昂揚セシムル為彼等ノ子弟ヲ專賣局ノ力ヲ以テ教育ス事ニ依リ、彼等ノ子弟ノ産業戦士ヲ多數養成

この必要を感ぜし次第なり
幸に當所へは君子國民學校舊校舍を建坪五三坪、
建物あり此内部を改造して於て八優二九〇名ノ児童
ヲ收容する事へ可能ト思料ス然レ共現行組合規定
ト其内鮮共學へ目下ノ處不可能ニ屬スモト考
へらるゝ右ノ事情ニ依リ此際鮮人教師一名ヲ増
員シ授業開始致シ度キヲ希望ナリ右建物ノ改造
迄の官有建築物使用件ニ就テ本局内意見ハ於
後ハ學校ノ維持費及手續ヲ如何ニスルカ問題ニ掛ルモト
俟テ何時時局ノ多端ノ折柄ナレ右事情篤ト
沸了ル案相成リ特別ノ沛差議相煩度及
懇願候也

君子塩田従業員児童不就學調査表

區號	父兄氏名	續柄	児童名	年令
一	金村壯同	長女	金村鎮嬉	九
一	高東一	弟	高正日	七
一	李彭敦	長女	李鐘世	七
二	國本珠峰	長男	國本根洙	八
二	平山載訓	三男	平山允範	八
三	國本龍成	長女	國本細春	八
三	金田春男	次男	金田命産	七
三	井村大秉	長女	井村貞順	九
三	安藤得瑤	長女	安藤点熙	八
三	千原商鎬	長女	千原喜順	九
四	陽津淳根	次女	陽津泰分	八

四	原元容範	長女	原元分善	八
四	柳在學	長女	柳義鎮	八
四	木元炳泰	長女	木元洛教	七
五	岡村酉生	次男	岡村聖均	八
五	平山富興	長女	平山福均	八
六	高城熙喆	三男	高城淳萬	七
六	木村廣吉	長男	木村鐘分	九
六	金鳳德	長女	金明順	八
六	宮本明宰	長女	宮本錫奎	八
六	申泰順	弟	申泰雲	九
七	元山熙常	長男	元山容默	八
七	井村元東	長男	井村龍甲	又
八	木元公雨	長女	木元永禮	八

八	金村三用	次女	金村在順	八
一〇	木元炳壽	長男	木元世教	一〇
一	高柱鉉	長男	高鐘鉉	九
一	朴昌信	長男 次男	朴商五 朴商九	八 九
二	金龍伊	長男	金富基	八
二	崔興燁	弟	崔基燁	七
二	平田光淳	弟	平田昌福	一〇
三	金成奎	弟	金月禮	八
三	金次男	弟	金容浩	七
四	朴五邑	弟	朴容雲	七
四	山本泰根	弟	山本奉根	九
四	崔用文	弟	崔順泰	九
五	金海淳德	弟	金海長成	一〇

三	一	二	二	二	三	三	三	三	三	四	四	四	五	五
金用杓	棹本明魯	金商云	瑞原鳳儀	金海昌云	金鎮植	高山圭信	宋興燮	崔興甲	金仁根	金鳳學	千田相同	金田龍鎮		
次女	長男	弟	長女		妹	長男	妹	次男	弟	長男		弟		
金再淑	棹本甲世	金相道	瑞原貞子	金海基德	金鎮粉	高山鐘德	宋洙熙	崔淳玉	金昌坤	金正錄	千由明云	金龍岡		
九	九	八	八	九	九	七	一〇	七	一〇	九	七	八	八	八

五	五	五	五	三	六	六	四	一	一	一	二	三
卞福男	金慶男	白銀昌	朴已福	梁金成	棟本長魯	韓羽斐洙	柳澤秀吉	半本壽甲	原元壽奉	元山厚常	田春雄	系長鏡
妹	次男	次男	妹	三男	二女	長女	長子	〃	長女	長子	長子	〃
卞弼洙	金鉉昌	白鏡安	朴花粉	梁在九	棟本喜順	韓英淑	柳澤鳳熙	半本姬任	原元情姬	元山容文	田相師	系仁娉
又	九	九	一〇	八	九	九	八	九	七	八	九	八

卓魚精實凡事夏月夕安出

三	三	六	六	六	六	大	大	大	三	三	卅
中島彩雲	金海俊泰	國本二龍	松原贊明	朴龍成	中平炳天	松本福太	石川得根	西原甲錫	西原宏義	〃	八六名
長子	〃	〃	〃	〃	〃	〃	長女	弟	長女	〃	〃
中島昌順	金海榮權	國本光悋	松原允雨	朴春奎	中平順務	松本隆盛	石川永姐	西原義錫	西原信子	〃	九〇名
八	八	八	九	八	九	七	七	七	八	〃	〃

明洋總督府實記未出

六	木村廣吉	四〇	一	香山公立國民學校
又	元山旺常	五	一	砂浪海習舎
又	元山殷中	五	一	"
八	金村三用	四五	一	香山公立國民學校
一〇	元山泳常	五	一	砂浪海習舎
二	金龍伊	五	一	烏早島海習舎
三	金本義一	六〇	一	香山公立國民學校
二	西村豐藏	五〇	一	"
三	石山淳明	七五	二	"
三	平山戴郎	五	一	烏早島海習舎
四	中原定成	四〇	一	香山公立國民學校
一	西原實錫	五	一	吉毛里海習舎
一	中原義治	五	一	砂浪海習舎

「東條新報」凡事實用外安出所

三	一	中原泰垣	二〇	三	砂浪海習舎
二	二	棹本明魯	三〇	一	香山公立國民學校
三	三	趙先河	一〇	一	"
五	五	朴常熙	五	一	"
五	五	金田龍鎮	五	一	浪海習舎
五	五	中田喜俊	五	一	"
五	五	金慶男	五	一	"
六	六	棹本良魯	五〇	一	香山公立國民學校
六	六	韓翼生	五	一	砂浪海習舎
四	一	金忠德	二〇	一	香山公立國民學校
二	二	松山忠夫	五〇	一	"
三	三	西原輝夫	四〇	一	"
五	五	平野幹男	五〇	一	"

明洋總督府專賣局朱安出所

朝鮮總督府外事課外務部

不就學兒童年齡一覽表

不就學兒童年齡一覽表				
年齡別	員數			
一〇才	九名			
九才	二九			
八才	三一			
七才	二〇			
六才				
五才				
四才				
三才				
二才				
一才				
合計	九〇名			

2

草魚紅香片三寶月冬冬出頭月

訓導一人所要經費（朝鮮人）

職名	俸	終	臨時手当尚	親類手当	家族手当	賞與	金類	計
月俸	年額	月額	年額	月額	年額	年額	年額	年額
大。七三。	一〇。	三〇。	六七。	一五。	六〇。	六〇。	三〇。	一三四二。

小使一人所要經費

[illegible]

昭和十八年九月三十日

專賣局朱安出張所

君子派一所

朱安出張所長殿

君子塩田直營農場設立件

五月十日附御昭會係八首題事業償還計畫

左記通報告

記

事業資金借入償還計畫一覽表

年度別借入金

償還額

借入金残高

利息拂

摘要

昭和十八年度七四三三

七四三三

明洋總督府專賣局朱安出張所

車馬船費月馬車月夕夕夕夕月

年度別	借入金	償還額	借金残高	利息拂	摘要
昭和九年年度		二〇〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇〇	九四〇〇〇〇	年利六分計算
昭和十年年度		三〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇〇	三二〇〇〇〇	
昭和十一年年度		三〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	
計	七〇〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇〇		一〇六〇〇〇〇	

内訳

農場収支計算

一 昭和十年年度

収入之部

一金貳千四百元也 馬鈴薯 參千貫 一貫金 麥 割
 一金貳千陸元也 甘藷 參千貫 一貫金 麥
 一金陸百八拾元也 木ヤ 參百貫 一貫金 麥

一金陸百元也 高粱 貳百貫 一貫金 麥
 一金參百元也 マロハ 參百貫 一貫金 麥
 一金五拾六元也 ナス 百貫 一貫金 麥
 一金六拾元也 胡瓜 百貫 一貫金 麥
 一金八拾元也 牛房 百貫 一貫金 麥
 一金六拾元也 人蔘 百貫 一貫金 麥
 一金陸百元也 里薯 百貫 一貫金 麥
 一金貳百拾元也 白菜 七百貫 一貫金 麥
 一金貳百拾元也 大根 陸千貫 一貫金 麥
 一金五百元也 麦 五〇〇 一貫金 麥
 一金四拾五元也 南京豆 參拾貫 一貫金 麥
 計 金六千五百拾陸元也

支出之部

明洋行總務部事務費同未定額

一金參千貳拾元也	管理費
一金六百元也	家畜費
一金六百拾元也	器具費
一金五百拾元也	消耗品費
一金七百元也	雜費
一金貳千元也	建物費
計 金七千四百拾元也	

差 損

一金凌千參百拾元也

備考

右收支計算ニ依ル本年年度ニ於テ作物收入金ヲ以償元帳記載セシメ何分事業着手初年度、爲空閑地、開墾費等意外豫算ヲ要スミナラズ次年度事

業經營上ニ支障アル付初年度ハ振置ト致シ左記通り昭和十九年度リ償還ノ豫定アリ

昭和十九年度

収入之部

一金參千貳拾元也	馬鈴薯早賣金
一金參千五百元也	甘藷五ヶ貫、七ヶ
一金凌百八拾元也	木ヤ參百貫、五ヶ
一金凌百拾元也	大豆五石、五斗内
一金凌百元也	高粱貳百貫、五斗
一金六拾元也	人蔘百貫、五斗
一金八拾元也	牛房百貫、五斗
一金五百元也	麦五ヶ、一斗

一 金 凌 百 貳 拾 五 元 也
 一 金 貳 百 八 拾 元 也
 計 金 八 千 凌 百 七 拾 五 元 也

大 根 五 百 貳 拾 五 元
 白 菜 七 百 貳 拾 四 元

支 出 之 部

一 金 參 千 四 百 四 十 元 也
 一 金 六 百 元 也
 一 金 凌 千 元 也
 一 金 九 百 四 拾 元 也
 一 金 貳 千 元 也
 一 金 貳 百 八 拾 元 也
 一 金 八 千 凌 百 七 拾 五 元 也

管 理 費
 消 耗 品 費 牛 飼 料
 肥 料 及 苗 購 入 及 人 夫 賃
 利 息 借 金 七 千 四 百 四 拾 元
 償 還 費 并 分 利 子 七 千 四 百 四 拾 元
 雜 費

三 昭 和 三 年 度

收 入 之 部

一 金 參 千 貳 百 元 也
 一 金 參 千 五 百 元 也
 一 金 參 百 元 也
 一 金 參 百 元 也
 一 金 凌 百 五 拾 元 也
 一 金 凌 百 貳 拾 元 也
 一 金 凌 百 六 拾 元 也
 一 金 八 百 元 也
 一 金 凌 百 七 拾 五 元 也
 一 金 參 百 貳 拾 元 也
 計 九 千 貳 拾 五 元 也

馬 鈴 薯 四 千 貳 百 八 十 元
 甘 藷 五 千 貳 百 七 十 元
 禾 草 五 百 貳 拾 元
 大 豆 十 五 元
 高 梁 參 百 貳 拾 元
 人 蔘 貳 百 貳 拾 元
 牛 房 貳 百 貳 拾 元
 麥 八 百 元
 大 根 七 百 貳 拾 四 元
 白 菜 八 百 貳 拾 四 元

支出之部

金参千四百拾四円也	管理費
金九百円也	消耗品費 牛飼料其他
金壹千五百円也	肥料及苗類購入
金貳千五百円也	償還費
金参百五十円也	利息 借入金及貸付金
金貳百五十円也	雑費
計金九千貳拾五円也	

昭和三十一年度

収入之部

金四千貳百円也	馬鈴薯 千貫貫金
金参千五百円也	甘藷 五千貫 七千

金参百円也	木 貳百貫、五千
金参百円也	大豆 十五石 千円
金壹百五十円也	高粱 三百貫 五千
金壹百五十円也	人蔘 貳百貫、五千
金壹百五十円也	牛房 貳百貫、五千
金八百円也	麦 八石 千円
金壹百五十円也	大根 七百貫 五千
金参百五十円也	白菜 八百貫、五千
計金壹万貳拾五円也	

支出之部

金参千六百拾七円也	管理費
金壹千円也	消耗品費

「東京府農務局月報」昭和十八年三月九日

一、金、度、千、七、百、兩、也	肥料及畜糞入地大貨
一、金、度、千、百、四、拾、兩、也	備還費
一、金、度、百、兩、也	利息
一、金、度、百、兩、也	雜費
計、金、度、百、兩、也	計

五、農場管理費	（常備費）	所要額	摘要
年度別	豫算額	計	摘要
昭和十八年度	三、四、〇〇〇	三、四、〇〇〇	昭和十八年度
十九年度	三、四、〇〇〇	三、四、〇〇〇	昭和十九年度
二十年度	三、四、〇〇〇	三、四、〇〇〇	昭和二十年度
二十一年度	三、四、〇〇〇	三、四、〇〇〇	昭和二十一年度
計	一、五、〇〇〇	一、五、〇〇〇	計

京城（谷田納）

昭和十八年三月九日

專賣局朱安出張所

君子派出所長

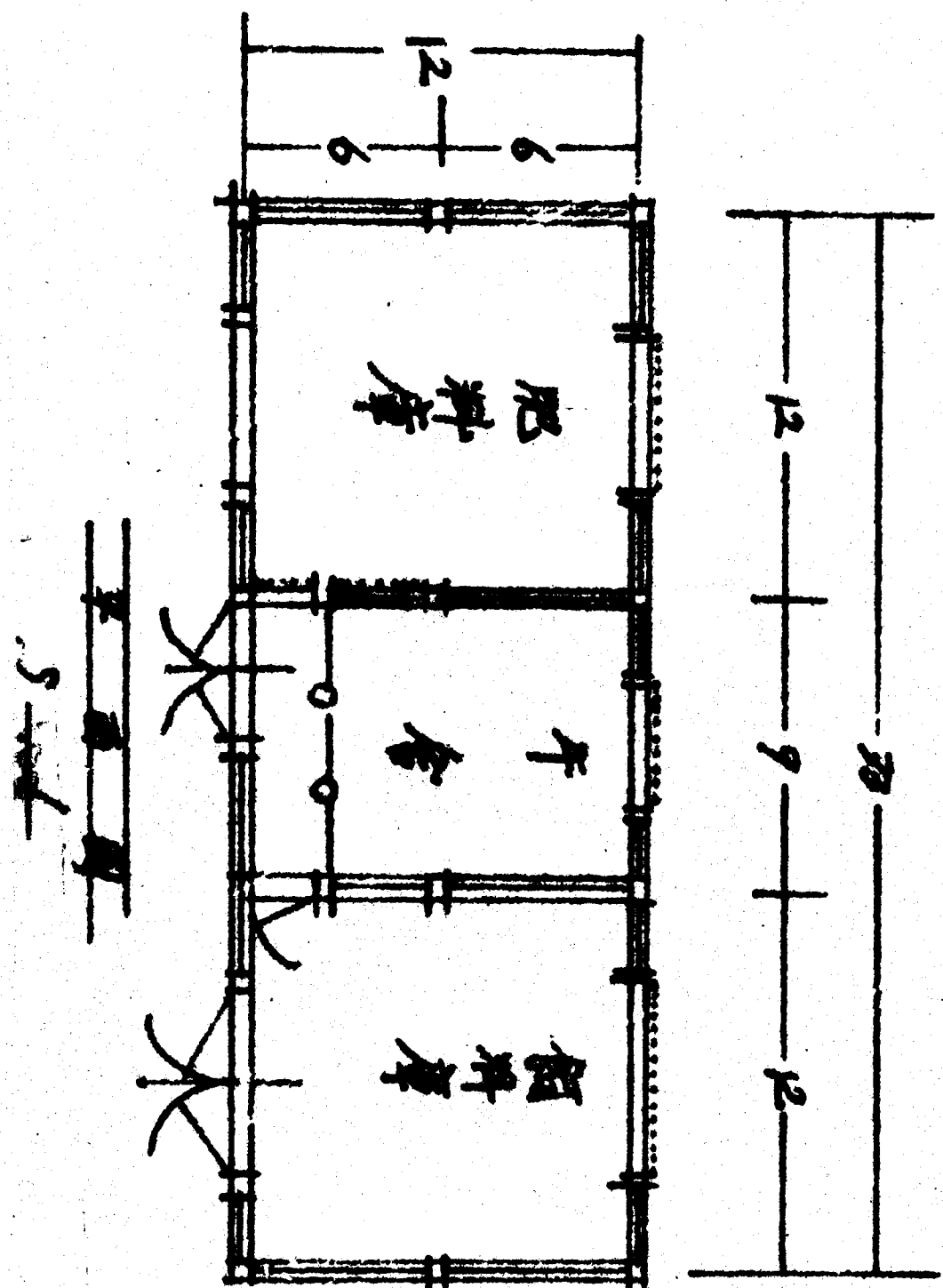
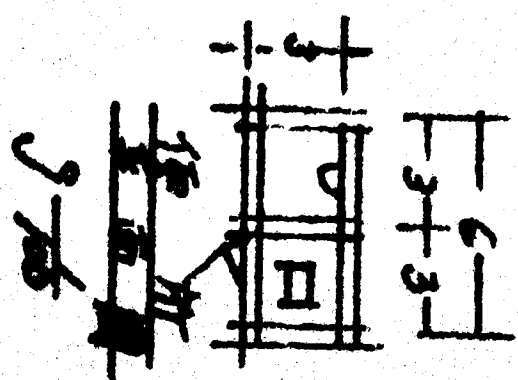
朱安出張所長殿

君子塩田製塩従業員糧食確保ニ関スル件
 首題件ニ関シテ先般小官本局出張の際
 打合通、當所ハ地理的關係ヨリ玉釣島及
 鳥耳島ニ申入トシタル曲長場開張ノ有利
 ト認メ左記通計書案ヲ作製致シテ存
 應御調査ノ上本局ニ對シ申達方御依
 賴ス

明洋總督府專賣局

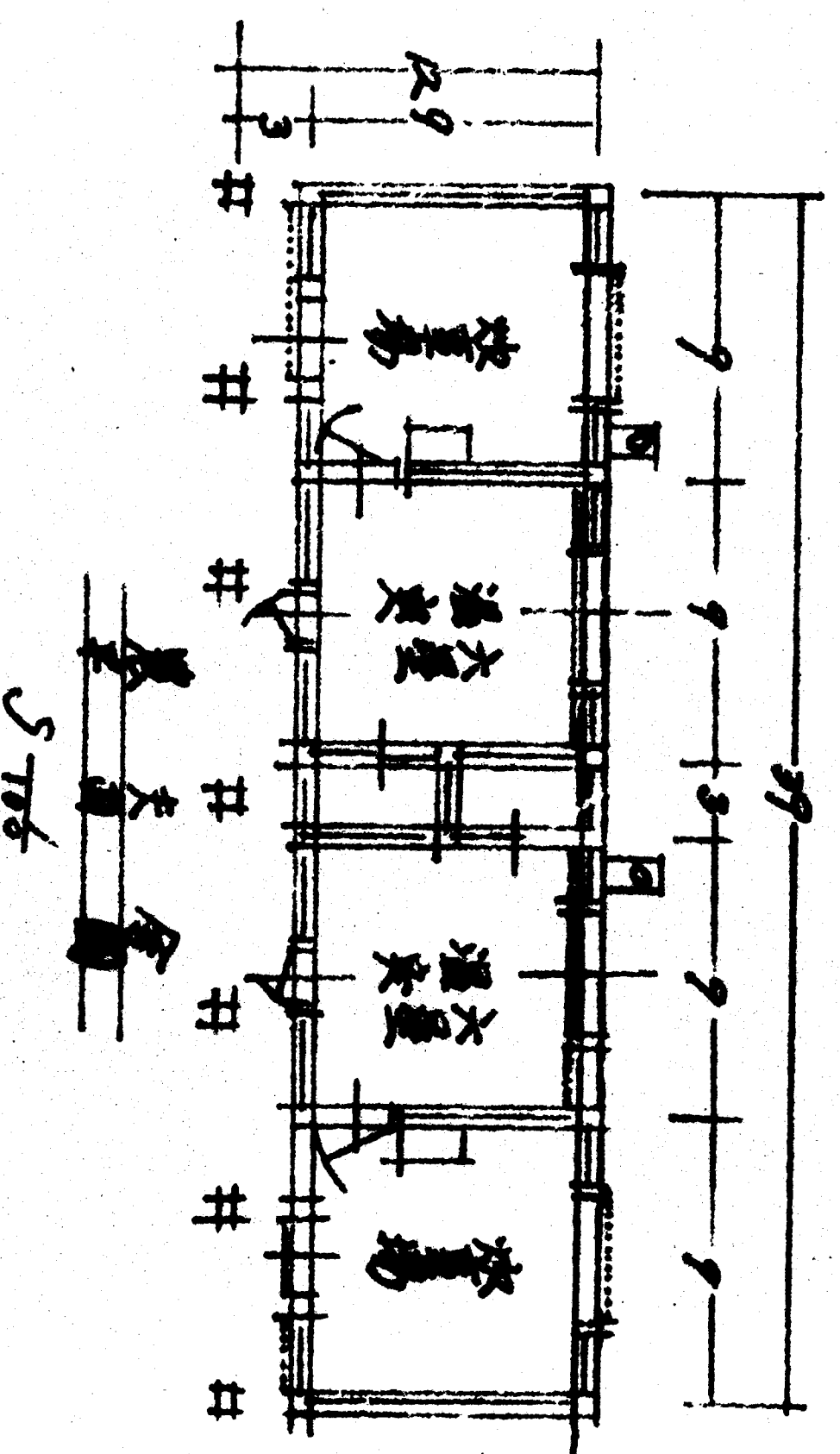
追而其節申上り先農場管理主任者藤仁
 郡署與面新葛里在任中野福次八三月
 主日現場視察小為メ來所ニ由農場經營
 協力方申出タル付本人履歷書添付申
 達ス
 中野福次經歷ハ大正九年三月高知縣高
 岡郡ヨリ東松第一種穀民トシテ京或ヨリ龍仁
 郡ニ植水田三町歩及畑作若干耕作
 ニ從事本年ニ至リ契入約満期トナリタル由リ

(美濃型十三行和野紙)



明洋建築設計事務所

5/100



昭和十八年四月

君子塩田直營農場計畫書

君子塩田直営農場計畫書

一、農場設定位置及面積

君子塩田玉鈎島及烏耳島内専賣局官有地
及國有地一帯六町步畑作及官有水田若干

二、農場經營費

管理費 三三二四円

建造物 二〇〇〇円

家蓄費 六〇四

器具費 六六八円

消耗量費 五五〇円

雜費 七〇〇円

計
七
白
二
十

由譯

一 管理費

種別	員數	單価	金額
農場管理主任	1	600	7200
俸給	1	600	7200
賞與	1	600	7200
家族手当	4	2000	8000
戰時勤勉手当	1	7200	7200
勤勉手当	1	2000	2000
出張旅費	1	500	500
計	10	16000	160000
農夫	2	600	1200
賞與	2	600	1200
家族手当	1	4000	4000

昭和二十一年四月一日現在

戰時勤勉手当	2	3000	7200
勤勉手当	2	1000	2000
計		18000	18000
合計		33300	33300
二 建造物			
農夫舎	16	5000	80000
附屬屋	11	4500	49500
令便所	5	4300	21500
肥料溜	4	5000	20000
井戸	1	2000	2000
計		16000	16000
三 器具費			
牛車	1	30000	30000

昭和二十一年四月一日現在

君子塩田直營農場收支計算

收入之部。

一金貳千四百兩也

馬鈴薯參十貫 一貫入十貫

一金貳千老百丹也

甘草 炙冬 4 贯 一 贯 七 十 九

一金卷百八拾四也

不弋參白貫
一貫六十

一金卷百兩也

高梁城百貫 一貫 五十貫

金參 自內也

マクワ瓜 五百貫一貫 六十貫

金五於六四曲

十又百發一貫五子氣不

一金六拾四也

胡瓜 一白 一黑 一青 一黃

一金八拾兩也

牛身百貫一貫人事

一金大於四也

人養百貫一貫六十

一金老日月也

里著百貫

一金刻日於內

白菜二葉

君子塩田農場農夫舎其他新設工事仕様書

工事内譯

- | | | | |
|--------|----------------|--------|----|
| 一、農夫舎 | 準朝鮮式 | 此建坪一五坪 | 一棟 |
| 二、附屬建物 | 牛飼料貯蔵庫 | 全 一一坪 | 一棟 |
| 三、全 | 便所 | 全 五坪 | 一棟 |
| 四、肥料溜 | 方四メートル
深サ四尺 | | 四所 |

農夫舎之部

基礎	柱根栗石掘キ省石堀工付クモトス
軸部	凡テ丸太及押角材ヲ用ヒ準朝鮮式
屋根	土居萩枝又ハ黍殻ヲ用ヒ土居土塗及下端土塗其 為ニ下端化粧屋根ハ漆喰上塗りニ葺キトス
壁	準朝鮮式臭壁ト見エ拂リ内外漆喰塗りトス

建天温
具井突

紙及木摺す間と三田貼り仕上ケトス
温突出入口ハ朝鮮式障子押入を複、温突窓内部
引分紙貼障子外部上ケトトと其他窓ハ凡て重及
窓ト炊事場出入口ハ板手トス

附屬屋

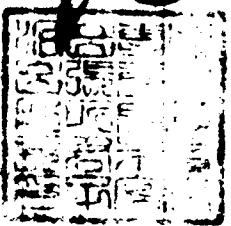
概 要
凡テ前記ニ依リ施スニ壁一部ハ漆喰上塗り障子

肥料場

コンクリート調合ニミナトニ指示ニ依リ指示す法ニ
テ之テ内部防水モル土仕上ゲトス

昭和十八年四月十五日

君子派出張所長



朱安出張所長 殿

君子塩田軌條修理工事ニ関スル件
當所塩田構内塩搬出用及物品運搬之飲
料水運搬用軌條路面修理ノ所別紙ノ通り
調査設計書ヲ作製提出シタルニ付修理
施行方ニ関シテハ至急何分御指示相煩度
追而右設計書 二部申達ス

竣工年月日

昭和

年

月

日

起工年月日

昭和

年

月

日

設計年月日

昭和

年

月

日

調査印

設計者印

(署名欄)

印

昭和十八年四月 日

君子塩田軌條修理工事設計書

君子出張所

10

(四) 總之，本報之宗旨，在於報導事實，以供社會之參考。其內容之真偽，概不負責。其內容之真偽，概不負責。其內容之真偽，概不負責。

設計書刊販

明朝
附錄
朝鮮

事關國家民族前途

工事名 稱品種 寸法 容量 單位 員數 單價 金額 備註

計	修理材料	木				19.40	原品材料
ペーシ	木						
モール	本						
スパー	本						
枕木							
合						19.40	
第三、四區塩田							
勞力費							
取替	金貨	本				5.50	
枕木	金貨	本				4.50	
合						10.00	
所屬人							
合						5.50	
西端						5.50	
合						11.00	
雜費						15.00	
計						40.00	
修理材料							
ペーシ	木						原品材料
モール	本						
スパー	本						
枕木							
合						19.40	
計							
合						19.40	

設計書用紙

朝鮮 專賣局朱安出張所

[illegible]

仕樣書

第一條 本工事ハ君子塩田構内ニ敷設シ凡軌
條路面修理及腐蝕軌條迄ハ枕木ノ取
換シ主トスルモノナリ

第二條 本工事ハ春季塩搬出急ヲ要スルニ
ニ付大至急修理ヲ要ス

第三條 本工事ノ配線路面仕上橋梁修理ハ
總テ現場監督員ノ指揮ニ從ヒ入念ニ施行
スヘシ

第四條 路面修理土取跡ハ平坦ニ地均シナ
スニ勿論土を腐蝕枕木ハ役所ニ運搬
スヘシ

第五條 本章程施行期間自昭和七年四月

十七日ヨリ四月三十日迄ニ仕上ラレシ

東京府立第一中学校

(第一編) 第一

朝鮮總督府專賣局 君子塩田平面圖

老萬二千分之二

所在地 京畿道始興郡 君子面地先

一塩田面積 九百十八町步 塩田真面積五七五町步

一塩田一町步

一之分千二萬一尺縮



鐵道線路	獨立家屋	棧橋	木橋	木造伏櫓	鐵筋混凝土水閘	混凝土堤外排水伏櫓	揚水ポンプ場	石子停車場	瀝青混凝土排水伏櫓	君子派出所廳舍	見張所	夫	屋
------	------	----	----	------	---------	-----------	--------	-------	-----------	---------	-----	---	---

正往里

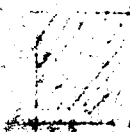
君塩田平面圖

縮一尺萬二千分之一

此圖係改定新圖

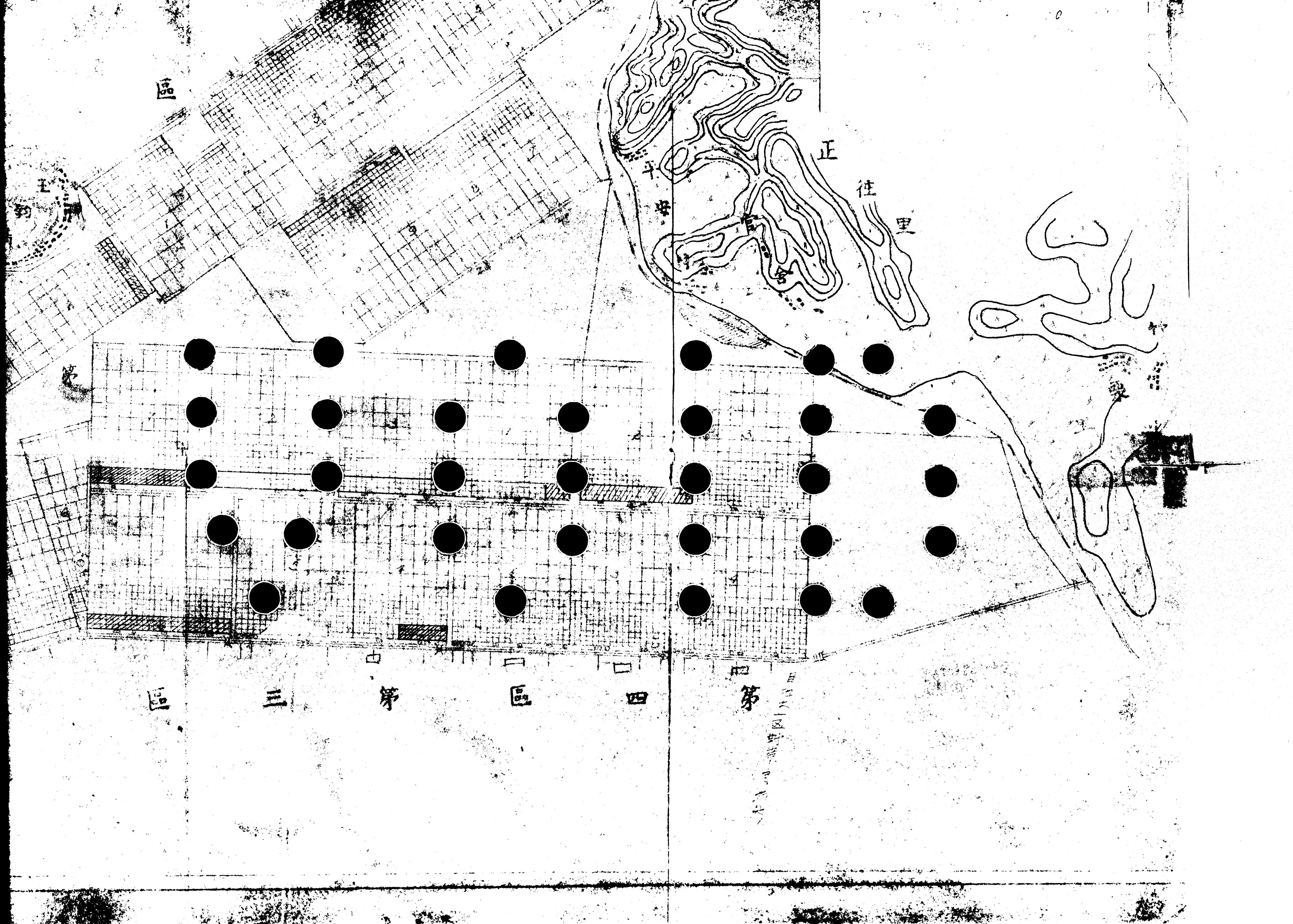


鹽田



水田





1946

里

平

100



三

第



四

第

區對岸



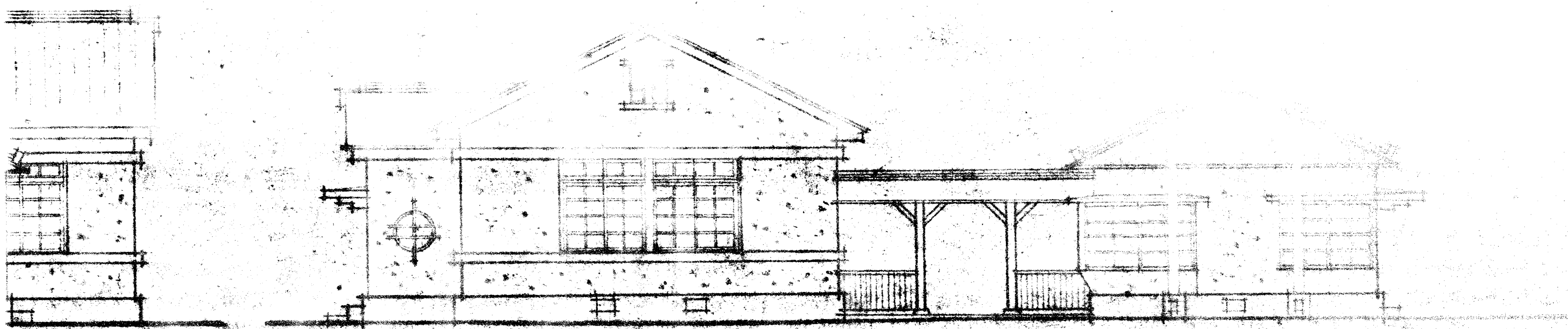
下塩田事務所!

君子苦汁工場

苦汁工場
了務所

平田圖
圖

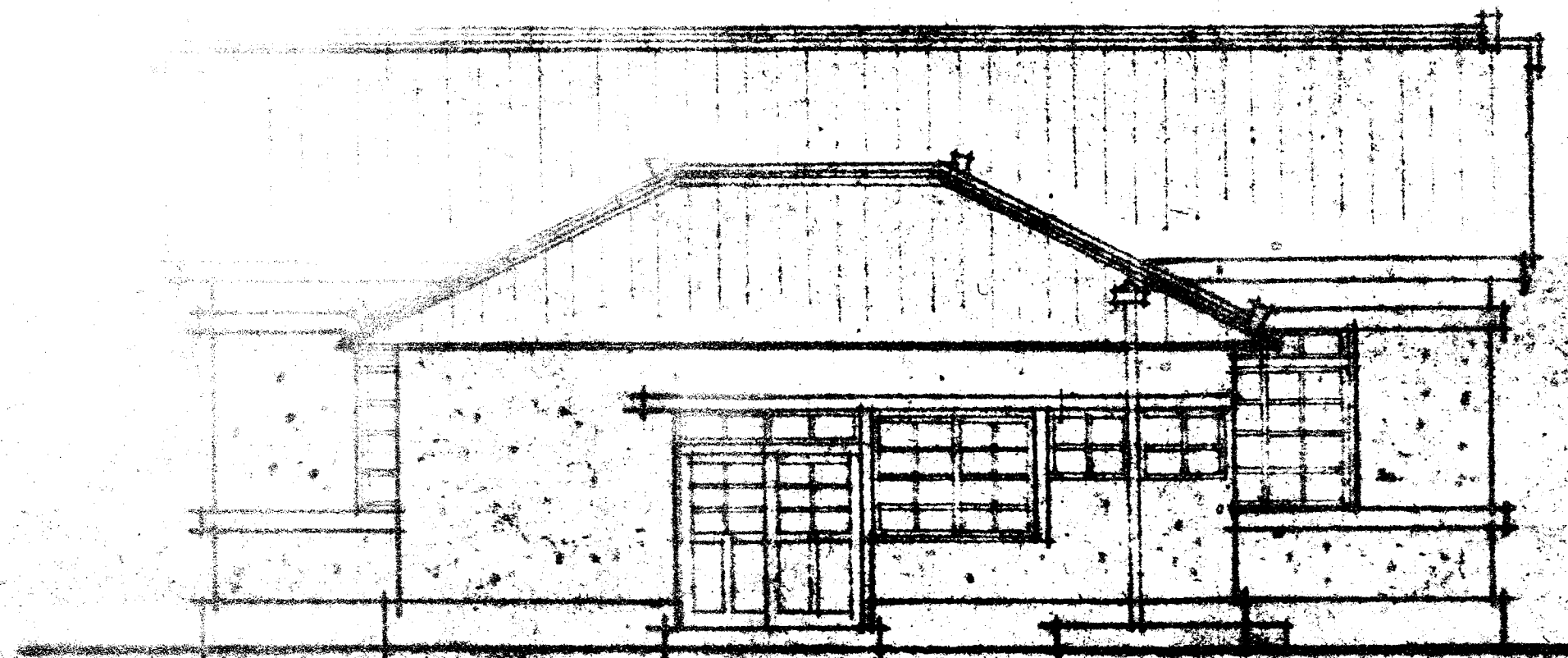
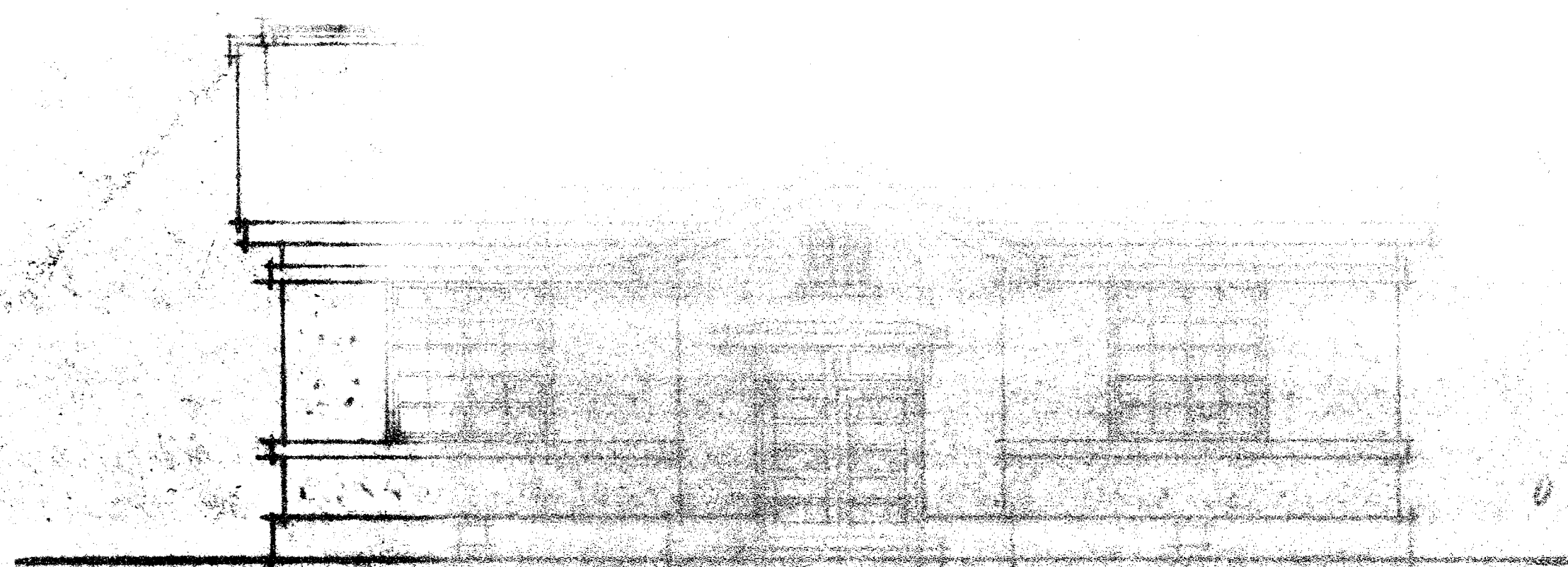
所 祈 永 之 行 以 此 圖 離 人 豈 曰 公 之 也



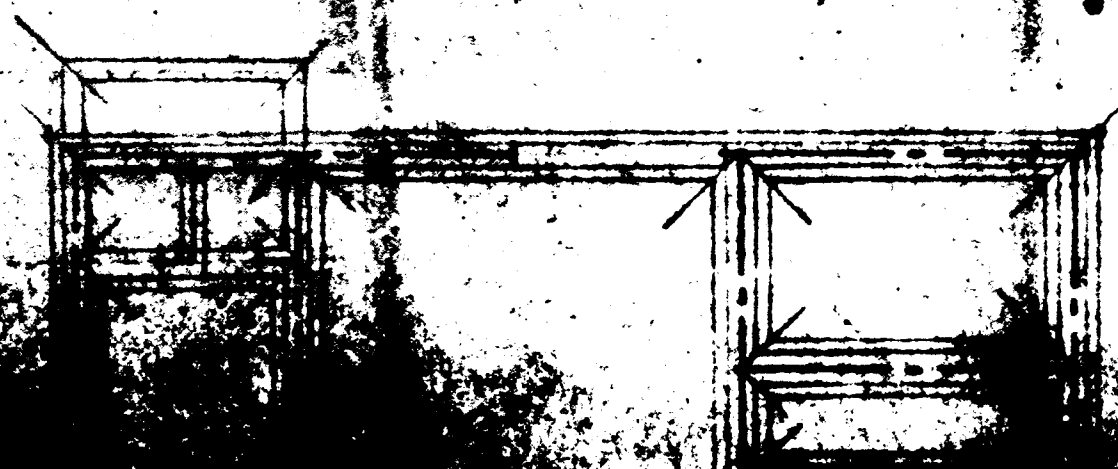
側 面 圖



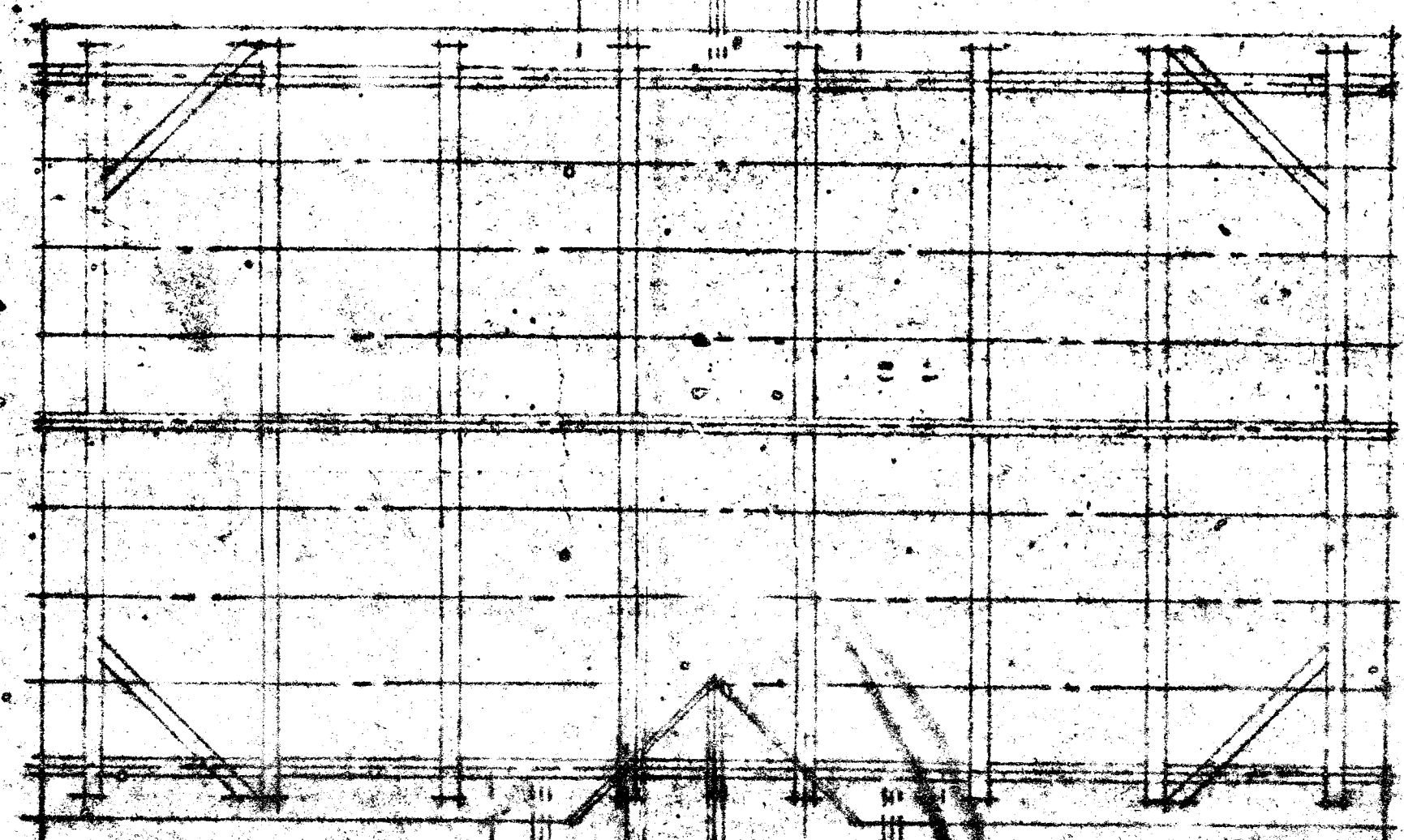
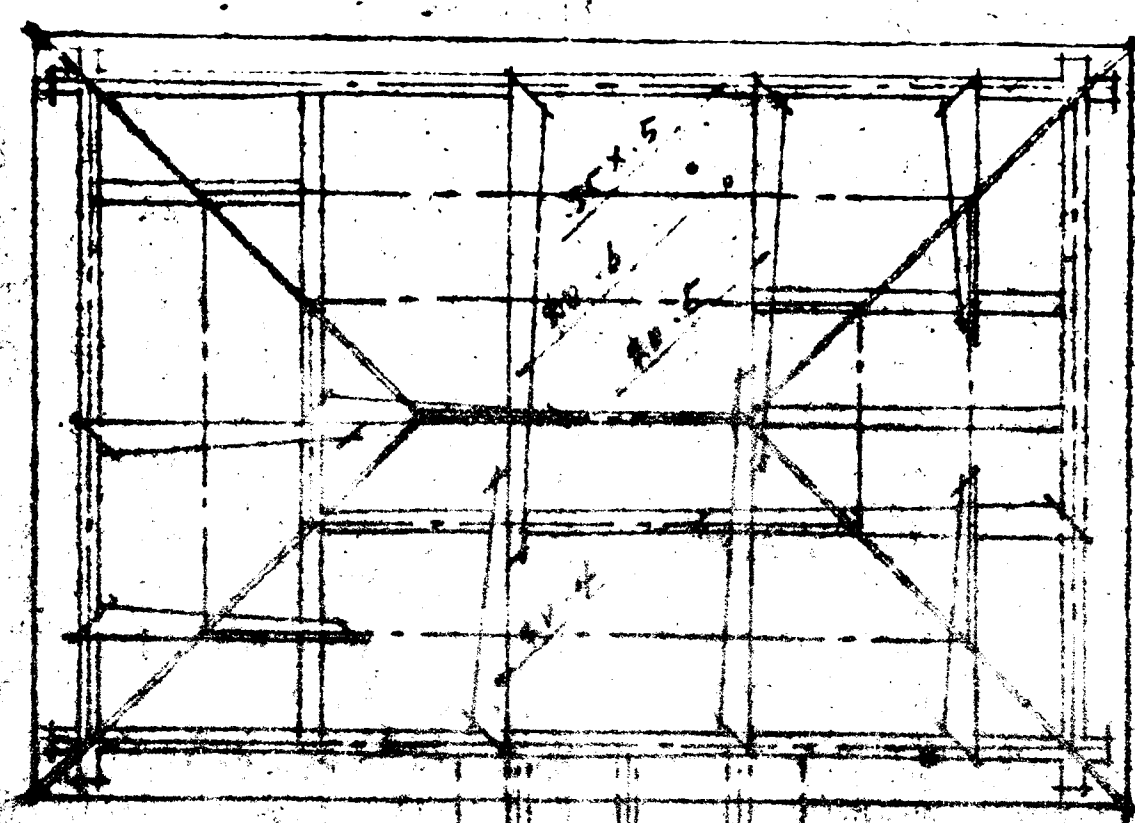
新事務所五層設計



背面圖



基礎杭打
木口云云
九尺有半
大間ト云



小屋伏置

①	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
②	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
③	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
④	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑤	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑥	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑦	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑧	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑨	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑩	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑪	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑫	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑬	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑭	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑮	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑯	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑰	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑱	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑲	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
⑳	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉑	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉒	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉓	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉔	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉕	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉖	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉗	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉘	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉙	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉚	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉛	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉜	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉝	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉞	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㉟	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊱	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊲	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊳	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊴	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊵	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊶	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊷	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊸	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊹	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊺	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊻	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊼	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊽	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊾	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間
㊿	土間	4.00	6.00	1	2	引込	土間

昭和十年四月。

朝鮮總督府 專賣局 天日塩田築造関係資料

一、昭和十年頃、専賣局、米守出張所管内の蘇萊塩田五四所歩は塩田築造
中でありまして、當時全塩田の所長であった技師、鈴木琢雄氏は、これ進行わ
れた、塩田測量設計^{の土木}技師に欠^てありまして、氏の理論によつて塩田を設計された方
であります。本文は、塩田築造の基礎となる海水蒸発につて、論文を専賣通報に投
稿せられたものであります。

因に氏は、東大にて天門学を卒業された方、其後、君予、広翠湾の所長と歴任され、
昭和十八年頃、今地に設立された、設備が海海水利用工業會社へ入社、塩田築造
に活躍された方です。私は昭和十二年頃、今氏のもとにて塩田事業主任
とつとめまいした。

72ね

3

昭和十年四月

朝鮮総督府専賣局 天日塩田築造 関係書

(天日塩田絞リノ由來) 蘇萊塩田由五四町歩
の築造基礎となった

朝鮮総督府専賣局技師 鈴木球雄

技手 石川武吉

21枚
No. 1



鹽 業 漫 談

南 市 金 鈴 木 令 木

天日鹽田に於ける鹹水造面積の算出に就て

一、緒 言

- (イ) 天日鹽田絞りの由來
- (ロ) 南洞君子鹽田蒸發池面積縮小率計算表
- (ハ) 支那土民鹽田の絞り
- (ニ) 採鹹量
- 二、海水の濃縮に關する實驗成績
- 三、鹹水の比蒸發量
- 四、鹹水の臨界濕度
- 五、鹹水比重上昇の等時性
- 六、蒸發池終段に於ける補給鹹水の比重
- 七、鹹水蒸發量均等の假定
- 八、鹹水蒸發量均等の假定より生ずる比重
- 九、鹹水蒸發量等時性の假定
- 一〇、等深等時の假定比重と之に相應する比容積
- 一一、鹹水濃縮等時性の變化に關する考察

一三、鹽田地劃論

一四、蘇萊鹽田の地劃

- (イ) 蘇萊第三區西部鹽田各號別鹽田面積の内譯
- (ロ) 池別包容面積百分比 (其ノ一)
- (ハ) 池別包容面積百分比 (其ノ二)
- (ニ) 各段別鹹水増面積の割合
- (ホ) 第一蒸發池各段別包容面積百分比
- (ヘ) 第二蒸發池各段別包容面積百分比
- 一四、張水ノ水深ト落差及び蒸發能
- 一五、結 論
- (イ) 海水濃縮に伴ふ固形物析出の順序
- (ロ) 蒸發池終段の面積擴大

一、緒 言

(イ) 天日鹽田絞りの由來

何事に由らず門外漢が初めての仕事に携はる時は極めて平易なる事にも容易に見當るのわがさるものなり、朝鮮に於て初めて天日鹽田を築造する時も之と同様に如何にして鹽田の蒸發面積を定めて可なりやの問題には相當頭を悩みたるものの如し即ち朝鮮に於ては先づ此の困難を征服する爲めに熊々關東州より鹽田築造の技術者を招聘したり此の人が初めて關東州に赴きし時も同様に此の問題は解決に苦心し先づ土人に命じて彼等の現想とする鹽田を築造せしめ其の結果を測量して各段の面積の縮少する割合を算出したるに各段の面積は公比が略〇・一なる等比較數を爲せる事を發見したりと謂ふ。

朝鮮に於ける時の政府は此の人を招聘し以て鹽田築造に當らしめたるを以て此人は嘗て關東州に於て研究したる知識に依つて朝鮮に於ける鹽田を築造したるが故に既設鹽田の面積は其の蒸發面積が公比略〇・一なる等比較數と成りし譯なり此の公比の事を鹽田の紋りと稱するに至れり。

如何に蒸發面積が紋り一割と成る様なる畦畔水路鹹水溜等を加算したる他の適當なる紋りを作爲すとも畦畔水路鹹水溝等に要する面積は鹽田の幾何學的形狀に依り相當に變

化する爲めに鹽田其のものが形狀が變化せば蒸發面積の紋りの工合も亦變化するは當然なり又地割を行ふ時に生ずる測量誤差も實際には影響して結局は紋りの一割に相當の廣範圍に於て亂さるることとなるべし。

朱安廣梁灣の舊鹽田は尠くとも此の觀念の下に於て築造せられたるものなり、而して其の後に築造せられたる徳洞貴城南市等の鹽田には既成鹽田の紋りを平均し且つ製鹽技術者の經驗を斟酌して新しき紋りの歩合を算出して此の値を使用したり又南洞君子鹽田には當時の技術者が既設鹽田に於て研究したる種々の記録を標準として次の如き表を作製し之に由つて標準地圖を造り之と全く同一なる形即ち縱延長三〇〇間横延長五〇間なるものを並列したるものを一區劃として築造を行へり參考の爲め之を表記せば次の如し此の計算に對する批評は茲に之を遠慮することゝす兎に角朱安管内の鹽田の内八七五町歩は此の根據に由れるものなることを茲に一言す。

蘇萊第一、二區鹽田は打合會の決定事項たる第一蒸發池六〇%第二蒸發池二六%結晶池一四%とし紋りは結晶池を除き各を一割五分の紋りと爲せり。

(口) 南洞君子鹽田蒸發池面積縮少率計算表

區分	階段	面積割合	縮少歩合	百分比	積留水量	同深上鹹水重	殘留鹹水減量	生成比重	蒸發率	放置日數
第一蒸發池	1	1000	—	一・六	八三・五	一・五	六六・八	〇・一六	二・〇	六・〇
	2	六三〇	〇・四	一・四	六六・八	一・四	五九・〇	〇・一三	二・一	一・五
	3	三九一	〇・三	一・三	五九・〇	一・三	五二・三	〇・一〇	二・二	一・五
	4	二四二	〇・二	一・二	四六・七	一・二	四〇・九	〇・〇九	二・三	一・五
	5	一四二	〇・一	一・一	三二・八	一・一	二七・〇	〇・〇八	二・四	一・五
第二蒸發池	6	八三	〇・一	一・〇	二〇・三	一・〇	一六・九	〇・〇八	二・五	一・五
	7	五三	〇・一	〇・九	一六・九	〇・九	一三・六	〇・〇七	二・六	一・五
	8	三三	〇・一	〇・八	一三・六	〇・八	一〇・四	〇・〇六	二・七	一・五
	9	二〇	〇・一	〇・七	八・二	〇・七	六・九	〇・〇五	二・八	一・五
	10	一〇	〇・一	〇・六	五・三	〇・六	三・七	〇・〇四	二・九	一・五

蘇萊第三區鹽田に對しては鹽田築造内部規格に定められたる事項に刺戟せられ新しき紋り割合を算出し之に由りて地割を行ふことと爲せり。

(ハ) 支那土民鹽田の紋り
支那土民鹽田の紋りは一般に緩にして段數も極めて少く從つて水深は厚く落差極めて大にして大體に於て次の如き

1. 紋りは極めて緩にして一割乃至八分且つ下段程緩なり
2. 落差は蒸發池八寸乃至七寸結晶池三寸五分乃至三寸
3. 張水の水深は蒸發池八寸乃至七寸結晶池三寸五分乃至

4. 段數は蒸發池五段結晶池四段にして結晶池に逆溝を設けて鹹水比重上昇の速進を行ふ

支那土民は因襲久しき體驗に依り晴天の連續性に合致する様に築造を行ひしものが即ち之にして朝鮮の如く天候の連續性支那に比較して劣れる地方に於ては直に應用し難き點あるが故きも内容に至りては深く検討する價值ありと謂ふべし。

(二) 採鹹量

採鹹量は鹽田に於て極めて重要な量にして本量の大小は直に鹽田の優劣を決定することとなるは勿論なり採鹹量を定義すること次の如し。

n……蒸發池末段即ち採鹹量面積の終段に於て得らるべき比重

V……比重に相當する鹹水の容積

t……比重なる鹹水を容積くだけ生ずるに要する時間

Q……採鹹量とする時は

$$Q = \frac{1}{uV}$$

斯く定めたるを稱して採鹹量と言ふ本式の性質より明

なるが如く、 $\frac{1}{2}$ は $\frac{1}{4}$ に比例し、 $\frac{1}{4}$ は $\frac{1}{2}$ に逆比例するを以て、 $\frac{1}{2}$ が大なる爲めには、 $\frac{1}{4}$ の小なる値に對し、 $\frac{1}{4}$ の成るべく大なる事を要するものとす。

今水深を Γ 面積を η と置く時は

$$V = h \cdot S$$

$$Q = \frac{1}{t} \text{ u.h.s.}$$

而して ρ は海水を濃縮して天日製鹽を行ふに必要な比重 ρ を得るに必要な値なるが故に製鹽を行ふ地方の氣象的狀態に大なる關係を有す従つて製鹽者の大に考慮を要するものなり即ち ρ の値に依りて π は自ら ρ の制限を受けるものなるは勿論 ρ も亦 π の値に依りて π の制限を受けるものなり即ち採鹹量 Q は $\tan \pi$ の函數なるのみならず ρ は共に ρ の函數にして且つ ρ は又 ρ の函數なりとす即ち

$$\mathbf{n} = \mathbf{f}_i(t)$$

$$h = f_2(t)$$

$S-f_3(t)$

なるのみならず

$$h = T_1(n) = F_1\{f_1(t)\}$$

$$S = T_2(n) = F_2\{f_2(t)\}$$

の歩合を計算することゝす。

君子南洞鹽田は横距離五〇間縦距離三〇〇間即ち包容面積五町歩なる單位鹽田の集合より成る此等の中相接する任意の二個を取りて比較するに生ずる結晶面積に甚しき差あり之を詳細に調査する時は各採鹹面積に相當の差異あると水深に著しき差あるとによりて生ずる場合歟しとせず單に皮想觀を以て土壤の差異鹽田害虫の罪にのみ採鹹量の差即ち結晶坪の優劣を歸せしむることなくんば技術の進歩に貢獻する所大ならん。

二、海水の濃縮に關する實驗成績

余が嘗て海水の蒸發に關し實驗し比容積比蒸發量及蒸發水分の容積を算定したる結果に依れば次の如き數字を得たり。

にしてこの τ に對する函數的關係は

$$\frac{dq}{dt} = \frac{j_q}{j_n} + \frac{j_q}{j_n} \frac{dn}{dt} + \frac{j_q}{j_n} \left(\frac{dh}{dn} \frac{dn}{dt} + \frac{dh}{dt} \right) + \frac{j_q}{j_s} \left(\frac{ds}{dn} \frac{dn}{dt} + \frac{ds}{dt} \right) = \frac{1}{t_2} n h s + \frac{1}{j_s} \frac{dh}{dt} n s + \frac{1}{t} n s \left(\frac{dh}{dn} \frac{dn}{dt} + \frac{dh}{dt} \right) + \frac{1}{t} n h \left(\frac{ds}{dn} \frac{dn}{dt} + \frac{ds}{dt} \right)$$

従つてこの極大に關する研究は

$$\frac{dq}{dt} = 0$$

なる條件より $n=f_1(t)$ $h=f_2(t)$ $s=f_3(t)$

及び $h = T_1(n)$ $S = T_2(n)$

なる函數の形を知る事に依りて決定し得べきものなり而して此の等の形の決定は多くの研究を必要とするものにして此等の闡明を待ちて初めて完全なる絞りの計算が完成せらるゝも不幸にして今茲に之を爲し得ざるを以て既得の貧弱なる實驗成績と體驗とを基礎として蘇萊第三區鹽田の絞り

温度數	眞比	比重	容積	蒸發水分	シタル蒸發水分	比蒸發量	摘
0・0	1,0000	—	—	—	—	1,000	
10・5	1,0174	1,007,000	1,726,6	9,219,9	0,64,3		
20・0	1,0341	1,016,8	1,778,9	9,10,5	0,65,0		

三三	一〇、〇〇	七〇、三三	六、六六	〇、九三
四〇	一〇、〇〇	六二、三三	三、三三	〇、九三
四四	一〇、〇〇	五四、〇三	四、三三	〇、九六
五〇	一〇、〇〇	四八、三三	四、七〇	〇、九三
五五	一〇、〇〇	五三、六三	三、八六	〇、九三
六〇	一〇、〇〇	五九、七三	三、三七	〇、八六
六五	一〇、〇〇	六六、〇三	三、七三	〇、八六
七〇	一〇、〇〇	七二、七三	三、七三	〇、八六
七五	一〇、〇〇	七九、〇三	三、九〇	〇、八六
八〇	一〇、〇〇	八五、七三	三、五〇	〇、八六
八五	一〇、〇〇	九二、三三	三、六六	〇、八六
九〇	一〇、〇〇	九八、三三	三、八六	〇、八六
九五	一〇、〇〇	一〇四、三三	三、八六	〇、八六
一〇〇	一〇、〇〇	一一〇、三三	三、八六	〇、八六
一〇五	一〇、〇〇	一一六、三三	三、八六	〇、八六
一一〇	一〇、〇〇	一二二、三三	三、八六	〇、八六
一一五	一〇、〇〇	一二八、三三	三、八六	〇、八六
一二〇	一〇、〇〇	一三四、三三	三、八六	〇、八六
一二五	一〇、〇〇	一四〇、三三	三、八六	〇、八六
一三〇	一〇、〇〇	一四六、三三	三、八六	〇、八六
一三五	一〇、〇〇	一五二、三三	三、八六	〇、八六
一四〇	一〇、〇〇	一五八、三三	三、八六	〇、八六
一四五	一〇、〇〇	一六四、三三	三、八六	〇、八六
一五〇	一〇、〇〇	一七〇、三三	三、八六	〇、八六
一五五	一〇、〇〇	一七六、三三	三、八六	〇、八六
一六〇	一〇、〇〇	一八二、三三	三、八六	〇、八六
一六五	一〇、〇〇	一八八、三三	三、八六	〇、八六
一七〇	一〇、〇〇	一九四、三三	三、八六	〇、八六
一七五	一〇、〇〇	二〇〇、三三	三、八六	〇、八六
一八〇	一〇、〇〇	二〇六、三三	三、八六	〇、八六
一八五	一〇、〇〇	二一二、三三	三、八六	〇、八六
一九〇	一〇、〇〇	二一八、三三	三、八六	〇、八六
一九五	一〇、〇〇	二二四、三三	三、八六	〇、八六
二〇〇	一〇、〇〇	二三〇、三三	三、八六	〇、八六
二〇五	一〇、〇〇	二三六、三三	三、八六	〇、八六
二一〇	一〇、〇〇	二四二、三三	三、八六	〇、八六
二一五	一〇、〇〇	二四八、三三	三、八六	〇、八六
二二〇	一〇、〇〇	二五四、三三	三、八六	〇、八六
二二五	一〇、〇〇	二六〇、三三	三、八六	〇、八六
二三〇	一〇、〇〇	二六六、三三	三、八六	〇、八六
二三五	一〇、〇〇	二七二、三三	三、八六	〇、八六
二四〇	一〇、〇〇	二七八、三三	三、八六	〇、八六
二四五	一〇、〇〇	二八四、三三	三、八六	〇、八六
二五〇	一〇、〇〇	二九〇、三三	三、八六	〇、八六
二五五	一〇、〇〇	二九六、三三	三、八六	〇、八六
二六〇	一〇、〇〇	三〇二、三三	三、八六	〇、八六
二六五	一〇、〇〇	三〇八、三三	三、八六	〇、八六
二七〇	一〇、〇〇	三一四、三三	三、八六	〇、八六
二七五	一〇、〇〇	三二〇、三三	三、八六	〇、八六
二八〇	一〇、〇〇	三二六、三三	三、八六	〇、八六
二八五	一〇、〇〇	三三二、三三	三、八六	〇、八六
二九〇	一〇、〇〇	三三八、三三	三、八六	〇、八六
二九五	一〇、〇〇	三四四、三三	三、八六	〇、八六
三〇〇	一〇、〇〇	三五〇、三三	三、八六	〇、八六
三〇五	一〇、〇〇	三五六、三三	三、八六	〇、八六
三一〇	一〇、〇〇	三六二、三三	三、八六	〇、八六
三一五	一〇、〇〇	三六八、三三	三、八六	〇、八六
三二〇	一〇、〇〇	三七四、三三	三、八六	〇、八六
三二五	一〇、〇〇	三八〇、三三	三、八六	〇、八六
三三〇	一〇、〇〇	三八六、三三	三、八六	〇、八六
三三五	一〇、〇〇	三九二、三三	三、八六	〇、八六
三四〇	一〇、〇〇	三九八、三三	三、八六	〇、八六
三四五	一〇、〇〇	四〇四、三三	三、八六	〇、八六
三五〇	一〇、〇〇	四一〇、三三	三、八六	〇、八六
三五五	一〇、〇〇	四一六、三三	三、八六	〇、八六
三六〇	一〇、〇〇	四二二、三三	三、八六	〇、八六
三六五	一〇、〇〇	四二八、三三	三、八六	〇、八六
三七〇	一〇、〇〇	四三四、三三	三、八六	〇、八六
三七五	一〇、〇〇	四四〇、三三	三、八六	〇、八六
三八〇	一			

[illegible]

三、鹹水の比蒸發量

上表に掲ぐる比蒸發量は次の如き意味を有す
今 E_{Be} なる鹹水の比蒸發量を考ふるに當り極めて微少なる度數を m の前後に考へ此の微少なる度數を Δm とせば m の直前に於ける度數は $m - \Delta m$ にして m の直後に於ける度數は $m + \Delta m$ なるべし又時間に関し其の初めより計りて n なる時の時間を t とせば $n - \Delta n$ なる時の時間は $t - \Delta t$ にして $n + \Delta n$ なる時の時間は $t + \Delta t$ なるべし従つて m なる度數の前後に於ける度數の上昇は

$$n + \Delta n - (n - \Delta n) = 2\Delta n$$

又時間の経過を計算する時は同様にして

$$t + \Delta t - (t - \Delta t) = 2\Delta t$$

今時間に對する度數上昇の割合を求むれば

$$\frac{2\Delta n}{2\Delta t} = \frac{\Delta n}{\Delta t}$$

Δm なる微少の度數上昇の間に m なる度數の鹹水の微少なる蒸發量を Δe とせば Δm なる微少時間の間に於ける平均蒸發量 e は

$$e = \frac{\Delta e}{\Delta t} \dots \dots \dots (1)$$

同様にして清水の蒸發量を考へ同一 Δm なる微少時間の

間に於ける清水の微少なる蒸發量を ΔE とせば Δm なる微少時間の間に於ける清水の平均蒸發量 E は

$$E = \frac{\Delta E}{\Delta t} \dots \dots \dots (2)$$

E に対する比を m なる E 度數に於ける比蒸發量と定義し之を E_{Be} とせば

$$E_{Be} = \frac{e}{E} = \frac{\frac{\Delta e}{\Delta t}}{\frac{\Delta E}{\Delta t}} = \frac{\Delta e}{\Delta E}$$

此の概念の元に實驗を行ひて $Be_{1.5}$ より $Be_{25.0}$ までの比蒸發量を測定計算したるものが即ち上表に於ける比蒸發量なり。

比蒸發量の考へより明なるが如く此の値は比重即ち Be の度數によりて相異なる値を取る外鹹水の溫度水深濕度等の關係によりて相當の範圍に於て變化すべきものなるべきは首肯し得べし従つて上記の表に記載したる値は實驗室内の測定より得たるものなれば溫度水深濕度等は凡て同一狀態に於ける實驗値なるを忘るべからざるものとす。

四、鹹水の臨界濕度

獨り鹹水に止らず清水と雖も其の蒸發量は空中の濕度に

依りて著しく消長するは周知の事實なり而して清水は關係濕度百パーセント以外に於ては一般に蒸發するも鹹水は其の比重に應じて蒸發の停止する關係濕度清水に比し遙に低きのみならず度の高き鹹水は却て空中より水分を吸収するものなり斯くの如く鹹水の蒸發量が停止する關係濕度を其の鹹水の臨界濕度と稱す而して臨界濕度以上の濕度に於ては却て空中より水分を吸収して比重低下す。

例へば清水臨界濕度は一〇〇なりと云ふを得べく $Be_{21.0}$ の鹹水は濕度七五以上に於ては蒸發せずとせば七五は $Be_{21.0}$ の臨界濕度なるが如し。

前表に掲げたる比蒸發量は凡て其の鹹水の臨界濕度以下に於ける値なるは勿論濕度殆ど一定の場合に於ける値なりと知るべし而して假に濕度は凡て其の鹹水の臨界濕度以下なりとするも濕度其ものの値によりて比蒸發量は相當の範圍内に於て消長すべきものなり。

五、鹹水比重上昇の等時性

從來の鹽田地制に於ては蒸發池を十段とし結晶池は之を四段とす而して所謂最盛期に於ては結晶池四段は全部結晶

面積となり蒸發池十段は鹹水造面積となる今此の状態に於て論ずる時は鹽田の地割が最盛期の氣象狀態に克く合致するものとせば次の如き事實が成立するものなる事を知るべし。

今蒸發池十段の蒸發面積を夫々

$$A_1, A_2, A_3, \dots \dots \dots A_{10}$$

とし結晶池面四段の飽和鹹水が過飽和となりて鹽が析出し採鹽後鹹水が補給せらるゝ迄の時間を t とし

$$A_1, A_2, A_3, \dots \dots \dots A_{10}$$

に於ける比重夫々

$$n_1, n_2, n_3, \dots \dots \dots n_{10}$$

とし n_{10} を補給すべき鹹水を水の必要にして且つ充分なる比重とせば各段の比重の間には n_9 が n_{10} に時間を $t_{9,10}$ が n_8 に達する時間を $t_{8,9}$ が n_7 に達する時間を $t_{7,8}$ が n_6 に達する時間を $t_{6,7}$ が n_5 に達する時間を $t_{5,6}$ が n_4 に達する時間を $t_{4,5}$ が n_3 に達する時間を $t_{3,4}$ が n_2 に達する時間を $t_{2,3}$ が n_1 に達する時間を $t_{1,2}$ とせば

$$t_1 = t_2 = t_3 = \dots \dots \dots t_{10} = t$$

なる關係が成立することを知るべし之を鹹水比重上昇の等時性と稱す而して此の關係が完全に成立する様に地制を行ふ事は鹽の生産に大なる裨益を與ふるものと謂はざるべか

らず。
此の關係を加味して地割を行ふことは容易の事にあらざれども茲に蘇萊第三區鹽田を設計するに當り已むを得ざるものありしを以て既得の貧弱なる實驗成績と而して經驗とを基調として鹽田の絞りを考究併せて落差の關係に論及し更に滲透に關する概念を得んとするものなり。

六、蒸發池終段に於ける補給鹹水の比重

蒸發池終段に於て必要とする比重は季節に依りて相違すべきは勿論なるも普通の場合に於ては作業の 驗より
二・二・〇附近を得れば先づ充分なるべし而して製鹽上惠まれざる季節に於ては結晶面積を以て終段に於て Be二・二・〇は得難し斯る時は結晶池の一部を鹹水造面積に充當し得べきを以て大なる支障なきものを得べし以下地割の問題を解決するに當り蒸發池終段に於ては此の假定の元に Be二・二・〇を得るものとして蒸發池十段の面積の割合を算定せんとす。

七、鹹水の蒸發量均等の假定

曲線に依つて容易に求むるを得べし

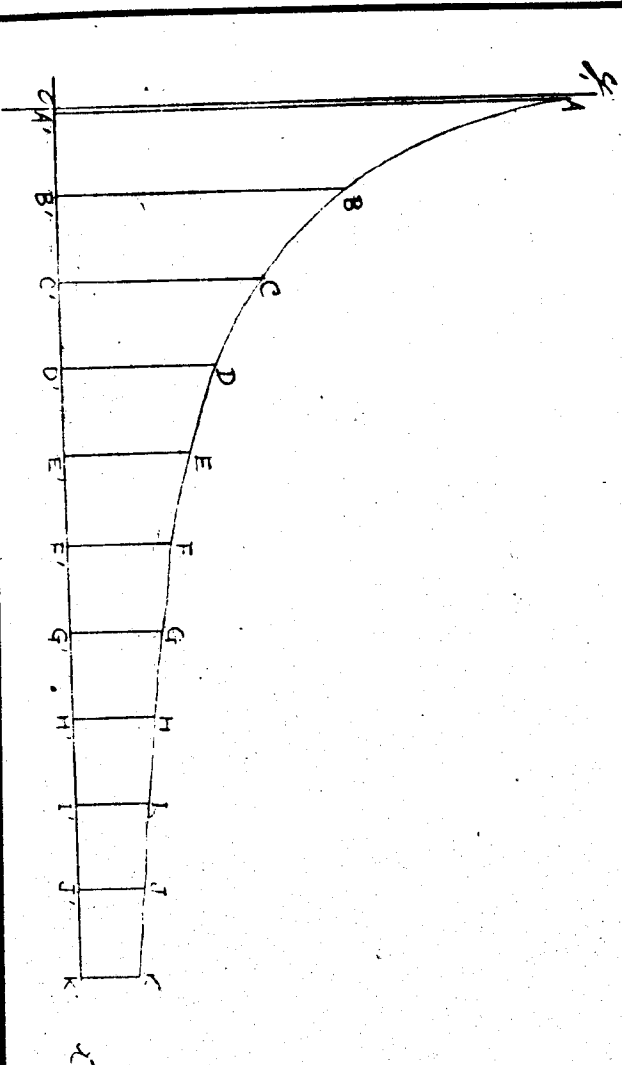
圖に於てOK—九・一二九九

從つて $OB=BC=CD=…JJ=JK$ 九・一二九九
ならぬ $OB, C, …, J, K$ を過きりて y 軸に並行 $AA', BB', CC', …, JJ', KK'$ を引く時は $AA', BB', …, JJ', KK'$ は夫々鹹水蒸發量均等の假定に従ふ比重を表はすものにして作圖に依つて

$$AA'=22.00 \quad KK'=2.50$$

なるは勿論求むる比重として次の如き結果となる

$$BB'=12.01 \quad EE'=5.30 \quad HH'=3.40$$



鹹水の蒸發量は第一表の比蒸發量を見て明なるが如く

Be二・五に於ける〇・九六三より Be二・五・〇に於ける〇・四九〇に至るものにして臨界温度を考慮せざる時は約二・一の割合なるを知る即ち海水の蒸發量は飽和鹹水の約二倍なり今假に如何なる比重の鹹水も同一なる蒸發量を有するものと假定し如何なる比重を境界とし同一の水分を蒸發すべきかを決定する事を得べし此の假定を鹹水蒸發量均等の假定と謂ふ。

八、鹹水蒸發量均等の假定より生ずる比重

蒸發池終段に於ける比重を Be二・二・〇とせば Be二・五の海水が Be二・二・〇に達する迄に蒸發に依りて失はるべき水分の容積は第一表により九・一二九九なり今此の水の容積が各段に於て均等に蒸發するものとせば各段に於ける蒸發水分の容積は次の如し。

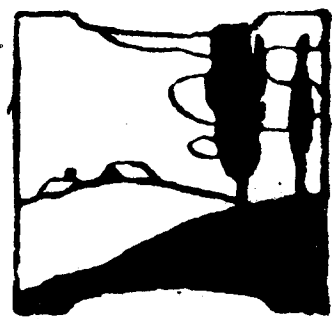
$$91.299 \times \frac{1}{10} = 9.1299$$

即ち各段に於て九・一二九九の水分を蒸發するを要す從つて各段に於て此の水分を蒸發せしめて生ずる B比量は第一表の Be比量を y とし蒸發水分追加数を x として描きたる

$$CC'=8.45 \quad FF'=4.45 \quad II'=3.05$$

$$DD'=6.50 \quad GG'=3.81 \quad JJ'=2.75$$

而して鹹水蒸發量均等の假定が假に自然界に於ける眞理なりとせば上記の比重は各段に於て生ずべき比重なるは勿論此の假定の中には等時性の原理を包含することゝなるべし如何となれば九・一二九九なる總水分の容積が或る状態の元に蒸發するに要する總時間は其の十分の一なる九・一二九九なる水分の容積が蒸發に要する時間の十倍ならざるべからざるを以てなり即ち假定に於ては初めの九・一二九九に對しては Be二・五より Be二・五七次には九・一二九九に對し Be二・五七より Be二・五に對して順次斯くの如く最後には九・一二九九に對し Be二・二・〇より Be二・二・〇なるも實際には同一状態に於て考ふる時は比重の異なるものは同一時間に對し相異なる蒸發量を有すべきものなり嗣て比蒸發量の概念より考ふるに比蒸發量は清水が或る時間に蒸發すべき蒸發量を以て鹹水の同一時間に於ける蒸發量を除したる比の値なるを以て上記の關係は各段に於ける各比重間隙に於ける蒸發量を適當に變更する時は各段の各鹹水に對し其蒸發量を得る爲めには等時性の存在するを肯定し得べし



煙草世相まざま (第七回)

小塚省治

七八、タバコ異風景

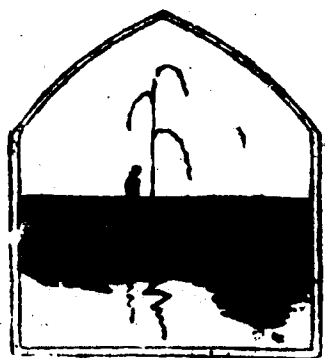
世の中、變り事あれば必ず古昔の事歴を偲び話題に上すこと、東西古今を通じ、通則となれり。遇、大阪朝日新聞に『瘦せたい爲にタバコを喫む』話出でなれば、又しても古代のタバコ異風景を持出させる人あり。左に其の異風景を原文のままに紹介す。

『瘦せたいためにタバコを喫む』高松の女學生のことが出てをり、女學生の中にはタバコの藥用價値を考へてゐるものすらあるやうだが喫煙初期時代にはタバコを惡魔退散の聖藥と考へた時代もある。

タバコを新大陸からヨーロッパに移して大々的にこれを宣傳普及させたのはエリザベス女王の寵臣サー・ウオルタ

ー・ラレーで、彼は美貌をたのんで君寵に誇り、のちロンドン塔に幽閉されたが、この伊達男がバージニアタバコの香氣馥郁たるやつをすば／＼やらかしてから忽ちイギリス全土にひろがり、英京では喫煙傳習所といふのができた。沙翁なんかもその門を潜つた一人らしい。

オールドロンドンに惡疫大流行を極めた時タバコをすふと惡疫豫防に妙效があるといふので全市の小學生に喫煙を強ひさせた。教師がパイプをくわへて教壇の上に立ち、すば／＼やると、幼い小學生が一人残らず紫煙競争を始め。こんなことから喫煙趣味はます／＼ひろがつて行つたといふ。物のはじまりにはいろんな面白いエピソードがあるものだ。』



鹽業漫談 (續)

南市金令木

鹽田の鹹水造面積の算出に就て

九、鹹水蒸發量等時性の假定

海水の濃縮に關する實驗成績の項に於ける表の内比蒸發量の欄に於て前項の各比重間隙の比蒸發量の平均を求むる爲めに次の如き計算を行ふこととす。但しBe 2.75, 3.05, 3.40, 3.81, 4.45, 5.30, 6.50, 8.45, 12.01等に相當す。比蒸發量は表中になきを以て此等に最も近きBe 2.5, 3.0, 3.5, 4.0, 4.5, 5.5, 8.5, 12.0の値を採りて此等の中間に存在する度數に對する値をも加算して平均計算を行ふ時は次の如き結果を得べし。

例へばBe 6.50よりBe 8.5に至る平均比蒸發量を求むる爲めに次の如くするが如し。

比 重	比 蒸 發 量
6.5	0.877
7.0	0.865
7.5	0.852
8.0	0.840
8.5	0.827
平均	4.261
平均	0.8522

此の計算を各比重間隙に對し行ひたるものを各間隙に對する平均比蒸發量と見做し前の總蒸發水分の容積51.289を各の比蒸發量に比例して各間隙に配分する時は配分せられたる水分に對して或る水深を假定する時は等時間に蒸發するものと見做し得る筈なり。此の値を表記せば次の如し。

Be 度 數	平 均 比 重	假 定 水 深	91.299	蒸 發 分	水 蒸 氣 容 積
2.50	0.9630	h_1	88.491	9.94	
2.75	0.9550	h_2	1.03173	9.85	
3.05	0.9510	h_3	〃	9.81	
3.40	0.9435	h_4	〃	9.73	
3.81	0.9340	h_5	〃	9.64	
4.45	0.9153	h_6	〃	9.44	
5.30	0.8900	h_7	〃	9.13	
6.50	0.8522	h_8	〃	8.79	
8.45	0.7869	h_9	〃	8.12	
12.01	0.6582	h_{10}	〃	6.79	
計	88.4910			91.299	

此の場合假定水深は凡て相等しく

$$h_1 = h_2 = h_3 = \dots = h_9 = h_{10}$$

なること勿論なり

上表に於ける蒸發水分の容積は比蒸發量より定められたる等時性と等水深との二條件を無視すべからざる各段に於ける蒸發水分の容積なり。而して此の容積の水分を蒸發して得べき比重を求むるには第一圖に於ける横線を上表の蒸發水分容積に比例して分割し此の分割點を通して縦線に並

行線を引き曲線との交點を求めれば可なり。

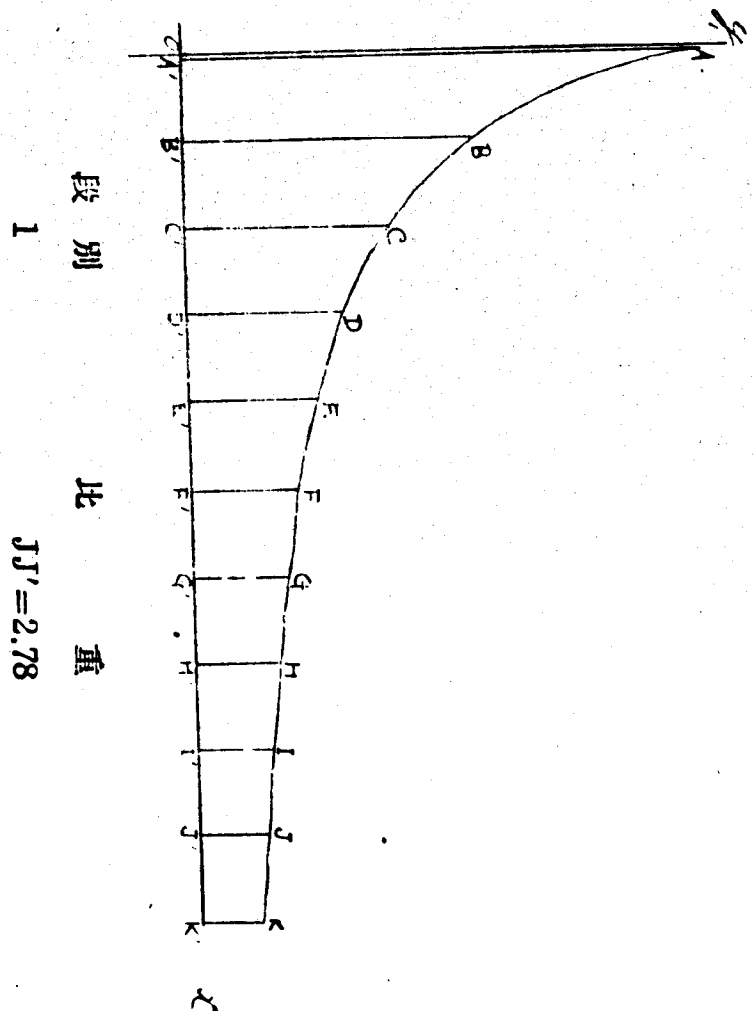
此の操作を行ふ時は圖に於て次の關係あり。

$$A'B' = 6.79 \quad D'E' = 9.18 \quad G'H' = 9.73 \quad J'K' = 9.94$$

$$B'C' = 8.12 \quad E'F' = 9.44 \quad H'I' = 9.81$$

$$C'D' = 8.79 \quad F'G' = 9.64 \quad I'J' = 9.85$$

而して作圖に依り AA', BB', CC', ..., II', JJ', KK' は夫々縦軸に並行なるを以て此等は比重を表はす事となる此の作圖に依りて比重として次の値を得べし。



2	II' = 3.10
3	HH' = 3.50
4	GG' = 4.10
5	FF' = 4.78
6	EE' = 5.79
7	DD' = 7.26
8	CC' = 9.63
9	BB' = 13.89
10	AA' = 22.00

上記の比重は夫々各段に於ける終末の比重を表はすものにして第一段に於ける初めの比重は KK' にして 2.50 なる事勿論なり。

斯くの如くして得たる比重を等深等時性の假定比重と謂ふ。

上記の比重を熟視し同時に現場に於ける實況を考察する時は第八段迄は本理論と實際との符合を首肯し得べきも第九段乃至第十段に於ては本理論の如く比重の上昇が急激ならざることに着眼し得べし。斯くの如く不合理を生ずるは次の如き理由に據るものなり。

海水が濃縮して飽和鹹水となる過程に於ては比重の上昇

に伴ひて蒸發能が著しく空氣中の湿度に影響せらるるものにして Be 10.00 以上に於ては其の影響顯著にして且つ硫酸石灰の析出最も旺盛なる Be 15.00 乃至 Be 22.00 附近に於ては相當の蒸發量あるにも拘らず母液の比重上昇甚だ緩慢なるを證するものなり而して鹽田の氣象的狀態より論ずる時は日中殊に午前十時頃より午後五時頃に至る七時間位は湿度普通 60% 内外を往復し如何なる濃厚鹹水も晴天の日は各鹹水其の臨界湿度の影響を受けることなきも夜間に於ては屢々臨界湿度の影響を受け濃厚鹹水は殆ど蒸發せざるに由るものなり。故に Be 10.00 以上の比重を有する鹹水を收容すべき池は本理論より算出せらるる面積以上に擴大を行ひ即ち或る場合には逆絞りの如きを構成せしめ以て此の缺陷を補正せざるべからず。即ち晝間に於て必要なる比重迄上昇せしむる鹹水深を減ずる必要あり。然れども其の程度を失する時は自由表面の擴大に伴ひて臨界湿度の影響を受ける吸水面積を擴大し却て障碍を來す虞なしとせず。而して今直に此の補正を行ふ事は理論に蹉跌を來す虞あるを以て後節に廻し其儘計算を續行することとす。

一〇、等深等時の假定比重と之に相應する比容積
上記の初比重 B_0 2.50 に對する海水の容積を100とし以下 B_0 2.78より B_0 22.00 に至る比容積を求むる爲め第二項に記載したる表に挿間法を行ひて各比重に對する比容積を求むるか或は第二項に掲げたる表に依り比重と比容積とに依りて曲線を描き作圖に依りて各比重に對する比容積を求むれば次の如し。

比 重	比 容 積	平均比容積
2.50	100.000	95.154
2.78	90.308	85.264
3.10	80.219	75.272
3.50	70.325	65.052
4.10	59.779	55.317
4.78	50.855	46.128
5.79	41.401	36.924
7.26	32.447	28.063
9.63	23.679	19.633
13.89	15.586	12.129
22.00	8.671	—

本表に於ける比容積は比重と比容積とによりて描きたる

曲線に依り作圖を以て求めたるものにして平均比容積は各比重間隙の第一表記載各比重に對する比容積の平均値なり従つて第一段には B_0 2.50 の海水を容積に於ける注入する時は B_0 2.78 に達し理論上 90.308 となるを以て平均 95.154 の容積を收容すとの意味なり。従つて等深等時の場合に於ける各段の理論上の比重及び面積の關係は次の如きものなるを知る。

段 別	Be 度 数	比 容 積	平均比容積	平均水深	面積換算	面積
T_1	2.50	100.000	95.154	$h_1 = 1$	100.000	100.000
T_2	2.78	90.308	85.264	$h_2 = 1$	89.606	89.606
T_3	3.10	80.219	75.272	$h_3 = 1$	79.105	79.105
T_4	3.50	70.325	65.052	$h_4 = 1$	68.365	68.365
T_5	4.10	59.779	55.317	$h_5 = 1$	58.134	58.134
T_6	4.78	50.855	46.128	$h_6 = 1$	48.477	48.477
L_1	5.79	41.401	36.924	$h_7 = 1$	38.804	38.804
L_2	7.26	32.447	28.063	$h_8 = 1$	23.492	23.492
L_3	9.63	23.679	19.633	$h_9 = 1$	20.633	20.633
L_4	13.89	15.586	12.129	$h_{10} = 1$	12.747	12.747
G_1	22.00	8.671	—	—	—	—

茲に T.L.C. は夫々第一蒸發池、第二蒸發池及び結晶池の記號にして附記小數字は段數を示す。例へば T_1 、 L_2 及び G_1 は夫々第一蒸發池第一段、第二蒸發池第二段及び結晶池第一段を示す。

以上論じたる處を綜合するに若し鹽田が海水又は鹹水の漏泄滲透を有せず且つ實驗値若くは之より誘導したるが如き比蒸發量を有するものとせば各段に於ける比重の上昇は等時性を有し且つ上表に假定したる平均水深も略同一なるべき筈なるを以て鹽田地割の面積の割合は其の蒸發面積に於て面積の欄に記入したるが如き値を取りて然るべきものと推定せざるべからず。然れども實際に於ては鹽田は漏泄滲透あるを以て上記の水深は漸次遞減し且つ鹹水の比容積より定義したる等時性も一定の方向に亂さるものなり如何となれば比容積の實驗値は各 B_0 度數に對し同一容積に就きて算出したるものにして鹹水の遞減容積に準應して行ひたるものにあらざればなり。即ち水深一定の場合と雖も蒸發量は一般に容積に關係し殊に海水鹹水等は各比重に對し比熱を異にし従つて濃度に影響する所大なり、況んや水深の變化を伴ふ場合に於てをや。

然れども吾人の經驗より大觀する時は複雑なる自然環境下に於て殊に鹹水造の行はるる良好なる氣象狀態の場合に於ては鹹水の比蒸發量は度數の高き比重を有する鹹水程吸濕性に富む影響を考察するも鹹水の比熱と水深とを適當に自然界が減少せしむることに由りて清水の蒸發量に接近し得ることを推定し得るものなり即ち前段既に述べたる適當なる水深を定むることに由りて等時性を保有せしむる事を得る筈なり。

一一、鹹水濃縮等時性の變化に關する考察

第三項に於て論じたる比蒸發量の關係によりて比蒸發量の逆數は等時性に關する時間の比を表はす事となる（此の事たるや直に了解し得る筈なれども稍解し難き點あるべきを慮り建說的説明を加ふる事とす）。
如何となれば鹹水の比蒸發量の定義に従へば同一時間（但し本時間間隙は極めて微小なるを要す）内に於ける鹹水の絕對蒸發量を清水の絕對蒸發量にて除したる値が即ち其の鹹水の比蒸發量なり。

即ち $P \cdots \cdots Ben$ なる鹹水の比蒸發量

$E \cdots \cdots t$ なる時間間隙に於ける清水の絶対蒸發量
 $e \cdots \cdots t$ なる時間間隙に於ける鹹水の絶対蒸發量

とする時は $P = \frac{e}{E}$

今 $e = E$ ならしむる爲めには清水の絶対蒸發量 E を得るに要する時間 t_1 は變じつゝなり鹹水の絶対蒸發量 e を得るに要する時間は變じつゝなりこの時間に不等性を生ずる。即ち $t_1 < t_2$ なるのみならず

$$P = \frac{e}{E} = \frac{t_1}{t_2}$$

又は $ut_2 = Et_1$

$$\text{従つて } \frac{I}{P} = \frac{E}{e} = \frac{t_2}{t_1}$$

今清水の絶対蒸發量 E を得るに要する時間 t_1 關し

$$t_1 = 1.000$$

と置く時は Bu なる水の絶対蒸發量 e を得るに要する

段 別	Bu 度 數	平均比蒸發	比 蒸 發 量	時 間 比	水 深 度	蒸 發 量
T_1	2.50	100.000	0.9630	0.103	h_1	h_1 $h_2 \cdots h_{10}$ 水深にして
T_2	2.78	89.606	0.9550	0.105	h_2	未定數たり但し
T_3	3.10	79.105	0.9510	0.105	h_3	$h_1 = h_2 = h_3 = \cdots = h_{10}$
T_4	3.50	68.365	0.9435	0.106	h_4	

時間 t_2 は變じつゝ T_2 となるべし但し此の場合 $E = e$
且つ $T > 1.000$
故に $P = \frac{e}{E} = \frac{I}{T}$
従つて $\frac{I}{P} = \frac{E}{e} = T$
或は $I : P = T : 1$
即ち比蒸發量の逆數は時間の比を表はすこととなる。
第十項に於ける各比重に對する時間を夫々 t_1, t_2, t_3, \cdots
 $\cdots t_{10}$ とし比蒸發量を夫々 $p_1, p_2, p_3, \cdots p_{10}$ とする時は次の關係あり。
 $t_1 : t_2 : t_3 : \cdots : t_{10} = \frac{I}{p_1} : \frac{I}{p_2} : \frac{I}{p_3} : \cdots : \frac{I}{p_{10}}$
此の關係より前述各項の數字を以て表を作製せば次の如し。

T_5	4.10	58.134	0.9340	0.107	h_5	
T_6	4.78	49.477	0.9153	0.109	h_6	
L_1	5.79	38.804	0.8900	0.112	h_7	
T_2	7.26	29.492	0.8522	0.117	h_8	
T_4	9.63	20.633	0.7869	0.127	h_9	
T_4	13.89	12.747	0.6582	0.152	h_{10}	

上表により明なるが如く $t_1 = 0.103, t_2 = 0.112$ なるを以て次の關係あり。

$$\frac{t_1}{t_2} = \frac{0.103}{0.152} = 0.68$$

$$\text{又 } \frac{t_2 - t_1}{t_{10}} = \frac{0.152 - 0.103}{0.152} = \frac{49}{152} = 0.33$$

二、鹽田地割論

前項の吟味により十段は一段に比し時間の關係に於て0.33の増加となる。今前項第十一の表を見るに各段の初めの比重を斯くの如く定め等時性が終段に於て0.33の増加を來す原因を現場の鹹水生成の環境が各鹹水の特有なる蒸發量をして清水蒸發量に近似せしむることと水深の遞減が蒸發能を速進せしむることに歸せしめ以て等時性の錯亂が補

正せらるるものとせば完全なる等時性を保有せしめ得る筈なり。換言すれば今迄の議論は水深を常に相等しと考へ來りしものに對し各段の比重を斯くの如く定めて生ずる等時性の亂さるる原因を水深のみに歸着せしむる時は表面積即ち自由水面は絶えず變化すべき筈なりとす。然る時は鹽田地割に於ける蒸發面積の關係は時間的に絶えず變動すべきものとなる。斯くの如きは不可能なるを以て各段に於て次の如き結果の成立する事に着眼して水深を決定することとす。

$$p_1 t_1 = p_2 t_2 = p_3 t_3 = \cdots = p_{10} t_{10} = p_{10} t_{10} = I$$

$$\text{即ち } t_1 = \frac{I}{p_1}, t_2 = \frac{I}{p_2}, t_3 = \frac{I}{p_3}, \cdots, t_{10} = \frac{I}{p_{10}}, t_{10} = \frac{I}{p_{10}}$$

$$\text{従つて } t_1 = t_2 = t_3 = \cdots = t_{10} = t_{10}$$

なる爲めには適當なる恒數 $K_1, K_2, K_3, \cdots, K_{10}$ を考ふる時は

從つて擴大せらるゝ蒸發面を $S_1, S_2, S_3, \dots, S_5, S_{10}$ とせば

$$S_1 = \frac{100,000}{0.9630} = 103,000$$
$$S_2 = \frac{89,606}{0.9550} = 94,086$$
$$\dots\dots\dots$$
$$S_5 = \frac{20,633}{0.7869} = 26,204$$
$$S_{10} = \frac{12,747}{0.6582} = 19,375$$

即ち幾に相等しと假定したる水深 $h_1, h_2, h_3, \dots, h_5, h_{10}$ を
とし

$$K_1 = h_1, K_2 = h_2, K_3 = h_3, \dots, K_5 = h_5, K_{10} = h_{10}$$

ならしむる時は此の目的を達し得べし。即ち $h_1, h_2, h_3, \dots, h_5, h_{10}$ を鹹水の蒸發を支配する種々の變數の函數と考へ此の値に比例して比容積の表面を擴大する時は不完全ながら等時性を保有する蒸發面を代表せしむることを得べし。而して前項第十一の表に由りて明なるが如く。

$$\frac{I}{p_1} = 0.103, \frac{I}{p_2} = 0.105, \dots, \frac{I}{p_5} = 0.127, \frac{I}{p_{10}} = 0.152$$

なるを以て

$$h_1 = 0.9630, h_2 = 0.9550, \dots, h_5 = 0.7869, h_{10} = 0.152$$

こゝに求むる比重、比容積、比蒸發量、變化する時間比及表面積並に初め張水すべき水深を89耗とし滲透漏泄等を見ざる水深の値を表記せば次の如し。

段 別	Be 度 數	平 均 比 容 積 V	比 蒸 發 量	時 間 比 t	蒸 發 表 面 積		水 深
					Vt	$\frac{Vt}{105,000} \times 100$	
T ₁	2.50	100,000	0.9630	0.103	103,000	100,000	39.0—37.5
T ₂	2.78	89,606	0.9550	0.105	94,086	91,346	37.2
T ₃	3.10	73,105	0.9510	0.105	83,063	80,644	37.1
T ₄	3.50	63,365	0.9435	0.106	72,467	70,356	36.8

然れども實際に於ては鹽田は滲透漏泄を有し水深は甚しく遞減し且つ鹹水の蒸發能は水深濕度鹹水の溫度從つて鹹水其れ自身の比熱及び鹽田土壤を構成する諸種の條件に由つて著しく變化するを以て斯く定めたる等時性は亂さるゝと共に比重も亦種々變化を來し他の相異なる等時性を生じ從つて目的とする比重の鹹水は終段に於て得難きに至るは勿論なり。

故に要は斯くの如き地割を行ひて其の結果として生ずる諸種の現象に着目して變化を研究し以て再檢討を行ふことは意義なきに非るべし。

蘇萊第三區鹽田の地割は前述の如き方法を以て算出したる面積縮小率を以て地割を行ひしことを附言す。

T ₅	4.10	58,134	0.9340	0.107	62,203	60,321	36.4
T ₆	4.78	48,477	0.9153	0.109	52,840	51,301	35.7
L ₁	5.79	38,804	0.8300	0.112	43,460	42,194	34.7
L ₂	7.26	29,492	0.8522	0.117	34,500	33,501	33.2
L ₃	9.63	20,633	0.7869	0.127	26,204	25,441	30.7
L ₄	13.89	12,747	0.6582	0.152	19,375	18,811	25.7

煙草耕作獎勵金又は

獎勵品交付手續改正に就て

本局事業課 高田武夫

今回煙草耕作獎勵品交付手續が改正されると同時に之が取扱方等に付ては別途通牒を以て相當詳細に示されて居りますので、今更之に説明を附するは蛇足の感があります。が直接本事務に當らるゝ方々に多少の参考ともならば幸甚と存じ僭越ながら聊か改正の要點及取扱上の注意事項等を敷衍することに致しました。

一、改正の要點

從來煙草耕作獎勵品は一般優良耕作者に對するものと、朝鮮種に對する收量増加及品質向上獎勵金との二があつたのでありますが其の一般優良耕作者に對する獎勵品は、各種類を通じて専ら耕作者個人に對し、(一)一貫匁當賠償金 (二)一反歩當收量 (三)一人當耕作面積の多寡

に依り成績を審査(品質本位の種類に對しては一貫匁當賠償金を重點)し之を綜合して成績優良なる者に交付し、又朝鮮種煙草收量増加及品質向上獎勵金は、耕作者個人、實行團、里洞の三に區分し朝鮮種各種類に對し、收量増加獎勵金を又品質の向上を要する寧越、龍仁、成川葉の三種類に對しては更に品質向上獎勵金を交付して來たのであります。處が最近に於ては漸次産地の狀況も變化して参りました之等の獎勵方法を統制して一つの手續とするも運用の如何に依り充分其の目的を達することを得ると共に耕作者の共同扶助に依る産地の維持改善を圖る爲め耕作實行團及里洞に對する褒賞範圍を擴充するを獎勵上最有効と認めらるゝに至りましたので今回事實令施行規則の改正に依り事實局長は

とが出来る。

次に使用上の諸注意を述べると大體左の如くである。

普通一本のVロープを三重又は五重の輪に巻いて荷造るのであるが、使用現場に到着の上は之を解いて一本の輪にして吊り下げて置かなければならぬ。往々現場にて見受けるのであるが、荷造りせる状態の儘で他の工具類の下敷になつて居つたり、機械油に觸れて居つたりすることがある。之は絶対に避けねばならぬことであつて、ロープの損傷の原因となり、又運轉の際ロープの横轉を惹起することもあるのである。Vロープをシープに取付けるに當つては、中心距離を可及的接近せしめて置き、先づロープを小シープに掛け、次に大シープを徐々に廻轉せしめつゝ溝に嵌めて行く此の際中央の溝から先に掛けて行くのは當然であるが、稍々ロープが短か目の場合は、シープの溝の角にて損傷を受ける虞れがあるから特に注意を要する。同じ寸法のロープを二組以上取付ける場合にはロープの長短の有無を調べ、大體差の少ないものを一組として取付ける丈の面倒を見る必要がある。Vロープはゴムと綿糸から出來てゐるのであるから、全體が完全に一分の差もない程揃つて居ると云ふ譯には行かないのである。

使用中はシープ及Vロープに附着せる異物を取り除き、常に清潔に保たなければならぬ。綿布又はゴムの解ける如き場合には早期に取除いて、損傷の擴大を防がなくしてはならぬ。Vロープは表面から損傷を來たし横に破目を生ずることがあるが殆んどロープの半分は破損してゐるが如く見受けられる場合も、動力を傳導する主體は中心に存在するのであつて此の中心層は表面から見ても想像される如くには損ぜられてゐないものである。尚、ロープの切斷力の十分の一乃至十分の一の力を基本に設計するのが普通であるから少々の損傷にては突發的に切斷するやうなことは絶対にないと言ひ得るのである、此の事實を知らずして、外部の損傷を見受ければ直ちに新品と取り替へると言ふ状態にてはVロープの使用期間が平べりりに比し優れさることになるのである。不幸にして一掛けの中幾本かを取り替へるの止むなきに至つた場合には新品の長さについて充分の注意を必要とし、現在使用しつゝあるロープの製作時の長さのものを註文するやうなことがあつてはならないので、現在の状態に於ける長さを計り、それより四分の一吋乃至二分の一吋短いものを註文す可きである。



鹽 業 漫 談 (終)

南 市 金 令 木

鹽 田 鹹 水 造 面 積 の 算 出 に 就 て

一三、蘇萊鹽田の地割

鹽田の地割に用ふる表面積即ち蒸發面積は前項に掲げた平均比容積より算出したる蒸發面積を用ふるが理想的なるも蘇萊第三區鹽田の地割には從來の慣習に倣ひ第十項に計算したる比容積を用ひて蒸發面積を計算したり。而して地割には表面積のみにしては計算困難なるを以て地割標準

圖を基礎としたる各段に於ける畦畔水路鹹水溜及其他の所要難面積を其の中心線に於て分割計算し之を蒸發面積に加算したるものに對し各段別の地割面積を計算し置きたり。此等を表に纏め一括すれば次の如きものとなる。蒸發面積を眞面積と稱し難面積を加算したるものを包容面積と云ふ。蓋し中線間に包容する面積の意なり。

段 別	生 成 比 重	第十項計算比容	水 深 割 合	面積擴大率	眞 面 積	同上百分比	包 容 面 積 百分 比	包 容 面 積 比 算 したる眞面積百分比
T ₁	2.50—2.78	100,000	1.0000	1.03	100,000	16.773	16.873	16.845
T ₂	2.78—3.10	90,303	0.9917	1.05	92,061	15.441	13.961	14.704
T ₃	3.10—3.50	80,219	0.9875	1.05	81,777	13.716	12.703	13.341

16.7
14.7
13.3

T ₄	3.50—4.10	70,325	0.9797	1.06	72,374	12.139	11.544	12.054
T ₅	4.10—4.73	59,779	0.9699	1.07	62,100	10.416	9.872	10.274
T ₆	4.78—5.79	50,855	0.9505	1.09	53,817	9.027	9.524	9.238
L ₁	5.79—7.26	41,401	0.9242	1.12	45,018	7.551	8.140	7.877
L ₂	7.26—9.63	32,447	0.8849	1.17	36,857	6.182	7.240	6.422
L ₃	9.63—13.89	23,679	0.8171	1.27	29,196	4.897	5.266	5.160
L ₄	13.89—22.00	15,586	0.6835	1.52	23,000	3.858	4.877	4.085
計					100,000		100,000	100,000

上表中眞面積欄に記入しある數字は結局蒸發面積にして時間比即ち等時性を保有せしむる爲めに比容積に面積擴大率を乗じて得たる値を換算したるものなり。而して包容面積百分比は諸種難面積を其の中心線によりて分割し眞面積即ち蒸發面積に加算したる値を百分比に換算したる値なり。

第一蒸發池面積 9,855,489平方
結 晶 池 面積 7,565,835平方
計 100,000

(甲) 池別包容面積百分比(其一)

代用貯水池 8.869%
蒸發池 76.201%
結 晶 池 14.930%
計 100.000%

(乙) 蘇萊第三區西部鹽田各別鹽田面積の内譯

西部各別鹽田面積	202,701.648平方
一付鹽田面積	50,675.412平方
代用貯水池	4,494.402平方
第一蒸發池面積	28,759.686平方

(丙) 池別包容面積百分比(其二)

第一蒸發池 62.276%
第二蒸發池 21.341%
結 晶 池 16.383%
計 100.000%

12.1
10.3
9.2
7.7
6.4
5.2
4.1

(ニ) 各段別鹹水溜面積の割合

第一蒸發池六段	0.1078
第二蒸發池一二段	0.1316
第三蒸發池三四段	0.1286
結晶池	0.0530

(ホ) 第一蒸發池各段別包容面積百分比

第一段	22.655%
第二段	18.745%
第三段	17.056%
第四段	15.500%
第五段	13.255%
第六段	12.789%
計	100.000%

(ヘ) 第二蒸發池各段別包容面積百分比

第一段	31.89%
第二段	28.37%
第三段	20.63%
第四段	19.11%
計	100.00%

一四、張水の水深と落差及蒸發能

學者の研究に依れば一定體積の水が蒸發逸散する時間は其の水が有する自由表面の面積に反比例すと謂へり。果して然らば此の定律は水深を以て謂ひ替ふる時は一定體積の水が蒸發逸散するに要する時間は其の水が有する深さに正比例すると成るべし如何となれば

V.....一定量の水の體積

S.....一定量の水の有する自由表面の面積

h.....一定量の水の有する深さ

t.....一定量の水が蒸發逸散するに要する時間

とする時は

$$V = hS \dots\dots\dots (1)$$

上記の法則を次の表はせば

$$t \propto \frac{1}{S} \dots\dots\dots (2)$$

$$\text{従つて(1)より } S = V \frac{1}{h} \dots\dots\dots (3)$$

故に $\frac{1}{S} = \frac{1}{V} h$

$$\text{即ち(2)により } t \propto \frac{1}{V} h$$

Vは一定なるを以て $\frac{1}{V}$ も亦一定なり。従つて比例常數を

$$K \text{ と置く時は } K \frac{1}{V} = P$$

發見せざるものなり。

(Knudsen) クヌーデン氏の研究に依れば鹹水若しくは海水の比熱は曩に記述したる比蒸發量に略近き値を有す

其一例を擧ぐれば次の如し。

Be度數	0.00	1.30	2.63	3.50	3.90
比熱	1.000	0.963	0.944	0.931	0.926

鹽田の段數なるものは天日製鹽には大なる影響なきが如く考ふる事あれども精細に考究する時は不等周期と採鹹量に大なる關係あるは勿論淡水に比して蒸發能劣れる海水若しくは鹽水を滲透漏泄に富む地盤面に放置して濃縮を行ひしかも收量を努めて大ならしむるには鹽田其ものの機構より考察して許容し得べき張水深に對し所要比重の鹹水を生成せしむるに要する日數を略段數に一致せしむるを得策とするは首肯し難からざる所なるべし。即ち朝鮮にありては鹹水造に要する日數は製鹽期間を推算して平均約十日を要す即ち各鹹水の各段に於ける滯留は一日を要する事となる。即ち各段一日宛滯留十段を要す。

朝鮮の如く不等周期の比較的短き土地柄にありては支那の如く水深を大にして採鹹量を大ならしむることは不得策

$$t = ph$$

今時間の要素を Δt 、深さの要素を Δh と置く時は

$$\Delta t = p \Delta h$$

なるを以て深さの小變化に隨伴する時間の小變化は相比例することを知る。而して前項に於て既に據説せしが如く t は採鹹量を支配するものにして製鹽的良好なる天候の連續する延時間を表はすことと成るを以て今假に此延時間を不等周期と命名する時は不等周期の大なる地方即ち支那の如きに於ては採鹹量を大ならしむるには水深を大に取る事は當然のことなり。然れども面積は鹽田に於ては一且定めたる以上は之を變更し難きものなること勿論なるを以て不等周期を考慮して變化自在なるものは水深のみとなるべし。上述の理論は一定體積の水に關する蒸發能の關係に外ならず、而して鹽田に於ては論ずる所海水にして蒸發能は單に水深のみを以て論すべからず。影響する所の要素として比蒸發量あり。而して此の値は海水又は鹹水の比熱、從つて溫度、空中の濕度、及び風速等ありて完全なる理論は海水又は鹹水の蒸發に關する物理化學的研究に俟つこと多しと雖も今茲に假に斯く考察を運らし置く外取るべき手段を

なりと謂ふべし。不等周期とは素より製鹽的天候の連續する時間なるを以て長期に渉る天氣豫報の確實性乏しき今日にありては到底不等周期を豫測し難きのみならず鹽田の自由水面に於て海水が濃縮を受けて飽和鹹水となり續いて鹽が析出する迄の時間が完全に推定し難きものなり。然れども採鹹量が尠くとも此の不等周期に關係ある以上は大觀して蒸發池の初段に幾何の水深を張水して可なるべきかは過去に於ける氣象實蹟の統計より略推定し得べき筈なり。

既成鹽田の實狀に照して考察するに所謂最盛期の成る不等周期の中に於ては最も好條件の場合に於ては往々にして同一鹹水が一日に二段づつ繰り下げらるゝことあるを知る而して一日に二段宛繰り下げらるゝことは結局 Be 2.5 の海水が飽和點に近似する度數に達する日數は蒸發池が十段なる時約五日即ち百二十時を要するの事に外ならず。従つて此推論に依りて各季節に於ける各不等周期に對する時數を推測するを得べし。

此の推論を演繹し且つ既に續説したる平均比蒸發量と蒸發水分の比容積とより鹽田に於ける自由水面の各度數間隙に於ける蒸發量を推定する事を得る筈なり。而して本項の

初めに論じたるが如く鹹水の濃縮に要する時間は水深に比

例するを以て不等周期の短縮する程又假に不等周期は割合に永くとも氣象狀況の不良なる季節即ち兩期秋期等によりては結局最盛期に於ける不等周期の短小なることに匹敵するを以て斯る場合は努めて水深を淺薄にして海水が濃縮飽和に達する時間を短縮するを要するは周知の事實なり。而して前述せし處より滲透漏泄は之に言及せざりしも此の値は蒸發量と異なりて時間に正比例すべき性質のものなるを以て鹹水造に對し不良なる條件の存在する場合は特に水深を減少し鹹水の生成周期を短縮せしむべき事明なり。

既に緒論(一)の採鹹量に於て論じたるが如く本量に關する困難を完全に征服するにあらざれば水深の問題は決定し難き所なるが蒸發池の終段に於て結晶作業を遂行し得る飽和鹹水の量は結晶面積が與へられたる以上自ら決定せらるべき筈にして之は現場作業に従事する者の體驗に依れば十耗を下る事を得ざるのみならず、一回の鹹水造が百二十時位にて完了するが如き好條件の不等周期の時に於ても蒸發池の初段に繰り込まるべき海水の水深は三十耗を下すことは蒸發池初段の面積の大なる爲め池底が完全なる水平を保

存せしめ難きこと、天日鹽田に於ては水量に對し水深の著しく淺き結果鹹水の粘性に依る池底との抵抗に基き風吹く時は水面に偏りを生ずる等の理由に依り甚だ困難となる。

斯くの如く考察し來る時は不明なりし滲透漏泄も自ら判明することゝ成る。今假に鹽田が滲透漏泄なきものとせば Be 2.5 の海水が第十段目に於て Be 2.00 と成る時水深は概に吟味したるが如く一定不變にして其の比容積は 100,000 が、8.671 となり約 11.5 分の 1 となる。然るに觀測の結果に依れば水深 30 耗のものは 10 耗となる事を知る。而して此の値は鹽田の絞りに依りて變化あるは勿論にして觀測せられたる鹽田は君子鹽田なるを以て蒸發池の蒸發面積の關係は初段が 100,000 として第十段は 16,000 なり(第一項緒言(一)南洞君子鹽田蒸發池面積縮小率計算表参照)。故に海水及び鹹水の容積は次の如し。

初段に於ける海水……100,000×30=3000,000
第十段に於ける鹹水……16,000×10=160,000

なるを以て此の如き鹽田に於ては實際上の縮小は次の如し。

$$\frac{3000}{160} = \frac{150}{8} = 18.75$$

即ち約 18.75 分の 1 となる事を示すものなり。今之より水深の關係を導く時は理論的には滲透漏泄を見ざる時は

縮小は

$$\frac{100,000}{8,671} = 11.53$$

にして水深は相等しく 30 耗なり(第十項比容積を参照)。然るに上述の如く實際には蒸發面積の比は 100:16 にして海水對鹹水の容積の比は

$$100 \times 30 : 16 \times 10 = 3000 : 160 = 18.75$$

なり。而して理論的には初段に 30 耗の張水を行へば滲透漏泄をなきものとする時は終段に於ける鹹水の容積は

$$8,671 \times 30 = 260,130 \dots (1)$$

なる筈の處終段の實面積は 16 なるを以て水深は

$$260,130 \div 16 = 16,26 \dots (2)$$

なり。従つて滲透漏泄の爲め水深の減少は

$$30 - 16.27 = 13.73 \dots (3)$$

即ち 13.73 耗なり。而して之は 5 日間に於て生ずる滲透を高さを以て表はしたる値なるが故に 1 日即ち 24 時間に付きこの滲透は

$$13.73 \div 5 = 2.746 \dots (4)$$

即ち27.6耗なり。又此の場合鹹水は一日に二段宛繰り下げられ5日を以て完了するが故に各段の滲透は平均

$$13.73 + (5 \times 2) = 13.73$$

となる。即ち13.73耗なり。

茲に注意すべきことは水深が2耗なり、或は3耗なりと稱するは各池の平均地盤なりと達観し得る個所に天を立てて測定を行ひて観測し得たる値を指すものにして此の値を斯く主張する事は既に観測値の中には鹽田の地盤面は理想的平面なりとせばと謂ふ重大なる假定を含む事を忘るべからず。如何となれば鹽田蒸發池の終段の如きは比較的所謂理想的平面に近きも初段の如きは相當入念に手入を行ひて面均の完全なる蒸發池と雖も其の面積たるや3000平方メートルを内外し蒸發池の形状を方形なりとするも邊長は54.739米即ち54.739耗に達し邊長に對し1萬分の1なる高低差を補正し難しとするも猶ら耗以上に達すればなり。況んや尺度に由る水深の測定は水面に於て尺面に及ぼす表面張力の影響に由る液面上昇の耗に達し又尺の泥中没入等ありて讀取數の一層不確實性を増すに於てをや。今假に泥中没入を1耗とするも不確實なる高さは既に3耗にして讀取數36

耗に對しては十分の一なる大誤差と成る。

故に曰く鹹水生成周期が2日を要するが如き場合に於て1日の滲透が上記の如く27.6耗なる時は滲透總高は27.6耗となるを以て初段に2耗を張水する時は終段に達する鹹水は殆ど皆無となるに非ずやとの疑問を起すは杞憂に屬するのみならず、甚しき皮相觀と謂はざるべからず。如何となれば滲透高27.6耗は蒸發池第一段の水深を2耗、終段を2耗として算出したるものにして此等に小變化ありとも終極の答に大なる影響を來さざることを證すれば可なり。

今上記の計算式(二)に於ける水深2耗を變數に置き替へ以下(3)(3)なる四つの式より滲透27.6耗を得る經過に關し蒸發池初段に於ける水深をx鹹水生成に要する日數をy滲透をzとして方程式に書き替ふる時は

$$\begin{aligned} (1) \text{式より} & \quad 8.671x \\ (2) \text{式より} & \quad \frac{1}{16} \times 8.671x \\ (3) \text{式より} & \quad x - \frac{1}{16} \times 8.671x \\ (4) \text{式より} & \quad \frac{1}{y} \left(x - \frac{1}{16} \times 8.671x \right) \\ \text{故に} & \quad z = \frac{1}{y} \left(1 - \frac{8.671}{16} \right) x \end{aligned}$$

の事の正否は水深を最低36耗より60耗位迄變化せしめ日數を最低5日より10日位に變じたる時に於ける水深を求むれば次の如し。但し此の場合蒸發は常に一定と見做すこと勿論なり。

日數 y	水深 x
y=5	x=29.95耗 ÷ 30耗
y=6	x=35.04耗 ÷ 36耗
y=7	x=41.93耗 ÷ 42耗
y=8	x=47.92耗 ÷ 48耗
y=9	x=53.91耗 ÷ 54耗
y=10	x=59.90耗 ÷ 60耗

然るに既に論じたるが如く一定體積の水を蒸發せしむるに要する時間は水深に比例する事を上記の表は克く説明するものなり、蒸發量は日變化ありて一定のものにあらずれば天候の状態に應じて張水に加減を行ひて鹹水生成の周期即ち上記のyの値を略一定ならしむる様努めざるべからず是れ結晶池に於ける鹽の析出に要する時間は各季節を通じて略一定し補給鹹水の量も略一定すればなり。現場に於ては此の必要に迫られ毎日の氣象狀態を考慮しつつ鹹水生成周期の餘り變化せざる様水深に加減を行ひつゝ蒸發池の初

$$\text{而して} \quad 1 - \frac{8.671}{16} = 0.458$$

$$\text{故に滲透の方程式は } z = 0.458 \frac{x}{y}$$

上記の方程式に於てzは滲透にして之を變數と考ふる時はxはyに比例しyに逆比例して變化すべし。換言すれば滲透は水深を増す時は増加し日數を増す時は増加すと謂ふこととなる。然るに滲透の性質上之は與へられたる鹽田に對しては矛盾することとなる。即ち滲透は變數にあらずして恒數なりと考へざるべからず、又常識より考察するも滲透なるものは完全なる恒數にあらずとするも如何なる鹽田に於ても熟田に達すれば略近似なる値を有し而も時間に比例すべき性質のものなるは勿論蒸發量との差が大なれば大なる程與へらるる水深に對し所謂採鹹量を増し結晶面積の増大を來し收量の増加するは首肯に難からざる所なり。今此の値を27.6耗と置く時は上記の方程式は

$$\begin{aligned} \text{或は} & \quad 2.746 = 0.458 \frac{x}{y} \\ \text{即ち} & \quad x : y = 2.746 : 0.458 \\ & \quad x : y = 5.99 \end{aligned}$$

故に滲透が略恒數にして2.746に近き値を取る時は水深の日數に對する比は5.99に近き値を取るべき筈なり。而して此

段に海水の導入を行へるものなり。

上述の説明に於ては與へられたる鹽田に於ては滲透は殆ど恒數と見做したるも鹽田の異なる時は土壤構成の機構を異にし従つて多少は變化あるべき筈なるを以て前掲の滲透方程式に於て滲透區に多少の變化を許容し以て水深及び日數に關する變化の影響を研究せんとす。

$$x = 0.458 \frac{x}{y}$$

なる式に於て x, y 及び z の小變化を共々 $\Delta x, \Delta y$ 及び

$$\Delta z \text{ とする時は } \Delta z = \frac{\partial z}{\partial x} \Delta x + \frac{\partial z}{\partial y} \Delta y$$

$$= \frac{0.458}{y} \Delta x - \frac{0.458x}{y^2} \Delta y$$

上式に於て $y = 7.5H, x = 45H, \Delta y = 1H, \Delta x = 8H$

$$\text{とする時は } \Delta z = \frac{0.458}{7.5} \times 8 - \frac{0.458 \times 45}{56.25} \times 1$$

$$= a + b$$

$$\text{但し } a = \frac{0.458}{7.5} \times 8 = 0.4885$$

$$b = -\frac{0.458 \times 45}{56.25} \times 1 = -0.3666$$

故に Δz は Δx 及び Δy が正負何れの符號をも取り得る關係上 a, b は次の四組の値を取る。従つて四つの値を取る。之を表記せば次の如し。

a	b	Δz
+0.4885	+0.3666	+0.8551
+0.4885	-0.3666	+0.1219
-0.4885	+0.3666	-0.1219
-0.4885	-0.3666	-0.8551

即ち Δz は最大 +0.8551 最小 -0.8551 なる値を取ることを知る。仍て平均如何なる値を取るべきかを見る爲め Δz の平方を求め且つ之を平均し其の平方根を求めれば次の如し。

Δz	$(\Delta z)^2$
+0.8551	0.731 196 01
+0.1219	0.014 859 61
-0.1219	0.014 859 61
-0.8551	0.731 196 01
$\Sigma (\Delta z)^2$	1.492 111 24
$\frac{1}{4} \Sigma (\Delta z)^2$	0.373 027 81
$\sqrt{\frac{1}{4} \Sigma (\Delta z)^2}$	+0.611

故に Δz の平均値は +0.611 且つ $z = 2.746$ なるを以て $z = 2.746 + 0.611 = 3.357$

$$\text{又、 } z = 2.746 - 0.611 = 2.135$$

即ち滲透の増減が 0.611 なる鹽田に於ては鹹水生成日數と水深とに 1 日及び 8 耗の増減を行へば可なり。

之を要約すれば採鹹面積に於ける一日當の滲透は熟田に於ては約 2.7 耗見當にして各段共蒸發に因りて水深が減少する他に約 0.6 耗見當の水深減少あることを知る。斯くして滲透を知り得るものとせば各段に於ける鹹水の比重より鹽田自由水面の蒸發量を知り得る筈なり。

以上の議論より落差は段の面積によりを減少して可なることを推定し得る筈なり。今第一段第二段間の落差を 60 耗とせば第十二項の鹽田地割論より各段の理論水深を定め且つ各段の一日當の滲透を 2.7 耗と定め事を遞加したる高さを減じ以て適當と考察する落差を定むれば次の如し。但し此の場合段數は之を 10 段とし鹹水造の一週期は之を 10 日とす。

段別	生成比重	水割合	入水	入水	入水	入水	入水	入水	入水
1	2.50-2.78	1.0000	60.00	2.75	57.25	60			
2	2.78-3.10	0.9917	58.50	5.55	53.95	58			
3	3.10-3.50	0.9875	53.25	8.25	51.00	56			

一五、結 論

(一) 海水濃縮に伴ふ固形物析出の順序

今を去る八十五年前伊太利の化學者 (Usiglio) ウシリオは海水を蒸發して各種鹽類の析出する順序及其の分量を研究し次の表に一括したるが如き結果を發表したり。氏は研究試料として地中海の海水を使用したり。海水の成分は地方に據りて多少相違するは争はれざれども海洋學者 Knudsen) クヌートソン (Dittmar) ディンマー (Rohr) ロー等の諸氏の研究に依れば海水中の鹽分は處に依りて變化あれども鹽類の成分比は世界の何れの海水も殆ど一定せることを明にせり。ウシリオ氏の研究海水試料成分を表示せば次の如し。而して朝鮮に於て天日製鹽の原料たる海水も

K Cl	0.0505	0.518
Na Br	0.0556	0.570

一、立筒重量成分

ウシリオ氏の研究による海水其の比重 $B_{0.35}$ 一立より濃縮により鹽類の分離析出する順序及び溶液成分の變化を表記せば次の如し。

ウシリオ氏の研究による海水其の比重 $\text{Be } 35$ 一立より濃縮により鹽類の分離析出する順序及び溶液成分の變化を表記せば次の如し。

CaSO ₄ 2H ₂ O	NaCl	MgSO ₄	MgCl ₂	MgBr	KCl	合計
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	0.0672
—	—	—	—	—	—	痕跡
—	—	—	—	—	—	痕跡
0.5600	—	—	—	—	—	0.6130
—	—	—	—	—	—	—
0.5620	—	—	—	—	—	0.5620
0.1840	—	—	—	—	—	0.1840
0.1600	—	—	—	—	—	0.1600
0.0508	3.2614	0.0040	0.0078	—	—	3.3240

次に溶液成分の變化を表記せば次の如し。

及 $\text{Ca SO}_4 2\text{H}_2\text{O}$ の最も旺盛に沈澱すべき比重を有する鹹水を收容するを以て相當の蒸發量あるに反し母液の比重上昇見掛上停止の状態を呈するのみならず、此等の比重を有する鹹水は臨界濕度甚低き爲め實際には製鹽期間を通じて第十段目即ち採鹹面積の終段に於て生成する比重は $\text{Fe} 18.8$ 内外を出でざること既に説けるが如し。従つて製鹽作業の場合は結晶池に於ては殆ど用を爲さざる苦汁を混和して補給鹹水を人工的に製造するか或は鹽夫の勞働歩格を増して煩雜なる燒田の操作を施して補給鹹水を製造するか、或

第八項に於て説明したるが如く第九段、第十段に於て生成せらるべき鹹水は理論上 Be_2O_3 乃至 BeO 及び CaCO_3 乃至 CaSO_4 にしてウシオ氏の研究に依れば CaCO_3 及び $\text{CaSO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ の最も旺盛に沈澱すべき比重を有する鹹水を收容するを以て相當の蒸發量あるに反し母液の比重上昇見掛上停止の状態を呈するのみならず、此等の比重を有する鹹水は臨界濕度甚低き爲め實際には製鹽期間を通じて第十段目即ち採鹹面積の終段に於て生成する比重は Be_2O_3 内外を出でざること既に説けるが如し。従つて製鹽作業の場合は結晶池に於ては殆ど用を爲さざる苦汁を混和して補給鹹水を人工的に製造するか或は鹽夫の勞働歩格を増して煩雜なる焼田の操作を施して補給鹹水を製造するか、或

は朱安に於ける鹽片敷設鹽床に於けるが如く Be 1800 内外を直接結晶池内に於て苦計と混和するかの操作を施さざるべからず。従つて結晶池に於ける收量中には不純物の沈澱多く化学成分の低下甚しく場合によりては鹽化曹達の含有量 3% に及ぶものあり。而して此の弊害は結晶池の鹹水消化能大なる程増加の傾向あり。故に第九段及第十段は後日結晶池改良を計畫する場合に於ける準備工作として既成鹽田に於けるものに比し著しく絞りを緩和するか或は却て逆絞りを構成して此の弊害を除去せざるべからず。本理論に於ては朱安在來のもの、就中 88 町歩より四割強の終段に於ける擴大が成立せることを附言す。

第十三項の理由に依りて水深の小變化に伴ふ比重上昇の時間的小變化は水深の値に比例して變化するを以て第十段に於ける生成比重を理論的に Be 2200 に近似せしむる爲めには嚮に検討せし水深以上に水深を減少せしむるを要す斯くて著しく蒸發態を増大し従つて蒸發に要する時間を短縮するを得べきものとす。然れども第九段第十段は普通の場合水深極めて淺きが故に更に表面の擴大を構成するは風による水面の偏寄を生じ却て障害を來すを以て適當なる小畦畔の如きを設けて此の障害を除かざるべからず、加之鹽

田が成熟せざる期間に於ては滲透漏泄未だ定常狀態に達せず、殊に顯著にして終段に達する水量極めて少く終段の面積擴大は無意義なるに似たり。然れども一步進んで考ふるに現在の如く收量に對し化學的成分に重點を置かず單に收量の大小にのみ重きを置く場合は別として結晶池の面積を總面積の一割以上に取るは過大なるを首肯し得るが故に蒸發池終段の面積は本理論の程度に止め鹽田の成熟を俟ちて既成鹽田の如きは結晶池の一部を終段に繰り入るゝを最も得策とすべし。

本論に於ける採鹹終段面積は左來鹽田の採鹹終段面積に比し約四割強の擴大と成ること上述の如し。如何となれば既に述べたるが如く本論に於ては採鹹初段面積 100 に對し終段面積 32 にして既成鹽田(南洞、君子鹽田)は採鹹初段面積 100 に對し終段面積 16 ならばなり。而して水深の減少する歩合を求むるも亦約四割強を得べきこと明なればなり。如何となれば

$$A \dots \text{本論に於ける終段の面積}$$

$$h \dots \text{本論に於ける終段の初めの水深}$$

$$A' \dots \text{既成鹽田の終段の面積}$$

$$h' \dots \text{既成鹽田の終段の初めの水深}$$

とし何れも初段の面積を相等しく滲透も亦相等しと假定し且つ第九段の最終水量及比重も亦假に相等しとする時は水深は面積に逆比例するを以て

$$\frac{A}{A'} = \frac{h}{h'}$$

$$\text{従つて } \frac{1-A}{A'} = \frac{1-h}{h'}$$

$$\text{即ち } \frac{A-A'}{A'} = \frac{h-h'}{h'}$$

$$\text{而して } A > A' \text{ 即ち } A' - A < 0$$

$$\text{又 } h' > h \text{ 即ち } h - h' < 0$$

$$\text{而して } A = 23, A' = 16$$

$$\text{故に } \frac{A-A'}{A'} = \frac{16-23}{16} = -\frac{7}{16} = -0.44$$

$$\text{従つて } \frac{h-h'}{h'} = -0.44$$

茲に負の記號は減少を意味すと解すべし。

然る時は $A' = 16$ の場合に於て $h = 20$ とせば $A = 23$ の場合には

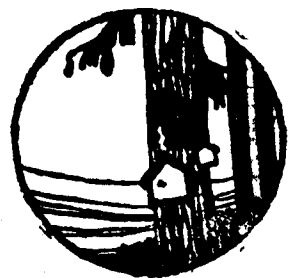
$$h = 20 (1-0.44) = 11.2 \text{ 米}$$

終段に入るべき比重を何れも相等しとするも既に水深に於て四割強の減少あるを以て終段に於ける相等しき蒸發量を得るに要する時間も亦四割強の短縮を受くべし。如何とな

れば一定體積の水が蒸發逸散するに要する時間は水深に比例すること及び鹹水は清水と異なり蒸發能に關する物理的性質を異にし比重の高きもの程臨界濕度圏外にありては却て清水の蒸發能に接近し得ることは比熱の關係より既に論じたる所なり。兎に角水深の四割以上の減少は著しく時間を短縮し得るは首肯に難からざる所なり。而して $A' = 16$ の場合に於ては 1 日即ち 24 時に Be 1800 を得るものとせば $A = 23$ の場合に於ては大觀的に 14 時に Be 1800 に達し得るは首肯に難からざるべし。故に $A = 23$ の場合に於て蒸發所要時間として 24 時を與ふる時は嚮に論じたる蒸發析出による見掛上の蒸發停止及臨界濕度の影響より生ずる蒸發停止を考慮すとも所要比重 Be 2200 は充分生成し得べき筈にして殆ど等時性の維持を保證し得るなり。故に此の程度迄終段の面積擴大を行へば敢て鹽田構成上の無理を忍びて迄も終段の面積擴大を行ふを要せざるべし。

以上各項に涉り説明其の他に不備の點多々あるを今に及びて認むるを得たりと雖も茲に補正し難きを遺憾とす。他日改めて異なりたる命題を以て補正詳論せんとす。

(終り)



煙草販賣に關する改善施設座談會

(下)

—昭和十年十月四日於本局—

4 ポスター配付

○信原 ポスターに對して何か御意見ありませんか。

○淺山 新製品發賣の際は從來ポスターを配付され、宣傳に努めてその効果も上つてをること、思ひますが、これは單に新製品發賣の時に限らず、既製品に對しても適當なポスターを拵へて頂くやうにしたらどうかと思ひます。

○唐澤 今のお話のやうに專賣局全體の製品をポスターに作つてやつたらどうか。都會は別問題として、田舎などでは製品の名前を知らん者が多いではないかと思ひます。時々模様を變へて、ポスターを刷つて各小賣店のウインドに飾らすのも一方法と思ひますね。

それから販賣所長にお願ひしたいのは、ポスターの意匠は大ざつばに描くがよい。或は精密に描くほうがよい、從來ポスターが色々出てをりますから、それに對して御批評を願へれば、最も適當な意匠にしたいと考へてをります。

○淺山 それは掛け場所によるですね。小賣店舗の裝飾用のものと、デパートや驛に展示するのと兩用のものが要と思ひます。その場所に房はしいやうなものをやられると結構と思ふです。

○唐澤 それは理想ですけども、現状では經費の關係で難しいんです。

○淺山 宣傳の効果を擧げやうとするには、その場所に房はしいやうにしなければならんと思ひます。

○久保 ポスターはシツコイのは感心しません。パツとしたほうがよいですね。

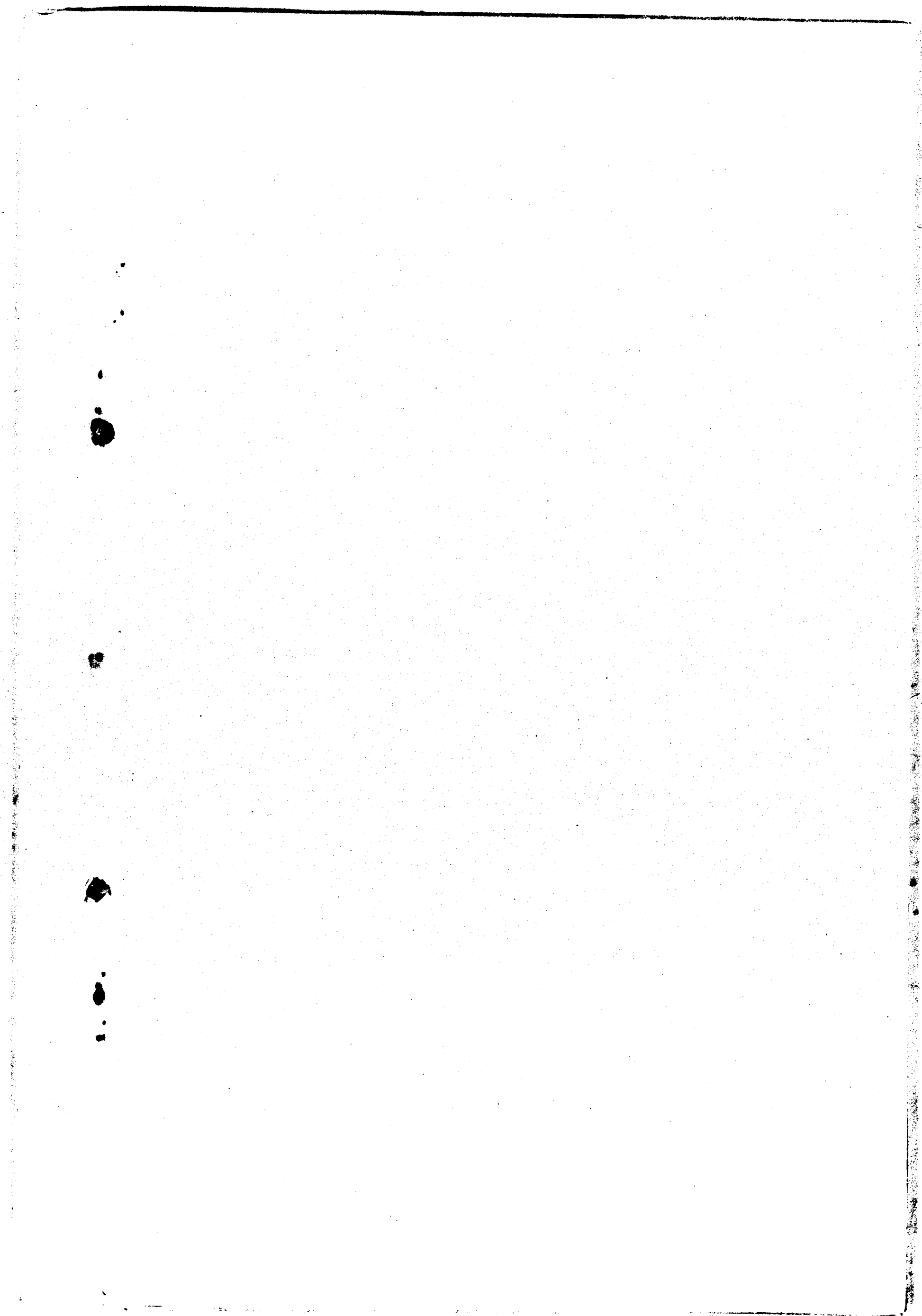
○下野 近頃出來たポスターは中々よいですね。

○淺山 さうですね。

○關口 はつきり見えるほうがよいです。

○下野 美人畫の寫眞入は一番受けるですがね。

○森 注目させる意味に於て、煙草の寫眞を撮つてシヨウウ



三、蘇萊塩田築造三町歩紋り標準

(千分之二)

石川武吉

第二圖

549町步

蘇菜塩田築造3町步單位故り

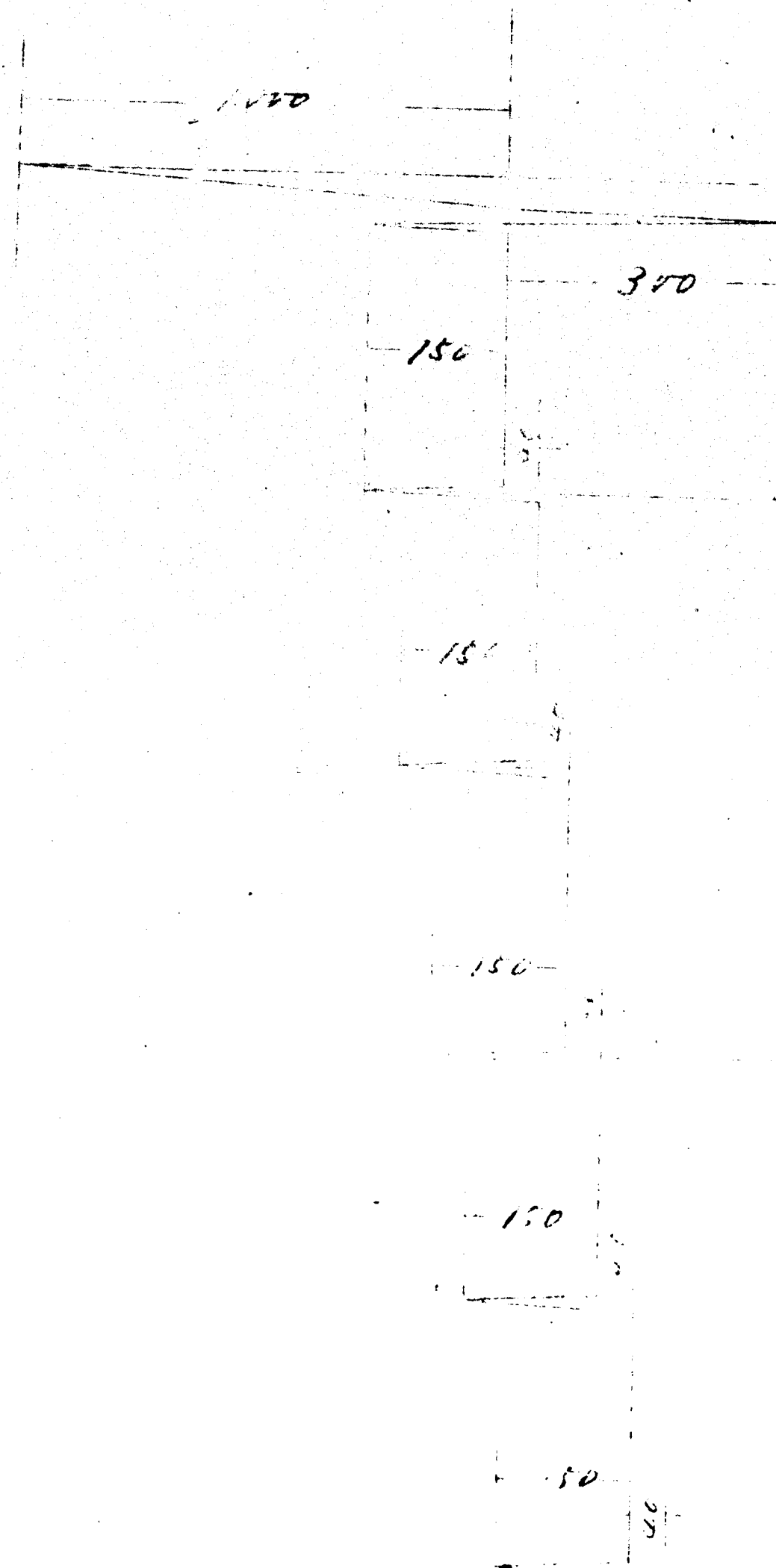
塩田内部地割標準圖

縮尺 平面圖 $\frac{1}{1000}$
縦断面圖 $\frac{1}{100}$

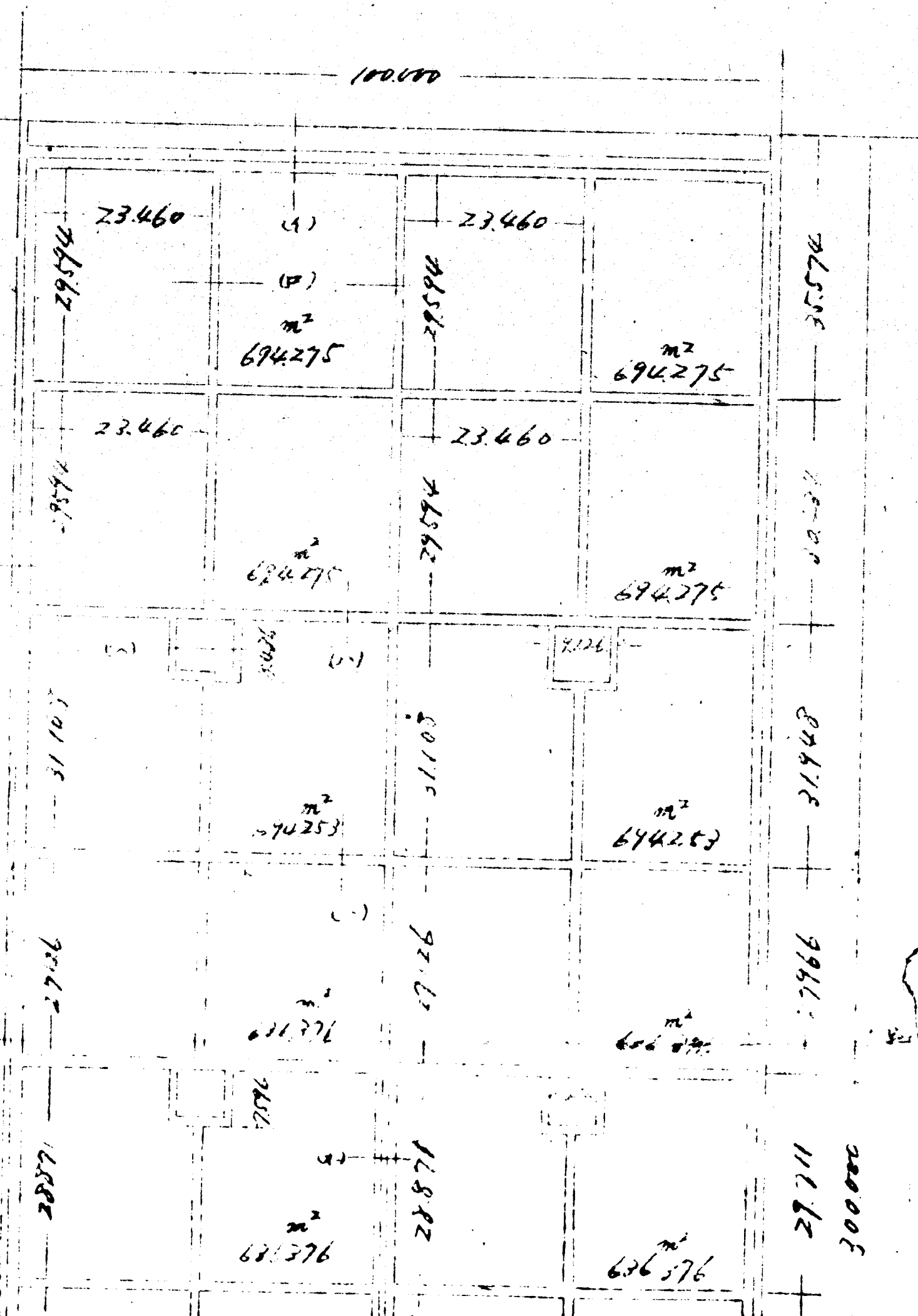
縦長 300 米
横巾 100 米

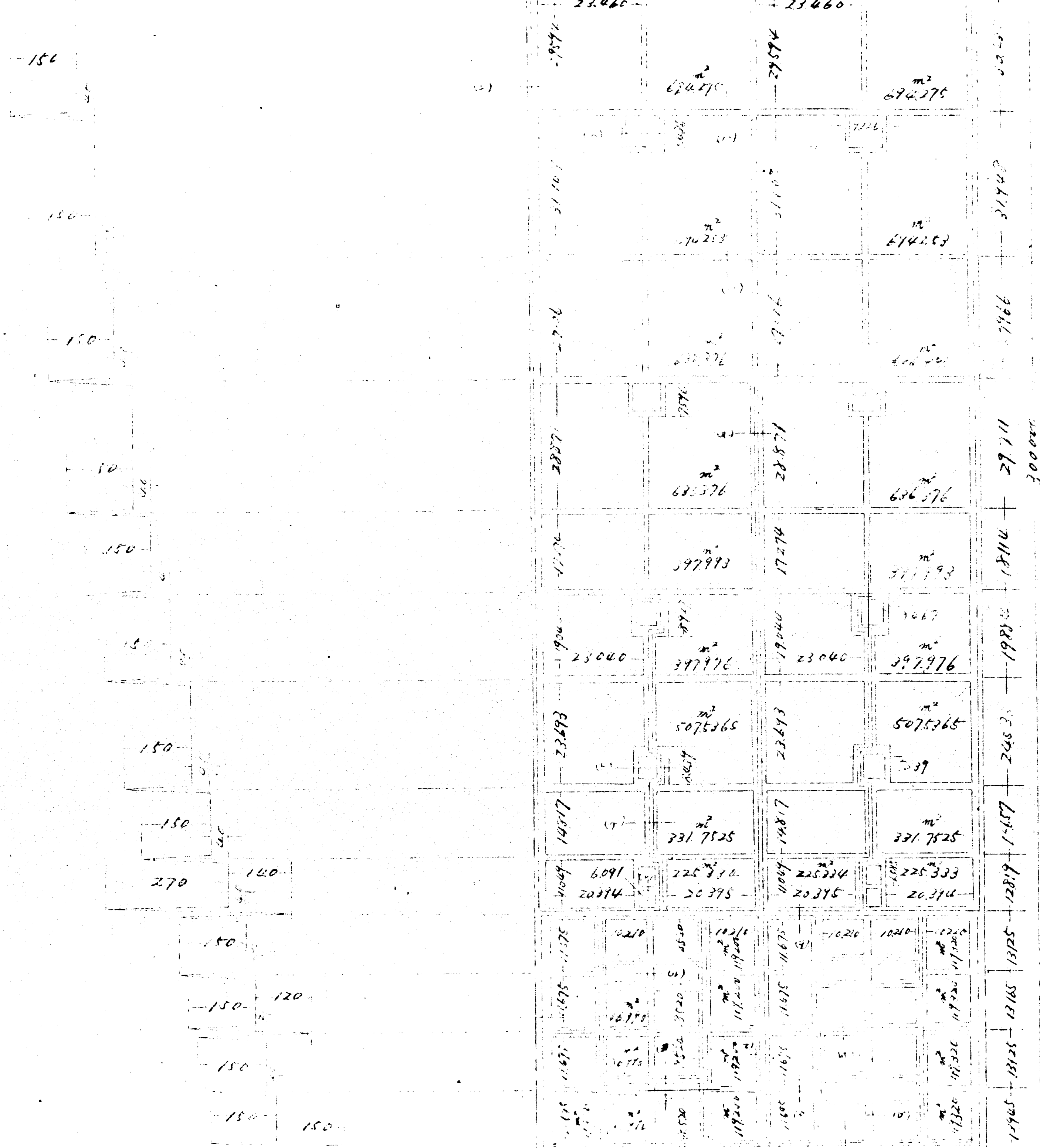
面積 3 HA

縦断面圖



平面圖





二 朝鮮總督府專賣局 以蘇萊塩田平面圖

(老萬分之一)

所在地 京畿道蘇萊面地先 石川武吉

蘇萊塩田平面圖

縮尺壹萬分之一

塩田面積 五四九町步

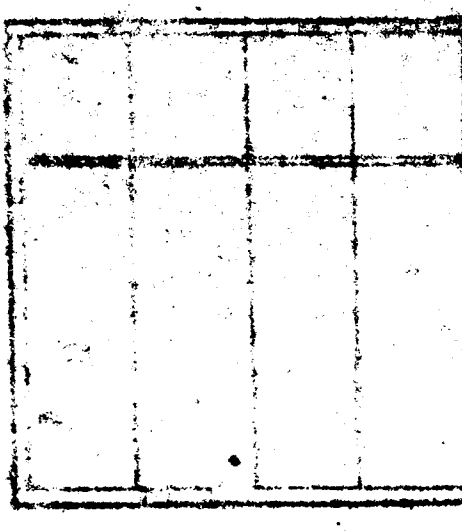
凡 例														
◎	□	○	●	■	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	—	—	—	—	—	—	—
大鹽所	官	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩
大鹽所	官	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩	塩

蘇萊面

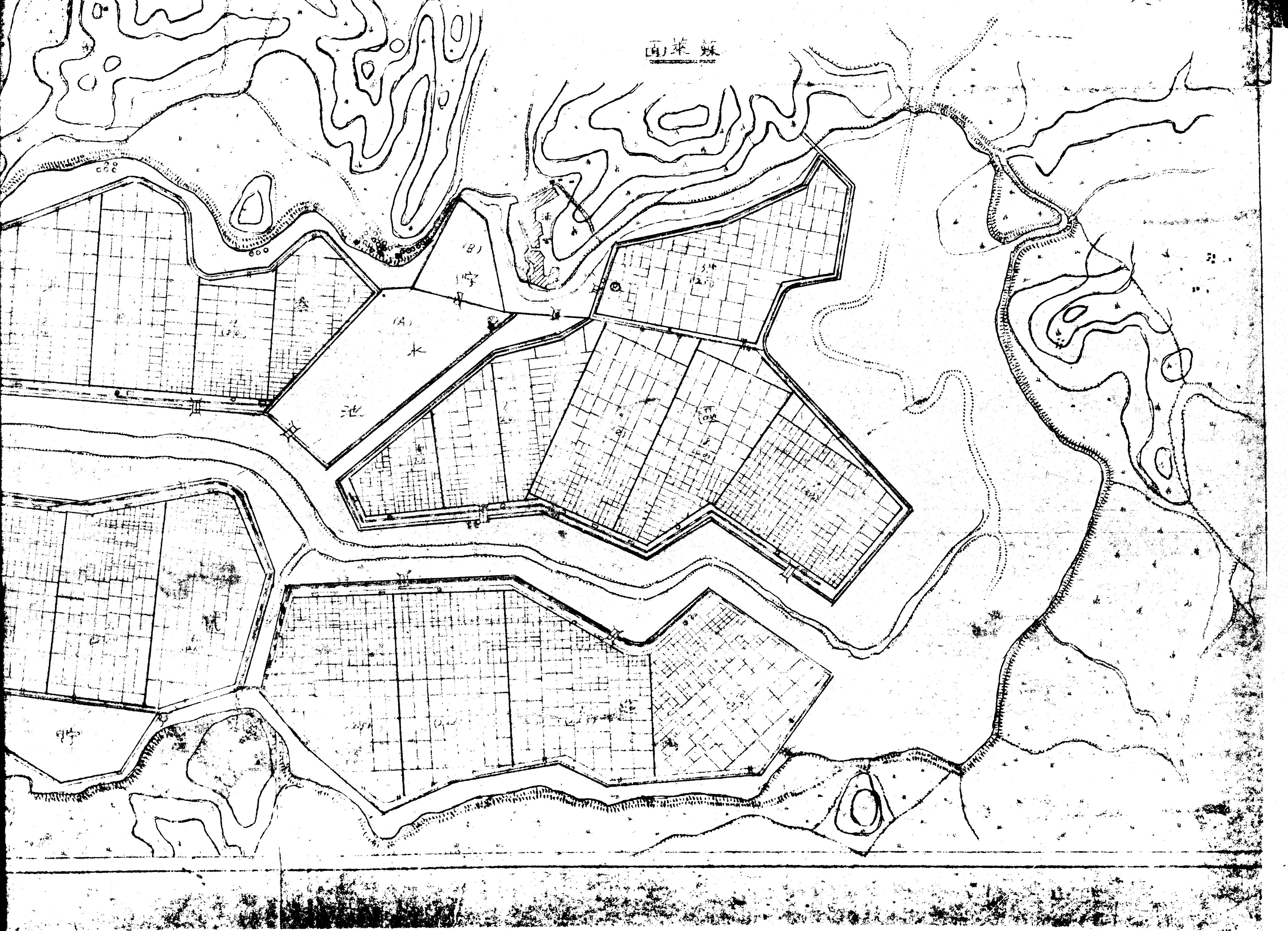


高田

高田面積五四九



南萊縣



4



昭和十五年一月調製



2 3 4 5 6 7 8 9 230 1 2 3 4 5 6 7 8 9 240 1 2 3 4 5 6 7 8 9 250 1 2 3 4 5 6

三專賣局廣梁灣出張所関係資料
吉

669

76Ls.3

M4-159-4

三、製塩官署、廣梁灣出張所管内の文書資料

目次

- 1. 管内の塩田面積と塩田築造年代及び天日塩の生産額 (1) 3頁
- 2. 大正三年竣工した、廣梁灣塩田、七七。町歩の圖面 (2) 1頁
- 3. 昭和八年発行の廣梁灣塩田概要 (3) 2頁
- 4. 昭和十七年七月一日現在の塩田職員配置表 (4) 8頁
- 5. 昭和八年、昭和十二年、昭和十五年の製塩優良塩田表彰記念写真 (5) 6頁
- 6. 廣梁灣第四、五區塩田、及徳洞派出所、塩田従事員の写真 (6) 3頁
- 7. 昭和十四年度管内塩田の採塩豫定高数量及び製塩塩天給配分豫算 (7) 3頁
- 8. 昭和十四年十月十日の採塩日報 (8) 1頁
- 9. 昭和九年度、及び十四年度各製塩加給金支拂調書 (9) 7頁
- 10. 昭和十四年十月、塩田祭に於ける所長の優良塩夫表彰式、式辭 (10) 12頁
- 11. 昭和七年より九年迄三ヶ年間の、第四、五區塩田監督員の事務資料（堤防修理、基盤池、結晶池等の修理工事設計書） (11) 20頁
440p

- 12. 昭和六年度、廣梁灣塩田事務監査報告書 (12) 2頁
- 13. 昭和八年以降五ヶ年間の塩田元水、潮汐、製塩作業関係調査書 (13) 2頁
- 14. 昭和三年頃、田中龜治氏が事實通報に投稿した「塩夫舎の忘り」塩夫の作業に関する作文 (14) 2頁
- 15. 昭和三年、廣梁灣塩田、土床結晶池長期採塩報告書 (15) 2頁
- 16. 昭和五年、鹹水別、塩生産量、比較試験報告書 (16) 2頁
- 17. 昭和九年、採塩作業と塩夫の勞力調査 (17) 2頁
- 18. 昭和十四年、葦沓池の硫酸石灰採集量調査 (18) 2頁
- 19. 廣梁灣塩田の、従業員宿舍、塩庫、排水伏樋、給水管等の設計圖面、六枚 (19) 6頁
- 20. 廣梁灣、徳洞塩田所在地沿岸、縮尺五萬分の圖、製塩器具類、青写真集 (20) 2頁

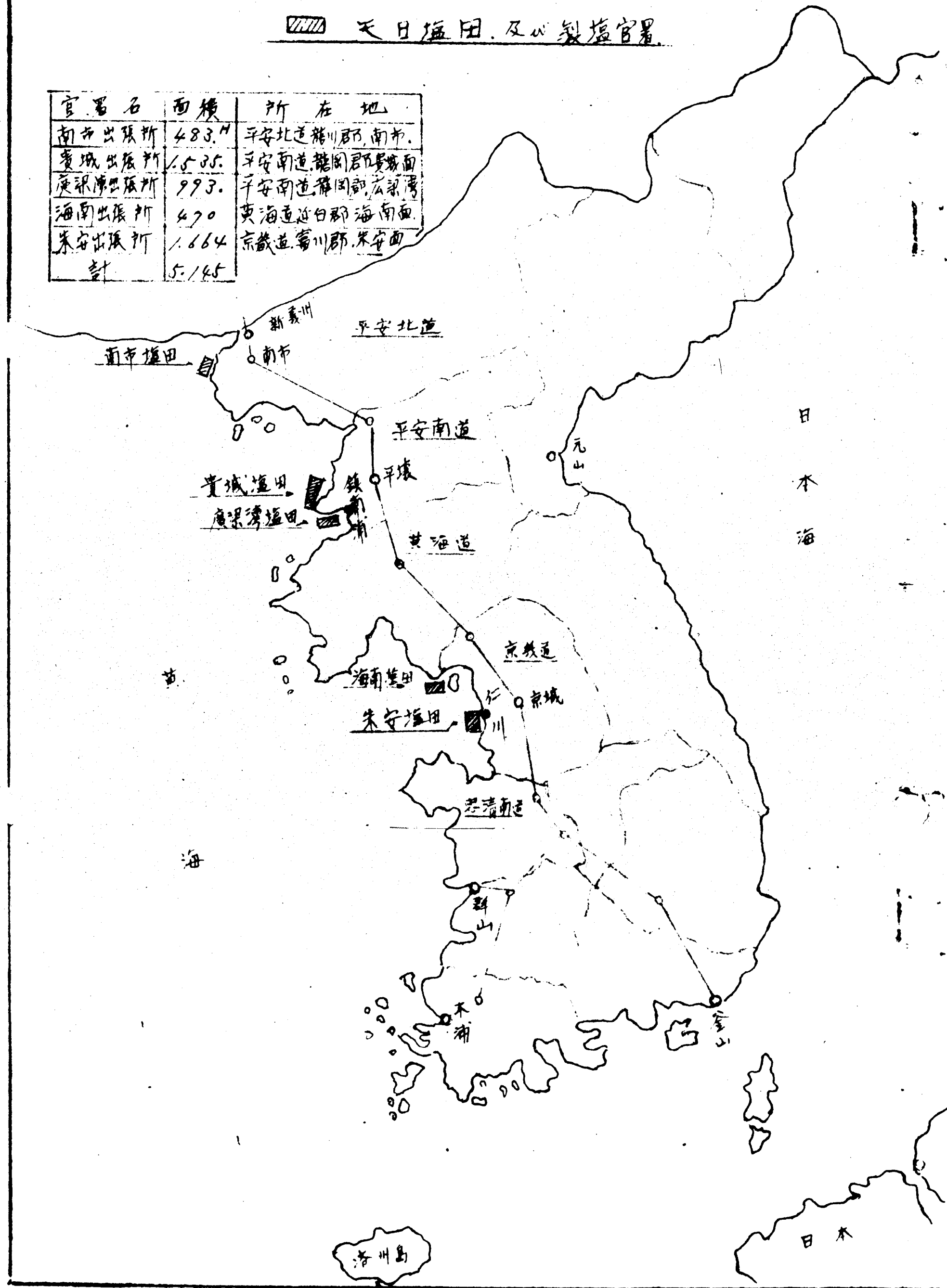
①

(昭和20年現在)

朝鮮總督府專賣局製塩官署所在地

天日塩田及製塩官署

官署名	面積	所在地
南浦出張所	483.7	平安北道龍川郡南浦
貴城出張所	1585	平安南道龍岡郡貴城面
廣津浦出張所	883	平安南道海州郡廣津浦
海南出張所	420	黃海道延白郡海南面
朱安出張所	1864	京畿道寧川郡朱安面
計	5145	



(1.)

廣梁湧出張所管内塩田面積、築造年代及び

天日塩の生産額

(2.)

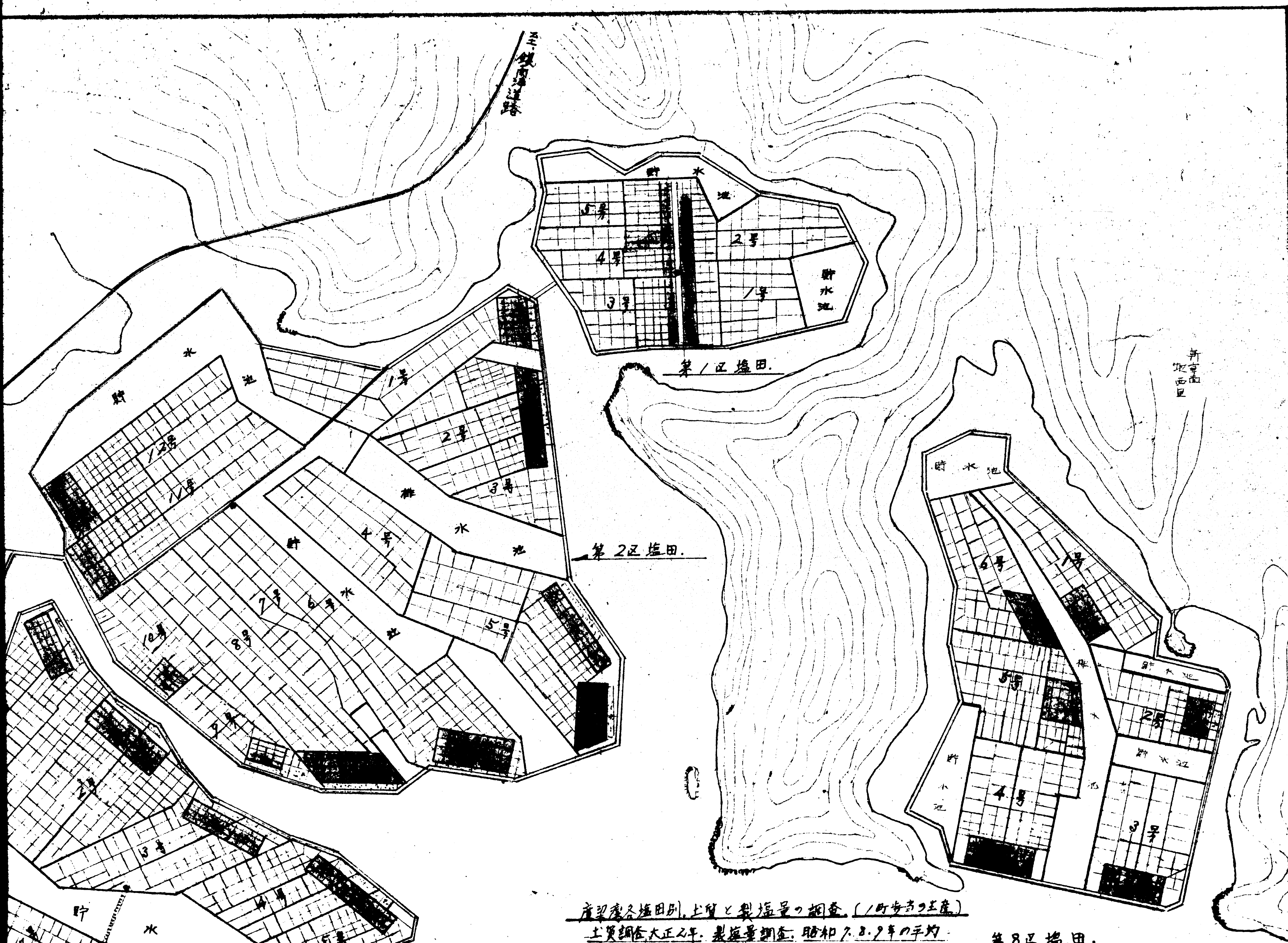
一、朝鮮總督府、專賣局、廣梁灣塩田、平面圖
所在地、平安南道龍岡郡、廣梁灣池先

(縮尺、壹萬貳千分之壹)

天日塩田面積、七七。町步(全面積九一二町步)

塩田築造年月

起工、明治四十二年五月
完成、大正三年三月



産別産各塩田別、土質と製塩量の調査 (1町歩当り生産)
 土質調査大正2年、製塩量調査、昭和7.8.9年の平均

塩田別	面積	0.05~0.00	0.01~0.05	1町歩当り
		平方	平方	製塩量

第8区塩田.

第3区塩田

第2区塩田.

第1区塩田.

新市面
北西面

S : 12,000. 尺

朝鮮總督府專賣局廣梁灣塩田平面圖

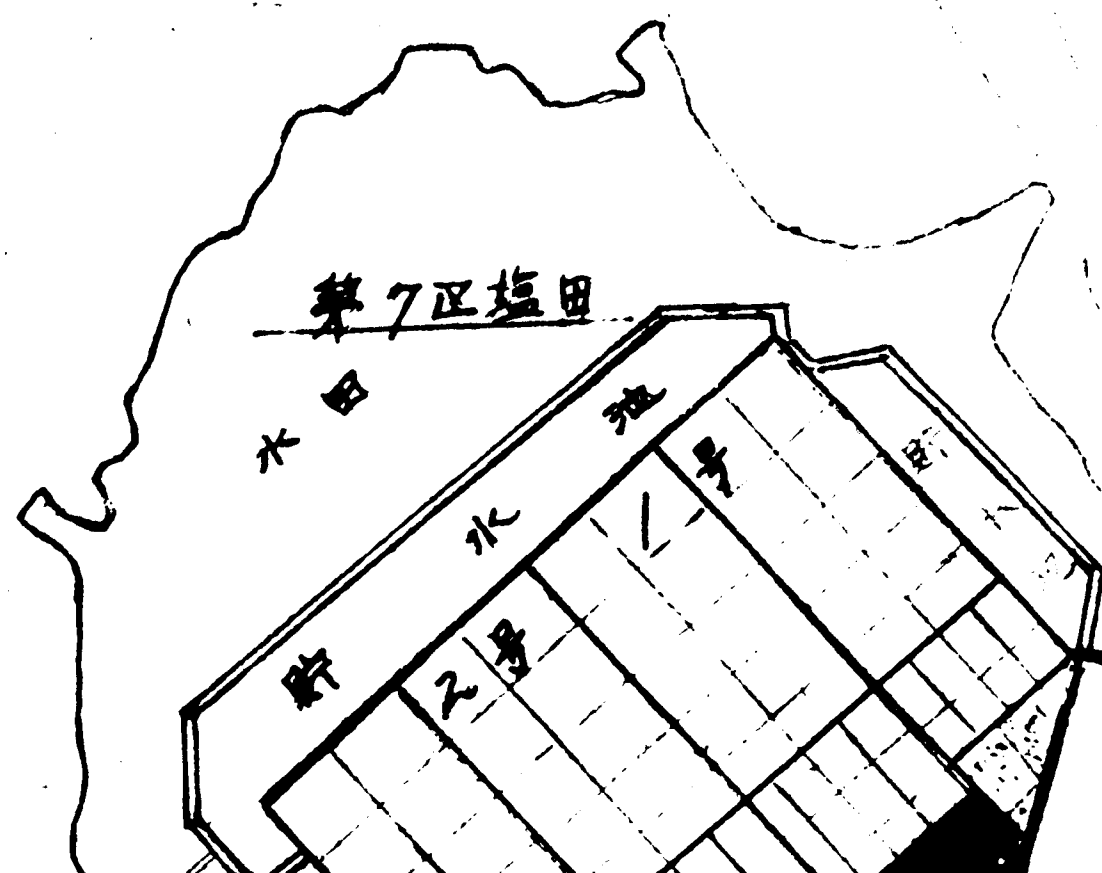
塩田別	面積	工事着手	工事完成
第1区	52	明治四十二年五月	大正元年三月
第2区	215	明治四十二年	大正二年三月
第3区	157	明治四十二年五月	大正三年三月
第4区	111	明治四十二年	大正三年三月
第5区	57	明治四十二年五月	明治四十二年五月
第6区	202	明治四十二年	大正三年三月
第7区	40	明治四十二年五月	明治四十二年十一月
第8区	78	明治四十二年	大正三年三月
計	912		

凡	例
	製塩官署
	貯塩場
	監督詰所
	木橋
	官舎
	地形
	外廊堤防
	岩石
	蒸発池
	道路
	結晶池

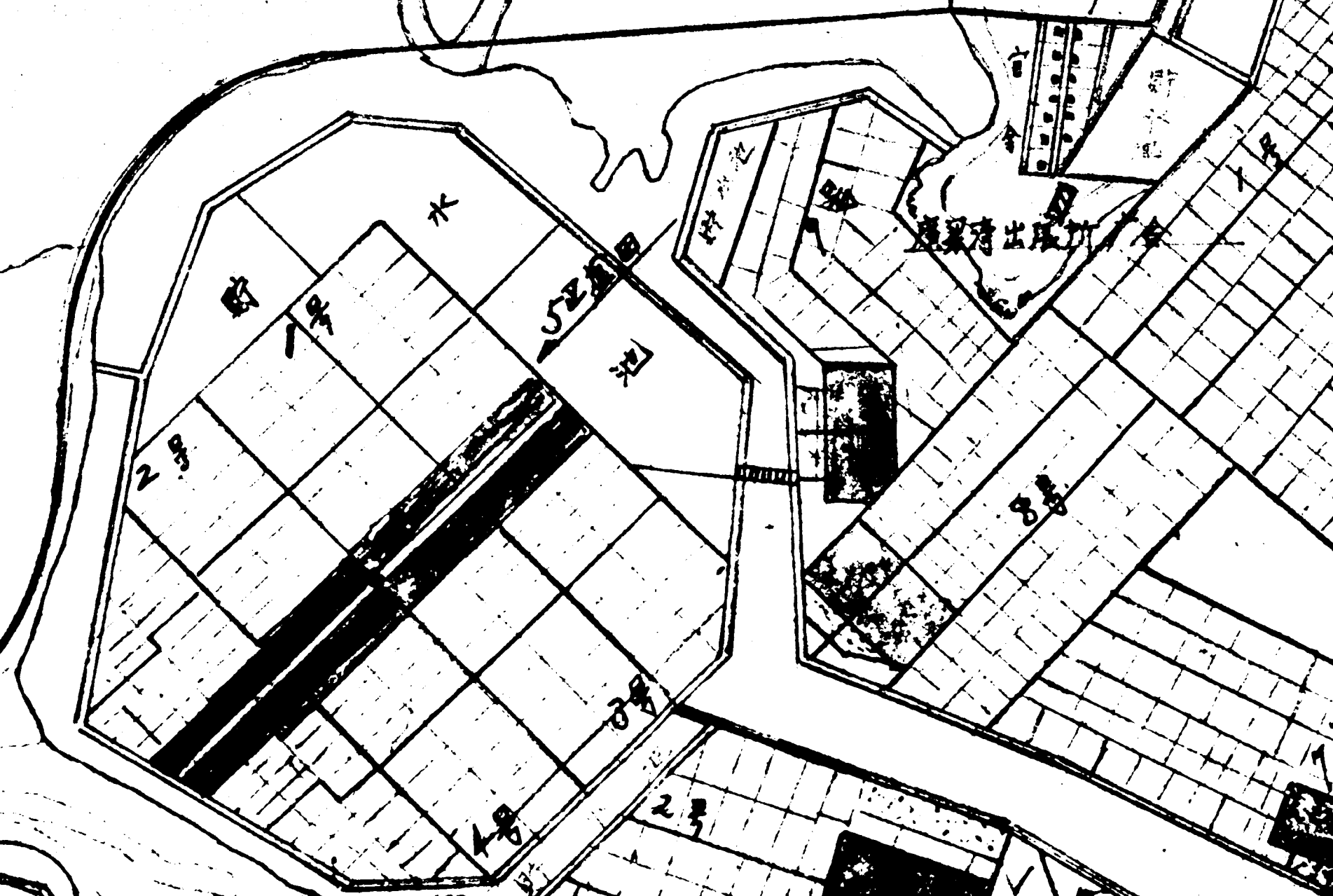
1. 塩田所在地. 朝鮮平安南道龍岡郡廣梁灣
2. 塩田面積. 天日塩田. 912町歩
(隆熙8年)
3. 築造年月. 明治42年5月(光武16年)起工. 大正3年3月完成
4. 塩田築造費. 1,164,287円 (大正八年三月調査資料)
5. 天日塩生産(見込) 1億2400万斤. (72,000人) 172,000円
收入. 年額
6. 工事関係者. 元. 韓國財政顧問. 目賀田種太郎氏

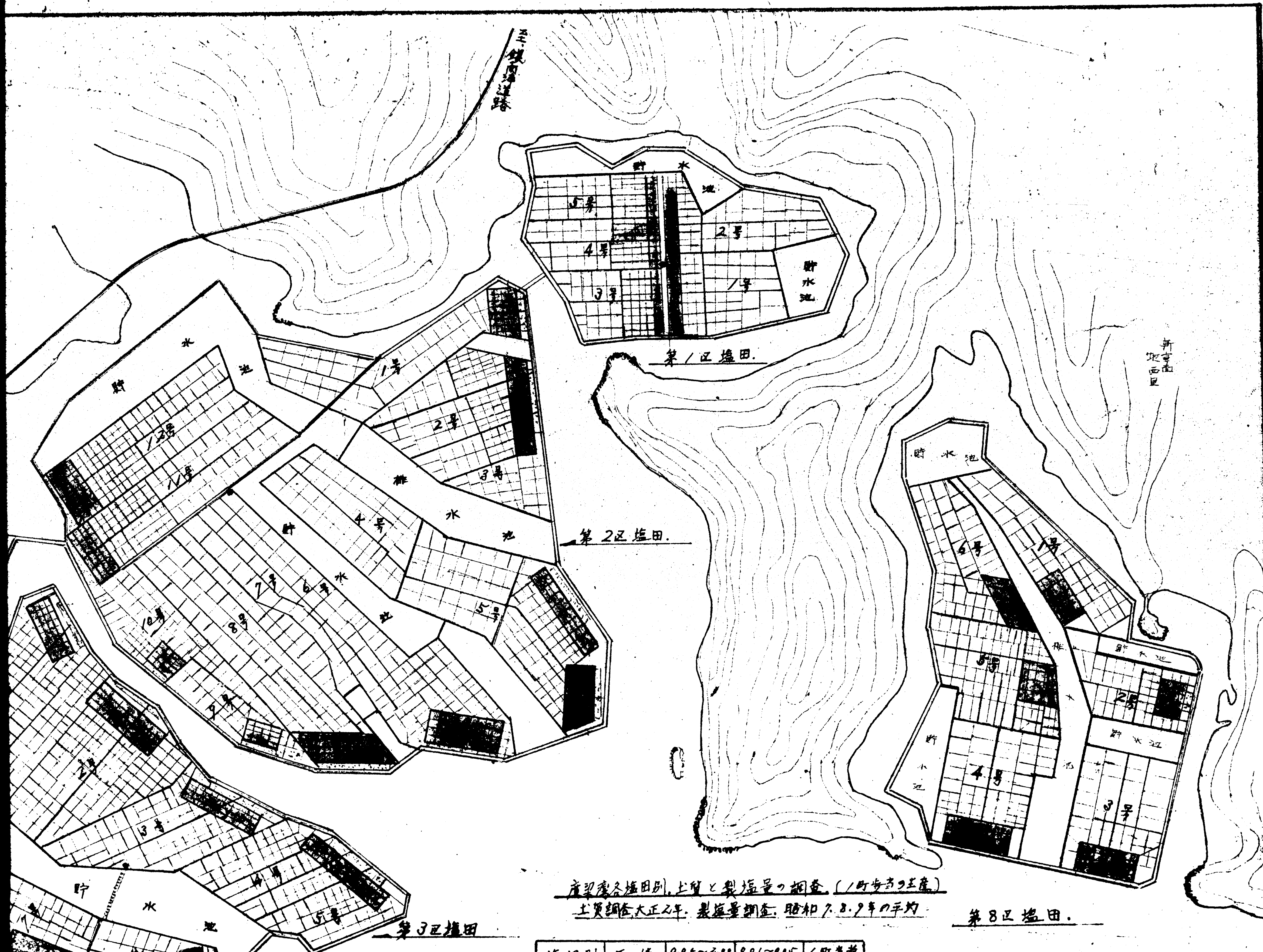
- 内地. 大蔵省. 技師. 奥健蔵氏
7. 天日塩の生産費(見込) 塩生産利益. 462,636円. 塩価所市17銭(直接生産費)
大正八年三月. 農商務省水産講習所調査資料
塩生産費内訳 (固定資本及運轉資金除く生産費. 23銭/1斗)

1. 天日塩賣下代. 672,000円. 1等塩 65銭(百斤) 6040
2等塩 50銭(百斤) 6040
 2. 塩生産経費 204,364円
 3. 資本利子 75,937円
 4. 固定資本. 1,164,287円
 5. 塩生産運轉資本 68,000円
- 築造費計298,004円



貯塩場

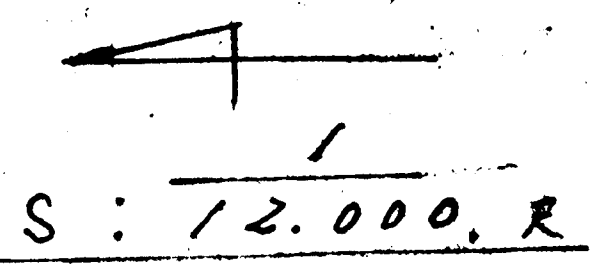




産梨産各塩田別、土質と製塩量の調査 (1町歩当り生産)
 土質調査大正2年、製塩量調査、昭和7、8、9年の平均

塩田別	面積	0.05~2.00	0.01~0.05	1町歩当り
		町歩	町歩	町歩

第8区塩田



朝鮮總督府專賣局廣梁灣鹽田平面圖

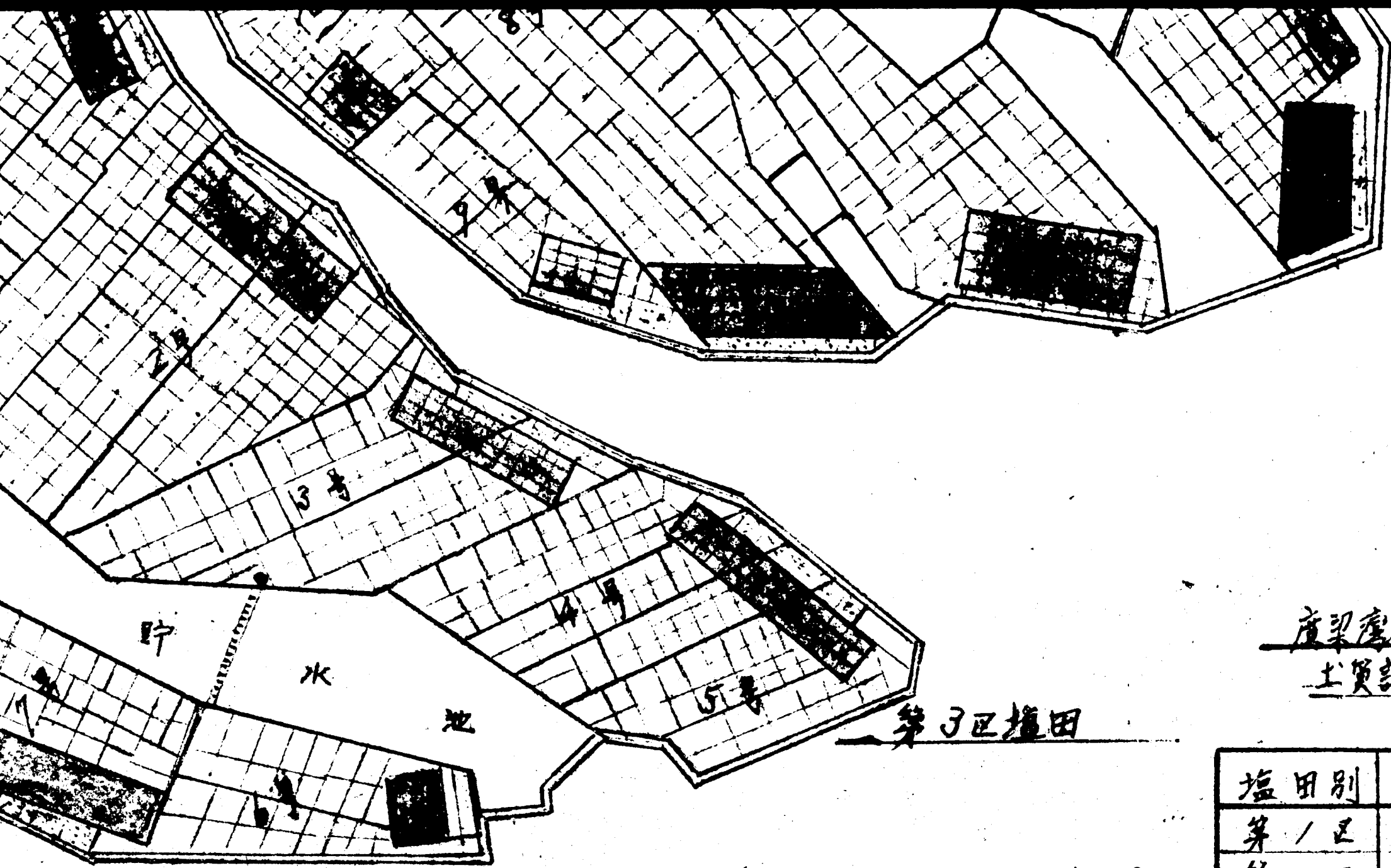
塩田別	面積	工事着手	工事完成
第1区	52	明治四十二年五月	大正元年三月
第2区	215	明治四十二年	大正二年三月
第3区	157	明治四十二年五月	大正三年三月
第4区	111	明治四十二年	大正三年三月
第5区	57	明治四十二年五月	明治四十二年五月
第6区	202	明治四十二年	大正三年三月
第7区	40	明治四十二年五月	明治四十二年十月
第8区	78	明治四十二年	大正三年三月
計	912		

凡 例			
	製塩官署		貯塩場
	監督詰所		木橋
	官舎		地形
	外廊堤防		岩石
	蒸発池		道路
	結晶池		

- 塩田所在地。朝鮮平安南道龍岡郡廣梁灣
- 塩田面積。天日塩田。912町步
(隆熙8年)
- 築造年月。明治42年5月(光武16年)起工。大正8年3月完成
- 塩田築造費。1,164,287円 (大正八年三月調査資料)
- 天日塩生産(見込)1億24万斤。(72,000ト) 172,000円
收入年額
- 工事関係者。元。韓國財政顧問。目賀田種太郎氏
内地。大蔵省。技師。奥健蔵氏

- 天日塩の生産費(見込) 塩生産利益。462,636円。塩百斤当り17銭(直接生産費)
大正八年三月。農商務省水産講習所調査資料
- 塩生産費内訳 (固定資本金及運轉資金除く生産費。23銭/1斗)
- 天日塩賣下代。672,000円。1等塩 65銭(百斤) 60和
2等塩 50銭(100) 60和
- 塩生産経費 204,364円
- 資本利子 70,937円 製造費計278,304円
- 固定資本。1,164,287円 1,232,287円
- 塩生産運轉資本68,000円





第3区塩田

天日塩田、10町歩当、海水使用量
の調査。大正7年調査
調査塩田、左、1、4、6、8区

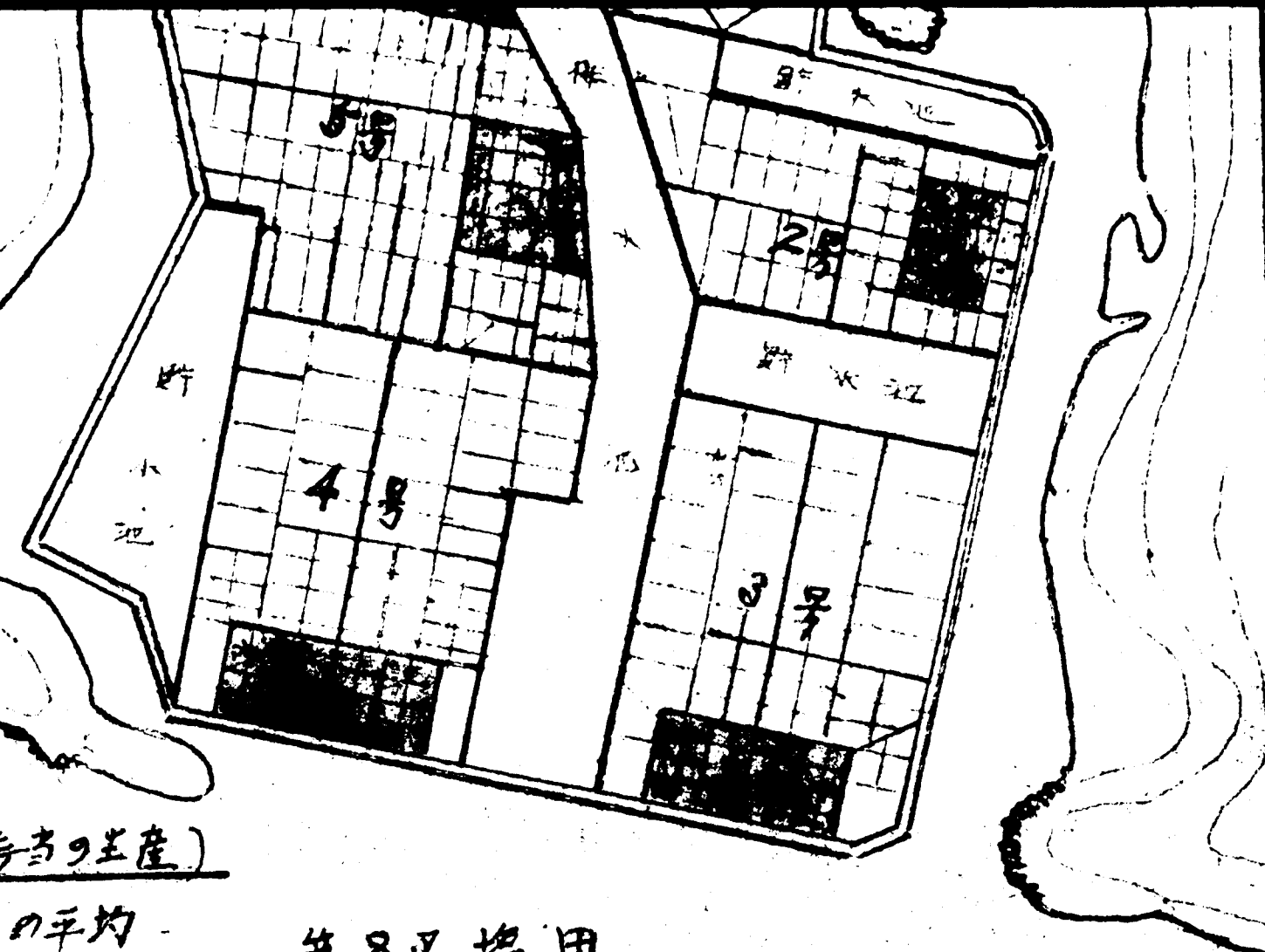
4月	267.40リットル
5月	260.
6月	307.

廣梁灣

廣梁灣各塩田別、土質と製塩量の調査。(1町歩当の生産)
土質調査大正2年、製塩量調査、昭和7、8、9年の平均

塩田別	面積	0.05~2.00 町歩当	0.01~0.05 町歩当	1町歩当 製塩量
第1区	46町歩	24.8	25.2	75トン
第2区	173	27.8	22.2	82トン
第3区	142	28.3	21.7	70トン
第4区	93	30.8	69.2	72トン
第5区	52	17.0	83.0	82トン
第6区	160	27.2	72.8	72トン
第7区	36	17.9	82.1	70トン
第8区	68	29.7	70.3	92トン
計	770			

備考、水面積は野水池
面積と差引いた面積
である。



第8区塩田

参考

廣梁灣塩田の築造費内訳

昭和5年、本局資料より。

1. 防潮堤防、海水取水門等の構築物	555.984円
2. 天日塩田、内部の土木工事賃銀	469.067
3. 道路、建物等の敷地買収費	2.885
4. 事務所、塩庫、塩大倉等の建設費	216.929
5. 事務所、塩田、同の電話架設費	4.030
計	1,248.795

塩田築造、初年度以降10年間に於ける
塩田面積の増加と、天日塩の生産実績。

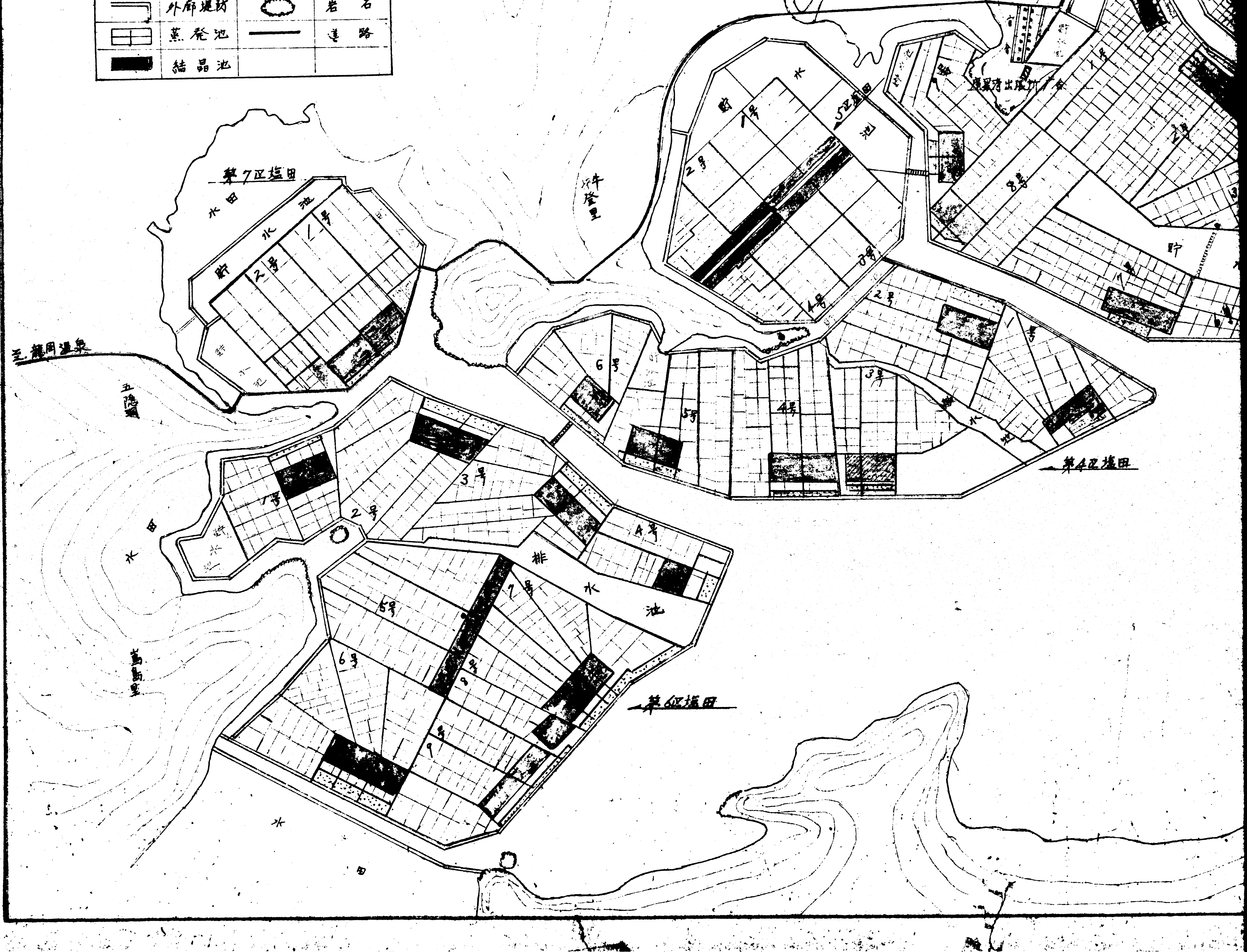
(塩田熟成の記録)

年度別	年数	完成面積	生産数量	1町歩当 生産額
明治43年	初年	52.2	155.1	7.10
" 44	2年	393.0	1,723	4.6
" 45	3	706.0	6,575	9.1
大正 2	4	774.0	21,803	28.2
" 3	5	774.0	25,258	32.6
" 4	6	774.0	27,692	35.8
" 5	7	774.0	46,045	53.0
" 6	8	774.0	47,719	61.7
" 7	9	774.0	41,845	54.1
" 8	10年	774.0	43,286	55.9

塩田災害と復旧工事
費の支出記録

大正12年7月10日海嘯
被害復旧費 551,908円
大正14年 月 日 水害被害
108,229円
合計 660,702円

	外廊堤防		石
	蒸発池		道 路
	結晶池		

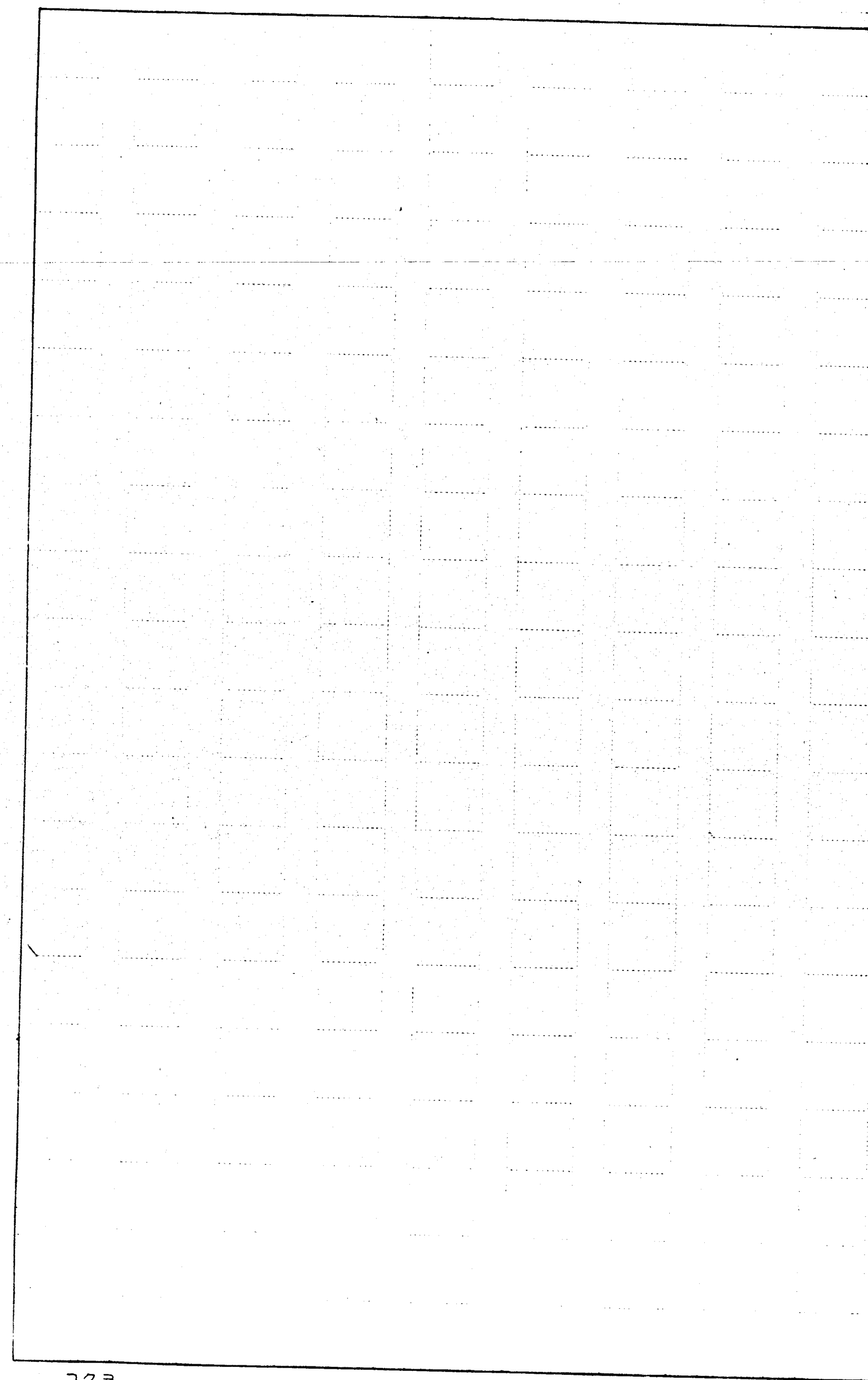


(2)

廣梁灣、德洞塩田所在地沿岸
縮尺、五萬分地圖

朝鮮平安南道。鎮南浦港

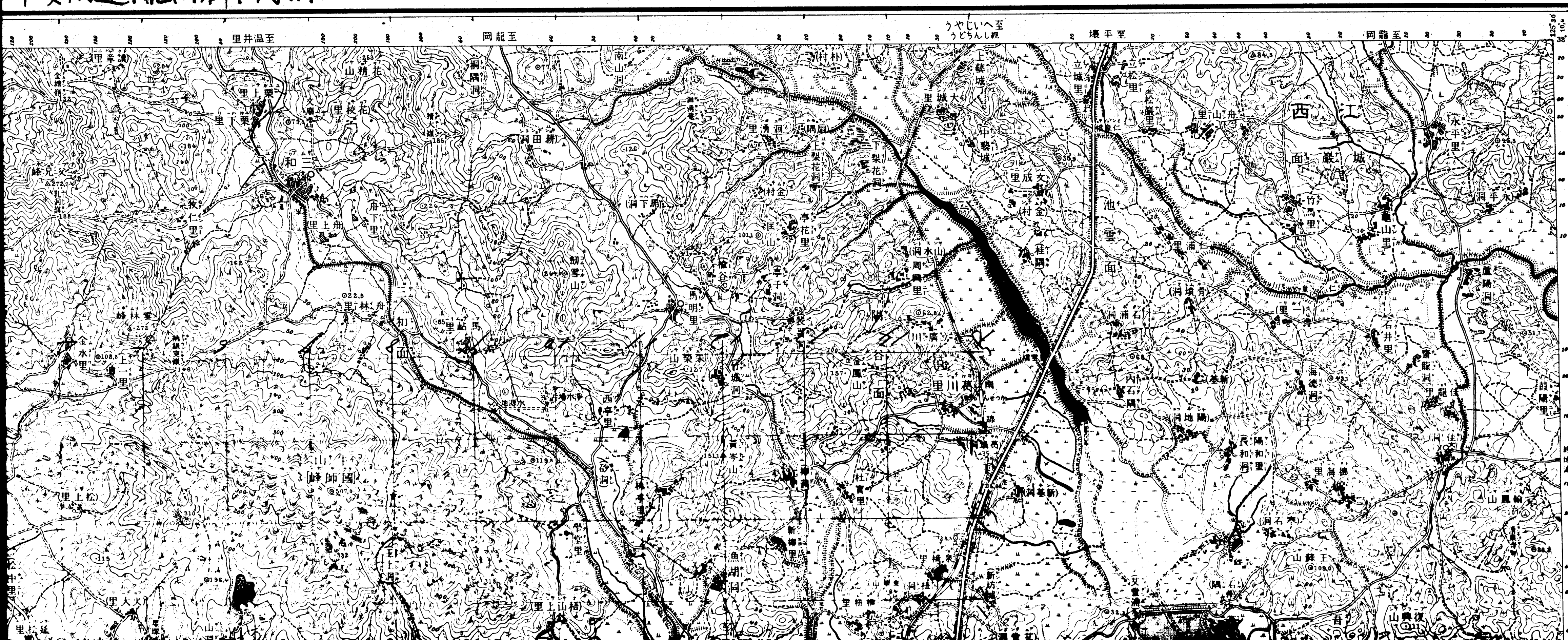
一、德洞塩田所在地

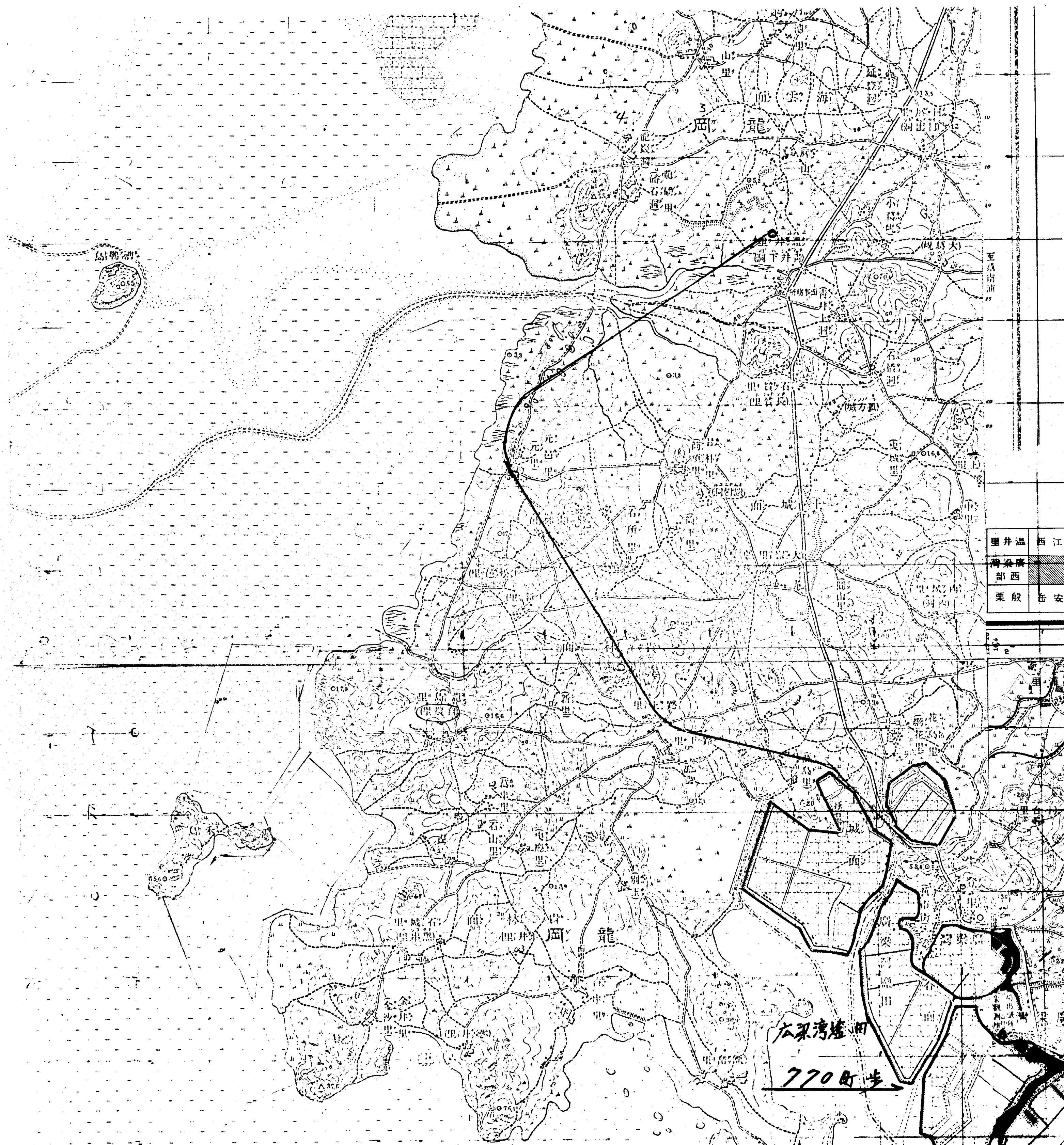


1. 德洞. 天日塩田. 所在地
 平安南道. 龍岡郡. 德洞. 223町步

浦南鎮

府 浦南鎮	道 南 安 平
郡 西 江	
郡 岡 龍	
郡 岳 安	
郡 栗 殷	道 海 黃



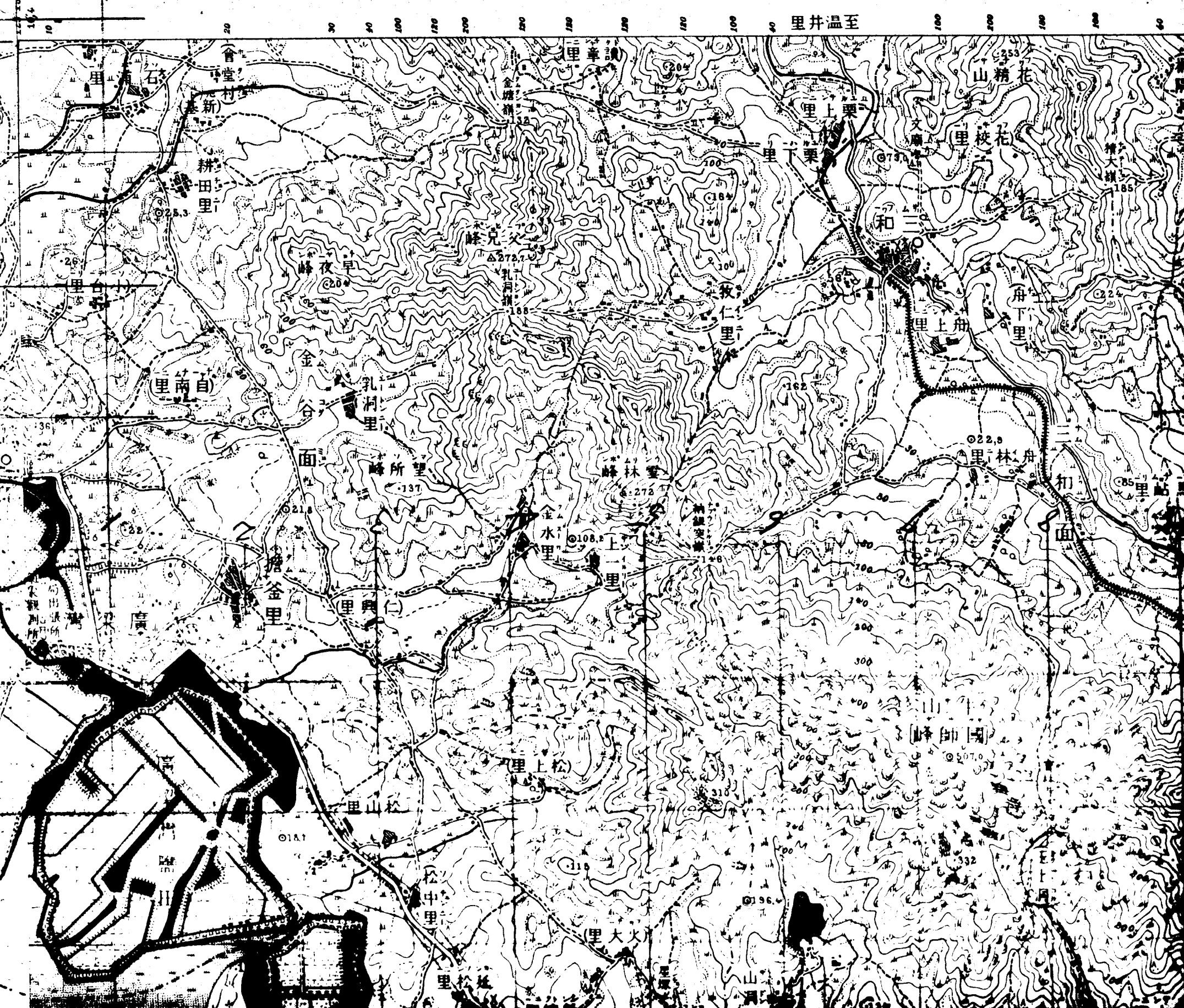


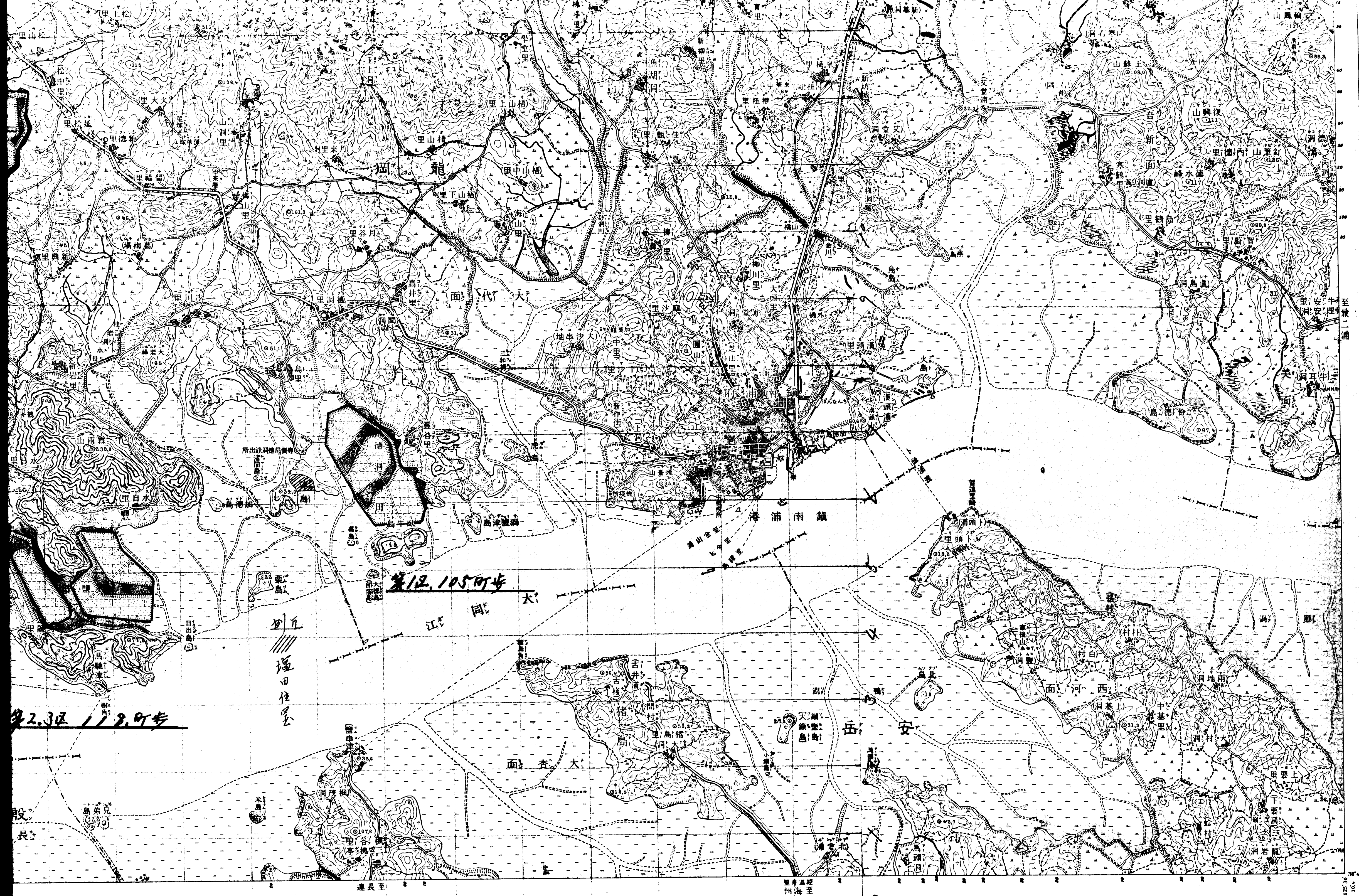
里井溫	西江	陽岐
梅桑廣	部西	浦二家
栗般	岳安	院里沙

圖名

專賣局. 德洞. 天日塩田. 所在地
平安南道. 龍岡郡. 德洞. 223町步

大梁湾塩田
770町步



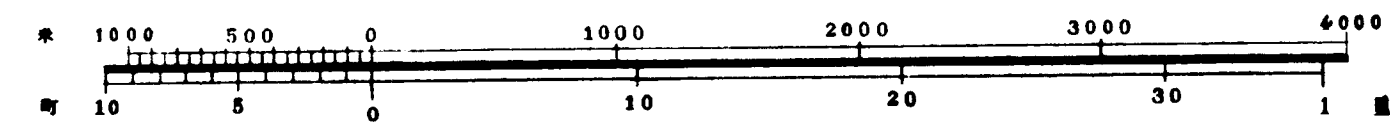


第12.105町步

例示
海田位置

第2.3区 112町步

一分萬五尺縮



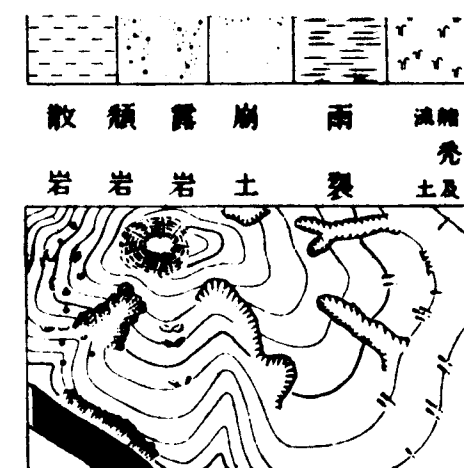
高程ハ米突ヲ以テ示ス



大 同 江 川

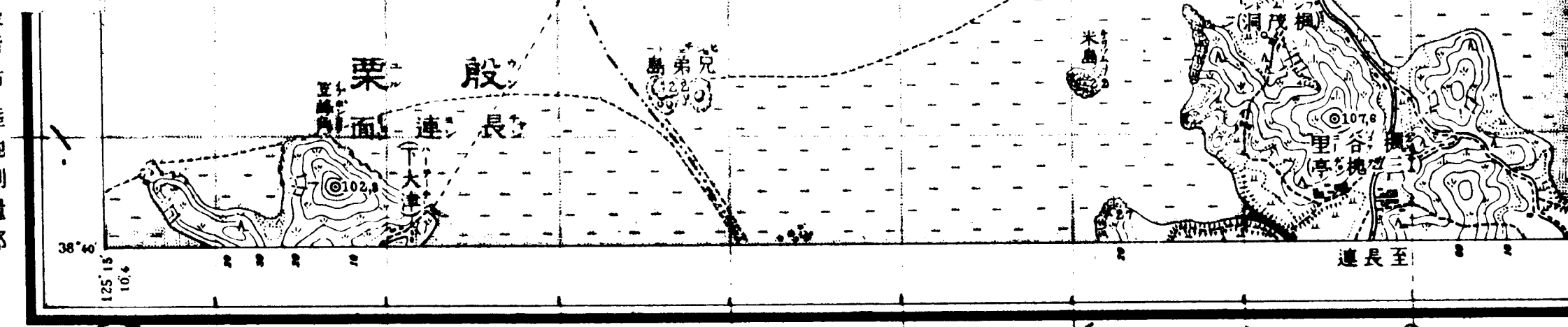
第2.3区 1/2.4号

例
//// 堤日位置



リアニ式圖ハ細詳ノ號符

取行者 陸地測量部



(後八拾金價定)

米 1000
町 10

(3)

昭和八年発行の廣梁灣塩田概要

11頁 22p

事業係用

廣梁灣鹽田概要

專賣局廣梁灣出張所

目次

附圖	廣梁灣管內塩田一覽圖
塩田構造圖	
製塩期圖	
製塩系統一覽圖	
一、沿革	一
二、塩田ノ構造	三
三、製塩方法	三
四、塩生産	三
五、塩品質	四
六、塩田月別塩夫使役人員表	五
七、從業員ノ獎勵及保護	五
八、職員ノ私的團體	六
附錄 食塩ノ用途	七

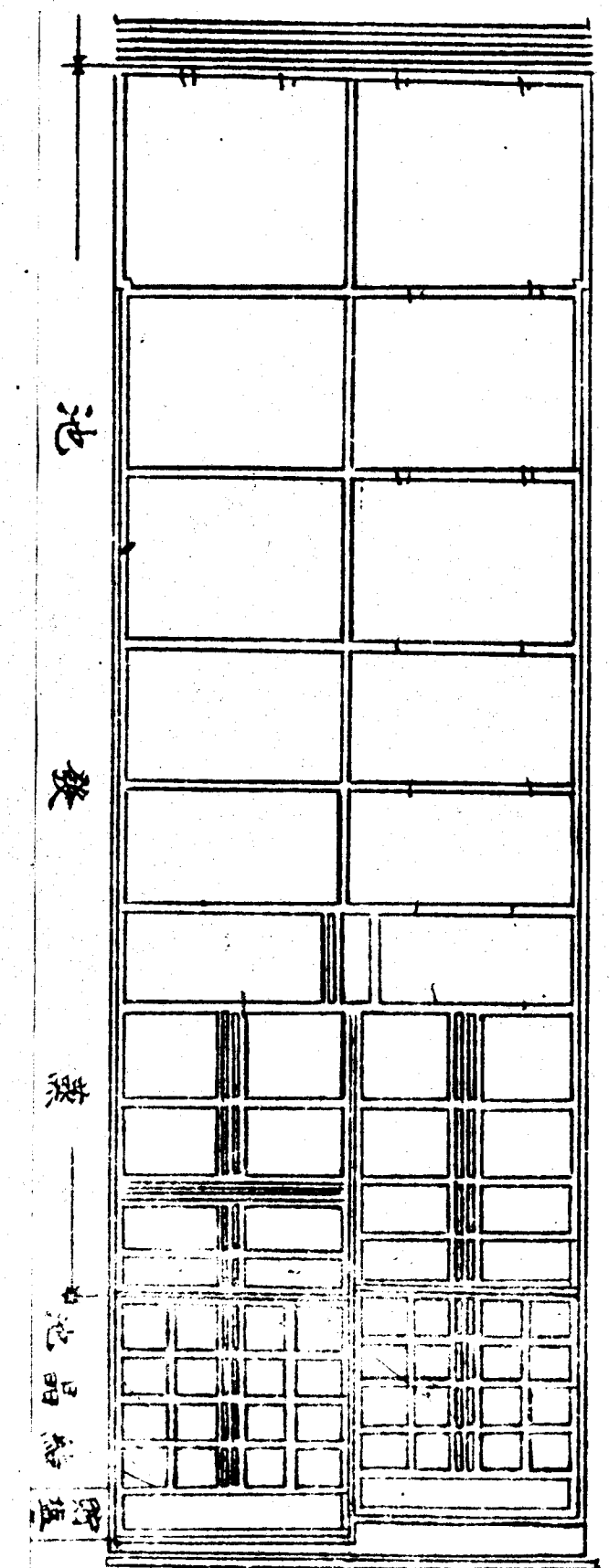
[illegible]

野山... 堀内... 結品池面積...
 堀内... 堀内... 堀内...
 堀内... 堀内... 堀内...
 堀内... 堀内... 堀内...
 堀内... 堀内... 堀内...

東... 久保田... 堀内... 堀内...
 中央研究... 堀内... 堀内...
 三... 堀内... 堀内...
 堀内... 堀内... 堀内...
 堀内... 堀内... 堀内...
 堀内... 堀内... 堀内...

鹽田構圖

回平

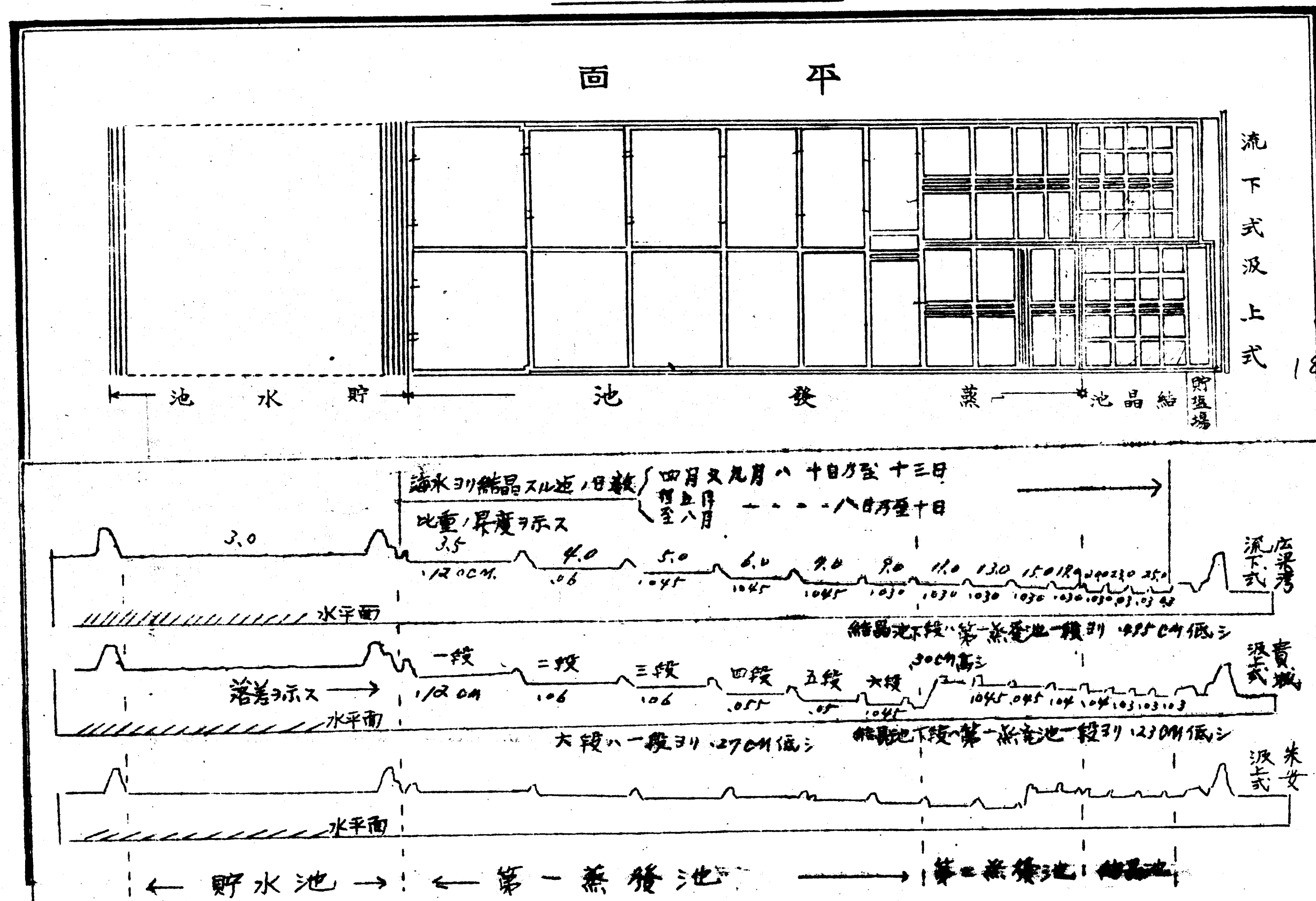


流下式汲上式

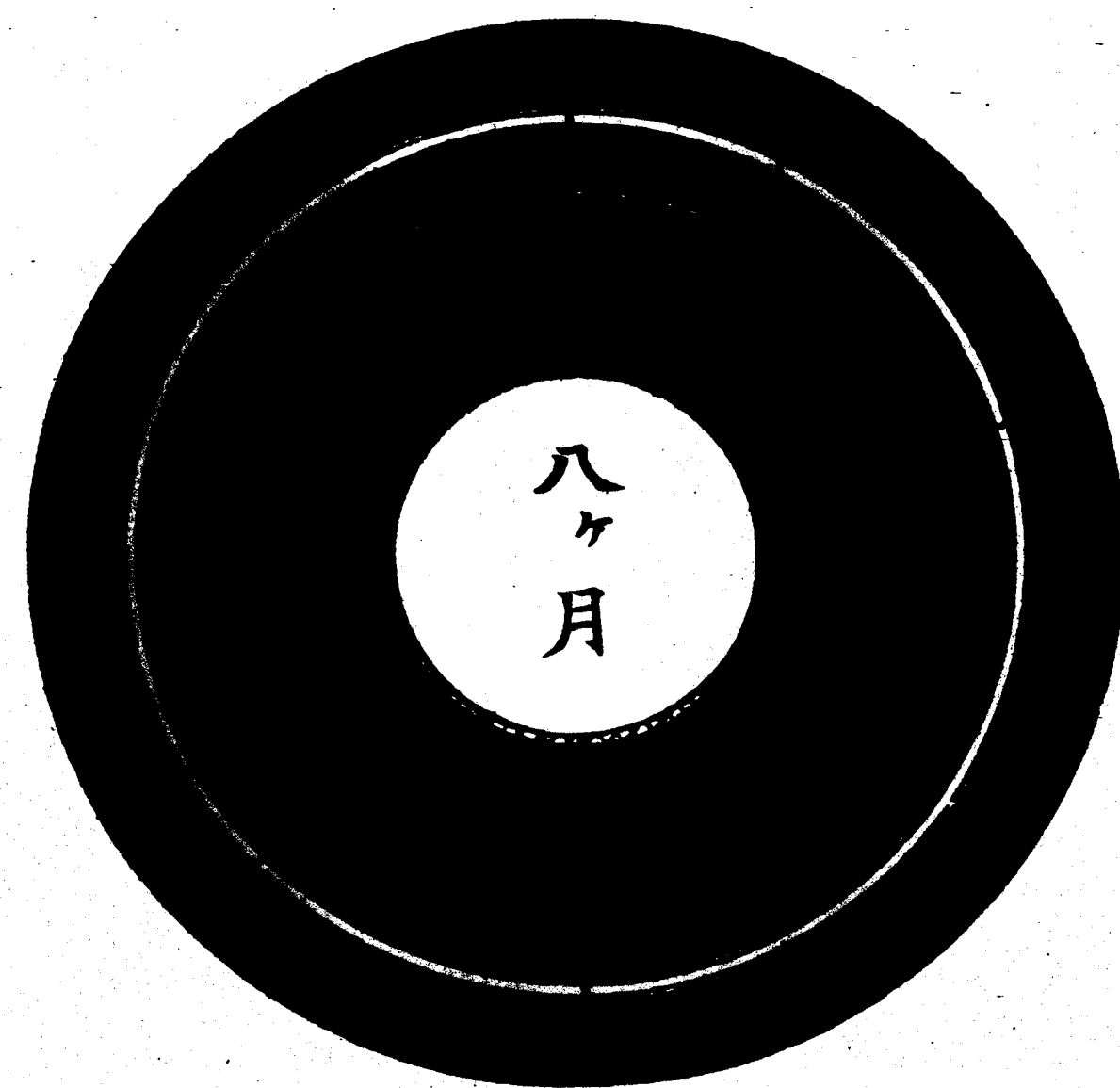
100m
200m

海に引込みし海水、野水池に貯蓄し、
 野水池より第一蒸發池へ送り、
 第一蒸發池より第二蒸發池へ送り、
 第二蒸發池より結晶池へ送り、
 結晶池より貯蓄場へ送り、
 貯蓄場より流下式汲上式へ送り、
 流下式汲上式より海へ排出

鹽田構造圖



製 鹽 期



八ヶ月



各季節
製造歩合

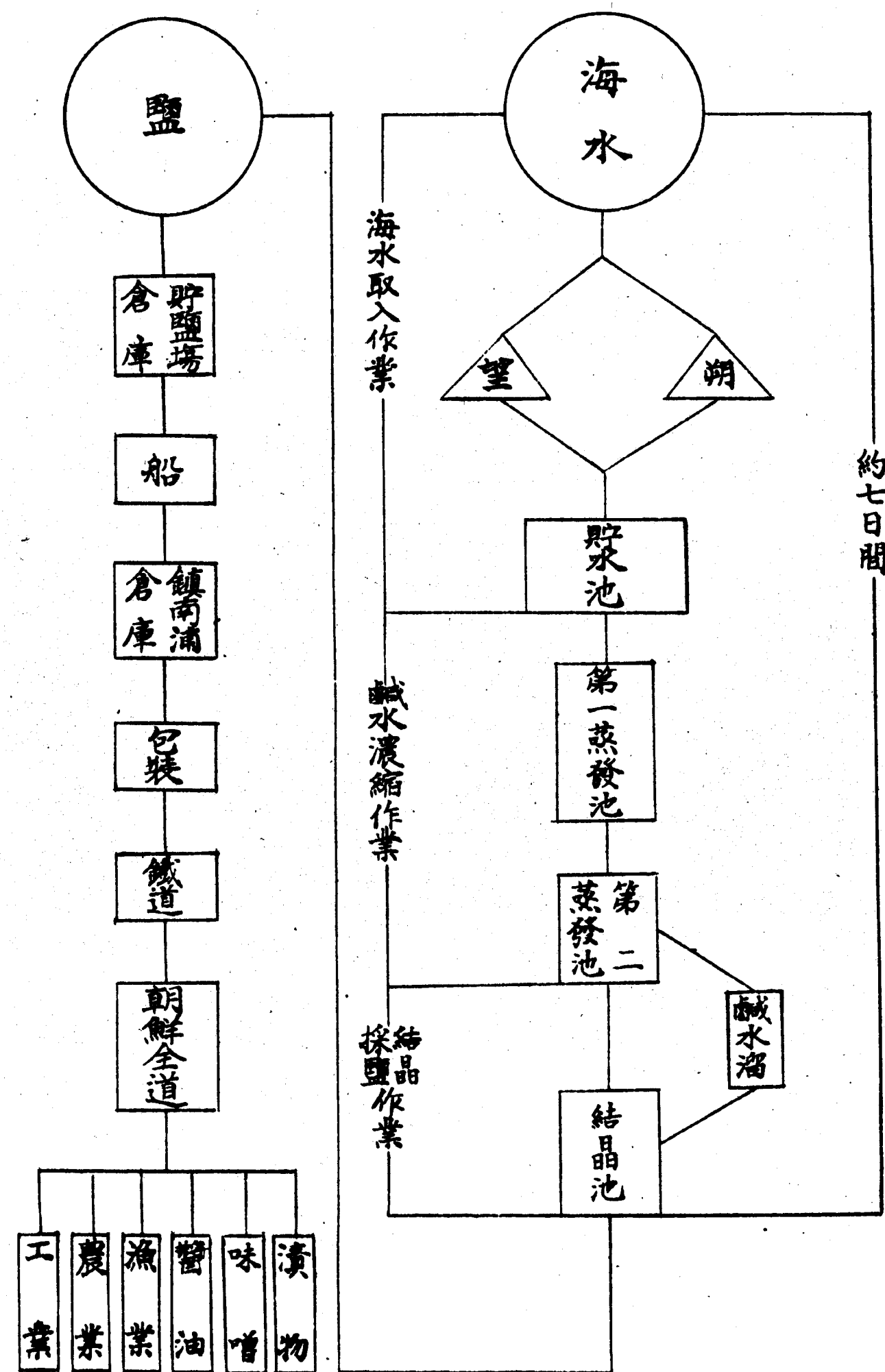


製造季節
区分



製造期間

製鹽系統一覽



一、沿革

古來朝鮮ニ於テ消費スル鹽ハ、専ラ朝鮮沿岸各地ニ於テ製造スル、煎熬鹽ヲ以テ之ニ充當シ來レリ。
元來朝鮮在來煎熬鹽ハ、其ノ製造方法甚幼稚ニシテ燃料勞力ヲ要スルコト夥シク、從ツテ生産費ノ高價ナルヲ免レズ。故ニ明治三十五、六年ヨリ漸次安價ナル支那天日鹽ノ輸入ヲ誘致シ、逐年其ノ數量増加スルノ趨勢ヲ示セルヲ以テ、當局ニ於テハ國家經濟上默シ難シトナシ、之ガ補充策トシテ天日製鹽田ノ築造ヲ策シ、明治四十年京畿道朱安ニ試驗鹽田ヲ設ケ試驗ノ結果、頗ル良好ニシテ品質ニ於テハ支那輸入鹽、在來煎熬鹽等ニ比シ、遙カニ優良ニシテ生産費ニ於テモ優ニ對抗シ得ルノ確信ヲ得タルヲ以テ、明治四十二年六月ヨリ平安南道廣梁灣及京畿道朱安ニ、塩田築造ノ計劃ヲ樹テ、爾來廣梁灣ニ於テハ左記ノ通り鹽田ノ竣功ヲ見ルニ至レリ。

所在地		鹽田區分	面積	工事竣功年月	摘要
廣 梁 灣	第一區	四六町	大正元年三月	3	
	第二區	一七三	大正二年三月	5	
	第三區	一四二	大正元年九月	4	
	第四區	九三	大正三年三月	6	
	第五區	五二	明治四十三年五月	2	
	第六區	一六〇	大正元年三月	3	
	第七區	三六	明治四十二年十一月	1	
	第八區	六八	大正三年三月	6	
合計		七七〇			

所在地	鹽田區分			面積	工事竣功年月	摘要
	第一區	第二區	第三區			
德洞	一〇五	七八	四〇	二二三	大正八年九月 大正九年十二月 大正九年十二月	
貴城	合 計	第二區	合 計	一四九 一四九	大正十年四月	
總計	一、一四二					

以上ノ如ク當所管内ニ於テ一千四百四十二町歩ノ鹽田ヲ開鑿シ、又他ニ京畿道朱安管内ニ於テ一千一百一五町歩平安北道南市ニ二百七十七町歩、合計二千四百七十四町歩ノ完成ヲ見タルモ、其ノ生産額ニテハ尙ホ鮮内ノ需要ヲ充スヲ得ス、年額二億斤餘ノ不足ヲ來スニ付、漸次自作自給達成ノ方針ノ下ニ昭和八年度ヨリ更ニ一千百町歩ノ擴張計畫ヲ樹テ工事ニ着手セシ

既ニ竣功セシ鹽田左ノ如シ

所在地	鹽田區分	面積	工事竣功年月	摘要
貴城	第三區	一〇五	昭和十年十一月	起工昭和八年六月五日
貴城	第四區	七八	昭和十年十二月	今 十年九月十六日
合計	合 計	二二三		

總合

二一八一

二、鹽田構造

天日鹽田ハ貯水池、蒸發池及結晶池ノ三部ヨリ成レリ。貯水池ハ其ノ要素タル海水ヲ貯溜スル池ニシテ蒸發池及結晶池ニ比シ高所ニ在リ。蒸發池ハ高サ七寸天幅二尺内外ノ小畦畔ヲ以テ數十ノ方形ニ區劃シ一寸乃至一寸五分ノ落差ヲ以テ九段乃至十段ニ階段ヲ付シ池底ハ極メテ平坦ニ地均シヲ行ヒ更ニ石製ローラーヲ滑轉シテ堅固ナラシム。結晶池ハ鹽ヲ結晶セシムル池ナリ。其ノ池底土盤ノママニテハ採鹽ノ際土砂混入ヲ來シ品質低下ノ虞アルヲ以テ漸次鹽片又ハ敷瓦ヲ敷設セントシシツアリ。其他用水路、鹹水溜、水路並ニ排水溝等之レニ附屬ス。

三、製鹽方法

當鹽田附近ニ於ケル大潮時ノ潮位ハ二十尺餘ニ達スルモ大潮以外ノ平時ニ在リテハ露出シテ一面ノ干瀉地ト化スルヲ以テ毎月朔望ノ大潮時ニ當リ所要ノ海水ヲ各貯水池ニ設備シタル水閘ヨリ貯水池ヘ導入貯溜スルナリ。而シテ蒸發池ニ注入スルニハ貯水池ヨリノ導入口ヲ開ケバ自然ニ流下シテ蒸發池ニ至ル、水深一寸五分内外ノ程度トシテ天然ノ日射ト風力トニ依リ池水ヲ蒸發濃縮セシム、斯クシテ蒸發池上段ヨリ下段ニ向ケ順次移注セラレタル鹹水ノ濃度母氏比重計二十度乃至二十五度ニ達スル時ハ之ヲ結晶池ニ移注シ更ニ蒸發濃縮セシメ、二十度乃至レバ飽和鹹水トナリ茲ニ初メテ鹽ノ結晶ヲ開始シ數時間後ニハ結晶池ノ全面ハ鹽ノ結晶ヲ以テ蔽ハルルニ至ル之ヲ搖キ集メテ籠ニ容レ倉庫ニ收藏シテ分水滴下ノ頃ヲ見計ヒ海路鎮南浦ヘ輸送レ或ハ當地ニテ販賣引渡ヲナス。

四、鹽生産

鹽ノ生産ハ天候ノ如何ニ依リ豊凶アルヲ免レズト雖モ鹽田地盤ノ良否、熟否、及製鹽技術ノ巧拙ハ其ノ影

響スル處又甚大ナルモノナリ、依ツテ鹽田ニ於テハ専ラ地盤ノ地均シ地固メニ努ムルト共ニ優秀ナル技術員並鹽夫ノ養成ニ苦心シ居レリ。尙鹽田ハ築造后年其ノ生産額ヲ増加シ概ネ築造以後五六年ヲ經過シ初メテ熟田トナリ完全ナル生産能率ヲ發揮スルニ至ルモノナリ。

昭和元年以降ノ生産高ヲ示サバ次ノ如シ

十三年度現況

四月一三、五三三、〇〇〇
五月二二、二二二、〇〇〇

年 度	鹽田使用面積	生 産 高	鹽田一畝歩高	摘 要
大正十五年年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	
昭和二年年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	
昭和三年年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	
昭和四年年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	
昭和五年年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	
昭和六年年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	
昭和七年年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	
昭和八年年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	
昭和九年年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	
昭和十年年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	
昭和十一年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	
昭和十二年度	一、四三〇	100,101,000	八七、六五五	

五、鹽 品 質

鹽ノ品質ハ色澤純白ニシテ、塩化曹達ノ含有量多キモノヲ優良ナリトス。故ニ色澤純白、鹽質純良ナルモリヲ一等鹽トシ、之ニ亞グモノヲ二等鹽トス

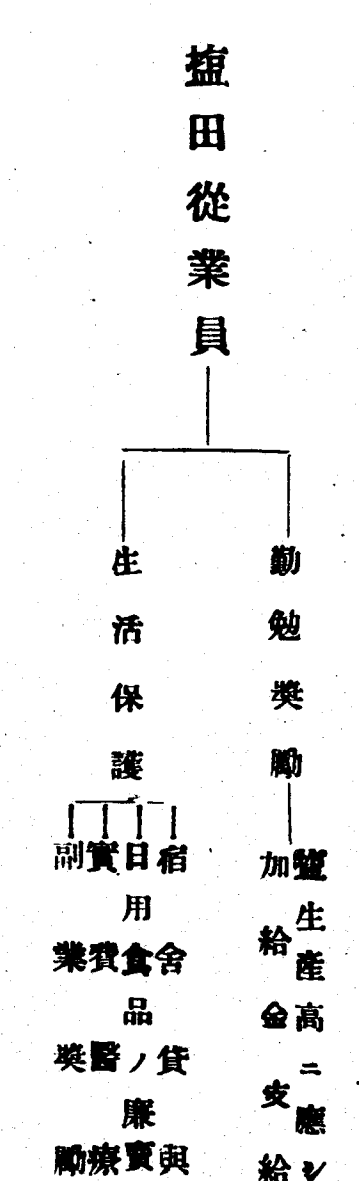
近時生活ノ向上ニ伴ヒ需要者ノ嗜好向上シ、一等鹽ノ賣行頗ル良好ニシテ逐年増加ノ趨勢ヲ示セリ。故ニ此ノ趨勢ニ鑑ミ、純白ナル良鹽ヲ多量ニ生産スルヲ急務ナリトシ、作業方法ノ改善ヲ圖リタル結果一等鹽ハ土底鹽田ニ於テハ、從來生産鹽ノ約二割七分ヲ採取シタルモ近年三割五分ヲ採取スルニ至レリ。

六、鹽田月別鹽夫使役人員表

鹽田別	一、二月	三、四月	五、六月	七、八月	九、十月	計
貴城	二、一八八	五、六五三	五、七九四	五、三九四	四、三九四	二、二二四
德梁	二、一八八	五、六五三	五、七九四	五、三九四	四、三九四	二、二二四
廣教	二、一八八	五、六五三	五、七九四	五、三九四	四、三九四	二、二二四
日置	二、一八八	五、六五三	五、七九四	五、三九四	四、三九四	二、二二四
當配	二、一八八	五、六五三	五、七九四	五、三九四	四、三九四	二、二二四
管置	二、一八八	五、六五三	五、七九四	五、三九四	四、三九四	二、二二四
流下式	二、一八八	五、六五三	五、七九四	五、三九四	四、三九四	二、二二四
面積	三、八八〇	八、〇〇〇	九、〇〇〇	八、〇〇〇	六、〇〇〇	二、二二四

備考 本人員ハ鹽田常備鹽夫トス 日給平均、四、七、〇〇〇。

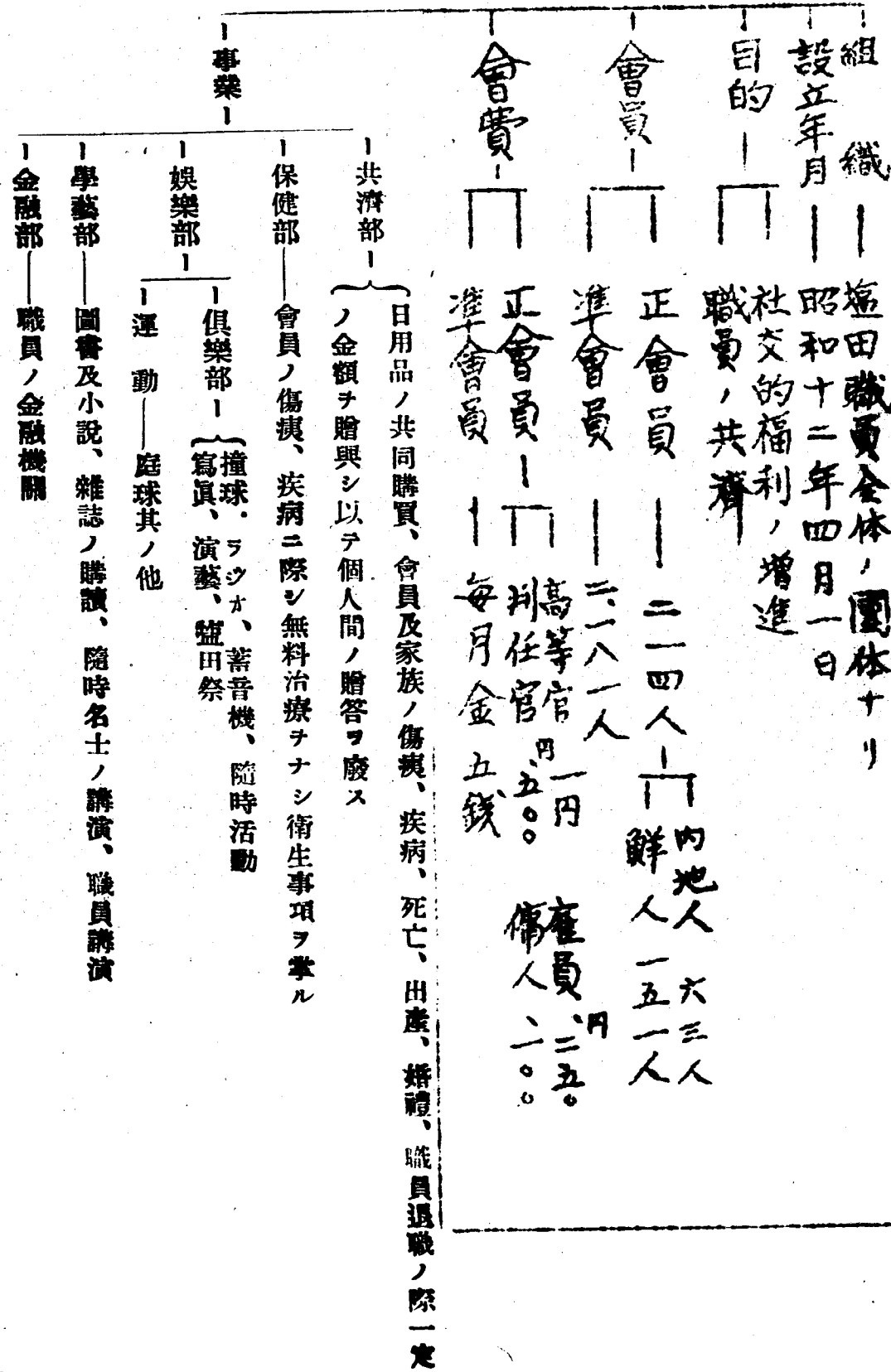
七、從業員ノ獎勵及保護



八、職員ノ私的團體

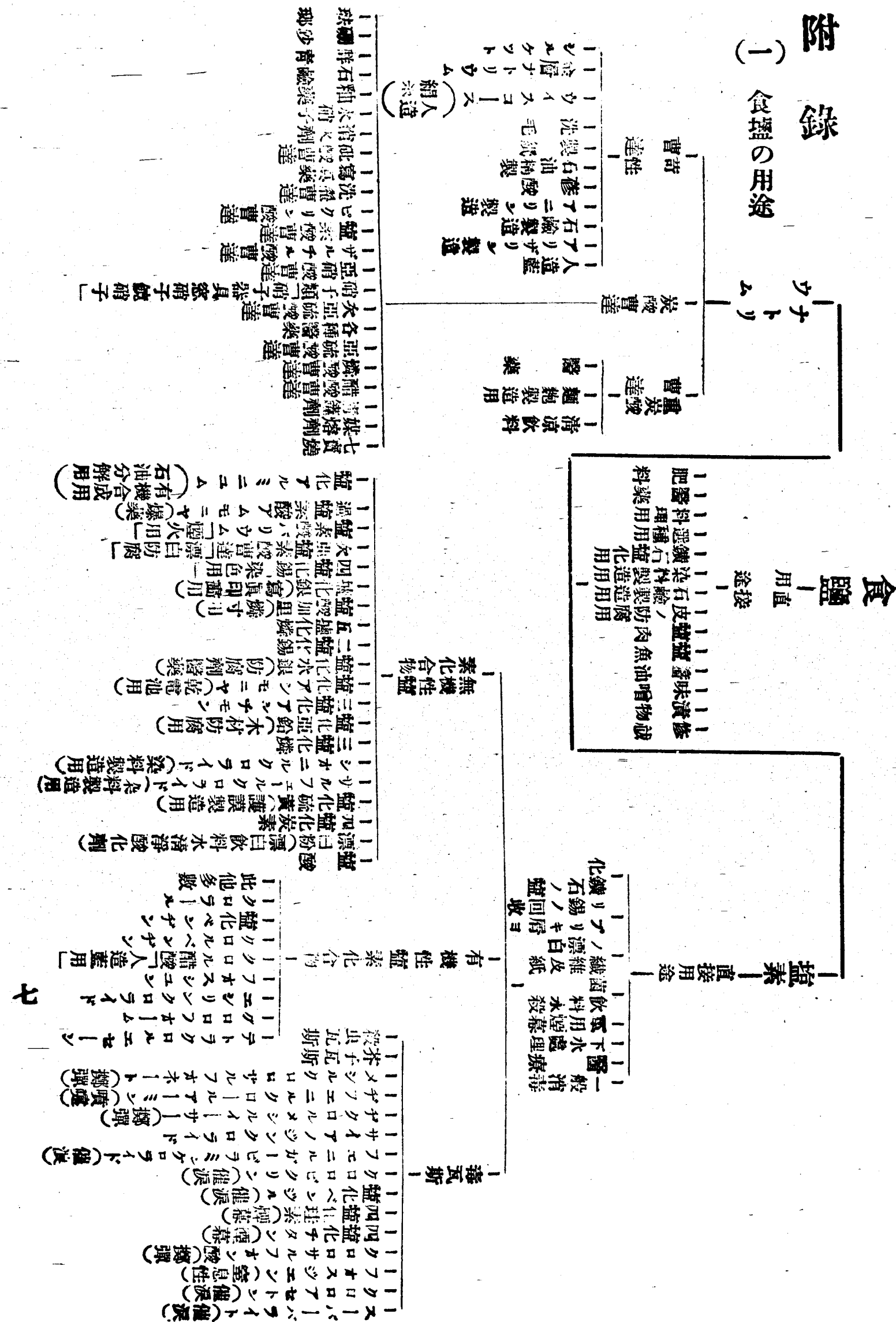
六

塩田協會



附 録

(一) 食鹽の用途

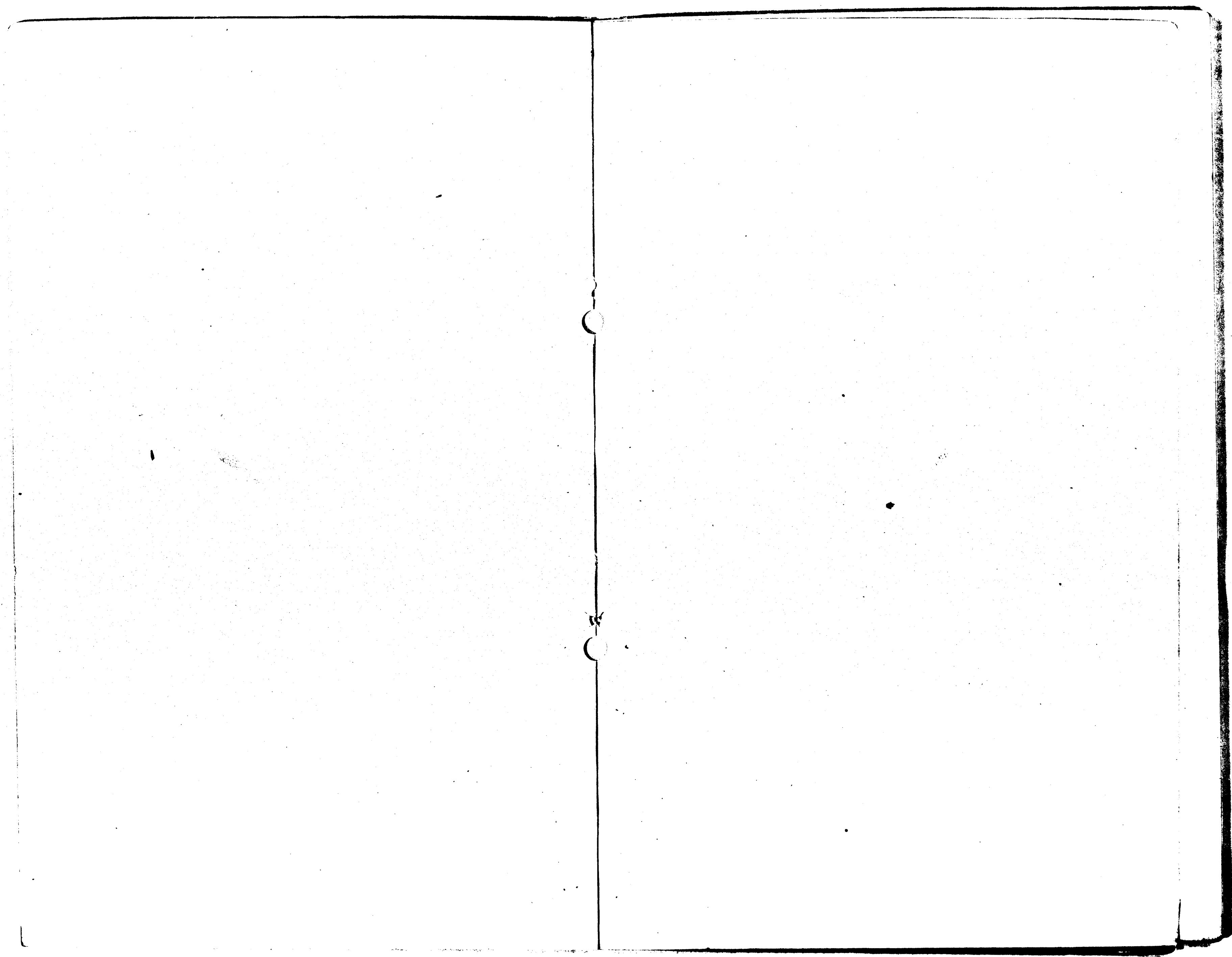


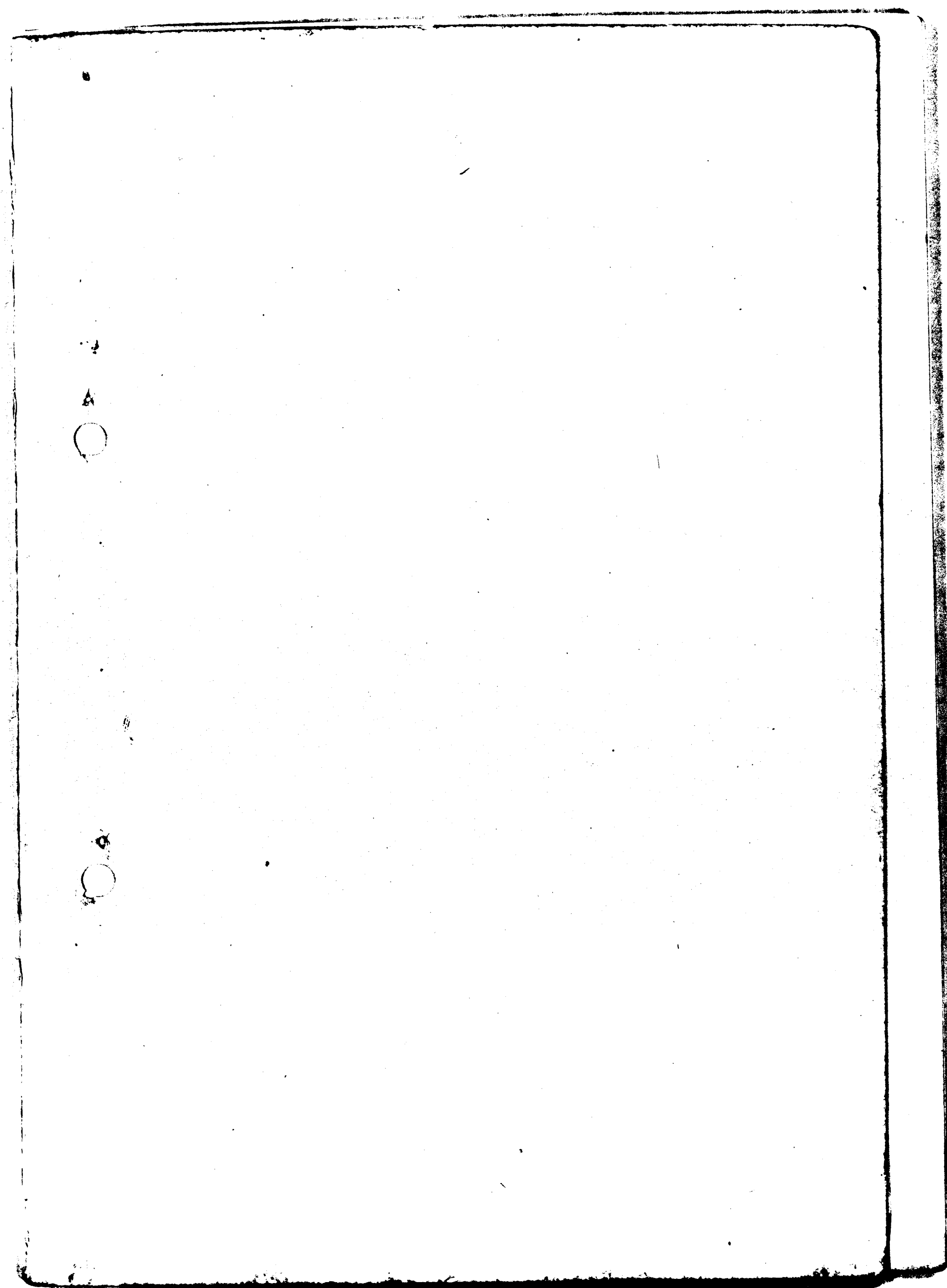
昭和八年七月二十日印刷
昭和八年七月廿三日發行

朝鮮總督府專賣局廣梁灣出張所

鎮南浦府龍井町十二番地

印刷所 鮮明印刷社





昭和十七年七月一日現在、廣梁湾出張所管内之職員配置

一、廣梁湾出張所直轄

所長 技手 四級 國見正隆

廣務主任 厚月 七日 宮崎定尾

全係 〃 月大。 黒岩 力

全 〃 〃 七級 結城剛一

土木主任 技手 三級 草野 弘

事業主任 技手 七級 渡辺 譲

塩田監督 技手 七級 小川 永助

全 技手 月大。 京増慶次郎

一、徳洞派出所

所長 技手 七。 川 池國嘉

一、歴代廣梁湾出張所所長

年代 期 向 氏 名

自昭和了、 技師 山岸 隆造

自昭和七年 七年 技師 長田吉之助

昭和十四年 三年 技師 鈴木 雄

十七年 一年 技手 國見正隆

[illegible]

六五 七号	七	八	九	七五 一号	二	八五 一号	二	三	四
崔大長	"	"	"	心得	塩美長	"	心得	"	"
李用高	趙鍾錫	小田正	咸正道	林承連	羅旭録	日河野雄作	宇昌愛	林正烈	李尚路
八五 五号	" 六	復明 一五一号	二三	四五	六七	八九	〇三三	復明 二五	二
心得	"	塩美長	"	"	"	"	"	心得	塩美長
韓炳敦	姜承燮	山口安朋	金景淳	福島聖作	趙仁璣	李恩根	崔德龍	韓鏞臣	美字英

昭昭
和和
十七
九年

内勤者時		外勤者時		合計	
自十二月一日 至三月二十日	八、 一、〇	自三月一日 至三月十五日	八、 五、〇	自八月十六日 至九月五日	七、 六、三
自三月二十一日 至四月三十日	九、 四、〇	自三月十六日 至三月二十日	八、 六、〇	九月六日 九月十五日	七、 六、三
自五月一日 至七月二十日	八、 四、〇	自三月三十一日 至四月十日	八、 六、〇	九月十六日 十月五日	七、 六、〇
自七月三十一日 至八月三十日	八、 一、〇	自四月十一日 至四月三十日	七、 六、〇	十月六日 十月十日	八、 五、三
自九月一日 至九月三十日	八、 四、〇	自五月一日 至五月三十日	七、 六、〇		
自十月一日 至十月三十一日	九、 四、〇	自五月三十一日 至六月五日	七、 六、三		
		六月六日 六月十五日	七、 七、〇		
		六月十六日 七月十日	七、 七、三		

(5)

昭和八年、十年、十五年度の

製塩優良塩田表彰記念写真

(6)

廣梁灣、第四五區塩田及徳利派出水所、塩田従業員
の写真

製塩官署、広梁湾出張所、管内、第四五区塩田従業員、記念写真。撮影 昭和八年 塩田面積 145町歩。



塩田監督 野本
第五区、第四区塩田長
第五区、第三区塩田長 末増 次郎
塩田監督見習
塩田監督、枝平、石川 武吉
事務員 朴 亨斗
第四区塩田長
第六区塩田長 幸川 為吉
第七区塩田長

製塩官署の行事、昭和八年度、製塩優良塩田、表彰記念写真、塩田名、廣梁湾出張所、第六区塩田、撮影、昭和八年10月



四五区監督
枝平、石川 武吉
事務主任
枝平、柳田 萬吉
技師 英田 吉之助氏
大正監督
枝平、田中 嘉治氏
塩田監督見習
佐藤 前 貞精

13.

製塩官署專賣局廣梁灣出張所 徳洞派出所
所在地、朝鮮平安南道龍岡郡大代面、撮影、昭和十五年。



石川

後列
小便 金 元 變
前列

事務手 白川 基 雄
塩 大 長 小 田 正
所長 技手 石川 武 吉
塩 大 長 山 口 安 明

21.

天日塩田より消費都市に回送する天日塩野橋風景

昭和8年 平安南道 鉄南浦港。



No. 3

鎮 埠 浦南鎮
50. PORT OF CHINNANPO.

鎮 埠 浦南鎮

(5)

昭和十六年度、

專賣局全管内 製塩所長會議之事録

昭和十六年五月

5 制衣塩官署長打合會參考資料

專賣局塩務課

(廣梁海) 76

目次

- 一 常備塩夫制度運用ニ關スル件
- 二 製塩従事員、皇國臣民訓練
- 三 指示注意事項
- 結晶池改良ニ關スル件
- 塩田石膏ニ關スル件
- 速時採鹹ニ關スル件
- 本年度採塩方針ニ關スル件

3. 常備塩夫制度運用ニ關スル件

一、常備塩夫ト臨時塩夫トノ名稱區分

(1) 常備塩夫

(2) 臨時塩夫

二、常備塩夫ノ取扱

(1) 常備塩夫ノ範圍

(1) 常備塩夫十町步ニ付定員 流下式 汲上式 七名 大名

(2) 專屬塩夫各監督區ニ一名、割

(3) 製塩器具修理大工

(4) 揚水運轉夫(君子塩田)

(4) 十町步當職別定員並日給額(標準)

職區分	定員	日給額	流下式	汲上式	摘要
把頭	一人	一、二〇〇	一人	一、二〇〇	把頭ノ名稱ヲ改メタル

職區分	定員	日給額	流下式	汲上式	摘要
副把頭	一人	一、四〇〇	一人	一、四〇〇	把頭ノ名稱ヲ改メタル
塩夫	一人	一、九八〇	一人	一、九八〇	
全	一人	一、九八〇	一人	一、九八〇	
全	一人	一、九八〇	一人	一、九八〇	
全	一人	一、九八〇	一人	一、九八〇	
計	六	六、八八〇	七	六、八八〇	
平均	一	九八〇	一	九八〇	

(1) 昇給内規(昇給年限及昇給額)

別表參考

(2) 採用、解僱並轉勤ノ手續

(1) 採用解僱並轉勤ハ製塩官署長之ヲ專行ス

(2) 製塩官署長、職別年齢、体格、教育、製塩技術、程度
其、他、サ、参酌シテ、給料ヲ定メラルモ、トス

(3) 採用方針

昭和十三年二月常備塩夫處遇ニ關スル件 通牒ニ基キ、常備塩夫トシテ登録セルモノヲ優先採用シ不足ノ分ニ對シテハ左記考慮ノ上採用スルコト

A、満十五才以上ニシテ、成ルベク初等教育ヲ修了シタルモノ

B、ナルベク塩田作業ニ経験アルモノ

C、常備塩夫トシテ永續性アルモノ

D、身體强健、身元確實、素行善良ナルモノ

(4) 解傭手續

(5) 轉勤手續

ハ、他、製塩官署へ轉勤場合

A、官、都合ニ依ル場合

B、自己、都合ニ依ル場合

他、製塩官署へ、轉勤ハ認メザルモノトス

但シ官、都合ニ依リ勤務換ヘサ必要トスル場合ハ引継手續ニ依ル

(新子、又ハスルコト)

(二) 管内ニ於ケル勤務換場合

A、官、都合ニ依ル場合

B、自己、都合ニ依ル場合

管内ニ於ケル勤務換ハ出張所長專行ス

(ホ) 名簿、整理實行方法

塩夫名簿、整理方法ハ昭和十三年二月常備塩夫處遇ニ關スル件 通牒ニ基キ處理スルコト

塩夫名簿、外ニ履歴書、戸籍謄本ヲ備付クルコト

(ハ) 冬季間ニ於ケル公休制度

冬季作業開散期ニ於ケル日曜日祭日ハ公休セシメ給料ヲ支給セザルコトニ致シ度シ

三、冬季ニ於ケル作業種類作業計画住居等

貯水池提防修理結晶池改良準備工事、遑時採鹹準備工事、苔取り作業、冬季採鹹作業、塩田整地作業、害虫駆除海水取入作業、堤防工事等、各所共通ノ作業、外各出張所ニ於テ特殊作業ニ付研究之ヲ實施計畫書ヲ八月末日迄ニ提出コト

六、製塩従業員、皇國臣民訓練

別紙實賤方策概要ニ對スル意見

常備塩夫日給額及増給標準

第一條 常備塩夫、日給額ハ別表第一號表ニ依リ之ヲ定ムベシ

第二條 増給ハ一回付日給額表一階級トシ毎年六月、九月、十二月及三月ニ於テ其、経過期間中、成績ニ依リ各月十六日附キ以テ之ヲ行フベシ但シ特殊、技能ヲ有スル者ニ對シテハ一回付二階級以上、増給ヲ為スコトヲ得

前項但書、場合勤務塩田名職名氏名其、事由及増給前後日給額ヲ直ニ報告スベシ

第三條 増給経過期間、調査ハ第二號表ニ依リ前回増給シタル月、初日採用後初回、増給ニ在リテハ採用日ヨリ起算シ増給ヲ為スベシ月、前末日現在ニ付之ヲ行フベシ

第四條 増給経過期間中一月平均(経過期間一年以上、モハ最近、一年)欠勤日数三日(遲參早退及外出通シ三四サ欠勤一日ニ換算ス)

以上ノ者又ハ譴責減給、處分ヲ為シタル者ニ對シテハ経過期間中、三月以上延長スベシ

第五條 勤務成績ハ在籍人員ニ對シ甲、六割以內乙、三割七分以上丙、三分以內(特ニ成績不良者)、標準ニ依リ査定スベシ

前項、勤務成績區分ハ第三條、経過期間ニ於ケル平均成績依ルベシ

第六條 製造塩官署長ニ於テ技術拔群成績優秀其他特ニ要アリト認めタル者ニ對シテハ経過期間ニ拘ラズ増給セシムコトヲ得

第七條 定期増給ヲ施行シタルトキハ別紙様式ニ依リ各月末限リ報告スベシ

單位錢

備考
但し當分一月十錢以下ノ日給額ハ本表ニ係ラズ製塩官署長

日給額九十二錢以下"一階級 二錢、差、

全
一兩十錢以下
一階級
三錢
差

全
一兩三十錢以下八一階級四錢八差

全
一月三十錢以上
一階級
五錢差

トス

常備鹽夫增給經過期間標準

日給額	勤務成績		
	甲	乙	丙
六十錢以内	六ヶ月以上	六ヶ月以上	九ヶ月以上
六十錢以内	六ヶ月以上	九ヶ月	一年
一円 以内	九ヶ月	一年	一年三ヶ月
一円十錢以内	一年	一年三ヶ月	一年六ヶ月
一円三十錢以内	一年三ヶ月	一年六ヶ月	一年九ヶ月
一円五十錢以内	一年六ヶ月	一年九ヶ月	二年
二円 以内	一年九ヶ月	二年	二年三ヶ月
二円以上	特別詮議		

常備
益夫增給報告

第

期合

粘和

年

५

日提出

鹽田別

人在

籍員

增給經過期間
二、達之多人員

人

金結

在籍人員對
增給人員步合

備

考

[illegible]

備考 一、在籍人員、増給期前月末日現在ニ依ルコト

二、第六條に依り特別増給シタル者アルトキハ個人別ニ現給額増給額

及事由ヲ附記シタル調書ヲ作成添付スルコト

製塩従業員ノ皇國臣民訓練實踐方策概要

實踐事項

方策ノ概要

防共防護
防空防火
防犯

- (1) 映画依リ防共防護及時局認識ヲ深メルコト
- (2) 出張所聯盟ノ下ニ監督區單位ノ塩田聯盟ヲ組織シ聯盟下部組織トシテ作業区單位ノ愛國班ヲ設ケ月一回常會ヲ開クコト
- (3) 常會ニハ塩田監督臨席シテ防共防護時局認識等ニ関スル講話ヲナスコト
- (4) 塩田ニハ防火防犯ノ夜放言ヲ常置シ時ニ犯則テ塩田難ヲ多ク製塩作業中ノ諸難巡查ヲ置クコト
- (5) 塩夫舍温火替ノ際時ニ防火施設ヲ注意スルコト
- (6) 塩田内ノ塩夫舍ニ防共防護防空防火防犯ニ関スル適當ナル標語板ヲ掛ケルコト

5)

物資配給
ハ協力

朝宮城建設
拜

- (7) 官設塩夫部落ノ適當ナル箇所ニ右ノ目標標語板ヲ掲ゲルコト
- (8) 各塩田作業区毎ニ配置シタル夜放言ハ天候異変ノ兆ナル場合ニ放言報スルノミヲ目的トナシ居ルガシテ防火放言或ニ衣服セシマルコト
- (9) 各製塩塩田官署ニ既置シタル監視ノ夜間塩田巡回ヲ積極化シ塩田内ノ盜難防止及塩夫舍内暗傳ノ絶滅ヲ期スルコト
- (1) 各塩田既設ノ塩田協會ヨリ物資配給機構ノ内容ヲ充實強化スルコト
- (2) 製塩従業員ノ必要物資ハ成ルベク塩田協會ニ於テ取纏メ配給ヲ受ケルハ配給ノ適正ヲ期スルコト
- (1) 製塩従業員ハ毎朝作業開始前ニ各號毎ニ號長

神宮参拜

(事業主又ハ塩夫受) 指揮ニ依、京城遷移ヲ為サシム

(1) 優良監督塩夫長並ニ塩夫、朝鮮神宮参拜ヲ繼續スルト共ニ敬神崇祖、日即場ヲ期スル為扶餘神宮、御造営勤勞奉仕ヲ行フコト

(2) 從來優良塩田従業員、朝鮮神宮参拜ハ鹽長事業主又ハ塩夫長)ノミニ限ラレ居ルモ之ヲ塩夫其他傭人ニ迄及ブ称範圍ヲ擴ゲルコト

(3) 塩田神社鎮座所在地、各塩田ハ毎日、愛國日ニ各號年ニ輪當キ定メ塩夫代表参拜ヲ為スコト

正午黙禱

(1) 各別長塩官署ハ適當ナル合圖ノ方法ヲ講ジ午報ト同時ニ制本塩従業員ニ対シ一齊ニ黙禱ヲ為サシムルコト

國旗掲揚

(1) 各塩田内ニ所在、塩夫舎ニハ國旗ヲ備付テ祝祭日及

皇國臣民
誓詞
朗誦

愛國日等ニハ必ズ掲揚セシムルコト
(2) 官設塩夫部落ニ対シテハ國旗掲揚日ニ必ズ掲揚、有無ナ點檢ニ掲揚セザル者ニハ掲揚スル程別助督勵ヲスルコト

國語講習

(1) 別長塩従業員ニモ皇國臣民ノ誓詞ヲ印刷シタルモノヲ配布シ毎月愛國日ノ作業開始前又ハ廉アル集會ノ際各號年ニ號長ノ指揮ニ依リ齊唱セシムルコト
塩夫長登用試験ニ國語ヲ料スルト共ニ各期適當ノ日選ビ各出張所ニ於テ塩夫長、塩夫ニ國語ヲ教習セシムルコト
(2) 別長塩従業員中、鮮人ニ対シ製塩作業休止期中ニ國語ノ講習會ヲ催スコト
又ニ鹽製塩作業ノ實際ハ當初支那人ヨリ指導ヲ受

内鮮同習
融合

ケタル関係上の音節、果名等ハ製塩器具中ニハ未ダ支那
式名稱ヲ用ヒルモノアルカシ、適宜ナル名稱ニ改ムルコト

- (1) 塩夫、直接指導サ、自タル鮮人隊長(鹽業主)ニ内地見
學ノ機會ヲ與ヘ、内地風習ヲ知ラシムルコト
- (2) 塩夫會、共同炊事ニハ内地食料朝鮮人長所ヲ採リテ調
理スル様指導スルコト

無為徒食排
擊

- (1) 官設塩夫部落ノ家族ニ対シ繩以、製作スル農
耕等ノ副業ニ指導ヲ大勵スルコト

健全娛
樂、將大
勵

- (1) 製塩官署ニ適當な數ノ畜畜機ヲ備付ケ塩田内
ノ塩夫會ニ順次廻スルコト
- (2) 塩田改遣ノ活動寫眞映寫田數ヲ増スルコト
- (3) 塩夫が作業中ニモ唄フコトノ出來ル様ニ適當ナル歌
ノ作詞作曲ヲ募集シ普及スルコト

(三)

國民体位
向上

- (1) 製塩従業員ノ家族ニ対シ局ノ医療機關ヲ利用シ
塩田協會等ニテ藥品材料ヲ購入シ置キ醫費
ニテ診療スルコト

衛生思想
普及

- (1) 設置セル洗足箱デ仕事終了後必ず洗足ヲナシ足部
疾患ヲ防止スルコト
- (2) 便所清潔ヲ行ヒ便所デ必ず用足セシムルコト
- (3) 外堤ニ植エタル「ゲンシー」ヲウコレヲ夏季ニ塩水ニ飲用セシ
メ傳染病防止ヲ計ルコト
- (4) 塩田内塩夫會及官設塩夫部落ニ対シ日ヲ定メ
清潔検査ヲ施行スルコト
- (5) 官設塩夫部落ニ対シ寢室ニ便壺ヲ設置シ加ヤ非
衛生的ナル風習ヲ改ムルコト

科學精神
日印場

- (1) 冬期現業閑散ナリ適當ノ日時ヲ選ビ各出張

團體訓練
徹底

資源
活用

貯蓄
行國債
應分

未墾地
活用

所ニ於テ講習會ヲ開クコト

(2) 書籍雜誌購入ノ上供覧スル共ニ製塩技術指導者
ヲ出來ル大他制塩所、工場等ヲ見學セシメ漸次科
學精神ノ昂揚ニ努ムルコト

(3) 製塩従業員ニ工場見學等ノ機會ヲ與フルコト

(4) 塩田活動寫真班收造ノ際科學ニ関スル映画ヲ
モ携行映寫スルコト

(1) 愛國日ニ各區毎ニ塩夫長、塩夫ヲ集メ國旗掲揚
ヲ行ヒ敬神、宗祖ノ昂揚ヲ計ルト共ニ團體訓練ヲ
行フコト尚構給日ニ各担当區單位ニ團體訓練ヲ行フコト

(2) 製塩従業員ニ對シ製塩作業休止期中ニ軍
隊出身者等ヲ歸シテ軍隊式ノ團體訓練ヲ爲ス
コト

(四)

(1) 製塩器具ノ取扱ヲ鄭重ニ仕事修了後ハ所定
ノ場所ニ必ズ整理スルコト

(2) 破損セルレール、釘、ハ等ヲ蒐集シ活用スルコト

(3) 各家庭及工場内、工場等ニ右項ヲ利用シ古金物入
レヲ設ケ金屑、古釘、古ペン先等ノ回收ヲ勵行セ
シムルコト

(1) 塩夫ニ常備制度ノ確立ヲ機ニ小額ニテモ可ナル
故天引貯金ヲ爲サシムルコト

(1) 速時採鹹法ヲ採大勵スルコト

(2) 冬季採鹹及塩田キ入ヲ行フコト

(1) 塩田附屬地ノ塩田協會が借受ケ塩夫ノ家族
等ニ農耕セシメツ、アルカ一面塩夫ノ離散防止ト
モナルニ付之ヲ擴充スルニレ

(2) 塩夫、燃料確保対策として、塩田協會に於て、塩田
附近土地の買収と造林とがなされてゐる。

指示事項

結晶池改良工事ニ關スル件

(1) 結晶池改良班制ニ付イテ

前年度技術員會議ニ於テ決定、通り實施スルコト

(2) 本年度、結晶池改良工事ハ左記、通り實行スル見込ニ付

遺憾ナキナ期スルコト

記

所別	塩田別	面積	改良スベキ面積	摘要
朱子安	三四區	二五	三七五〇坪	所要タイルハ別表、通り納入サル見込
計		二五	三七五〇	
廣深灣	四區大勝 六區三勝 八區四勝 八區五勝	二〇 一八 一三 一三	三、〇〇〇 二、七〇〇 二、〇〇〇 一、九五四	所要タイルハ前年度中ニ納入済ミナリ
全		六四	九、六七四	
計		六四	九、六七四	

所別	塩田別	面積	改良スベキ面積	摘要
貴城	三區七八勝 三區一四勝 三區一七勝 三區一九勝	大	九、〇〇〇	所要タイル九、〇〇〇枚ノ中ニ三、三九二枚ハ前年度納入済ニシテ不足分ハ別表、通り納入サル見込
計		大	九、〇〇〇	
南市	一區一勝	三	四、五〇〇	所要タイル四、五〇〇枚ノ中ニ三、九〇八枚ハ前年度納入済ニシテ不足分ハ別表、通り納入サル見込
計		三	四、五〇〇	
合計		一七九	二六、九二四	

(3) 結晶池改良準備工事

前年決定セル方針ニ基キ來年度改良スベキ左記塩田ニ對準
備サナス見込ナルニ付之ガ實施計畫書ハ各出張所ニ於テ調
査、上實施計畫書ヲ六月末日迄ニ提出スルコト

記

所別	鹽田別	在備工事施行予定	未年度改良豫定	摘要
朱安	君子	二町	五町	未年度改良面積中二町五町 三十五坪八昭和十五年度に於て準備済トス
廣梁湾	直轄鹽田	大町	大町	
貴城	三區	大町	八町	
南市	一區	三町	三町	
計		一七五	二二	

注意

附屬材料費ニ對シテハ實施額ニ付豫算増配サルベキモ準備土工費ニ對シテハ本年度ヨリ冬季塩夫繼續使役スルコトナル為ニ冬
活用ニ付考慮スルコト

本年度改良豫定ニ對スルノ納入豫定

納入所別	五月分	六月分	七月分	八月分	小計
君子	一〇〇、〇〇〇枚	一〇〇、〇〇〇枚	一〇〇、〇〇〇枚	七五、〇〇〇枚	三七五、〇〇〇枚
南市	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	八二、〇九二	三八二、〇九二
貴城	一七八、〇〇〇	一五一、〇〇〇	一七八、〇〇〇	一六〇、〇八〇	六六七、〇八〇
計	三七八、〇〇〇	三五一、〇〇〇	三七八、〇〇〇	三一七、一七二	一四二四、一七二

來年度改良豫定ニ對スルノ納入豫定

納入所別	八月分	九月分	十月分	十一月分	十二月分	十七年十一月分	計
廣梁湾	枚	枚	三七八、〇〇〇枚	枚	枚	三七八、〇〇〇枚	
貴城	一五九、九二〇			三二四、〇〇〇	二四二、〇〇〇	一九三、〇〇〇	七六四、九二〇
君子		二〇〇、〇〇〇					二〇〇、〇〇〇
南市	一七、九〇八	二五五、〇〇〇					二七二、九〇八
計	三三八、八二八	四〇五、〇〇〇	三七八、〇〇〇	三二四、〇〇〇	二四二、〇〇〇	一九三、〇〇〇	一五七五、八二八

塩田石膏＝開スル件

昭和十六年度ニ於テ塩田石膏採收豫定ハ前二ケ年ノ採
收実績ヲ参考トシ一應別紙ノ通りニシテ之ガ採收費採收面ノ廣
理採收方法等ニ付テハ取敢ズ前年通りトシ詳細ニ互チテ本
局ニ於テ決定シ上通牒ス

速時採收ニ關スル件

決定セル方針ニ基キ漸次擴大主義ヲ採リ實施ニ萬全ヲ期ス
追テ本年度ヨリ冬季塩夫ヲ繼續スルストナル為ニ題記準備
工事ハ之ガ活用ニ依リ施行スルストナ考慮スルフト

昭和十六年度塩田石膏採收豫定量

塩田別	面積	採收予定高	石膏採收予定量	一町歩當	摘要
朱安	二、九〇	一七、一八七	一、二	二、六	九、九
南洞	三、〇〇	二八、四八五	一、三	三、七	一、二、三
君子	六、三	五二、七〇四	一、三	六、八	一、一、四
蘇萊	五、四九	四三、三六六	一、二	五、二	九、九
計	一、六六一	一四一、七四二	一、七	一、七、八一	一、〇、七
廣深灣	七、七	六六、一三八	九	五、九	七、七
徳洞	二、二三	二、三、三、六	五	一、二	四、六
計	九、九三	八六、四四四	一、五	六、九	七、〇
貴城	一、五三五	八六、三四九	一、五	一、二、九	八、四
南市	四、八三	二九、二八三	九	二、六	五、五
海南	三、〇三	六、六八	一、〇	七	〇、二
合計	四、九七五	三四、四八六	四、〇	四、四	八、一

事鹽第九號

昭和十六年二月十九日

事鹽局長 蔭 課 長

各製鹽官署長 殿

昭和十六年度採鹽豫定數量ノ件

昭和十六年度ノ採鹽豫定量ハ過去ノ實踐ヨリ算定シ別紙ノ通り決定ス
前年度内外地ニ於ケル鹽ノ需給ハ歐洲戰亂ノ激化ニ伴ヒ第三國鹽ノ輸
入困難ニ陥リ未曾有ノ窮迫狀態ニ直面シタルヲ以テ各產鹽地ニ於テハ
之ガ對應策打開ノ爲全能力ヲ發揮シテ増產ニ努メタル次第ナルガ朝鮮
ニ於テハ七月初旬以來天候不良ニ禍サレテ成績舉ガラズ剩ヘ朱安鹽田
ノ如キハ再度ニ互リテ鹽田内部ニ浸水シ多數產鹽ノ流失ヲ見ル等之ガ
爲豫想量ノ一割以上ヲ減產シ關東州青島方面ノ内地向ケ工業鹽ヲ以テ
此ノ不足ヲ補充スルノ外途ナキ狀勢ニ立到レル一方國際情勢ハ日ト共
ニ緊迫ノ度ヲ加ヘ今後第三國鹽ノ輸入ハ絕對不可能ノ見込ナルガ故ニ

本年度ノ鹽需給關係ハ一層窮迫狀態ニ達スベク豫想セラルルヲ以テ
製鹽官署ニ於テハ別紙採鹽方針ヲ參考トシ全員總力ヲ發揮シ萬難ヲ排
シテ收量ノ確保ニ努メ此ノ難局打開ノ重大使命完遂上萬遺憾ナキヲ期
セラレ度

追テ右ニ對スル採鹽方針並ニ各區別月別採鹽實行計畫ヲ樹テ報告相成
度

昭和十六年度採鹽實行方針

本年度ノ採鹽ハ特ニ國際情勢ノ緊迫化ニ伴ヒ帝國版圖内ニ於ケル鹽不足ノ情勢ニ鑑ミ左記事項留意ノ上收量ノ確保ヲ期セラレ度

記

一、昭和十六年度ヨリ多年ノ要望タル常備鹽夫ノ年間就役制ノ確立セラレタル機トシ之ヲ活用シテ鹽夫ノ募集安定ヲ圖リ製鹽勞力ノ確保ニ努ムルコト

二、鹽夫ハ常備制度ノ確立實施並ニ現業員共済組合加入ニ因リテ生活ノ安定ヲ得安ンジテ製鹽作業ニ從事シ得ルコトトナリタルヲ以テ從來ノ蔽風ヲ一掃シ全員總力ヲ發揮シテ能率ノ増進ニ努ムルコト

三、從業員ノ訓育ヲ怠ラズ一層時局ノ重大性ヲ認識セシメテ職域奉公總力發揮ノ實踐ニ努ムルコト

四、特ニ言行ヲ慎ミ從業員ノ思想ヲ善導シ流言蜚語ヲ取締リ防共、防諜上

遺憾ナキヲ期スルコト

五、鹽夫ノ足部疾患並ニ夏期最モ罹患者多キ下痢症ノ豫防治療ニ注意シ能率ノ低減ヲ防グコト

六、常備鹽夫ノ冬期作業就役ニ付萬全ヲ期スルコト

七、前項ニ依リ製鹽期間ヲ延長シ採鹽ノ増加ヲ圖ルコト

八、冬期ノ採鹽冬期ノ鹽田手入ニ依リテ次年度ノ製鹽ヲ有利ナラシムルコト

九、製鹽期間ハ特ニ鹽増産ニ利果アル鹽田手入ヲ實施スルコト

十、別記昭和十四、十五年度採鹽實行方針參考實施ノコト

昭和十五年度採鹽實行方針（別記其ノ一）

- 一、事情ノ許ス限リ速時採鹹法ヲ實施シ増産ヲ圖ルコト
- 二、春季準備作業ヲ可及的早日ニ開始シ早期採鹹採鹽作業ニ着手スルコト
- 三、常備鹽夫制度ノ運用ニ萬遺憾ナキヲ期スルコト
- 四、常備鹽夫ハ「現業員共済組合」ニ加入實現ニ向ヒツツアリ「註十六年度ヨリ實施」
- 五、最盛期ハ特別作業制ヲ設ケテ「鹽夫使役時間ノ延長、従業員ノ志氣鼓吹、増産適切ノ鹽田手入等」増産作業上萬全ヲ期スルコト
- 六、事情ノ許ス限リ鹽田手入班ヲ設ケ製鹽々夫ノ手不足ヲ緩和スルト同時ニ鹽増産ニ効果アル手入ヲ爲サシムルコト
- 七、採鹽成績優秀ナル監督員、擔當員、ニ對シテハ製鹽作業終了後朝鮮神宮參拜ヲ爲サシムル豫定ニ付年度初頭之ヲ聲明シ鹽増産督勵ヲナスコト

注意

採鹽報告ノ正鵠ヲ期スルコト

昭和十四年度採鹽實行方針（別記其ノ二）

一、最盛期ニ結晶池地盤ノ弛マザル様春季準備作業ニ於テ結晶池地盤邊ヲハ特ニ入念ニ施行スルコト

二、本年度最低標準鹽並一等鹽採收歩合ハ前年通トス（増産ヲ圖ル爲メ）

三、二年ニ比シ色相並一等鹽採收歩合ヲ低下セリ

四、一等鹽ノ豫定數最採收以後ノ採鹽ニ對シテハ一等鹽ノ採收率ハ低下スルモ差支ナシ

但シ天候其ノ他ノ關係上豫定總量ノ採收困難ノ場合ハ一、二等ノ歩合如何ニ不拘萬難ヲ排シテ豫定總量ノ採收ニ努ムルコト

五、鹽夫ノ餘暇利用鹽田手入並鹽田修繕工事ハ可成鹽増産ニ効果的ノモノヲ施行スルコト

六、鹽業現業傭人加給金支給内規第十條第一項鹽生産ノ多寡ニ依ル増減率ノ擴大ニ依リ鹽増産奮勵ヲナスコト

注意 鹽ノ搬出ハ從來通古鹽拂出法ヲ勵行スルコト

備考

一、昭和十六年度各所既設塩田二四七町歩、
中精製塩製造用塩田三町歩ヲ除ク二四七一
町歩ノ採塩豫定高ハ昭和七年ヨリ全十五
年ニ至ル九ヶ年中間平均年作六ヶ年間採
塩實蹟ヲ根基トシ二億九百七十八萬一千
ト定メタリ
二、新設塩田二五〇四町歩、採塩豫定高ハ一
億三千四百七十萬五千瓩ト定メ之カ内譯
根基トシ如シ
一、蘇萊第一、二、三區塩田五四九町歩、一町
歩當豫定高ハ隣接君子塩田、結晶
池ヲ改良セサル場合、平均生産高（
最近平年作六ヶ年間、採塩實蹟）
ノ割トス

2. 貴城第一區塩田三四七町歩、一町歩當
採塩豫定高ハ隣接第二區塩田、結晶
池改良セサル場合、平均生産高、四
割二分トス
3. 貴城第三、四區塩田一〇三九町歩、一町歩
當採塩豫定高ハ隣接第二區塩田、結
晶池改良セサル場合、平均生産高、
十割トス
4. 南市第二區塩田二六六町歩、一町歩
當採塩豫定高ハ隣接第一區塩田、結
晶池改良セサル場合、平均生産高、
十割トス
5. 海南塩田三〇三町歩、一町歩當採塩
豫定高ハ全塩田第一年目、生産豫
定高、一割トス

昭和十六年度採塩豫定高表

所別	塩田別	區分	面積	採塩高	一等塩	二等塩	豫定高
朱安	朱安	既設	二〇九町	八二三四	一七、一八七、〇〇〇		一七、一八七、〇〇〇
		南洞	三〇〇	九四九五〇	二、四八五、〇〇〇		二、四八五、〇〇〇
		君子	六〇三	八七、四〇三	四、三三〇、〇〇〇	七、三三〇、〇〇〇	五、二六〇、〇〇〇
		計	一一一二	八八、四六八	九一、〇六六、〇〇〇	七、三三〇、〇〇〇	九八、三九六、〇〇〇
廣梁灣	廣梁灣	既設	五四九	七八九一	二、三五五、〇〇〇	一九五、一五〇、〇〇〇	四、三三〇、〇〇〇
		小計	五四九	七八九一	二、三五五、〇〇〇	一九五、一五〇、〇〇〇	四、三三〇、〇〇〇
		廣梁灣	一六六一	八五、三三五	二、四八五、〇〇〇	二、六八五、〇〇〇	一、四一七、四二〇、〇〇〇
		計	七七〇	八五、八九四	五、〇二〇、〇〇〇	一、五九三、〇〇〇	六、六一三八、〇〇〇
貴城	貴城	既設	二二三	九一、〇五八	二、四〇八、〇〇〇	七、八九八、〇〇〇	二、〇三六、〇〇〇
		小計	九九三	八七、五三	六、六六三、〇〇〇	二、三八三、〇〇〇	八、六八八、〇〇〇
		二區	一四九	七六、九四	一、一三八、〇〇〇		一、一三八、〇〇〇
		計	三四七	二六、五九一	五、七五五、〇〇〇	四、一五二、〇〇〇	九、九二七、〇〇〇

所別	塩田別	區分	面積	採塩高	一等塩	二等塩	計
貴城	貴城	新設	一〇、三九町	六三、三五五	三、六一八、〇〇〇	二、九六〇、〇〇〇	六、五七八、〇〇〇
		小計	一三八六	五四、一二〇	四、一五六、〇〇〇	三、三七五、〇〇〇	七、五〇一、〇〇〇
		一區	二一七	六二、七九	八、九三七、〇〇〇	四、六六六、〇〇〇	一三、六三三、〇〇〇
		計	一五三五	五六、二五三	五、二五四、〇〇〇	三、三七五、〇〇〇	八、六三九、〇〇〇
南市	南市	既設	二六六	五八、七二	八、六三三、〇〇〇	七、四四六、〇〇〇	一五、六六六、〇〇〇
		小計	四八三	六〇、六二七	一、五五〇、〇〇〇	一、一七三、〇〇〇	二、九二八、〇〇〇
		新設	三〇三	二二、〇五	三、六七〇、〇〇〇	三、〇一〇、〇〇〇	六、六八〇、〇〇〇
		計	三〇三	二二、〇五	三、六七〇、〇〇〇	三、〇一〇、〇〇〇	六、六八〇、〇〇〇
海南	海南	新設	二四、七一	八四、八九七	一、七三八、九四〇、〇〇〇	三、五八八、〇〇〇	二、九七八、一八〇、〇〇〇
		既設	二五〇、四	五三、七九六	七、四八七、〇〇〇	六、六八八、〇〇〇	一、三四七、五〇〇、〇〇〇
		小計	二五〇、四	五三、七九六	七、四八七、〇〇〇	六、六八八、〇〇〇	一、三四七、五〇〇、〇〇〇
		計	四九七、五	六九、二四三	三、四九八、一〇〇、〇〇〇	九、六五五、〇〇〇	三、四〇八、六〇〇、〇〇〇

供給量 二八、二四七、九〇〇、〇〇〇 吨

8/28 65

(6)

昭和十七年度、及び十八年度

(7)

専賣局全管内塩田、製塩豫定数量通達文書



專秘第二〇號

昭和十七年一月二十九日

南支那局 塩務課長



各製塩官署長 殿

昭和十七年度採塩豫定数量決定に伴依令通牒

昭和十七年度採塩豫定数量別紙通り決定アリタル付之對スル採塩方針並各區塩田月別採塩實行計畫ヲ樹テ報告アリタシ採塩豫定總量ハ歲入豫算基準数量ニ基テ決定シタルモノニテ各塩田別數量ハ既經實績並塩田現況ニ種々算定セシメタルが豫算基準面、採塩量ハ製塩現況ニ比シ相當過大ナル數量ナリ即チ海南塩田ノ工事工程ノ不振ニ伴ヒ製塩面積ノ減少熟田化ノ遲延黃城塩田ニ於テ製塩現狀ノ不良並結晶池改良資材ノ入手困難ニ伴フ

改良面積ノ減少等ニ基因テ生産減少ハ極々鹽田割當員加セラルルコトナル爲メ各塩田於テ本年年度、採塩豫定數量ハ過去實績ニ較ベテ、如ク約三萬七千匁過重、實收ナリトス

記

採塩豫定數量

三七、四〇六匁

過去、實績

三三、四二〇匁

差引過重量

三、九八六匁

釐シテ前年度内外地ニ於テハ鹽ノ需給ハ歐洲戰亂ノ擴大ニ依リ第一三國鹽ノ輸入杜絶ニ加ヘ國際情勢ノ緊迫化ニ伴ヒ未曾有ノ窮迫狀態ニ直面シタルヲ以テ之ガ當面、對策ハ一ニ近海鹽ノ増産ヲ圖ル外全ク方途ナキ實狀ニ立到リ朝鮮ニ於テモ之ガ對策策打開ノ爲メ全能力ヲ發揮シテ増産努力メ次第ナルガ天候不良ニ禍サテ成績興ラズ豫定數量ノ割セ分強ク減産シ豫定計畫ニ幾多ノ齟齬ヲ招來セシ

モ關東州青島方面内地向テ工業鹽ヲ以テ此不足ヲ補填シテ
テ急場ヲ凌ギ得ル實狀ナリトス而モ食糧用鹽其ノ生活必需
品ヲ特質上翌年度端境期迄ノ一定保有量ハ絶對確保ヲ必要
トスル拘ラズ紋上ノ事情ハ保有數量ノ削減ヲ餘儀ナクシ約二萬噸餘
ヲ減量セル事情ナリ更ニ本年度ハ大東亞戰爭ノ勃發ニ伴フ第三國鹽
ノ輸入ハ勿論近海鹽ノ輸移入スル多クテ期終シ得サル實情ニ鑑ミ常給
關係ハ一層窮乏狀態ニ達スル豫想セラルルヲ以テ本年度豫定數
量ハ絶對ニ確保シテ安ルハ言フ俟サル所ナリ然ルニ各鹽田ニ於テ豫定
數量ハ前述ノ通りニ相當量加算サルニ鑑ミ各製鹽官署ニ於テハ
現下ニ於テ國難打開ハ生産ノ増進アリトハ心構メテ一層強固ニシ全員
總力ヲ發揮シテ國難ヲ排シテ收量ノ確保ニ努メ別紙採鹽方針ヲ
參酌シ此ノ難局打開ノ重大使命完遂ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

昭和十七年度採塩實行方針

本年度採塩ハ大東亞戰事ノ勃發ニ伴ヒ帝國版圖内ニ於ケル塩
需給一層窮迫セル情勢ニ鑑ミ左記事項留意ノ上數量ノ
確保ニ万全ヲ期スルコト

記

一、本年度ヨリ特等塩(別途見本塩通り)ヲ製造スルコトナリ、
タルヲ以テシテ製氷造ノ方法並ニ製氷塩取扱ニ付テハ左記ニ依リ萬
遺憾ナキヲ期スルコト

(1) 特等塩ハ細粒硬質ニ製造シ特殊ノ用途ニ使用スル目的ナルヲ
以テ成分及色相ノ優良ナルハ勿論特ニ結晶粒ヲ小ナラシムルヲ攪拌
法ニ依リテ粒子ノ成長ヲ防止スルコト

(2) 採塩ニ當リテハ採收殘塩ノ絶無ヲ期スルコト是ヲ爲スハ必要ニ應
ジ採塩後更ニ殘塩ヲ掻集シ結晶池内ノ清掃ヲ爲ス要アルベシ

ニ要スル經費ハ別途配付ス

(1) 特等塩ハ特ニ優良改良結晶池ニ於テ制氷造スルコト

(2) 特等塩ハ別ニ貯藏設備ヲ爲ス豫定ナルモノ之ガ實施施設ハ既設
塩庫ヲ利用スルコト

ニ早期準備作業、早期採鹹、早期採塩ヲ目標トシ同時ニ凍結
採收鹹水又特選鹹水ノ利用ニ充分ノ工夫ヲコラシテ春木子ノ制氷塩
増産ヲ圖リ以テ四月、五月ノ端境期ニ於ケル塩不足ヲ緩和スル様努
ムルコト

ニ常備塩支製衣度ノ運用ニ萬全ヲ期シ製氷塩製力ノ確保ニ努ム
ルコト

四、塩田愛國班其他機關ヲ利用シテ塩田従業員ヲ指導ヲ訓練
シ時局ヲ認識セシメ勤勞ヲ増加シ高リテ職域奉公ニ邁進セシムル
五、事情ノ許ス限リ速時採鹹法ノ實施塩田手入班ノ設置ヲ勵行シ

鹽増産を爲す事ト

六、特等塩、二等塩、豫定数量採收以後、採塩ニ対シテハ特等塩又

一等塩、採收率ハ低下スルモ差支ナシ

七、塩業現業、傭人加給金支給、因親第十條第一項塩生産ノ多寡

ニ依ル増減率、擴大ニ依リ塩増産を奨励シテス事ト

八、採塩成績優秀ナル監督員、担当者ニ対シテハ、採塩作業終了後、朝鮮神宮参拜等ヲ爲サシムル豫定ニ付、年度初頭之ヲ聲明シ

塩増産を奨励ス事ト

昭和十七年度豫産豫是高表 (單位町)

所別	鹽田別	區分	面積	豫産	豫是	高
朱安	朱安	既設	二九〇	八七五六九	四三三〇〇	三三三〇〇〇
	南洞	・	三〇〇	一〇〇〇〇	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	君子	・	六三三	九二五三三	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	小計		一二二	九七五七二	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	蘇萊	新設	五〇〇	八四四三三	・	三三三〇〇〇
廣瀬	小計		五〇〇	八四四三三	・	三三三〇〇〇
	廣瀬	既設	七七〇	八九九六六	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	徳洞	・	三三三	九四三三三	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	計		九〇三	九〇九〇〇	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	廣瀬	新設	五〇〇	八四四三三	・	三三三〇〇〇

所別	鹽田別	區分	面積	豫産	豫是	高
貴城	二區	既設	一四九	五七六〇〇	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	小計		一四九	五七六〇〇	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	一區	新設	五七	四五一〇	・	三三三〇〇〇
	三區	・	五七	五三六六	二九〇〇〇	三三三〇〇〇
	四區	・	五三三	五三六六	一七〇〇〇〇	三三三〇〇〇
南市	小計		三八六	五九九〇	二九〇〇〇	三三三〇〇〇
	一區	既設	二二二	六三六四	九三〇〇〇〇	三三三〇〇〇
	二區	新設	二二二	六三六四	九三〇〇〇〇	三三三〇〇〇
	計		四四四	一二七二八	一八六〇〇〇	三三三〇〇〇
	海南	新設	四四	一六六六	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
海南	小計		四四	一六六六	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	海南	新設	四四	一六六六	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	海南	新設	四四	一六六六	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	海南	新設	四四	一六六六	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇
	海南	新設	四四	一六六六	三三三〇〇〇	三三三〇〇〇

合計	既設	新設	計
二五二	八九二九	五七二	五四二
二六〇三五	二八六〇〇	五八八	二六〇三五
二八八六〇	二九〇〇〇	二九〇〇〇	二八八六〇
三三六〇〇	三三六〇〇	六九〇〇〇	三三六〇〇
三三六〇〇	三三六〇〇	七九〇〇〇	三三六〇〇
三三六〇〇	三三六〇〇	五七二	三三六〇〇
三三六〇〇	三三六〇〇	五七二	三三六〇〇

備考

一 昭和十七年度各所既設塩田二四四町歩ノ中未及精製塩製造用
 塩田三町歩ヲ除ク二四一町歩ノ採塩豫定高ハ昭和七年ヨリ今十六
 年ニ至ル十一年中半年作七十年間、採塩実績ヲ根拠トシ二億
 二千三十三萬六千觔ト決定セリ

二 新設塩田二五二町歩ノ採塩豫定高ハ二億五千七萬觔ト是ノ之ガ
 内訳根拠左ノ如シ

① 以蘇東第一二三區塩田五四九町歩ノ一町歩當豫定高ハ隣接君子
 塩田ノ結晶池ヲ改良セザル場合、平均生産高ハ十割トス

② 貴城第一區塩田三四四町歩ノ一町歩當採塩豫定高ハ隣接第

二區塩田ノ結晶池ヲ改良セザル場合、平均生産高ハ十割トス

③ 貴城第二區塩田二〇元町歩ノ一町歩當採塩豫定高ハ隣接第

二區塩田ノ結晶池ヲ改良セザル場合、平均生産高ハ十割トス

④ 南中第一區塩田二六六町歩ノ一町歩當採塩豫定高ハ隣接第

一區塩田ノ結晶池ヲ改良セザル場合、平均生産高ハ十割トス

⑤ 海南塩田四七〇町歩ノ一町歩當採塩豫定高ハ全塩田第一年目、
 生産豫定高ハ五割一分トス

三 等級別、採塩歩合ハ左ノ如ク決定ス

① 土底塩田土底塩田ヨリ、採塩ハ一等塩ニ等塩ニ等塩ニ區分シ、採收割
 合ハ一等塩五割二分、二等塩八割七分九厘ト決定ス

② 鹽田改良第一區塩田南中第一區塩田土質不良ヲ為メ一等
 塩田割二分、二等塩五割七分九厘トセリ

③ 結晶池改良塩田

ハ結晶池改良面積一町步當三〇面坪以上ノ塩田ニ採塩ハ特等塩
一等塩三區分シ其ノ割合ハ次ノ如シ

（A）特等塩採收歩合ハ改良結晶池盤より採塩豫定高對シ改良
結晶池盤改良否ニ依リソノ一割乃至三割五分トセリ

註改良結晶池盤より採塩豫定高算出根柢

改良結晶池盤より採塩豫定高ハ改良面積一町步當三五面坪ニ對
シ總豫定八割トシ以上十面坪ニ付ハ五割ヲ増シ最高九割ニ止
メ改良面坪一町步當三五面坪以下ニ對シハ一五〇面坪迄ハ十面坪
ニ付ハ五割五〇面坪以下七五面坪迄ハ十面坪ニ付ハ三割五面坪以下
ハ十面坪ニ付ハ一割ヲ減シ決定ス

（B）一等塩採收豫定高ハ總豫定高より特等塩豫定数量ヲ減シ
ル數量トス

但シ一町步當三〇面坪以下ノ改良塩田よりハ上底塩田ノ一等塩ノ

採收歩合より改良面積一町步當十面坪ニ付四分ノ割合ヲ減セシ
モヲ二等塩ノ採收歩合トシ二等塩ノ採收歩合ヲ決定セリ

四 新觀ニ結晶池ヲ改良セシ塩田ハ一町步當面積三五面坪ノ改良ニ對
シ増產量ニ割トス

⑦
大東亞戰爭時の塩田

指示事項

昭和十八年度採塩豫定数量並之が確保ニ関スル件

昭和十八年度採塩豫定数量詳細ハ追ッテ通牒スル見込ナルモ(出張所別数量別紙、通り)本年度採塩ハ大東亞戦争、歸趨ヲ決スベキ一大決戦、秋ニアリテ塩需給、極度ニ緊迫セル情勢ニ鑑ミ自産自給、心構ヘテ徹底的ニ大增産ヲ決行シ戦時下國民生活、安定ヲ期スルコトニ努メ特ニ左記事項留意ノ上生産確保ニ萬遺憾ナキヲ期セラレタシ

記

一、蒸發池、漲水深度ヲ調節シ可及的採鹹日時、短縮ヲ圖ルコト

二、第一蒸發池ニ鹹水溜ヲ設置シ鹹水、稀釋並ニ排棄ヲ可及的防止スルコト

三、塩増産ニ直接効果スル塩田手入ヲ徹底セシムルコト

四、春期準備作業ヲ可及的早目ニ開始シ早期採鹹早期採塩ヲ目標トシ特ニ結晶池改良塩田、早期採鹹、早期採塩ニ付テハ全ク期ニ春期、生塩増産ヲ圖リ四五月、端境期ニ於ケル塩不足ヲ緩和スル様努ムルコト

五、未熟塩田ノ早期熟成ニ努ムルコト

六、現塩田設備中缺陷アル部分ノ整備ヲ急速ニ實施スルコト
七、常備塩夫制度、運用ニ力全ク期シ製塩能率力ノ確保並能率増進ヲ圖ルコト

八、鹽業規業庫ノ口合ノ

一、取塩生産、多寡ニ依ル増減率、擴大ニ依リ
 増産獎勵ニ資スルコト

九、記事、以テ手立部、取之リ、算係者ニ依底セシメ
 増産獎勵ニ資スルコト

① 採塩適宜量ヲ超過セシ生産量ニ對シテハ塩業
 現業傭人加給金支給内規ニ依リ支給スル外別
 途獎勵金ヲ支給スル事ニ決スルコト

② 採塩業績優劣ナル監視員、担当者、課長
 等ハ、採塩作業終了後、新鮮神宮参詣
 可為サレハ、給金ナルコト

三、昭和十八年、苦汁生産、圖ル件

苦汁ハ、自來水及金、灰、マグネシウム、生産、並ニ鉄精煉
 上、飽、造、毛、生産、確保、要スル重要、原料、ナリ

本年、苦汁、之、生産、全、塩田ニ、大、施、スルコト、決、定、
 サレタルニ、依、從、テ、塩、本、館、主、義、ハ、塩、又、苦、汁、併、進、
 主義ニ、切、リ、換、ヘ、生産、確保、并ニ、全、期、ヤ、ミ、タ、レ、
 台、塩田、之、於、テ、本年、力、生産、協、定、量、ハ、此、ノ、
 山、ト、ス

記

塩田別	生産協定量	摘	要
大	一五八四		
子	二四〇〇		
右	四八二四		
蘇	二〇九八		
廣梁湾	七四六四		
貴	二九八〇		
合			

第 一

計

一九二七

昭和十八年産塩増進天候改良計画

昭和十八年産塩増進天候改良計画内示「近日一
次定、上通降る見込あり一應き記承知、之が
使用、一俟、ハ塩増産上遺憾ナキ、期ヒミタシ

記

昭和十八年産塩増進天候改良計画内示「近日一
次定、上通降る見込あり一應き記承知、之が
使用、一俟、ハ塩増産上遺憾ナキ、期ヒミタシ

昭和十八年産塩増進天候改良計画内示「近日一
次定、上通降る見込あり一應き記承知、之が
使用、一俟、ハ塩増産上遺憾ナキ、期ヒミタシ

昭和十八年産塩増進天候改良計画

昭和十八年産塩増進天候改良計画内示「近日一
次定、上通降る見込あり一應き記承知、之が
使用、一俟、ハ塩増産上遺憾ナキ、期ヒミタシ

記

昭和十八年産塩増進天候改良計画内示「近日一
次定、上通降る見込あり一應き記承知、之が
使用、一俟、ハ塩増産上遺憾ナキ、期ヒミタシ

昭和十八年産塩増進天候改良計画内示「近日一
次定、上通降る見込あり一應き記承知、之が
使用、一俟、ハ塩増産上遺憾ナキ、期ヒミタシ

確係ニ付テハ本局ニ於テ極力努力カエル
コト、ニ施行ノ迅速化ニ於テ係材料、
確保ニ要シテハ出展所ニ於テ萬全ヲ
期スルコト

昭和19年度
3年度

497年減

昭和十八年度採塩実高表 (單位 町)

所別	面積	採塩高	特等	一等	二等	三等
朱安	一、二、四	九、一、四七	二、九、七、七〇〇	九、九、九、九〇〇	五、八、八、八〇〇	一、五、一、六、八、八〇〇
石梁湾	九、九、三	九、三、五、一、二	七、九、九、九〇〇	五、九、九、九〇〇	三、八、八、八〇〇	九、八、八、八〇〇
貴城	一、五、三、五	五、五、九、九、四	三、五、九、九、〇〇〇	五、五、八、八、〇〇〇	四、一、七、七、九、〇〇〇	一、二、九、九、〇〇〇
南市	四、八、三	五、九、九、九、三	三、九、九、九、〇〇〇	一、八、八、八、〇〇〇	三、一、八、八、〇〇〇	三、一、〇、〇、〇〇〇
海南	七、四、二	三、二、二、五、〇	八、八、八、八、〇〇〇	八、八、八、八、〇〇〇	八、八、八、八、〇〇〇	一、六、四、四、五、〇〇〇
計	五、四、一、七	七、六、四、二、七	二、九、七、七、〇〇〇	九、九、九、九、〇〇〇	二、八、八、八、〇〇〇	三、九、三、三、八、〇〇〇
朱安	一、一、五	九、五、四、四、八				一、〇、四、四、〇〇〇
石梁湾	九、九、三	九、〇、八、七、六				九、〇、二、四、〇〇〇
貴城	一、五、三、五	五、六、二、五、六				一、〇、〇、〇、〇〇〇
南市	四、八、三	六、三、三、一、一				三、〇、〇、〇、〇〇〇
海南	一、二、五、〇	二、九、二、〇、七				三、〇、〇、〇、〇〇〇
計	五、三、七、六	六、七、六、〇、〇				三、〇、三、四、八、〇〇〇

昭和十八年度

四二一

(7)

昭和十四年度管内塩田の採塩豫定高数量及
製塩塩夫給配分豫算

1822 36p

昭和十四年三月一日

専賣局廣梁湾出張所長

殿

昭和十四年度採塩豫定高ニ関スル件

題記、数量別表、通決定セルニ付三月五日迄ニ
各區號別月別採塩豫定高表作製提出アリタシ

附記

- 一、各區別採塩豫定高算出根基ヲ添付ス
- 二、採塩豫定高ヲ以テ其ノ塩田ノ能力トス
- 三、計算数量ハ千匁單位トス
- 四、月別採塩歩合ハ左記ノ通りトス

記

月別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計
歩合	一〇	二六	三八	二三	二三	〇八	〇二	一〇〇

昭和十四年度採塩豫定高表

區別	面積	積數	量	内		一町步當	一町步當合
				一等塩	二等塩		
一	四六町	四二四、〇〇〇	三六九、〇〇〇	六二二、〇〇〇	九二、一九六	八五三	
二	一七三	一五七八、〇〇〇	〇七六、〇〇〇	五、〇〇〇	九一、三四九	六八三	
三	一四二	一一七三、〇〇〇	〇一一、二〇〇	一六一八、〇〇〇	八二、六〇六	八六二	
四	九三	六八八九、〇〇〇	四三二、一〇〇	二五八八、〇〇〇	七四、〇七五	六二七	
五	五二	四六、一〇〇	四、四二、〇〇〇	五五九、〇〇〇	八八、四八一	八七九	
六	一六〇	一三三四、〇〇〇	五五二八、〇〇〇	六八一五、〇〇〇	七、一四四	四四八	
七	三六	三二八六、〇〇〇	二五五〇、〇〇〇	六三六、〇〇〇	八八、五〇〇	八〇〇	
八	六八	六九五五、〇〇〇	三六九六、〇〇〇	三二五九、〇〇〇	一〇二、二七九	五三一	
計	七七〇	六五七三、〇〇〇	四四六四、〇〇〇	二一、〇八、〇〇〇	八五、三六五	六、七九	
德一	一〇五	九、二六、〇〇〇	六、一六、〇〇〇	二八六三、〇〇〇	八五、九六二	六八三	
二	七八	七、二四、〇〇〇	三、七八、〇〇〇	三、四六三、〇〇〇	九二、八九七	五三二	
三	四〇	三、四四、〇〇〇	一九五、〇〇〇	一八、三、〇〇〇	九三、五〇〇	五一八	
計	二二三	二〇、一三、〇〇〇	一一八八、〇〇〇	八、一二九、〇〇〇	八九、七四〇	五九四	
合計	九九三	八五、七四三、〇〇〇	五六、五三六、〇〇〇	三九、二一六、〇〇〇	八六、三四七	六五九	

昭和十四年入採塩豫定高算出根柢

一、豫定数量

(1) 廣梁灣徳洞塩田九九三町歩ハ昭和九、十、十一、十二、十三年採塩實績数量ノ平均ヲ以テ本年度各區豫定高ノ算出基礎トス

(2) 新規ニ結晶池ヲ改良セシ塩田ハ一町歩當面積ニ二五面坪ノ改良ニ對シ増產量ニ割トス

(3) 擔當號ニ於テハ其ノ年ノ豫定高ニ對スル採塩實績歩合ガ左記以上ノ増減アル場合ハ廣梁灣徳洞全体ノ採塩實績ノ平均歩率ヲ基準トシ其ノ上下一割ヲ限度トシタル数量ヲ其ノ年ノ擔當號ノ實績ト見做ス

採塩實績基準歩率

年別	歩合	最高	最低	平均	最高	最低	平均	摘要
昭和九年度	〇・七三九三	六四九・八	〇・七二二〇	〇・七五三三	六三三八	〇・六八二〇	九	一等塩實績歩合ハ改良結晶池ヲ除キタル歩合ナリ
十年度	一・六四〇一	一三四四・八	一四九二・四	一三八一・五	一三三三二	一二五九一	全	本年度一等塩ハ改良結晶池ヲ含ム
十一年度	一一・〇〇三	九・〇〇三	一・〇〇三	一・六八三四五	一三三三三	一五三・四一	池ヲ含ム	本年度一等塩ハ改良結晶池ヲ含ム
十二年度	一一・四二二	九・三四六	一・三八四〇				全塩田一等塩ノ三十分計算スル必要ヲ認メズ	本年度一等塩ハ改良結晶池ヲ含ム
十三年度	一・六六六	〇・七三四六	〇・九一一〇	一・〇二二六	一・二二一六	〇・八八九五	池ヲ含ム	本年度一等塩ハ改良結晶池ヲ含ム

参考

各擔當號各年毎ニ採塩實績豫定高ニ對シ上記最高以上又ハ最低以下ノ場合ハ最高最低ノ基準歩率ヲ其ノ豫定高ニ乗ジタル數ヲ以テ其ノ年ノ擔當號ノ採塩實績ト見做ス

(2) 貴城第三區塩田五・〇町歩ノ一町歩當豫定高ハ隣接貴城第二區塩田ノ結晶池改良セザル場合ノ平均生産高ノ十割トス

(3) 貴城第四區塩田五・三町歩ノ一町歩當豫定高ハ隣接貴城第二區塩田ノ結晶池改良セザル場合ノ平均

均生産高ノ五割トス

二等級別採塩歩合

(1) 廣梁湾結晶池改良塩田ノ一、二等塩

結晶池改良塩田ノ前五ヶ年採塩實績ノ平均ヲ廣

梁湾各區ノ合計平均(改良塩田ノ一、二等塩シ合)

局ヨリ割當ラレタル總豫定量六五、七三、〇〇也

リ結晶池改良ニ依ル増収量一八、三〇、〇〇也

ル残量六五、五四、〇〇也ニ上記歩率ヲ乘シ各號ノ豫

定量トセリ

結晶池改良面積が一町歩當一ニ。面坪以下ノ場

合ハ左記ニ依リ一ニ等塩ヲ決定セリ

各擔當號ニ於ケル結晶池改良面積一町歩當ト標

準改良面積一ニ。面坪トノ差ニ〇。三九ヲ乘ジ

タル數ヲ本年度廣梁湾土底塩田一、二等塩採收標準

歩率五割ニ分ヨリ減ジタルヌノヲ本年度其ノ號

ノ二等塩歩合トシ(但シメ區々ハ二等塩標準歩率ヲ

四割三分トス)之ヲ五ヶ年平均實績ニ乘ジテ得タ

ル數ヲ各擔當號ノ五ヶ年平均ニ等塩實績數量ト

見做セリ

然レテ右ノ實績數量ヲ廣梁湾塩田(自一區八區)ノ

五ヶ年平均實績ニテ除シ二等塩歩率ヲ算出シ廣

梁湾豫定數量六五、七三、〇〇也ニ乘ジタル數ヲ本年度

二等塩豫定高トス一等塩ハ各號豫定高ヨリ二等

塩ヲ減ジタル數量トス

廣梁湾土底塩田ノ一、二等塩

前五ヶ年一、二等塩平均採塩實績ニテ各區ノ五ヶ年

一、二等塩平均採塩實績ヲ除シタル商ヲ一、二等塩採收

歩率トシ本年度廣梁湾塩田一、二等塩豫定量四、四、六

四、〇、〇也ヲ減ジタル一、九、一、二、九、〇也ニ前記

歩率ヲ乘ジ本年度各區ハ一、二等塩量ヲ定メタリ

二等塩ハ各區豫定高ヨリ一、二等塩ヲ減ジタルヌノ

(3)

(2)

トス

德洞 改良結晶池塩田ノ一、二等塩

改良結晶池塩田各擔當號改良面積一町歩當ハ一

二。面坪以ニシテ廣梁湾塩田ノ良結晶池塩田

(4)
 一等塩算出ニ做七決定ス
 徳洞土底塩田ノ一、二等塩
 廣梁湾土底一等塩算出ト同様トス

昭和十四年度採塩豫定高算出根基

塩田別	本	定	高	結晶池改良ニ依ル増産量	五ヶ年平均歩率	結晶池改良増産ヲ差引タル豫定高	結晶池改良増産ヲ加ハタル豫定高
一					〇.〇六四	四、二四一、〇〇〇	四、二四一、〇〇〇
二				四八、〇〇〇	〇.二四〇	一五、八三八、〇〇〇	一五、八三八、〇〇〇
三				一三五、〇〇〇	〇.一七六	一、五九五、〇〇〇	一、五七三、〇〇〇
四					〇.一〇五	六、八八九、〇〇〇	六、八八九、〇〇〇
五					〇.〇七二	四、六〇一、〇〇〇	四、六〇一、〇〇〇
六					〇.一八八	一三、三四三、〇〇〇	一三、三四三、〇〇〇
七					〇.〇四八	三、一八六、〇〇〇	三、一八六、〇〇〇
八					〇.一〇六	六、九五五、〇〇〇	六、九五五、〇〇〇
計	六五、七三一、〇〇〇			一八三、〇〇〇	〇.〇〇〇	六五、五四八、〇〇〇	六五、七三一、〇〇〇

塩田別	本	定	高	結晶池改良ニ依ル増産量	五ヶ年平均歩率	結晶池改良増産ヲ差引タル豫定高	結晶池改良増産ヲ加ハタル豫定高
一				六三、〇〇〇	〇.〇四四	八、九六三、〇〇〇	九、〇二六、〇〇〇
二					〇.三六三	七、二四六、〇〇〇	七、二四六、〇〇〇
三					〇.一八七	三、五四〇、〇〇〇	三、五四〇、〇〇〇
計	二〇、〇一二、〇〇〇			六三、〇〇〇	〇.〇〇〇	一九、九四九、〇〇〇	二〇、〇一二、〇〇〇
合計	八五、七四三、〇〇〇			二四六、〇〇〇	〇.〇〇〇	八五、四九七、〇〇〇	八五、七四三、〇〇〇

結晶池改良ニ依ル増収量割當表 (二)

區號	年起別算	增加數量	割當年別			摘	要
			十四年	十五年	十六年		
一〇	十三年	五二、四二〇	三五、〇〇〇	一六、四七三			十四年割當單位千 延單位、二四、五八八
計	十二年	一、二五、六九	一三、〇〇〇				
三〇	十二年	六四、九八九	四八、〇〇〇	一六、四七三			
三〇	十二年	一九、〇三六	一九、〇〇〇				
一	十四年	二〇、一六八	二〇、〇〇〇	一三、四九二	六、六二六		
一	十二年	四九、一六五	四九、〇〇〇				
八		三一、四九二	三一、〇〇〇				
九		一五、三二六	一五、〇〇〇				
計		一三五、二〇九	一三五、〇〇〇	一三、四九二	六、六二六		
合計		二〇〇、一九八	一八三、〇〇〇	三〇、九二五	六、六二六		
德一四五	十二年	二八、六六六	二九、〇〇〇				
六八	十二年	三〇、九一〇	三一、〇〇〇				
×	十三年	四、三六六	三、〇〇〇	一四、五八			
計		六三、九四三	六三、〇〇〇	一四、五八			

(一) 結晶池改良ニ依ル増収量割當表

區號	年起別算	增加數量	割當年別			摘	要
			十四年	十五年	十六年		
六二	十二年	一、〇〇〇	一、〇〇〇				
計		一、〇〇〇	一、〇〇〇				
三	十二年	四九、〇〇〇	四九、〇〇〇				
一	十二年	三一、〇〇〇	三一、〇〇〇				
九	十二年	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇				
計		一三五、〇〇〇	一三五、〇〇〇				
小計		一八三、〇〇〇	一八三、〇〇〇				
德一	十二年	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇				
六八	十二年	三、〇〇〇	三、〇〇〇				
計		二四、〇〇〇	二四、〇〇〇				

(二) 結晶池改良ニ依ル一等塩採塩豫定歩合表

塩田別	一等塩採塩 予定歩合	摘	要
第一	一、三	六、五	
二	一、四、五		
三	一、〇		
四	一、〇		
五	一、〇		
六	一、〇		
七	一、〇		
八	一、〇		
九	一、〇		
十	一、〇		
十一	一、〇		
十二	一、〇		
十三	一、〇		
十四	一、〇		
十五	一、〇		
十六	一、〇		
十七	一、〇		
十八	一、〇		
十九	一、〇		
二十	一、〇		
二十一	一、〇		
二十二	一、〇		
二十三	一、〇		
二十四	一、〇		
二十五	一、〇		
二十六	一、〇		
二十七	一、〇		
二十八	一、〇		
二十九	一、〇		
三十	一、〇		
三十一	一、〇		
三十二	一、〇		
三十三	一、〇		
三十四	一、〇		
三十五	一、〇		
三十六	一、〇		
三十七	一、〇		
三十八	一、〇		
三十九	一、〇		
四十	一、〇		
四十一	一、〇		
四十二	一、〇		
四十三	一、〇		
四十四	一、〇		
四十五	一、〇		
四十六	一、〇		
四十七	一、〇		
四十八	一、〇		
四十九	一、〇		
五十	一、〇		
五十一	一、〇		
五十二	一、〇		
五十三	一、〇		
五十四	一、〇		
五十五	一、〇		
五十六	一、〇		
五十七	一、〇		
五十八	一、〇		
五十九	一、〇		
六十	一、〇		
六十一	一、〇		
六十二	一、〇		
六十三	一、〇		
六十四	一、〇		
六十五	一、〇		
六十六	一、〇		
六十七	一、〇		
六十八	一、〇		
六十九	一、〇		
七十	一、〇		
七十一	一、〇		
七十二	一、〇		
七十三	一、〇		
七十四	一、〇		
七十五	一、〇		
七十六	一、〇		
七十七	一、〇		
七十八	一、〇		
七十九	一、〇		
八十	一、〇		
八十一	一、〇		
八十二	一、〇		
八十三	一、〇		
八十四	一、〇		
八十五	一、〇		
八十六	一、〇		
八十七	一、〇		
八十八	一、〇		
八十九	一、〇		
九十	一、〇		
九十一	一、〇		
九十二	一、〇		
九十三	一、〇		
九十四	一、〇		
九十五	一、〇		
九十六	一、〇		
九十七	一、〇		
九十八	一、〇		
九十九	一、〇		
一百	一、〇		

塩田別	一等塩採塩 予定歩合	摘	要
第一	一、〇		
二	一、〇		
三	一、〇		
四	一、〇		
五	一、〇		
六	一、〇		
七	一、〇		
八	一、〇		
九	一、〇		
十	一、〇		
十一	一、〇		
十二	一、〇		
十三	一、〇		
十四	一、〇		
十五	一、〇		
十六	一、〇		
十七	一、〇		
十八	一、〇		
十九	一、〇		
二十	一、〇		
二十一	一、〇		
二十二	一、〇		
二十三	一、〇		
二十四	一、〇		
二十五	一、〇		
二十六	一、〇		
二十七	一、〇		
二十八	一、〇		
二十九	一、〇		
三十	一、〇		
三十一	一、〇		
三十二	一、〇		
三十三	一、〇		
三十四	一、〇		
三十五	一、〇		
三十六	一、〇		
三十七	一、〇		
三十八	一、〇		
三十九	一、〇		
四十	一、〇		
四十一	一、〇		
四十二	一、〇		
四十三	一、〇		
四十四	一、〇		
四十五	一、〇		
四十六	一、〇		
四十七	一、〇		
四十八	一、〇		
四十九	一、〇		
五十	一、〇		
五十一	一、〇		
五十二	一、〇		
五十三	一、〇		
五十四	一、〇		
五十五	一、〇		
五十六	一、〇		
五十七	一、〇		
五十八	一、〇		
五十九	一、〇		
六十	一、〇		
六十一	一、〇		
六十二	一、〇		
六十三	一、〇		
六十四	一、〇		
六十五	一、〇		
六十六	一、〇		
六十七	一、〇		
六十八	一、〇		
六十九	一、〇		
七十	一、〇		
七十一	一、〇		
七十二	一、〇		
七十三	一、〇		
七十四	一、〇		
七十五	一、〇		
七十六	一、〇		
七十七	一、〇		
七十八	一、〇		
七十九	一、〇		
八十	一、〇		
八十一	一、〇		
八十二	一、〇		
八十三	一、〇		
八十四	一、〇		
八十五	一、〇		
八十六	一、〇		
八十七	一、〇		
八十八	一、〇		
八十九	一、〇		
九十	一、〇		
九十一	一、〇		
九十二	一、〇		
九十三	一、〇		
九十四	一、〇		
九十五	一、〇		
九十六	一、〇		
九十七	一、〇		
九十八	一、〇		
九十九	一、〇		
一百	一、〇		

昭和十四年度製鹽夫給與算實行計畫

朝鮮總督府專賣局廣梁灣出張所

昭和十四年度製塩夫給豫算計画書

賞

目

實行豫算額

摘

要

常備塩夫給

定員塩夫給

計

二〇九六五〇・一一〇
二〇九六五〇・一一〇

増配塩夫給

増配塩夫給

炊事塩夫給

計

四一、三五一・三四〇
八、九三三・九六〇
五〇、二八五・三〇〇

塩田手入塩夫給

塩田手入給

計

一七、八二七・三一〇
一七、八二七・三一〇

賞

目

實行豫算額

摘

要

秋季整理作業
塩夫給

秋季整理作業費

計

三〇、三五〇・七八〇
三〇、三五〇・七八〇

春季準備作業
塩夫給

常備塩夫給

藻苔類除去費

藻發池地面費

塩田手入塩夫給

計

四〇、六一八・一一〇
六、五四三・〇〇〇
七、六三三・五〇〇
六、六三三・五〇〇
六二、四二八・一一〇

附帯塩夫給

専属塩夫給

器具修理費

三〇、四一三・八〇〇
七、四五一・〇〇〇

一六、八二七・三一〇
二八、八二七・三一〇
三、一八二・五〇〇
二、七五〇・〇〇〇

朝鮮總督府專賣局廣梁灣出張所

海水取入	三一九五〇	延入費 四五〇
煮炭夜給	一〇〇一六八	塩田一五〇 延入費 一五〇
湯水塩夫給	六四一八四	煮炭一五〇 延入費 一五〇
器具及材料	二〇〇〇〇	煮炭一五〇 延入費 一五〇
燃料費	九五〇五七四	煮炭一五〇 延入費 一五〇
計	二三九六八〇三	煮炭一五〇 延入費 一五〇
製塩加給金	二三六一七六八	
計	二三六一七六八	
合計	四八二二六四三	

朝鮮總督府專賣局廣梁灣出張所

明
至
十四
月
十一
日

東坡

百三十八

三、四、五、六、七

元大五二

衡 愛

朱灣出張所

金

八五二九六

五

七五六一六

五十五

八五五九

朝鮮總督府專賣局廣梁灣出張所

内譯

計	細杜造製造 別達配件
土	四
	七
英大九	六八四
	一九五
六一五	七七二
八五八	五四八
	一二

三、手入班爐夫給（使役期間）
至十月十日

[illegible][illegible]

四、秋季整理作業塩夫給

塩田別	十町歩塩場	地人	金	単價	金
公果	大	一六四六	七	一六四六	二
徳川	大	一八二	七	一六四八	二
黄城	大	三三二	七	一六六一	二
計				三八一六	八

塩田	手入	塩夫給	金	項
塩田別	面積	十町歩	九九三	
公果	一八八	一	一八八	
徳川	一八八	一	一八八	
黄城	一八八	一	一八八	
計	六一八一		六一八一	

朝鮮總督府專賣局廣梁灣出張所

昭和拾五年 參月

昭和拾五年度製造天給豫算實行計畫書

專賣局廣梁灣出張所

朝鮮總督府專賣局廣梁灣出張所

昭和十五年度製塩塩夫給豫算實行計畫書

一 豫算 額

一金貳拾貳萬七百七拾四圓六拾參錢也 (二月十七日附 内不豫算)

二 實行計畫

一金貳拾貳萬七百七拾四圓六拾參錢也

内 譯

一金拾壹萬五千六百六拾參圓八拾錢也 (常備塩夫給)

一金參萬四千五百六拾八圓參拾貳錢也 (増配塩夫給)

一金壹萬四千四百九拾八圓八錢也 (秋 營理 作 奉 李)

一金貳萬七千八百四拾六圓貳拾四錢也 (春 奉 奉 俵)

一金壹萬四千八百九拾四圓參拾五錢也 (塩 夫 俵)

朝鮮總督府專賣局廣梁灣出張所

一金壹萬參千八百拾貳圓五拾六錢也 (製塩加給金及 時局外加給金)

以 上

一、金貳拾貳萬七百七拾四兩六拾參錢也

記

賞

同

賓客
行部
函復

摘

要

常備短夫給

定員塩夫給

五

二五、大三、一、一

增配塩夫餘

定員外 趙夫 鈐

炊事 趙夫餘

計

三四五六七八九

秋季整理作業

費

同

實錄
行計
函

摘

要

其於世也
 吾之替理作事
 愧心人與一不四不六人
 年為單便
 二八寸

計

1490.080

卷之六

常備塩夫給

藻荇類除去膏

二九七九
1
1
1

九三三所

上

計

文白二言

附帶爐夫給

專屬爐夫給

大器
工具
修理
費

三八九二五

一五八
一四〇
二五八

海爐
取
入

三
四
五

迫人莫
車快四
人

氣象初逢
爐夫結

$$\begin{array}{r} \times \\ \hline 1 \\ \hline 5 \\ \hline 1 \end{array}$$

越田八人 九三町 東使八人 計三四五二
 東使八人 九三町 東使八人 計三四五二

場外塩大粒	六三二二四	おききりく 産物 新入
運入材料	九六六二	平均 東 入 入
肥料	四五二八	おききりく 産物 新入
塩大連産	二二二二	上
計	一四八九四三	おききりく 産物 新入
製塩加給金		おききりく 産物 新入
製塩加給金	二二二二	おききりく 産物 新入
時局外加給金	二二二二	おききりく 産物 新入
計	一三八二二	おききりく 産物 新入
合計	二二二二	おききりく 産物 新入

朝鮮總督府專賣局廣梁港出張所

(8)

昭和十四年十月十日の採塩日報

附好

[illegible]

(9)

昭和九年度及十四年度分
製塩加給金支拂調書

昭和九年度

廣梁灣。德洞。疊城。全管内。

製塩加給金調査

技手 石川武吉

昭和九年度優勝成績表

区別	数量成績	一等塩 生産割合	塩田平均 成績	塩品質	計	順位
一八区	七〇・一五	七・一三	八・〇二	八・〇六	九三・三六	一
二区	六六・四三	六・五八	八・〇三	八・〇六	八九・一〇	五
三区	六六・八一	六・七二	八・〇四	八・〇五	八九・六〇	四
四五区	六四・〇二	七・〇六	八・〇三	八・一三	八七・二一	六
六米区	六五・〇七	五・五八	八・〇三	八・〇六	八六・七四	七
七区	六一・六七	七・一二	八・〇二	八・一〇	八四・九一	八
徳一区	六八・一七	九・〇〇	八・〇三	八・〇五	九三・三五	二
徳二区	六六・三四	八・七四	八・〇四	八・〇二	九一・一四	三
貴二区	五九・九一	六・七八	八・〇四	八・〇二	八三・七五	九

明洋商會理事會司理長所

昭和九年度製塩加給金詭

[illegible]

明洋恩督守事賈司黃外營出長祈

一 獲		乙		八		己 七		己		六		己 五		己 四		己 三	
四	三	一	六	五	四	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一
四〇、方〇	四四、七	三三、四	三〇、二九	四二、三三	三七、三三	四〇、七一	二四、七一	三三、五一	四〇、七九	四三、八五	六二、六三	九八、五九	九四、七四	二九、四七	四六、七九	四六、五九	三八、五七
四〇、六	四四、七	三三、四	六〇、五	八四、五	七四、五	八、一四	一、三三	六、七〇	四、九四	四、三八	六、二六	五、九五	四、七九	二、七四	四、五七	四、五二	三、八五
			五、四九	六、五一		六、五一	六、九一	一、三四		八、一		四、七九			二、八一	一、八一	一、八一
					一、一一	三、三五	二、四	一、二二	三、一八	一、三一	一、一九	三、二八		九、一	二、七一	六、五三	五、五
		一、五七	七、五												一、一三	一、一	二、四一
			一														
二、〇三	二、二三	一、六六	一、五一	二、一一	一、八三	二、〇三	一、六七					二、九七	二、七三			二、二六	一、九五
四、四七	八、九五	六、〇二	一、五七	一、六〇	九、五九	一、五八	一、七〇	八、〇四	一、一五	二、一八		一、四八	六、五五	八、三一	九、〇一	二、四三	九、〇五
四九、七二	四九、二四	三九、四八	四四、〇五	九、八四	四二、九二	四二、九二	四一、七五	四一、七五	四六、五九	四六、三三	六二、六三	七四、四三	六三、四九	一八、八八	九、〇一	九、六八	四七、九六
趙龍元	崔田永伯	趙仁璇	金永基	朴根植	金昌王	金村武確	崔炳奎	梁表石	大坂康四郎	金尚輝	趙鎮錫	李養吾	原野正介	近來植	小田保	威正道	金大錫

德	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百	一百一	一百二	一百三	一百四	一百五	一百六	一百七	一百八	一百九	二百	二百一	二百二	二百三	二百四	二百五	二百六	二百七	二百八	二百九	三百	三百一	三百二	三百三	三百四	三百五	三百六	三百七	三百八	三百九	四百	四百一	四百二	四百三	四百四	四百五	四百六	四百七	四百八	四百九	五百	五百一	五百二	五百三	五百四	五百五	五百六	五百七	五百八	五百九	六百	六百一	六百二	六百三	六百四	六百五	六百六	六百七	六百八	六百九	七百	七百一	七百二	七百三	七百四	七百五	七百六	七百七	七百八	七百九	八百	八百一	八百二	八百三	八百四	八百五	八百六	八百七	八百八	八百九	九百	九百一	九百二	九百三	九百四	九百五	九百六	九百七	九百八	九百九	一千	一千一	一千二	一千三	一千四	一千五	一千六	一千七	一千八	一千九	二千	二千一	二千二	二千三	二千四	二千五	二千六	二千七	二千八	二千九	三千	三千一	三千二	三千三	三千四	三千五	三千六	三千七	三千八	三千九	四千	四千一	四千二	四千三	四千四	四千五	四千六	四千七	四千八	四千九	五千	五千一	五千二	五千三	五千四	五千五	五千六	五千七	五千八	五千九	六千	六千一	六千二	六千三	六千四	六千五	六千六	六千七	六千八	六千九	七千	七千一	七千二	七千三	七千四	七千五	七千六	七千七	七千八	七千九	八千	八千一	八千二	八千三	八千四	八千五	八千六	八千七	八千八	八千九	九千	九千一	九千二	九千三	九千四	九千五	九千六	九千七	九千八	九千九	一万	一万一	一万二	一万三	一万四	一万五	一万六	一万七	一万八	一万九	二万	二万一	二万二	二万三	二万四	二万五	二万六	二万七	二万八	二万九	三万	三万一	三万二	三万三	三万四	三万五	三万六	三万七	三万八	三万九	四万	四万一	四万二	四万三	四万四	四万五	四万六	四万七	四万八	四万九	五万	五万一	五万二	五万三	五万四	五万五	五万六	五万七	五万八	五万九	六万	六万一	六万二	六万三	六万四	六万五	六万六	六万七	六万八	六万九	七万	七万一	七万二	七万三	七万四	七万五	七万六	七万七	七万八	七万九	八万	八万一	八万二	八万三	八万四	八万五	八万六	八万七	八万八	八万九	九万	九万一	九万二	九万三	九万四	九万五	九万六	九万七	九万八	九万九	十万	十万一	十万二	十万三	十万四	十万五	十万六	十万七	十万八	十万九	十一万	十一万一	十一万二	十一万三	十一万四	十一万五	十一万六	十一万七	十一万八	十一万九	十二万	十二万一	十二万二	十二万三	十二万四	十二万五	十二万六	十二万七	十二万八	十二万九	十三万	十三万一	十三万二	十三万三	十三万四	十三万五	十三万六	十三万七	十三万八	十三万九	十四万	十四万一	十四万二	十四万三	十四万四	十四万五	十四万六	十四万七	十四万八	十四万九	十五万	十五万一	十五万二	十五万三	十五万四	十五万五	十五万六	十五万七	十五万八	十五万九	十六万	十六万一	十六万二	十六万三	十六万四	十六万五	十六万六	十六万七	十六万八	十六万九	十七万	十七万一	十七万二	十七万三	十七万四	十七万五	十七万六	十七万七	十七万八	十七万九	十八万	十八万一	十八万二	十八万三	十八万四	十八万五	十八万六	十八万七	十八万八	十八万九	十九万	十九万一	十九万二	十九万三	十九万四	十九万五	十九万六	十九万七	十九万八	十九万九	二十万	二十万一	二十万二	二十万三	二十万四	二十万五	二十万六	二十万七	二十万八	二十万九	二十一万	二十一万一	二十一万二	二十一万三	二十一万四	二十一万五	二十一万六	二十一万七	二十一万八	二十一万九	二十二万	二十二万一	二十二万二	二十二万三	二十二万四	二十二万五	二十二万六	二十二万七	二十二万八	二十二万九	二十三万	二十三万一	二十三万二	二十三万三	二十三万四	二十三万五	二十三万六	二十三万七	二十三万八	二十三万九	二十四万	二十四万一	二十四万二	二十四万三	二十四万四	二十四万五	二十四万六	二十四万七	二十四万八	二十四万九	二十五万	二十五万一	二十五万二	二十五万三	二十五万四	二十五万五	二十五万六	二十五万七	二十五万八	二十五万九	二十六万	二十六万一	二十六万二	二十六万三	二十六万四	二十六万五	二十六万六	二十六万七	二十六万八	二十六万九	二十七万	二十七万一	二十七万二	二十七万三	二十七万四	二十七万五	二十七万六	二十七万七	二十七万八	二十七万九	二十八万	二十八万一	二十八万二	二十八万三	二十八万四	二十八万五	二十八万六
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

明洋恩督守事寶司廣應壽山長祈

尊焦特奮床裏賣后履絲濟出強月

一等	二等
年度	年度
七	八
八	九
九	九
0.0115	0.0075
0.0120	0.0080

製塩加給金各年度調査表			
種目	昭和七年	昭和八年	昭和九年
採塩実収量	一三九、六一四、三八 八三、七三八、四一六	八八、八九八、六三三 八三、三三九、二〇四	
一等塩	五五、二八四、九一八 二五、一七〇、九九〇	三七、八一五、三三三 二二、六八九、二二二	
二等塩	八四、三三九、一一〇 五、五九七、四六六	五、一〇八、三三三 三、六四九、九九二	
計			
加給金総額	一三、二四二、一六〇	八、七五五、四一〇	
中 担當員	五、二二九、九〇〇	三、三三二、八九〇	
塩 夫	八、〇三九、二六〇	五、三八二、五二〇	
担當員内地人	一六八、七四〇	八五、六四〇	
最高 鮮人	一四八、五五〇	一〇六、四二〇	
担當員内地人	三〇、六二〇	一八、八八〇	
最低 鮮人	一六、七八〇	一一、〇六〇	
担當員加給金	八、〇四〇	五、一二七	
平均額			

月別調査表

加給金率

算	普通	普通
算	算	算

Age Group	2004	2006	2008
18-29	~85	~88	~92
30-49	~75	~78	~82
50-69	~65	~68	~72
70+	~55	~58	~62

土	— 塔拉林地制庄	43 0.35 — 31	30 — 26	0.25 28 T.	0.39 ⁴⁰ 24.2 — 0.36	0.39 — 0.36 0.40 24.2
---	----------	-----------------	---------	------------	-----------------------------------	--------------------------

昭和九年度 加給金率

百介當(六十%)

塩夫及 担當員(六十%)當加給率

等級別	加給金率	善通塩田 加給率	担當員 加給率	担當員 加給率	担當員 加給率
一等塩	一毛二厘	一等	七毛	一厘三毛	四厘五毛
二等塩	八厘	二等	四毛七毛	八毛七毛	二厘八毛

塩床別ニ依ル 加給率

土底 結晶池ノ一等塩	改良 結晶池ノ一等塩
一等塩採掘割合 十分當 担當員十口當 塩夫十口當	一等塩採掘割合 十分當 担當員十口當 塩夫十口當
自三一至三五	七毛
二六一三	七毛五厘
二五以下	七毛六厘
二六一三九	七毛七厘
四〇以上	七毛八厘

茅田五区塩田一等塩十元加給額

採塩実収高

採別	一等塩採進歩金 改良採進歩金 土産特	十元加給額	採別	一等	二等	合計
4.1	1.00	-	1	289.531	-	289.531
2	0.92	-	2	853.379	-	853.379
3.4.5	-	0.55	3.4.5	296.085	813.075	1,109.160
6	-	0.29	6	352.514	569.186	921.700
7	-	0.38	7	198.440	285.282	483.722
合計	-	0.41	合計	1,889.949	1,740.612	3,630.561
1.3	0.89	-	1.3	1,228.841	156.248	1,385.089
2.4	0.52	-	2.4	595.961	551.929	1,147.890
合計	0.92	-	合計	1,824.245	908.177	2,732.422

加給金 総額表

採別	一等塩採進歩金 改良採進歩金 土産特	十元加給額	採別	一等	二等	合計
4.1	1.00	-	1	289.531	-	289.531
2	0.92	-	2	853.379	-	853.379
3.4.5	-	0.55	3.4.5	296.085	813.075	1,109.160
6	-	0.29	6	352.514	569.186	921.700
7	-	0.38	7	198.440	285.282	483.722
合計	-	0.41	合計	1,889.949	1,740.612	3,630.561
1.3	0.89	-	1.3	1,228.841	156.248	1,385.089
2.4	0.52	-	2.4	595.961	551.929	1,147.890
合計	0.92	-	合計	1,824.245	908.177	2,732.422

標準面積

$$1.142 \text{ 町} + 6.5 = 17.7 \text{ (標準面積)}$$

(産. 徳. 貴. 全. 面積)

標準能力

$$82.111,800 + 1.142 = 11,960.81 \text{ (標準能力)}$$

作業面積及生産能力=依ル増減率表

号	面積=依ル増減率			生産能力=依ル増減率			減 計
	別 面積	標準 差	増 減率	標準 能力 (3定割)	増 減率	減 計	
41	10	126	-	26 0.09	-	0.09+0.19	0.28
2	20	126	-	0.03	11.960-69.990	-	0.03+0.02
349	30	126	-	0.14	11.960-57.540	-	0.14+0.12
6	20	126	24	0.03	11.960+11.940	-	+
9	13	126	-	46 0.05	-	15.250 0.13	0.18
13	26	126	84	-	0.10	11.960-26.280	0.22
24	26	126	84	-	0.10	11.960-11.885	0.10
52							

標準面積及生産能力=依ル増減率表

内規第九條ニ依ル加給金増減率

加給金 計算基礎

標準能力×標準面積＝標準能力A面積抹塩高

$$71,960 \times 17.6 = 1,266,496$$

(一) 増歩金	(大増歩金) + 24 = 2
$1,266,496 \times 0.43 = 544,593$	$544,593 \times 0.012 \times 35 = 23,121$
(= 増歩金)	6 + 24
$1,266,496 \times 0.57 = 721,903$	$721,903 \times 0.008 \times 35 = 2,058$
計 1,266,496	6
	100
	計 71,809

内規第九條ニ依ル面積A角力ニ依ル増減基礎

例規 1. 作業区面積ノ標準面積ト、増減率ニ

2. 作業能力ノ標準能力ト、増減率ニ

$$\frac{\text{標準面積} - \text{作業区面積} \times \frac{6}{10}}{\text{標準能力} - \text{作業能力} \times \frac{6}{10}}$$

例規 1. 標準面積、場合 (四区一) $17.6 - 10 = 7.6$ (大)

標準面積 17.6

標準能力 $240 - 17.6 \times 70 = 20,160$

標準能力、場合 (四区一) $(17.6 - 10) \times 70 = 532$

標準能力、場合 (四区一) $71,960 - 49,020 \times \frac{6}{10} = 71,960$

号別.生産能力表

号別	生産能力		力 (2年度速達高)		平均能力=対心各号割合
	一 等	二 等	計	一歩高	
1	367.200	123.000	490.200	49.020	.651
2	1,057.200	348.600	1,399.800	69.990	.973
3,4,5	490.400	1249.800	1,720.200	59.340	.999
6	492.600	946.200	1,438.800	71.940	1.000
7	229.224	503.504	732.729	58.210	.981
計	2,608.624	3,191.104	5,799.729	42.148	.864
1/3	1,816.600	396.800	2,248.400	86.285	1.199
2/4	930.599	928.406	1,859.005	91.885	.999
計	2,999.199	1,315.206	4,112.405	99.085	1.099

内規九条

内規九条=依心加給金増減表

号別	内規九条 加給金額	標準面積及能力=依心増減	増歩 割合	号別	担当員 加給金額	面積及能力=依心増減	差引 額
4. 1	91.809	0.09	0.19 0.28	1	15.924	20.106	36.030
4. 2	"	0.03	0.02 0.05	2	50.369	.918	49.651
4. 3,4,5	"	0.14	0.12 0.02	3,4,5	40.124	1.436	58.688
6	"	0.03	- 0.03	6	50.369	2.154	48.215
7	"	0.05	0.13 0.18	7	26.108	12.925	39.033
5. 1,3	"	0.10	0.12 0.22	計	202.894	28.923	231.619
4. 2,4	"	0.10	0.10	1,3	96.126	15.999	60.229
				2,4	62.293	1.180	54.113
				3,4,5	40.124	22.999	44.442

担當員生産能力.面積=依心加給金増減表

内規九条=依心加給金増減表

粗産量加給金歩合總計

号別	塩生産 /多寡=ヨル	塩田管理 /良否	塩品質 /良否	製塩器具 /進退及 保修	塩/欠減 =1本に2	塩生産 /多寡=欠	欠物=1本に 控除損	計上
4. 1	0.10	0.14	0.16	0.075	-	0.050	-	
2	0.10	0.02	0.10	0.050	-	0.050	-	
343	0.10	0.12	-	-	-	-	-	
6	0.10	0.08	0.04	0.050	-	-	-	
7	0.10	0.02	-	0.050	-	0.050	-	
5. 1.3	0.10	0.04	0.11	0.050	-	0.050	-	
2.4	0.10	0.14	0.01	0.050	-	0.050	-	

塩生産/多寡=ヨル増減=乾子

2. 普通塩田、採塩成賃金が標準賃より一分、増又減=對に加給金總/百分一、
完全増減ラたに償却率=一分=止る

トプル

昭和九年、増減率"以上、法文=従ハズ本年兩、為、切カヲテルラ理由
トニテ/全塩田= ☐ 割、増ヲナセリ

鹽生產/多客=依八地增減基礎表

號	擠 鹽		數 量	成 績	一 等 鹽		步 合	成 績	在 村	
	本年度鹽度	生產能力		係數	本年度鹽度	生產能力		係數	年度	年度
4.	321.707	490.220	6563	91.	321.701	367.200	8981	9.0	1.58	67.60
2.	1029.386	1398.804	9354		948.199	1057.000	9028		8.12	95.04
345	232.400	1920.200	9164		328.923	490.400	6994		6.29	91.48
6	1024.111	1438.800	9118		391.682	492.600	9951		7.16	91.93
7	537.469	930.929	9355		220.489	239.224	9904		8.93	95.66
57	4145.069	5798.929	9192		221.054	260.824	8496		9.63	92.90
13	1538.369	2,243.400	6859		1364.960	1,866.600	9311		6.58	68.98
24	1,295.433	1,895.005	6824		662.179	930.599	9116		6.40	68.50
計	2573.802	4,112.404	6842		2020.939	3999.999	9246		6.52	68.98
			總平均 65.63		總平均 7.22					

鹽田手入既係矣

至 總平均 8.03

號別	特命檢查員		車業主任檢查員		點驗員檢查員		合計	每坪均=	
	檢查員	係數	檢查員	係數	檢查員	係數		坪2.1	坪2.2
1	8.01	$\frac{2}{10}$	1.602	$\frac{3}{10}$	2.445	8.10	0.09	0.14	
2	8.00		1.600		2.445	8.02	0.01	0.02	
3.45	8.00		1.600		2.445	7.97	0.06	0.02	
6	8.02		1.604		2.445	8.07	0.04	0.08	
7	7.98		1.596		2.445	8.02	0.01	0.02	
13	8.00		1.600		2.430	8.05	0.02	0.04	
24	7.99		1.596		2.400	7.96	0.07	0.14	

月羊總督王車舖司實公警日長所

民衆監督委員會同鹽務局局長所

8.05

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525

總平均	8.10
-----	------

4.	9240	96.651	12.995	108401	17.001	3.288
----	------	--------	--------	--------	--------	-------

[illegible]

日昭和九年度 採塩高度 実収高 欠減高 一等塩実収歩合表

号別	一等塩				二等塩				計	一等塩				二等塩				計
	生産高	実収高	欠減高	歩合	生産高	実収高	欠減高	歩合		生産高	実収高	欠減高	歩合	生産高	実収高	欠減高	歩合	
4	336.000	299.531	40.469	.12	-	-	-	-	330.000	299.531	40.469	.12	280.953	259.531	40.469	.12	46.322	
2	954.000	853.329	100.671	.11	84.000	73.069	10.931	.13	1,038.000	926.440	111.560	.11	46.322	324.000	296.085	27.915	.08	
345	321.000	296.085	24.915	.08	921.000	813.095	107.905	.12	1,242.000	1,109.160	132.840	.11	36.992	400.000	342.574	57.426	.14	
6	400.000	342.574	57.426	.14	644.000	549.186	94.814	.12	1,044.000	924.190	119.810	.12	44.085	239.000	198.440	40.560	.17	
7	239.000	198.440	40.560	.17	324.000	285.282	38.718	.12	561.000	483.922	77.078	.14	39.209	242.000	198.949	43.051	.18	
計	2,242.000	1,989.949	252.051	.11	1,994.000	1,746.612	247.388	.12	4,246.000	3,730.556	515.444	.12	44.085	1,313.000	1,140.612	172.388	.13	
1.3	1,358.000	1,228.284	129.716	.11	1,794.000	1,646.612	147.388	.12	3,588.000	3,275.276	312.724	.09	312.724	1,313.000	1,140.612	172.388	.13	
2.4	693.000	595.961	97.039	.14	609.000	549.529	59.471	.09	1,302.000	1,145.490	156.510	.12	44.085	242.000	198.949	43.051	.18	
計	2,099.000	1,824.244	274.756	.12	1,824.000	1,695.159	128.841	.10	3,648.000	3,340.643	307.357	.08	307.357	1,313.000	1,140.612	172.388	.13	

採 塩 実 収 高 表

号別	井			出			計	在			庫			計	出			計		
	一等塩	二等塩	計	一等塩	二等塩	計		一等塩	二等塩	計	一等塩	二等塩	計							
4 /	239.915	-	239.915																	
2	729.352	730.69	802.42	81.70	1.70															
355	279.351	660.291	939.622																	
1	333.240	573.052	846.292																	
7	198.440	285.282	403.842																	
計	1,998.258	1,539.679	3,308.777																	
1.3	1,052.176	156.248	1,208.426																	
2.4	542.426	438.294	980.920																	
計	1,594.602	594.542	2,189.146																	

国産塩高歩合表

昭和九年度採鹽實際表

号別	一坪塩 採塩實際	二坪塩 採塩實際	計	實際 一町歩当	備考
4. 1	321.901	-	321.901	32.190	實際11. 安高3.9=7. 除10%數
2	940.199	51.189	1,022.388	57.469	
3.45	328.983	903.419	1,232.402	41.080	
6	391.682	632.429	1,024.111	57.206	57.
7	220.409	314.980	539.469	41.344	
計	2,211.054	1,934.013	4,145.067	44.591	塩生産計算表
13	1,364.960	193.699	1,538.369	59.168	標準歩合11. 全坪田面積生産量, 従平均1.17 =2.21% 全坪田面積生産量, 従平均1.17
2.4	662.199	613.254	1,295.433	49.055	標準歩合11. 全坪田面積生産量, 従平均1.17 =2.21% 全坪田面積生産量, 従平均1.17
計	2,026.939	958.863	2,973.802	54.112	

塩生産量, 多寡=依1坪減表

標準歩合11. 全坪田面積生産量, 従平均1.17
=2.21% 全坪田面積生産量, 従平均1.17
標準歩合11. 全坪田面積生産量, 従平均1.17
=2.21% 全坪田面積生産量, 従平均1.17

号別	塩生産 實際量	塩夫給 金	審見額 金	計	塩生産 量	標準 歩合	標準歩合 比	較	増減
1	289.531	503.500	14.912	818.412	282	1.051	1.192	15	0.050
2	922.448	1,592.840	29.049	1,619.907	194	997	1.199	0.050	-
3.45	1,109.180	2,410.890	45.113	2,496.003	223	997	1.199	-	-
6	921.900	1,608.010	33.852	1,639.860	199	1,000	1.199	0.050	-
7	483.922	1,044.060	19.885	1,063.945	215	987	1.191	0.050	-
計	3,930.561	9,459.100	160.129	9,619.229	204	884	1.196	0.1	-
13	1,384.534	2,065.010	62.693	2,127.683	153	1,199	1.182	0.050	-
2.4	1,149.890	2,069.450	46.920	2,116.985	184	999	1.182	0.050	-
計	2,532.422	4,134.460	109.441	4,243.861	169	1,099	1.182	0.050	-

標準歩合11. 全坪田面積生産量, 従平均1.17
=2.21% 全坪田面積生産量, 従平均1.17

改正様式
昭和九年製塩川吟金計算
本局案

内規第九條ニ依ル加給金増減額表

[illegible]

月洋恩督事實局實公營出長所

昭和九年度加給金算出根拠前年トノ差異

一、加給金率

昭和九年度 一等塩 二、一等塩 八厘

(昭和八年度)

(一、五厘五毛)

但し

土底塩田ハ一等塩採掘歩合ノ多寡ヨリ一厘以内ヲ増減シ
敷尾、鏡片塩田ハ 二厘ヲモ以内ヲ減ス (前年二合上)

二、製塩器具及塩田造營物保管ノ良否

豫算残額

昭和九年度 二、一〇三

一、五〇一

(昭和八年度)

(二、三三五)

(一、一七八)

増減率

………百分ノ五

百分ノ五

ヲ増額ス

三、塩生産量ノ多寡ニ依ル増減

製塩量が平均額ヲ超過セザル作業区ニ對シテハ加給金額ノ五分ヲ増額シ

平均額ヲ超過シタル作業区ニ對シテハ五分ノ減額ス

昭和九年度

最高 最低

平均

八年度

九年 在 庫 檢 查					在 庫 檢 查 數 量 基 礎	
號 別	見 之 數		檢 查 結 果			
	一 等	二 等	計	一 等	二 等	計
10 12 / 95.00 5			95.00 5	48.616 (48.616)	82.616 5	一 立坪, 草 一 立米, 草
" 2 200.00			200.00 206.712 (124.220)		206.712	4 特 2 9.100 5 1.520 24.
" 3 14.00			90.00 104.00 16.224 87.514 103.937 (18.734) (52.508) 63.242			一 等 7.800 1.278 24.
" 4 51.600 1414.00 1442.00			1.500 167.160 168.660 (17.234) (56.129) 73.403			= 等 8.400 1.359 5
" 6 40.000 100.000 140.000 32.123 93.548 125.671						虎 片 等 8 9.000 1.450 5
計.						
(附 2)			194.666	192.666		
208 / 3 320.000			320.000 271.110	271.110		
24 / 110.000 230.000 340.000			53.535 113.835 167.190 90.224 187.912 279.616			
計.				341.836		

5

昭和九年度

広梁湾。徳洞。貴城。全管内

物品検査部

月半検査部

製塩器具保存年限調

品名	單價	一個年當保年限		前		八年	計
		價	却費	六年	七年		
六尺(新)	一二四九	一五五	八〇	一二〇〇	一二四七	三七四七	
六尺(修理)	一一五〇	二三〇	五〇	一一〇〇	一一〇〇	三四五〇	
五尺(新)	一一七七	一四七	八〇	一一〇〇	一〇八一	三九三一	
五尺(修理)	一〇六七	一一三	五〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三二〇〇	
大 杞	三三八	一〇九	三〇	二八四〇	三三三五	九八四〇	
大 杞	九〇	一	一〇	九〇	九〇	一八〇〇	
小 杞	九二	四六	二〇	八九〇	八七〇	一七六〇	
塩 籠	四二	一四	三〇	四〇	三九〇	一三五五	
塩 笊	二四	一二	二〇	二二〇	二三五	七二五	
柄 杓	九二	二三	四〇	八九五	八九〇	一七六五	
担 棒	二八	一四	二〇	二八〇	二七〇	八五〇	

月半惣計手帳簿司廣務部出長所

車無精在床車賣后履深灘出引月

品目	單價	前			
		三ヶ年	七ヶ年	四ヶ年	價
叩	六	〇六	一〇	一二	三六
ロノヲ持	三八	三八	九四	三〇	五〇
カニテウ	二〇	七	一五	二〇	一八
角シヨル	八四	二八	七二	八九	九〇
角燈	三七	七	三九	三七	三七
ケ	四七	一六	四七	四七	四七
鉄製バケ	一三四	九	一二	一五	一二
比童灯	七五	三八	七	七	七
硝子燈	一九九	二七	六	一三	一三

昭和九年物品検査結果 賣却了物品價格調査

品名	水車	木杵	小杵	塩籠	塩穴	口	神杵	担持	口	角	カ	子	角	建	比	計	45°	鉄	ハ	チ	石	計
1.	1.3																					
2.	2.4																					
3.	3.1																					
4.	4.2																					
5.	5.3																					
6.	6.4																					
7.	7.5																					
8.	8.6																					
9.	9.7																					
10.	10.8																					
11.	11.9																					
12.	12.0																					
計	33.315	28.34	14.03	13.58	06.0	920	3220	315	1.76	1.90	1.79	97.33										
3.	1																					
2	2.13																					
3																						
4																						
5																						
6																						

昭和九年物品検査結果 賣却了物品價格調査

[illegible]

9.	2	4440	545	1150	3750	340		690	420		840	560		4050	16.605			
Σ	4	4440	1090	1610	5180	420		1035	420		1390	560		4050	24.025			
8.	1	6615																
2								230			280	095			9.685			
3	3	3195						1115			910				1.480			
4											280				1.980			
5																		
6											550				2.330			
Σ	4	9810		690				385			2460	915			18.890			
Σ	4	64180	32605	19800	85480	1900		6335	420	1.050	19550	3910		4940	7200	1390	20530	
Σ	1		1090		840						120						1.440	
Σ	3		2180	1380	1960												5.640	
45			1090		420						280						1.990	
69			920		560						540						2.390	
89			3390		420			115			940						4.645	
10442			180	5715	920	1140		230			540	1380	350				8.925	
Σ	4	15915	11440	2300	3640			345			660	3920	350				540	24.915
2.	1	5235						490			290	140					6.925	
2								230									330	
3								240			420			160			1.390	
4											280	090					6.400	
5											900	090					5.695	
6											280						4.790	
7											420	090					5.710	
8											280						2.885	
Σ	4	22490	1635	1610	3010			690			2460	350		760			33.305	

材料費

11841

Σ 22490 1635 1610 3010 690 2460 350 760 33.305

草魚斜脊其量斤屋梁漆出弘月

区号別	水車	大机	小机	短笔	短貨	口 ³	柄内	担棒	口 ²	角 ¹	カマ ²	角 ¹	比 ²	4 ³	5 ²	28 ²	計
33	1.045	1.150	58	14						70	09	84	09				3.545
2										84	09						1.050
3	72			14						70	09			320			2.090
4	2365	920	99							72	09						5.825
計	5.20	2.090	1.330							3.220	280		320				12.490
合計	28.315	13.880	5.920	920			1.025		440	920	920	1.440		540	70.540		
費	12						115			1.570	110		70			290	4.595
3	1440	1.090	2530	1.050						80	09						9.050
4		1.615		280	30					58							5.295
5	4.680	.545					69			1.120	24						7.245
6	1.580	4.905	.46	1170				140		.80	280			380			9.955
7	3.220	.545	1.840	1.400	120					420	140			760		290	8.795
8	1.540		.90							.780	09			.760		290	4.330
9	6.240	.545	.28				69			.80	0						2.035
10	2.420	1.090					115				09			380			3.285
計	20.920	10.255	5.520	8.490	420		1.610	140		5.570	920		3.040			570	5.885
合計	144.445	16.440	20.260	62.090	1.320		2.990	.580	1.440	33.730	5.640		7.120			920	324.334.645

昭和八年度

塩夫製塩加給金支給調書

新潟県塩田第四五區

技手 石川武吉

$甲 381 \div 214 = 1.8 \times 1.8 = 3.24$ $甲 897 \times 1.8 = 16.14$
 $乙 1762 \div 214 = 8.2 \times 1.5 = 12.3$ $乙 897 \times 1.5 = 13.45$
 $丙 749 \div 214 = 3.5 \times 1.2 = 4.2$ $丙 897 \times 1.2 = 10.76$
 $丁 180 = 3.1 \times 1.0 = 3.1$ $丁 897 \times 1.0 = 8.97$
 $計 2576 \div 214 = 12.0$ $計 15.94$ $計 147.43 \div 15.94 = 9.25$

氏名	等級	出	勤	日	數	控除日數	支給額	減給額	支給額
洪炳周	丁	三〇	三一	三〇	三〇	三〇	一八	一四	五
金永淳	丙	三〇	三一	三〇	三〇	三〇	一八	一四	五
金應三	丙	三〇	三一	三〇	三〇	三〇	一八	一四	五
洪老根	丙	三〇	三一	三〇	三〇	三〇	一八	一四	五
金大元	乙	三〇	三一	三〇	三〇	三〇	一八	一四	五
韓範直	乙	三〇	三一	三〇	三〇	三〇	一八	一四	五
金泳澤	乙	三〇	三一	三〇	三〇	三〇	一八	一四	五
金重初	乙	三〇	三一	三〇	三〇	三〇	一八	一四	五
李元祿	甲	三〇	三一	三〇	三〇	三〇	一八	一四	五
金亨鳳	甲	三〇	三一	三〇	三〇	三〇	一八	一四	五
計									

(續滿鮮明印刷社印行)

甲 90.7.15

Ca 101

類別	檢査	数量	計算	檢査	数量	計算
一	半	0	7	半	0	7
二	半	1	7	半	0	7
三	半	1	7	半	0	7
四	半	1	7	半	0	7
五	半	1	7	半	0	7
六	半	1	7	半	0	7
七	半	1	7	半	0	7
八	半	1	7	半	0	7
九	半	1	7	半	0	7
十	半	1	7	半	0	7
計	半	1	7	半	0	7

1. 2. 3. 4.

7 11

東莞市第一中學圖書館藏書目錄

類別	檢閱 結果	冊數	入 冊數	計 算	類別	檢閱 結果	冊數	入 冊數	計 算
八 定	10	3	3		九 定	2	2	1	
六 半	0	3	3		九 半	0	2	1	14-12=2
計	1	1	1	14-12=2	計	4	2	1	14-12=2
定	5	2	2		定	3	1	1	
七 半	0	2	2		七 半	1	1	1	
計	1	1	1		計	0	0	0	
定	13	2	2		定	3	1	1	
八 半	0	2	2		八 半	0	2	2	
計	1	3	3		計	0	2	2	
定	14	3	3		定	0	2	2	
計	14	3	3		計	0	2	2	